

文学部 比較文化学科 (2010年度入学生)

※網掛けの科目については、本年度開講しません

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治 小林 道彦	1学期	1	2	1
		1年			
	家族を問う 小野 憲昭	1学期	1	2	2
		1年			
	人間と文化 神原 ゆうこ	1学期	1	2	3
		1年			
	ことばの科学 漆原 朗子	1学期	1	2	4
		1年			
	国際学入門 伊野 憲治	1学期	1	2	5
		1年			
	教養としての平和学 戸蒔 仁司	1学期	1	2	6
		1年			
	可能性としての歴史 小林 道彦	2学期	2	2	7
		2年			
	家族の再生 小野 憲昭	2学期	2	2	8
		2年			
	文化と政治 神原 ゆうこ	2学期	2	2	9
		2年			
言語と認知 漆原 朗子 他	1学期	2	2	10	
	2年				
共生社会論 伊野 憲治	2学期	2	2	11	
	2年				
戦争と平和 戸蒔 仁司	2学期	2	2	12	
	2年				
生活世界の哲学 伊原木 大祐	1学期	1	2	13	
	1年				
共同体と身体 伊原木 大祐	2学期	2	2	14	
	2年				
■スキル科目	メンタル・ヘルスI 中島 俊介	1学期	1	2	15
		1年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	メンタル・ヘルスII 中島 俊介	2学期	1	2	16
		1年			
	フィジカル・ヘルスI 高西 敏正	1学期	1	2	17
		1年			
	フィジカル・ヘルスI 徳永 政夫	1学期	1	2	18
		1年			
	フィジカル・ヘルスI 加倉井 美智子	1学期	1	2	19
		1年			
	フィジカル・ヘルスII 高西 敏正	2学期	1	2	20
		1年			
	フィジカル・ヘルスII 徳永 政夫	2学期	1	2	21
		1年			
	フィジカル・ヘルスII 加倉井 美智子	2学期	1	2	22
		1年			
	自己管理論 生田カツ工、稲月正	2学期	1	2	23
		1年			
	キャリア・デザイン 眞鍋 和博	1学期	1	2	24
		1年			
	キャリア・デザイン 見館 好隆	1学期	1	2	25
		1年			
コミュニケーションと思考法 眞鍋 和博	2学期	1	2	26	
	1年				
プロフェッショナルの仕事 見館 好隆	1学期	2	2	27	
	2年				
大学論・学問論 休講	1学期	1	2		
	1年				
法律の読み方 小野 憲昭 他	2学期	1	2	28	
	1年				
社会調査 稲月 正	2学期	1	2	29	
	1年				

文学部 比較文化学科 (2010年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	担当者		備考		
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	統計を読む・統計をつくる	集中	1	2	30
	山本 努	1年			
	フィジカル・エクササイズI (サッカー)	1学期	1	1	31
	磯貝 浩久	1年			
	フィジカル・エクササイズI (テニス)	1学期	1	1	32
	原田 守治	1年			
	フィジカル・エクササイズI(バスケットボール)	1学期	1	1	33
	原田 守治	1年			
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン)	1学期	1	1	34
	美山 泰教	1年			
	フィジカル・エクササイズI (バレーボール)	1学期	1	1	35
	美山 泰教	1年			
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン)	1学期	1	1	36
	鯨 吉夫	1年			
	フィジカル・エクササイズI (バレーボール)	1学期	1	1	37
	高西 敏正	1年			
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン)	1学期	1	1	38
	徳永 政夫	1年			
	フィジカル・エクササイズII (バドミントン)	2学期	1	1	39
	磯貝 浩久	1年			
フィジカル・エクササイズII (バドミントン)	2学期	1	1	40	
原田 守治	1年				
フィジカル・エクササイズII (バスケットボール)	2学期	1	1	41	
原田 守治	1年				
フィジカル・エクササイズII (バレーボール)	2学期	1	1	42	
美山 泰教	1年				
フィジカル・エクササイズII (サッカー)	2学期	1	1	43	
鯨 吉夫	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン)	2学期	1	1	44	
鯨 吉夫	1年				

文学部 比較文化学科 (2010年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	フィジカル・エクササイズII (サッカー) 磯貝 浩久	2学期	1	1	45
		1年			
	フィジカル・エクササイズII (女性のスポーツ) 加倉井 美智子	2学期	1	1	46
		1年			
■教養演習科目	教養基礎演習I 日高 京子	1学期	1	2	47
		1年			
	教養基礎演習I 小林 道彦	1学期	1	2	48
		1年			
	教養基礎演習I 神原 ゆうこ	1学期	1	2	49
		1年			
	教養基礎演習I 徳永 政夫	1学期	1	2	50
		1年			
	教養基礎演習I 稲月 正	1学期	1	2	51
		1年			
	教養基礎演習I 小野 憲昭	1学期	1	2	52
		1年			
	教養基礎演習I (防衛セミナー) 戸蒔 仁司	1学期	1	2	53
		1年			
	教養基礎演習I 伊原木 大祐	1学期	1	2	54
		1年			
	教養基礎演習I 二宮 正人	1学期	1	2	55
		1年			
教養基礎演習I 高西 敏正	1学期	1	2	56	
	1年				
教養基礎演習I 伊野 憲治 他	1学期	1	2	57	
	1年				
教養基礎演習II 日高 京子	2学期	1	2	58	
	1年				
教養基礎演習II 小林 道彦	2学期	1	2	59	
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養基礎演習II 神原 ゆうこ	2学期	1	2	60
		1年			
	教養基礎演習II 徳永 政夫	2学期	1	2	61
		1年			
	教養基礎演習II 稲月 正	2学期	1	2	62
		1年			
	教養基礎演習II 小野 憲昭	2学期	1	2	63
		1年			
	教養基礎演習II (防衛セミナー) 戸蒔 仁司	1学期	1	2	64
		1年			
	教養基礎演習II 伊原木 大祐	2学期	1	2	65
		1年			
	教養基礎演習II 二宮 正人	2学期	1	2	66
		1年			
	教養基礎演習II 高西 敏正	2学期	1	2	67
		1年			
教養基礎演習II 伊野 憲治 他	2学期	1	2	68	
	1年				
教養基礎演習II 眞鍋 和博 他	2学期	1	2	69	
	1年				
教養演習AI 日高 京子	1学期	2	2	70	
	2年				
教養演習AI 小林 道彦	1学期	2	2	71	
	2年				
教養演習AI 神原 ゆうこ	1学期	2	2	72	
	2年				
教養演習AI (防衛セミナー) 戸蒔 仁司	1学期	2	2	73	
	2年				
教養演習AI 稲月 正	1学期	2	2	74	
	2年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	担当者		備考		
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習 A I	1学期	2	2	75
	伊原木 大祐	2年			
	教養演習 A I	1学期	2	2	76
	伊野 憲治 他	2年			
	教養演習 A I	1学期	2	2	77
	徳永 政夫 他	2年			
	教養演習 A I	1学期	2	2	78
	小野 憲昭	2年			
	教養演習 A II	2学期	2	2	79
	日高 京子	2年			
	教養演習 A II	2学期	2	2	80
	小林 道彦	2年			
	教養演習 A II	2学期	2	2	81
	神原 ゆうこ	2年			
	教養演習 A II (防衛セミナー)	1学期	2	2	82
	戸蒔 仁司	2年			
	教養演習 A II	2学期	2	2	83
	稲月 正	2年			
教養演習 A II	2学期	2	2	84	
伊原木 大祐	2年				
教養演習 A II	2学期	2	2	85	
伊野 憲治 他	2年				
教養演習 A II	2学期	2	2	86	
徳永 政夫 他	2年				
教養演習 A II	2学期	2	2	87	
小野 憲昭	2年				
教養演習 B I	1学期	3	2	88	
日高 京子	3年				
教養演習 B I	1学期	3	2	89	
小野 憲昭	3年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習BⅠ	1学期	3	2	90
	小林 道彦	3年			
	教養演習BⅠ	1学期	3	2	91
	神原 ゆうこ	3年			
	教養演習BⅠ(防衛セミナー)	1学期	3	2	92
	戸蒔 仁司	3年			
	教養演習BⅠ	1学期	3	2	93
	稲月 正	3年			
	教養演習BⅠ	1学期	3	2	94
	伊原木 大祐	3年			
	教養演習BⅠ	1学期	3	2	95
	伊野 憲治 他	3年			
	教養演習BⅠ	1学期	3	2	96
	徳永 政夫 他	3年			
	教養演習BⅡ	2学期	3	2	97
	日高 京子	3年			
	教養演習BⅡ	2学期	3	2	98
	小野 憲昭	3年			
	教養演習BⅡ	2学期	3	2	99
	小林 道彦	3年			
教養演習BⅡ	2学期	3	2	100	
神原 ゆうこ	3年				
教養演習BⅡ(防衛セミナー)	1学期	3	2	101	
戸蒔 仁司	3年				
教養演習BⅡ	2学期	3	2	102	
稲月 正	3年				
教養演習BⅡ	2学期	3	2	103	
伊原木 大祐	3年				
教養演習BⅡ	2学期	3	2	104	
伊野 憲治 他	3年				

文学部 比較文化学科 (2010年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習BII 徳永 政夫 他	2学期	3	2	105
		3年			
	プロジェクト演習I 見館 好隆	2学期	2	2	106
		2年			
	プロジェクト演習II 見館 好隆	1学期	3	2	107
		3年			
■テーマ科目	自然学のまなざし 竹川 大介 他	1学期	1	2	108
		1年			
	動物のみかた 到津の森公園、文学部 竹川大介	2学期	1	2	109
		1年			
	地球の生いたち 長井 孝一	2学期	1	2	110
		1年			
	自然史へのいざない 北九州市立自然史・歴史博物館、基盤教育センター 日高京子	2学期	1	2	111
		1年			
	くらしと化学 秋貞 英雄	1学期	1	2	112
		1年			
	現代人のこころ 田島 司	1学期	1	2	113
		1年			
	数のたのしみ 高妻 倫太郎	集中	1	2	114
		1年			
	私たちと宗教 佐藤 真人	2学期	1	2	115
		1年			
思想と現代 伊原木 大祐	1学期	1	2	116	
	1年				
ものがたりと人間 休講		1	2		
	1年				
文化と表象 真鍋 昌賢	2学期	1	2	117	
	1年				
言語とコミュニケーション 休講	2学期	1	2		
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	芸術と人間 花田 伸一	2学期	1	2	118
		1年			
	文学を読む 休講	1学期	1	2	
		1年			
	戦争と人間 戸蒔 仁司 他	1学期	1	2	119
		1年			
	現代正義論 重松 博之	2学期	1	2	120
		1年			
	民主主義とは何か 中道 壽一	1学期	1	2	121
		1年			
	人権論 柳井 美枝	1学期	1	2	122
		1年			
	ジェンダー論 力武 由美	1学期	1	2	123
		1年			
	障がい学 伊野 憲治 他	2学期	1	2	124
		1年			
	共生の作法 山本 光英 、法学部教員	2学期	1	2	125
		1年			
	北九州学 小野 憲昭	2学期	1	2	126
		1年			
市民活動論 西田 心平	2学期	1	2	127	
	1年				
企業と社会 山岡 敏秀	1学期	1	2	128	
	1年				
つながりの人間学 地域共生教育センター 坂本毅啓、石谷百合加、奥村貴仁	1学期	1	2	129	
	1年				
現代社会と倫理 伊原木 大祐	1学期	1	2	130	
	1年				
現代社会の諸問題 山本 光英 、法学部法律学科教員	2学期	1	2	131	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	現代の国際情勢 金 鳳珍	1学期	1	2	132
		1年			
	国際社会論 稲月 正	1学期	1	2	133
		1年			
	国際紛争と国連 戸蒔 仁司	1学期	1	2	134
		1年			
	民族・エスニシティ問題 久木 尚志 他	1学期	1	2	135
		1年			
	開発と統治 三宅 博之 他	1学期	1	2	136
		1年			
	グローバル化する経済 前田 淳 他	2学期	1	2	137
		1年			
	テロリズム論 戸蒔 仁司	2学期	1	2	138
		1年			
	国際社会と日本 中野 博文	1学期	1	2	139
		1年			
	歴史の読み方I 八百 啓介	1学期	1	2	140
		1年			
歴史の読み方II 小林 道彦	1学期	1	2	141	
	1年				
そのとき世界は 小林 道彦 他	2学期	1	2	142	
	1年				
戦後の日本経済 迎 由理男	2学期	1	2	143	
	1年				
都市と農村の生活文化史 福間 裕爾	1学期	1	2	144	
	1年				
ものとの人間の歴史 中野 博文	1学期	1	2	145	
	1年				
人物と時代の歴史 新村昭雄(文)、三宅博之(法)、乗口眞一郎、山崎勇治	1学期	1	2	146	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	教養特講I 田村 慶子 他	1学期	1	2	147
		1年			
	教養特講II 日高 京子 他	2学期	1	2	148
		1年			
教養特講III 小野 憲昭	2学期	1	2	149	
	1年				
教養特講IV 大杉 一之 他	2学期	1	2	150	
	1年				
■教職関連科目	日本史 内山 一幸	2学期	1	2	151
		1年			
	西洋史 疇谷 憲洋	1学期	1	2	152
		1年			
	東洋史 藤野 月子	2学期	1	2	153
		1年			
	社会学 稲月 正	1学期	1	2	154
		1年			
	人文地理学 吉津 直樹	2学期	1	2	155
		1年			
	土地地理学 野井 英明	1学期	1	2	156
		1年			
	地誌学 吉津 直樹	1学期	1	2	157
		1年			
日本国憲法 植木 淳	2学期	1	2	158	
	1年				
倫理学 伊原木 大祐	2学期	1	2	159	
	1年				
■情報教育科目	エンドユーザコンピューティング 浅羽 修丈	1学期	1	2	160
		1年			
	データ処理 山田 寛	2学期	1	2	161
		1年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■情報教育科目	データ処理 光藤 雄一	2学期	1	2	162
	1年				
	データ処理 棚次 奎介	2学期	1	2	163
	1年				
	情報表現 浅羽 修丈	1学期	2	2	164
	2年				
	情報表現 浅羽 修丈	2学期	2	2	165
	2年				
	プログラミング基礎 中尾 泰士	2学期	2	2	166
	2年				
	プログラミング基礎 中尾 泰士	1学期	2	2	167
	2年				
■外国語教育科目 ■第一外国語	英語I 葛西 宏信	1学期	1	1	168
	比1 - A				
	英語I 下條 かおり	1学期	1	1	169
	比1 - B				
	英語I 野上 良子	1学期	1	1	170
	比1 - C				
	英語I 船方 浩子	1学期	1	1	171
	比1 - D				
	英語II ダンカン・ウォトリイ	2学期	1	1	172
	比1 - A				
	英語II 下條 かおり	2学期	1	1	173
	比1 - B				
英語II 野上 良子	2学期	1	1	174	
比1 - C					
英語II 船方 浩子	2学期	1	1	175	
比1 - D					
英語III ジョセフ・ディレンシュナイダー	1学期	1	1	176	
比1 - A					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語III デビッド・アダム・ストット	1学期	1	1	177
		比1 - B			
	英語III クリストファー・オサリバン	1学期	1	1	178
		比1 - C			
	英語III 船方 浩子	1学期	1	1	179
		比1 - D			
	英語IV リズ・クレシーニ	2学期	1	1	180
		比1 - A			
	英語IV デビッド・アダム・ストット	2学期	1	1	181
		比1 - B			
	英語IV クリストファー・オサリバン	2学期	1	1	182
		比1 - C			
	英語IV ホセ・クルーズ	2学期	1	1	183
		比1 - D			
	英語V 漆原 朗子	1学期	2	1	184
		比2 - A			
	英語V 杉山 智子	1学期	2	1	185
		比2 - B			
	英語V 伊藤 晃	1学期	2	1	186
		比2 - C			
英語V 薬師寺 元子	1学期	2	1	187	
	比2 - D				
英語VI クリストファー・オサリバン	2学期	2	1	188	
	比2 - A				
英語VI 伊藤 晃	2学期	2	1	189	
	比2 - B				
英語VI 杉山 智子	2学期	2	1	190	
	比2 - C				
英語VI 薬師寺 元子	2学期	2	1	191	
	比2 - D				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語VII デビッド・アンソニー・コフリン	1学期	2	1	192
		比2 - A			
	英語VII ホセ・クルーズ	1学期	2	1	193
		比2 - B			
	英語VII ポール・ガラフ・スティール	1学期	2	1	194
		比2 - C			
	英語VII 船方 浩子	1学期	2	1	195
		比2 - D			
	英語VIII デビッド・アンソニー・コフリン	2学期	2	1	196
		比2 - A			
	英語VIII ホセ・クルーズ	2学期	2	1	197
		比2 - B			
	英語VIII ポール・ガラフ・スティール	2学期	2	1	198
		比2 - C			
	英語VIII ロバート・マーフィ	2学期	2	1	199
		比2 - D			
英語IX 渡邊 嘉則	1学期	3	1	200	
	比人3年				
英語X 渡邊 嘉則	2学期	3	1	201	
	比人3年				
英語XI ホセ・クルーズ	1学期	3	1	202	
	比人3年				
英語XII ホセ・クルーズ	2学期	3	1	203	
	比人3年				
■第二外国語	中国語I 板谷 秀子	1学期	1	1	204
		比1年			
	中国語I 正野 留加	1学期	1	1	205
		比1年			
	中国語II 板谷 秀子	2学期	1	1	206
		比1年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	中国語II 正野 留加	2学期	1	1	207
		比1年			
	中国語III 王 占華	1学期	1	1	208
		比1年			
	中国語III 王 曉芳	1学期	1	1	209
		比1年			
	中国語IV 王 占華	2学期	1	1	210
		比1年			
	中国語IV 王 曉芳	2学期	1	1	211
		比1年			
	中国語V 有働 彰子	1学期	2	1	212
		比2年			
	中国語VI 有働 彰子	2学期	2	1	213
		比2年			
	中国語VII 馮 雅蓮	1学期	2	1	214
		比2年			
	中国語VIII 王 晨	2学期	2	1	215
		比2年			
	上級中国語I 唐 雋	1学期	3	1	216
		英国济営比人3年			
上級中国語II 唐 雋	2学期	3	1	217	
	英国济営比人3年				
上級中国語III 王 占華	1学期	3	1	218	
	英国济営比人3年				
上級中国語IV 王 占華	2学期	3	1	219	
	英国济営比人3年				
朝鮮語I チャン ユンヒャン	1学期	1	1	220	
	比1年				
朝鮮語II チャン ユンヒャン	2学期	1	1	221	
	比1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	朝鮮語Ⅲ チャン ユンヒャン	1学期	1	1	222
		比1年			
	朝鮮語Ⅳ チャン ユンヒャン	2学期	1	1	223
		比1年			
	朝鮮語Ⅴ 金 貞愛	1学期	2	1	224
		済営比人律政群2年			
	朝鮮語Ⅵ 金 貞愛	2学期	2	1	225
		済営比人律政群2年			
	朝鮮語Ⅶ 金 貞淑	1学期	2	1	226
		済営比人律政群2年			
	朝鮮語Ⅷ 金 貞淑	2学期	2	1	227
		済営比人律政群2年			
	上級朝鮮語Ⅰ 金 貞淑	1学期	3	1	228
		英中国済営比人3年			
	上級朝鮮語Ⅱ 金 貞淑	2学期	3	1	229
		英中国済営比人3年			
	上級朝鮮語Ⅲ 金 貞愛	1学期	3	1	230
		英中国済営比人3年			
	上級朝鮮語Ⅳ 金 貞愛	2学期	3	1	231
		英中国済営比人3年			
ロシア語Ⅰ 芳之内 雄二	1学期	1	1	232	
	済営比人1年				
ロシア語Ⅱ 芳之内 雄二	2学期	1	1	233	
	済営比人1年				
ロシア語Ⅲ ナタリア・シエストコーワ	1学期	1	1	234	
	済営比人1年				
ロシア語Ⅳ ナタリア・シエストコーワ	2学期	1	1	235	
	済営比人1年				
ロシア語Ⅴ 芳之内 雄二	1学期	2	1	236	
	済営比人律政2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	ロシア語VI 芳之内 雄二	2学期	2	1	237
		済営比人律政2年			
	ロシア語VII ナタリア・シエスタコーワ	1学期	2	1	238
		済営比人律政2年			
	ロシア語VIII ナタリア・シエスタコーワ	2学期	2	1	239
		済営比人律政2年			
	ドイツ語I 山下 哲雄	1学期	1	1	240
		比1年			
	ドイツ語II 山下 哲雄	2学期	1	1	241
		比1年			
	ドイツ語III 岩本 真理子	1学期	1	1	242
		比1年			
	ドイツ語IV 岩本 真理子	2学期	1	1	243
		比1年			
	ドイツ語V 山下 哲雄	1学期	2	1	244
		済営比人律政2年			
	ドイツ語VI 山下 哲雄	2学期	2	1	245
		済営比人律政2年			
	ドイツ語VII 山下 哲雄	1学期	2	1	246
		済営比人律政2年			
ドイツ語VIII 山下 哲雄	2学期	2	1	247	
	済営比人律政2年				
フランス語I 坂田 由紀	1学期	1	1	248	
	比1年				
フランス語II 坂田 由紀	2学期	1	1	249	
	比1年				
フランス語III 福島 勲	1学期	1	1	250	
	比1年				
フランス語IV 福島 勲	2学期	1	1	251	
	比1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	フランス語V 中川 裕二	1学期	2	1	252
		済営比人律政2年			
	フランス語VI 中川 裕二	2学期	2	1	253
		済営比人律政2年			
	フランス語VII 山下 高之	1学期	2	1	254
		済営比人律政2年			
	フランス語VIII 山下 高之	2学期	2	1	255
		済営比人律政2年			
	スペイン語I 辻 光博	1学期	1	1	256
		比人1年			
	スペイン語II 辻 光博	2学期	1	1	257
		比人1年			
	スペイン語III 岡住 正秀	1学期	1	1	258
		比人1年			
	スペイン語IV 岡住 正秀	2学期	1	1	259
		比人1年			
スペイン語V 辻 光博	1学期	2	1	260	
	済営比人律政2年				
スペイン語VI 辻 光博	2学期	2	1	261	
	済営比人律政2年				
スペイン語VII 辻 博子	1学期	2	1	262	
	済営比人律政2年				
スペイン語VIII トマス・マリン・アルビ	2学期	2	1	263	
	済営比人律政2年				
■留学生特別科目	日本語A 小林 浩明 他	1学期(ペア)	1	2	264
		留学生1年			
	日本語B 則松 智子	1学期(ペア)	1	2	265
		留学生1年			
	日本語C 小林 浩明 他	2学期(ペア)	1	2	266
		留学生1年			

文学部 比較文化学科 (2010年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■留学生特別科目	日本語D 清水 順子	2学期 (ペア)	1	2	267
		留学生 1年			
	日本事情 (人文) A 小林 浩明	1学期	1	2	268
		留学生 1年			
	日本事情 (人文) B ジェームズ・バスキント	2学期	1	2	269
		留学生 1年			
日本事情 (社会) A 国際教育交流センター 山崎 勇治	1学期	1	2	270	
	留学生 1年				
日本事情 (社会) B 国際教育交流センター 山崎 勇治	2学期	1	2	271	
	留学生 1年				
■専門教育科目 ■選択科目 ■比較文化 (領域系) 科目	比較宗教・思想 新村 昭雄	1学期	2	2	272
		2年			
	比較歴史・文化 寺田 由美	2学期	2	2	273
		2年			
	比較日本文学 赤塚 正幸	2学期	2	2	274
		2年			
	比較日本古典文学 休講	2学期	2	2	
		2年			
	比較ドイツ文学 岩本 真理子	2学期	2	2	275
		2年			
	比較美術 休講	1学期	2	2	
		2年			
	比較民族学 成末 繁郎	1学期	2	2	276
	2年				
比較表象文化 真鍋 昌賢	1学期	2	2	277	
	2年				
比較映像・文化 前田 譲治	1学期	2	2	278	
	2年				
比較社会意識	2学期	2	2	279	
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目 ■比較文化(領域系)科目	比較社会文化	1学期	2	2	280
		2年			
	比較中国思想	2学期	2	2	281
	連 清吉	2年			
	比較ジェンダー論	2学期	2	2	
	休講	2年			
	日米文化比較	2学期	2	2	
	休講	2年			
	日英文化比較	2学期	2	2	282
	ダニエル・ストラック	2年			
	日仏文化比較	2学期	2	2	283
	福島 勲	2年			
	日中文化比較	1学期	2	2	284
	馬 叢慧	2年			
	近現代美術	1学期	2	2	285
	花田 伸一	2年			
文化人類学	2学期	2	2	286	
竹川 大介	2年				
情報社会論	集中	2	2	287	
明間 肇	2年				
消費社会論	1学期	2	2		
休講	2年				
■比較文化(地域系)科目	日本文学概論(古典)	1学期	1	2	
	休講	1年			
	日本文学概論(近現代)	1学期	1	2	288
	馬場 美佳	1年			
日本語学概論I	1学期	1	2		
休講	1年				
日本語学概論II	2学期	1	2		
休講	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■選択科目 ■比較文化(地域系)科目	日本の宗教文化 佐藤 真人	1学期	2	2	289
		2年			
	日本の歴史と社会 八百 啓介	1学期	2	2	290
		2年			
	日本の芸能文化 佐藤 真人	2学期	2	2	291
		2年			
	日本の生活文化 八百 啓介	2学期	2	2	292
		2年			
	日本文学史(古典) 休講	1学期	2	2	
		2年			
	日本文学史(近現代) 赤塚 正幸	2学期	2	2	293
		2年			
	日本の大衆文化 真鍋 昌賢	2学期	2	2	294
		2年			
	日本の古典文学I 藤崎 祐二	1学期	2	2	295
		2年			
	日本の古典文学II 河北 靖	2学期	2	2	296
		2年			
	日本の近代文学 馬場 美佳	1学期	2	2	297
		2年			
日本の現代文学 赤塚 正幸	1学期	2	2	298	
	2年				
日本の美術 五月女 晴恵	1学期	2	2	299	
	2年				
日本の宗教と美術 五月女 晴恵	2学期	2	2	300	
	2年				
日本の都市文化 内山 一幸	2学期	2	2	301	
	2年				
日本語の文法 堀尾 香代子	2学期	2	2	302	
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■専門教育科目 ■選択科目 ■比較文化(地域系)科目	日本語表現法I	1学期	2	2	
	休講	2年			
	日本語表現法II	2学期	2	2	
	休講	2年			
	日本語音声学I	1学期	2	2	303
	矢野 準	2年			
	日本語音声学II	2学期	2	2	304
	矢野 準	2年			
	漢文学	1学期	2	2	305
	榎崎 洋一郎	2年			
	日本の近代思想	1学期	2	2	306
	内山 一幸	2年			
	アメリカ文学概論	1学期	1	2	
	休講	1年			
	イギリス文学概論	1学期	1	2	307
	田部井 世志子	1年			
	アメリカの現代文学	2学期	2	2	
	休講	2年			
	アメリカの18-19世紀文学	2学期	2	2	
	休講	2年			
アメリカの大衆文化	2学期	2	2	308	
前田 譲治	2年				
アメリカの歴史と文化	1学期	2	2	309	
前田 譲治	2年				
アメリカの歴史と社会	1学期	2	2		
休講	2年				
アメリカ文化論	2学期	2	2		
休講	2年				
アメリカの生活文化	1学期	2	2	310	
寺田 由美	2年				

文学部 比較文化学科 (2010年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■専門教育科目 ■選択科目 ■比較文化(地域系)科目	イギリスの現代文学	1学期	2	2	
	休講	2年			
	イギリスの18-19世紀文学	2学期	2	2	311
	杉本 美穂	2年			
	イギリスの大衆文化	2学期	2	2	312
	石井有希子	2年			
	イギリスの歴史と文化	1学期	2	2	313
	高本 孝子	2年			
	イギリスの歴史と社会	1学期	2	2	314
	久木 尚志	2年			
	イギリス文化論	1学期	2	2	315
	木原 謙一	2年			
	環大西洋の社会史	2学期	2	2	
	休講	2年			
	西洋美術史	1学期	2	2	316
	貞包 博幸	2年			
	西洋美術史	1学期	2	2	317
	貞包 博幸	2年			
	フランス文学	1学期	2	2	318
	福島 勲	2年			
ドイツ文化論	1学期	2	2	319	
岩本 真理子	2年				
スペインの歴史と文化	1学期	2	2	320	
岡住 正秀	2年				
近現代の南欧世界	2学期	2	2	321	
岡住 正秀	2年				
ロシアの歴史と社会	1学期	2	2	322	
芳之内 雄二	2年				
北ユーラシアの民族と社会	2学期	2	2	323	
芳之内 雄二	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■選択科目 ■比較文化(地域系)科目	英語学概論 北峯 裕士	1学期	2	2	324
		2年			
	英語音声学 山内 ひさ子	2学期	2	2	325
		2年(英米優先)			
	英語音声学 山内 ひさ子	2学期	2	2	326
		2年(国・比優先)			
	英語史 松崎 徹	2学期	2	2	327
		2年			
英文法I 廣田 恵美	1学期	2	2	328	
	2年				
英文法II 廣田 恵美	2学期	2	2	329	
	2年				
異文化間コミュニケーション概論 山崎 和夫	2学期	2	2	330	
	2年				
社会言語学 平野 圭子	2学期	2	2	331	
	2年				
■英会話英作文・文化講読科目	英会話・英作文1 ダンカン・ウォトリイ	1学期	1	1	332
		1 - a			
	英会話・英作文1 ダンカン・ウォトリイ	1学期	1	1	333
		1 - b			
	英会話・英作文1 デビッド・アンソニー・コフリン	1学期	1	1	334
		1 - c			
	英会話・英作文1 ポール・ガラフ・ステイール	1学期	1	1	335
		1 - d			
英会話・英作文1 ポール・ガラフ・ステイール	1学期	1	1	336	
	1 - e				
英会話・英作文1 アンデリユー・ジッツマン	1学期	1	1	337	
	1 - f				
英会話・英作文1 アンデリユー・ジッツマン	1学期	1	1	338	
	1 - g				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■英会話英作文・文化講読科目	英会話・英作文 1 アンデリュー・ジッツマン	1学期	1	1	339
		1 - h			
	英会話・英作文 2 ダンカン・ウォトリイ	2学期	1	1	340
		1 - a			
	英会話・英作文 2 ダンカン・ウォトリイ	2学期	1	1	341
		1 - b			
	英会話・英作文 2 デビッド・アンソニー・コフリン	2学期	1	1	342
		1 - c			
	英会話・英作文 2 ポール・ガラフ・ステイール	2学期	1	1	343
		1 - d			
	英会話・英作文 2 ポール・ガラフ・ステイール	2学期	1	1	344
		1 - e			
	英会話・英作文 2 アンデリュー・ジッツマン	2学期	1	1	345
		1 - f			
	英会話・英作文 2 アンデリュー・ジッツマン	2学期	1	1	346
		1 - g			
	英会話・英作文 2 アンデリュー・ジッツマン	2学期	1	1	347
		1 - h			
	英会話・英作文 3 ジョセフ・ディレンシュナイダー	1学期	2	1	348
		AES 1			
英会話・英作文 3 クリストファー・オサリバン	1学期	2	1	349	
	AES 2				
英会話・英作文 3 ポール・ガラフ・ステイール	1学期	2	1	350	
	2 - a				
英会話・英作文 3 休講	1学期	2	1		
	2年				
英会話・英作文 3 クリストファー・オサリバン	1学期	2	1	351	
	2 - b				
英会話・英作文 3 ドロークス ダニエル	1学期	2	1	352	
	2 - c				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■英会話英作文・文化講読科目	英会話・英作文 3 ドロークス ダニエル	1学期	2	1	353
		2 - d			
	英会話・英作文 4 ロバート・マーフィ	2学期	2	1	354
		AES 1			
	英会話・英作文 4 クリストファー・オサリバン	2学期	2	1	355
		AES 2			
	英会話・英作文 4 ポール・ガラフ・スティール	2学期	2	1	356
		2 - a			
	英会話・英作文 4 休講	2学期	2	1	
		2 年			
	英会話・英作文 4 クリストファー・オサリバン	2学期	2	1	357
		2 - b			
	英会話・英作文 4 ドロークス ダニエル	2学期	2	1	358
		2 - c			
	英会話・英作文 4 ドロークス ダニエル	2学期	2	1	359
		2 - d			
	英会話・英作文 5 ジョセフ・ティレンシュナイダー	1学期	2	1	360
		AES 1			
	英会話・英作文 5 クリストファー・オサリバン	1学期	2	1	361
		AES 2			
英会話・英作文 6 ホセ・クルーズ	2学期	2	1	362	
	AES 1				
英会話・英作文 6 クリストファー・オサリバン	2学期	2	1	363	
	AES 2				
英会話・英作文 7 クリストファー・オサリバン	1学期	3	1	364	
	AES				
英会話・英作文 7 デビッド・アンソニー・コフリン	1学期	3	1	365	
	3 年				
英会話・英作文 7 ポール・ガラフ・スティール	1学期	3	1	366	
	3 年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■英会話英作文・文化講読科目	英会話・英作文 7 三宅 啓子	1学期	3	1	367
		3年			
	英会話・英作文 8 クリストファー・オサリバン	2学期	3	1	368
		AES			
	英会話・英作文 8 デビッド・アンソニー・コフリン	2学期	3	1	369
		3年			
	英会話・英作文 8 ポール・ガラフ・スティール	2学期	3	1	370
		3年			
	英会話・英作文 8 三宅 啓子	2学期	3	1	371
		3年			
	上級英語I アダム・ヘイルズ	1学期	3	2	372
		3年			
	上級英語II アンデリユー・ジッツマン	2学期	3	2	373
		3年			
	アメリカ文化講読 江頭 理江	1学期	1	2	374
		1年 (1 - 2、1 - 3)			
	アメリカ文化講読 江頭 理江	2学期	1	2	375
		1年 (1 - 1)			
	イギリス文化講読 石井有希子	1学期	1	2	376
		1年 (1 - 1、1 - 3)			
イギリス文化講読 杉本 美穂	2学期	1	2	377	
	1年 (1 - 2)				
日本文化英文講読 江頭 理江	1学期	1	2	378	
	1年				
日本文化英文講読 江頭 理江	2学期	1	2	379	
	1年				
日本の文献講読 休講	1学期	1	2		
	1年				
日本の古典文学講読 河北 靖	1学期	1	2	380	
	1年				

文学部 比較文化学科 (2010年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■英会話英作文・文化講読科目	フランス文化講読 福島 勲	1学期	3	2	381
		3年			
	ドイツ文化講読 岩本 真理子	2学期	3	2	382
		3年			
スペイン文化講読 岡住 正秀	2学期	3	2	383	
	3年				
ロシア文化講読 芳之内 雄二	1学期	3	2	384	
	3年				
■演習・卒論科目	演習A - 1 (比較ドイツ文化) 岩本 真理子	1学期	3	2	385
		3年			
	演習A - 1 (日本文化) 五月女 晴恵	1学期	3	2	386
		3年			
	演習A - 1 (日本文化) 八百 啓介	1学期	3	2	387
		3年			
	演習A - 1 (日本文化) 佐藤 真人	1学期	3	2	388
		3年			
	演習A - 1 (メディア文化) 真鍋 昌賢	1学期	3	2	389
		3年			
	演習A - 1 (日本古典文学) 河北 靖	1学期	3	2	390
		3年			
	演習A - 1 (日本古典文学) 休講	1学期	3	2	
		3年			
演習A - 1 (日本近代文学) 赤塚 正幸	1学期	3	2	391	
	3年				
演習A - 1 (日本近代文学) 馬場 美佳	1学期	3	2	392	
	3年				
演習A - 1 (日本語学) 堀尾 香代子	1学期	3	2	393	
	3年				
演習A - 1 (日本語教育学) 小林 浩明	1学期	3	2	394	
	3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■演習・卒論科目	演習A - 1 (アメリカ文学) 新村 昭雄	1学期	3	2	395
		3年			
	演習A - 1 (英米文学) 田部井 世志子	1学期	3	2	396
		3年			
	演習A - 1 (アメリカ文学) 前田 譲治	1学期	3	2	397
		3年			
	演習A - 1 (フランス文化) 福島 勲	1学期	3	2	398
		3年			
	演習A - 1 (アメリカ文化) 寺田 由美	1学期	3	2	399
		3年			
	演習A - 1 (スペイン史) 岡住 正秀	1学期	3	2	400
		3年			
	演習A - 1 (ロシア文化) 芳之内 雄二	1学期	3	2	401
		3年			
	演習A - 2 (比較ドイツ文化) 岩本 真理子	2学期	3	2	402
		3年			
	演習A - 2 (日本文化) 五月女 晴恵	2学期	3	2	403
		3年			
演習A - 2 (日本文化) 八百 啓介	2学期	3	2	404	
	3年				
演習A - 2 (日本文化) 佐藤 真人	2学期	3	2	405	
	3年				
演習A - 2 (メディア文化) 真鍋 昌賢	2学期	3	2	406	
	3年				
演習A - 2 (日本古典文学) 河北 靖	2学期	3	2	407	
	3年				
演習A - 2 (日本古典文学) 休講	2学期	3	2		
	3年				
演習A - 2 (日本近代文学) 赤塚 正幸	2学期	3	2	408	
	3年				

文学部 比較文化学科 (2010年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■演習・卒論科目	演習A - 2 (日本近代文学) 馬場 美佳	1学期	3	2	409
	3年				
	演習A - 2 (日本語学) 堀尾 香代子	2学期	3	2	410
	3年				
	演習A - 2 (日本語教育学) 小林 浩明	2学期	3	2	411
	3年				
	演習A - 2 (アメリカ文学) 新村 昭雄	2学期	3	2	412
	3年				
	演習A - 2 (英米文学) 田部井 世志子	2学期	3	2	413
	3年				
	演習A - 2 (アメリカ文学) 前田 譲治	2学期	3	2	414
	3年				
	演習A - 2 (フランス文化) 福島 勲	2学期	3	2	415
	3年				
	演習A - 2 (アメリカ文化) 寺田 由美	2学期	3	2	416
	3年				
演習A - 2 (スペイン史) 岡住 正秀	2学期	3	2	417	
3年					
演習A - 2 (ロシア文化) 芳之内 雄二	2学期	3	2	418	
3年					
演習B - 1 岩本 真理子	1学期	4	2	419	
4年					
演習B - 1 五月女 晴恵	1学期	4	2	420	
4年					
演習B - 1 八百 啓介	1学期	4	2	421	
4年					
演習B - 1 佐藤 真人	1学期	4	2	422	
4年					
演習B - 1 真鍋 昌賢	1学期	4	2	423	
4年					

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	担当者		備考		
■専門教育科目 ■演習・卒論科目	演習B - 1	1学期	4	2	424
	河北 靖	4年			
	演習B - 1	1学期	4	2	
	休講	4年			
	演習B - 1	1学期	4	2	425
	赤塚 正幸	4年			
	演習B - 1	1学期	4	2	426
	馬場 美佳	4年			
	演習B - 1	1学期	4	2	427
	堀尾 香代子	4年			
	演習B - 1	1学期	4	2	428
	小林 浩明	4年			
	演習B - 1	1学期	4	2	429
	新村 昭雄	4年			
	演習B - 1	1学期	4	2	430
	田部井 世志子	4年			
	演習B - 1	1学期	4	2	431
	前田 譲治	4年			
	演習B - 1	1学期	4	2	432
	福島 勲	4年			
演習B - 1	1学期	4	2	433	
寺田 由美	4年				
演習B - 1	1学期	4	2	434	
岡住 正秀	4年				
演習B - 1	1学期	4	2	435	
芳之内 雄二	4年				
演習B - 2	2学期	4	2	436	
岩本 真理子	4年				
演習B - 2	2学期	4	2	437	
五月女 晴恵	4年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■専門教育科目 ■演習・卒論科目	演習B - 2	2学期	4	2	438
	八百 啓介	4年			
	演習B - 2	2学期	4	2	439
	佐藤 真人	4年			
	演習B - 2	2学期	4	2	440
	真鍋 昌賢	4年			
	演習B - 2	2学期	4	2	441
	河北 靖	4年			
	演習B - 2	2学期	4	2	442
	園田 豊	4年			
	演習B - 2	2学期	4	2	443
	赤塚 正幸	4年			
	演習B - 2	1学期	4	2	444
	馬場 美佳	4年			
	演習B - 2	2学期	4	2	445
	堀尾 香代子	4年			
	演習B - 2	2学期	4	2	446
	小林 浩明	4年			
演習B - 2	2学期	4	2	447	
新村 昭雄	4年				
演習B - 2	2学期	4	2	448	
田部井 世志子	4年				
演習B - 2	2学期	4	2	449	
前田 譲治	4年				
演習B - 2	2学期	4	2	450	
福島 勲	4年				
演習B - 2	2学期	4	2	451	
寺田 由美	4年				
演習B - 2	2学期	4	2	452	
岡住 正秀	4年				

文学部 比較文化学科 (2010年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■演習・卒論科目	演習B - 2 芳之内 雄二	2学期	4	2	453
		4年			
	卒業論文 演習担当教員	1・2学期 (ペア)	4	6	
		4年			
■専門基礎教育科目 ■入門科目	比較文化入門1 (日本) 真鍋 昌賢	1学期	1	2	454
		1年			
	比較文化入門2 (欧米) 岡住 正秀	2学期	1	2	455
		1年			
■概論科目	日本文化概論 佐藤 真人	1学期	1	2	456
		1年			
	欧米文化概論 新村 昭雄 他	2学期	1	2	457
		1年			
	比較文学概論 休講	2学期	1	2	
		1年			
	メディア文化概論 休講	1学期	1	2	
		1年			
	文化交流史 八百 啓介	2学期	1	2	458
		1年			
	世界の文化遺産 岡住 正秀	1学期	1	2	459
		1年			
■自由科目	書道 大森 アユミ	1学期 (ペア)	2	2	460
		2年			
	日本語教育学I 小林 浩明 他	1学期	2	2	461
		2年			
	日本語教育学II 小林 浩明	2学期	2	2	462
		2年			
生涯学習学 恒吉 紀寿	1学期	2	2	463	
	2年				
博物館概論 永尾 正剛	1学期	2	2	464	
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■自由科目	博物館経営論・博物館情報論 太田 正道	2学期	2	2	465
	2年				
	博物館資料論 永尾 正剛	1学期	2	2	466
	2年				
	日本語教授法I 横林 宙世	1学期	3	2	467
	3年				
	日本語教授法II 横林 宙世	2学期	3	2	468
	3年				
	日本語教育学演習I 清水 順子 他	1学期	3	2	469
	3年				
	日本語教育学演習II 小林 浩明	2学期	3	2	470
	3年				
	日本語教育実習 小林 浩明	1学期	4	1	471
	4年				
日本語教育実習 小林 浩明	2学期	4	1	472	
4年					
博物館実習I 野井 英明	2学期(ペア)	3	1	473	
博物館実習II 野井 英明	1学期(ペア)	4	2	474	
■教職に関する科目 ■必修科目	教師論 黒田 耕司	1学期	1	2	475
	1年				
	教育原理 見玉 弥生	2学期	1	2	476
	1年				
	発達心理学 税田 慶昭	1学期	2	2	477
	2年				
教育制度 見玉 弥生	1学期	3	2	478	
3年					
英語科教育法A 休講	1学期	2	2		
2年					

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■教職に関する科目 ■必修科目	英語科教育法 B	2学期	2	2	
	休講	2年			
	国語科教育法 A	1学期	2	2	
	休講	2年			
	国語科教育法 B	2学期	2	2	
	休講	2年			
	道徳教育の研究	1学期	2	2	479
	黒田 耕司	2年			
	特別活動の研究	1学期	2	2	480
	楠 凡之	2年			
	教育方法学	2学期	2	2	481
	黒田 耕司	2年			
	教育工学	2学期	2	2	482
	大塚 一徳	2年			
	教育実習 1	2学期	3	2	483
	黒田 耕司 他	3年			
	教育実習 2	1学期	4	2	484
	恒吉 紀寿 他	4年			
	教育実習 3	1学期	4	2	485
	恒吉 紀寿 他	4年			
教育相談	1学期	2	2	486	
楠 凡之	2年				
生徒・進路指導論	2学期	2	2	487	
楠 凡之	2年				
英語科教育法 C	1学期	2	2	488	
山崎 和夫	2年				
英語科教育法 D	2学期	2	2	489	
山崎 和夫	2年				
国語科教育法 C	1学期	2	2	490	
加藤 宏文	2年				

文学部 比較文化学科 (2010年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■教職に関する科目 ■必修科目	国語科教育法D 加藤 宏文	2学期	2	2	491
		2年			
	教職実践演習 未開講	2学期	4	2	
		4年			
■選択科目	教育心理学 村上 太郎	2学期	2	2	492
		2年			
	教育法規 休講	2学期	3	2	
		3年			
	障害児の心理と指導 税田 慶昭	2学期	2	2	493
		2年			
	教育社会学 見玉 弥生	1学期	2	2	494
		2年			
■教科または教職に関する科目	人権教育論 弓野 勝族	1学期	2	2	495
		2年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治 小林 道彦	1学期	1	2	496
		1年			
	家族を問う 小野 憲昭	2学期	1	2	497
		1年			
	人間と文化 神原 ゆうこ	1学期	1	2	498
		1年			
	ことばの科学 漆原 朗子	1学期	1	2	499
		1年			
	国際学入門 伊野 憲治	1学期	1	2	500
		1年			
	教養としての平和学 戸蒔 仁司	2学期	1	2	501
		1年			
	可能性としての歴史 (昼のみ開講)		2	2	
	(昼のみ開講)	2年			
	家族の再生 (昼のみ開講)		2	2	
	(昼のみ開講)	2年			
文化と政治 (昼のみ開講)		2	2		
(昼のみ開講)	2年				
言語と認知 (昼のみ開講)		2	2		
(昼のみ開講)	2年				
共生社会論 (昼のみ開講)		2	2		
(昼のみ開講)	2年				
戦争と平和 (昼のみ開講)		2	2		
(昼のみ開講)	2年				
生活世界の哲学 伊原木 大祐	2学期	1	2	502	
	1年				
共同体と身体 (昼のみ開講)		2	2		
(昼のみ開講)	2年				
■スキル科目	メンタル・ヘルスI 中島 俊介	1学期	1	2	503
		1年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	メンタル・ヘルスII	2学期	1	2	
	休講	1年			
	フィジカル・ヘルスI	1学期	1	2	
	休講	1年			
	フィジカル・ヘルスII	2学期	1	2	504
	内田 若希	1年			
	自己管理論		1	2	
	(昼のみ開講) (昼のみ開講)	1年			
	キャリア・デザイン		1	2	
	(昼のみ開講) (昼のみ開講)	1年			
	コミュニケーションと思考法		1	2	
	(昼のみ開講) (昼のみ開講)	1年			
	プロフェッショナルの仕事		2	2	
	(昼のみ開講) (昼のみ開講)	2年			
大学論・学問論		1	2		
(昼のみ開講) (昼のみ開講)	1年				
法律の読み方		1	2		
(昼のみ開講) (昼のみ開講)	1年				
社会調査	2学期	1	2	505	
稲月 正	1年				
統計を読む・統計をつくる		1	2		
(昼のみ開講) (昼のみ開講)	1年				
フィジカル・エクササイズI (バドミントン)	1学期	1	1	506	
徳永 政夫	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン)	2学期	1	1		
休講	1年				
■教養演習科目	教養基礎演習I		1	2	
	(昼のみ開講) (昼のみ開講)	1年			
	教養基礎演習II		1	2	
	(昼のみ開講) (昼のみ開講)	1年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習AⅠ		2	2	
	(昼のみ開講)	2年			
		(昼のみ開講)			
	教養演習AⅡ		2	2	
	(昼のみ開講)	2年			
		(昼のみ開講)			
	教養演習BⅠ		3	2	
	(昼のみ開講)	3年			
		(昼のみ開講)			
	教養演習BⅡ	2学期	3	2	507
	二宮 正人	3年			
	プロジェクト演習Ⅰ		2	2	
(昼のみ開講)	2年				
	(昼のみ開講)				
プロジェクト演習Ⅱ		3	2		
(昼のみ開講)	3年				
	(昼のみ開講)				
■テーマ科目	自然学のまなざし	1学期	1	2	
	休講	1年			
	動物のみかた		1	2	
	(昼のみ開講)	1年			
		(昼のみ開講)			
	地球の生いたち	2学期	1	2	508
	長井 孝一	1年			
	自然史へのいざない		1	2	
	(昼のみ開講)	1年			
		(昼のみ開講)			
	くらしと化学	1学期	1	2	
	休講	1年			
現代人のこころ	1学期	1	2		
休講	1年				
数のたのしみ		1	2		
(昼のみ開講)	1年				
	(昼のみ開講)				
私たちと宗教		1	2		
(昼のみ開講)	1年				
	(昼のみ開講)				
思想と現代	1学期	1	2	509	
伊原木 大祐	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	ものがたりと人間		1	2	
	(昼のみ開講)	1年			
	文化と表象		1	2	
	(昼のみ開講)	1年			
	言語とコミュニケーション		1	2	
	(昼のみ開講)	1年			
	芸術と人間		1	2	
	(昼のみ開講)	1年			
	文学を読む	1学期	1	2	
	休講	1年			
	戦争と人間		1	2	
	(昼のみ開講)	1年			
	現代正義論	2学期	1	2	
	休講	1年			
	民主主義とは何か	1学期	1	2	510
	中道 壽一	1年			
	人権論	1学期	1	2	511
	柳井 美枝	1年			
	ジェンダー論	1学期	1	2	512
	カ武 由美	1年			
障がい学	2学期	1	2		
休講	1年				
共生の作法		1	2		
(昼のみ開講)	1年				
北九州学	2学期	1	2	513	
小野 憲昭	1年				
市民活動論	2学期	1	2	514	
西田 心平	1年				
企業と社会	1学期	1	2	515	
山岡 敏秀	1年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	担当者		備考		
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	つながりの人間学		1	2	
	(昼のみ開講)	1年			
	現代社会と倫理	1学期	1	2	516
	伊原木 大祐	1年			
	現代社会の諸問題	2学期	1	2	
	休講	1年			
	現代の国際情勢	1学期	1	2	517
	金 鳳珍	1年			
	国際社会論	1学期	1	2	
	休講	1年			
	国際紛争と国連	1学期	1	2	518
	戸蒔 仁司	1年			
	民族・エスニシティ問題		1	2	
	(昼のみ開講)	1年			
	開発と統治	1学期	1	2	519
	三宅 博之 他	1年			
	グローバル化する経済	2学期	1	2	
	休講	1年			
	テロリズム論		1	2	
	(昼のみ開講)	1年			
国際社会と日本	1学期	1	2		
休講	1年				
歴史の読み方I	1学期	1	2	520	
小林 道彦	1年				
歴史の読み方II	1学期	1	2		
休講	1年				
そのとき世界は		1	2		
(昼のみ開講)	1年				
戦後の日本経済		1	2		
(昼のみ開講)	1年				
	(昼のみ開講)				

文学部 比較文化学科 (2010年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	都市と農村の生活文化史 福間 裕爾	1学期	1	2	521
	1年				
	もとと人間の歴史 (昼のみ開講)		1	2	
	(昼のみ開講)	1年			
	人物と時代の歴史 新村昭雄(文)、三宅博之(法)、乗口眞一郎、山崎勇治	1学期	1	2	522
	1年				
	教養特講I (昼のみ開講)		1	2	
	(昼のみ開講)	1年			
	教養特講II (昼のみ開講)		1	2	
	(昼のみ開講)	1年			
	教養特講III (昼のみ開講)		1	2	
	(昼のみ開講)	1年			
教養特講IV (昼のみ開講)		1	2		
(昼のみ開講)	1年				
■教職関連科目	日本史 休講	2学期	1	2	
	1年				
	西洋史 疇谷 憲洋	1学期	1	2	523
	1年				
	東洋史 藤野 月子	2学期	1	2	524
	1年				
	社会学 休講	1学期	1	2	
	1年				
	人文地理学 休講	2学期	1	2	
	1年				
	土地地理学 休講	1学期	1	2	
	1年				
地誌学 吉津 直樹	1学期	1	2	525	
1年					
日本国憲法 徳永 達哉	2学期	1	2	526	
1年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教職関連科目	倫理学 伊原木 大祐	2学期	1	2	527
	1年				
■情報教育科目	エンドユーザコンピューティング 廣渡 栄寿	2学期	1	2	528
	1年				
	データ処理 中尾 泰士	1学期	1	2	529
	1年				
	情報表現 (昼のみ開講)		2	2	
	(昼のみ開講)	2年			
プログラミング基礎 (昼のみ開講)		2	2		
(昼のみ開講)	2年				
■外国語教育科目 ■第一外国語	英語I 杉山 智子	1学期	1	1	530
	比人夜 1年				
	英語II 杉山 智子	2学期	1	1	531
	比人夜 1年				
	英語III クリストファー・オサリバン	1学期	1	1	532
	比人夜 1年				
	英語IV クリストファー・オサリバン	2学期	1	1	533
	比人夜 1年				
	英語V 伊藤 晃	1学期	2	1	534
	比人夜 2年				
	英語VI 伊藤 晃	2学期	2	1	535
	比人夜 2年				
	英語VII ダニー・ミン	1学期	2	1	536
	比人夜 2年				
英語VIII ダニー・ミン	2学期	2	1	537	
比人夜 2年					
■第二外国語	中国語I 有働 彰子	1学期	1	1	538
	英比人夜 1年				
	中国語II 有働 彰子	2学期	1	1	539
英比人夜 1年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	中国語Ⅲ	1学期	1	1	540
	王 占華	英比人夜 1年			
	中国語Ⅳ	2学期	1	1	541
	王 占華	英比人夜 1年			
	朝鮮語Ⅰ	1学期	1	1	542
	金 貞愛	英比人夜 1年			
	朝鮮語Ⅱ	2学期	1	1	543
	金 光子	英比人夜 1年			
	朝鮮語Ⅲ	1学期	1	1	544
	金 光子	英比人夜 1年			
	朝鮮語Ⅳ	2学期	1	1	545
	金 光子	英比人夜 1年			
	ロシア語Ⅰ	1学期	1	1	546
	芳之内 雄二	英比人夜 1年			
	ロシア語Ⅱ	2学期	1	1	547
	芳之内 雄二	英比人夜 1年			
	ロシア語Ⅲ	1学期	1	1	548
	芳之内 雄二	英比人夜 1年			
	ロシア語Ⅳ	2学期	1	1	549
	芳之内 雄二	英比人夜 1年			
ドイツ語Ⅰ	1学期	1	1	550	
山下 哲雄	比人夜 1年				
ドイツ語Ⅱ	2学期	1	1	551	
山下 哲雄	比人夜 1年				
ドイツ語Ⅲ	1学期	1	1	552	
山下 哲雄	比人夜 1年				
ドイツ語Ⅳ	2学期	1	1	553	
山下 哲雄	比人夜 1年				
フランス語Ⅰ	1学期	1	1	554	
福島 勲	比人夜 1年				

文学部 比較文化学科 (2010年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	フランス語II 福島 勲	2学期	1	1	555
		比人夜 1年			
	フランス語III 山下 高之	1学期	1	1	556
		比人夜 1年			
	フランス語IV 山下 高之	2学期	1	1	557
		比人夜 1年			
	スペイン語I 岡住 正秀	1学期	1	1	558
		英比人夜 1年			
	スペイン語II 岡住 正秀	2学期	1	1	559
		英比人夜 1年			
	スペイン語III 岡住 正秀	1学期	1	1	560
		英比人夜 1年			
スペイン語IV 岡住 正秀	2学期	1	1	561	
	英比人夜 1年				
■専門教育科目 ■選択科目 ■比較文化(領域系)科目	比較宗教・思想 休講	1学期	2	2	
		2年			
	比較歴史・文化 休講	2学期	2	2	
		2年			
	比較日本文学 休講	2学期	2	2	
		2年			
	比較日本古典文学 園田 豊	2学期	2	2	562
		2年			
	比較ドイツ文学 昼のみ開講	2学期	2	2	
		2年			
比較美術 五月女 晴恵	2学期	2	2	563	
	2年				
比較民族学 成末 繁郎	1学期	2	2	564	
	2年				
比較表象文化 休講	2学期	2	2		
	2年				

文学部 比較文化学科 (2010年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目 ■比較文化(領域系)科目	比較映像・文化	1学期	2	2	
	休講	2年			
	比較社会意識	2学期	2	2	
	休講	2年			
	比較社会文化	1学期	2	2	
	休講	2年			
	比較ジェンダー論	2学期	2	2	565
	力武 由美	2年			
	日米文化比較	2学期	2	2	566
	十時 康	2年			
	日仏文化比較	2学期	2	2	
	昼のみ開講	2年			
	日中文化比較	1学期	2	2	567
	馬 叢慧	2年			
文化人類学	2学期	2	2	568	
竹川 大介	2年				
情報社会論	集中	2	2		
昼のみ開講	2年				
消費社会論	1学期	2	2	569	
	2年				
■比較文化(地域系)科目	日本文学概論(古典)	1学期	1	2	570
	河北 靖	1年			
	日本文学概論(近現代)	2学期	1	2	
	休講	1年			
	日本語学概論I	1学期	1	2	571
堀尾 香代子	1年				
日本語学概論II	2学期	1	2	572	
堀尾 香代子	1年				
日本の宗教文化	2学期	2	2		
昼のみ開講	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■専門教育科目 ■選択科目 ■比較文化(地域系)科目	日本の歴史と社会	2学期	2	2	
	休講	2年			
	日本の芸能文化	1学期	2	2	
	昼のみ開講	2年			
	日本の生活文化	2学期	2	2	
	昼のみ開講	2年			
	日本文学史(古典)	1学期	2	2	573
	藤崎 祐二	2年			
	日本文学史(近現代)	2学期	2	2	
	休講	2年			
	日本の大衆文化	2学期	1	2	
	昼のみ開講	1年			
	日本の古典文学I	1学期	2	2	
	昼のみ開講	2年			
	日本の古典文学II	2学期	2	2	
	昼のみ開講	2年			
	日本の近代文学	1学期	2	2	
	昼のみ開講	2年			
	日本の現代文学	1学期	2	2	
	昼のみ開講	2年			
日本の美術	1学期	2	2		
昼のみ開講	2年				
日本の宗教と美術	2学期	2	2		
昼のみ開講	2年				
日本の都市文化	2学期	2	2		
昼のみ開講	2年				
日本語の文法	2学期	2	2		
昼のみ開講	2年				
日本語表現法I	1学期	2	2	574	
加藤 宏文	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■選択科目 ■比較文化(地域系)科目	日本語表現法II 加藤 宏文	2学期	2	2	575
		2年			
	日本語音声学I 昼のみ開講	1学期	2	2	
		2年			
	日本語音声学II 昼のみ開講	2学期	2	2	
		2年			
	漢文学 休講	1学期	2	2	
		2年			
	日本の近代思想 昼のみ開講	1学期	2	2	
		2年			
	アメリカ文学概論 新村 昭雄	1学期	1	2	576
		1年			
	イギリス文学概論 休講	1学期	1	2	
		1年			
	アメリカの現代文学 前田 譲治	2学期	2	2	577
		2年			
	アメリカの18-19世紀文学 新村 昭雄	2学期	2	2	578
		2年			
	アメリカの大衆文化 昼のみ開講	2学期	1	2	
		1年			
アメリカの歴史と文化 昼のみ開講	1学期	2	2		
	2年				
アメリカの歴史と社会 寺田 由美	1学期	2	2	579	
	2年				
アメリカ文化論 江口 雅子	2学期	2	2	580	
	2年				
アメリカの生活文化 休講	1学期	2	2		
	2年				
イギリスの現代文学 杉本 美穂	1学期	2	2	581	
	2年				

文学部 比較文化学科 (2010年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■選択科目 ■比較文化(地域系)科目	イギリスの18-19世紀文学	2学期	2	2	
	休講	2年			
	イギリスの大衆文化	2学期	2	2	
	昼のみ開講	2年			
	イギリスの歴史と文化	1学期	2	2	
	昼のみ開講	2年			
	イギリスの歴史と社会	1学期	2	2	582
	久木 尚志	2年			
	イギリス文化論	1学期	2	2	
	休講	2年			
	環大西洋の社会史	2学期	2	2	583
	寺田 由美	2年			
	西洋美術史	1学期	2	2	
	昼のみ開講	2年			
	ドイツ文化論	1学期	2	2	
	昼のみ開講	2年			
	スペインの歴史と文化	1学期	2	2	
	昼のみ開講	2年			
	近現代の南欧世界	2学期	2	2	
	昼のみ開講	2年			
ロシアの歴史と社会	1学期	2	2		
昼のみ開講	2年				
北ユーラシアの民族と社会	2学期	2	2		
昼のみ開講	2年				
英語学概論	1学期	2	2		
休講	2年				
英語音声学 (H20のみ読替えなし)	2学期	2	2		
昼のみ開講	2年				
英語音声学	2学期	1	2		
休講	2年				

文学部 比較文化学科 (2010年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
■専門教育科目 ■選択科目 ■比較文化(地域系)科目	英語史 松崎 徹	2学期	2	2	584	
		2年				
	英文法I 休講	1学期	2	2		
		2年				
英文法II 休講	2学期	2	2			
	2年					
社会言語学 昼のみ開講			2	2		
	2年					
■英会話英作文・文化講読科目	英会話・英作文1 アンデリユー・ジッツマン	1学期	1	1	585	
		1年				
	英会話・英作文2 アンデリユー・ジッツマン	2学期	1	1	586	
		1年				
	英会話・英作文3 アンデリユー・ジッツマン	1学期	2	1	587	
		2年				
	英会話・英作文4 アンデリユー・ジッツマン	2学期	2	1	588	
		2年				
	英会話・英作文7 アンデリユー・ジッツマン	1学期	3	1	589	
		3年				
	英会話・英作文8 アンデリユー・ジッツマン	2学期	3	1	590	
		3年				
	上級英語I 昼のみ開講			3	2	
		3年				
	上級英語II 昼のみ開講			3	2	
		3年				
アメリカ文化講読 昼のみ開講		1学期	1	2		
	1年					
イギリス文化講読 昼のみ開講		2学期	1	2		
	1年					
日本文化英文講読 昼のみ開講		2学期	1	1		
	1年					

文学部 比較文化学科 (2010年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■英会話英作文・文化講読科目	日本の古典文学講読 昼のみ開講	1学期	1	1	
		1年			
	ドイツ文化講読 昼のみ開講	2学期		0	
		3年			
■演習・卒論科目	演習B - 1 赤塚 正幸	1学期	4	2	591
		4年			
	演習B - 1 寺田 由美	1学期	4	2	592
		4年			
	演習B - 2 赤塚 正幸	2学期	4	2	593
		4年			
	演習B - 2 寺田 由美	2学期	4	2	594
		4年			
	卒業論文 演習担当教員	1・2学期 (ペア)	4	2	
		4年			
■専門基礎教育科目 ■入門科目	比較文化入門1 (日本) 昼のみ開講	1学期	1	2	
		1年			
	比較文化入門2 (欧米) 昼のみ開講	2学期	1	2	
		1年			
■概論科目	日本文化概論 休講	1学期	1	2	
		1年			
	欧米文化概論 休講	2学期	1	2	
		1年			
	比較文学概論 田部井 世志子	2学期	1	2	595
		1年			
	メディア文化概論 真鍋 昌賢	1学期	1	2	596
		1年			
	文化交流史 休講	2学期	1	2	
		1年			
■自由科目	書道 休講	1学期 (ペア)	2	2	
		2年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■自由科目	日本語教育学I	1学期	2	2	
	昼のみ開講	2年			
	日本語教育学II	2学期	2	2	
	昼のみ開講	2年			
	生涯学習学	1学期	2	2	597
	恒吉 紀寿	2年			
	博物館概論	1学期	2	2	
	昼のみ開講	2年			
	博物館経営論・博物館情報論	2学期	2	2	
	昼のみ開講	2年			
	博物館資料論	1学期	2	2	
	昼のみ開講	2年			
	日本語教授法I	1学期	3	2	
	昼のみ開講	3年			
	日本語教授法II	2学期	3	2	
	昼のみ開講	3年			
	日本語教育学演習I	1学期	3	2	
	昼のみ開講	3年			
	日本語教育学演習II	2学期	3	2	
	昼のみ開講	3年			
日本語教育実習	1学期	4	1		
昼のみ開講	4年				
日本語教育実習	2学期	4	1		
昼のみ開講	4年				
博物館実習I	2学期(ペア)	3	1		
昼のみ開講	3年				
博物館実習II	1学期(ペア)	4	2		
昼のみ開講	4年				
■教職に関する科目 ■必修科目	教師論	1学期	1	2	598
	黒田 耕司	1年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■教職に関する科目 ■必修科目	教育原理	2学期	1	2	599
	見玉 弥生	1年			
	発達心理学	1学期	2	2	600
	税田 慶昭	2年			
	教育制度	1学期	3	2	601
	見玉 弥生	3年			
	英語科教育法 A	1学期	2	2	602
	山崎 和夫	2年			
	英語科教育法 B	2学期	2	2	603
	山崎 和夫	2年			
	国語科教育法 A	1学期	2	2	
	休講	2年			
	国語科教育法 B	2学期	2	2	
	休講	2年			
	道徳教育の研究	1学期	2	2	604
	黒田 耕司	2年			
	特別活動の研究	1学期	2	2	605
楠 凡之	2年				
教育方法学	2学期	2	2	606	
黒田 耕司	2年				
教育工学	2学期	2	2	607	
大塚 一徳	2年				
教育実習 1	2学期	3	2	608	
黒田 耕司	3年				
教育実習 2	1学期	4	2	609	
恒吉 紀寿	4年				
教育実習 3	1学期	4	2	610	
恒吉 紀寿	4年				
教育相談	1学期	2	2	611	
楠 凡之	2年				

文学部 比較文化学科 (2010年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■教職に関する科目 ■必修科目	生徒・進路指導論	2学期	2	2	612
	楠 凡之	2年			
	英語科教育法C	1学期	2	2	
	休講	2年			
	英語科教育法D	2学期	2	2	
	休講	2年			
	国語科教育法C	1学期	2	2	
	休講	2年			
	国語科教育法D	2学期	2	2	
	休講	2年			
■選択科目	教育心理学	2学期	2	2	613
	田島 司	2年			
	教育法規	2学期	3	2	614
	見玉 弥生	3年			
	障害児の心理と指導	2学期	2	2	
休講	2年				
教育社会学	1学期	2	2		
休講	2年				
■教科または教職に関する科目	人権教育論	1学期	2	2	615
	弓野 勝族	2年			

歴史と政治【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ペリー来航（1853）から55年体制の成立（1955）までの日本政治の歩みを外交政策の展開と関連させて概説する。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○伊藤之雄『明治天皇』（ミネルヴァ書房）、○小林道彦『桂太郎』（ミネルヴァ書房）、○岡義武『山県有朋』（岩波新書）、○岡義武『近衛文麿』（岩波新書）、○高坂正堯『宰相吉田茂』など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インタロダクション
- 第2回 不平等条約と条約改正【維新の三傑】
- 第3回 自由民権運動と朝鮮問題【伊藤博文】
- 第4回 日清戦争【陸奥宗光】
- 第5回 日露戦争【山県有朋】
- 第6回 大正政変 - 国家経営構想の分裂 - 【桂太郎】
- 第7回 21カ条要求【大隈重信】【孫文】
- 第8回 原敬と協調外交【原敬】
- 第9回 二大政党制と外交政策【加藤高明】
- 第10回 政党政治と満州事変【浜口雄幸】
- 第11回 2・26事件と日中戦争【近衛文麿】
- 第12回 破滅への道 - 太平洋戦争 - 【東条英機】【吉田茂】
- 第13回 戦後改革【マッカーサー】
- 第14回 55年体制の成立【自民党】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...10% 期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「ただ聴くだけ」という受講態度は許されない。講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

家族を問う【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

私たちが共同生活を営んでいる社会の最小単位である家族、信頼のおけるかけがえのない存在であるこの家族に今何が起きているのか。迷走し、混迷する家族の実像から、現代の家族が抱える問題点を明らかにしてみようと思っています。

教科書 /Textbooks

使用しません。レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 開講にあたって-問題の出発点-家族とは？
- 2回 家族の機能
- 3回 ハードウェアとしての家族
- 4回 システムとしての家族①
- 5回 システムとしての家族②
- 6回 システムとしての家族③
- 7回 システムとしての家族④
- 8回 現代家族の課題-夫婦①
- 9回 現代家族の課題-夫婦②
- 10回 現代家族の課題-親子①
- 11回 現代家族の課題-親子②
- 12回 現代家族の課題-親子③
- 13回 現代家族の課題-家族の危機
- 14回 現代家族の課題-家族モデル
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み... 10% 期末試験... 90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布するレジュメに紹介した参考文献、図書館所蔵の関連図書を読み込むと理解を深めることができます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義の内容や教科書、参考書を参照しながら、論点ごとに講義ノートを作成して理解を深めてください。

キーワード /Keywords

人間と文化【昼】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「文化」という言葉から伝統芸能や芸術活動を連想する受講者も多いだろう。本講義では文化を「人間の生活様式を規定してきたもの」としてより幅広く考え、現代社会における多様な文化のありかたを基礎から考えることを目指す。

グローバル化が進んだ現在でも、地域によって家族・親族関係のありかた、信仰のありかた、経済活動に関する考え方は大きく異なる。本講義では、(おそらく大部分が)北九州周辺に在住の大学一年生という受講者が現在考えている「文化」を、世界各地の文化のありかたを参照することで相対化し、身の回りの現代社会について考察するひとつの手段を学ぶ。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。授業ではPower Pointを使用するが、それだけに頼らず、各自ノートをしっかり取ること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○奥野克己(編)2005『文化人類学のレッスン』学陽書房
春日直樹(編)2008『人類学で世界をみる』ミネルヴァ書房
作道伸介(編)2008『近代化のフィールドワーク』東信堂
宮島喬(編)2000『講座社会学7 文化』東京大学出版会
※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：グローバルでローカルな世界を想像するために
- 第2回 異文化の「発見」：文化を考察する視点について
- 第3回 文化の基礎としての環境との<共生>
- 第4・5回 経済活動にみる文化：贈与と交換から地域通貨まで
- 第6回 資本主義の受容と貧困
- 第7回 開発の現場における「文化の差異」
- 第8・9回 個人と集団：生殖医療の時代に家族・親族関係を考える
- 第10回 親族・家族関係から社会関係への拡張
- 第11回 ジェンダー
- 第12・13回 日常生活の中の儀礼からみえる世界観
- 第14回 宗教・呪術・占いの機能
- 第15回 まとめ：グローバル化のなかのローカルな文化と普遍的価値観

成績評価の方法 /Assessment Method

エッセイによる授業貢献20%、期末試験80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回最後の10-15分は授業の感想と、指定するトピック(次回のテーマに関するもの)についてのエッセイを記述し、提出してもらいます。次回の講義の冒頭で、提出されたエッセイの中から読み取れる「現在、受講者が持っている文化に関する常識」を導入に講義を進めます。専門分野に関わらず、日常的に新聞、雑誌、書籍などを読む習慣をつけ、自分の考えをまとめる訓練を心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義「人間と文化」では、文化について生活に密着した側面に注目しています。来年度に2年次対象の「文化と政治」を受講すると、文化についてより包括的な理解が深まります。

キーワード /Keywords

文化、個人と集団、環境、共同体、社会関係

ことばの科学 【昼】

担当者名 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語をはじめその他の言語のデータや最新の脳科学での発見を交え、「ことば」について考えていきます。

教科書 /Textbooks

配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』大津由紀雄編著、ミネルヴァ書房、2009年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 序(1)：ことばの不思議
- 第2回 序(2)：ことばの習得
- 第3回 ことばの単位(1)：音声と音韻
- 第4回 連濁・鼻濁音
- 第5回 ことばの単位(2)：語
- 第6回 語の基本：成り立ち・構造・意味
- 第7回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第8回 言葉の単位(3)：文
- 第9回 動詞の自他
- 第10回 日本語と英語の受動態
- 第11回 数量詞
- 第12回 代名詞：「彼」「彼女」「自分」「自分自身」
- 第13回 時制と相：方言比較
- 第14回 ことばと脳：言語野と他の領域
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度...10% 課題...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際学入門 【昼】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究(国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など)と②世界の多様化に対応するための研究(地域研究、比較文化論、比較政治論など)である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、「地域研究のルーツ」
- 第4回～6回：「地域研究」における総合的認識。【総合化】【全体像の把握】
- 第7回～9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ。【文化主義】【オリエンタリズム】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題。
- 第13回～14回：地域研究の視点、ミャンマー研究を事例として。
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

可能であるならば、本講義と共に、国際関係論、国際機構論、比較文化論などを履修することを勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養としての平和学 【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
 皆さんがこれまで漠然と認識してきた「戦争」や「平和」という既成概念を改めて真剣に問い返して、戦争アレルギーに基づく思考停止的反戦主義や現実性に乏しい理想主義的平和主義を廃し、現実的な平和思考を養うことを目的とします。一言で言えば「平和とは何か」がテーマです。

教科書 /Textbooks
 特に指定しない。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～5回 問題提起、戦争の定義
- 6回～8回 平和の定義、積極平和論
- 9回～11回 日本の平和主義
- 12回～13回 正戦論(正義の戦争はあるか)
- 14回 二重結果の原則
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

可能性としての歴史【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「歴史にイフは禁物」とよく言われるが、本当にそうなのか？安易なイフの設定はたしかに禁物だが、イフを上手に導入すれば、歴史の失われた可能性が見えてくるだろう。この講義では、おもに日本外交史を講義する中で、いくつかのイフを導入して、日本近代史の別の可能性をみなさんとともに考えていこうと思う。なお、「歴史と政治」「歴史の読み方II」を受講していただいた方が、講義の理解はより深まります。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『桂太郎』(ミネルヴァ書房)など。適宜、講義の中で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 日清戦争 - 戦争回避の可能性はなかったのか？【陸奥宗光】
- 3回 日露戦争 - 戦争回避の可能性はなかったのか？【小村寿太郎】
- 4回 もし、伊藤博文が暗殺されなかったら - 韓国併合回避の可能性はあったか？ - 【山県有朋】
- 5回 もし、明治天皇がもっと長生きしていたら - 2大政党制の誕生 - 【桂太郎】
- 6回 もし、シーメンス事件が発覚しなかったら？ - 大隈内閣と21カ条要求 - 【山本権兵衛】
- 7回 もし、原敬が暗殺されなかったら？ - 政党政治による軍部支配 - 【田中義一】
- 8回 もし、加藤高明が急死しなかったら？ - 外交政策の安定化 - 【護憲三派内閣】
- 9回 もし、若槻礼次郎内閣が崩壊しなかったら？ - 満州事変は失敗していた？ - 【石原莞爾】
- 10回 もし、2・26事件が起こらなかったら？ - 日中戦争回避の可能性 - 【高橋是清】
- 11回 もし、1940年夏にフランスがドイツに勝利していたら？(日独伊三国同盟)【ヒトラー】
- 12回 もし、鈴木貫太郎内閣がポツダム宣言を受諾しなかったら？(太平洋戦争)【本土決戦】。
- 13回 もし、西郷隆盛が亡くならなかったら【西南戦争】【藩閥政府】。
- 14回 歴史にifは必要だ！
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

※学生諸君の理解度に鑑みて、講義内容を若干変更する可能性があります。「ただ聴くだけ」という受講態度は許されない。最低限、高校教科書レベル+αの予習を毎回やってきて下さい。そのための文献は適宜指示します。

履修上の注意 /Remarks

相当量の板書をするので、ノートはこまめにとること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

家族の再生【昼】

担当者名 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代家族の状況、家族の形成、再生の試みを紹介しながら今後の家族の行方を探り、家族の可能性、家族とともに生きることを考えてみようと思っています。

教科書 /Textbooks

レジュメを使用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに-ガイダンス
- 2回 家族を見つめる①
- 3回 家族を見つめる②
- 4回 家族を見つめる③
- 5回 家族モデルを考える①
- 6回 家族モデルを考える②
- 7回 家族モデルを考える③
- 8回 家族の危機を回避する①
- 9回 家族の危機を回避する②
- 10回 家族の危機を回避する③
- 11回 家族の危機を回避する④
- 12回 家族の危機を回避する⑤
- 13回 家庭裁判所の利用を考える①
- 14回 家庭裁判所の利用を考える②
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み... 10% 期末試験... 90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布するレジュメに紹介した参考文献、図書館所蔵の関連図書を読み込むと理解を深めることができます。講義ノートを作成するよう心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義の内容や教科書、参考書を参照しながら、論点ごとに講義ノートを作成して理解を深めてください。

キーワード /Keywords

文化と政治【昼】

担当者名 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

グローバルな現代世界において、異なる文化同士の対立がしばしば政治的な問題となり、その解決のために異なる文化同士の共生が必要とされている。しかし、どの文化とも共生が可能になる万能のマニュアルのようなものは存在しない。ケースに応じて対応する能力が必要であり、本講義はそのための基礎的な考え方を身につけることを目的とする。講義の前半は、「文化を知ること」そのものが持つ政治性について講義を行い、後半はその応用として、文化と政治が結びついて立ち現われる具体的な場に注目して講義を行う。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、以下の参考文献（参考までにどの学部にもふさわしいか記しているが）各人の興味にあわせて一冊以上読んでおくこと。授業ではPower Pointを使用するが、それだけに頼らず、各自ノートをしっかり取ること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 青木保ほか（編）1997 『民族の生成と論理（岩波講座文化人類学5）』 岩波書店（文・外）
- 青木保ほか（編）1997 『紛争と運動（岩波講座文化人類学6）』 岩波書店（法・文・外）
- 岩竹美加子 1996 『民俗学の政治性』 未来社（文・群）
- ジョセフ・E・ステイグリッツ 2002 『世界を不幸にしたグローバリズムの正体』 徳間書店（経・外）
- 陳天璽 2005 『無国籍』 新潮社（法・文・外・群）
- デヴィッド・ヘルド 2002 『グローバル化とは何か』 法律文化社（経・法・外・群）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：授業の説明 / 本講義において文化とは何を意味するのか
- 第2・3回 自文化を知ることの政治性：ナショナリズムと文化
- 第4回 自文化を知らないことの政治性：先住民・少数民族の文化に関して
- 第5・6回 異文化を知ることの政治性：「未開の人々」へのエキゾチズム
- 第7回 異文化を知らないことの政治性：人権の概念は世界共通か？
- 第8回 中間試験 / 講義前半のまとめ・講義後半の導入
- 第9回 文化的「他者」への憎悪のメカニズム：ナショナリズム・エスノナショナリズム
- 第10・11・12回 共生のための政治
- 第13・14回 記憶の政治学と文化
- 第15回 まとめ：ネイションとエスニシティの時代を超えて

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験30%、期末試験70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校レベルの世界史、地理、現代社会などに自信がない学生は、背景となる事象を知らないままにせず、調べておくこと。

履修上の注意 /Remarks

第8回目に中間試験を行うが、中間試験を受けていない学生は期末試験を受けることができないので注意すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

文化と政治の問題は学際性の強い分野です。自分の専門の興味関心と結び付けながら、授業に臨んでください。

キーワード /Keywords

ナショナリズム、エスノナショナリズム、グローバリゼーション、多文化共生

共生社会論 【昼】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「共存」「共生」という言葉をキーワードとし、地域社会から国際社会における、共生のあり方を考え、実現可能性について探って見る。特に、異質なものを異文化ととらえ、異文化の共存・共生のあり方を掘り下げる中で、この問題に迫って生きたい。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
- 第2回：「共存」「共生」の意味、共生社会の阻害要因【共存】【共生】【オリエンタリズム】。
- 第3回～第6回：異文化共存の方法、オリエンタリズムの克服方法【一元論的理解VS.多元論的理解】【文化相対主義】
- 第7回：障がい者との共生、「障害」の捉えかた【文化モデル】
- 第8回～第12回：具体的事例「自閉症児者との共存・共生」
- 第13回～14回：文化相対主義の可能性と限界【文化相対主義】【反文化相対主義】【反反文化相対主義】
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本講義受講に当たっては、「国際学入門」[担当：伊野]や「障がい学」[担当：伊野・狭間]を既に受講していることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

戦争と平和【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1年次ビジョン科目「教養としての平和学」からさらに進んで、戦争とは何かを体系的に考えてみることをねらいとします。「教養としての平和学」を履修済みの人はもちろん、まだ履修したことのない人の受講も大歓迎です。一言で言えば、「戦争とは何か」がテーマです。

教科書 /Textbooks

なし。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 安全保障とは何か
- 3回～6回 第1テーマ 20世紀の戦争I～世界大戦
 - A.戦争と平和(戦争を学ぶ必要性、戦争の定義、戦争と平和)
 - B.戦争の経歴(絶対主義時代の戦争、革命戦争、近代戦争)
 - C.両大戦の特徴(総力化、イデオロギー化、全面化)
 - D.戦争の変質(勢力均衡、アメリカの戦争観)
- 7回～10回 第2テーマ 20世紀の戦争II～核兵器の時代
 - A.原爆の出現(開発、完成、投下)
 - B.核兵器の種類と威力
 - C.核兵器出現に伴う変化
 - D.代理戦争(国際内戦)
 - E.核兵器の役割(抑止概念、抑止条件、相互確証破壊)
- 9回～10回 第3テーマ 21世紀の戦争I
 - A.冷戦終焉と「安全保障の終焉」?(「歴史の終焉?」「文明の衝突?」)
 - B.米国の脅威認識(911、国土安全保障戦略、ブッシュドクトリン、民主主義の拡大)
- 11回～14回 第4テーマ 21世紀の戦争II
 - A.「テロとの戦争」
 - B.破綻国家と人道的介入
 - C.正戦論の復権
 - D.対アフガニスタン武力行使の評価
 - E.イラク戦争
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし。ただし、「教養としての平和学」「国際紛争と国連」「テロリズム論」「戦争と人間」「国際社会と日本」などを受講しておく、さらに深く理解できる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活世界の哲学【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

「生活世界」を講義全体のキーワードとして、初学者向けに社会哲学への手引きを行なう。この科目を真摯に受講すれば、20世紀のヨーロッパで展開された社会思想に関する基本的な知識が得られるだろう。具体的には、マックス・ヴェーバーからフランクフルト学派、ハンナ・アーレントにまで至る思想家たちの「近代」に対する基本的なスタンスを説明したあと、近年盛んに論じられている公共性と親密圏の交錯という問題に取り組む。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 姜尚中『マックス・ヴェーバーと近代—合理化論のプロブレマティーク』御茶ノ水書房
- ハンナ・アーレント『人間の条件』(志水速雄訳)ちくま学芸文庫
- 斎藤純一『公共性(思考のフロンティア)』岩波書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (1) 【官僚制】
- 3回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (2) 【物象化】
- 4回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (3) 【工場労働】
- 5回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (4) 【分業体制】
- 6回 生活世界論のはじまり(1) 【近代科学と現象学】
- 7回 生活世界論のはじまり(2) 【フッサールの近代批判】
- 8回 確認テストとその解説
- 9回 生活世界論のひろがり(1) 【アーレント、人と思想】
- 10回 生活世界論のひろがり(2) 【アーレントの近代批判】
- 11回 公私の区別とその起源(1) 【古代ギリシャ概説】
- 12回 公私の区別とその起源(2) 【古代ギリシャにおける政治】
- 13回 宗教の私事性と公的領域(1) 【迫害と弾圧】
- 14回 宗教の私事性と公的領域(2) 【社会との確執】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト...50% 学期末試験...50%
(第8回に予定している確認テストを受験していない者は、自動的に期末試験の受験資格を失う。この場合、成績評価はE判定となる。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校世界史の教科書を一通り読み直しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

1年生向け科目であることを考慮に入れ、分かりやすい講義となるよう心がけたい。しかし、2回にわたって実施する試験は、いずれも難度の高いものであることをあらかじめ認識しておくこと(昨年度は約2~3割の受講者が不合格となっている)。単位取得のためには相当な努力と学習意欲が求められる。

キーワード /Keywords

生活世界 形式合理性 活動 ポリス

共同体と身体 【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

人間が自分(たち)の体について抱いている観念は、歴史を通じて必ずしも一貫しているわけではない。身体に対するイメージは、その人間が生きている時代の共同体によって微妙に変化してゆく。

この授業では、共同体と身体という二つの「体」がどのように関係してきたのかを精神的な観点から考察する。継続的な受講により、生活世界と自己とのつながりが以前よりもはつきりと理解できるようになるだろう。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○B・スネル『精神の発見——ギリシア人におけるヨーロッパ的思考の発生に関する研究』(新井靖一訳)、創文社。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 日本の身体イメージI
- 3回 日本の身体イメージII
- 4回 近代社会の勃興と心身二元論
- 5回 古代ギリシャの身体観I(プラトンからホメロスへ)
- 6回 古代ギリシャの身体観II(ソポクレス)
- 7回 古代ギリシャの身体観III(通時的総括)
- 8回 キリスト教共同体と身体
- 9回 中間考査(2回~8回の内容確認テストを実施)
- 10回 映画の中の身体I
- 11回 映画の中の身体II
- 12回 文学作品の中の身体
- 13回 現代社会と身体問題の変容I
- 14回 現代社会と身体問題の変容II
- 15回 講義の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

内容確認テスト...40% 期末レポート...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で扱われる内容は、1年生向けビジョン科目「生活世界の哲学」の続編である。

「生活世界の哲学」、もしくは担当者による「倫理学」の授業をすでに受けている場合は、本講義についていくのが比較的容易なはずである。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

昨年度は課題提出に際していくつかの深刻な不正が発覚したため、今年度から本授業はより一層厳格かつ厳密な成績評価法に変更している。それゆえ、この授業に登録予定の諸君には、ダンテ『神曲』の中から以下の有名な言葉を贈っておきたい。

「Lasciate ogne speranza, voi ch'intrate. (ここに入るあなたがたは一切の希望を捨てよ。)」

キーワード /Keywords

メンタル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス（心の健康）の学習とは、病気や不適応事例の発生予防だけでなく、もっと幅広く、多くの「健康な生活人」の健康増進にも役立つような要件を学ぶことである。ストレス社会と言われる現代にあつては、メンタルのタフさがなければ生活人としての活動は難しい。身近なことでは学生生活そのものがさまざまなストレス源への対処を余儀なくされる。過剰なストレスは友人間や家族内の人間関係の悪化や学習意欲の低下、生活上の事故やミス、無気力や抑うつ症状などを生じさせる。本講義では一般的な心理学を基盤に「メンタルヘルス（心の健康）」を生涯発達（エリクソン理論）の視点からとらえながら、日々の生活を充実させるための、人生でのその時期、その時期でのストレスマネジメントの力を身につけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

教科書
 「こころと人間」中島俊介著,ナカニシヤ出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「こころの旅」神谷美恵子著 みすず書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 以下のスケジュールで行う（【 】はキーワード）
- 1回 オリエンテーション，受講上の注意，講師自己紹介など。
 - 2回 心の健康を学ぶ目的。「心」とは「健康」とは。【心の健康】【生涯発達心理学】
 - 3回 乳幼児の心の健康を知る。【エリクソンの自我発達理論】
 - 4回 児童期の心の健康を知る 【勤勉性と劣等感】
 - 5回 思春期の心のありよう【第二反抗期】
 - 6回から11回 青年期から壮年期までの人生と心の健康 【豊かな心とは】
 同一性の視点から ・遊びと人生
 配偶者の選択 ・病いと人生
 - 12回から13回 発達の障がいについての理解 【自閉症】【アスペルガー - 】
 - 14回 健康な心と身体が行く末について。【老いと死の受容】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

成績評価の方法
 定期試験...50% 受講態度と勉学への熱意...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

当該個所に対する自分の課題や疑問を整理しておくこと。自分なりの意見をまとめておいて授業に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メンタル・ヘルスII【昼】

基盤教育科目
 教養教育科目
 スキル科目
 ライフ・スキル

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス(心の健康)を友情の哲学と呼んだ識者がいた。多様な人格を周囲・地域に認めようということである。心の健康な人とは異端・極端を認め、そこから思考しようと努力する人であり「一人ひとりの幸福な生き方を配慮し援助する実践的な思想」といえる。本講座では、一般的な心理学を基盤にした「メンタルヘルスI」を前提として、さらにポジティブ心理学やアドラーや森田正馬の心理療法領域から心の健康増進の要件を学ぶ。青年期における健康な生活スタイルにも言及したい。欧米の理論も紹介しながら、特にわが国の文化的背景から出てきた、心の健康法にもふれることにより、受講者自身のセルフカウンセリングの能力がさらに高まることを期待したい。

教科書 /Textbooks

テキスト 特に設けない

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容とタイムスケジュール (【 】はキーワード)
 1回 オリエンテーション。受講上の注意など。【健康行動と感情】
 2回 心的態度と生き方のセルフチェック【とらわれ】
 3回～5回 人間の発達と自己形成【コフト理論やアドラー心理学などの理論紹介】
 6回～8回 心の体操。自分の価値観を知る。自分の人間関係スキルを磨く。【傾聴・対話】
 9回～10回 心のリフレッシュ。内観療法の視点から。森田療法の視点から。【感謝】
 11回～12回 ライフスタイルについて。ライフスタイルとは。ライフスタイル診断。【アドラー心理学】
 13回～14回 ライフプランについて(ワークライフ・バランス)。地域や世界の心の健康を考える。
 キャリアプラン 【仕事】【遊び】
 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 受講態度と勉学への熱意...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

自己の心の健康のみならず、他者や地域、国家や地球の環境にまで視野を拡大することを望みたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
ライフ・スキル

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 準備運動と整理運動
- 4回 ストレッチング実習<実習>
- 5回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など)<実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定)<実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとストックウォーキング<実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど)<実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して)<実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動)<実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力、コミュニケーション

フィジカル・ヘルスI【昼】

基盤教育科目
 教養教育科目
 スキル科目
 ライフ・スキル

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。そこで、この授業では、スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなど考えてみたい。

教科書 /Textbooks

授業時に資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康体力の理解
- 3回 身体のケアについて メンタル面
- 4回 身体のケアについて フィジカル面
- 5回 ウォーミングアップとクーリングダウン
- 6回 用具を使って身体を整える
- 7回 セルフマッサージで身体を整える
- 8回 テーピングによる簡単な予防
- 9回 トレーニングによって身体を整える
- 10回 ウェイトトレーニングの注意点
- 11回 体脂肪を減らすトレーニング
- 12回 柔軟性を高める運動 一人で行うもの
- 13回 柔軟性を高める運動 二人で行うもの
- 14回 腰痛と運動
- 15回 運動・スポーツの動機付け

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。
 授業内容(講義・実習)によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)
 実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 ガイダンス
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 (実習)ソフト・ トリムバレーボール【笑顔】
- 4回 (講義)ストレッチの理論
- 5回 (実習)ストレッチの実際、ゲーム
- 6回 (講義)ふとる・ やせる、適度な運動とは【体脂肪】、【ニコニコベース】
- 7回 (実習)軽運動、エアロビクス・ダンス【笑顔】
- 8回 (講義)フェアプレイ、スポーツマンシップとは
- 9回 (実習)球技を楽しもう①(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 10回 (実習)球技を楽しもう②(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 11回 (講義)これからの運動①【心臓の予備力】、【体力の変化】
- 12回 (講義)これからの運動②【体力の維持・ 向上】、【継続性】
- 13回 (講義)レッツ・ スポーツ【計画・ 企画】
- 14回 (実習)レッツ・ スポーツ【主体性】
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・ 事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・ 実習)によって教室・ 多目的ホール・ 体育館と毎回場所が変わるので、次回の子告を聞いて間違いがないようにする。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。

実習の場合は、運動ができる服装と体育館シューズを準備して下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

授業全体のキーワードは、【笑顔】と【コミュニケーション】である。

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 準備運動と整理運動
- 4回 ストレッチング実習<実習>
- 5回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など)<実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定)<実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとストックウォーキング<実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど)<実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して)<実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動)<実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力

フィジカル・ヘルスII 【昼】

基盤教育科目
 教養教育科目
 スキル科目
 ライフ・スキル

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなど考えてみたい。

教科書 /Textbooks

授業時に資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康体力の理解
- 3回 身体のケアについて メンタル面
- 4回 身体のケアについて フィジカル面
- 5回 ウォーミングアップとクーリングダウン
- 6回 用具を使って身体を整える
- 7回 セルフマッサージで身体を整える
- 8回 テーピングによる簡単な予防
- 9回 トレーニングによって身体を整える
- 10回 ウェイトトレーニングの注意点
- 11回 体脂肪を減らすトレーニング
- 12回 柔軟性を高める運動 一人で行うもの
- 13回 柔軟性を高める運動 二人で行うもの
- 14回 腰痛と運動
- 15回 運動・スポーツの動機付け

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 ガイダンス
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 (実習)ソフト・トリムバレーボール【笑顔】
- 4回 (講義)ストレッチの理論
- 5回 (実習)ストレッチの実際、ゲーム
- 6回 (講義)ふとる・やせる、適度な運動とは【体脂肪】、【ニコニコベース】
- 7回 (実習)軽運動、エアロビクス・ダンス【笑顔】
- 8回 (講義)フェアプレイ、スポーツマンシップとは
- 9回 (実習)球技を楽しもう①(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 10回 (実習)球技を楽しもう②(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 11回 (講義)これからの運動①【心臓の予備力】、【体力の変化】
- 12回 (講義)これからの運動②【体力の維持・向上】、【継続性】
- 13回 (講義)レッツ・スポーツ【計画・企画】
- 14回 (実習)レッツ・スポーツ【主体性】
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回予告を聞いて間違いがないようにする。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。

実習の場合は、運動できる服装と体育館シューズを準備して下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

授業全体のキーワードは、【笑顔】と【コミュニケーション】である。

自己管理論 【昼】

担当者名 /Instructor 生田カツ工、稲月正

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

青年期である大学生は自我意識が高まる時期であり、初めて一人暮らしをする学生にとっても、自己決定に基づく健康的で自立した生活することは容易なことではない。これからは、様々な角度から自己管理についての正しい知識と、自分を守り人にも役立つ健康の意識を高め、実践力を身につけることが大切である。今回の自己管理論は、各分野におけるプロフェッショナルの実体験や知識を学び、社会人になっても大いに役立ち、心身ともに健康で前向きに生きられる自分づくりをめざす。

教科書 /Textbooks

パワーポイントや配布資料など

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に設けない。授業中に関連文献を随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 第 1 回 自己管理I総論【保健師】：自己管理に必要な青年期の心身両面からの問題を総論する。
- 第 2 回 防犯の心得【警察官】：安心・安全とは何か。被害にあわないための具体的な自己防衛法を学び生活に役立てる。
- 第 3 回 自己管理II体の健康【保健師】：多様な疾病・リスクを中心に生涯にわたる健康を見直す。
- 第 4 回 若者にもっとも大切な栄養の話【管理栄養士】：健康的な栄養の知識を身につける。
- 第 5 回 歯と口の健康を保つセルフケア【歯科医師】：歯及び口腔のセルフケアを学び豊かな人生を送るための基礎を養う。
- 第 6 回 薬と健康【薬剤師】：薬の効果、サプリメントなど健康のための薬の知識を学ぶ。
- 第 7 回 依存と健康【精神科専門職】：心身ともに破滅に陥りやすい依存症の医学的知識を学ぶ。
- 第 8 回 自己管理III心の健康【保健師】：心と身体の関係から起こる疾病の予防や対策を学ぶ。
- 第 9 回 健康な体と感染症【助産師】：自分で予防できる感染症の知識や命の尊さを学ぶ。
- 第 10 回 救急法I【消防士】：救急法I、IIは講義と救急救命の実技を組み合わせで行う。
- 第 11 回 救急法II応急手当の方法、心肺蘇生法の手順など、事故・災害時の身の守り方、人命救助の具体的方法を学習する。
- 第 12 回 障害とノーマラージュエーション【作業療法士】：障害者の自立生活を支援するための資源、サービス、情報など身近な事柄として紹介する。
- 第 13 回 人権・ハラスメント関係【関係専門職】：人権侵害・ハラスメント防止などの知識と予防対策を学ぶ。
- 第 14 回 自己管理まとめ【保健師】：小試験・ポイント・記述などで総合的に理解を深める。

成績評価の方法 /Assessment Method

①毎回のミニレポート：60% ②まとめ(小試験・ポイント・記述など)：40%、①②の総合点で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回授業で配布するレジュメをよく読みこんでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

- 1 1回目の総論で「自己管理のプログラム」を配布する。
- 2 外部講師による講義のため、授業開始後20分には入室禁止する。私語をしない。
- 3 毎回のミニレポートは出席確認としても取り扱う。
- 4 欠席した場合は正直に自己管理授業用の欠席届を提出する。
- 5 救急法の実技時には、上靴、スラックスなど着用する。
- 6 最終回の「自己管理まとめ」授業は小試験のため必ず出席する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

大学生の就職だけでなく、企業などで働いている社会人にとっても現在の労働環境は厳しいものがあります。皆さんは本学卒業後には何らかの職業に就くことになると思います。この授業は、自らのキャリアを主体的に考え、自ら切り拓いていってもらうために必要な知識・態度・スキルを身につけます。特に以下の5点をねらいとしています。

- ①様々な職業や企業の見方などの労働環境について知る
- ②将来の進路に向けた学生生活の過ごし方のヒントに気づく
- ③コミュニケーションをとることに慣れる
- ④社会人としての基本的な態度を身につける
- ⑤自分について知る

授業では、グループワーク、個人作業、ゲーム、講義などを組み合わせて進めていきます。進路に対する不安や迷いを解消できるように、皆さんと一緒に将来のことを考えていく時間にしたいと考えています。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関する書籍を各自参考にしてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス【授業の目的、授業のルール】
- 2回 進路の現状【就職・公務員・教員等の進路準備スケジュール】
- 3回 学生生活とキャリア【社会人基礎力・学力、企業が求める能力、大学時代の過ごし方】
- 4回 自分を知る(1)【自分の歴史を振り返る、自分の強みを知る】
- 5回 インターンシップ【インターンシップ経験者の話、インターンシップの効用】
- 6回 仕事をするということ【仕事を考える視点、仕事のやりがい】
- 7回 企業・業界について【企業の組織について、業界の見方】
- 8回 働いている人の話を聞く【実際の仕事、仕事のやりがいについて】
- 9回 就職試験を体験する【SPI、一般常識】
- 10回 様々な働き方【働き方の多様化、キャリアに対する考え方】
- 11回 キャリアとお金【働き方別の賃金、生活費シミュレーション】
- 12回 自分を知る(2)【自分の価値観を考える、多様性を認識する】
- 13回 就職活動の実体験【内定した4年生の話、就職活動のポイント】
- 14回 学生生活を考える【将来の目標、どんな学生生活を過ごすのか】
- 15回 まとめ【授業全体を振り返る、総括】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50% 授業内のレポート...30% まとめのレポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特に準備することはありませんが、自分のキャリアは自分で考えるしかありません。積極的・主体的に授業に参加し、将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業に参加するには、社会人としての態度が求められます。以下の10力条を守ってください。

- ①遅刻厳禁②携帯メール厳禁、携帯はマナーモードでバッグの中③脱帽④飲食禁止⑤作業時間は守る⑥授業を聞くところ、話し合うところのメリハリをつける⑦グループワークでは積極的に発言する⑧周りのメンバーの意見にしっかり耳を傾ける⑨分からないことは聞く⑩授業に「出る」ではなく、「参加する」意識を持つ

キャリア・デザイン【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
キャリア・スキル

キーワード /Keywords

キャリア、進路、公務員、教員、資格、コンピテンシー、自己分析、インターンシップ、職種、企業、業界、社会人、SPI、派遣社員、契約社員、正社員、フリーター、給料、就職活動

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

将来の進路に対する不安や迷いを解消するために、また有意義な大学生活を営むために、

- ①様々な業界や企業、そして働き方など社会について知る
- ②将来の進路に向けた学生生活の過ごし方を知る
- ③初対面の学生とのコミュニケーションに慣れる
- ④社会人としての基本的な態度を身につける
- ⑤自分について知る

以上5点を獲得目標とし、グループワーク、個人ワーク、講義、先輩や社会人のゲストとのディスカッションなどを組み合わせて授業を進めていきます。最終授業では、将来の目標のためにどんな学生生活を過ごすのかをプランしていただきます。

皆さんと一緒に、無限の可能性を秘めた自分の将来について、じっくり考える時間になりたいと思います。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。
 以下書籍はその参考例です。

- 金井寿宏『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所
- 大久保幸夫『キャリアデザイン入門1基礎力編』日本経済新聞社
- 渡辺三枝子『新版キャリアの心理学』ナカニシヤ出版
- モーガン・マッコール『ハイフライヤー 次世代リーダーの育成法』プレジデント社
- エドガー・H.シャイン『キャリア・アンカー 自分のほんとうの価値を発見しよう』白桃書房
- 見館好隆『「いっしょに働きたくなる人」の育て方-マクドナルド、スターバックス、コールドストーンの人材研究』プレジデント社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス (授業の目的やルール、キャリアの基本知識)
- 2回 学生生活とキャリア (社会で働く上で必要となる力、大学時代の過ごし方)
- 3回 進路について (就職活動や公務員試験、教員試験、大学院進学など)
- 4回 自分を知る① (働く価値観や仕事へのこだわり)
- 5回 自分を知る② (一皮むける経験、経験学習)
- 6回 自分を知る③ (自分の対人特性、自分の強みを伸ばす、自分の弱みを受け入れる)
- 7回 仕事をするということ (仕事を考える視点、仕事のやりがい)※社会人ゲストを予定
- 8回 キャリアとお金 (雇用形態と賃金、生活費シミュレーション)
- 9回 大学生活を面白くする方法 (計画された偶発性・セレンディピティ)
- 10回 地域活動とインターンシップ (地域活動やインターンシップ経験した先輩とのディスカッション)
- 11回 業界&企業研究 (業界のしくみ、業界研究および企業研究の方法)
- 12回 就職活動を知る① (就職活動や公務員試験を体験した先輩とのディスカッション)
- 13回 就職活動を知る② (実際の就職試験を体験、その他面接など選考方法)
- 14回 学生生活を考える (自分を振り返り、将来の目標のためにどんな学生生活を過ごすのか)
- 15回 まとめ (総括)

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業で課されるレポート...80% 最終回のレポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特別な準備は必要ありませんが、自分の将来に対して真剣に向き合う姿勢、そして自分を成長させたい意欲が求められます。

キャリア・デザイン 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
キャリア・スキル

履修上の注意 /Remarks

必修ではありませんが、将来の進路のために大学生生活をどう営むかを考える、主に1年生向けの授業です。真鍋先生の「キャリアデザイン」が本講義いずれかを履修することをお勧めします。また、毎回、授業開始直後にグループワークがあります。よって、遅刻すると他のメンバーに迷惑がかかりますので注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

グループワークのメンバーは毎回シャッフルされます。毎週、初対面の学生と話せて学内の知り合いが増えます。また、地域活動やインターンシップなど、自らのキャリア形成に役立つインフォメーションもあります。積極的にご参加ください。

キーワード /Keywords

キャリア、キャリア発達、大学生活、アイデンティティ、コミュニケーション、社会人マナー

コミュニケーションと思考法【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本経団連の調査では、大卒新卒者に求める能力として『コミュニケーション力』が常にトップとなっています。ダイバーシティと言われるように、多様な価値観を持った人と円滑なコミュニケーションができることが、仕事を進めていく上でポイントになります。また、複雑化・成熟化した社会では、単に言われたことをこなすのではなく問題を発見し解決に導いていくための『考える力』が求められます。授業の前半では、講師の話聞くだけでなく現実場面を想定し、実践しながらコミュニケーションのトレーニングしていきます。後半では、仕事をする上で重要な思考法についてその基礎を学びます。

教科書 /Textbooks

コミュニケーションに関するテキストを使用します。別途告知します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、授業中に参考になる文献等を適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 全体ガイダンス	【授業の目的、授業のルール】
2回 会話とストレートトーク	【コミュニケーションとは、大切さ】
3回 言動の基本、伝え方	【話力とは、聞き手に心を開いて話をする】
4回 話し方に心理学を応用する(1)	【行動パターンによるコミュニケーション】
5回 話し方に心理学を応用する(2)	【良い人間関係を作るコミュニケーション】
6回 話し方に心理学を応用する(3)	【日常会話、スピーチ、プレゼンテーション】
7回 対応マナー	【どう話すのか、話す時の立ち振る舞い】
8回 電話対応	【電話・手紙のマナー】
9回 敬語を上手に使い話力を高める	【敬語の使い方】
10回 話し方 TPO	【シチュエーションを考える】
11回 プレゼンテーションをやってみる	【考えをまとめて発表する】
12回 思考法(1)	【ロジカルシンキング、演繹法、帰納法】
13回 思考法(2)	【ロジカルシンキング、ロジックツリー】
14回 思考法(3)	【クリティカルシンキング】
15回 まとめ	【授業のまとめ、総括】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50%、授業の成果物...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特に準備することはありません。

履修上の注意 /Remarks

講義の性格上、1クラス50名程度での開講となります。例年多数の履修希望者があり抽選となっています。しかし、抽選に当たったにも関わらず、授業に参加しない学生が見られます。そうすると、本当に受講したくても受講できない学生に迷惑がかかります。受講したいという意思を強く持っている学生に履修登録をしていただきたいと思います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コミュニケーション、マナー、論理的思考法、帰納法、演繹法、クリティカルシンキング

プロフェッショナルの仕事【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
キャリア・スキル

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

<目的>現場の第一線で活躍している社会人に教壇に立ち頂き、仕事のやりがいや辛さ、そして自らが成長した物語を語って頂きます。その話を聴くことで、①ビジネスの仕組み ②仕事の現実と成長する秘訣 ③将来のヒントを学びます。

<進め方>講演者の企業や仕事を予習して、講演を傾聴します。そこで得た新しい知識や払拭できた先入観、将来へのヒントを元に、「将来のために今すべきこと」をレポートにまとめます。

<期待される効果>将来の自分の進路がイメージできない人は、様々な企業や団体の第一線で働いている社会人の話を聴くことで、自らの将来の姿を描くヒントを得ることが出来ます。また、企業や団体の第一線でいきいきと輝いて働いている社会人の話を聴くことで、大学時代においてどんな大学生活を過ごせば良いかを理解できます。

なお、企業・団体は先方の都合もあり毎年変わります。事情によってはビデオ上映の場合もあります。

以下は2010年度の実績です。

ジェイコム北九州、リクルート、北九州市役所、門司港ホテル、スターフライヤー、デンソー九州、日本生命、朝日新聞社、東芝物流、コクヨ、ナフコ、山口銀行

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。企業・団体によっては会社案内などを当日配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。

以下書籍はその参考例です。

○金井寿宏『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所

○中原淳ほか『企業内人材育成入門』ダイヤモンド社

○モーガン・マッコール『ハイフライヤー 次世代リーダーの育成法』プレジデント社

見館好隆『「いっしょに働きたくなる人」の育て方-マクドナルド、スターバックス、コールドストーンの人材研究』プレジデント社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 全体ガイダンス

第2～14回 各企業・団体の第一線で働く社会人の講演

第15回 まとめ

※2010年度の実績

ジェイコム北九州、リクルート、北九州市役所、門司港ホテル、スターフライヤー、デンソー九州、日本生命、朝日新聞社、東芝物流、コクヨ、ナフコ、山口銀行

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業で課されるレポート...80% 最終回のレポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講演者が所属する企業・団体および仕事について必ず予習をしてください。予習するポイントはその都度指示します。

履修上の注意 /Remarks

※1学期の「キャリア・デザイン」を受講していることが望ましい。

※授業の特性上、出席しなければ点数は付きません。よって課外活動で欠席が多くなる学生は履修を避けてください。

※本務でお忙しい中、本学の学生のために、わざわざ来学していただいている講演です。よって、以下の4項目は特別な事情があるときを除き厳守してください。①遅刻厳禁 ②携帯操作厳禁(マナーモードでバッグの中に) ③脱帽 ④飲食禁止

プロフェッショナルの仕事【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
キャリア・スキル

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本学の学生は、首都圏の大学生よりも立地的に、企業・団体で働いている社会人と出会う機会が少なくなっています。そんな中、自分の将来への視野を広げたい、将来のために自分を成長させるヒントを得たいと考えている学生のために設計しました。講演者の皆様は大学生活ではなかなか出会うことができないばかりです。講演者の皆様が本学の学生のために語ってくれた言葉を聞き逃さず、何かを学ぼうという意思を持ってご参加ください。

キーワード /Keywords

働くこと、成長、キャリア、キャリア発達、大学生活、アイデンティティ

法律の読み方 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科, 山本 光英 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

六法全書や法律書を開いてみても難しい。裁判所の判例を読んでみてもどうしてそういう判断をするのかわからない。法律はどのような仕組みになっているのかわからない。そういう疑問に少しでも応え、法律の世界を理解するために必要なスキルを提供します。法律に興味や関心を抱き、社会生活を円滑に営むための指針、心構えをつくる手助けになればと思っています。

教科書 /Textbooks

毎回、レジュメ、資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス-法律を読むために
- 2回 民法を読む①【社会規範】【行為規範】【法律用語】【裁判所】
- 3回 民法を読む②【法解釈の方法】【文理解釈】【類推解釈】
- 4回 刑法を読む①【法規範の特性】【法の機能】【法の実在形式】【法源】【罪法定主義】
- 5回 刑法を読む②【刑事法】【法の適用】【憲法と刑事法の関係】【法の解釈】
- 6回 民事判例を読む①【判例】【先例】【認定事実】
- 7回 民事判例を読む②【判例研究の方法】【生命保険金】【特別受益】
- 8回 刑事判例を読む①【判例集の名称】【判例集の調べ方】【判例集の体裁】
- 9回 刑事判例を読む②【刑事判例の勉強の仕方】【事実の概要】【判旨】【解説】【因果関係】
- 10回 民法の視点から社会を読む①【婚姻】【内縁】【パートナーシップ】
- 11回 民法の視点から社会を読む②【相続】【遺言】【失権】
- 12回 刑法の視点から社会を読む①【一厘事件】【3銭電気窃盗事件】【窃盗罪の客体】【可罰的違法性】【起訴便宜主義】
- 13回 刑法の視点から社会を読む②【裁判員制度】【刑事裁判の流れ】【公判の基本原則】
- 14回 民法と刑法の交錯する世界を読む【民事責任】【慰謝料】【制裁】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 20 % 期末試験... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

六法を持参してください。法学部生以外の受講生には、石川明他編『法学六法'11』信山社(1,000円)をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会調査【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会調査（主に量的調査）の基本的な考え方と技法を習得する。調査法を学ぶ場合、統計ソフトが使えるようになることよりも、基本的な「考え方」の方が重要である。たとえば、「あることを主張するためにはどのようなデータを用い、どのような事実が観察される必要があるか」を考えることである。その上で、質問文の作り方、調査票の構成、サンプリング、データファイル作成、単純集計、記述統計量の計算、検定、クロス表の作成など、基本的な分析技法について学ぶ。なお、パソコン教室を使う関係上、教室定員に応じて受講者数調整を行う可能性がある。

教科書 /Textbooks

『社会調査法入門』、盛山和夫著、有斐閣、2004

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『ガイドブック社会調査（第2版）』、森岡清志編著、日本評論社、2007
 - 『新版 ライフヒストリーを学ぶ人のために』、谷富夫編著、世界思想社、2008
- その他、授業の中で紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 何のための社会調査か
- 第2回 量的調査と質的調査
- 第3回 調査と研究の進め方
- 第4回 社会調査を企画する
- 第5回 ワーディングと調査票の作成（1）
- 第6回 ワーディングと調査票の作成（2）
- 第7回 ワーディングと調査票の作成（3）
- 第8回 サンプリング
- 第9回 調査の実施とデータファイルの作成（1）
- 第10回 調査の実施とデータファイルの作成（2）
- 第11回 分布と統計量
- 第12回 検定の考え方
- 第13回 クロス集計
- 第14回 相関係数
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 40% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストをよく読んでおくこと。
 「統計を読む・統計をつくる」（1学期）と合わせて受講することが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

統計を読む・統計をつくる【昼】

担当者名 /Instructor 山本 努 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

我々は新聞やテレビを通して、膨大な統計データや調査結果に日々、さらされている。統計をつくるに際して種々の社会調査が行われるが、社会調査の手順を示して、社会調査の生み出す統計データを批判的に読み込む力を培う。

教科書 /Textbooks

別途、掲示で指定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

谷・山本編『よくわかる質的社会調査(プロセス編)』ミネルヴァ書房、轟・杉野『入門・社会調査法—2ステップで基礎から学ぶ』法律文化社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会調査のよい例、わるい例
- 2回 社会調査とは何か
- 3回 社会調査の種類
- 4回 量的(統計)調査の方法
- 5回 質問文の作り方
- 6回 量的(統計)調査の難点
- 7回 質的調査の方法
- 8回 質的調査のフィールドの実際
- 9回 質的調査の意義、量的(統計)調査との関係
- 10回 量的(統計的)社会調査の作品群の概要
- 11回 ミクロの量的(統計)分析の代表事例
- 12回 マクロの量的(統計)分析の代表事例
- 13回 ミクロの実験(統計)の代表事例
- 14回 質的・量的(統計)調査の作品の対比
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート又は試験 ... 80 % 授業での参加(質疑応答など) ... 20 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストを購入しておくこと。社会科学の入門的講義を受講しておくこと好ましい。

履修上の注意 /Remarks

テキストを持参して授業に出席のこと。(テキストなしでは、授業はまったく理解できません。)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

世の中の様々に興味を持つこと。新聞、書物などを読むこと。

キーワード /Keywords

社会調査、統計(量的)調査、質的調査

フィジカル・エクササイズI (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 磯貝 浩久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、サッカーの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 サッカーの基本技術(リフティング)の習得と試しのゲーム(1)
- 3回 サッカーの基本技術(パス)の習得と試しのゲーム(2)
- 4回 サッカーの基本技術(シュート)の習得と試しのゲーム(3)
- 5回 サッカーの戦術(ディフェンス)の修得とゲーム(1)
- 6回 サッカーの戦術(ディフェンス)の修得とゲーム(2)
- 7回 サッカーの戦術(オフENS)の修得とゲーム(1)
- 8回 サッカーの戦術(オフENS)の修得とゲーム(2)
- 9回 サッカーの戦術の修得と試合(1)
- 10回 サッカーの戦術の修得と試合(2)
- 11回 審判法の修得と試しのゲーム
- 12回 リーグ戦方式の試合(1)
- 13回 リーグ戦方式の試合(2)
- 14回 リーグ戦方式の試合(3)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (テニス) 【昼】

担当者名 /Instructor 原田 守治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、テニスの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 受講上の注意
- 2回 ストロークの基礎練習(フォアハンド)(1)
- 3回 ストロークの基礎練習(フォアハンド)(2)
- 4回 ストロークの基礎練習(バックハンド)(3)
- 5回 ストロークの基礎練習(バックハンド)(4)
- 6回 サービスの基礎練習(1)
- 7回 サービスの基礎練習(2)
- 8回 ボレーやスマッシュの基礎練習(1)
- 9回 ボレーやスマッシュの基礎練習(2)
- 10回 ルール・戦術の説明
- 11回 シングルスゲーム(1)
- 12回 シングルスゲーム(2)
- 13回 ダブルスゲーム(1)
- 14回 ダブルスゲーム(2)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI(バスケットボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 原田 守治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バスケットボールの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 受講上の注意
- 2回 集団行動(走る(ラン)・跳ぶ(ジャンプ)・投げる(スロー))
- 3回 ボールに慣れる(ドリブル・パス・シュート)
- 4回 シュートの基礎練習(レイアップシュート・ジャンプシュート)
- 5回 応用練習(2対1、3対2)(1)
- 6回 応用練習(2対1、3対2)(2)
- 7回 ルール・戦術の説明
- 8回 簡易ゲームを通してのオフェンス・ディフェンスの戦術習得
- 9回 スキルアップ(ドリブルシュート・リバウンド、速攻など)(1)
- 10回 スキルアップ(ドリブルシュート・リバウンド、速攻など)(2)
- 11回 ゲーム(1) ゾーンディフェンス(2-3)・(2-1-2)
- 12回 ゲーム(2) マンツーマンディフェンス
- 13回 ゲーム(3)
- 14回 ゲーム(4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バドミントンの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 フライト練習(1) <ハイクリアー、ドライブ、ヘアピン、スマッシュ>
- 3回 フライト練習(2) <ハイクリアー、ドライブ、ヘアピン、スマッシュ>
- 4回 フライト練習(3) <ハイクリアー、ドライブ、ヘアピン、スマッシュ>
- 5回 サーブ練習<ショートサービス、ロングサービス>
- 6回 攻めと守りのコンビネーション練習(1)
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(2)
- 8回 ルール説明(1) <シングルス>
- 9回 ルール説明(2) <ダブルス>
- 10回 シングルスゲーム(1)
- 11回 シングルスゲーム(2)
- 12回 ダブルスゲーム(1)
- 13回 ダブルスゲーム(2)
- 14回 ダブルスゲーム(3)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バレーボールの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ、オーバーサーブ、フローターサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <アンダーサーブ、オーバーサーブ、フローターサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス、オーバーパス>
- 5回 パス練習(2) <アンダーパス、オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド、センター>
- 8回 アタック練習(2) <サイド、センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1)
- 12回 ゲーム(2)
- 13回 ゲーム(3)
- 14回 ゲーム(4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バドミントンの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の展開方法や履修に関する諸注意およびガイダンス
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト(1)
- 5回 基本的な打ち方とフライト(2)
- 6回 応用組み合わせ練習(1)
- 7回 応用組み合わせ練習(2)
- 8回 ゲーム展開の展開方法と審判法の習得
- 9回 戦術の説明
- 10回 ゲーム(1)
- 11回 ゲーム(2)
- 12回 ゲーム(3)
- 13回 ゲーム(4)
- 14回 ゲーム(5)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実技 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バレーボールの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 バレーボールの基礎(1) <パス編> (オーバーパス・アンダーパス)
- 3回 バレーボールの基礎(2) <パス編> (オーバーパス・アンダーパス)
- 4回 バレーボールの基礎(3) <サーブ編>
- 5回 バレーボールの基礎(4) <サーブ編>
- 6回 バレーボールの基礎(5) <アタック編>
- 7回 バレーボールの基礎(6) <アタック編>
- 8回 バレーボールの基礎(7) <ルール編> ルールの習得
- 9回 バレーボールの応用(1) フォーメーション
- 10回 バレーボールの応用(2) ゲーム展開
- 11回 ゲーム(1)
- 12回 ゲーム(2)
- 13回 ゲーム(3)
- 14回 ゲーム(4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% スキル獲得テスト ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実技 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バドミントンの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 バドミントンの基礎(1) フライト(ハイクリアー・ドロップ・ヘアピンなど)
- 3回 バドミントンの基礎(2) フライト(ハイクリアー・ドロップ・ヘアピンなど)
- 4回 バドミントンの基礎(3) フライト(ハイクリアー・ドロップ・ヘアピンなど)
- 5回 バドミントンの基礎(4) サーブ(ロング・ショート)
- 6回 バドミントンの基礎(5) スマッシュ
- 7回 バドミントンの基礎(6) ルールの習得(シングルス)
- 8回 バドミントンの応用(7) ルールの習得(ダブルス)
- 9回 バドミントンの応用(1) フォーメーション
- 10回 バドミントンの応用(2) ゲーム展開
- 11回 シングルスゲーム(1)
- 12回 シングルスゲーム(2)
- 13回 ダブルスゲーム(1)
- 14回 ダブルスゲーム(2)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 磯貝 浩久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バドミントンの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 基本技術(フライト)の学習(1)
- 4回 基本技術(フライト)の学習(2)
- 5回 基本技術(フライト)の学習(3)
- 6回 基本技術(サービス)の学習
- 7回 基本技術(フライトのコンビネーション)の学習(1)
- 8回 基本技術(フライトのコンビネーション)の学習(2)
- 9回 ルールの説明
- 10回 ゲームの練習
- 11回 リーグ戦形式の試合(1)
- 12回 リーグ戦形式の試合(2)
- 13回 リーグ戦形式の試合(3)
- 14回 リーグ戦形式の試合(4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 原田 守治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バドミントンの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 受講上の注意
- 2回 ストロークの基礎練習 (フォアハンド・ バックハンド)
- 3回 フライトの基礎練習 (1) (クリアー・ ドロップ・ スマッシュ・ ドライブ・ ヘアピン)
- 4回 フライトの基礎練習 (2) (クリアー・ ドロップ・ スマッシュ・ ドライブ・ ヘアピン)
- 5回 フライトの基礎練習 (3) (クリアー・ ドロップ・ スマッシュ・ ドライブ・ ヘアピン)
- 6回 フライトの基礎練習 (4) (クリアー・ ドロップ・ スマッシュ・ ドライブ・ ヘアピン)
- 7回 サービスの基礎練習
- 8回 ラリーゲームでの応用練習 (クリアー・ ドロップ・ ヘアピンのコンビネーション)
- 9回 ルール・ 戦術の説明
- 10回 攻めと守りのコンビネーション練習
- 11回 シングルスゲーム (1)
- 12回 シングルスゲーム (2)
- 13回 ダブルスゲーム (3)
- 14回 ダブルスゲーム (4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 原田 守治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バスケットボールの実技をとって、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 受講上の注意
- 2回 集団行動(走る(ラン)・跳ぶ(ジャンプ)・投げる(スロー))
- 3回 ボールに慣れる(ドリブル・パス・シュート)
- 4回 シュートの基礎練習(レイアップシュート・ジャンプシュート)
- 5回 応用練習(2対1、3対2)(1)
- 6回 応用練習(2対1、3対2)(2)
- 7回 ルール・戦術の説明
- 8回 簡易ゲームを通してのオフェンス・ディフェンスの戦術習得
- 9回 スキルアップ(ドリブルシュート・リバウンド、速攻など)(1)
- 10回 スキルアップ(ドリブルシュート・リバウンド、速攻など)(2)
- 11回 ゲーム(1) ゾーンディフェンス(2-3)・(2-1-2)
- 12回 ゲーム(2) マンツーマンディフェンス
- 13回 ゲーム(3)
- 14回 ゲーム(4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バレーボールの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ、オーバーサーブ、フローターサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <アンダーサーブ、オーバーサーブ、フローターサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス、オーバーパス>
- 5回 パス練習(2) <アンダーパス、オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド、センター>
- 8回 アタック練習(2) <サイド、センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1)
- 12回 ゲーム(2)
- 13回 ゲーム(3)
- 14回 ゲーム(4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、サッカーの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の展開方法や履修に関する諸注意およびガイダンス
- 2回 基本的なインサイドステップのシュートパス練習
- 3回 トラッピングからのパス練習
- 4回 リフティング
- 5回 ミニゲーム (1) チームごとにテーマを持たせてのミニゲーム
- 6回 ミニゲーム (2) チームごとにテーマを持たせてのミニゲーム
- 7回 ミニゲーム (3) チームごとにテーマを持たせてのミニゲーム
- 8回 ミニゲーム (4) チームごとにテーマを持たせてのミニゲーム
- 9回 ルール説明
- 10回 ゲーム (1)
- 11回 ゲーム (2)
- 12回 ゲーム (3)
- 13回 ゲーム (4)
- 14回 ゲーム (5)
- 15回 スキル獲得の確認テスト

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
 教養教育科目
 スキル科目
 ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バドミントンの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の展開方法や履修についての諸注意およびガイダンス
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト(1)
- 5回 基本的な打ち方とフライト(2)
- 6回 応用組み合わせ練習(1)
- 7回 応用組み合わせ練習(2)
- 8回 ゲーム展開の展開方法と審判法の習得
- 9回 戦術の説明
- 10回 ゲーム(1)
- 11回 ゲーム(2)
- 12回 ゲーム(3)
- 13回 ゲーム(4)
- 14回 ゲーム(5)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 磯貝 浩久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、サッカーの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 サッカーの基本技術(リフティング)の習得と試しのゲーム(1)
- 3回 サッカーの基本技術(パス)の習得と試しのゲーム(2)
- 4回 サッカーの基本技術(シュート)の習得と試しのゲーム(3)
- 5回 サッカーの戦術(ディフェンス)の修得とゲーム(1)
- 6回 サッカーの戦術(ディフェンス)の修得とゲーム(2)
- 7回 サッカーの戦術(オフENS)の修得とゲーム(1)
- 8回 サッカーの戦術(オフENS)の修得とゲーム(2)
- 9回 サッカーの戦術の修得と試合(1)
- 10回 サッカーの戦術の修得と試合(2)
- 11回 審判法の修得と試しのゲーム
- 12回 リーグ戦方式の試合(1)
- 13回 リーグ戦方式の試合(2)
- 14回 リーグ戦方式の試合(3)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (女性のスポーツ) 【昼】

基盤教育科目
 教養教育科目
 スキル科目
 ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこでこの授業では、体力・技術にあまり自信のない女性を対象に、レクリエーションスポーツ種目も含め、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえて、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

スポーツルール百科 ○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、受講上の注意
- 2回 バレーボール(1) サーブ、パスの基礎練習
- 3回 バレーボール(2) ルール説明とゲーム
- 4回 バドミントン(1) 基本的な打ち方とフライト練習
- 5回 バドミントン(2) ダブルスのルール説明とゲーム
- 6回 卓球(1) フォアハンド、バックハンドの基礎練習
- 7回 卓球(2) ダブルスのルール説明とゲーム
- 8回 ソフトバレーボール(1) サーブ、パス、アタックの基本練習
- 9回 ソフトバレーボール(2) ルール説明とゲーム
- 10回 ショートテニス(1) フォアハンド、バックハンドの基礎練習
- 11回 ショートテニス(2) ルール作りとゲーム
- 12回 選択種目(1)
- 13回 選択種目(2)
- 14回 選択種目(3)
- 15回 スキル獲得の確認(選択種目)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% スキル獲得テスト ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。DNAとは何か？ 遺伝子とは何をしているものなのか？ 本演習では「DNA・遺伝子・生命」を主たるテーマとし、関連図書・DVDを用いて学習するほか、簡単な実験・実習を体験することによって、これらに関する基本的知識と興味を身につける。さらに関連した科学記事やニュースを読み取る力・自ら考える力を身につけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「アメリカ版大学生物学の教科書・第2巻」 D・サダヴァ他著、ブルーバックス、2010年
- 「文系のための生命科学」 東京大学生命科学教材書籍編集委員会編、2008年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の説明【細胞】【遺伝】【染色体】
- 3回 基本的事項の説明【DNA】【RNA】【タンパク質】
- 4回 基本的事項の説明【遺伝子】【ゲノム】
- 5回 実験と実習【DNA鑑定実験1】
- 6回 実験と実習【DNA鑑定実験2】
- 7回 実験と実習【DNA鑑定実験3】
- 8回 科学記事よりトピックを選んで解説(1)
- 9回 科学記事よりトピックを選んで解説(2)
- 10回 科学記事よりトピックを選んで解説(3)
- 11回 科学記事よりトピックを選んで解説(4)
- 12回 関連映画作品等鑑賞(1)
- 13回 関連映画作品等鑑賞(2)
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・80%、課題・・・20%
(毎回カードを配布する。授業中の発表のほかに、カードに記入したコメント・質問を重視する。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

文献読解能力を訓練し、レジюме（梗概）の作り方、報告の仕方などを実地に学んでいく。あわせて、日本の歴史に対する理解を深め、国際化時代に相応しい教養を涵養する一助としたい。

毎回、全履修生から「レジюме」（梗概）を提出してもらい、次週までに添削して返却します。「レジюме」とは、わかりやすく言うと、この場合には本の内容の要約です。この演習の目的は、レジюмеを作成することを通じて、専門的な文献を読む基礎になる読解力、内容を要約してまとめる力、プレゼンテーション能力などを涵養することにあります。受講者数にもよりますが、毎回1～5名程度の受講生に報告してもらいます。したがって、受講者が少ない場合には毎回報告してもらうことになります。意欲的な学生は大歓迎です。15回の演習で、一冊完読します。

教科書 /Textbooks

瀧井一博『伊藤博文 - 知の政治家』（中公新書、2010年）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション。
- 2～14回 文献の輪読。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50% 報告・レジюмеの内容...50%
 無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

演習が始める前に大学図書館を見学しておいて下さい。
 毎週必ず、テキストの該当ページを読んで、レジюмеを作ってもらいます。

履修上の注意 /Remarks

小林担当の「教養基礎演習Ⅱ」とセットで履修することを希望します。
 この演習は2年生・3年生との合同演習です。
 受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 市原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

大学での学び方入門： 本演習では、大学での勉強の仕方の基礎を学びます。最終的には、文献を読んで自分の考えをまとめるレポート（高校までの小論文でも調べ学習でも感想文でもなく）を書くことを目指す。前半では、身近な現象について論じているテキスト『下流社会第2章』の批判的読解を試みることを通して、レジュメの作りかた、議論の行い方、論点の見つけ方を学び、後半では、自分で関連する文献をさらに探して、2000～4000字程度のレポートを書くプロセスを報告しながら、受講者とともにより完成度の高いレポートの作成を目指す。

教科書 /Textbooks

三浦展 2007 『下流社会 第2章：なぜ男は女に“負けた”のか』 光文社新書

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○佐藤望ほか(編) 2006 『アカデミック・スキルズ』 慶應大学出版会
専修大学出版企画委員会(編) 2009 『知のツールボックス』 専修大学出版会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：大学の授業とは / ノートの取りかた
第2回 思考を発展させる読書のしかた：本を探しかたと読書ノートの活用について
第3回 レジュメの作りかた
第4・5・6・7回 テキスト輪読型の演習における報告と議論
テキスト：三浦展 『下流社会 第2章』
第8・9回 レポートの書きかた
第10・11・12・13・14回 レポート構想報告
第15回 文章を推敲する：レポートの相互添削

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50%、授業貢献(報告内容、積極的な発言など)50%
(第15回で学生相互にレポートを添削し、その後最終的に書き直したレポートを評価の対象とします。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

問題意識は、漠然と本を読み、授業を聞くだけで生まれるものではありません。4月の段階で特定の学問的興味関心を持つことは求めませんが、学期末までには課題に対する問題意識を見つけることを心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

教養基礎演習IIも継続して受講することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・出席者の報告、レポート添削と再提出のプロセスを重視するので、人数が多すぎる場合、受講制限をします。
- ・現代社会に関する問題に興味のある学生の受講を歓迎します。

キーワード /Keywords

レポートの書き方、問題意識の発見、レポート作成

教養基礎演習I【昼】

担当者名 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

学生としての心構えや厳しい社会へ踏み出す前段階としての「人間力」・「社会力」などのスキルの獲得が非常に重要なことと考える。そこで本演習では、共同生活を伴った野外活動体験や冒険教育の理論をもとに構築されたレクリエーション活動などによる人間関係トレーニングを行う。その中で、自己を見つめ直し、他人への配慮やコミュニケーション能力などの強化を目指す。尚、本演習では野外活動特に「キャンプ」実習に力を入、学内では経験できない「レクリエーション種目」なども多数実践していきます。キャンプ実習に参加できない学生については単位認定ができない場合がありますので注意してください。

教科書 /Textbooks

必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 グループディスカッション (1)
- 2回 グループディスカッション (2)
- 3回 グループディスカッション (3)
- 4回 グループゲーム (1)
- 5回 グループゲーム (2)
- 6回 自分自身を理解する
- 7回 自分自身を人に理解させること
- 8回 人を理解すること
- 9回 集団で克服していくトレーニング
- 10回 キャンプのオリエンテーション (1)
- 11回 キャンプのオリエンテーション (2)
- 12回 キャンプのオリエンテーション (3)
- 13回 キャンプのオリエンテーション (4)
- 14回 キャンプのオリエンテーション (5)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

受講態度 ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡する。
 キャンプ実習は別途実習費 (約 4000円) かかりますので注意してください

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、1年を通して、各自が自分の関心に従って、社会的な視点・方法によって論文・レポート(4000字程度)を書くことをめざす。したがって原則として「教養基礎演習I」「教養基礎演習II」の通年受講(1・2学期受講)を義務づける。

1学期は、まず、以下のことを身につけることを目指す。

- (1) 社会的なものの見方・考え方
- (2) 文献資料の調べ方
- (3) レポート・論文の書き方

さらに、社会的な調査を用いた基礎的な文献を報告してもらう。

同時並行的に、自らが書く論文・レポートについても準備をすすめる。まず、各自が「テーマ」と「問い」をたてる。その上で、自らのたてた「問い」について関連する文献のリストを作成する。

報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、受講者の最大数は10人とする(それを越える場合、受講者数調整をかける)。

教科書 /Textbooks

- 『知的複眼思考法』、刈谷剛彦、講談社+α文庫、2002
- 『「二ート」って言うな』、本田由紀・内藤朝雄・後藤和智、光文社新書、2006

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 『レポート・論文の書き方入門』河野哲也、慶応義塾大学出版会
- 『自分で調べる技術 - 市民のための調査入門』、宮内泰介、岩波アクティブ新書
- その他、講義の中で、その都度、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業内容の紹介
- 第2回 社会的なものの見方・考え方(1) - 『知的複眼思考法』
- 第3回 社会的なものの見方・考え方(2) - 『知的複眼思考法』
- 第4回 社会的なものの見方・考え方(3) - 『知的複眼思考法』
- 第5回 第1回レポート検討会
- 第6回 論文・レポートの書き方
- 第7回 情報収集の仕方(1)
- 第8回 情報収集の仕方(2)
- 第9回 第2回レポート検討会
- 第10回 分析事例(1) - 『「二ート」って言うな』第1部
- 第11回 分析事例(2) - 『「二ート」って言うな』第2部
- 第12回 分析事例(3) - 『「二ート」って言うな』第3部
- 第13回 調査倫理について
- 第14回 第3回レポート検討会
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

参加度・貢献度... 40% 課題(レポート)... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

レポート検討会の際には「研究計画書」を準備すること(様式等は授業中に指示する)。
報告者は、(1)文献概要、(2)内容要約、(3)論点整理、(4)議論を記したレジュメを準備すること。
報告者以外の者は(当然のことながら)事前に文献を読み、コメントを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

教養基礎演習I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

北九州の発見学として平成19年度から開講している「北九州学」。この科目の講義内容、講義計画を教員と学生により共同企画するゼミです。講義内容に関わる情報の収集・調査、北九州地域に興味と関心がある方に、学部を問わずに参加していただきたいと思っています。本年度は、平成23年度開講予定の「北九州の政治行政」、平成24年度開講予定の「北九州の経済」をテーマに講義計画を策定します。

教科書 /Textbooks

使用しません。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示しますが、内容に応じて積極的に情報検索を試みてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 情報収集・調査
- 3回 情報収集・調査
- 4回 報告・検討・討論
- 5回 情報収集・調査
- 6回 情報収集・調査
- 7回 報告・検討・討論
- 8回 情報収集・調査
- 9回 情報収集・調査
- 10回 報告・検討・討論
- 11回 情報収集・調査
- 12回 情報収集・調査
- 13回 報告・検討・討論
- 14回 報告・検討・討論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの積極的参加度... 20% 活動内容... 20% 活動報告レポート... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要に応じて現地調査や見学、関係者へのインタビューも実施していただきます。情報収集も自ら進んで行うよう心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

* 教養基礎演習IIもあわせて履修してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。この演習の履修希望者は、必ず、同じく1学期に開かれている「教養基礎演習II」とセットで受講すること。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官(陸海空、尉官・佐官クラス)をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。また、2回のバスハイクを予定しており、海上自衛隊佐世保基地での護衛艦体験搭乗、航空自衛隊築城基地の見学などを行う(予定)。

教科書 /Textbooks

『防衛白書』

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。ただし、1~2回は高級幹部(1佐・将補の司令クラス)を招聘し、講演会に充てたい。また、上述の通り、2回はバスハイクの予定。そして1回は、隣にある陸上自衛隊小倉駐屯地の見学を行う。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度...50% レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。ただし、戸蒔の「教養基礎演習II」とセットで受講できる者が望ましい。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄（とくに人文的な教養）に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、これから大学生として学んでゆくにあたって最低限必要と思われる基礎的な能力を身につけることが、本演習の目的である。
今年度より、思想史上の古典的な基本文献を一冊セレクトし、それを全員で読み進めていく。1学期はフロイトの素晴らしい宗教論「幻想の未来」を読む。

教科書 /Textbooks

フロイト『幻想の未来 / 文化への不満』（中山元訳）光文社古典新訳文庫、2007年、760円。
（※翻訳は他にも数種あるが、本演習ではこのテキストを使用するので、必ず各自で用意しておくこと。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 小此木啓吾『フロイト』講談社
- 小此木啓吾『フロイト思想のキーワード』講談社
- テリー・イーグルトン『宗教とは何か』（大橋洋一・小林久美子訳）青土社
- ダニエル・C・テネット『解明される宗教——進化論的アプローチ』（阿部文彦訳）青土社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンスI (演習でのルール、成績評価法の説明)
- 2回 ガイダンスII (対象となるテキスト、著者の紹介)
- 3回 読解と議論I
- 4回 読解と議論II
- 5回 読解と議論III
- 6回 読解と議論IV
- 7回 読解と議論V
- 8回 読解と議論VI
- 9回 読解と議論VII
- 10回 読解と議論VIII
- 11回 読解と議論IX
- 12回 読解と議論X
- 13回 復習と補助学習I
- 14回 復習と補助学習II
- 15回 全体の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況 (予習・議論・発言の積極性) ...50% 課題 (議事録作成) ...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本演習への参加を希望する者は、第三回か第四回の授業までに各自で上記のテキストを購入しておく必要がある (税込760円) 。
授業前の準備事項として、訳者の中山元氏による「解説文」および「フロイト年譜」(テキスト377~436頁) を読み込んでくること。

履修上の注意 /Remarks

参加者全員ができるだけ多くの発言・課題作成の機会を得られるよう、受講者の最大人数は15人までとする。それを越える場合は受講者数調整をかける。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では毎回の「予習」(指定ページの読解、分からない単語の調査) と「復習」(授業議事録の作成) が必須となります。また、この演習は2年生以上の学生も参加する合同演習です。予習・復習に十分な時間をかけることができない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

このクラスのテーマは、「バレーボールを科学する！基礎編」です。
このクラスでは、大学生の武器である「頭（頭脳）」を使って「バレーボール」と真正面から向き合うための基礎知識・技術を習得してもらおうと思っています。バレーボールで試合に勝つためには、連続失点を少なくすること、連続得点を多くすることを考えたチーム作りが必要になりますが、今回、ここでは「連続得点をとる」をキーワードに、基本的な戦術の理解とともに映像等を基にしたデータ分析の基礎的な手法を学んでいきます。
このプロセスを通じ、①情報を収集する力、②データを分析する力、③問題（ポイント）を発見する力、④自分の考えを人に伝達する力、⑤考えを異にする人と討論し、説得する力を、みなさんには身につけ、高めていってほしいと思います。
座学と調査・実習を組み合わせ実施します。

教科書 /Textbooks

テキスト等はありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書等は、初回の授業時に、紹介します。
授業の理解に必要な資料等は、適宜、配布します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス,バレーボールとアナリストの役割
- 第2回 スキルチェック

【連続得点をとるための分析軸I：サービス⇒レセプション（サービスによって先手を取る）】

- 第3回 戦術理解I：レセプションフォーメーション&サービス
- 第4回 ゲーム映像からの分析I①：フォーメーションのチェック
- 第5回 ゲーム映像からの分析I②：ローテーションごとに結果を整理（レセプションの評価）
- 第6回 分析結果の発表I：サービスの狙い目はどこか

【連続得点をとるための分析軸II：レセプション⇒アタック（相手チームの攻撃パターンを知る）】

- 第7回 戦術理解II：アタックフォーメーション
- 第8回 ゲーム映像からの分析II①：レセプション⇒攻撃（軌跡化）
- 第9回 ゲーム映像からの分析II②：レセプション⇒攻撃（選手ごとの特徴）
- 第10回 分析結果の発表II：どのような特徴がレセプションからの攻撃に見られるか

【連続得点をとるための分析軸III：ディグ⇒アタック（拾って攻撃につなげる）】

- 第11回 戦術理解III A：ブロックシステム，フロアディフェンスフォーメーション
- 第12回 ケーススタディIII A：チーム事情に応じたシステムを考えよう
- 第13回 戦術理解III B：アタック&ブロックフォローフォーメーション
- 第14回 ケーススタディIII B：高さを理解した攻撃を考えよう（2つの最高到達点の比較から）

第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加の程度をもとに総合的に評価します。具体的には、出席状況、報告・課題などへの取り組み状況、授業態度、貢献度（積極的な発言など）を基準として評価することになります。
ゼミへの参加...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

サブゼミなどのため、正規の授業時間外にも時間を取ってもらうことになります。
受講申請にあたってはこの点に注意してください。

教養基礎演習I【昼】

履修上の注意 /Remarks

10人程度を予定（最大で12人まで）しています。受講希望者が多い場合は、初回の授業時に選考を行います。したがって受講希望者は、最初の授業には必ず出席するようにしてください。
原則としてIとIIはセットで受講してください。
欠席や遅刻は、ゼミの運営に支障をきたし、グループでの作業に深刻な影響を与えることになります。参加状況が悪い場合には、その後のゼミ受講を認めませんので、注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

バレーボールが真に好きな人、得られた知見を、現在、そして将来にわたって、活かしてくれる人を募集します。
あなたの『バレーボール力』を伸ばしてみませんか。

キーワード /Keywords

【アナリスト】【レセプション】【ディグ】【トランジッション】【記号化：技術・エリア】【評価】【データ分析】

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初めてあった人や普段話したことがない人の中にいたり、自分自身を人に理解してもらうためにはどうしたらいいのが困ったことなどはありませんか。そんな中、身体活動を通して、知らない人同士で自然に打ち解け、楽しみを感じたことはありませんでしたか。身体活動は、健康体力の増進のみならず、コミュニケーションづくりにも有効な方法なのです。本演習では、身体活動やグループワークを通して、どうしたら、コミュニケーション能力(人間関係力)を高めることができるかを焦点に考えていきたいと思ひます。
また、学内と離れた場所での野外活動(キャンプ実習)を通して、他人と協調し、新たな自己発見や、自己開示能力についても養っていききたいと思ひます。

教科書 /Textbooks

適宜資料配付

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 自己紹介と他己紹介
- 3回 人間関係力とは
- 4回 人間関係力演習(1)簡単なゲームを通して
- 5回 人間関係力演習(2)簡単なゲームを通して
- 6回 人間関係力演習(3)身体活動を通して
- 7回 人間関係力演習(4)身体活動を通して
- 8回 人間関係力演習(5)身体活動を通して
- 9回 人間関係力演習(6)身体活動を通して
- 10回 人間関係力演習(7)身体活動を通して
- 11回 野外活動とは?
- 12回 キャンプ実習についての講義(1)
- 13回 キャンプ実習についての講義(2)
- 14回 キャンプ実習についての講義(3)
- 15回 キャンプ実習のふり返り

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

実習については、別途参加費がかかります(約4000円)。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、実践に際してのマナーやP D C Aサイクルの基本を身につけることを目的とする。特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回～4回：事前学習
- 第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。
- 第11回・12回：活動報告
- 第13回・14回：振り返り学習
- 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- 演習における議論への参加度50%
- 活動への参加度50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

関連活動に関する文献学習。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。DNAとは何か？ 遺伝子とは何をしているものなのか？ 本演習では「DNA・遺伝子・生命」を主たるテーマとし、関連図書・DVDを用いて学習するほか、簡単な実験・実習を体験することによって、これらに関する基本的知識と興味を身につける。さらに関連した科学記事やニュースを読み取る力・自ら考える力を身につけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「アメリカ版大学生物学の教科書・第2巻」D・サダヴァ他著、ブルーバックス、2010年
- 「文系のための生命科学」東京大学生命科学教材書籍編集委員会編、2008年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の説明【細胞】【遺伝】【染色体】
- 3回 基本的事項の説明【DNA】【RNA】【タンパク質】
- 4回 基本的事項の説明【遺伝子】【ゲノム】
- 5回 実験と実習【DNAの構造】
- 6回 実験と実習【DNAの抽出】
- 7回 科学記事よりトピックを選んで解説(1)
- 8回 科学記事よりトピックを選んで解説(2)
- 9回 科学記事よりトピックを選んで解説(3)
- 10回 科学記事よりトピックを選んで解説(4)
- 11回 科学記事よりトピックを選んで解説(5)
- 12回 関連映画作品等鑑賞(1)
- 13回 関連映画作品等鑑賞(2)
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・80%、課題・・・20%
 (毎回カードを配布する。授業中の発表のほかに、カードに記入したコメント・質問を重視する。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本政治外交史に関するゼミ・レポートを書いてもらう(400字×10枚以上)。受講者数にもよるが、毎回学生諸君に自分の研究テーマについて報告してもらい、それについての議論を深めていく。なお、そのための準備として、第2~7回の演習では近代文書の解読も練習する。

教科書 /Textbooks

コピーして配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山内志朗『ぎりぎり合格への論文マニュアル』(平凡社新書、2001年、700円)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 演習運営方針に関する話し合い。
- 2~7回 各自の研究報告と近代文書の解読の練習。
- 8~14回 各自の研究報告。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50% 課題...50%
無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。
なお、ゼミ・レポート未提出は「D」評価となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

演習が始める前に大学図書館を見学しておいて下さい。
明治時代に書かれた小説(森鷗外など)を読んで下さい。とにかく、旧字体・旧かな遣いに慣れること。

履修上の注意 /Remarks

小林担当の「教養基礎演習I」とセットで履修することを希望します。
この演習は2年生、3年生との合同演習です。
受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

考えを深める訓練： 教養基礎演習Iの続きとして、一つのテーマについて考えを深める訓練を行う。具体的には、教養基礎演習Iのレポートをもとに、より関心の近い受講者同士のグループワークやディスカッションを通して、各自のテーマをより掘り下げることを試みる。その成果を活かし、学期末にはIのレポートをブラッシュアップすることを目指す。この演習を通して、ひとつのテーマについてじっくり取り組むという、研究の基礎的な姿勢を身につけることを目的とする。

教科書 /Textbooks

教養基礎演習Iのレポート提出者の興味関心にあわせて第1回目の演習で指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○佐藤望ほか(編) 2006 『アカデミック・スキルズ』慶應大学出版会
 専修大学出版企画委員会(編) 2009 『知のツールボックス』専修大学出版会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：研究の入り口としての考えるを深める作業
 第2・3回 考えと深めるにはどうしたらいいか？：教養基礎演習Iのレポートの講評
 第4・5回 グループワークの説明/視点を広げるためのミニ・ワークショップの企画
 第6・7・8回
 ミニ・ワークショップの実行(グループワーク)
 第9・10・11回
 テキスト輪読と議論
 第12・13・14回
 レポート構想報告
 第15回 文章を推敲する：レポート相互添削

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50%、授業貢献(報告内容、演習中の発言など)50%
 レポートについては教養基礎演習Iのレポートからの発展性を評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

グループワークでは、場合によっては授業時間以外もメンバーとの打ち合わせが必要になることがあります。

履修上の注意 /Remarks

原則として教養基礎演習Iを受講した者を対象とするが、教養基礎演習IIのみ受講したい者は、必ず事前に相談すること(受講のためのレポート課す場合がある)。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

共同作業を通して、自分の能力を最大限引き延ばすことは、大学を出てからも必要です。積極的な授業参加を期待します。

キーワード /Keywords

グループワーク、多角的視野、レポートの書き方

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 /Credits 単位 2単位 /Semester 学期 2学期 /Class Format 授業形態 演習 /Class クラス 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

学生としての心構えや厳しい社会へ踏み出す前段階としての「人間力」・「社会力」などのスキルの獲得が非常に重要なことと考える。そこで本演習では、共同生活を伴った野外活動体験や冒険教育の理論をもとに構築されたレクリエーション活動などによる人間関係トレーニングを行う。その中で、自己を見つめ直し、他人への配慮やコミュニケーション能力などの強化を目指す。本演習においては、演習Iを踏まえ、自然克服型である「スキー」を実施する。「スキー」等において学内では経験できないスポーツ活動を体験し、さらに集団スポーツで求められるチームワークやコミュニケーション能力の強化を目指します。キャンプ実習同様実習の参加ができないときは単位の認定ができない場合がありますので注意してください。実習は実費です。

教科書 /Textbooks

必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自分自身を理解すること
- 2回 自分自身を人に理解させること
- 3回 人を理解すること
- 4回 集団で克服していくトレーニング
- 5回 ビデオによるスキー技術の習得 (1)
- 6回 ブルークターン (2)
- 7回 パラレルターン (3)
- 8回 ウデルン (4)
- 9回 学生自身によるスキー計画 (1) 場所
- 10回 学生自身によるスキー計画 (2) 期間
- 11回 学生自身によるスキー計画 (3) 金額
- 12回 学生自身によるスキー計画 (4) グループ分け
- 13回 スキープログラムの作成 (1)
- 14回 スキープログラムの作成 (2)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

受講態度 ... 70% レポート ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。
スキー実習は別途実習費が必要です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、1年を通して、各自が自分の関心に従って、社会学的な視点・方法によって論文・レポートを書くことをめざす。したがって原則として「教養基礎演習I」「教養基礎演習II」の通年（1学期・2学期）受講を義務づける。

II（2学期）では、まず、教養基礎演習Iで各自がたてた「問い」について「論文執筆計画書」を書く。さらに、その「計画書」中の「文献リスト」をもとに、各回2名ずつ、関連文献について内容報告（テキスト批評）をしてもらい、議論を行う。なお、1～2ヶ月に1度くらいの割合で、論文について進捗状況の報告会を行う。

Iと同様、報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、受講者の最大数は10人とする（それを越える場合、受講者数調整をかける）。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「論文執筆計画書」の報告
- 第2回 テキスト批評と議論
- 第3回 テキスト批評と議論
- 第4回 テキスト批評と議論
- 第5回 テキスト批評と議論
- 第6回 レポート検討会（4）
- 第7回 テキスト批評と議論
- 第8回 テキスト批評と議論
- 第9回 テキスト批評と議論
- 第10回 テキスト批評と議論
- 第11回 レポート検討会（5）
- 第12回 テキスト批評と議論
- 第13回 テキスト批評と議論
- 第14回 レポート検討会（6）
- 第15回 レポート報告会

成績評価の方法 /Assessment Method

参加度・貢献度...20% 課題（レポート）...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

レポート検討会の際には「研究計画書」を準備すること（様式等は授業中に指示する）。
報告者は、（1）文献概要、（2）内容要約、（3）論点整理、（4）議論を記したレジюмеを準備すること。
報告者以外の者は（当然のことながら）事前に文献を読み、コメントを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

北九州の発見学として平成19年度から開講している「北九州学」。この科目の講義内容、講義計画を教員と学生により共同企画するゼミです。講義内容に関わる情報の収集・調査、北九州地域に興味と関心がある方に、学部を問わずに参加していただきたいと思っています。平成24年度開講予定の「北九州の経済」をテーマに講義計画を策定します。

教科書 /Textbooks

使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示しますが、積極的に情報検索を試みてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 情報収集・調査
- 3回 情報収集・調査
- 4回 報告・検討・討論
- 5回 情報収集・調査
- 6回 情報収集・調査
- 7回 報告・検討・討論
- 8回 情報収集・調査
- 9回 情報収集・調査
- 10回 報告・検討・討論
- 11回 情報収集・調査
- 12回 情報収集・調査
- 13回 報告・検討・討論
- 14回 報告・検討・討論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの積極的参加度... 20% 活動内容... 20% 活動報告レポート... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要に応じて現地調査や見学、関係者へのインタビューも実施していただきます。情報収集も自ら進んで行うよう心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

* 教養基礎演習Iもあわせて履修してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。この演習の履修希望者は、必ず、同じく1学期に開かれている「教養基礎演習I」とセットで受講すること。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。

この授業では、実際に自衛官を招聘する「教養基礎演習I」を補完するために、戸蒔が『防衛白書』等を用いて各ポイントの解説をする。防衛問題についてほとんど知識がない者から、多少の知識のある者までを想定し、わかりやすく解説する。

教科書 /Textbooks

『防衛白書』(必ず購入)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 この授業は、各回の「教養基礎演習I」の内容に備えるための事前勉強という側面が強いので、「教養基礎演習I」のスケジュールと連動している。現段階で「教養基礎演習I」のゲストが調整中であるため、ここにスケジュールの詳細を明記することはできない。当面の予定は、概説、『防衛白書』『防衛計画の大綱』などの解説、ビデオ観賞などである。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。ただし、戸蒔の「教養基礎演習I」とセットで受講できる者が望ましい。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄（とくに人文的な教養）に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、これから大学生として学んでゆくにあたって最低限必要と思われる基礎的な能力を身につけることが、本演習の目的である。
今年度より、思想史上の古典的な基本文献を一冊セレクトし、それを全員で読み進めていく。2学期はフロイトによる挑発的な文化論「文化への不満」を読む。

教科書 /Textbooks

フロイト『幻想の未来 / 文化への不満』（中山元訳）光文社古典新訳文庫、2007年、760円。
（※翻訳は他にも数種あるが、本演習ではこのテキストを使用するので、必ず各自で用意しておくこと。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 小此木啓吾『フロイト』講談社
- 小此木啓吾『フロイト思想のキーワード』講談社
- 『フロイト著作集3』人文書院
- 『フロイト全集17(1919-22年)』岩波書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 1学期の復習と内容確認
- 3回 読解と議論I
- 4回 読解と議論II
- 5回 読解と議論III
- 6回 読解と議論IV
- 7回 読解と議論V
- 8回 読解と議論VI
- 9回 読解と議論VII
- 10回 読解と議論VIII
- 11回 読解と議論IX
- 12回 読解と議論X
- 13回 復習と補助学習I
- 14回 復習と補助学習II
- 15回 全体の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況（予習・議論・発言の積極性）...50% 課題（議事録作成）...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本演習への参加を希望する者は、初回の授業までに各自で上記のテキストを購入しておく必要がある（税込760円）。
本演習は1学期からの続きである。授業前の準備事項として、1学期に読了した「幻想の未来」をきちんと読み直しておくことが全員に求められる。

履修上の注意 /Remarks

参加者全員ができるだけ多くの発言・課題作成の機会を得られるよう、受講者の最大人数は15人までとする。それを越える場合は受講者数調整をかける。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では毎回の「予習」（指定ページの読解、分からない単語の調査）と「復習」（授業議事録の作成）が必須となります。また、この演習は2年生以上の学生も参加する合同演習です。予習・復習に十分な時間をかけることができない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

このクラスのテーマは、「バレーボールを科学する！応用編」です。
このクラスでは、Iで習得した「バレーボール」と真正面から向き合うための基礎知識・技術を駆使し、実際のゲームを分析していくことで、応用力の涵養を目指します。分析対象としては、FIVB World Cup 2011の全日本の試合を題材とすることを予定しています。試合の流れを正しく掴み、チームの特徴やゲームの勝因・敗因の分析、攻略策だけでなく今後の課題（チーム・個人の強化策）の検討などを通じ、戦術理解も含めたバレーボールを科学する力をさらに高めていてもらいたいと思っています。
またこのプロセスを通じ、①情報を収集する力、②データを分析する力、③問題（ポイント）を発見する力、④自分の考えを人に伝達する力、⑤考えを異にする人と討論し、説得する力、⑥問題解決のための構想を練る力、⑦プレゼン能力、⑧質疑応答力を、みなさんには身につけ、高めていてほしいと思っています。
座学と調査・実習を組み合わせ実施します。

教科書 /Textbooks

テキスト等はありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書等は、初回の授業時に、紹介します。
授業の理解に必要な資料等は、適宜、配布します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス
- 第2回 FIVB World Cup 2011【分析対象チーム・試合の選定：グループ分け】
- 第3回 事例①『FIVB World Grand Prix 2010 JPN-NED』【ゲーム観賞】
- 第4回 事例②『FIVB World Grand Prix 2010 JPN-NED』【プレゼンの例】
- 第5回 ゲーム分析の基礎①：映像の収集と利用
- 第6回 ゲーム分析の基礎②：公式記録の探し方とその見方
- 第7回 ゲーム分析の基礎③：戦評等の集め方とその活用方法
- 第8回 グループ作業①：映像に基づくゲーム分析
- 第9回 グループ作業②：抽出したデータ等を基にした攻略策・強化策の検討
- 第10回 グループ作業③：プレゼン内容の最終確認
- 第11回 グループ・プレゼンテーションとフロア・ディスカッション①
- 第12回 グループ・プレゼンテーションとフロア・ディスカッション②
- 第13回 グループ・プレゼンテーションとフロア・ディスカッション③
- 第14回 グループ・プレゼンテーションとフロア・ディスカッション④
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加の程度をもとに総合的に評価します。具体的には、出席状況、報告・課題などへの取り組み状況、授業態度、貢献度（積極的な発言など）を基準として評価することになります。
ゼミへの参加...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

サブゼミなどのため、正規の授業時間外にも時間を取ってもらうことになります。
受講申請にあたってはこの点に注意してください。

履修上の注意 /Remarks

10人程度（最大で12人まで）を予定しています。
IとIIはセットで受講してもらうことを原則とします。
欠席や遅刻は、ゼミの運営に支障をきたし、グループでの作業に深刻な影響を与えることになります。参加状況が悪い場合には、その後のゼミ受講を認めませんので、注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

バレーボールが真に好きな人、得られた知見を、現在、そして将来にわたって、活かしてくれる人を募集します。
あなたの『バレーボール力』をさらに伸ばしてみませんか。

教養基礎演習II 【昼】

キーワード /Keywords

【ゲーム分析】 【FIVB】 【World Cup 2011】 【全日本】 【公式記録】 【攻略策】 【強化策】

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

自分自身を人に理解してもらうためにはどうしたらいいでしょうか。初めてあった人や普段話したことがない人の良いところを見つけるためにはどうしたらよいかを見つける術について考えていきます。本演習では、身体活動を通して、自分自身を理解する能力、そして人に自分を理解させる能力を身につけることを主眼にしています。

また、学内と離れた場所での野外活動（スキー実習）を通して、他人と協調し、新たな自己発見や、自己開示能力についても養っていききたいと思います。

教科書 /Textbooks

適宜資料配付

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 自分自身を理解するためには (1)
- 3回 自分自身を理解するためには (2)
- 4回 自分自身を人に理解させるためには (1)
- 5回 自分自身を人に理解させるためには (2)
- 6回 身体活動を用いた自己表現 (1)
- 7回 身体活動を用いた自己表現 (2)
- 8回 身体活動を用いた自己表現 (3)
- 9回 身体活動を用いた自己表現 (4)
- 10回 身体活動を用いた自己表現 (5)
- 11回 身体活動を用いた自己表現 (6)
- 12回 スキー実習についての講義 (1)
- 13回 スキー実習についての講義 (2)
- 14回 スキー実習についての講義 (3)
- 15回 スキー実習のふり返り

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

スキー実習については、別途参加費がかかります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、活動に際してのマナーやPDCAサイクルの基本を身につけることを目的とする。特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～4回：事前学習
 第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。
 第11回・12回：活動報告
 第13回・14回：振り返り学習
 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習における議論への参加度50%
 活動への参加度50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

関連活動に関する文献学習。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター, 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、株式会社スターフライヤーの協力を得て開講します。将来、社会人として求められる能力、特に対人接点を必要とする仕事に必要なコミュニケーション能力やホスピタリティについて学びます。航空業界、百貨店・小売業界、ホテル業界、ブライダル業界等をを目指す学生にとって役に立つ講義です。

この講義を開講する理由は大きく三つあります。一点目は、昨今の企業が求める人材要件として、コミュニケーション能力が重視されていることです。単に同質な人との接点ではなく、多様な方々と円滑なコミュニケーションが取れることが求められています。二点目は、コミュニケーションやホスピタリティに関するスキル獲得だけでなく、それらを発揮するための素養を育む必要性があるからです。三点目は、上にあげた業界に就職したいと考えている学生にとってのチャンスを拡大するためです。

このような理由から、常に最高の接客コミュニケーションが求められるキャビンアテンダント教育の要素を取り入れたいと考え、株式会社スターフライヤーに協力をいただきます。日々業務を行っている実務家の講義は、現場に即した実践的な学びを学生の皆さんに提供します。

教科書 /Textbooks

授業開始時に説明します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業開始時に説明します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 コミュニケーションとは？(1)【エアラインでの実例をもとに考察する】
- 3回 コミュニケーションとは？(2)【エアライン等、対人職において求められる人物像の考察】
- 4回 コミュニケーションとは？(3)【コミュニケーションスキル他】
- 5回 コミュニケーションとは？(4)
- 6回 マナーとホスピタリティ(1)【ホスピタリティの意味～今なぜホスピタリティなのか？】
- 7回 マナーとホスピタリティ(2)【ホスピタリティマインドとアクション】
- 8回 マナーとホスピタリティ(3)【ホスピタリティ溢れるポジティブマナーとは】
- 9回 マナーとホスピタリティ(4)
- 10回 コミュニケーション&マナー実践(5)【対人職に求められるコミュニケーションスキル実践】
- 11回 コミュニケーション&マナー実践(6)
- 12回 コミュニケーション&マナー実践(7)【サービス適正確認 実践(ロールプレー)】
- 13回 コミュニケーション&マナー実践(8)【苦情/クレームについて考える】
- 14回 コミュニケーション&マナー実践(9)【面接におけるマナー】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50% レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

指定回スーツを着用しての受講となります。

履修上の注意 /Remarks

クラス定員を30名程度としますので、履修希望者多数の場合は抽選とします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

主として客室乗務員研修(ホスピタリティ/サービス実践等)を軸に対人職に求められるパーソナリティや接客スキルを学び磨いていく講義です。
「生」、「現場」の情報をお届けしますので、客室乗務員やグランドスタッフ、ホテルコンシェルジュ等高い接客スキルが求められる職業を将来希望される学生にぜひ受講して頂きたいと思います。

キーワード /Keywords

コミュニケーション、ホスピタリティ、エアライン、ブライダル、ホテル

教養演習 AI 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。DNAとは何か？ 遺伝子とは何をしているものなのか？ 本演習では「DNA・遺伝子・生命」を主たるテーマとし、関連図書・DVDを用いて学習するほか、簡単な実験・実習を体験することによって、これらに関する基本的知識と興味を身につける。さらに関連した科学記事やニュースを読み取る力・自ら考える力を身につけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「アメリカ版大学生物学の教科書・第2巻」D. サダヴァ他著、ブルーバックス、2010年
- 「文系のための生命科学」東京大学生命科学教材書籍編集委員会編、2008年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の説明【細胞】【遺伝】【染色体】
- 3回 基本的事項の説明【DNA】【RNA】【タンパク質】
- 4回 基本的事項の説明【遺伝子】【ゲノム】
- 5回 実験と実習【DNA鑑定実験1】
- 6回 実験と実習【DNA鑑定実験2】
- 7回 実験と実習【DNA鑑定実験3】
- 8回 科学記事よりトピックを選んで解説(1)
- 9回 科学記事よりトピックを選んで解説(2)
- 10回 科学記事よりトピックを選んで解説(3)
- 11回 科学記事よりトピックを選んで解説(4)
- 12回 関連映画作品等鑑賞(1)
- 13回 関連映画作品等鑑賞(2)
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・80%、課題・・・20%
 (毎回カードを配布する。授業中の発表のほかに、カードに記入したコメント・質問を重視する。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

文献読解能力を訓練し、レジюме（梗概）の作り方、報告の仕方などを実地に学んでいく。あわせて、日本の歴史に対する理解を深め、国際化時代に相応しい教養を涵養する一助としたい。

毎回、全履修生から「レジюме」（梗概）を提出してもらい、次週までに添削して返却します。「レジюме」とは、わかりやすく言うと、この場合には本の内容の要約です。この演習の目的は、レジюмеを作成することを通じて、専門的な文献を読む基礎になる読解力、内容を要約してまとめる力、プレゼンテーション能力などを涵養することにあります。受講者数にもよりますが、毎回1～5名程度の受講生に報告してもらいます。したがって、受講者が少ない場合には毎回報告してもらうことになります。意欲的な学生は大歓迎です。15回の演習で、一冊完読します。

教科書 /Textbooks

瀧井一博『伊藤博文 - 知の政治家』（中公新書、2010年）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション。
- 2～14回 文献の輪読。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50% 報告・レジюмеの内容...50%
 無断欠席やレジюмеの未提出は、それぞれたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎週必ず、テキストの該当ページを読んで、レジюмеを作ってもらいます。

履修上の注意 /Remarks

小林担当の「教養演習 AI II」とセットで履修することを希望します。
 この演習は1年生、3年生との合同演習です。
 受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 /Instructor 中原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会へのアプローチ法を考える①：本演習では、質的調査から何を知ることができるのか、その可能性を考えたい。漠然と卒業論文で（インタビュー調査、参与観察などの）質的調査をとりいれてみたいと考えている学生は多いと思うが、はたしてその興味関心にアプローチするのに質的調査は適切だろうか。本演習では、社会調査法のみを学ぶのではなく、その前段階として質的調査を研究にどのように活かすかから学ぶことを目的とする。

教科書 /Textbooks

佐藤郁哉 2006 『フィールドワーク 増訂版：書を持って街へ出よう』 新曜社
 ※このほか、受講者の関心に合わせて民族誌を2冊程度読む。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○佐藤郁哉 2002 『フィールドワークの技法：問いを育てる、仮説をきたえる』 新曜社
 ※そのほか必要に応じて演習中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：本演習の目的
 第2回 質的調査についての基本的説明
 第3・4・5・6・7・8回 民族誌を2冊程度輪読し、質的調査の特性について議論する。
 （第1回の出席者の関心に応じて読む民族誌を選択する。候補としては、佐藤郁哉『暴走族のエスノグラフィー』、ジェニファー・ロバートソン『踊る帝国主義』、工藤正子『越境の人類学』など）
 第9・10・11回 これまで読んだ民族誌が記述される裏側を考察する。
 テキスト：佐藤郁哉『フィールドワーク 増訂版：書を持って街へ出よう』
 第12・13・14回 実習：記憶を語ること、記録されること
 （インタビュー調査、参与観察の手法からわかることとその限界を考察する。）
 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の報告25%、期末レポート50%、その他の提出物25%
 第12・13・14回の実習欠席者は単位を出さないで注意すること。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

演習参加者には、輪読のテキストについて各自で読書ノートを取ることが求められる。具体的な説明は第1回で行う。

履修上の注意 /Remarks

実習の成果を教養演習AIIでフィードバックするので、教養演習AIIも続けて受講することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 受講する段階で明確な研究関心を持っている必要は特にありませんが、演習を通して研究関心を見つけようとする意志は持ってください。
- ・ グループワークを取り入れるので、受講者同士が積極的に協力関係をつくることを期待します。

キーワード /Keywords

質的調査、民族誌

教養演習 AI (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。この演習の履修希望者は、必ず、同じく1学期に開かれている「教養演習AII」とセットで受講すること。
 この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官(陸海空、尉官・佐官クラス)をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。また、2回のバスハイクを予定しており、海上自衛隊佐世保基地での護衛艦体験搭乗、航空自衛隊築城基地の見学などを行う(予定)。

教科書 /Textbooks

『防衛白書』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。ただし、1~2回は高級幹部(1佐・将補の司令クラス)を招聘し、講演会に充てたい。また、上述の通り、2回はバスハイクの予定。そして1回は、隣にある陸上自衛隊小倉駐屯地の見学を行う。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度50%、レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。ただし、戸蒔の「教養演習AII」とセットで受講できる者が望ましい。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、1年を通して、各自が自分の関心に従って、社会学的な視点・方法によって論文・レポート（8000字程度）を書くことをめざす。したがって原則として「教養演習AI」「教養演習AII」の通年受講（1・2学期受講）を義務づける。

1学期は、まず、以下のことを身につけることを目指す。

- (1) 社会学的なもの見方・考え方
- (2) 文献資料の調べ方
- (3) レポート・論文の書き方

さらに、社会学的な調査を用いた基礎的な文献を報告してもらう。

同時並行的に、自らが書く論文・レポートについても準備をすすめる。まず、各自が「テーマ」と「問い」をたてる。その上で、自らのたてた「問い」について関連する文献のリストを作成する。

報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、原則として受講者の最大数は10人とする（それを越える場合、受講者数調整をかけることがある）。

教科書 /Textbooks

- 『知的複眼思考法』、刈谷剛彦、講談社+α文庫、2002
- 『「二ート」って言うな』、本田由紀・内藤朝雄・後藤和智、光文社新書、2006

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『レポート・論文の書き方入門』河野哲也、慶応義塾大学出版会
- 『自分で調べる技術 - 市民のための調査入門』、宮内泰介、岩波アクティブ新書
- その他、講義の中で、その都度、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業内容の紹介
- 第2回 社会学的なもの見方・考え方(1) - 『知的複眼思考法』
- 第3回 社会学的なもの見方・考え方(2) - 『知的複眼思考法』
- 第4回 社会学的なもの見方・考え方(3) - 『知的複眼思考法』
- 第5回 第1回レポート検討会
- 第6回 論文・レポートの書き方
- 第7回 情報収集の仕方(1)
- 第8回 情報収集の仕方(2)
- 第9回 第2回レポート検討会
- 第10回 分析実例(1) - 『「二ート」って言うな』第1部
- 第11回 分析実例(2) - 『「二ート」って言うな』第2部
- 第12回 分析実例(3) - 『「二ート」って言うな』第3部
- 第13回 調査倫理について
- 第14回 第3回レポート検討会
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

参加度・貢献度...40% 課題...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- レポート検討会の際には「研究計画書」を準備すること（様式等は授業中に指示する）。
- 報告者は、(1)文献概要、(2)内容要約、(3)論点整理、(4)議論を記したレジユメを準備すること。
- 報告者以外の者は（当然のことながら）事前に文献を読み、コメントを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

教養演習 AI 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

すべての「大学生」として欠かすことのできない人文的教養の育成を目的として、古典的な基本文献を一冊セレクトし、それを全員で読み進めていく。1学期は、フロイトの素晴らしい宗教論「幻想の未来」を読む。この演習を通して、人生全般に対する甘い幻想を捨て去り、多少ともシニカルで批判的な大人の思考力を身につけることができるようになれば、それで目的を達成したことになる。

教科書 /Textbooks

フロイト『幻想の未来 / 文化への不満』（中山元訳）光文社古典新訳文庫、2007年、760円。
（※翻訳は他にも数種あるが、本演習ではこのテキストを使用するので、必ず各自で用意しておくこと。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 小此木啓吾『フロイト』講談社
- 小此木啓吾『フロイト思想のキーワード』講談社
- テリー・イーグルトン『宗教とは何か』（大橋洋一・小林久美子訳）青土社
- ダニエル・C・デネット『解明される宗教——進化論的アプローチ』（阿部文彦訳）青土社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンスI (演習でのルール、成績評価法の説明)
- 2回 ガイダンスII (対象となるテキスト、著者の紹介)
- 3回 読解と議論I
- 4回 読解と議論II
- 5回 読解と議論III
- 6回 読解と議論IV
- 7回 読解と議論V
- 8回 読解と議論VI
- 9回 読解と議論VII
- 10回 読解と議論VIII
- 11回 読解と議論IX
- 12回 読解と議論X
- 13回 復習と補助学習I
- 14回 復習と補助学習II
- 15回 全体の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況 (予習・議論・発言の積極性) ...50% 課題 (議事録作成) ...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本演習への参加を希望する者は、第三回か第四回の授業までに各自で上記のテキストを購入しておく必要がある (税込760円) 。授業前の準備事項として、訳者の中山元氏による「解説文」および「フロイト年譜」(テキスト377~436頁) を読み込んでくること。

履修上の注意 /Remarks

参加者全員ができるだけ多くの発言・課題作成の機会を得られるよう、受講者の最大人数は15人までとする。それを越える場合は受講者数調整をかける。
同担当者による授業科目「思想と現代」を履修済みであり、なおかつその試験で「B」以上の成績を収めている学生は優先的に配慮する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では毎回の「予習」(指定ページの読解、分からない単語の調査) と「復習」(授業議事録の作成) が必須となります。予習・復習に十分な時間をかけることができない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、実践的な企画力・運営力を養うことを目的とする。
 特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～4回：事前学習・企画
 第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。
 第11回・12回：活動報告
 第13回・14回：振り返り学習
 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習における議論への参加度50%
 活動への参加度50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

関連活動に関する文献学習。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター, 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習では、身体活動を通して、初めてあった人や知らない人同士でどうしてもしたら自然に打ち解け、お互いに楽しみを共有できるかについて主眼をおく。そこで、学内での実習や学外での実習（キャンプ実習や地域の中高齢者を対象とした運動プログラム）を通して、教示の仕方や振る舞い方などでどのように楽しみを共有できるかについて考えていきたい。
 また、キャンプ実習（教養基礎演習I）のリーダーとして関わりながら、他人と協調し、新たな自己発見や、自己開示能力についても養ってきたい。

教科書 /Textbooks

適宜資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回ガイダンス
- 2 回リーダーとリーダーシップ
- 3 回安全性と有効性
- 4 回キャンプ実習の計画（1）リーダーとしての関わり
- 5 回キャンプ実習の計画（2）安全性と有効性
- 6 回キャンプ実習の計画（3）プログラム作成
- 7 回キャンプ実習の実施
- 8 回キャンプ実習の評価
- 9 回中高齢者にあった身体活動プログラムの計画（1）安全性と有効性
- 10 回中高齢者にあった身体活動プログラムの計画（2）プログラム作成
- 11 回中高齢者にあった身体活動プログラムの計画（3）プログラム作成
- 12 回中高齢者にあった身体活動プログラムの実施（1）
- 13 回中高齢者にあった身体活動プログラムの実施（2）
- 14 回中高齢者にあった身体活動プログラムの評価
- 15 回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

身体活動を伴うので、運動のできる服装とシューズを準備すること。
 キャンプ実習については、別途参加費がかかります。（約4000円）。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A I 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

北九州の発見学として平成19年度から開講している「北九州学」。この科目の講義内容、講義計画を教員と学生により共同企画するゼミです。講義内容に関わる情報の収集・調査、北九州地域に興味と関心がある方に、学部を問わずに参加していただきたいと思っています。本年度は、平成23年度開講予定の「北九州の政治行政」、平成24年度開講予定の「北九州の経済」をテーマに講義計画を策定します。

教科書 /Textbooks

使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示しますが、内容に応じて積極的に情報検索を試みてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 情報収集・調査
- 3回 情報収集・調査
- 4回 報告・検討・討論
- 5回 情報収集・調査
- 6回 情報収集・調査
- 7回 報告・検討・討論
- 8回 情報収集・調査
- 9回 情報収集・調査
- 10回 報告・検討・討論
- 11回 情報収集・調査
- 12回 情報収集・調査
- 13回 報告・検討・討論
- 14回 報告・検討・討論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの積極的参加度... 20% 活動内容... 20% 活動報告レポート... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要に応じて現地調査や見学、関係者へのインタビューも実施していただきます。情報収集も自ら進んで行うよう心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

* 教養演習 A II もあわせて履修してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。DNAとは何か？ 遺伝子とは何をしているものなのか？ 本演習では「DNA・遺伝子・生命」を主たるテーマとし、関連図書・DVDを用いて学習するほか、簡単な実験・実習を体験することによって、これらに関する基本的知識と興味を身につける。さらに関連した科学記事やニュースを読み取る力・自ら考える力を身につけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「アメリカ版大学生物学の教科書・第2巻」D. サダヴァ他著、ブルーバックス、2010年
- 「文系のための生命科学」東京大学生命科学教材書籍編集委員会編、2008年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の説明【細胞】【遺伝】【染色体】
- 3回 基本的事項の説明【DNA】【RNA】【タンパク質】
- 4回 基本的事項の説明【遺伝子】【ゲノム】
- 5回 実験と実習【DNAの構造】
- 6回 実験と実習【DNAの抽出】
- 7回 科学記事よりトピックを選んで解説(1)
- 8回 科学記事よりトピックを選んで解説(2)
- 9回 科学記事よりトピックを選んで解説(3)
- 10回 科学記事よりトピックを選んで解説(4)
- 11回 科学記事よりトピックを選んで解説(5)
- 12回 関連映画作品等鑑賞(1)
- 13回 関連映画作品等鑑賞(2)
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・80%、課題・・・20%
(毎回カードを配布する。授業中の発表のほかに、カードに記入したコメント・質問を重視する。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AII 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本政治外交史に関するゼミ論文をかいてもらう(400字×30枚以上)。受講者数にもよるが、毎回学生諸君に自分の研究テーマについて報告してもらい、それについての議論を深めていく。なお、そのための準備として、第2～7回の演習では近代文書の解読も練習する。

教科書 /Textbooks

コピーして配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山内志朗『ぎりぎり合格への論文マニュアル』(平凡社新書、2001年)700円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 演習運営方針に関する話し合い。
- 2～7回 各自の研究報告と近代文書の解読の練習。
- 7～14回 各自の研究報告(同時並行的に論文執筆)。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50%課題...50%
無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。なお、ゼミ論未提出は「D」評価となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

明治時代に書かれた小説(森鴎外など)を読んで下さい。とにかく、旧字体・旧かな遣いに慣れること。

履修上の注意 /Remarks

小林担当の「教養演習AI」とセットで履修することを希望します。
AIを履修できない場合には、事前に相談して下さい。
この演習は1年生、3年生との合同演習です。
受講希望者が合計で11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AII 【昼】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会へのアプローチ法を考える②：本演習では、教養演習 AI を踏まえて、質的調査から何を知ることができるのか、その可能性をさらに考えたい。演習の前半では教養演習 AI でとirkんだ実習の経験を踏まえ、研究対象や問題設定に応じて、インタビューや観察をより効果的に行うための質的調査の方法を学ぶ。演習の後半では、これまでの演習のまとめとして、自分の興味関心に適した質的調査を行うためのデザインの仕方を検討する。

教科書 /Textbooks

箕浦康子 (編) 1999 『フィールドワークの技法と実際』 ミネルヴァ書房
 谷岡一郎 2000 『「社会調査」のウソ：リサーチ・リテラシーのすすめ』 文藝春秋
 ※このほか受講者の関心に合わせて民族誌をもう1冊読む。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○佐藤郁哉 2002 『フィールドワークの技法：問いを育てる、仮説をきたえる』 新曜社
 ※そのほか必要に応じて演習中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1・2・3回 聞き取りや観察の方法について：教養演習 AI のレポートから
 第4回 実習(再)：記憶を語ること、記録されること
 第5回 調査をデザインするために：エスノグラフィーと調査者の立場のいくつかのパターン
 第6・7回 マイクロエスノグラフィーの手法について
 テキスト：箕浦康子(編) 『フィールドワークの技法と実際』
 第8・9・10回 日常世界を分析するエスノグラフィー(輪読と議論)
 (受講者の関心にに応じて読む民族誌を選択する。候補としては、A.R. ホックシールド2000『管理される心』、ロバート・J・スミス『須恵村の女たち』など。)
 第11・12・13回 事前準備のために(輪読と議論)
 テキスト：谷岡一郎 『「社会調査」のウソ：リサーチ・リテラシーのすすめ』
 第14・15回 まとめとレポート構想報告

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の報告25%、中間レポート25%、期末レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

第4回のあとに、インタビューや観察を用いた質的調査についての中間レポートを課します。教養演習 AI の復習を心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

教養演習 AI を受講していること。やむを得ない事情で教養演習 AII のみの受講を希望する者は必ず事前に相談すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

卒業論文、ゼミ論文などに、質的調査を取り入れてみたいと考える学生の受講を歓迎します。

キーワード /Keywords

質的調査、民族誌、

教養演習 AII (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。この演習の履修希望者は、必ず、同じく1学期に開かれている「教養演習AI」とセットで受講すること。
 この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。
 この授業では、実際に自衛官を招聘する「教養基礎演習I」を補完するために、戸蒔が『防衛白書』等を用いて各ポイントの解説をする。防衛問題についてほとんど知識がない者から、多少の知識のある者までを想定し、わかりやすく解説する。

教科書 /Textbooks

『防衛白書』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 この授業は、各回の「教養演習AI」の内容に備えるための事前勉強という側面が強いので、「教養基礎演習I」のスケジュールと連動している。現段階で「教養演習AI」のゲストが調整中であるため、ここにスケジュールの詳細を明記することはできない。当面の予定は、概説、『防衛白書』『防衛計画の大綱』などの解説、ビデオ観賞などである。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。ただし、戸蒔の「教養演習AI」とセットで受講できる者が望ましい。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、1年を通して、各自が自分の関心に従って、社会的な視点・方法によって論文・レポート（8000字程度）を書くことをめざす。したがって原則として「教養演習AI」「教養演習AII」の通年（1学期・2学期）受講を義務づける。

AII（2学期）では、まず、教養演習AIで各自がたてた「問い」について「論文執筆計画書」を書く。さらに、その「計画書」中の「文献リスト」をもとに、各回2名ずつ、関連文献について内容報告（テキスト批評）をしてもらい、議論を行う。なお、1～2ヶ月に1度くらいの割合で、論文について進捗状況の報告会を行う。

AIと同様、報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、受講者の最大数は10人とする（それを越える場合、受講者数調整をかける）。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「論文執筆計画書」の報告
- 第2回 テキスト批評と議論
- 第3回 テキスト批評と議論
- 第4回 テキスト批評と議論
- 第5回 テキスト批評と議論
- 第6回 レポート検討会（4）
- 第7回 テキスト批評と議論
- 第8回 テキスト批評と議論
- 第9回 テキスト批評と議論
- 第10回 テキスト批評と議論
- 第11回 レポート検討会（5）
- 第12回 テキスト批評と議論
- 第13回 テキスト批評と議論
- 第14回 レポート検討会（6）
- 第15回 レポート報告会

成績評価の方法 /Assessment Method

参加度・貢献度...20% 課題（レポート）...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

レポート検討会の際には「研究計画書」を準備すること（様式等は授業中に指示する）。
報告者は、（1）文献概要、（2）内容要約、（3）論点整理、（4）議論を記したレジユメを準備すること。
報告者以外の者は（当然のことながら）事前に文献を読み、コメントを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

すべての「大学生」として欠かすことのできない人文的教養の育成を目的として、古典的な基本文献を一冊セレクトし、それを全員で読み進めていく。2学期は、フロイトによる挑発的な文化論「文化への不満」を読む。この演習を通して、人生全般に対する甘い幻想を捨て去り、多少ともシニカルで批判的な大人の思考力を身につけることができるようになれば、それで目的を達成したことになる。

教科書 /Textbooks

フロイト『幻想の未来 / 文化への不満』（中山元訳）光文社古典新訳文庫、2007年、760円。
（※翻訳は他にも数種あるが、本演習ではこのテキストを使用するので、必ず各自で用意しておくこと。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 小此木啓吾『フロイト』講談社
- 小此木啓吾『フロイト思想のキーワード』講談社
- 『フロイト著作集3』人文書院
- 『フロイト全集17(1919-22年)』岩波書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 1学期の復習と内容確認
- 3回 読解と議論I
- 4回 読解と議論II
- 5回 読解と議論III
- 6回 読解と議論IV
- 7回 読解と議論V
- 8回 読解と議論VI
- 9回 読解と議論VII
- 10回 読解と議論VIII
- 11回 読解と議論IX
- 12回 読解と議論X
- 13回 復習と補助学習I
- 14回 復習と補助学習II
- 15回 全体の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況(予習・議論・発言の積極性)...50% 課題(議事録作成)...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本演習への参加を希望する者は、初回の授業までに各自で上記のテキストを購入しておく必要がある(税込760円)。
本演習は1学期からの続きである。授業前の準備事項として、1学期に読了した「幻想の未来」をきちんと読み直しておくことが全員に求められる。

履修上の注意 /Remarks

参加者全員ができるだけ多くの発言・課題作成の機会を得られるよう、受講者の最大人数は15人までとする。それを越える場合は受講者数調整をかける。
同担当者による授業科目「思想と現代」を履修済みであり、なおかつその試験で「B」以上の成績を収めている学生は優先的に配慮する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では毎回の「予習」(指定ページの読解、分からない単語の調査)と「復習」(授業議事録の作成)が必須となります。予習・復習に十分な時間をかけることができない方は、他の参加者に迷惑をかけることになりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /2nd Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2nd Semester 授業形態 /Class Format 演習 /Seminar クラス /Class 2年 /2nd Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、実践的な企画力・運営力を養うことを目的とする。
 特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回～4回：事前学習・企画
- 第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。
- 第11回・12回：活動報告
- 第13回・14回：振り返り学習
- 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- 演習における議論への参加度50%
- 活動への参加度50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

関連活動に関する文献学習。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター, 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習では、学内や学外での実習（スキー実習や地域の健康増進プログラムなど）を通して、自分自身を理解する能力、そして人に自分を理解させる能力を身につけることに主眼をおく。さらに、身体活動を通して、初めてあった人や普段話したことがない人の良いところを見つけるためにはどうしたらよいかを見つける術について考えていく。
 また、スキー実習（教養基礎演習II）のリーダーとして関わり、他人と協調し、新たな自己発見や、自己開示能力についても養っていききたい。

教科書 /Textbooks

適宜資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回ガイダンス
- 2 回コミュニケーションゲーム (1)
- 3 回コミュニケーションゲーム (2)
- 4 回地域における健康ニーズ
- 5 回健康と体力
- 6 回地域住民に必要な体力とは
- 7 回健康増進プログラムの計画 (1) 体力測定
- 8 回健康増進プログラムの計画 (2) 安全性と有効性
- 9 回健康増進プログラムの計画 (3) プログラム作成
- 10 回健康増進プログラムの実施
- 11 回健康増進プログラムの評価
- 12 回スキー実習の計画 (1) 野外活動の意義
- 13 回スキー実習の計画 (2) 安全性と有効性
- 14 回スキー実習の計画 (3) プログラム作成
- 15 回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

身体活動を伴うので、運動のできる服装とシューズを準備すること。
 スキー実習については、別途参加費がかかります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位 2学期
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

北九州の発見学として平成19年度から開講している「北九州学」。この科目の講義内容、講義計画を教員と学生により共同企画するゼミです。講義内容に関わる情報の収集・調査、北九州地域に興味と関心がある方に、学部を問わずに参加していただきたいと思っています。本年度は、平成23年度開講予定の「北九州の政治行政」、平成24年度開講予定の「北九州の経済」をテーマに講義計画を策定します。

教科書 /Textbooks

使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示しますが、積極的に情報検索を試みてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 情報収集・調査
- 3回 情報収集・調査
- 4回 報告・検討・討論
- 5回 情報収集・調査
- 6回 情報収集・調査
- 7回 報告・検討・討論
- 8回 情報収集・調査
- 9回 情報収集・調査
- 10回 報告・検討・討論
- 11回 情報収集・調査
- 12回 情報収集・調査
- 13回 報告・検討・討論
- 14回 報告・検討・討論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの積極的参加度... 20% 活動内容... 20% 活動報告レポート... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要に応じて現地調査や見学、関係者へのインタビューも実施していただきます。情報収集も自ら進んで行うよう心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

* 教養演習 AI もあわせて履修してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。DNAとは何か？ 遺伝子とは何をしているものなのか？ 本演習では「DNA・遺伝子・生命」を主たるテーマとし、関連図書・DVDを用いて学習するほか、簡単な実験・実習を体験することによって、これらに関する基本的知識と興味を身につける。さらに関連した科学記事やニュースを読み取る力・自ら考える力を身につけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 「アメリカ版大学生物学の教科書・第2巻」D. サダウア他著、ブルーバックス、2010年
- 「文系のための生命科学」東京大学生命科学教材書籍編集委員会編、2008年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の説明【細胞】【遺伝】【染色体】
- 3回 基本的事項の説明【DNA】【RNA】【タンパク質】
- 4回 基本的事項の説明【遺伝子】【ゲノム】
- 5回 実験と実習【DNA鑑定実験1】
- 6回 実験と実習【DNA鑑定実験2】
- 7回 実験と実習【DNA鑑定実験3】
- 8回 科学記事よりトピックを選んで解説(1)
- 9回 科学記事よりトピックを選んで解説(2)
- 10回 科学記事よりトピックを選んで解説(3)
- 11回 科学記事よりトピックを選んで解説(4)
- 12回 関連映画作品等鑑賞(1)
- 13回 関連映画作品等鑑賞(2)
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・80%、課題・・・20%
 (毎回カードを配布する。授業中の発表のほかに、カードに記入したコメント・質問を重視する。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

家族法判例を素材として、家族に関する法律問題解明の方法を検討するとともに、問題発生の原因や要因を探りながら、問題を根本的に解決するために私たちはどうしたらよいかを一緒に考えて見ようと思っています。

教科書 /Textbooks

水野紀子他編著『家族法判例百選〔第7版〕』有斐閣（2008年10月）2,400円を使用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○泉 久雄 『親族法』有斐閣 3,500円、○中川善之助=泉久雄 『相続法[第4版]』有斐閣 6,000円、○有地亨 『新版家族法概論[補訂版]』法律文化社 3,800円。その他必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 文献検索の仕方
- 3回 判例研究の方法
- 4回 判例研究の方法
- 5回 判例研究の方法
- 6回 研究報告と討論
- 7回 研究報告と討論
- 8回 研究報告と討論
- 9回 研究報告と討論
- 10回 研究報告と討論
- 11回 研究報告と討論
- 12回 研究報告と討論
- 13回 研究報告と討論
- 14回 研究報告と討論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容... 20% 討論への積極的参加度... 20% 期末のレポート... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「法律の読み方」、法学部の学生については特に「家族法」を合わせて受講すればより一層理解が深まると思います。また、「家族を問う」、「家族の再生」を受講していることも家族の現状を理解することの助けとなるとと思います。

履修上の注意 /Remarks

教養演習BIIもあわせて受講するようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

法律学は受講生が主体的に取り組むのでなければその成果は上がりません。自ら進んで研究報告に取り組むとともに、他の報告者の提供する議論の場にも積極的に参加するよう心がけてください。報告の際には、レジユメを用意してください。

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 3年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

文献読解能力を訓練し、レジюме（梗概）の作り方、報告の仕方などを実地に学んでいく。あわせて、日本の歴史に対する理解を深め、国際化時代に相応しい教養を涵養する一助としたい。

毎回、全履修生から「レジюме」（梗概）を提出してもらい、次週までに添削して返却します。「レジюме」とは、わかりやすく言うと、この場合には本の内容の要約です。この演習の目的は、レジюмеを作成することを通じて、専門的な文献を読む基礎になる読解力、内容を要約してまとめる力、プレゼンテーション能力などを涵養することにあります。受講者数にもよりますが、毎回1～5名程度の受講生に報告してもらいます。したがって、受講者が少ない場合には毎回報告してもらうことになります。意欲的な学生は大歓迎です。15回の演習で、一冊完読します。

教科書 /Textbooks

瀧井一博『伊藤博文 - 知の政治家』（中公新書、2010年）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 オリエンテーション。
- 2～14回 文献の輪読。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50% 報告・レジюмеの内容...50%
 無断欠席やレジюмеの未提出は、それぞれたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎週必ず、テキストの該当ページを読んで、レジюмеを作ってもらいます。

履修上の注意 /Remarks

小林担当の「教養演習A1・II」「教養演習BII」とセットで履修することを希望します。
 A1・IIを履修できなかった場合、事前に相談して下さい。
 この演習は1年生、2年生との合同演習です。
 受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国家と社会についての重要文献読解：卒業論文の執筆を来年に控え、専門性の高い論文を読み始めた学生が、論文を読み進めるにあたってぶつかる壁のひとつは、文中に引用される古典文献を理解することであると思われる。本演習では、メインテキストである『社会とは何か』を読み進めつつ、言及されている論点の一つである国家と社会に関する引用古典文献を読み進めることを試みる。この作業を通して、原典に当たりながら論文を読み、考察することの重要性を実感してもらおう。

教科書 /Textbooks

竹沢尚一郎 2010 『社会とは何か』中公新書
 ユルゲン・ハーバーマス1994 『公共性の構造転換：市民社会の一カテゴリーについての探究（第2版）』細谷貞雄、山田正行（訳）未来社
 ベネディクト・アンダーソン 2007 『定本 想像の共同体：ナショナリズムの起源と流行』白石隆・白石さや（訳）書籍工房早山

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて演習中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下のスケジュールで輪読と議論を進める。

- 第1回 導入(1)：演習の説明
- 第2回 導入(2)：社会と国家の概念について背景説明
- 第3回 『社会とは何か』1章
- 第4回 『社会とは何か』2章
- 第5・6・7・8回 『公共性の構造転換』
- 第9回 『社会とは何か』3章
- 第10回 『社会とは何か』4章
- 第11・12・13・14回 『想像の共同体』
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中の報告50%、提出物50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

多少難解なテキストを含むので、受講者の理解度を確保するために読書ノートの提出を義務付ける。

履修上の注意 /Remarks

教養演習BIも続けて受講することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

哲学思想の基礎を踏まえて論じられている文献を独力で読みこなすのは大変ですが、人文社会科学系の研究には重要なことです。上記のテーマに興味のある学生の出席を歓迎します。

キーワード /Keywords

社会、国家、公共性、ナショナリズム

教養演習BI (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。この演習の履修希望者は、必ず、同じく1学期に開かれている「教養演習BII」とセットで受講すること。
 この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官(陸海空、尉官・佐官クラス)をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。また、2回のバスハイクを予定しており、海上自衛隊佐世保基地での護衛艦体験搭乗、航空自衛隊築城基地の見学などを行う(予定)。

教科書 /Textbooks

『防衛白書』

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。ただし、1~2回は高級幹部(1佐・将補の司令クラス)を招聘し、講演会に充てたい。また、上述の通り、2回はバスハイクの予定。そして1回は、隣にある陸上自衛隊小倉駐屯地の見学を行う。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度50%、レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。ただし、戸蒔の「教養演習BI」とセットで受講できる者が望ましい。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。また、将来、自衛隊の幹部候補生試験を受ける可能性のある者は、受講を強く勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、1年を通して、各自が自分の関心に従って、社会学的な視点・方法によって論文・レポート(10000字程度)を書くことをめざす。したがって原則として「教養演習BI」「教養演習BII」の通年受講(1・2学期受講)を義務づける。

1学期は、まず、以下のことを身につけることを目指す。

- (1) 社会学的なものの見方・考え方
- (2) 文献資料の調べ方
- (3) レポート・論文の書き方

さらに、社会学的な調査を用いた基礎的な文献を報告してもらう。

同時並行的に、自らが書く論文・レポートについても準備をすすめる。まず、各自が「テーマ」と「問い」をたてる。その上で、自らのたてた「問い」について関連する文献のリストを作成する。

報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、原則として受講者の最大数は10人とする(それを越える場合、受講者数調整をかけることがある)。

教科書 /Textbooks

- 『知的複眼思考法』、刈谷剛彦、講談社+α文庫、2002
- 『「二ート」って言うな』、本田由紀・内藤朝雄・後藤和智、光文社新書、2006

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 『レポート・論文の書き方入門』河野哲也、慶応義塾大学出版会
- 『自分で調べる技術 - 市民のための調査入門』、宮内泰介、岩波アクティブ新書
- その他、講義の中で、その都度、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業内容の紹介
- 第2回 社会学的なものの見方・考え方(1) - 『知的複眼思考法』
- 第3回 社会学的なものの見方・考え方(2) - 『知的複眼思考法』
- 第4回 社会学的なものの見方・考え方(3) - 『知的複眼思考法』
- 第5回 第1回レポート検討会
- 第6回 論文・レポートの書き方
- 第7回 情報収集の仕方(1)
- 第8回 情報収集の仕方(2)
- 第9回 第2回レポート検討会
- 第10回 分析事例(1) - 『「二ート」って言うな』第1部
- 第11回 分析事例(2) - 『「二ート」って言うな』第2部
- 第12回 分析事例(3) - 『「二ート」って言うな』第3部
- 第13回 調査倫理について
- 第14回 第3回レポート検討会
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

参加度・貢献度...40% 課題...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- レポート検討会の際には「研究計画書」を準備すること(様式等は授業中に指示する)。
- 報告者は、(1)文献概要、(2)内容要約、(3)論点整理、(4)議論を記したレジユメを準備すること。
- 報告者以外の者は(当然のことながら)事前に文献を読み、コメントを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

教養演習BI【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

すべての「大学生」として欠かすことのできない人文的教養の育成を目的として、古典的な基本文献を一冊セレクトし、それを全員で読み進めていく。1学期は、フロイトの素晴らしい宗教論「幻想の未来」を読む。この演習を通して、人生全般に対する甘い幻想を捨て去り、多少ともシニカルで批判的な大人の思考力を身につけることができるようになれば、それで目的を達成したことになる。

教科書 /Textbooks

フロイト『幻想の未来 / 文化への不満』（中山元訳）光文社古典新訳文庫、2007年、760円。
（※翻訳は他にも数種あるが、本演習ではこのテキストを使用するので、必ず各自で用意しておくこと。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 小此木啓吾『フロイト』講談社
- 小此木啓吾『フロイト思想のキーワード』講談社
- テリー・イーグルトン『宗教とは何か』（大橋洋一・小林久美子訳）青土社
- ダニエル・C・デネット『解明される宗教——進化論的アプローチ』（阿部文彦訳）青土社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンスI (演習でのルール、成績評価法の説明)
- 2回 ガイダンスII (対象となるテキスト、著者の紹介)
- 3回 読解と議論I
- 4回 読解と議論II
- 5回 読解と議論III
- 6回 読解と議論IV
- 7回 読解と議論V
- 8回 読解と議論VI
- 9回 読解と議論VII
- 10回 読解と議論VIII
- 11回 読解と議論IX
- 12回 読解と議論X
- 13回 復習と補助学習I
- 14回 復習と補助学習II
- 15回 全体の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況 (予習・議論・発言の積極性) ...50% 課題 (議事録作成) ...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本演習への参加を希望する者は、第三回か第四回の授業までに各自で上記のテキストを購入しておく必要がある (税込760円) 。授業前の準備事項として、訳者の中山元氏による「解説文」および「フロイト年譜」(テキスト377~436頁) を読み込んでくること。

履修上の注意 /Remarks

本演習は1・2年生との合同演習となる。「教養演習BI」に授業登録をした3年生以上の方には、演習における議長を務めてもらうことがある。また、いわゆる『標準版 (Standard Edition) 』を用いて、上記テキストの英訳を日本語に翻訳してもらう場合もある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では毎回の「予習」(指定ページの読解、分からない単語の調査) と「復習」(授業議事録の作成) が必須となります。予習・復習に十分な時間をかけることができない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名
 /Instructor

伊野 憲治 / 基盤教育センター, 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 3年次
 /Year

単位 2単位
 /Credits

学期 1学期
 /Semester

授業形態 演習
 /Class Format

クラス 3年
 /Class

対象入学年度
 /Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、実践力・総合力を養うことを目的とする。
 特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～4回：事前学習・企画
 第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。
 第11回・12回：活動報告
 第13回・14回：振り返り学習
 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習における議論への参加度20%
 活動への参加度50%
 活動報告書30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

関連活動に関する文献学習。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名
 /Instructor

徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター, 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習では、身体活動を通して、初めてあった人や知らない人同士でどうしてもしたら自然に打ち解け、お互いに楽しみを共有できるかについて主眼をおく。そこで、学内での実習や学外での実習（キャンプ実習や地域の中高齢者を対象とした運動プログラム）を通して、教示の仕方や振る舞い方などでどのように楽しみを共有できるかについて考えていきたい。また、社会人に必要なマナーや振る舞いについても考えていく。
 また、キャンプ実習（教養基礎演習I）のリーダーとして関わりながら、他人と協調し、新たな自己発見や、自己開示能力についても養ってきたい。

教科書 /Textbooks

適宜資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回ガイダンス
- 2 回リーダーとリーダーシップ
- 3 回安全性と有効性
- 4 回キャンプ実習の計画（1）リーダーとしての関わり
- 5 回キャンプ実習の計画（2）安全性と有効性
- 6 回キャンプ実習の計画（3）プログラム作成
- 7 回キャンプ実習の実施
- 8 回キャンプ実習の評価
- 9 回中高齢者にあった身体活動プログラムの計画（1）安全性と有効性
- 10 回中高齢者にあった身体活動プログラムの計画（2）プログラム作成
- 11 回中高齢者にあった身体活動プログラムの計画（3）プログラム作成
- 12 回中高齢者にあった身体活動プログラムの実施（1）
- 13 回中高齢者にあった身体活動プログラムの実施（2）
- 14 回中高齢者にあった身体活動プログラムの評価
- 15 回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

身体活動を伴うので、運動のできる服装とシューズを準備すること。
 キャンプ実習については、別途参加費がかかります。（約4000円）。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 3年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。DNAとは何か？ 遺伝子とは何をしているものなのか？ 本演習では「DNA・遺伝子・生命」を主たるテーマとし、関連図書・DVDを用いて学習するほか、簡単な実験・実習を体験することによって、これらに関する基本的知識と興味を身につける。さらに関連した科学記事やニュースを読み取る力・自ら考える力を身につけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「アメリカ版大学生物学の教科書・第2巻」 D . サダヴァ他著、ブルーバックス、2010年
- 「文系のための生命科学」 東京大学生命科学教材書籍編集委員会編、2008年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の説明【細胞】【遺伝】【染色体】
- 3回 基本的事項の説明【DNA】【RNA】【タンパク質】
- 4回 基本的事項の説明【遺伝子】【ゲノム】
- 5回 実験と実習【DNAの構造】
- 6回 実験と実習【DNAの抽出】
- 7回 科学記事よりトピックを選んで解説(1)
- 8回 科学記事よりトピックを選んで解説(2)
- 9回 科学記事よりトピックを選んで解説(3)
- 10回 科学記事よりトピックを選んで解説(4)
- 11回 科学記事よりトピックを選んで解説(5)
- 12回 関連映画作品等鑑賞(1)
- 13回 関連映画作品等鑑賞(2)
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・80%、課題・・・20%
(毎回カードを配布する。授業中の発表のほかに、カードに記入したコメント・質問を重視する。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

家族法判例を素材として、家族に関する法律問題解明の方法を検討するとともに、問題発生の原因や要因を探りながら、問題を根本的に解決するために私たちはどうしたらよいかを一緒に考えて見ようと思っています。

教科書 /Textbooks

水野紀子他編著『家族法判例百選〔第7版〕』有斐閣（2008年10月）2,400円を使用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○泉久雄『親族法』有斐閣 3,500円、○中川善之助=泉久雄『相続法[第4版]』有斐閣 6,000円、○有地亨『新版家族法概論[補訂版]』法律文化社 3,800円。その他必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 文献検索の仕方
- 3回 判例研究の方法
- 4回 判例研究の方法
- 5回 判例研究の方法
- 6回 研究報告と討論
- 7回 研究報告と討論
- 8回 研究報告と討論
- 9回 研究報告と討論
- 10回 研究報告と討論
- 11回 研究報告と討論
- 12回 研究報告と討論
- 13回 研究報告と討論
- 14回 研究報告と討論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容... 20% 討論への積極的参加度... 20% 期末のレポート... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「法律の読み方」、法学部の学生については特に「家族法」を合わせて受講すればより一層理解が深まると思います。また、「家族を問う」、「家族の再生」を受講していることも家族の現状を理解することの助けとなると思います。

履修上の注意 /Remarks

教養演習BIもあわせて受講するようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

法律学は受講生が主体的に取り組むのでなければその成果は上がりません。自ら進んで研究報告に取り組むとともに、他の報告者の提供する議論の場にも積極的に参加するよう心がけてください。報告の際には、レジユメを用意してください。

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本政治外交史に関するゼミ論文をかいてもらう(400字×30枚以上)。受講者数にもよるが、毎回学生諸君に自分の研究テーマについて報告してもらい、それについての議論を深めていく。なお、そのための準備として、第2～7回の演習では近代文書の解読も練習する。

教科書 /Textbooks

コピーして配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山内志朗『ぎりぎり合格への論文マニュアル』(平凡社新書、2001年)700円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 演習運営方針に関する話し合い。
- 第2回～7回 各自の研究報告と近代文書の解読の練習。
- 第7回～14回 各自の研究報告(同時並行的に論文執筆)。
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50%課題...50%
無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。なお、ゼミ論未提出は「D」評価となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

明治時代に書かれた小説(森鴎外など)を読んで下さい。とにかく、旧字体・旧かな遣いに慣れること。

履修上の注意 /Remarks

小林担当の「教養演習AⅠ・Ⅱ」「教養演習BⅠ」とセットで履修することを希望します。
以上の科目を履修できなかった場合には、事前に相談して下さい。
この演習は1年生、2年生との合同演習です。受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BⅡ【昼】

担当者名 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

共同体と排除についての重要文献読解： 本演習は、教養演習BⅠの続きである。BⅠで取りあげたメイン・テキスト『社会とは何か』のもう一つの論点である、共同体と排除について、隣接する近年の文献と古典文献を関連付けながら理解を深める。この作業を通して、一つの文献から関連する他の文献へと思考を広げる訓練を行う。

教科書 /Textbooks

竹沢尚一郎 2010 『社会とは何か』 中公新書
 田辺繁治 2008 『ケアのコミュニティ』 岩波書店
 ミシェル・フーコー 1977 『監獄の誕生』 田村俶（訳）新潮社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて演習中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下のスケジュールで輪読と議論を進める。

- 第1回 導入：共同体と排除の概念について
- 第2回 『社会とは何か』 第5章
- 第3・4・5・6回 『ケアのコミュニティ』
- 第7・8・9・10・11・12・13回 『監獄の誕生』
- 第14・15回 レポート構想報告

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50%、 演習中の報告50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

BⅡのみの受講を希望する場合は、開講初日までに『社会とは何か』の第1章から4章まで読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

教養演習BⅠを受講していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フーコーの『監獄の誕生』は、哲学や社会学の研究者に限らず、その周辺分野の研究者にとっても重要な文献となっています。ですが、ヨーロッパの歴史的・思想的背景を知らずに、また彼の概念がどのような研究に用いられているのかわ知らずに、独力で理解するのはなかなか難しいです。演習を通して、数人で読むことにより、理解が深まると思います。この演習では、受け身でなく、自ら文章を読み込む意思のある学生の受講を歓迎します。

キーワード /Keywords

共同体・ コミュニティ・ 監視・ 排除・ 統治

教養演習BII (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。この演習の履修希望者は、必ず、同じく1学期に開かれている「教養演習BI」とセットで受講すること。
 この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。
 この授業では、実際に自衛官を招聘する「教養基礎演習I」を補完するために、戸蒔が『防衛白書』等を用いて各ポイントの解説をする。防衛問題についてほとんど知識がない者から、多少の知識のある者までを想定し、わかりやすく解説する。

教科書 /Textbooks

『防衛白書』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 この授業は、各回の「教養演習BI」の内容に備えるための事前勉強という側面が強いので、「教養基礎演習I」のスケジュールと連動している。現段階で「教養演習BI」のゲストが調整中であるため、ここにスケジュールの詳細を明記することはできない。当面の予定は、概説、『防衛白書』『防衛計画の大綱』などの解説、ビデオ観賞などである。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。ただし、戸蒔の「教養演習AI」とセットで受講できる者が望ましい。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。また、卒業後、幹部自衛官になることを希望する者は、受講を強く勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BII【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、1年を通して、各自が自分の関心に従って、社会的な視点・方法によって論文・レポート(10000字程度)を書くことをめざす。したがって原則として「教養演習BI」「教養演習BII」の通年(1学期・2学期)受講を義務づける。

BII(2学期)では、まず、教養演習BIで各自がたてた「問い」について「論文執筆計画書」を書く。さらに、その「計画書」中の「文献リスト」をもとに、各回2名ずつ、関連文献について内容報告(テキスト批評)をしてもらい、議論を行う。なお、1~2ヶ月に1度くらいの割合で、論文について進捗状況の報告会を行う。

BIと同様、報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、原則として受講者の最大数は10人とする(それを越える場合、受講者数調整をかける)。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「論文執筆計画書」の報告
- 第2回 テキスト批評と議論
- 第3回 テキスト批評と議論
- 第4回 テキスト批評と議論
- 第5回 テキスト批評と議論
- 第6回 レポート検討会(4)
- 第7回 テキスト批評と議論
- 第8回 テキスト批評と議論
- 第9回 テキスト批評と議論
- 第10回 テキスト批評と議論
- 第11回 レポート検討会(5)
- 第12回 テキスト批評と議論
- 第13回 テキスト批評と議論
- 第14回 レポート検討会(6)
- 第15回 レポート報告会

成績評価の方法 /Assessment Method

参加度・貢献度...20% 課題(レポート)...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

レポート検討会の際には「研究計画書」を準備すること(様式等は授業中に指示する)。
 報告者は、(1)文献概要、(2)内容要約、(3)論点整理、(4)議論を記したレジюмеを準備すること。
 報告者以外の者は(当然のことながら)事前に文献を読み、コメントを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

すべての「大学生」として欠かすことのできない人文的教養の育成を目的として、古典的な基本文献を一冊セレクトし、それを全員で読み進めていく。2学期は、フロイトによる挑発的な文化論「文化への不満」を読む。この演習を通して、人生全般に対する甘い幻想を捨て去り、多少ともシニカルで批判的な大人の思考力を身につけることができるようになれば、それで目的を達成したことになる。

教科書 /Textbooks

フロイト『幻想の未来 / 文化への不満』（中山元訳）光文社古典新訳文庫、2007年、760円。
（※翻訳は他にも数種あるが、本演習ではこのテキストを使用するので、必ず各自で用意しておくこと。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 小此木啓吾『フロイト』講談社
- 小此木啓吾『フロイト思想のキーワード』講談社
- 『フロイト著作集3』人文書院
- 『フロイト全集17 (1919-22年)』岩波書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 1学期の復習と内容確認
- 3回 読解と議論I
- 4回 読解と議論II
- 5回 読解と議論III
- 6回 読解と議論IV
- 7回 読解と議論V
- 8回 読解と議論VI
- 9回 読解と議論VII
- 10回 読解と議論VIII
- 11回 読解と議論IX
- 12回 読解と議論X
- 13回 復習と補助学習I
- 14回 復習と補助学習II
- 15回 全体の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況 (予習・議論・発言の積極性) ...50% 課題 (議事録作成) ...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本演習への参加を希望する者は、初回の授業までに各自で上記のテキストを購入しておく必要がある (税込760円) 。
本演習は1学期からの続きである。授業前の準備事項として、1学期に読了した「幻想の未来」をきちんと読み直しておくことが全員に求められる。

履修上の注意 /Remarks

本演習は1・2年生との合同演習となる。「教養演習 B I」に授業登録をした3年生以上の方には、演習における議長を務めてもらうことがある。また、いわゆる『標準版 (Standard Edition) 』を用いて、上記テキストの英訳を日本語に翻訳してもらう場合もある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では毎回の「予習」(指定ページの読解、分からない単語の調査) と「復習」(授業議事録の作成) が必須となります。予習・復習に十分な時間をかけることができない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養演習BⅡ【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 3年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
 地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、実践力・総合力を養うことを目的とする。
 特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

教科書 /Textbooks
 適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 第1回～4回：事前学習・企画
 第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。
 第11回・12回：活動報告
 第13回・14回：振り返り学習
 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 演習における議論への参加度20%
 活動への参加度50%
 活動報告書30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 関連活動に関する文献学習。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BⅡ【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター, 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習では、学内や学外での実習（スキー実習や地域の健康増進プログラムなど）を通して、自分自身を理解する能力、そして人に自分を理解させる能力はもちろんのこと社会人として必要なマナー（振る舞いなど）を身につけることに主眼をおく。さらに、初めてあった人や普段話したことのない人の良いところを見つけるためにはどうしたらよいのかを見つける術について考えていく。
 また、スキー実習（教養基礎演習Ⅱ）のリーダーとして関わり、他人と協調し、新たな自己発見や、自己開示能力についても養っていききたい。

教科書 /Textbooks

適宜資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回ガイダンス
- 2 回コミュニケーションゲーム (1)
- 3 回コミュニケーションゲーム (2)
- 4 回地域における健康ニーズ
- 5 回健康と体力
- 6 回地域住民に必要な体力とは
- 7 回健康増進プログラムの計画 (1) 体力測定
- 8 回健康増進プログラムの計画 (2) 安全性と有効性
- 9 回健康増進プログラムの計画 (3) プログラム作成
- 10 回健康増進プログラムの実施
- 11 回健康増進プログラムの評価
- 12 回スキー実習の計画 (1) 野外活動の意義
- 13 回スキー実習の計画 (2) 安全性と有効性
- 14 回スキー実習の計画 (3) プログラム作成
- 15 回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

身体活動を伴うので、運動のできる服装とシューズを準備すること。
 スキー実習については、別途参加費がかかります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロジェクト演習I【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

<目的> 教室内にとどまらず学内外の様々なプロジェクトにチームで取り組むことで、PDCAサイクルを体験し、チームワークや自己管理能力、創造力、実践力など、将来社会で働く上で必要となる力を体得します。JOB×HUNTERのように期間限定のタイプもあれば、キャリアーナのように通年行うタイプもあります。

<演習の進め方> 最初に自己分析を行い、成長させたいかと、その成長プランを作ります。そしてプロジェクトに参加し、最後に最終レポートを提出します。

<期待される効果> 将来のために、学生時代に何か「やり遂げた事実」すなわち達成感を得たい人にとって、かけがえのない経験を得ることができます。また、その経験は自らの将来をイメージするヒントになり、また将来への活動（就職活動など）にもプラスになるでしょう。

※2010年度実績：JOB×HUNTER 2012、キャリアーナ、オープンキャンパス、北九州市漫画ミュージアム、Navy Wavy（ギラヴァンツ応援プロジェクト）

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 全体ガイダンス
- 第2～14回 プロジェクトに取り組みます。
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

参加時間、参加への姿勢、最終レポートでの総合判断となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特にありません。やる気のみです。

履修上の注意 /Remarks

- ※原則、2学期の履修登録の修正登録期間に履修登録してください。
- ※参加募集は随時行います。なお、参加人数には制限があります。
- ※自らプロジェクトを立ち上げたい人は是非ご相談ください。
- ※授業日は特に決まった曜日は設定しません。メンバーで相談して設定してください。
- ※教室は学生プラザのプロジェクトルームを予約して使用してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクト期間中は他の課外活動との両立は難しくなりますのでご注意ください。途中でリタイアするとメンバーに迷惑をかけてしまいます。また、特に応募者が多いプロジェクトであれば、応募に外れた学生の気持ちも台無しにします。やり遂げる意思を持ってご参加ください。

キーワード /Keywords

経験から学ぶ力、キャリア、成長

プロジェクト演習II【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

<目的> 教室内にとどまらず学内外の様々なプロジェクトにチームで取り組むことで、PDCAサイクルを体験し、チームワークや自己管理能力、創造力、実践力など、将来社会で働く上で必要となる力を体得します。JOB×HUNTERのように期間限定のタイプもあれば、キャリアーナのように通年行うタイプもあります。

<演習の進め方> 最初に自己分析を行い、成長させたい力と、その成長プランを作ります。そしてプロジェクトに参加し、最後に最終レポートを提出します。

<期待される効果> 将来のために、学生時代に何か「やり遂げた事実」すなわち達成感を得たい人にとって、かけがえのない経験を得ることができます。また、その経験は自らの将来をイメージするヒントになり、また将来への活動（就職活動など）にもプラスになるでしょう。

※2010年度実績：JOB×HUNTER 2012、キャリアーナ、オープンキャンパス、北九州市漫画ミュージアム、Navy Wavy（ギラヴァンツ応援プロジェクト）

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 全体ガイダンス
- 第2～14回 プロジェクトに取り組みます。
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

参加時間、参加への姿勢、最終レポートでの総合判断となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特にありません。やる気のみです。

履修上の注意 /Remarks

- ※この演習を履修できるのは、原則2年次に『プロジェクト演習I』を履修した人です。ただし、オープンキャンパスなど期間限定のタイプは単独でも履修可能です。
- ※参加募集は随時行います。なお、参加人数には制限があります。
- ※自らプロジェクトを立ち上げたい人は是非ご相談ください。
- ※授業日は特に決まった曜日は設定しません。メンバーで相談して設定してください。
- ※教室は学生プラザのプロジェクトルームを予約して使用してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクト期間中は他の課外活動との両立は難しくなりますのでご注意ください。途中でリタイアするとメンバーに迷惑をかけてしまいます。また、特に応募者が多いプロジェクトであれば、応募に外れた学生の気持ちも台無しにします。やり遂げる意思を持ってご参加ください。

キーワード /Keywords

経験から学ぶ力、キャリア、成長

自然学のまなざし【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科, 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

街に住んでいると、海や森を懐かしく思う。殺風景な自分の部屋にもどるたびに、緑を置きたくなったり、せめて小さな生き物がそこにいてくれたらなあ、なんて考える。

西洋の学問の伝統では、ながらく文化と自然を切り離して考えてきた。文系・理系と人間の頭を2つに分けてしまう発想は、未だに続くそのなごりだ。でもそれでは解らないことがある。だれだって「あたま(文化)」と「からだ(自然)」がそろって初めてひとりの人間になれるように、文化と自然は人間の内においても外においても、それぞれが融合し合い調和し合いながら世界を作り上げている。

野で遊ぶことが好きで、旅に心がワクワクする人ならば、だれでも「自然学のすすめ」の講義をつうじて、たくさんの智恵を学ぶことができるだろう。教室の中でじっとしていることだけが勉強ではない。海や森に出かけよう、そんな小さなきっかけをつくるための講義です。授業とあわせて以下の本をよんでほしい。

教科書 /Textbooks

- 『風の谷のナウシカ』1-7宮崎 駿

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『イルカとナマコと海人たち』NHKブックス
- 「自然学の展開」「自然学の提唱」今西錦司
- 「自然学の未来」黒田末寿

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 竹川
 - 第一講 「今西錦司と自然学」
 - 第二講 「私とあなたの自然学」
 - 第三講 「バックミンスターフラーと自然学」
 - 第四講 「海と人の自然学1：沖縄の海人たち」
 - 第五講 「海と人の自然学2：ソロモンの海洋民たち」
 - 第六講 「海と人の自然学：軍艦島を考える」
 - 第七講 「風の谷のナウシカの自然学」
 - 第八講 「人の進化と自然学」
- 岩松
 - 第九講 人々はどのように自然に親しんできたか - 自然の中の旅と観光
 - 第十講 人々はどのように自然を観てきたか - 自然風景の感じ方
 - 第十一講 人々はどのように自然を利用してきたか - 日本の竹文化史
 - 第十二講 人々はどのように自然を利用していけるか - 日本の竹産業と政策
 - 第十三講 人々はどのように自然の中で暮らしているか - 日本の木造民家の生活
 - 第十四講 日本人と森林の関係にはどのような特徴があるか - 中国文化との比較
 - 第十五講 第九講～第十四講のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

竹川 自分が生きている世界について野に出て考えてみたかったか 50%
岩松 平常点&小レポート...25% 試験...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本を読んでほしい

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

動物のみかた 【昼】

担当者名 /Instructor 到津の森公園、文学部 竹川大介

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

動物園とのかかわる事項等を検証し、環境や教育など様々な問題を考える。

動物園は教育機関としてのみならず、情感に影響を与える施設として様々な広がりを持っている。
動物園の本来の姿を追求し、どうすれば地域の施設として欠くべからざる施設となりうるのかを検証する。

教科書 /Textbooks

テキストなし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『戦う動物園』島泰三編 小菅正夫・岩野俊郎共著

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 動物園学概論 1
- 2回 動物園学概論 2
- 3回 キーパーの仕事 1
- 4回 キーパーの仕事 2
- 5回 キーパーの仕事 3
- 6回 キーパーの仕事 4
- 7回 キーパーの仕事 5
- 8回 キーパーの仕事 6
- 9回 校外実習 1
- 10回 校外実習 2
- 11回 獣医の仕事 1
- 12回 獣医の仕事 2
- 13回 動物園学まとめ 1
- 14回 動物園学まとめ 2
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 80% 平常の学習状況 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義では実際の動物園施設の見学もあります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地球の生いたち【昼】

担当者名 /Instructor 長井 孝一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

我々の住む地球は太陽系の第3惑星として、今から約46億年前に誕生した。その46億年の地球史の中で、大地や海、大気が形成され、地球生命が誕生し、さらに、そのそれぞれが進化あるいは変遷を繰り返してきた。地球生命は約38億年前に誕生し、長大な時間をかけて進化を繰り返してきた。我々人類は今、地球の生物史上初めて地球に能動的にかかわる生物として、その長大な時間の延長線上にいる。高度文明社会が人類や地球の未来を危うくしかねない問題を次々と引き起こしている現在、我々はこれまでも増して地球のしくみや成り立ちを正しく理解し、地球規模でのバランス感覚を養っていく必要がある。

この授業の目標は、現在の地球のしくみと地球史を正しく理解することを通して、地球と人間との関係はどうあるべきかについて、自ら判断し考えることができるようになることである。

教科書 /Textbooks

教科書は使用せず、プリントを適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

川上伸一『生命と地球の共進化』(日本放送協会), 1071円
丸山茂徳・磯崎行雄著『生命と地球の歴史』(岩波書店), 861円
その他の参考書については授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目: 地球の歴史の表し方【地質時代と絶対年代】
- 2回目: 生きている地球1【プレートテクトニクス】
- 3回目: 生きている地球2【ウエゲナーと大陸移動説】
- 4回目: 地球惑星の起源と進化【水の惑星の誕生】
- 5回目: 地球生命の起源と目に見えない生物の長い長い時代【先カンブリア時代】
- 6回目: 凍りついた地球【全球凍結】
- 7回目: 生物進化史上最大の事変1【カンブリア爆発】
- 8回目: 生物進化史上最大の事変2【カンブリア爆発の意義】
- 9回目: 顕生累代の生物の変遷史1【古生代】
- 10回目: 繰り返す大量絶滅1【ペルム紀末の大量絶滅】
- 11回目: 顕生累代の生物の変遷史2【中生代】
- 12回目: 繰り返す大量絶滅2【白亜紀末の大量絶滅】
- 13回目: 顕生累代の生物の変遷史3【新生代】
- 14回目: 人間圏の成立と環境問題【人類と環境】
- 15回目: まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験: 80%, 日常の授業への取り組み: 10%, 小テスト・ミニレポート: 10%
欠席の多い学生は減点する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地球史を学ぶ事を通して、地球と人間との関係について考えましょう。

キーワード /Keywords

地球史, 生命と地球, 共進化

自然史へのいざない【昼】

担当者名 /Instructor 北九州市立自然史・歴史博物館、基盤教育センター 日高京子

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

北九州市立自然史・歴史博物館（愛称：いのちのたび博物館）の学芸員が、北九州の自然と自然史博物館の魅力、そして各学芸員の調査や研究について紹介をする授業です。北九州市は多様な化石を産する化石の一大産地です。また、多様な自然に囲まれた都市でもあります。このような恵まれた北九州の自然と、それを展示している当博物館を、まずみなさんに知ってもらうことが、この授業の大きな目的です。各学芸員は、海外での発掘や、調査・研究も積極的にを行っています。講義では、海外の話題も含めた、各自然史分野の最先端の話も聞くことができると思っています。よりグローバルな視点から、自然史を学んでもらうことも、この授業の目的としています。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

各学芸員が担当する講義のテーマは下記の通りです（【】内はキーワード、（）内は担当学芸員名）。講義の順番は変更となる場合があります。北方キャンパスでの13回の講義のほか、北九州市立自然史・歴史博物館での講義および見学（学期内の特定の日曜日を使い2回実施）を予定しています。

- 1回 ガイダンス
 - 2回 昆虫分類学の歴史（上田）：【分類】【化石昆虫】
 - 3回 化石が語る魚類の進化（藪本）：【魚類化石】
 - 4回 二次的自然と哺乳類（馬場）：【都市近郊に棲む哺乳類】【生物多様性の価値】
 - 5回 鳥類の絶滅危惧と生物多様性の保全（武石）：【絶滅危惧】【生物多様性】
 - 6回 ちょっと前の自然～植物の世界を例に（真鍋）：【里山】【二次的自然】【生態遷移】
 - 7回 化石記録が物語るいのちのたび「絶滅と繁栄」（太田）：【化石】【生命史】【絶滅】
 - 8回 カエルとサンショウウオのはなし（山根）：【両生類】【身近な生き物たち】
 - 9回 宝石鉱物の魅力と不思議（森）：【宝石】【鉱物】
 - 10回 深海生物～その形と適応的意義～（下村）：【深海】
 - 11回 アンモナイトの古生物学（御前）：【系統進化】【携帯と機能】【恐竜】
 - 12回 骨から知る脊椎動物進化（大橋）：【化石】【進化】【古生態】
 - 13回 まとめ
- ※北九州市立自然史・歴史博物館のホームページ：<http://www.kmnh.jp/>

成績評価の方法 /Assessment Method

2回の博物館見学は必須となります。レポートで成績評価を行います。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし。

履修上の注意 /Remarks

講義に遅れてきたり、出席確認後に退席したりすることがないように、各自マナーを守るよう心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

くらしと化学【昼】

担当者名 /Instructor 秋貞 英雄 / Akisada Hideo / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

化学知識は生活に不可欠な知識です。化学物質は身近な物質として生活を豊かにするのに貢献しています。また”生命とは宇宙とは”豊かな発想や、豊かな未来社会を展望する上での必要な知識です。一方、地球環境汚染など否定的現象にも関わる知識です。また金銭を中心とする消費社会では、工セ科学を利用した詐欺的商法もあります。市民は其中で、単なる教養でなく、正しい判断のための正確な科学知識が必要とされます。

化学的知識の理解は、情報を受ける側の基礎知識と情報提供者の工夫によって進みます。化学の専門家でない者には、一つの知識の習得には多面的アプローチが重要です。したがって、講義は、高校理科・化学のまとめと補足のあと教科書より与えられるテーマをもとに、色々補足を加えて、身近な化学知識への興味と理解が進むように努めたい。

教科書 /Textbooks

学説・化学物質 - あなたの常識に挑戦する」 John Emsley著、渡辺正訳 (丸善)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「沈黙の春」 R. Carson著、青木梁一訳 (新潮社)
- 「奪われし未来」 T. Colbon, D. Dumanoski, P. Myers著、長尾力著 (翔泳社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

講義は、入門的に高校の理科・化学のまとめと補足を行い。引き続いて、教科書に与えられたテーマに基づき、補足、関連話題や解説を進めて理解の促進をはかる。

- 1) 化学の基礎1
- 2) 化学の基礎2
- 3) 香水(香料)・・・においの正体、対置する消臭
- 4) 砂糖と甘味料・・・甘味料の役割
- 5) 味と調味料・・・味覚と化学 (教科書外)
- 6) アルコール・・・酒と百薬の長・・・アルコールの体内挙動
- 7) コレステロール、脂肪、食物繊維・・・ダイエットとメタボ対策
- 8) くすり・・・毒と薬は紙一重
- 9) 洗剤・・・洗浄、きれいさ、その歴史と洗剤の多機能性 (教科書外)
- 10) 塩化ビニル・・・プラスチックと高分子の歴史
- 11) プラスチック・・・環境問題 (教科書+教科書外)
- 12) ダイオキシン・・・化学汚染、大気汚染・・・都市問題
- 13) 無機窒素肥料・・・化学肥料と有機肥料
- 14) 二酸化炭素・・・二酸化炭素と温暖化の科学的仕組み、地球温暖化、地球の歴史
- 15) 未来社会と化学 (教科書+教科書外)

成績評価の方法 /Assessment Method

簡単レポートや小テスト30%、期末試験70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校の理科、化学の教科書があると望ましい(手引き代わり)。テレビ新聞等の科学関連ニュースには注目して欲しい。疑問点は質問して欲しい。

履修上の注意 /Remarks

教科書外の内容も講義することがあるので、ノートはきちんととること。小テストやレポートが、ノートのに基づくこともある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

新聞、雑誌、放送機関、インターネット等の科学情報に関心を持ち、質問するような姿勢が好ましい。

キーワード /Keywords

現代人のこころ【昼】

担当者名 /Instructor 田島 司 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

人間は社会的な存在であり、集団や社会から影響を受けて個人が成り立っていると同時に、各個人が集団や社会を成り立たせている。授業への参加が、このことを考えるきっかけになってほしい。日常生活における問題と心理学研究における問題とのつながりを理解することによって、自分、他者、集団、社会、というものの見方に深みが増すことを期待する。

教科書 /Textbooks

オリエンテーションの時に知らせる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション、心理学とは何か
- 第2回 心をどうとらえるか
- 第3回 心の柔軟性1(進化)
- 第4回 心の柔軟性2(脳)
- 第5回 心の柔軟性3(本能)
- 第6回 人間は世界をどう理解するか1(知覚)
- 第7回 人間は世界をどう理解するか2(記憶)
- 第8回 人間は世界をどう理解するか3(学習)
- 第9回 自分を顧みる1(親子関係)
- 第10回 自分を顧みる2(自己評価、自尊心)
- 第11回 自分達を顧みる1(消費と生産)
- 第12回 自分たちを顧みる2(性と年齢)
- 第13回 集団の心理
- 第14回 社会と自己
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(数回行います)・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

数のたのしみ 【昼】

担当者名 /Instructor 高妻 倫太郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中学校・高校で習う「数学」とは違い、文化的観点を取り入れた「数楽」を目標とする。
 1. 数の世界に対する関心・興味を持ってもらうこと。
 2. 数学的思考法を体感し、「考えることは楽しい」感覚を呼び覚ますこと。
 講義全体のキーワードは、数との親しみ・愉しみ。それらを通して世の中に数学的精神が息づいていることを伝えたい。

教科書 /Textbooks

講義資料を毎回準備するため、テキストの指定は特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

心躍る、3世紀にわたる数学者たちの、挫折と栄光と感動の物語として次を推奨する。
 ○サイモン・シン著・青木薫訳『フェルマーの最終定理』新潮社(2006年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 数の世界はどのようにして発見、発展させられてきたか。数学史を織り交ぜながら述べる。
2. 数学的な考え方の紹介。数(や図形)の問題を皆で考える。ただし、予備知識をなるべく仮定せず考えて欲しいと思われる問題。
 - 1回 古代の数学【バビロニア】、【エジプト】、【中国】、【インド】
 - 2回 かぞえること【数の発見】、【数の表記法】、ギリシャ数学のはじまり【ピタゴラス学派】
 - 3回 古代ギリシャの数学者・哲学者たち【ギリシャ三大作図問題】
 - 4回 円周率とは【 π の歴史】、【ビュフォンの針】
 - 5回 ギリシャ数学の末期【ディオファントスの「算術」】、中世の中国
 - 6回 中世の数学【インド】、【イスラーム】、【ヨーロッパ】、ふしぎの黄金比
 - 7回 いろいろな記号の起源、未知数が X になるまでの道のり、方程式の解法をめぐって
 - 8回 究極の折り紙
 - 9回 ルネサンスの絵画と幾何、17世紀の幾何学・確率論・数論
 - 10回 和算について【江戸時代】、19世紀の代数学・数論、19世紀までの主な数学分野
 - 11回 「テーマから考えてみよう」
 - 12回 フェルマーの最終定理が解かれるまで
 - 13回 暗号のはなし【公開鍵暗号】、【法の世界】
 - 14回 技術に生きる現代数学【RSA暗号】
 - 15回 技術に生きる現代数学【ISBN】

成績評価の方法 /Assessment Method

アンケート(毎回)およびレポートによる総合評価。
 「アンケート40%+レポート60%-欠席点数」で評価。3回以上の無断欠席は不可とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予備知識は特に仮定しない。数をたのしんでみようという心構え・やる気が必要である。
 上記の参考文献を読まれるとよい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義中の飲食・私語は禁止。
 携帯電話の電源は切り、鞆の中にしまっておくこと。

キーワード /Keywords

私たちと宗教【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本で生活するわれわれの大多数は、宗教を迷信ないしは縁遠いものと受けとめているのではないだろうか。しかしながら諸外国においては、宗教は抜き差しならない切実な問題であり、社会に大きな位置を占めて人々の倫理観や思考を深く規制している。振り返ってみれば、われわれ自身も実は決して無宗教というわけではない。この授業を通して人間社会における宗教の重要性を認識してもらいたい。授業ではとりわけ日本人にとって身近な宗教についての理解を深めてもらう。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

脇本平也『宗教学入門』（講談社学術文庫）
○橋爪大三郎『世界がわかる宗教社会学入門』（筑摩書房・ちくま文庫）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の概要について
- 2回 問題提起—宗教とはなにか？
- 3回 宗教の諸類型と世界の諸宗教
- 4回 一神教について1（一神教の発生）
- 5回 一神教について2（ユダヤ教）
- 6回 一神教について3（キリスト教）
- 7回 日本人の「宗教」観
- 8回 仏教について1（インドの仏教）
- 9回 仏教について2（中国の仏教）
- 10回 仏教について3（日本の仏教）
- 11回 神道について1（神道の特色）
- 12回 神道について2（神道の形成）
- 13回 神道について3（神道の特色）
- 14回 日本の宗教風土
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 30% レポート... 20% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布した資料は下読みしておくこと。
レポートの作成には数冊の本を読んでもらうことになります。それなりの時間とお金を必要とします。計画的に作業を進めてレポートを提出して下さい。

履修上の注意 /Remarks

レポートを提出しない者は、期末試験を受験することができません。
レポート提出の遅延は認めません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

宗教を信じることを勧める授業ではありません。宗教というものが人間や文化にとって重要な位置を占めるものであることを理解し、日本の宗教風土の特色を理解してもらって授業です。

キーワード /Keywords

宗教 一神教 多神教 神道 仏教

思想と現代【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

19世紀末から20世紀にかけて発展してきた重要な思想の流れを解説する。この時代がいわゆる「哲学の終焉」以降の時代であることを意識しつつ、その中から生まれてきた新たな哲学的発想（実存思想・精神分析・フェミニズム）に着目してゆく。これらの発想をヒントにすることで、自我の成立、および他者との関係性について複眼的な思索ができるようになることを本授業の目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『哲学の歴史 第9巻—反哲学と世紀末』中央公論新社、2007年。
- 『哲学の歴史 第12巻—実存・構造・他者』中央公論新社、2008年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 実存の思想(1)【概説】
- 3回 実存の思想(2)【キルケゴール】
- 4回 実存の思想(3)【ハイデガー】
- 5回 実存の思想(4)【サルトル】
- 6回 実存の思想(5)【メルロ=ポンティ】
- 7回 中間総括(確認テスト)
- 8回 精神分析の思想(1)【フロイト1】
- 9回 精神分析の思想(2)【フロイト2】
- 10回 精神分析の思想(3)【メラニー・クライン1】
- 11回 精神分析の思想(4)【メラニー・クライン2】
- 12回 フェミニズムの思想(1)【第一波】
- 13回 フェミニズムの思想(2)【第二波】
- 14回 フェミニズムの思想(3)【現代】
- 15回 総括と補足

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト...50% 期末レポート...50%
(※確認テストを受験していない者は、期末レポート提出の権利を失う)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

第7回にテスト(第3回~第6回の内容確認)を実施するので、受講希望者は遅くとも第3週目から出席しておく必要がある。なお、このテストを受験していない者には単位を認めないので、あらかじめ注意しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ろくに事前連絡もなく、授業最終日になってから「忙しくて確認テスト受けられませんでした」などと言いに来る者もいるが、この手のチープな言い訳はまったく通用しない。その場合は当然不合格となる。
本授業に対しては、一切の甘えを捨てた上で取り組んでほしい。また、授業内で指示する課題内容から外れたレポート、無断引用(コピペ等)が発覚したレポートは即座に0点となる。

キーワード /Keywords

文化と表象【昼】

担当者名 /Instructor 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、表象概念の基礎を理解し、表象論の視点・テーマのひろがりを知ることを目的としている。受講者は、講義を受けるなかで各自の生活環境を「表象」という視点から見つめ直すことが求められる。
まず前半の講義では表象論事始めとして、理論的背景の説明や、現代のコマーシャル、歴史上の風刺画などをとりあげてイメージとしての〈日本〉について多様な角度から言及するなかで、表象研究の導入をおこなう。
次に比較分析の例として映画を原作と比べて、その差異について論じる。さらに、後半では、テーマ研究として具体的なテーマに焦点をしばり、表象についての理解を深めていく。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 【表象論事始め】 理論的背景
- 3回 イメージとしての〈日本〉①
- 4回 イメージとしての〈日本〉②
- 5回 イメージとしての〈日本〉③
- 6回 中間テスト
- 7回 【表象分析事始め】方法としての「比較」
- 8回 映画分析①
- 9回 映画分析②
- 10回 【テーマ研究】表象を論じるためのテーマ
- 11回 戦争と表象①
- 12回 戦争と表象②
- 13回 戦争と表象③
- 14回 テーマ研究をふりかえって
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(課題・コメントカードなど) ... 10% 中間・期末テスト ... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習は特に必要ないが、毎回の授業を復習するなかで、各自の身近な生活環境から問題をつねに内省的に「発見」することが求められるので、緊張感をもった態度で受講してほしい。単位取得のためには、2回の試験において十分な準備が要求される。全体的にハードなプログラムであることを受講希望者は意識しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

芸術と人間【昼】

担当者名 /Instructor 花田 伸一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国内外の現代美術の事例を、鑑賞・趣味の対象としてではなく、批評・実践のツールとして紹介します。必要に応じて美術以外の諸分野も取り上げます。

教科書 /Textbooks

ナシ

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

今道友信『美について』(講談社現代新書)
佐々木健一『美学への招待』(中公新書)
暮沢剛巳編『現代美術を知るクリティカル・ワーズ』(フィルムアート社)
ほか、できるかぎり近辺の展覧会に足を運び、現場での実体験をすること。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 美をめぐる言葉の整理：美×美術×美術館×美学
- 2回 作品鑑賞1：学内作品鑑賞
- 3回 作品鑑賞2：抽象美術作品鑑賞
- 4回 美術の現場1：美術館展覧会の舞台裏
- 5回 美術の現場2：アートプロジェクトとは
- 6回 美術と近代化1：近代日本美術の成立
- 7回 美術と近代化2：東南アジアの現在：ラオス、カンボジア
- 8回 美術と近代化3：東南アジアの現在：タイ
- 9回 芸術と権力：ファシズムと祝祭性について
- 10回 芸術と宗教：ニューエイジについて
- 11回 美術と教育：美術教育の現場から
- 12回 芸術と生活：限界芸術、民芸
- 13回 美術と地域：福岡県内プロジェクト事例紹介
- 14回 北九州・福岡アートシーン紹介1
- 15回 北九州・福岡アートシーン紹介2

成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

上記の講義内容は予告なしに変更する場合があります。
また講義室内での受講にとどまらず、できる限り近隣の美術館・ギャラリー等で行われる展覧会・レクチャー・トーク・ワークショップ等に足を運び、「現場」での体験と省察とを心がけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

戦争と人間【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター, 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「戦争」は、人類が抱え込んできた難問であり続けている。「獣」は人間のような過剰な殺戮をおこなわないという観察的事実から、過剰な殺戮・すなわち虐殺こそが人間の特色であるという見方も、不可能ではない。戦争とは、人間にとってどのような営みなのか、という根源的な問いを踏まえ、近代の総力戦以降、私たちはどのように戦争を遂行し、またどのような体験をしてきたのか、幅広く戦争という営みを見据えたい。そして人間にとっての戦争を、政治、文化、記憶と歴史そして哲学と倫理等の側面から多角的に検証し、戦争と共生のはざままで今日の我々が共有すべき問いについて考える。

教科書 /Textbooks

必要な資料はプリントとして配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

この授業は、複数の教員が各々の専門と関心から同一テーマに従って輪番で講義を進行させてゆく「オムニバス授業」である。政治学(戸蒔)、政治・外交史(小林)、哲学・倫理学(伊原木)を中心とし、他学部の教員も加えて授業展開してゆく予定である。授業テーマや担当者については初回授業で説明するので、必ず出席すること。参考までに、昨年度の共通テーマは「敵概念」であった。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート 80% 授業内小レポート 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代正義論【昼】

担当者名 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。

まずは、初回に現代正義論の流れを概観する。その上で、次に現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題を取りあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植といった具体的で身近な生命倫理にかかわる諸問題を取りあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジュメや資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』(早川書房)
- マイケル・サンデル『ハーバード白熱教室講義録+東大特別授業(上)(下)』(早川書房)
- 盛山和夫『リベラリズムとは何か』(勁草書房)
- 平井亮輔編『正義』(嵯峨野書院)
- 川本隆史『現代倫理学の冒険』(創文社)
- 川本隆史『ロールズ - 正義の原理』(講談社)
- 葛生栄二郎他『いのちの法と倫理』(法律文化社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 現代正義論とは ~ 本講義の構成と概説
- 第2回 現代正義論とは(続)
- 第3回 「正義」の応用問題(生命倫理と法)[~第7回まで]
脳死・臓器移植①
- 第4回 脳死・臓器移植②
- 第5回 脳死・臓器移植③
- 第6回 安楽死・尊厳死① 基本概念の整理と国内の状況
- 第7回 安楽死・尊厳死② 諸外国の状況
- 第8回 現代正義論① ~ ロールズの正義論
- 第9回 現代正義論② ~ ノージックのリバタリアニズム
- 第10回 現代正義論③ ~ 共同体主義と多文化主義
- 第11回 現代正義論④ ~ アマルティア・センの正義論
- 第12回 現代正義論⑤ ~ センとロールズ・ノージック
- 第13回 現代正義論⑥ ~ 狭義の(ロールズ以後の)「現代正義論」のまとめ
- 第14回 法と正義 ~ 狭義の現代正義論と正義の応用問題
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80% 講義中に課す感想文...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回の講義で配布したレジュメや資料をきちんと読み込み、理解すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

NHK教育テレビで放送され、話題となったマイケル・サンデルの「ハーバード白熱教室」の番組を見ておけば、本講義の後半部の理解にとって、大変に役にたつと思います。

キーワード /Keywords

ロールズ ノージック サンデル 正義 脳死 尊厳死

民主主義とは何か【昼】

担当者名 /Instructor 中道 壽一 / Hisakazu Nakamichi / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

かつて「危険な思想」であった民主主義は、今やすべてのものを正当化するレトリックとなり、きわめて形式的なものとなっている。そこで、本講義では、民主主義に関する議論を活性化するためのいくつかの素材、論点、概念などを提示し、「民主主義とは何か」を問い直してみたい。

教科書 /Textbooks

レジュメの配布を基本とするが、S・シャピロ『民主主義論の現状』（慶応義塾大学出版会、2010年）（○）も多く用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中道編『現代デモクラシー論のトポグラフィー』（日本経済評論社、2003年）（○）
J・リンズほか『大統領制民主主義の失敗』（南窓社、2003年）（○）
L・ダイヤモンドほか『シビリアン・コントロールとデモクラシー』（刀水書房、2006年）（○）
中道『政治思想のデッサン』（ミネルヴァ書房、2006年）（○）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 開講の辞・グローバル化と民主主義【第三の波】【市民社会】
第2 - 3回 「デモス」と「クラティア」について【イソノミア】【イセゴリア】【イソモイリア】
第4 - 5回 二つの民主主義伝統について【G・セイバイン】【自由】【平等】
第6 - 7回 近代市民革命と自由民主主義について【C・シュミット】【自由主義】【民主主義】
第8 - 9回 現代民主主義の諸類型【エリート主義】【参加民主主義】【共生の民主主義論】
第10 - 11回 議院内閣制民主主義と大統領制民主主義について【政治的安定性】【首相公選制】
第12 - 13回 民主主義批判の思想について【全体主義】【ポスト・デモクラシー】
第14回 デモクラシーの徹底化について【C・ムフ】【多様性】【複数性】
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義への積極的取組状況考慮、小テストによる問題の解説と添削、レポート任意提出可、定期試験と講義への積極的取組などで総合評価
講義への積極的取組 10%、小テスト... 10% レポート(任意) 10% 試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布したレジュメに目を通しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人権論 【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 美枝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「人権」といえば「特別なこと」というイメージを持つかもしれないが、実際には「気づかない」「知らない」ことにより、自分自身の「人権」が侵害されていたり、無意識に他者の「人権」を侵害しているということがある。本講義では、「人権とは何か」という基本的な概念をふまえて、現存する「人権課題」の実情や社会的背景を考察していく。その上で、自分自身がどのように「人権」と向き合っていくのかを問い直す機会としたい。

目標

1. 人権とは何かについての理論的概念が理解できる。
2. 人権獲得の歴史を体系的に理解できる。
3. 現代社会における様々な人権課題について、その事例を説明できる。
4. 自分自身と人権との関わりが理解できる。

教科書 /Textbooks

『人権とは何か』（横田耕一著 / 福岡県人権研究所発行 ¥1000）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『不思議な力 夜間中学』（宇多出版企画発行）
 『部落問題資料と解説』（解放出版社発行）
 必要な参考書は授業時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 自分にとっての人権課題
- 2 「人権とは何か」
- 3 「人権獲得の歴史」
- 4 「世界人権宣言採択の歴史的経緯と意義」
- 5 「部落問題について」
- 6 「部落差別の事例と当事者の声」
- 7 「在日外国人と人権課題」
- 8 「在日コリアンについて」
- 9 「ハンセン病とは、元患者の事例」
- 10 「識字問題～読み書きができないことがもたらす人権侵害」
- 11 「教育と人権～教育を受ける権利が保障されていない人たちの状況」
- 12 「障害者の立場からみる人権課題」
- 13 「戦争と人権 / 女性と戦争」
- 14 「アジアの人権状況」
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 50% 期末テスト 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

人権論 【昼】

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日常生活の中にあるさまざまな人権課題に関心を持ち、授業のミニレポートまたは感想用紙に反映させることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

私語は厳禁

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生自身が持つ「学ぶ権利」を認識して授業に取り組んでほしい。

キーワード /Keywords

「すべての人」「人間らしく生きる」

ジェンダー論 【昼】

担当者名 /Instructor 力武 由美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

なぜ男言葉と女言葉があるのか、なぜ女性の大芸術家は現れないのか、なぜ「男は仕事、女は家事・育児・介護」は自然な役割だと思われているのか、なぜ男女の賃金格差があるのか、なぜ政治学や法学・科学の分野に女性教員や女子学生が少ないのか、なぜ戦時・平時にかかわらず女性に対して暴力が振るわれるのか-そのような日常的な「当たり前」をジェンダーの視点で問い直すことで、社会や文化に潜むジェンダー・ポリティクスを読み解く視点と理論を学ぶ。

教科書 /Textbooks

『ジェンダー・スタディーズ-女性学・男性学を学ぶ』（牟田和恵編）大阪大学出版会 2,520円
適宜、補足資料を配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『岩波女性学事典』（井上輝子・上野千鶴子・江原由美子・大沢真理・加納実紀代編）岩波書店 4,830円
『フェミニズム理論辞典』（マギー・ハム著）明石書店 7,140円
R.W. Connell, Gender: Short Introduction, Polity, 2003 .

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

- 1回 日本語とジェンダー-日本の戦後から現代までの歌謡曲【女言葉・男言葉】
- 2回 ジェンダー・リテラシーで読み解く文学-村上春樹作・小説『ノルウエイの森』【眼差し】
- 3回 現代アートとジェンダー-映画『ロダンが愛したカミーユ・クローデル』【制度】
- 4回 男もつらいよ-アーサー・ミラー作・戯曲『セールスマンの死』【男らしさ】【性別役割分業】
- 5回 ジェンダー家族を超えて-週刊誌『女性自身』にみる皇室家族【近代家族】
- 6回 セクシュアリティを考える-あだち充作・マンガアニメ『タッチ』【ホモソーシャルな関係】【性のダブル・スタンダード】
- 7回 学校教育の今昔-学園ものTVドラマの系譜【ジェンダー・トラッキング】【隠れたカリキュラム】
- 8回 社会保障とジェンダー-米映画『フローズン・リバー』【シングル・マザー】【貧困の女性化】
- 9回 ジェンダーの視点からみる農業-エレン・グラスゴー作・小説『不毛の大地』【家族経営協定】
- 10回 アジア現代女性史の試み-ミュージカル『ミス・サイゴン』【女性に対する暴力】
- 11回 女性差別撤廃条約と人権-絵本『世界中のひまわり姫へ』【民法】【均等法】【DV防止法】
- 12回 ジェンダーと平和学-女性戦士の系譜『リボンの騎士』『風の谷のナウシカ』【平和構築】
- 13回 グローバリゼーションと労働市場-比映画『ケア・ギバー』【移住労働】【性別分業の再配置】
- 14回 テートDV-TVドラマ「ラスト・フレンズ」【ドメスティック・バイオレンス(DV)】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼン...30%、レポート...30%、期末試験...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書、資料は事前に読んでおくこと。
ワークショップでのプレゼンにはパワーポイントを使用するため、プレゼンおよびパソコンPPT作成スキルを身につけておくこと。PPTは8枚にまとめること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

メディア表現、ジェンダー不平等な法制度の改正、日常的な会話・風景をジェンダーの視点で問い直す作業を日頃から行い、授業中の発言、プレゼン、レポート、期末試験に反映させること。

ジェンダー論【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

キーワード /Keywords

「ジェンダー」「セクシュアリティ」「ポリティクス」「グローバル化」

障がい学【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「障害」という否定的なイメージで捉えられることが少なくないが、本講義では、「文化」といった視点から「障害」という概念を捉えなおし、異文化が共存・共生していくための阻害要因や問題点を浮き彫りにしていくとともに、共存・共生社会を実現するための考え方を学ぶ。障害者問題をテーマとしたテレビドラマ等にも随時ふれながら、身近な問題として考えていく。また、ゲスト・スピーカーとして、当事者や家族、支援者にもお話をうかがう予定ている。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
- 第2回：「障がい学」とは【障害学】【障がい学】
- 第3回～4回：障害の捉え方【医療モデル】【社会モデル】【文化モデル】
- 第5回～第8回：「文化モデル」の可能性、自閉症児者との共生をめぐる【文化モデル】【文化相対主義】【自閉症】
- 第9回～12回：日本の福祉制度の現状と課題【当事者の声】
- 第13回～14回：自己の問題としての障がい
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

共生の作法【昼】

担当者名 /Instructor 山本 光英、法学部教員

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代社会は、国家としても個人としても、さまざまな極めて複雑な関係から成り立っている。我々は個人としてどのような関係の中で生活しているのか、どのような関係の中で生活すればよいのかを考えなければならない。我々の生活が、およそ一人では成り立たない以上、他者との関係、すなわち、人と人との関係、人と国家との関係、国家と国家との関係、世代と世代との関係、人と自然との関係などさまざまな関係の中で成り立っていることを考えなければならない。他者との共存ないし共生は我々の生活には不可欠なのであり、そのためにお互いの良好な関係を維持し、これを発展させるためには、お互いを守るべきルール、平たくいえばマナー（作法といってよい）を知ることが必要である。今現在、そのような他者との関係がどのようになっているのかを考え、そして、これらの関係をどのように維持し、あるいは改善しなければならないかを考えるのが本講座の目的である。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 開講の辞、規範意識とは何か（3銭の電気窃盗）（山本）
- 第2回 裁判とは何か（民事裁判、刑事裁判、行政裁判、裁判の関係者など）（岡本）
- 第3回 相隣関係とは何か（隣接する土地所有権相互の利用を調整することの意味）（福本）
- 第4回 民事小額訴訟とは何か（小池）
- 第5回 基本的人権とは何か（基本的人権と公共の福祉、法の下での平等、プライバシーの権利、国民相互間の基本的人権など）（植木）
- 第6回 社会福祉の視点から（狭間）
- 第7回 雇用とは何か（雇用関係の成立、雇用関係の展開、雇用関係の終了）（津田）
- 第8回 犯罪とは何か（構成要件、違法、責任、罪刑法定主義）（大杉）
- 第9回 契約とは何か（法律関係の主体、契約自由の原則、契約の成立と効力、契約の履行など）（中山）
- 第10回 財産とは何か（さまざまな財産、物権と債権、財産権の保障、財産権とその制約、財産権と公共の福祉など）（中山）
- 第11回 労働者の権利と生活の保障（労働法の出現、社会法の原理、労働法の内容、争議権と公共の福祉、社会保障など）（津田）
- 第12回 生存と環境保護（公害をめぐる法規制、環境保護政策の展開、循環型社会へ向けての法規制、個人・国境・世代をこえる環境問題など）（岡本）
- 第13回 国際社会と日本（二宮）
- 第14回 Pacta sunt servanda とは何か（「契約」と「約束の違い、契約の成立から終了までのプロセス）（福本）
- 第15回（予備日）

成績評価の方法 /Assessment Method

- 原則として、学期末に各担当教員が講義したテーマの中から3つ選択してレポート（計3本）を提出してもらい、その内容によって評価する。
- ①受講者は各講義のテーマの中から3つ指定された課題につき、レポートを計3本作成して提出すること。3本に満たないものは不可とする。
 - ②レポートの様式は問わない。ただし、各レポート2000字以上とする。
 - ③3本のレポートは別々に綴じ、各々に所属学科・学年・学籍番号・氏名・テーマ・講義担当教員名を必ず明記すること。
 - ④3本のレポートは各100点満点として採点し、その平均点で評価する。
 - ⑤レポートは、自筆による（鉛筆書きは不可、パソコン・ワープロで書いたものは不可とする）。
 - ⑥授業態度が著しく悪いと判断される受講者は、レポート提出があっても評価されないことがある。
 - ⑦授業態度が悪いと判断される者は、レポート提出があっても評価されないことがある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容に合わせて必要と思われる情報を収集しておくこと。復習が必要です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

レポート課題は、全ての授業終了後に学籍番号に応じて指定しますから、全て授業に出席していなければ、レポートは書けないこととなりますので注意してください。

共生の作法【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

キーワード /Keywords

北九州学【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この科目は、地域社会の発見学です。私たちの大学のある北九州、この地域の歴史や伝統文化を知り、人々の暮らしや風土に根ざした心を理解し、ものづくりやまちづくりへの取り組みを確認してみようと思います。北九州の発見を通じて、生活するためのヒント、他の文化とつながる知恵や未来への発展可能性を開く手がかりを得ようというものです。本年度は、「北九州の政治行政」を講義の主なテーマとします。講義全体のキーワードは『知っとーと！？北九州？？？』です。

教科書 /Textbooks

使用しません。毎回レジュメと資料を配布する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要があれば、その都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 北九州の歴史-小倉藩の治世
- 3回 北九州の歴史-小倉の五街道
- 4回 北九州の歴史-軍都小倉
- 5回 北九州市誕生
- 6回 北九州の政治
- 7回 北九州の住民自治
- 8回 北九州の教育行政
- 9回 北九州の交通行政
- 10回 北九州の環境行政
- 11回 北九州の安全対策
- 12回 北九州の福祉行政
- 13回 北九州のスポーツ行政
- 14回 北九州の観光行政
- 15回 まとめ

* 毎回ゲストをお招きして、各テーマについてお話を伺います。上記の内容は一応の予定です。現在検討中です。講義内容の詳細は開講時に配布します。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の講義への取り組み... 10% 課題... 10% 期末のレポート... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特にありません。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義中にノートをしっかりつけてください。

キーワード /Keywords

市民活動論 【昼】

担当者名 西田 心平 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものが、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。主要な事例をとりあげ、それを柱にしながら授業を進めて行く予定である。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
 - 2回 枠組みの設定
 - 3回 民衆行動の分析①
 - 4回 民衆行動の分析②
 - 5回 市民運動の分析
 - 6回 市民の活動の展開 / 戦前 (上)
 - 7回 市民の活動の展開 / 戦前 (下)
 - 8回 市民の活動の展開 / 戦後 (上)
 - 9回 市民の活動の展開 / 戦後 (下)
 - 10回 市民の活動の展開 / 高度成長期 (上)
 - 11回 市民の活動の展開 / 高度成長期 (下)
 - 12回 市民の活動の展開 / ポスト高度成長期 (上)
 - 13回 市民の活動の展開 / ポスト高度成長期 (下)
 - 14回 市民活動の現在
 - 15回 全体まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極参加... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合がある。その際の積極的な参加が求められる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業と社会【昼】

担当者名 /Instructor 山岡 敏秀 / toshihide yamaoka / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本は、かのアジア太平洋戦争に敗北した。その後の日本は、奇跡的とも言うべき復活・再生（高度成長から安定成長）を果たした。その後、欧米から日本の経営とも賞賛された日本の企業社会であるが、そのピーク＝破壊たる1990年代前半のバブル崩壊を契機として、一転して失われた10年さらには15年とも評価されるにいたっている。

終身雇用（＝ライフタイム・コミットメント、広義には職場共同体感）・年功制や労使協調型経営のシステムは、今や、液状化して剥き出しの資本制経済の荒波にさらされている。日く、ワーキングプア・ネットカフェ難民・格差から貧困。

にもかかわらず、経済政策をリードしている新自由主義（マーケット型資本主義）路線。すなわち市場＝マーケット万能路線である。そこでは、市場から脱落・排除（彼女／彼らはこれを退出という）された者は、もはや回帰不可能な存在として処理されているかのようである。

これまでの日本経済においては、ケインズ型経済政策を基底にして、社会そのものが、こうした人々を支えるセーフティネットをもっていたと判断される。しかし、赤字財政と経済危機という観点から、いよいよ新自由主義なる路線が浸透しているかのようである。

そうすると行き着くところ、社会というものは、必ずしも人々の生命の再生産を所与としないものだろうか？

こうした問題を、日本の企業社会という文脈にひきつけて展開してみようというのが講義のねらいである。

教科書 /Textbooks

テキストは、竹内章郎『新自由主義の嘘』岩波書店、2007年。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

ことに格差と貧困に関わるテーマを扱った雑誌『世界』・岩波新書等の最新の文献。國島・重本・山崎編『「社会と企業」の経営学～新自由主義的経営から社会共生的経営へ～』ミネルヴァ書房（2009年）・見田宗介（真木悠介）の社会学入門に関する文献は一冊、用意したい。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会とは(社会認識の諸類型)。資本制経済(資本家的生産様式)。【社会認識】
- 2回 同上
- 3回 【商品流通】【資本家】【労働者】【市民社会】【資本制経済】【市民法】
現代社会の物質代謝＝商品による商品の生産。現代社会の物質代謝と再生産＝商品流通(C-M-C)による社会の再生産→この商品流通から、ふたつのタイプが見いだされる。→C-M-C(私たち)とM-C-M(資本家)。私たちと資本家は、商品流通のレベルでは仲良く相対しているかのようだ。この市民社会＝市民法レベルでの社会の再生産とその実態(秘密)。
- 4、5回 同上
- 6回 【本源的蓄積過程】【剰余価値】【賃労働関係】 市民社会の歴史的創出＝本源的蓄積過程。商品流通(C-M-C)の内実たるM-C-Mでの剰余価値の生産。資本家と労働者。
- 7、8、9回 同上
- 10回【現代社会における二者闘争性(白と黒)】【労働組合】【福祉国家】【ケインズ政策】
市民社会と階級関係の二者闘争性。セーフティネット装置＝福祉国家。戦後のケインズ政策。
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 福祉国家の行き詰まりから、資本主義の原点回帰へ。新自由主義の台頭。【新自由主義】
- 14回 システム統合と社会統合。マーケットとその外側(生活世界)。【システム統合】【社会統合】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%、およびボーナスとして、レポート...10%と小テスト...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ①、テキストを用意すること。②、レジュメだけにしがみつかない。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

【商品流通】【資本家】【労働者】【市民社会】【資本制経済】【市民法】【本源的蓄積過程】【剰余価値】【賃労働関係】【現代社会における二者闘争性（白と黒）】【労働組合】【福祉国家】【ケインズ政策】【新自由主義】【システム統合】【社会統合】

つながりの人間学【昼】

担当者名 /Instructor 地域共生教育センター 坂本毅啓、石谷百合加、奥村貴仁

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、地域共生教育センター担当科目として開講します。
地域貢献活動へ参加する入門科目として、以下の6点をねらいとします。

- ①地域活動に関する実践的方法論の習得
- ②マッチング型などへの参加学生への指導
- ③プロジェクト型等は基盤演習
- ④実際に1つ以上の地域活動を体験することを通して、地域活動への参加意欲を高める
- ⑤既に地域活動に参加している学生によるシンポジウムを開催し、参加意欲を高める。
- ⑥地域活動家による講演会を開催し、地域活動への理解を深める。

教科書 /Textbooks

講義時に適宜紹介

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に適宜紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回目 ガイダンス
講義の目的、留意事項、421Lab.の紹介
- 第2回目 地域活動概論①
地域活動の紹介、北九州市への理解
- 第3回目 地域活動概論②
コミュニティワークの紹介と応用
- 第4回目 地域活動家特別講演会(予定)
- 第5回目 地域活動参加学生によるシンポジウム(予定)
- 第6回目 演習:基本的コミュニケーション技術
話し方、姿勢・立ち位置、表情
- 第7回目 プロジェクトドライブ①
情報収集
- 第8回目 プロジェクトドライブ②
企画作成
- 第9回目 プロジェクトドライブ③
模擬作成したプロジェクトのプレゼンテーション
- 第10回目 プロジェクトドライブ④
記録、報告、連絡、相談
- 第11回目 マナー講座①
- 第12回目 マナー講座②
- 第13回目 地域活動と価値観
- 第14回目 地域活動とキャリアプラン
- 第15回目 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中に課す小レポート(50点)
期末レポート試験(50点)
合計100点評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講を希望するものは、ボランティア活動、地域活動に関する文献を1冊以上は読んでおくこと。

つながりの人間学 【昼】

履修上の注意 /Remarks

2011年度から初めて地域共生教育センターが担当します。詳細については、第1回目の講義時に資料を配布しますので、そちらを必ずご参考ください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目は、2010年度に開設された地域共生教育センターが提供する初めての科目です。この科目をきっかけとして地域活動へ参加していただきたいと思います。また、より深く地域活動をとらえて学びたい方は、基盤教育の教養基礎演習、教養演習も履修していただきたいです。

キーワード /Keywords

地域活動、ボランティア、キャリア観形成

現代社会と倫理【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代社会の中で生じている倫理的問題のいくつかを考察しながら、実践倫理学の基礎を学ぶ。「われわれ現代人は生と死の問題、差別と平等の問題にどう立ち向かうべきなのか」という問いかけを中心に、個々の社会問題に対する批判的思考の育成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ピーター・シンガー『実践の倫理 新版』(山内友三郎・塚崎智監訳)昭和堂、1999年。
- 加藤尚武・飯田亘之編『バイオエシックスの基礎』東海大学出版会、1988年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTROダクシヨN
- 2回 現代における人命の価値(1)【生命の神聖説】
- 3回 現代における人命の価値(2)【積極的行為と消極的行為】
- 4回 現代における人命の価値(3)【最大幸福原理】
- 5回 現代における人命の価値(4)【完全義務と不完全義務】
- 6回 現代における人命の価値(5)【自己意識】、【FLO】
- 7回 小テスト+解説
- 8回 現代における差別の問題(1)【人種差別】
- 9回 現代における差別の問題(2)【種差別】
- 10回 現代における差別の問題(3)【間接的功利主義】
- 11回 現代における公平性の意義(1)【共有地の悲劇】、【救命ボート倫理】
- 12回 現代における公平性の意義(2)【公平主義】
- 13回 現代における公平性の意義(3)【援助義務論】
- 14回 現代における公平性の意義(4)【ケイバビリテイ】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト...30% 学期末試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の概要、より詳しい参考文献の紹介は初回に行なう。
参考文献に挙げた『バイオエシックスの基礎』に収められた論文を一部授業の素材にするので、簡単にでも目を通しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

今年度より本授業の期末試験は持ち込みが一切不可(プリント・ノート類も禁止)となる。
また、それに応じて成績評価のハードルもかなり高くなる。このため、受講者には継続的な学習意欲とそれ相応の記憶力が要求される。この方式変更に伴うリスクと負担をよく理解した上で講義に臨むこと。

キーワード /Keywords

生命 功利主義 義務論 公平性

現代社会の諸問題【昼】

担当者名 山本 光英、法学部法律学科教員
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代社会においては、従来見られなかった問題や、従来潜在的なものであったが近年顕在的となり、議論されるようになった様々な問題がある。われわれはそのような現代的な諸問題をどのように理解し、どのように考えたら良いのであろうか。

本講座は、そのような現代において生起している様々な問題の幾つかを取り上げ、それらの正確な理解と問題解決の方向を考えることを目的とする。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 開講の辞、裁判員制度(山本)
- 第2回 「民法(債権法)改正とその問題点」(福本)
- 第3回 「マイノリティーの人権保障—障害のある人の権利の問題を中心に—」(植木)
- 第4回 「ドメスティックバイオレンスと児童虐待」(小野)
- 第5回 「日本における法の継受」(岡)
- 第6回 「現代正義論の展望」(重松)
- 第7回 「情報公開制度の現状と課題」(岡本)
- 第8回 「M&Aとは何か」(高橋)
- 第9回 「現代型犯罪の原因と予防」(朴)
- 第10回 「フランチャイズ契約とその問題点」(福本)
- 第11回 「現代刑事裁判の諸問題」(吉村)
- 第12回 「保険広告から見えるもの」(今泉)
- 第13回 「脳死と臓器移植」(大杉)
- 第14回 「フランチャイズ契約とその問題点」(福本)
- 第15回 (予備日)

成績評価の方法 /Assessment Method

- 原則として、学期末に各担当教員が講義したテーマの中から3つ選択してレポート(計3本)を提出してもらい、その内容によって評価する。
- ①受講者は各講義のテーマの中から3つ指定された課題につき、レポートを計3本作成して提出すること。3本に満たないものは不可とする。
 - ②レポートの様式は問わない。ただし、各レポート2000字以上とする。
 - ③3本のレポートは別々に綴じ、各々に所属学科・学年・学籍番号・氏名・テーマ・講義担当教員名を必ず明記すること。
 - ④3本のレポートは各100点満点として採点し、その平均点で評価する。
 - ⑤レポートは、自筆による(パソコン・ワープロを用いた記述は不可、鉛筆書きは不可とする)。
 - ⑥授業態度が著しく悪いと判断される受講者は、レポート提出があっても評価されないことがある。
 - ⑦授業態度が悪いと判断される者は、レポート提出があっても評価されないことがある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容に応じて情報を収集し、復習をしておくことが必要です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

レポート課題は、全ての授業終了後に学籍番号に応じて指定しますから、全ての授業に出席しないと書けないことになるので注意してください。

キーワード /Keywords

現代の国際情勢【昼】

担当者名 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

東アジア現代の国際情勢を、ポストコロナリズムという現代思想の問題提起に沿って考察する。

教科書 /Textbooks

姜尚中編『ポストコロナリズム』知の攻略、思想読本4 (作品社、2003) 2000円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中、随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の概要
- 2~3回 なぜ今、ポストコロナリズムなのか (1) (2)
- 4回 第IV部の総論 姜尚中論文
- 5回 第II部の総論 本橋哲也論文
- 6回 第II部の「近代」 松葉祥一論文
- 7回 第II部の「性・文化」 竹村・毛利論文
- 8回 第II部の「日本」 小森陽一論文
- 9回 第II部の「第三世界」 小倉英敬論文
- 10回 第II部の「国家」 巒田竜蔵論文
- 11回 第III部の1 朴一・村井寛志論文
- 12回 第III部の2、趙慶喜論文
- 13回 第III部の3、高橋哲也論文
- 14回 第III部の4、野村・鄭論文
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告レジュメ1回(10%)、レポート3回(90%、1回30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書に登場する概念、理論などを自主的に勉強すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際社会論 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業のテーマは「日本における民族関係の社会的考察」である。
グローバル化の進展に伴って、定住外国人の「統合」や多文化共生の地域づくりが重要な課題となってきた。こうした課題について考えるための基礎知識を提供する。また、グローバルな現象をローカルな場（地域）において実証的に把握していく方法についても学ぶ。
授業では、まずグローバル化の現状を紹介するとともに日本への人の流れについて概説する。
ついで、日本における出入国管理の仕組み等について紹介した後、①これまで1世紀近くにわたって形成されてきた在日韓国・朝鮮人と日本人との民族関係、②近年顕著になった日系ブラジル人と日本人との民族関係について紹介し、共生社会の形成メカニズムについて考察する。

教科書 /Textbooks

なし（プリント配布）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『民族関係における結合と分離』、谷富夫編、ミネルヴァ書房
 - 『顔の見えない定住化 - 日系ブラジル人と国家・市場・移民ネットワーク』、梶田孝道・丹野清人・樋口直人著、名古屋大学出版会
 - 『在日韓国・朝鮮人の「世界」と「帝国」国家』、西成田豊著、東京大学出版会
- その他、多数あるので、講義の中で、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 テーマの紹介
- 第2回 グローバル化の進展と国際労働力移動【グローバル化】【エスニシティ】
- 第3回 出入国管理について【外国人登録】【出入国管理】
- 第4回 エスニシティ理論【道具主義】【原初主義】【分断労働市場】【オリエンタリズム】
- 第5回 在日韓国・朝鮮人と日系ブラジル人について【特別永住者】【定住者】【永住者】
- 第6回 日本と朝鮮半島の近現代史①（外国語学部総田先生による講義）
- 第7回 日本と朝鮮半島の近現代史②（外国語学部総田先生による講義）
- 第8回 日本と朝鮮半島の近現代史③（外国語学部総田先生による講義）
- 第9回 在日韓国・朝鮮人と日本社会①【民族関係】
- 第10回 在日韓国・朝鮮人と日本社会②【剥奪仮説】
- 第11回 日系ブラジル人と日本社会①【国境を越えた雇用システム】
- 第12回 日系ブラジル人と日本社会②【顔の見えない定住化】
- 第13回 日系ブラジル人と日本社会③【非正規雇用】【教育達成】
- 第14回 統合と多文化共生社会の形成に向けて - 国・自治体・NGOの役割
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 15 期末試験... 85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で配布したプリントをよく読んでくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際紛争と国連【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際社会の性質を簡単に紹介した上で、国連を中心として、国際機構が世界の安全保障において、どんな役割を有しているのかを考えることが目的です。現代社会の理解には、それまでの歴史的展開の理解が不可欠であると考えますので、時系列的に古い話から、徐々に現代にテーマを移してゆくようにします。

教科書 /Textbooks

テキストは指定しません。各テーマごとにレジュメ(説明プリント)を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回～第3回 国際機構の定義～「国際」とは何か？ 国際機構とは何か？ 主権国家とは何か
- 第4回～第5回 国際機構の歴史～国際機構の誕生、国際連盟の画期性、国際連盟の欠陥
- 第6回～第8回 国際連合の成立～国際連合の創設過程、国際連合の成立
- 第9回～第10回 国際連合の展開I～国連軍、安保理の機能不全
- 第11回～第12回 国際連合の展開II～日本の国連加盟、途上国の台頭、中国の代表権問題
- 第13回 冷戦終結と国連～冷戦終結による変化、変化への対応、成功と失敗
- 第14回 国際安全保障の展開～国際社会が協力して安全保障をし始めたのはいつ？なぜ？国連の安全保障の特徴
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民族・エスニシティ問題【昼】

担当者名 /Instructor 久木 尚志 / 国際関係学科, 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

冷戦終了後、世界各地で民族紛争が激化している。また、移民をめぐる動きやエスニシティ・人種に関する議論も活発化している。これらは、きわめて新しい政治現象であると思われがちであるが、決してそうではない。民族・エスニシティ問題は、政治・経済・文化・社会のさまざまな領域にかかわるきわめて現代的な事柄であるが、同時に、それが現在にいたる歴史的経緯もまた重要である。この授業では、民族・エスニシティ問題に関する史的・総合的な理解を目指す。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション / アメリカ合衆国における移民・エスニシティ
- 2回 同化・統合の諸概念 【るつぽ】【サラダ・ポウル】
- 3回 黒人史と公民権運動 【アフリカ系アメリカ人】【公民権運動】
- 4回 マイノリティをめぐる政策：アフーマティブ・アクション(1) 【起源】
- 5回 マイノリティをめぐる政策：アフーマティブ・アクション(2) 【展開】
- 6回 自らを知る：日系アメリカ人 【強制収容】【第二次世界大戦】
- 7回 今日のエスニシティ状況 【ヒスパニック】【不法移民】
- 8回 欧州における「ネイション」と「エスニシティ」【ネイション】【エスニシティ】
- 9回 イギリスにおける民族とエスニシティ(1) 【連合王国】【ロンドン同時爆破事件】
- 10回 イギリスにおける民族とエスニシティ(2) 【オルダム暴動】【多文化主義】
- 11回 イギリスにおける民族とエスニシティ(3) 【ブリクストン暴動】【スカーマン報告】
- 12回 イギリスにおける民族とエスニシティ(4) 【サッチャー主義】【イスラム嫌い】
- 13回 フランスにおける民族とエスニシティ(1) 【都市郊外暴動】【サルコジ】
- 14回 フランスにおける民族とエスニシティ(2) 【ライシテ】【スカーフ問題】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを、授業の事前事後に学習し、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

開発と統治【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科, 伊野 憲治 / 基盤教育センター
申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

グローバル化が刻々と進行している中、現在、持続可能な社会の構築が求められています。なかにはその目標に向かって進んでいる国や地域がある一方で、紛争や対立を繰り返している国や地域もあります。本講義では各国や地域を熟知・精通した教員が、各自が考える「ガバナンス（統治）」の意味を世界各地の国や地域社会の具体的な実例を用いて説明します。そして、最後に受講生にとって「ガバナンス」とは何なのかについてグループ・ワークを通じて回答を出してもらいます。

教科書 /Textbooks

その都度配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『○○を知るための○章』シリーズ(明石書店)、特にミャンマー、バングラデシュ、韓国を参照のこと。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 「開発と統治」をはじめるにあたって		担当：三宅
2回 民主化問題を考える視座(1)	【民主化問題】	担当：伊野
3回 民主化問題を考える視座(2)		担当：伊野
4回 理論と現実-ミャンマーの民主化をめぐる	【ミャンマー】	担当：伊野
5回 援助と民主主義：バングラデシュの事例	【援助】	担当：チョウドリ・三宅
6回 選挙を通して見たバングラデシュの政治活動	【バングラデシュ】	担当：チョウドリ・三宅
7回 途上国と一村一品運動	【一村一品運動】	担当：チョウドリ・三宅
8回 グラミン銀行と地域社会のガバナンスの変化	【グラミン銀行】	担当：チョウドリ・三宅
9回 1970年代の韓国の開発と民主化運動	【韓国】	担当：申
10回 韓国：1990年代以降の民主化と環境政策	【環境政策】	担当：申
11回 滞在経験を通して感じた米国のガバナンス	【米国】	担当：申
12回 地域社会から見たガバナンス	【地域社会】	担当：三宅
13回 日本の子ども会を取り巻く環境	【子ども会】	担当：三宅
14回 ガバナンスに関するグループ・ワーク		担当：指名教員
15回 まとめ		担当：三宅

成績評価の方法 /Assessment Method

小課題の提出 ... 30 % 試験 ... 70 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日ごろから世界の動きに注目し、新聞やインターネットなどで情報をキャッチしておくこと。また、時々、小課題を出すので、提出すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

世界と私たちが住む地域は恒常的に結びついています。その結びつきを最終的には理解できるようにします。

キーワード /Keywords

ガバナンス ミャンマー 韓国 バングラデシュ 子供会 グループ・ワーク

グローバル化する経済【昼】

担当者名 /Instructor 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科, 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
魏 芳 / FANG WEI / 経済学科, 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科
安岡 匡也 / Masaya Yasuoka / 経済学科, 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

今日の国際経済を説明するキーワードの一つが、グローバル化である。この講義では、グローバル化とは何か、世界経済への影響、グローバル化の歴史、国や地域による違いを念頭に入れながら、グローバル化を包括的に説明する。日常の新聞・ニュースに登場するグローバル化に関する報道が理解できること、平易な新書を理解できること、さらに、国際人としての基礎的教養を身につけることを目標とする。複数担当者によるオムニバス形式で授業を行う。

教科書 /Textbooks

木暮太一(2010)『経済が世界一シンプルにつかめる本』明日香出版社。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

野田稔(監修)(2010)『ポン!とわかる日本経済』宝島SUGOI文庫。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード) ※適宜、ビデオ学習等をするため、若干のズレがありえます。

第1回	シラバス詳細版配布、授業の説明、イントロダクション	【グローバル化】
第2回	世界で何が起きている?	【サブプライム問題】
第3回	世界で何が起きている?	【WTO】【BRICs】
第4回	商品にまつわる話	【海外進出】【立地】
第5回	商品にまつわる話	【人件費】【為替レート】
第6回	食べ物にまつわる話	【食料自給率】
第7回	食べ物にまつわる話	【エコビジネス】【脱炭素燃料】
第8回	生活環境にまつわる話	【円高・円安】【人件費】
第9回	生活環境にまつわる話	【雇用慣行】【労働移動】
第10回	人の力にまつわる話	【人口減少】【貯蓄率】
第11回	人の力にまつわる話	【年金】
第12回	国の持ち物にまつわる話	【自由貿易】
第13回	国の持ち物にまつわる話	【多国籍企業】
第14回	お金と為替にまつわる話	【基軸通貨】
第15回	お金と為替にまつわる話	【変動相場制】

成績評価の方法 /Assessment Method

ミニテスト(6、7回実施): 20~30%、学期末試験: 70~80%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの該当部分を事前に講読しておくこと。また、必要に応じて配布されるプリントも予習・復習の際に参考にすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

テロリズム論 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

911以降の国際社会を考える上で、もはやテロリズム問題を避けて通ることはできない状況ですが、テロは当然、911以前から歴然と脅威の対象であり続けました。特にわが国は、日本赤軍やオウム真理教など、これまでのテロの「進化」に「貢献」してきたテロの先進国でもあるので、もっとテロリズム全般の知識があってもよいのかなと考えます。この授業は、テロリズムの体系的な理解を得ることを目的とします。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～4回 テロリズムとは何か。
テロの定義の難しさ、佐賀散弾銃乱射事件や秋葉原連続殺傷事件はテロか、911の特異性、テロの定義、テロの特徴、テロのグレーゾーン
- 5回 テロの歴史
テロの起源、19世紀のテロ、アナキスト、国粋主義、ナショナリズム
- 6回～8回 現代テロの登場
国際化(1968年エルアル機ハイジャック)、反米化(TWA機ハイジャック)、無差別化・自爆テロ(1972年ロッド空港事件)、劇場型テロ(ミュンヘンオリンピック事件)
- 9回 反近代・脱近代のテロ
オクラホマシティー連邦ビル爆破テロ、ユナボマー、環境テロなど
- 10回～11回 無差別大量殺戮テロ
オウム真理教地下鉄サリン事件など
- 12回～14回 911米同時多発テロ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際社会と日本【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

21世紀の日本外交の現状を概観した上で、第二次世界大戦後の日本と国際社会の関わりの変化を概観する。講義の軸となるのは三つある。第一は政治面での軸であり、アメリカによる占領改革と独立の回復、冷戦期における日米同盟の発展、そしてポスト冷戦期に進められた日本の国際的役割の再定義が、その主な内容である。第二が経済面での軸であり、アメリカと東アジア諸国との連携の上に高度経済発展を遂げたこと、そして1970年代にはいって経済大国として世界経済の安定に中心的な役割を果たすようになっていったことを取り扱う。そして、第三に文化面での軸であり、西洋思想の吸収と安定した民主主義体制の建設を検討する。このような諸側面を見ることによって歴史的な知識を身に付けるとともに、社会変化を分析する技術を取得することがこの講義の目的である。

教科書 /Textbooks

五百旗頭真編『戦後日本外交史』新版(有斐閣 2007年)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス【21世紀の日本】
- 第2回 敗戦時の日本【ポツダム宣言受諾】【占領軍進駐】【戦犯逮捕】
- 第3回 占領改革【日本国憲法制定】
- 第4回 朝鮮戦争と日米安保条約1【対日講和交渉】【冷戦のアジアへの波及】
- 第5回 朝鮮戦争と日米安保条約2【吉田茂政権】【日米安保条約制定】
- 第6回 自主外交と日本における二大政党制【鳩山一郎政権】【日ソ共同宣言】
- 第7回 岸外交と日米安保条約の改定【日米安保条約改定】【60年安保闘争】
- 第8回 池田政権と高度経済成長【所得倍増】【沖縄問題】
- 第9回 佐藤政権の時代【沖縄復帰】【ベトナム戦争】【米中接近】
- 第10回 石油ショックと日本の新しい役割1【田中角栄政権】【第一次石油ショック】
- 第11回 石油ショックと日本の新しい役割2【角福戦争】【第二次石油ショック】【日米同盟】
- 第12回 中曽根政権と自由主義的改革【中曽根政権】【貿易摩擦】
- 第13回 湾岸戦争と自民政権の崩壊【冷戦の終結】【湾岸戦争】【非自民連立政権】
- 第14回 21世紀における日本と世界【9/11とテロとの戦い】【自公政権】
- 第15回 授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

テスト ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この講義の内容は国際関係の授業とあわせて学習すると、国際関係の発展をよく理解することができるようになります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予習復習をしっかりとください。

キーワード /Keywords

日本政治 歴史 第二次世界大戦後

歴史の読み方【昼】

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

今日でも「サムライ日本」「武士の情け」「武士に二言はない」という言葉にあらわれるように、日本の社会と風土の中に「武士」という存在が大きな影響を与えています。

ここでは古代における武士の登場以来、800年間におよぶ武士の歴史から、中世の武士と近世の武士のモラルの違いやわれわれが知っている「武士道」が江戸時代ではなく近代になって作られたものであることを学びます。

また我が国における近代国家の形成の意味を「廃藩置県」「国語」をキーワードとして学びます。

教科書 /Textbooks

レジユメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 野口実『武家の棟梁の条件』（中公新書）
- 関幸彦『武士の誕生』（日本放送協会出版）
- 元木泰雄『武士の成立』（吉川弘文館）
- 池上英子『名誉と順応-サムライ精神の歴史社会学-』（NTT出版）
- R・ベネディクト『菊と刀』（社会思想社）
- 勝田政治『廃藩置県-「明治国家」が生まれた日』（講談社）
- 長志珠絵『近代日本と国語ナショナリズム』（吉川弘文館）他

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 ガイダンス①授業の進め方
 - 2回 【武士道】の成立①新渡戸稲造の武士道
 - 3回 【武士道】の成立②『鸚鵡籠中記』と『葉隠』
 - 4回 【武士道】の成立③【名誉型個人主義】
 - 5回 『平家物語』を読む①二つの平家物語
 - 6回 『平家物語』を読む②【言葉戦】
 - 7回 武士の起源-【領主】か【職能民】か
 - 8回 東日本型武士団と西日本型武士団-源平の歴史-
 - 9回 【征夷大將軍】とは何か
 - 10回 【廃藩置県】
 - 11回 【戊辰戦争】
 - 12回 【国語】の成立①
 - 12回 【国語】の成立②
 - 13回 【国語】の成立③
 - 14回 【国語】の成立④
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

受講生の人数によって筆記試験もしくは筆記試験と毎回の授業レポートにより評価する。筆記試験と毎回の授業レポートによる場合は、原則として筆記試験50%、授業レポート50%の配分とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

シラバス・レジユメ・参考文献をよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

歴史の読み方II 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

旧憲法下最長の政権担当者であり、日英同盟（1902）、日露戦争（1904 - 05）、韓国併合（1910）を行った桂太郎の生涯（1847 - 1913）を中心に、幕末から大正政変までの明治の政治史を概説します。桂と言えば、「非立憲的政治家」として有名ですが、その実像はどうだったのか。この講義では、木戸孝允から「政府にとって軍隊とは一体何か」ということを学び、やがて、政党政治家に転身しようとして果たせなかった桂の運命的生涯を辿っていきます。

教科書 /Textbooks

小林道彦『日本評伝選・桂太郎』（ミネルヴァ書房、3,000円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『日本の大陸政策1895 - 1914』、○伊藤之雄『日本評伝選・明治天皇』

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 明治維新と桂太郎
- 第3回 ドイツ留学と陸軍の建設
- 第4回 日清戦争への道
- 第5回 政治への目覚め（陸相時代）
- 第6回 伊藤博文との対決（最初の組閣）
- 第7回 日英同盟と日露戦争
- 第8回 国家目標の模索
- 第9回 桂園体制
- 第10回 原敬との駆引き（2回目の組閣）
- 第12回 現状打破への衝動
- 第13回 明治という時代の終わり - 大正政変
- 第14回 桂太郎 - 明治国家の光と影
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「ただ聴くだけ」という受講態度は許されない。講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

桂太郎 政党政治 陸軍 大正デモクラシー

そのとき世界は【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター, 伊野 憲治 / 基盤教育センター
中道 壽一 / Hisakazu Nakamichi / 政策科学科, 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科, 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

世界史を日本史・東洋史・西洋史に分けてとらえるのではなく、同時代に世界ではいったい何が起こっていたのか、そしてそれはどのように相互に関連していたのか、という観点から世界の動きをよりいきいきととらえて、新しい「世界史」を学生諸君に提示したいと思います。今年度は「1960年代の世界」というテーマを設定して、その時の世界の有様を日本、ベトナム、フランス、ドイツ、アメリカ、中国といった地域での動きを中心にオムニバス方式で講義していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示いたします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示いたします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2・3回 日本(小林)【60年安保】、【所得倍増政策】
- 第4・5回 ベトナム(伊野)【ベトナム戦争】
- 第6・7回 フランス(伊原木)【パリ五月革命】
- 第8・9回 ドイツ(中道)【学生運動】
- 第10・11回 アメリカ(寺田)【公民権運動】
- 第12・13回 中国(下野)【文化大革命】
- 第14回 1970年代への展望
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...20%小テスト...20%レポート...60%
上の数値は一応の目安です。実際には、1、各教員担当講義の2コマ目の最後に、出席者に「感想文」を提出してもらいます。一回でも未提出があったら、単位は認定されません。2、レポート提出...6人の教員の中から任意の講義を2つ選び、それについてのレポートを提出してもらいます(課題は別途指示。1,200字×2本)。コピーは不正行為と見なします。3、以上の総合評価で成績評価とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

※講義の順番や担当者(地域)は変更になることもあります。「ただ聴くだけ」という受講態度は許されない。講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

戦後の日本経済【昼】

担当者名 迎 由理男 / mukai yurio / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

第2次世界大戦以降の日本経済の発展過程を講義します。第二次世界大戦の敗戦から日本経済がどのように立ち直り、いかに経済成長を遂げてきたのか、日本的経済システムというのはどのようなものなのか。これらの問題を当時のニュースビデオなどを利用して解説してゆきます。

教科書 /Textbooks

毎回用意するレジュメにしたがって授業を進めます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

第1回授業で参考文献を挙げます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 戦後改革
- 2回 経済復興
- 3回 産業政策の効果
- 4回 メインバンクシステム
- 5回 安定株主化
- 6回 重化学工業化
- 7回 農工間人口移動
- 8回 大衆消費社会
- 9回 エネルギー革命
- 10回 石油危機
- 11回 赤字国債
- 12回 サービス経済化と産業構造の変化
- 13回 債権大国
- 14回 アジアの成長と日本経済
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小テスト25%、期末テスト70%、平常の学習状況5%で評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

前回のレジュメによってしっかり復習してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

都市と農村の生活文化史 【昼】

担当者名 /Instructor 福間 裕爾 / Yuji FUKUMA / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

自由で豊かな暮らしを求めて、人々が都市への集住を強めた20世紀。各地で都市化が進み、農村も相応の変化を強いられてきた。これを「向都離村」という言葉で説明することがあり、都市集住がすべてバラ色ではなかったことを示してきた。にもかかわらず、この傾向は現代においても未だに続いている。果たして、人々を幻惑する都市の魅力とは何か、また農村から都市へと移動する人々が直面した困惑と持ち帰った文化的価値とは何か。

この講義では、都市から農村を見ていくことで、両者のダイナミズムやそのなかに秘められた人々を相対化する技法を考える。また、文献等に残ることが少ない生活の営みをどのように整理し、現場のなかでいかに問題を発見し理論化するか、というフィールドワークの基本にも触れることができる内容としたい。何気ない日常に焦点をあて、そのなかから理論を析出するおもしろさを伝えたい。

教科書 /Textbooks

特定の教科書は用いない。必要な資料はプリントで適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに 「都市の誘惑」 ガイダンス
- 第2回 「都市と農村 / 都会と田舎」 都市と農村のイメージ
- 第3回 「都市の言葉と話芸の誕生」 言葉から都市と農村を見る
- 第4回 「都会という感覚」 都会の指標としての祭礼
- 第5回 「都会のハビトゥス1」 出会いと社交の技法
- 第6回 「都会のハビトゥス2」 結集の理法
- 第7回 「都会のハビトゥス3」 不文律の妙
- 第8回 「都会人の気質」
- 第9回 「三つ子の魂、百まで」 ある日本画家の原風景
- 第10回 「都市の人生と漁村」 人と物の交流と人生儀礼
- 第11回 「都鄙連続論」 都市と農村の繋がりを考える方法
- 第12回 「都鄙連続論の検証」 山笠に見る文化伝播
- 第13回 「都市の再生産」
- 第14回 「都市と農村の身体性」
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートまたは試験 80% 授業中の小レポート等20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「話を聞く」ことを重視する。授業をしっかりと聞き、十分にノートをとること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

もの与人間の歴史【昼】

担当者名 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

特定の「モノ」を取り上げ、「モノ」の製造 / 生産、流通、そして使用など、モノ与人間の関わり方の現場に焦点を絞り、その「モノ」と関わることで、私たちの生活そして社会のあり方などがどのように変容してきたか、「モノ」をめぐる歴史を検討する。今年度は自動車を取りあげる。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献リストは、ガイダンス時に配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 カと近代【蒸気機関、内燃機関、原子力】
- 第3回 自動車の時代の終わり?【ICT、高付加価値生産】
- 第4回 自動車をめぐる国民文化【大衆社会、トクヴィル】
- 第5回 ヘンリー・フォードとアメリカ【ヘンリー・フォード】
- 第6回 内燃機関と身体【職人文化】
- 第7回 フォード・システムと大衆【フォーディズム】
- 第8回 フォード対GM【柔軟な大量生産システム】
- 第9回 ポスト・フォーディズムへ【ポスト・フォーディズム】
- 第10回 自動車と国家【産業政策、安全保障政策】
- 第11回 自動車と都市政治【住宅開発、道路建設、交通事故】
- 第12回 「家庭」という価値と自動車【新中間層】
- 第13回 自動車とメディア【広告、メディア】
- 第14回 自動車と20世紀文明【大衆社会、大量生産】
- 第15回 授業のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 70% レポート30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

近代化をめぐる政治、経済、文化の議論を展開しますので、政治学や経済学、カルチュラル・スタディとあわせて勉強すると、よく授業内容が分かります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自動車から開けていく様々な事柄を紹介しますので、多方面のことに興味を持って勉強して下さい。

キーワード /Keywords

大量生産システム、民主主義、比較文明論

人物と時代の歴史【昼】

担当者名 /Instructor 新村昭雄(文)、三宅博之(法)、乗口眞一郎、山崎勇治

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

歴史の面白さを、特定の代表的な人物を中心として講義して、学生に知らせることを目的とする。
なぜならば、歴史の背後にある人物や文化などを理解することが複雑な今日政治、経済、文化、外交、戦争などの諸現象を理解できるからである。

四人の教員が、日本・アメリカ・インド・英国の代表的な人物について、人物と時代について語る。
はじめに、「剣と禅」に生きた山岡鉄舟と幕末・明治維新について語る。今、武士道(Bushido)が見直されている。核兵器と原子力を抑止するのは結局のところ人間の心しかない。禅と武道を極めた鉄舟もその心を無刀流においた。
江戸時代、上杉鷹山はその儒教的経営で壊滅的な上杉家の財政を見事に立て直した。その技を見てみよう。次に、徳川幕府が始まってまだその礎が固まっていないとき、3代将軍家光の弟・保科正之は江戸幕府の礎を築いた。長い平安の時代が終わり、貴族に代わって武士が台頭したとき、貴族のための仏教に代わって、庶民のために仏教が生まれた。それを代表するのが浄土真宗の親鸞であった。日本古来の縄文信仰(アイヌや南方諸島に残る)や弥生信仰に代わって、聖徳太子(厩戸皇子)は仏教を大和(やまと)の国の根本におかれた。飛鳥・奈良時代、なぜ、インド・中国から渡来した仏教が繁栄したのか。
次にアメリカを代表する人物の話に移る。果たして、オバマ大統領のノーベル平和賞授与は正しかったのか。オバマ大統領の経歴と奴隷解放運動の歴史について語る。そして、歴代大統領とその素顔(リンカーン、ケネディー、クリントン大統領)について。
次に今や中国とともに、次世代を握るインドの話である。まず、マハトマ・ガンディの生きた時代背景の考察=イギリス植民地史について語る。「ガンディ」の映画を鑑賞したのち、マハトマ・ガンディのこだわり=なぜインド人は手紡ぎ車を自身で回すのか?について考える。
最後は、世界大学ランキング1位を維持し続けているケンブリッジ大学を擁する英国について、「世界恐慌を救ったケンブリッジ大学のM・ケインズ」、「湯布院のモデルとなった湖水地方のベアトリクス・ポター」、「『イギリス病』を救った鉄の女、M.サッチャー」について語る。

教科書 /Textbooks

資料を配付します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

それぞれの人物について、自伝や歴史書などを中心に読んでおくこと。
山崎勇治『石炭で栄え滅んだ大英帝国—産業革命からサッチャー改革まで>—』(ミネルヴァ書房、2008年6月)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

日本、アジア、アメリカ、ヨーロッパの歴史の中からテーマを厳選し、講義をする

- 第1回 はじめに。「ラスト・サムライ」山岡鉄舟と幕末・明治維新
- 第2回 江戸時代、壊滅的な藩の財政を立て直した上杉鷹山と儒教的経営
- 第3回 幕府の礎を築いた三代将軍家光の弟・保科正之
- 第4回 親鸞と平安・鎌倉時代
- 第5回 聖徳太子と飛鳥・奈良時代
- 第6回 オバマ大統領のノーベル平和賞授与は正しかったのか
- 第7回 オバマ大統領の経歴と奴隷解放運動の歴史
- 第8回 歴代大統領とその素顔(リンカーン、ケネディー、クリントン大統領)
- 第9回 マハトマ・ガンディの生きた時代背景の考察=イギリス植民地史
- 第10回 「ガンディ」の映画鑑賞
- 第11回 マハトマ・ガンディのこだわり=なぜインド人は手紡ぎ車を自身で回すのか?
- 第12回 明治維新を側面から支援したスコットランド人、トーマス・グラバー
- 第13回 湯布院のモデルとなった湖水地方のベアトリクス・ポター
- 第14回 世界恐慌を救ったケンブリッジ大学のM・ケインズ
- 第15回 「イギリス病」を救った鉄の女、M.サッチャー—総まとめ—

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート(70%)と平常の学習状況(30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講する際に、各回で取り上げる人物やテーマについて図書館等で調べておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

【ラスト・サムライ】【武士道】【幕末・明治維新】【壊滅的な藩の財政を立て直した】【儒教的経営とは】【江戸幕府の礎を築いた】家光の弟・保科正之【民衆に根ざした仏教】【平安・鎌倉時代】【一七条の憲法】【聖徳太子（厩戸皇子）】【飛鳥時代】【オバマ大統領】【ノーベル平和賞】【奴隷解放運動の歴史】【アメリカ歴代大統領】【マハトマ・ガンディ】【イギリス植民地史】【なぜインド人は手紡ぎ車を自身で回すのか】【ヘアトリクス・ポター】【湖水地方】【湯布院】【ケインズと世界恐慌】【サッチャー】【英国病】

教養特講I【昼】

担当者名 /Instructor 田村 慶子 / Keiko Tsuji TAMURA / 政策科学科, 伊野 憲治 / 基盤教育センター
篠崎 香織 / 国際関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

講義名：東南アジアを知ろう！

現代東南アジア諸国の政治を、独立まで遡って、国民国家建設、民主化、経済発展などのプロセスと問題点、アジア経済危機のインパクトとその後の体制変動などを概観する。東南アジア諸国の急激な経済発展や社会変動、アジア経済危機の影響など政治と経済の相互作用とともに、貧困層、女性や子供など弱者に対する視点も講義する。ダイナミックに変動する東南アジアを学ぶ面白さを味わってもらいたい。

テキストには、清水一史・田村慶子・横山豪志編『東南アジア現代政治』（ミネルヴァ書房）を使用する。講義担当者はすべてこの本の執筆者であり、若手・中堅の東南アジア研究者である。受講生は執筆者の講義を直接受けることができるだけでなく、執筆者の東南アジアとの関わりなど興味深いエピソードも聞くことができよう。

教科書 /Textbooks

○清水一史・田村慶子・横山豪志編『東南アジア現代政治』ミネルヴァ書房、2011年3月、予定価格2000円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

上記教科書の各章末に参考文献、読書案内が明記されている。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	授業の説明、オリエンテーション	田村慶子
第2回	東南アジア概論(1)：東南アジアとは何か	田村慶子
第3回	東南アジア概論(2)：国民国家の創造と課題	田村慶子
第4回	マレーシア(1)：独立と国家建設	篠崎香織
第5回	マレーシア(2)：開発体制とその溶解	篠崎香織
第6回	インドネシア(1)：独立と国家建設	横山豪志
第7回	インドネシア(2)：開発体制とその溶解	横山豪志
第8回	ミャンマー(1)：独立と国家建設	伊野憲治
第9回	ミャンマー(2)：独裁政治体制と民主化	伊野憲治
第10回	シンガポール(1)：独立と国家建設	田村慶子
第11回	シンガポール(2)：開発体制と民主化	田村慶子
第12回	ASEAN(1)：ASEANの結成と発展	清水一史
第13回	ASEAN(2)：アジア地域統合に向けて	清水一史
第14回	(講演)「東南アジアの人身取引被害者保護・自立支援プロジェクト」未定	
第15回	まとめと補足	

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト100%・・・各担当者の2回目の講義終了時に30分ほどのテストを実施する。
病気などのやむを得ない理由でテストを受験できなかった受講生にのみ、レポート提出を認める。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各講義の前に、必ず『東南アジア現代政治』の該当する章を読んで予習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この講義を通して、多様な民族、言語、文化、宗教が存在する豊穡で国際色豊かな東南アジアを好きになってください！

キーワード /Keywords

東南アジア、植民地支配、国民国家建設、インドネシア、マレーシア、シンガポール、ミャンマー、ASEAN

教養特講II【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

宇宙、生命、そして人間について、未知なるもののロマンから最先端の技術にいたるまでのトピックに触れながら、科学的なものの見方や考え、文系の学生にとって必要な理科系の素養、社会で通用する「科学力」を身につけることを目標とする。

20世紀後半から21世紀にかけて宇宙と生命の科学は飛躍的に進歩した。それによってもたらされた成果は先端技術という形で我々の身近な生活にすでに着々と根付いている。これらをただ享受するだけではなく、根底にある科学の面白さを理解し学ぶことは、これからの社会を生き抜くために極めて重要である。これまで理科系科目が苦手だった学生もそうでない学生も、本講によって新たな世界への扉を開き、視野の広い心豊かな人間形成の一助としてほしい。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「宇宙と生命の起源 ビッグバンから人類誕生まで」 嶺重慎、小久保英一郎編著 岩波ジュニア新書、2004年
- 「アメリカ版大学生物学の教科書・第2巻」 D. サダヴァ他著、ブルーバックス、2010年
- 「文系のための生命科学」 東京大学生命科学教材書籍編集委員会編、2008年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

宇宙の話題は中尾、生命と人間の話題は日高が担当する。【】内はキーワード。

- 1回 ガイダンス
- 2回 この宇宙のすがた 【ビッグバン】 【銀河】 【太陽系】 【ダークマター・ダークエネルギー】
- 3回 星の一生と生命との関わり 【星の進化】 【元素】 【超新星爆発】 【ブラックホール】
- 4回 太陽の活動と地球の環境 【太陽黒点】 【コロナ】 【太陽風】 【オーロラ】 【地球磁場】
- 5回 天体の衝突と生物絶滅 【小惑星】 【彗星】 【クレータ】 【生物絶滅】
- 6回 もう1つの地球をさがす 【太陽系外惑星探査】 【地球外生命体】
- 7回 地球上の生物共通の文字DNAとは? 【DNA】 【RNA】 【タンパク質】
- 8回 生命の誕生と生物の進化 【生物多様性】 【突然変異】
- 9回 人類のルーツを探れ 【ミトコンドリア】 【DNA鑑定】
- 10回 ヒトゲノム計画で何が見えたか 【DNA解析】 【遺伝情報】 【遺伝と疾患】
- 11回 遺伝子組換え作物は安全か 【遺伝子組換え技術】 【ベクター】
- 12回 ヒトは何歳まで生きられるか 【テロメア】 【老化】 【がん】
- 13回 クローン人間は作れるのか 【ES細胞・iPS細胞】 【再生医療】 【生命操作】
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み50%、レポート50% (中尾25%・日高25%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養特講III 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

本年度の「教養特講III」は、警察実務に携わっておられる方々によるオムニバス方式の講義です。警察実務家の立場から犯罪の発生状況及びその対策等について説明をしていただき、社会の安全・安心の確保に関する政策の一つである「犯罪等の統制に関する政策」の現状と課題を考察することを目的としています。警察本部長をはじめ、公共の安全と社会秩序を維持するために日々活動している現役警察官等の方々から、治安状況や警察活動・公務の重要性、法律が具体的に実社会でどのように役立っているかを学ぶとともに、安全で安心して生活できる社会を実現するにはどうすればよいかを考えていただきたいと思います。

教科書 /Textbooks

使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 警察捜査
- 2回 科学捜査
- 3回 捜査をめぐる諸問題
- 4回 警察捜査の概要と福岡県警の取組み
- 5回 性犯罪等の身近な犯罪を抑止するために
- 6回 被害者支援の在り方
- 7回 少年犯罪と少年警察、暴走族・少年犯罪対策
- 8回 犯罪の起きにくい社会づくり
- 9回 組織犯罪対策① 暴力団対策
- 10回 組織犯罪対策② 外国人組織犯罪・テロ対策
- 11回 組織犯罪対策③ 薬物対策
- 12回 サイバー犯罪の現状と対策
- 13回 交通警察
- 14回 新しい犯罪対策
- 15回 まとめ

* 毎回講師をお招きしてお話を伺います。上記の内容、スケジュールは講師の都合等により変更になることがあります。変更があればその都度お伝えします。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の講義への取組み・・・10% 期末レポート・・・90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特にありません。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義中にノートをしっかりつけてください。

キーワード /Keywords

教養特講Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科, 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

「法律学の「い・ろ・は」」
 私たちが生活する現代社会では、非常に多くの事柄が「法」によって規律されています。普段はその存在すら感じられない「法」ですが、ひとたびトラブルが起きると、事態は「法」にしたがって解決されることとなります。このような社会では、多少なりとも法律知識があることで、日常生活において、あるいは仕事の場において、トラブルを避けることができ、またトラブルに適切に対処することができるようになります。そうした法律知識を必要に応じて探し出し、法律を活用し、場合によっては弁護士などの助力を受けるにも、法律学のスキル（技術）が必要となります。法律が「お約束の世界」だからです（これが法律を疎遠にしている主因でもあるのですが……）。
 平穏で快適な生活をおくるためにも、いざという時に「法」を味方にすることができる法律学の基礎技術を学んでいきましょう。

教科書 /Textbooks

テキストを特に指定しません。必要に応じて、適宜、レジユメを配布する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

道垣内弘人『プレップ法学を学ぶ前に』（弘文堂・2010.04）ISBN：9784335313127
 和田寛伸ほか『法律学の礎』（八千代出版・2002.10）ISBN：9784842912530

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回～ 3回 とても身近な日常の出来事と「法」との関係
- 4回 法律学への入門① 法律を学ぶ＝条文の暗記？
- 5回 法律学への入門② 法令の種類と体系
- 6回 法律学への入門③ 法律を使う～佐藤君は犬？～
- 7回 法律学への入門④ 考える材料を集めよう～なぜ資料が必要か～
- 8回 法律学への入門⑤ 法令を探す
- 9回 法律学への入門⑥ 文献資料を探す
- 10回 紛争を解決するには～訴訟と裁判外紛争解決手続～
- 11回～12回 裁判へ行ってみよう～民事裁判と刑事裁判～
- 13回～14回 法理論と紛争解決
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義への取り組み...50% レポート...50%
 講義の中でさまざまな「問いかけ」がなされます。恥ずかしがらずに、自分の考えを明らかにしてください。内容の良し悪しではなく、「積極性」を評価したいと考えています。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回のテーマを考える「素材（具体的事例）」を提供します。その事例を、自分だったら「どう解決する」のか、そう解決するのは「なぜか」をまとめてみてください。自分なりの考えの筋道と、講談（講壇？）で披露される解決策とを比較して、その違いを考えてみてください。

履修上の注意 /Remarks

この科目と並行して、「法律の読み方」「現代正義論」「現代社会の諸問題」「共生の作法」といった、法学系科目を履修されることをお勧めします。それらの科目で、ここで学んだスキルをさらに磨いてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

具体的事例をもとに、法を用いた解決策を考えていきます。この科目で問われる問題に、残念ながら、「正解」はありません。「自分だったらどう解決するか」、「なぜその解決が支持されるのか」を、じっくり考えてみてください。そして、周りの人々と意見を交換してください。法の正当性は、社会、すなわち多数の人々の確信によって支えられていることです。だからこそ多数の人との意見交換が重要となります。

キーワード /Keywords

法学 法学入門

日本史【昼】

担当者名 /Instructor 内山 一幸 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

境界・境域・国家といった観点から、日本の歴史上の諸問題について考えていく。例えば現代において「国境」というものは容易に越えがたいものであるが、中世の日本では「境界」は容易に越えうるものであった。それはなぜか、そのことが意味するものは何か、といったことを考えてみることで、古代から現代に至る各時代の「日本」の輪郭を示していく。

教科書 /Textbooks

使用しない。毎回資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 網野善彦『「日本」とは何か』（講談社、2000年 / 講談社学術文庫、2008年）
- 村井章介『境界をまたぐ人びと』（山川出版社、2006年）
- 小熊英二『〈日本人〉の境界』（新曜社、1998年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 日本史を学ぶこととは
- 第2回 「日本」の誕生
- 第3回 「鎖国」と「開国」
- 第4回 蝦夷地とアイヌ
- 第5回 近代化とアイヌ社会
- 第6回 琉球の形成と環シナ海世界
- 第7回 幕藩体制下の琉球から沖縄へ
- 第8回 中世における対馬と朝鮮
- 第9回 対馬からみた日朝関係
- 第10回 〈日本人〉の境界
- 第11回 「帝国日本」の形成(1)【台湾】
- 第12回 「帝国日本」の形成(2)【朝鮮】
- 第13回 「帝国日本」の形成(3)【満洲】
- 第14回 「帝国日本」の解体
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

境界、境域、国家

西洋史【昼】

担当者名 /Instructor 疇谷 憲洋 / Norihiro Kurotani / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地球規模で進行する「世界の一体化」。ヨーロッパとアフリカ・「新世界」・アジアの出遭いの諸相と諸文明の交流・衝突、ヨーロッパ諸国の動向と植民地帝国の編成・変化を見ることによって、「西洋史」を立体的に把握することを目指します。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】内はキーワード)
- 1回 「13世紀世界システム」とヨーロッパ【ボックス・モンゴリカ】
 - 2回 中世ヨーロッパの世界観【プレスター・ジョン】
 - 3回 イベリア諸国の形成【レコンキスタ】
 - 4回 「中世の危機」とポルトガル【アヴィス朝革命】
 - 5回 大航海時代と「世界分割」【トルデシリャス条約】
 - 6回 ポルトガルのアジア進出【アルブケルケ】
 - 7回 ポルトガルによる植民地帝国の形成①【点と線の支配】
 - 8回 ポルトガルによる植民地帝国の形成②【南蛮貿易】
 - 9回 スペインによる植民地帝国の形成①【エンコミエンダ制】
 - 10回 スペインによる植民地帝国の形成②【ポトシ】
 - 11回 オランダ、イギリスの台頭【東インド会社】
 - 12回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編【三角貿易】
 - 13回 環大西洋世界の展開①【環大西洋革命】
 - 14回 環大西洋世界の展開②【産業革命】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内に課す小レポート(5回)・・・25%、期末試験・・・75%
(小レポートの提出が一度もない場合、期末試験を受けることが出来ません)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

既習の歴史に関する知識を再確認しておいてください(とくに世界史)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東洋史【昼】

担当者名 /Instructor 藤野 月子 / FUJINO TSUKIKO / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国の統一というと、単に国内のみの問題という向きがあるかもしれない。しかし、古来から中国は近隣の様々な民族を吸収しつつ変容を繰り返している。また、近隣諸地域もその影響を受けつつ独自の国家形成を行ってきており、こうした関わりは密接なものである。本講義では、東アジアを中心にその歴史の変遷を考察することにより、①中国・朝鮮・日本を始めとする東アジア諸地域の特異性について明らかにし、②さらにそれを通じて東アジア諸地域の今後のあり方を自ら模索出来る力を養いたい。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに - 講義のガイダンス -
- 第2回 秦の始皇帝による統一 - 中華思想・漢民族の形成 -
- 第3回 漢と匈奴 - 中国と北方騎馬民族との関係 -
- 第4回 中国の外交政策 - 冊封体制を中心に -
- 第5回 前漢の政治と思想 - 儒教との関わり -
- 第6回 後漢の政治と思想 - 外戚と宦官 -
- 第7回 三国志の時代 - 三国の領土拡大と親魏倭王 -
- 第8回 西晋による三国統一 - 西晋の内乱と諸民族の動向 -
- 第9回 東晋南朝の社会 - 貴族の変遷 -
- 第10回 五胡十六国北朝の時代 - 北中国における民族融合 -
- 第11回 南北朝と朝鮮・日本 - 朝鮮・日本の中国外交 -
- 第12回 隋唐による統一 - 世界帝国の成立と政治制度 -
- 第13回 唐と朝鮮・日本 - 唐の朝鮮政策と白村江の戦い -
- 第14回 唐と北方騎馬民族国家 - 唐の近隣支配体制の変遷 -
- 第15回 安史の乱後における唐の滅亡 - 世界帝国の衰退と東アジアへの影響 -

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 20%・定期試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会学 【昼】

担当者名 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業のねらいは、社会学の基本的な考え方と概念を身につけ、現代社会の諸問題を社会的に解釈していく力を身につけることにある。授業では、まず、社会学の基本的な考え方についてデュルケムやウェーバーらの古典的著作を例にとりながら紹介していく。ついで、「集団・組織」、「家族」、「階層」、「国際化」といった社会の各領域について社会的分析を行う。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『現代の社会的解読』(山本努・辻正二・稲月正著、学文社、2006)
その他、講義の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2回 社会学の基本的な考え方
- 第3回 社会と個人をつなぐ1 - デュルケムの方法1
- 第4回 社会と個人をつなぐ2 - デュルケムの方法2
- 第5回 社会と個人をつなぐ3 - ウェーバーの方法1
- 第6回 社会と個人をつなぐ4 - ウェーバーの方法2
- 第7回 集団と組織1 - 集団・組織の種類と機能
- 第8回 集団と組織2 - 官僚制の逆機能
- 第9回 家族1 - 家族の種類と機能
- 第10回 家族2 - 近代化と家族
- 第11回 社会階層と社会移動1 - 階層化の趨勢
- 第12回 社会階層と社会移動2 - 階層化のメカニズM
- 第13回 グローバル化とエスニシテイ1 - グローバル化の趨勢
- 第14回 グローバル化とエスニシテイ2 - 統合のメカニズM
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 15% 期末試験... 85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業にあたって配布プリント等をよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人文地理学 【昼】

担当者名 吉津 直樹 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

人文地理学は地表に展開する人文現象を対象として地域的差異に注目し、それがなぜ生ずるのか、そのメカニズムを明らかにすることが重要な課題の一つである。本講義では自然環境が人間および人間社会、ないしは地域にいかに関与するか、社会環境の変化によって地域がいかに関与するかを具体的な事例を豊富に取り上げて説明する。

教科書 /Textbooks

特定の教科書は用いない。随時、資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

富田和暁『地域と産業 新版』原書房、2006年。
井関弘太郎『沖積平野』東京大学出版会、1988年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに～地理学あるいは人文地理学とは
- 2回 地理学説史～近代地理学について
- 3回 自然的条件と人間①～地形、気候が人間に及ぼす影響
- 4回 自然的条件と人間②～沖積層と地盤沈下
- 5回 自然的条件と人間③～沖積層と工業立地
- 6回 歴史的条件と地域①～日本の地域構造の変遷。地域間交流、東と西
- 7回 歴史的条件と地域②～幕藩体制における地域編成と近代以降の地域編成
- 8回 交通条件の変化と地域の変貌①～交通ターミナル都市の変貌(下関の事例)
- 9回 交通条件の変化と地域の変貌②～農業経営方式の変化
- 10回 交通条件の変化と地域の変貌③～観光地の変化
- 11回 産業構造の変化と地域の変貌①～エネルギー需給の変化と地域の変貌
- 12回 産業構造の変化と地域の変貌②～製鉄業の立地変化
- 13回 地域の盛衰～中心地域と周辺地域
- 14回 中心市街地の変貌と振興
- 15回 おわりに～21世紀の国土～これからの日本

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 70% 日常の授業の取組み20% レポート10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

地図帳持参が望ましい

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

水河制海面変動 沖積層 貴族世界と武家世界 高速交通 産業構造

土地地理学 【昼】

担当者名 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地理学は、地球表面に生起する自然、人文の諸現象を「地域的観点」から究明する科学である。そのため、地理学を研究する場合、必ず必要になるのが地図である。この科目では、地理学の言語ともいわれる地図に関して学ぶとともに、地図や空中写真を利用した実習を行い、地理学的知見を高めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし（適宜、プリントを配布）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「地理的情報の分析手法」(菅野峰明・安仁屋政武・高阪宏行著 古今書院 3,675円)
- 「日本列島地図の旅 付・地図の読み方入門」大沼一雄著 東洋選書 2,625円)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地理学では何を学ぶか。【自然地理学】【人文地理学】
- 2回 地図の役割。【地図の能力】
- 3回 地図の歴史。
- 4回 地図には、どのような種類があるか。【一般図】【主題図】
- 5回 地図は、どのように作られるか。【地図投影】【図法】
- 6回 地図記号から景観を読む。【図式】
- 7回 山の地形を地形図から描くI (講義・実習)。【等高線】
- 8回 山の地形を地形図から描くII (実習)。
- 9回 地図を利用して地表の状態を調べる。【地形計測】
- 10回 地形図を利用して山の体積を測定するI (講義・実習)。
- 11回 地形図を利用して山の体積を測定するII (実習)。
- 12回 空中写真の利用。【リモートセンシング】
- 13回 空中写真を利用して高さを測定する(講義・実習)。
- 14回 リモートセンシング、衛星データの利用。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...40% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参考書や配布する資料などを読んでおくとより理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地誌学 【昼】

担当者名 /Instructor 吉津 直樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

テーマは「日本地誌」。特定の地域は様々なレベルの空間スケールから考察し説明することができる。地誌学は特定地域の諸側面を多面的に分析し、総合して地域の性格を明らかにするものである。本講義では主として日本全体の地域構造を明らかにした後、特定地域を事例として取り上げ、その説明を通して地域の姿を解明する方法を教授する。

教科書 /Textbooks

テキストは用いない。
講義中に資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

矢ヶ崎典隆、加賀美雅弘、古田悦造編著『地誌学概論』(地理学基礎シリーズ3)朝倉書店、2007年。
平岡昭利編『九州 地図で読む百年』古今書院、1997年。
平岡昭利編『中国・四国 地図で読む百年』古今書院、1999年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに～地誌とは【多面性】【分析】【総合】
- 2回 日本の地誌①～古代における地域構造の形成【律令体制】
- 3回 日本の地誌②～中世から近代における地域構造の形成【朝廷と幕府】
- 4回 日本の地誌③～現代日本の地域構造①【欧化主義】【近代工業の導入】
- 5回 日本の地誌④～現代日本の地域構造②【経済の高度成長】【過疎・過密】
- 6回 九州地方の地誌①～九州の地域構造：地域の多様性と変容【北部と南部】【東部と西部】
- 7回 九州地方の地誌②～九州における拠点の移動を中心に【長崎・熊本・福岡】
- 8回 九州地方の地誌③～北部九州：福岡県、佐賀県、長崎県の地誌
- 9回 九州地方の地誌④～中部九州：熊本県、大分県の地誌
- 10回 九州地方の地誌⑤～南部九州：宮崎県、鹿児島県、沖縄県の地誌
- 11回 福岡地域の地誌①【大宰府】【九州探題】
- 12回 福岡地域の地誌②【アジア】【玄関口】
- 13回 関門地域の地誌①～門司・下関地区の歴史【西廻航路】【五市合併】
- 14回 関門地域の地誌②【炭鉱地帯】【八幡製鉄所】【リサイクル】
- 15回 おわりに～すべての地域が生き生きと【多様性】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験70% 日常の授業への取組み20% レポート 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

地図帳を持参することが望ましい

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域構造 過疎過密 産業再編成 九州 関門地域

日本国憲法 【昼】

担当者名 植木 淳 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

我々の国家・社会の基本法である「憲法」の意義・概要について学ぶことによって、一人の人間として、あるいは主権者たる市民として、思索・行動する上での何らかのてがかりにしていきたい。

教科書 /Textbooks

大隈義和、大江正昭編『憲法学へのいざない』（青林書院・2008年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 浦部法穂『憲法学教室(全訂第2版)』（日本評論社・2006年）
- 高橋和之他編『憲法判例百選I・II(第5版)』別冊ジュリ186・187(有斐閣・2007年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 憲法の意義
- 第2回 憲法の展開
- 第3回 人権総論
- 第4回 人権各論①(幸福追求権)
- 第5回 人権各論②(平等原則)
- 第6回 人権各論③(信教の自由)
- 第7回 人権各論④(表現の自由)
- 第8回 国民主権論
- 第9回 権力分立
- 第10回 日本の政治制度
- 第11回 平和主義論①
- 第12回 平和主義論②
- 第13回 平和主義論③
- 第14回 日本憲法史
- 第15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特に必要なし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

倫理学 【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

哲学や宗教との関わりを通して「倫理」という言葉の基本的な意味を概観したあと、古代から現代にいたる主要な倫理学説を紹介してゆく。西洋の歴史において倫理思想がどのように発展してきたのかを学びつつ、倫理学についての基本的知識を身につけることが本授業の目的である。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 岩田靖夫ほか『西洋思想のあゆみ--ロゴスの諸相』有斐閣、1993年。
- 熊野純彦『西洋哲学史 古代から中世へ』岩波新書、2006年。
- 熊野純彦『西洋哲学史 近代から現代へ』岩波新書、2006年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 倫理学の考え方
- 2回 哲学と倫理(1) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【ソクラテス】
- 3回 哲学と倫理(2) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【プラトン】
- 4回 哲学と倫理(3) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【アリストテレス】
- 5回 宗教と倫理(1) ユダヤ-キリスト教の倫理【ユダヤ教】
- 6回 宗教と倫理(2) ユダヤ-キリスト教の倫理【原始キリスト教】
- 7回 宗教と倫理(3) ユダヤ-キリスト教の倫理【教父哲学】
- 8回 小テスト+解説
- 9回 近代倫理学の誕生(1)【イギリス経験論】
- 10回 近代倫理学の誕生(2)【契約説】
- 11回 近代倫理学の発展(1)【功利主義】
- 12回 近代倫理学の発展(2)【カント】
- 13回 近代倫理学への批判(1)【ニーチェ】
- 14回 近代倫理学への批判(2)【徳倫理】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト... 30% 学期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教養教育科目の「現代社会と倫理」・「思想と現代」とあわせて受講すれば、この分野に関する理解がいつそう深まるはずである。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教職科目という性質上、当然ながら一般的な授業よりも採点基準は厳しくなる。テストは持ち込み一切不可。最終的な成績は、日頃の学習態度と記憶力の程度によって大きく異なってくるだろう。初回の授業では「小テスト」の日程・方法について詳しい説明するので、必ず出席すること。

キーワード /Keywords

エンドユーザコンピューティング 【昼】

担当者名
/Instructor

浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、エンドユーザの立場から、職場や家庭、大学等の様々な環境において必要不可欠な情報に関する技術や知識を習得し、コンピュータを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目を身につけることができます：

- 情報社会におけるエンドユーザの役割を説明できるようになります。
- Webページを閲覧する際に、そのページの作成元や信頼度を判断する基準を理解できるようになります。
- データベースとはどのようなものか具体的な例に基づいて説明することができるようになります。

教科書 /Textbooks

なし。特に指定はしません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『エンドユーザのための情報基礎』 (浅羽 修丈他著) FOM出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 エンドユーザコンピューティングを学ぶために【エンドユーザ】
- 2回 コンピュータ内部のデータ表現【2進数】【ビット・バイト】【文字コード】
- 3回 ハードウェア【CPU】【メモリ】【ハードディスク】【フラグメンテーション】
- 4回 ソフトウェア【OS】【拡張子】
- 5回 ネットワークの仕組み【サーバ】【LAN】【IPアドレス】【ドメイン名】
- 6回 情報システムの利用者としての心得(1)【PDCA】【パスワード】
- 7回 情報システムの利用者としての心得(2)【リスク分析】
- 8回 情報システムの利用者としての心得・まとめ
- 9回 情報セキュリティ対策(1)【コンピュータウイルス】【Windows Update】【スパイウェア】【ファイアウォール】
- 10回 情報セキュリティ対策(2)【SSL】【クッキー】
- 11回 情報セキュリティ対策・まとめ
- 12回 データベースの基礎(1)【正規化】【主キー】
- 13回 データベースの基礎(2)【SQL】
- 14回 データベースの基礎・まとめ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 75%
日常の授業への取り組み ... 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画が変更になる可能性があります。変更がある場合は、授業中にお伝えします。ただし、授業内容を大幅に変更することはありません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

情報分野の専門用語を数多く学習していきます。あまり興味のない人にとっては、慣れない専門用語がたくさんあるかもしれません。授業中の説明を1度聞いただけで理解できると考えずに、毎回、しっかりと復習をしてください。そして、わからない事があれば、授業中に質問してください。

キーワード /Keywords

エンドユーザ、情報セキュリティ、データベース

データ処理【昼】

担当者名 /Instructor 山田 寛 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要です。この授業では、みなさんがコンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習します。具体的には以下のような項目を身につけることができます：

- タッチタイピングや見やすい表の作成ができるようになります。
- 本学が提供しているグループウェア、Webメールなどのネットワーク環境を使いこなし、ルールを守ったメールの送受信ができるようになります。
- ネットワークを正しく安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基本的な知識を習得することができます。
- 表計算ソフトを使ったデータ処理、グラフ作成ができるようになります。

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境を知る【ID】【パスワード】【グループウェア】
- 2回 文字入力を正確に行う【タッチタイピング】
- 3回 ネットワークコミュニケーションの技法を知る【電子メール】【SSL通信】
- 4回 ネットワークの光と影を知る【情報倫理】【著作権】【個人情報保護】
- 5回 きれいな表を作る【セル】【シート】【書式】【ページ設定】【印刷プレビュー】
- 6回 計算式を作る【セルの参照】【コピー】【ペースト】
- 7回 いろいろなグラフを作る【グラフ】
- 8回 グラフをカスタマイズする【グラフ編集】
- 9回 基本的な関数を利用する【関数】【引数】
- 10回 さまざまな関数を利用する【関数の挿入】
- 11回 表計算演習1【表・グラフ作成】
- 12回 表計算演習2【条件分岐】【ソート】
- 13回 表計算演習3【表の参照】
- 14回 総合課題に取り組む
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50%，積極的な授業参加（タイピング，電子メール送受信，情報倫理の理解等を含む）... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

コンピュータの基本的な操作（キーボードで文字を入力する，マウス操作など）ができるようになっておくとう受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

授業の進度，情報システムの状況によっては，「授業計画・内容」に記入した内容の順番が入れ替わることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

コンピュータの操作が基本になるので，タイピングやマウス操作が苦手な人は自ら練習する姿勢が大切です。

キーワード /Keywords

表計算ソフト タイピング 電子メール 情報倫理

データ処理【昼】

担当者名 /Instructor 光藤 雄一 / Yuichi Mitsudo / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要です。この授業では、みなさんがコンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習します。具体的には以下のような項目を身につけることができます：

- タッチタイピングや見やすい表の作成ができるようになります。
- 本学が提供しているグループウェア、Webメールなどのネットワーク環境を使いこなし、ルールを守ったメールの送受信ができるようになります。
- ネットワークを正しく安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基本的な知識を習得することができます。
- 表計算ソフトを使ったデータ処理、グラフ作成ができるようになります。

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境を知る【ID】【パスワード】【グループウェア】
- 2回 文字入力を正確に行う【タッチタイピング】
- 3回 ネットワークコミュニケーションの技法を知る【電子メール】【SSL通信】
- 4回 ネットワークの光と影を知る【情報倫理】【著作権】【個人情報保護】
- 5回 きれいな表を作る【セル】【シート】【書式】【ページ設定】【印刷プレビュー】
- 6回 計算式を作る【セルの参照】【コピー】【ペースト】
- 7回 いろいろなグラフを作る【グラフ】
- 8回 グラフをカスタマイズする【グラフ編集】
- 9回 基本的な関数を利用する【関数】【引数】
- 10回 さまざまな関数を利用する【関数の挿入】
- 11回 表計算演習1【表・グラフ作成】
- 12回 表計算演習2【条件分岐】【ソート】
- 13回 表計算演習3【表の参照】
- 14回 総合課題に取り組む
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50%、積極的な授業参加(タイピング、電子メール送受信、情報倫理の理解等を含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

コンピュータの基本的な操作(キーボードで文字を入力する、マウス操作など)ができるようになっておくとう受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

授業の進度、情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」に記入した内容の順番が入れ替わることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

コンピュータの操作が基本になるので、タイピングやマウス操作が苦手な人は自ら練習する姿勢が大切です。

キーワード /Keywords

表計算ソフト タイピング 電子メール 情報倫理

データ処理【昼】

担当者名 /Instructor 棚次 奎介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要です。この授業では、みなさんがコンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習します。具体的には以下のような項目を身につけることができます：

- タッチタイピングや見やすい表の作成ができるようになります。
- 本学が提供しているグループウェア、Webメールなどのネットワーク環境を使いこなし、ルールを守ったメールの送受信ができるようになります。
- ネットワークを正しく安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基本的な知識を習得することができます。
- 表計算ソフトを使ったデータ処理、グラフ作成ができるようになります。

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境を知る【ID】【パスワード】【グループウェア】
- 2回 文字入力を正確に行う【タッチタイピング】
- 3回 ネットワークコミュニケーションの技法を知る【電子メール】【SSL通信】
- 4回 ネットワークの光と影を知る【情報倫理】【著作権】【個人情報保護】
- 5回 きれいな表を作る【セル】【シート】【書式】【ページ設定】【印刷プレビュー】
- 6回 計算式を作る【セルの参照】【コピー】【ペースト】
- 7回 いろいろなグラフを作る【グラフ】
- 8回 グラフをカスタマイズする【グラフ編集】
- 9回 基本的な関数を利用する【関数】【引数】
- 10回 さまざまな関数を利用する【関数の挿入】
- 11回 表計算演習1【表・グラフ作成】
- 12回 表計算演習2【条件分岐】【ソート】
- 13回 表計算演習3【表の参照】
- 14回 総合課題に取り組む
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50%、積極的な授業参加(タイピング、電子メール送受信、情報倫理の理解等を含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

コンピュータの基本的な操作(キーボードで文字を入力する、マウス操作など)ができるようになっておくとう受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

授業の進度、情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」に記入した内容の順番が入れ替わることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

コンピュータの操作が基本になるので、タイピングやマウス操作が苦手な人は自ら練習する姿勢が大切です。

キーワード /Keywords

表計算ソフト タイピング 電子メール 情報倫理

情報表現【昼】

担当者名
/Instructor

浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業は、Windows PCを利用して、前半ではHTMLを使ったWebページの作成、後半ではプレゼンテーションソフトを使った発表用スライドの作成、及び、発表用スライドを利用した発表を行います。本授業の目的は、文字や画像などのメディアを総動員して、多角的な情報伝達手段を習得し、それらを作成して情報発信の主体となるための技法を身に付けることです。具体的には、以下のような項目を身に付けることができます。

- ・ HTMLの文字装飾や背景色、画像・表の挿入、リンクの貼り付け等の技術を活用したWebページの作成ができるようになります。
- ・ 作成したWebページを、Webサーバへアップロードできるようになります。
- ・ Microsoft PowerPointを使って、文字装飾やスライドのレイアウト・デザインの設定、画像、図形、表、グラフ、リンクといった授業で取り扱う技術を駆使した発表用スライドを作成することができるようになります。
- ・ 発表するときのポイントや注意点等が考慮された発表を行なうことができるようになります。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現【マルチメディア】、【情報圧縮】
- 2回 HTMLによるWebページ作成方法【HTML】、【タグ】
- 3回 HTMLによるWebページ作成演習1【Webページの構成】
- 4回 HTMLによるWebページ作成演習2【Webページのデザイン】
- 5回 グループ作業によるWebページ作成方法【企画書】、【著作権】、【FTP】
- 6回 グループ作業によるWebページ作成実習
- 7回 グループ作業によるWebページ作成のまとめ
- 8回 プレゼンテーション用スライド作成方法【プレゼンテーションソフト】
- 9回 プレゼンテーション用スライド作成演習
- 10回 グループ作業によるスライド作成方法【ストーリー性】
- 11回 グループ作業によるスライド作成実習
- 12回 発表のポイント【発表の心構え】、【プレゼンテーション】、【説得力】、【主張ポイント】
- 13回 グループによる発表
- 14回 グループによる発表とプレゼンテーションのまとめ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 90%、積極的な授業参加... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「データ処理」や「エンドユーザコンピューティング」を既に受講した場合は、本授業の理解がより深くなります。また、コンピュータの操作をある程度経験しておくとう受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

情報処理教室のパソコン台数に制限がありますので、履修希望者数が多数の場合は、受講者数調整を実施します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

一度理解に躓くと、その先の授業についてこれなくなる可能性があります。難しく感じたり、よく分からない内容が出てきた場合は、早目に質問して、解決するようにしてください。また、本授業では、グループによる学習も導入しています。グループのメンバーでお互いに協力して学習課題を進めるよう心がけてください。

キーワード /Keywords

HTML、プレゼンテーション、マルチメディア

情報表現【昼】

担当者名
/Instructor

浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業は、Windows PCを利用して、前半ではHTMLを使ったWebページの作成、後半ではプレゼンテーションソフトを使った発表用スライドの作成、及び、発表用スライドを利用した発表を行います。本授業の目的は、文字や画像などのメディアを総動員して、多角的な情報伝達手段を習得し、それらを作成して情報発信の主体となるための技法を身に付けることです。具体的には、以下のような項目を身に付けることができます。

- ・ HTMLの文字装飾や背景色、画像・表の挿入、リンクの貼り付け等の技術を活用したWebページの作成ができるようになります。
- ・ 作成したWebページを、Webサーバへアップロードできるようになります。
- ・ Microsoft PowerPointを使って、文字装飾やスライドのレイアウト・デザインの設定、画像、図形、表、グラフ、リンクといった授業で取り扱う技術を駆使した発表用スライドを作成することができるようになります。
- ・ 発表するときのポイントや注意点等が考慮された発表を行なうことができるようになります。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現【マルチメディア】、【情報圧縮】
- 2回 HTMLによるWebページ作成方法【HTML】、【タグ】
- 3回 HTMLによるWebページ作成演習1【Webページの構成】
- 4回 HTMLによるWebページ作成演習2【Webページのデザイン】
- 5回 グループ作業によるWebページ作成方法【企画書】、【著作権】、【FTP】
- 6回 グループ作業によるWebページ作成実習
- 7回 グループ作業によるWebページ作成のまとめ
- 8回 プレゼンテーション用スライド作成方法【プレゼンテーションソフト】
- 9回 プレゼンテーション用スライド作成演習
- 10回 グループ作業によるスライド作成方法【ストーリー性】
- 11回 グループ作業によるスライド作成実習
- 12回 発表のポイント【発表の心構え】、【プレゼンテーション】、【説得力】、【主張ポイント】
- 13回 グループによる発表
- 14回 グループによる発表とプレゼンテーションのまとめ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 90%、積極的な授業参加... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「データ処理」や「エンドユーザコンピューティング」を既に受講した場合は、本授業の理解がより深くなります。また、コンピュータの操作をある程度経験しておく受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

情報処理教室のパソコン台数に制限がありますので、履修希望者数が多数の場合は、受講者数調整を実施します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

一度理解に躓くと、その先の授業についてこれなくなる可能性があります。難しく感じたり、よく分からない内容が出てきた場合は、早目に質問して、解決するようにしてください。また、本授業では、グループによる学習も導入しています。グループのメンバーでお互いに協力して学習課題を進めるよう心がけてください。

キーワード /Keywords

HTML、プレゼンテーション、マルチメディア

プログラミング基礎 【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

みなさんが利用しているコンピュータの中のソフトウェアは、すべてどこかの誰かが作成したプログラムによって出来ています。この授業では、「データ処理」で学習した表計算ソフトの高度な利用方法を学習し、コンピュータを思い通りに動かすプログラムを自分で作れるようになることを目指します。自分でプログラムを作成できるようになると、より賢くコンピュータを利用できるようになり、世界が広がります。

コンピュータプログラムは、機械が理解できる言葉（プログラミング言語）で書いてやる必要があります。そのため、プログラムの学習は言葉の学習に似ています。この授業で使用するプログラミング言語はVBA（Visual Basic for Application）です。この言語は、表計算ソフトExcelに付属しており、Excelが利用できる環境であればVBAが利用できるようになっています。

この授業は、パソコンを利用して授業を行います。具体的には以下のような項目を身につけることができます：

- 表計算ソフトにおいて、マクロを利用して同じ手順を自動的に処理できるようになります。
- 現在のコンピュータが行っている情報処理の流れを理解し、論理的な思考ができるようになります。
- プログラミングの基本を知り、プログラムを自分で作成できるようになります。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 プログラムとはなにか【VBA】【マクロ】
- 2回 同じ操作をなんどもくりかえす【マクロの記録】【セキュリティ】
- 3回 プログラムの基本1：プログラミングに使う道具を知る【変数】【関数】
- 4回 プログラムの基本2：プログラムがおこなう動作を知る【演算】【メソッド】
- 5回 プログラムの処理の流れを理解する【フローチャート】
- 6回 プログラムの構造1：枝分かれする処理を行う【条件分岐】【if】
- 7回 プログラムの構造2：くりかえし処理を行う【ループ構造】【for】
- 8回 ユーザとのやりとりをデザインする【ユーザフォーム】【GUI】
- 9回 ユーザとのやりとりをプログラムする【イベント処理】
- 10回 変数の有効範囲を設定する【変数のスコープ】【配列変数】
- 11回 プログラミング課題1：サンプルプログラムを解説する
- 12回 プログラミング課題2：サンプルプログラムを変更する
- 13回 プログラミング課題3：オリジナルプログラムを作成する
- 14回 作品発表
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50%，プログラミング作品提出 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

コンピュータの操作（タイピング等）にある程度習熟しておくことをおすすめします。

履修上の注意 /Remarks

情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがあります。
また、1年次配当科目の「データ処理」を受講しておくといでしょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プログラミング初心者にも分かるように、基本的なことから授業します。

キーワード /Keywords

プログラミング マクロ フローチャート GUI

プログラミング基礎 【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

みなさんが利用しているコンピュータの中のソフトウェアは、すべてどこかの誰かが作成したプログラムによって出来ています。この授業では、「データ処理」で学習した表計算ソフトの高度な利用方法を学習し、コンピュータを思い通りに動かすプログラムを自分で作れるようになることを目指します。自分でプログラムを作成できるようになると、より賢くコンピュータを利用できるようになり、世界が広がります。

コンピュータプログラムは、機械が理解できる言葉（プログラミング言語）で書いてやる必要があります。そのため、プログラムの学習は言葉の学習に似ています。この授業で使用するプログラミング言語はVBA（Visual Basic for Application）です。この言語は、表計算ソフトExcelに付属しており、Excelが利用できる環境であればVBAが利用できるようになっています。

この授業は、パソコンを利用して授業を行います。具体的には以下のような項目を身につけることができます：

- 表計算ソフトにおいて、マクロを利用して同じ手順を自動的に処理できるようになります。
- 現在のコンピュータが行っている情報処理の流れを理解し、論理的な思考ができるようになります。
- プログラミングの基本を知り、プログラムを自分で作成できるようになります。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 プログラムとはなにか【VBA】【マクロ】
- 2回 同じ操作をなんどもくりかえす【マクロの記録】【セキュリティ】
- 3回 プログラムの基本1：プログラミングに使う道具を知る【変数】【関数】
- 4回 プログラムの基本2：プログラムがおこなう動作を知る【演算】【メソッド】
- 5回 プログラムの処理の流れを理解する【フローチャート】
- 6回 プログラムの構造1：枝分かれする処理を行う【条件分岐】【if】
- 7回 プログラムの構造2：くりかえし処理を行う【ループ構造】【for】
- 8回 ユーザとのやりとりをデザインする【ユーザフォーム】【GUI】
- 9回 ユーザとのやりとりをプログラムする【イベント処理】
- 10回 変数の有効範囲を設定する【変数のスコープ】【配列変数】
- 11回 プログラミング課題1：サンプルプログラムを解説する
- 12回 プログラミング課題2：サンプルプログラムを変更する
- 13回 プログラミング課題3：オリジナルプログラムを作成する
- 14回 作品発表
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50%，プログラミング作品提出 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

コンピュータの操作（タイピング等）にある程度習熟しておくことをすすめます。

履修上の注意 /Remarks

情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがあります。
また、1年次配当科目の「データ処理」を受講しておくといでしょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プログラミング初心者にも分かるように、基本的なことから授業します。

キーワード /Keywords

プログラミング マクロ フローチャート GUI

英語I【昼】

担当者名 /Instructor 葛西 宏信 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比 1 - A /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

重要な文法事項の確認と語彙力の増強を行いながら、英語の読解力と聴解力を養うことを目的とする。また、TOEIC形式の問題演習を通して、TOEIC形式に慣れることも目的とする。

教科書 /Textbooks

生協の教科書リストに指定する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Chapter 1
- 3回 Chapter 2
- 4回 Chapter 3
- 5回 Chapter 4
- 6回 Chapter 5
- 7回 Chapter 6
- 8回 Chapter 7
- 9回 Chapter 8
- 10回 Chapter 9
- 11回 Chapter 10
- 12回 Chapter 11
- 13回 Chapter 12
- 14回 Chapter 13
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む)...40% 期末試験...60%
(上記の講義評価とTOEIC(TOEFL)受験の有無をあわせて最終評価を出します。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回TOEIC(TOEFL)テストを受験することが義務付けられています。なお、TOEIC(TOEFL)受験の有無が最終評価に反映されます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I【昼】

担当者名 /Instructor 下條 かおり / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比 1 - B /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are English speaking, listening, reading and writing skills. The class is taught in English and is designed to meet the needs of comparative culture majors in regards to communication.

教科書 /Textbooks

World English 1: Heinle Cengage Learning

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Course Introduction. Meet people.
- 第2回 Ask for and give personal information. Describe different occupations.
- 第3回 Talk about people and occupations. Video Journal : Last of the Woman Divers
- 第4回 Talk about work and free time activities.
- 第5回 Describe a festival or a celebration. Compare different festivals.
- 第6回 Video Journal : Hula. Identify possessions
- 第7回 Ask for and give personal travel information. Give travel advice.
- 第8回 Share special travel tips. Video Journal : Beagle Patrol
- 第9回 Talk about food. Order a meal.
- 第10回 Talk about diets. Discuss unusual and favorite foods.
- 第11回 Video Journal : Dangerous Dinner. Talk about activities happening now.
- 第12回 Compare everyday and present-time activities. Talk about favorite sports.
- 第13回 Discuss adventure holidays. Video Journal : Cheese-Rolling Races
- 第14回 Talk about personal communication. Give and write down contact details.
- 第15回 Describe characteristics and qualities. Compare different types of communication.

成績評価の方法 /Assessment Method

Class work and assignments : 60%
Final examination : 40%
No credit will be given to students who are absent four or more times.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I【昼】

担当者名 /Instructor 野上 良子 / NOGAMI YOSHIKO / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比 1 - C /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

実用的な英語運用能力を測定するTOEICの出題形式と連動して作成されたテキスト "Conquering the TOEIC Test" を用い、基本的な語彙、文法をマスターしながら、リスニング・リーディング両方にわたる総合的な英語運用能力を養成していくことが授業のねらいである。
また1学期は、"The New York Times" "International Herald Tribune" etc. から抜粋された社会・文化・言語・環境などに関する記事(テキスト"The Half-Edition of English through the News Media 2011") を読み、世界で起きている出来事に触れながら、多角的に複眼的に英語能力が培われることを意図している。

教科書 /Textbooks

Conquering the TOEIC Test (著者: 河原真也他、出版社: 朝日出版社)
The Half-Edition of English through the News Media 2011 (著者: 高橋優身他、出版社: 朝日出版社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜知らせる。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 TOEIC 「写真描写問題」 / News Media 「読書はネットで」
- 2回 TOEIC 「応答問題」 / News Media 「ヨーロッパで「マンガ」大ブーム」
- 3回 TOEIC 「会話問題」 / News Media 「黒人が白人か？ 国勢調査が選択を迫る」
- 4回 TOEIC 「説明文問題」 / News Media 「日本、パラグアイにPK戦負け」
- 5回 TOEIC Practice for Listening Parts
- 6回 TOEIC 「短文穴埋め問題」 / News Media 「マグロ取引と象牙取引」
- 7回 TOEIC 「長文穴埋め問題」 / News Media 「イスラム教徒に生まれて」
- 8回 TOEIC 「読解問題」 / News Media 「ヨーロッパの金融危機」
- 9回 TOEIC Practice for Reading Parts
- 10回 TOEIC Mini Test 1 / News Media 「英国自民党、保守党との連立を考慮」
- 11回 TOEIC Mini Test 2 / News Media 「あのドバイが地域経済の足を引っ張る？」
- 12回 TOEIC Mini Test 3 / News Media 「メコン川流域 水不足と相互不信」
- 13回 TOEIC Mini Test 4 / News Media 「イスラエルはどこもロシアだらけ」
- 14回 TOEIC Mini Test 5 / News Media 「ツイッターの普及で大統領の人気急落」
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 (60%)、小テスト及び課題 (40%) であるが、出席状況や授業中の態度を加味し総合的に判断して決定。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習は必須。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I【昼】

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比 1 - D /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの出題パターンに慣れ、出題傾向に即して学習し、スコアアップを目指す。

教科書 /Textbooks

Essential Approach for the TOEIC Test 「TOEICテストへのニューアプローチ」 大須賀直子他著 成美堂 \2000

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、Pre - Test及び解説
- 2回 Unit1 Arts & Amusement [名詞・代名詞]
- 3回 Unit2 Lunch & Parties [形容詞・冠詞]
- 4回 Unit3 Medicine & Health [副詞]
- 5回 Unit4 Traffic & Travel [比較]
- 6回 Unit5 Ordering & Shipping [動詞・時制]
- 7回 Unit6 Factories & Production [未来表現など]
- 8回 Unit7 Research & Development [主語と動詞の呼応・時制の一致]
- 9回 Unit8 Computers & Technology [能動態・受動態]
- 10回 Unit9 Employment & Promotions [不定詞・動名詞]
- 11回 Unit10 Advertisements & Personnel [分詞]
- 12回 Unit11 Telephone & Messages [助動詞]
- 13回 Unit12 Banking & Finance [接続詞]
- 14回 Unit13 Office Work & Equipment [関係代名詞・関係副詞]
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

筆記試験(80%)、小テストによる平常点と出席状況・学習態度(20%)で総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単語小テストを実施するので、各自勉強して準備しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

1学期終了までのTOEICのスコア目標を各自設定の上、目標を持って学習に取り組んでもらいたい。

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor ダンカン・ウォトリイ / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比 1 - A /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course will focus on ways to help students develop their knowledge and skills with general English as well as with kinds of specialized English used in a variety of contexts. One of the key aims is to improve their performance in general proficiency tests such as the TOEIC test. Each class will include segments for homework review, vocabulary consolidation and test preparation strategies.

教科書 /Textbooks

Successful keys to the TOEIC test 1 Goal 500 Second Edition, Atsushi Matsumoto and Mark D. Stafford, Pearson
Longman, ISBN 978-4-342-55273-1

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 - Introduction and Starter Unit
Week 2 - Unit 7 Technology
Week 3 - Unit 8 Personnel 1
Week 4 - Unit 8 Personnel 2
Week 5 - Unit 9 Management 1
Week 6 - Unit 9 Management 2
Week 7 - Unit 10 Purchasing 1
Week 8 - Unit 10 Purchasing 2
Week 9 - Unit 11 Finance 1
Week 10 - Unit 11 Finance 2
Week 11 - Unit 12 Media 1
Week 12 - Unit 13 Entertainment
Week 13 - Unit 14 Health
Week 14 - Unit 15 Restaurants
Week 15 - Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Diary 15%
Homework 15%
Class Tasks 20%
Final Test 50%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Let's enjoy our learning experience together

キーワード /Keywords

なし

担当者名 /Instructor 下條 かおり / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
Points of this class are English speaking, listening, reading and writing skills. The class is taught in English and is designed to meet the needs of comparative culture majors in regards to communication.

教科書 /Textbooks
World English 1: Heinle Cengage Learning

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Talk about past vacation trips. Exchange information about vacations.
- 第2回 Describe a personal experience. Talk about a discovery from the past.
- 第3回 Video Journal : Machu Picchu. Talk about plans.
- 第4回 Discuss long- and short-term plans. Make weather predictions.
- 第5回 Discuss the future. Video Journal : Solar Cooking.
- 第6回 Make comparisons. Explain preferences.
- 第7回 Talk about clothing materials. Understand and describe a process.
- 第8回 Video Journal : Traditional Silk Making. Give advice on healthy habits.
- 第9回 Suggest ways to improve bad habits. Ask about lifestyles.
- 第10回 Evaluate your lifestyle. Video Journal : The Science of Stress.
- 第11回 Talk about today's chores. Interview for a job.
- 第12回 Talk about lifetime achievements. Discuss scientific achievements.
- 第13回 Video Journal : Spacewalk. Talk about managing your money.
- 第14回 Choosing how to spend your money. Our actions can have positive consequences.
- 第15回 Preventing habitat destruction. Video Journal : Missing Snows of Kilimanjaro.

成績評価の方法 /Assessment Method
Class work and assignments : 60%
Final examination : 40%
No credit will be given to students who are absent four or more times.
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 野上 良子 / NOGAMI YOSHIKO / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比 1 - C /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続きTOEICのテスト形式と連動して作成されたテキスト "The Next Stage to the TOEIC Test" を用いる。TOEICに頻出するトピックを扱った問題を解きながら、リスニング・リーディング両方の英語運用能力を高めていくことがねらいである。(TOEIC目標500点)
また文学部比較文化学科の授業ということを考え、2学期は"Passport to Britain" を使い、England, Wales, Scotland, Irelandそれぞれの地域にまつわる興味深いエピソードを読みながら、建築、文学、演劇、食生活などへの関心を深め、リーディングの強化をはかりたい。

教科書 /Textbooks

The Next Stage to the TOEIC Test (Intermediate) (著者：ハーバート・久代他、出版社：金星堂)
Passport to England (著者：マーク・ジュエル、出版社：朝日出版社)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜知らせる。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 TOEIC Unit 1: Dining and Shopping【形容詞】 / Passport Unit 1: Welcome to Britain
- 2回 TOEIC Unit 2: Computers【動詞】 / Passport Unit 2: London (1)
- 3回 TOEIC Unit 3: Science and Technology【不定詞】 / Passport Unit 3: London (2)
- 4回 TOEIC Unit 4: Entertainment【強調、倒置】 / Passport Unit 4: London (3)
- 5回 TOEIC Unit 5: Advertisement【否定】 / Passport Unit 5: In the Heart of England
- 6回 TOEIC Unit 6: Medicine【使役】 / Passport Unit 6: Manchester
- 7回 TOEIC Unit 7: Transportation【仮定法】 / Passport Unit 7: York and Haworth
- 8回 TOEIC Unit 8: Business Trips【分詞】 / Passport Unit 8: The Lake District
- 9回 TOEIC Unit 9: Environment【助動詞】 / Passport Unit 9: The Roman Frontier
- 10回 TOEIC Unit 10: Office Work (1)【副詞】 / Passport Unit 10: Edinburgh
- 11回 TOEIC Unit 11: Economy【主語と動詞の一致】 / Passport Unit 11: Loch Ness
- 12回 TOEIC Unit 12: Industry【関係詞】 / Passport Unit 12: Islay and Skye
- 13回 TOEIC Unit 13: Personnel【比較】 / Passport Unit 13: Orkney
- 14回 TOEIC Unit 14: Office Work (2)【時制】 / Passport Unit 14: Northern Ireland
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験(60%)、小テスト及び課題(40%)にTOEIC受験結果が反映される。反映方法は初回の授業で文書を配布して説明する。また、出席状況や授業中の態度も考慮に入れ最終評価を決定する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習は必須。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比 1 - D /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの出題パターンに慣れ、出題傾向に即して学習し、スコアアップを目指す。

教科書 /Textbooks

The Next Stage to the TOEIC Test : Intermediate 「CD-ROMで学習するTOEICテスト：中級編」 ハーバート久代他著 金星堂 ¥2100

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、プリント演習
- 2回 Unit1 Dining and Shopping [形容詞]
- 3回 Unit2 Computers [動詞]
- 4回 Unit3 Science and Technology [不定詞]
- 5回 Unit4 Entertainment [強調・倒置]
- 6回 Unit5 Advertisement [否定]
- 7回 Unit6 Medicine [使役]
- 8回 Unit7 Transportation [仮定法]
- 9回 Unit8 Business Trips [分詞]
- 10回 Unit9 Environment [助動詞]
- 11回 Unit10 Office Work (1) [副詞]
- 12回 Unit11 Economy [主語と動詞の一致]
- 13回 Unit12 Industry [関係詞]
- 14回 Unit13 Personnel [比較]
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

筆記試験(80%)、小テストによる平常点と出席状況・学習態度(20%)で総合的に評価する。
最終評価にはTOEICのスコアが反映されます。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単元毎に小テストを実施するので、各自勉強して準備しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

2学期終了までのTOEICのスコア目標を各自設定の上、目標を持って学習に取り組んでもらいたい。

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor ジョセフ・ディレンシュナイダー / Joseph Dilenschneider / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比 1 - A /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The objective for this course is to allow students to gain confidence in their basic English communication skills. While speaking and listening will be emphasized in this class, components of reading and writing will also be integrated into the course. Students will learn how to “frame” their English conversation performance within an ‘opening---preclosing/closing’ format and learn how to respond to and solicit information using different communicative strategies.

教科書 /Textbooks

"interchange 2" (3rd. Ed.) (Cambridge University Press ¥2700 税込み) and materials prepared by the teacher

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students are encouraged to have both a English-to-Japanese and Japanese-to-English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Conversation framework [openings, preclosings + closings]; 相づち
- 2 回 oral presentations and listening test
- 3 回 Unit 1 “A Time to Remember”/Past tense/ “Used to”/writing paragraphs
- 4 回 Unit 12 “It could happen to you!”/ Past continuous/ Present Perfect Tense
- 5 回 Introductions and address systems/ oral presentations/ listening test
- 6 回 Unit 4 “I’ve Never Heard of That!”/ Simple past vs. Present Perfect tense/adverbs
- 7 回 Unit 16 “What’s Your Excuse?”/Reported Speech: requests/ making excuses
- 8 回 Invitations/ Accepting and Refusing
- 9 回 oral presentations/ listening test
- 1 0 回 Unit 3 “Time for a Change!”/ Evaluations and Comparisons/Wishes/Dreams
- 1 1 回 Unit 7 “What’s this for?”/ Infinitives and gerunds/Infinitive complements/writing
- 1 2 回 Thanking people and replying to thanks/ oral presentations/listening test
- 1 3 回 Unit 2 “Caught in the Rush”/Indirect questions from ‘Wh’ questions/ Adverbs of quantity
Unit 5 “Going Places”/ Future tense with ‘going to’ and ‘will’
- 1 4 回 Apologizing: making apologies and responding
- 1 5 回 oral presentations/ listening test; まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Oral Presentations: 50%; Listening quizzes: 50%
Continual assessment through homework completion, participation, partner projects (3-4 oral presentations per term) and listening quizzes. There is a strict attendance policy for this class: more than one absence during a semester may result in the student failing the course.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

READ English books to increase your English vocabulary, write down vocabulary and phrases you don’t know and then try to use those words and phrases in English conversation wherever you can. Watch English movies, listen to English music and create your own English listening environment. Be ready to ask questions in English, speak English, write English and listen to English. Stop being over-dependent on your electronic dictionary to learn English.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor デビッド・ アダム・ ストット / David Adam Stott / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比 1 - B /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Students will improve their ability to use English for daily communication, especially when traveling overseas. For example, students should be able to book hotel rooms, order meals and check in at airports.

教科書 /Textbooks

『First Class English for Tourism 1』 (Hall & Blappert 編 Thomson出版社 ¥1,900)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Orientation
- 2回 May I have your name please? (part 1)
- 3回 May I have your name please? (part 2)
- 4回 Talking about travel jobs (part 1)
- 5回 Talking about travel jobs (part 2)
- 6回 Giving and receiving directions (part 1)
- 7回 Giving and receiving directions (part 2)
- 8回 Opening times (part 1)
- 9回 Opening times (part 2)
- 10回 Booking problems
- 11回 Confirming reservations (part 1)
- 12回 Confirming reservations (part 2)
- 13回 Checking in (part 1)
- 14回 Checking in (part 2)
- 15回 Student presentations

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50% プレゼンテーション...20% 学期末試験...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Let's enjoy speaking English in class. Good luck in 2011-12!

キーワード /Keywords

トラベル英会話

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The main focus of this course is speaking and listening. Students will have the freedom to express themselves about a variety of topics. Each lesson will have a different topic. As well as reviewing previously learnt material, students will be able to challenge themselves in this dynamic lesson.

教科書 /Textbooks

Clockwise (Pre-Intermediate) by B. Macgowen and V. Richardson
(Oxford University Press)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

English - Japanese dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

week 1: course introduction
week 2: unit 1
week 3: unit 2
week 4: unit 3
week 5: unit 4
week 6: unit 5
week 7: unit 6
week 8: unit 7
week 9: unit 8
week 10: unit 9
week 11: unit 10
week 12: unit 11
week 13: unit 12
week 14: unit 13
Week 15: まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam, class participation and positive attitude.
More information concerning assessment will be given in the first lesson.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Read the textbook ahead of the lesson.

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

英語III 【昼】

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの出題パターンに慣れるだけでなく、効率的な取り組み方と出題傾向を学び、スコアアップを目指す。

教科書 /Textbooks

Seize the Essence of the TOEIC Test 「TOEICテストのエッセンスを学ぶ」 安丸雅子 / 八尋真由実 他著 金星堂 \1995

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Unit1 Daily Life [名詞・主語と動詞の一致]
- 3回 Unit2 Eating Out & Amusement [形容詞・副詞]
- 4回 Unit3 Cooking & Purchasing [基本時制]
- 5回 Unit4 Traffic & Travel [進行形・完了形]
- 6回 Unit5 Production & Logistics [受動態]
- 7回 Unit6 Business & Economics [分詞・分詞構文]
- 8回 Unit7 Advertising & ICT [不定詞・動名詞]
- 9回 Unit8 Health & the Environment [助動詞]
- 10回 Unit9 Law & Administration [代名詞・関係詞]
- 11回 Unit10 Employment & Personnel [比較構文]
- 12回 Unit11 Finance & Banking [前置詞]
- 13回 Unit12 Office Work & Correspondence [その他の構文]
- 14回 Review Test 1 (Unit1 ~ 6)・ 2 (Unit7 ~ 12)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

筆記試験(80%)、小テストによる平常点と出席状況・学習態度(20%)で総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単元毎に単語テストを実施するので、各自勉強して準備しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名
/Instructor

リズ・クレシーニ / Riz CRESCINI / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 比1 - A
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The objective for this course is to allow students to gain confidence in their basic English communication skills. While speaking and listening will be emphasized in this class, components of reading and writing will also be integrated into the course. Students will learn how to “frame” their English conversation performance within an ‘opening---preclosing/closing’ format and learn how to respond to and solicit information using different communicative strategies.

教科書 /Textbooks

“interchange 2” [3rd Ed.] (Cambridge University Press ¥2700 税込み) and materials prepared by the teacher.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students are encouraged to have both a English-to-Japanese and Japanese-to-English dictionary.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Unit 6 “OK. No Problem!”/two-part verbs/ requests with modals/ ‘Would you mind...?’
- 2 回 Unit 10 “I Don’t Like Working on Weekends”/gerunds-/ clause with ‘because’;
Writing: paragraph---‘A job you would be good at’---(three reasons for support)
- 3 回 Expressing anger & resolving conflict/ oral presentations/ listening tests
- 4 回 Unit 8 “Let’s Celebrate”/relative clauses of time/adverbial clauses of time
- 5 回 Unit 14 “So That’s What It Means!”/ modals & adverbs/permission, obligation,
prohibitions/ Writing: Japanese proverbs w/ written English explanations
- 6 回 Giving compliments & replying to compliments
- 7 回 oral presentations/ listening tests
- 8 回 Unit 9 “Back to the Future”/time contrasts/conditional sentences using if clauses
Writing: paragraph---partner interview & writing partner’s hopes for the future
- 9 回 Unit 15 “What would you do?”/ unreal conditional sentences w/ if clauses/past modals
- 1 0 回 Getting people’s attention and interrupting/ oral presentations/ listening test
- 1 1 回 Unit 11 “It’s Really Worth Seeing”/passive tense with & w/o by /
Writing: paragraph---a country you know
- 1 2 回 Unit 13 “A Terrific Book, but a Terrible Movie”/participles as adjectives/ relative
clauses
- 1 3 回 Agreeing and disagreeing/ oral presentations/ listening test
- 1 4 回 “Explaining ‘things Japanese’” + Getting information & Controlling the conversation
- 1 5 回; oral presentations/ listening test; まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Oral Presentations: 50%; Listening quizzes: 50%

Continual assessment through homework completion, participation, partner projects (3-4 oral presentations per term) and listening quizzes. There is a strict attendance policy for this class: more than one absence during a semester may result in the student failing the course.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

READ English books to increase your English vocabulary, write down vocabulary and phrases you don’t know and then try to use those words and phrases in English conversation wherever you can. Watch English movies, listen to English music and create your own English listening environment. Be ready to ask questions in English, speak English, write English and listen to English. Stop being over-dependent on your electronic dictionary to learn English.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor デビッド・ アダム・ ストット / David Adam Stott / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比 1 - B /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Students will improve their ability to use English for daily communication, especially when traveling overseas. For example, students should be able to book hotel rooms, order meals and check in at airports.

教科書 /Textbooks

『First Class English for Tourism 1』 (Hall & Blappert 編 Thomson出版社 ¥1,900)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Student presentations - summer holidays
- 2 回 Transferring calls (part 1)
- 3 回 Transferring calls (part 2)
- 4 回 Travel itineraries (part 1)
- 5 回 Travel itineraries (part 2)
- 6 回 Ordering in restaurants (part 1)
- 7 回 Ordering in restaurants (part 2)
- 8 回 Complaining about problems (part 1)
- 9 回 Complaining about problems (part 2)
- 1 0 回 Taking messages
- 1 1 回 Asking and giving directions
- 1 2 回 Changing money
- 1 3 回 Extra charges
- 1 4 回 Thanking customers and staff
- 1 5 回 Student presentations - travel plans

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50% プレゼンテーション...20% 学期末試験...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Let's enjoy speaking English in class. Good luck in 2011-12!

キーワード /Keywords

トラベル英会話

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The main focus of this course is speaking and listening. Students will have the freedom to express themselves about a variety of topics. Each lesson will have a different topic. As well as reviewing previously learnt material, students will be able to challenge themselves in this dynamic lesson.

教科書 /Textbooks

Clockwise (Pre-Intermediate) by B. Macgowen and V. Richardson
(Oxford University Press)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

English - Japanese dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: How was your summer holiday?
Week 2: Unit 14
Week 3: Unit 15
Week 4: Unit 16
Week 5: Unit 17
Week 6: Unit 18
Week 7: Unit 19
Week 8: Unit 20
Week 9: Unit 21
Week 10: Unit 22
Week 11: Unit 23
Week 12: Unit 24
Week 13: Unit 25
Week 14: Unit 26
Week 15: まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam, class participation and positive attitude.
More information concerning assessment will be given in the first lesson.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Read the textbook ahead of the lesson.

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor: ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 1年次
単位 /Credits: 1単位
学期 /Semester: 2学期
授業形態 /Class Format: 講義
クラス /Class: 比 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This class will generally build on skills obtained in the previous class (英語III). Students who did not take that class should confer with the instructor as to how to compensate.

The goal of this course is to improve students' English communication abilities. The focus will be on increasing reading and speaking speed to help with overall English comprehension as well as improve communication skills. Students are encouraged to focus less on grammar and syntactical precision, and more on conversation skills. While the practices can be quite a lot of work themselves they should generally be enjoyable. Class attendance is of great importance, please see below for details. Students are expected to conduct themselves in an enthusiastic but studious manner.

教科書 /Textbooks

NO text will be issued. Any printed material to be used in class will be handed out.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

No references

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1	Orientation
Week 2	Shadow Talking
Week 3	Speed
Week 4	Repeat
Week 5	Conversation Style
Week 6	Speaking on Topics
Week 7	Control Techniques
Week 8	Control Techniques
Week 9	Workarounds
Week 10	Charting
Week 11	Charting
Week 12	Group Conversation
Week 13	Group Conversation
Week 14	Test Practice
Week 15	Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Assignments=30%, Class Participation=20%, Final Test=50%.

Students will be expected to come to class regularly and on time and to keep track of their own attendance records. Excessive lateness can lead to penalties. If a student is absent THREE times or more this will lead to automatic failure of this course. There is no mid-term exam. Absences will be excused only by presentation of an official absence report (kouketsu) or a doctor's letter.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Not applicable

履修上の注意 /Remarks

Late arrivals to class or problems such as inappropriate use of phones or sleeping will be dealt with penalties at the instructor's discretion.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比2 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

テーマ：環境
ねらい：① 英語教材を通して、異文化理解や多文化主義を考える
② TOEICなどに必要とされるコミュニケーション能力の向上を図る

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に指示

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業の進め方・ Unit 1
- 第2回 Unit 2
- 第3回 Unit 3
- 第4回 Unit 4
- 第5回 Unit 5
- 第6回 Unit 6
- 第7回 Unit 7
- 第8回 Unit 8
- 第9回 Unit 9
- 第10回 Unit 10
- 第11回 Unit 11
- 第12回 Unit 12
- 第13回 Unit 13
- 第14回 Unit 14
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...20% 期末試験...80%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業前に分からない語句を必ず辞書で調べておくこと。調べていない場合は参加度から減点する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V【昼】

担当者名 /Instructor 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比2 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練する。また口語英語を中心に、文法能力と英文の内容を読み取る力の伸長を目指すことを目的とする。

教科書 /Textbooks

リスニング教材：生協の教科書リストに指定するので確認されたい。
リーディング教材：生協の教科書リストに指定するので確認されたい。
その他、適宜プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 リスニング プレテスト、リーディング インタロダクション
- 3回 リスニング ユニット1、リーディング ユニット1
- 4回 リスニング ユニット2、リーディング ユニット2
- 5回 リスニング ユニット3、リーディング ユニット3
- 6回 リスニング ユニット4、リーディング ユニット4
- 7回 リスニング ユニット5、リーディング ユニット5
- 8回 リスニング ユニット6、リーディング ユニット6
- 9回 リスニング ユニット7、リーディング ユニット7
- 10回 リスニング ユニット8、リーディング ユニット8
- 11回 リスニング ユニット9、リーディング ユニット9
- 12回 リスニング ユニット10、リーディング ユニット10
- 13回 リスニング ユニット11、リーディング ユニット11
- 14回 リスニング ユニット12、リーディング ユニット12
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・小テスト 80% 授業への貢献 20%
欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合、不合格になることがあります。
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎授業、指定された作業とリーディング教材の予習を必ず行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V 【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比2 - C /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの英語の4つのスキルのうち、リーディングとリスニングのスキルを高める。TOEICの問題演習を通じて英語力を高める。

教科書 /Textbooks

Score Goals in TOEIC Test Listening 500 松柏社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Picture Questions + Reading
- 2 回 Picture Questions + Reading
- 3 回 Picture Questions + Reading
- 4 回 Question-Response + Reading
- 5 回 Question-Response + Reading
- 6 回 Question-Response + Reading
- 7 回 Short Conversations + Reading
- 8 回 Short Conversations + Reading
- 9 回 Short Conversations + Reading
- 1 0 回 Short Conversations + Reading
- 1 1 回 Short Talks + Reading
- 1 2 回 Short Talks + Reading
- 1 3 回 Short Talks + Reading
- 1 4 回 Short Talks + Reading
- 1 5 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 ... 90% 日常の授業への取り組み ... 10%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の前半は、テキストを使ってTOEICの問題演習を行い、授業の後半は、プリントを使ってリーディングを行う。プリントを使ったリーディングについては、予習が必要である。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V【昼】

担当者名 /Instructor 薬師寺 元子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比2 - D /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

多種多様な情報を収集・発信していくために、国際語としての英語の総合的運用能力を高めることを目的とする。具体的には、「ビジネス関連の語彙や表現」に慣れること、また「TOEICの試験形式」そのものに慣れること。

- (1) 英語のReading及びListeningの能力を養う。
- (2) 英語の資格試験に必要な文法事項を学習する。

教科書 /Textbooks

SEIZE THE ESSENCE OF THE TOEIC TEST (金星堂)、2011年1月発行
「TOEICテストのエッセンスを学ぶ」 著者：安丸雅子、八尋真由美、Malcolm Swanson他

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

TOEICテスト新公式問題集Vol. 4 (発行：財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Unit 1 Daily Life (日常生活) 名詞・主語と動詞の一致
- 第3回 Unit 2 Eating Out & Amusement (外食と娯楽) 形容詞・副詞
- 第4回 Unit 3 Cooking & Purchasing (料理と買い物) 基本時制
- 第5回 Unit 4 Traffic & Travel (交通と旅行) 進行形・完了形
- 第6回 Unit 5 Production & Logistics (製造と運輸) 受動態
- 第7回 Unit 6 Business & Economics (ビジネスと経済) 分詞・分詞構文
- 第8回 Unit 7 Advertising & ICT (広告と情報通信技術) 不定詞・動名詞
- 第9回 Unit 8 Health & the Environment (健康と環境) 助動詞
- 第10回 Unit 9 Law & Administration (司法と行政) 代名詞・関係詞
- 第11回 Unit 10 Employment & Personnel (雇用と人事)
- 第12回 Unit 11 Finance & Banking (財務と銀行業務)
- 第13回 Unit 12 Office Work & Correspondence (社内業務と通信) その他の講文
- 第14回 小テスト (100問)
- 第15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 小テスト、レポート(20%)
 - ・ 出席、授業参加 (20%)
 - ・ 期末考査 (60%)
- 最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ・ 英和辞典、和英辞典持参のこと。
- ・ 発表が主体、授業への積極的な参加が要求されるので、十分な予習が必須である

履修上の注意 /Remarks

教科書を忘れた場合は、授業開始前に必ずコピーをしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比2 - A /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course is a general English course that includes the four language skills. There will be plenty of chance for discussion, individual work, pair work, and occasionally group work. It is hoped that the students enjoy the various topics under discussion and try to participate as much as possible, thereby making the lesson fun, refreshing, and fulfilling.

教科書 /Textbooks

Gear Up, Student book 1, (Macmillan Language House) by Steven Gershon and Chris Mares

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1) Introduction
- 第2回 Unit 1
- 第3回 Unit 2
- 第4回 Unit 3
- 第5回 Unit 4
- 第6回 Unit 5
- 第7回 Unit 6
- 第8回 Review of units 1-6
- 第9回 Unit 7
- 第10回 Unit 8
- 第11回 Unit 9
- 第12回 Unit 10
- 第13回 Unit 11
- 第14回 Unit 12
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 40%, class participation and positive attitude 60%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Good attendance is a prerequisite for getting a credit.
Read the textbook ahead of the lesson.

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比2 - B /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの英語の4つのスキルのうち、リーディングとリスニングのスキルを高める。TOEICの問題演習を通じて英語力を高める。

教科書 /Textbooks

Successful Keys to the TOEIC Test 2 (Second Edition)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Daily Life
- 2 回 Places
- 3 回 People
- 4 回 Travel
- 5 回 Business
- 6 回 Office
- 7 回 Technology
- 8 回 Personnel
- 9 回 Management
- 1 0 回 Purchasing
- 1 1 回 Finances
- 1 2 回 Media
- 1 3 回 Entertainment
- 1 4 回 Health
- 1 5 回 Restaurants

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 ... 90% 日常の授業への取組み ... 10%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の前半は、テキストを使ってTOEICの問題演習を行い、授業の後半は、プリントを使ってリーディングを行う。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI【昼】

担当者名 /Instructor 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比2 - C /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練する。また口語英語を中心に、文法能力と英文の内容を読み取る力の伸長を目指すことを目的とする。

教科書 /Textbooks

リスニング教材：生協の教科書リストに指定するので確認されたい。
リーディング教材：生協の教科書リストに指定するので確認されたい。
その他、適宜プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 リスニング プレテスト、リーディング インロダクション
- 3回 リスニング ユニット1、リーディング ユニット1
- 4回 リスニング ユニット2、リーディング ユニット2
- 5回 リスニング ユニット3、リーディング ユニット3
- 6回 リスニング ユニット4、リーディング ユニット4
- 7回 リスニング ユニット5、リーディング ユニット5
- 8回 リスニング ユニット6、リーディング ユニット6
- 9回 リスニング ユニット7、リーディング ユニット7
- 10回 リスニング ユニット8、リーディング ユニット8
- 11回 リスニング ユニット9、リーディング ユニット9
- 12回 リスニング ユニット10、リーディング ユニット10
- 13回 リスニング ユニット11、リーディング ユニット11
- 14回 リスニング ユニット12、リーディング ユニット12
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・小テスト 80% 授業への貢献 20%
欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合、不合格になることがあります。
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎授業、指定された作業とリーディング教材の予習を必ず行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI 【昼】

担当者名 薬師寺 元子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 比2 - D
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

多種多様な情報を収集・発信していくために、国際語としての英語の総合的運用能力を高めることを目的とする。
(1) 英語のReading及びListeningの能力を養う。
(2) 英語の資格試験に必要な文法事項を学習する。

教科書 /Textbooks

How to Receive a Better Score for the New TOEIC Test (松柏社)、2008年4月発行
「新TOEICテスト全パート得点のコツをレッスン」

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

TOEICテスト新公式問題集Vol.3(発行：財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Chapter 1 類似音、語彙、ビジネスレター
- 第3回 Chapter 2 Yes/No Question、語彙、記事
- 第4回 Chapter 3 プライベートな会話、品詞、広告
- 第5回 Chapter 4 部分的不一致、品詞、通知、告知
- 第6回 Chapter 5 Wh-questions、関係詞、図表
- 第7回 Chapter 6 ビジネス上の会話、関係詞、e-mail
- 第8回 Chapter 7 公共アナウンス、時制、ビジネスレター
- 第9回 Chapter 8 間接疑問文、時制、記事
- 第10回 Chapter 9 他人同士の会話、倒置構文、広告
- 第11回 Chapter 10 商業案内、倒置構文、通知、告知
- 第12回 Economic Growth
- 第13回 Automobile Society
- 第14回 小テスト (100問)
- 第15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 小テスト、レポート(20%)
 - ・ 出席、授業参加 (20%)
 - ・ 期末考査 (60%)
- 最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ・ 英和辞典、和英辞典持参のこと。
- ・ 発表が主体、授業への積極的な参加が要求されるので、十分な予習が必須である。

履修上の注意 /Remarks

教科書を忘れた場合は、授業開始前に必ずコピーをしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII 【昼】

担当者名 /Instructor デビッド・アンソニー・コフリン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比2 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Students will study the four basic language skills of reading, listening, writing and speaking, with a main focus on speaking & writing. The reading materials included will give the students something to speak and write about.

教科書 /Textbooks

World English 1A by Martin Miller published by Heinle Cengage Learning

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

N/A

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Unit 1 Sections A & B
- 2回 Unit 1 Sections C, D & E
- 3回 Unit 2 Sections A & B
- 4回 Unit 2 Sections C, D & E
- 5回 Unit 3 Sections A & B
- 6回 Unit 3 Sections C, D & E
- 7回 Review Test Units 1, 2 & 3
- 8回 Unit 4 Sections A & B
- 9回 Unit 4 Sections C, D & E
- 10回 Writing Activity
- 11回 Unit 5 Sections A & B
- 12回 Unit 5 Sections C, D & E
- 13回 Unit 6 Sections A & B
- 14回 Unit 6 Sections C, D & E
- 15回 Review Test Units 4, 5 & 6

成績評価の方法 /Assessment Method

Writing assignments and tests will be averaged to make the final mark. Main Dialog review tests and writing assignments will count as 50% of the mark. The other 50% will come from a weekly quiz. Unexcused absence will affect the students final mark.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Students should prepare for each class by reading section A of each unit and checking words they do not understand in the dictionary.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII 【昼】

担当者名 /Instructor: ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 2年次
単位 /Credits: 1単位
学期 /Semester: 1学期
授業形態 /Class Format: 講義
クラス /Class: 比2 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to improve students' English communication abilities. The focus will be on increasing reading and speaking speed to help with overall English comprehension as well as improve communication skills. Students are encouraged to focus less on grammar and syntactical precision, and more on conversation skills. While the practices can be quite a lot of work themselves they should generally be enjoyable. Class attendance is of great importance, please see below for details. Students are expected to conduct themselves in an enthusiastic but studious manner.

教科書 /Textbooks

NO text will be issued. Any printed material to be used in class will be handed out.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

No references

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Orientation
- Week 2 Shadow Talking
- Week 3 Speaking for Speed
- Week 4 Repeating for Communication
- Week 5 Conversation Style
- Week 6 Expand and Recycle
- Week 7 Speaking on Topics
- Week 8 Workarounds
- Week 9 Speaking on Topics
- Week 10 Disagreement
- Week 11 Reason Articulation
- Week 12 Group Conversation
- Week 13 Group Conversation
- Week 14 Test Practice
- Week 15 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Assignments=30%, Class Participation=20%, Final Test=50%.

Students will be expected to come to class regularly and on time and to keep track of their own attendance records. Excessive lateness can lead to penalties. If a student is absent THREE times or more this will lead to automatic failure of this course. There is no mid-term exam. Absences will be excused only by presentation of an official absence report (kouketsu) or a doctor's letter.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Not applicable

履修上の注意 /Remarks

Late arrivals to class or problems such as inappropriate use of phones or sleeping will be dealt with penalties at the instructor's discretion.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII 【昼】

担当者名 /Instructor ポール・ ガラフ・ スティール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to look at modern topics and how they affect us in everyday situations. For example fashion, tourism and movies. The students will be expected to express their opinions through discussion and written journals.

教科書 /Textbooks

Interchange 3 by J.C Richards Cambridge Univesity press (3 rd edition)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students must have an English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 That is what friends are for, relative pronouns and adverbial clauses
- 2 回 Writing a description of a best friend
- 3 回 career moves and gerund phrases
- 4 回 writing a description about a friend
- 5 回 could you do me a favour, requests with modals
- 6 回 writing an informal e-mail request
- 7 回 Narrating a story past continuous vs simple past
- 8 回 writing a newspaper article
- 9 回 crossing cultures and noun phrases
- 10 回 writing a tourist pamphlet
- 11 回 Describing problems with need and keep
- 12 回 writing a letter of complaint
- 13 回 identifying and describing problems and passive
- 14 回 review
- 15 回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam: 80% Peer journal: 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Good dictionaries: both bi-lingual and mono-lingual are preferable. Extra materials, which have been written by the instructor, will also be provided.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII 【昼】

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 比2 - D
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの出題パターンに慣れ、出題傾向に即して学習し、スコアアップを目指す。

教科書 /Textbooks

Essential Approach for the TOEIC Test 「TOEICテストへのニューアプローチ」 大須賀直子他著 成美堂 \2000

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、Pre - Test及び解説
- 2回 Unit1 Arts & Amusement [名詞・代名詞]
- 3回 Unit2 Lunch & Parties [形容詞・冠詞]
- 4回 Unit3 Medicine & Health [副詞]
- 5回 Unit4 Traffic & Travel [比較]
- 6回 Unit5 Ordering & Shipping [動詞・時制]
- 7回 Unit6 Factories & Production [未来表現など]
- 8回 Unit7 Research & Development [主語と動詞の呼応・時制の一致]
- 9回 Unit8 Computers & Technology [能動態・受動態]
- 10回 Unit9 Employment & Promotions [不定詞・動名詞]
- 11回 Unit10 Advertisements & Personnel [分詞]
- 12回 Unit11 Telephone & Messages [助動詞]
- 13回 Unit12 Banking & Finance [接続詞]
- 14回 Unit13 Office Work & Equipment [関係代名詞・関係副詞]
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

筆記試験(80%)、小テストによる平常点と出席状況・学習態度(20%)で総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単語小テストを実施するので、各自勉強して準備しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor デビッド・アンソニー・コフリン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比2 - A /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Students will study the four basic language skills of reading, listening, writing and speaking, with a main focus on speaking & writing. The reading materials included will give the students something to speak and write about.

教科書 /Textbooks

World English 1B by Martin Miller published by Heinle Cengage Learning

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

N/A

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Unit 7 Sections A & B
- 2回 Unit 7 Sections C, D & E
- 3回 Unit 8 Sections A & B
- 4回 Unit 8 Sections C, D & E
- 5回 Unit 9 Sections A & B
- 6回 Unit 9 Sections C, D & E
- 7回 Review Test Units 7, 8 & 9
- 8回 Unit 10 Sections A & B
- 9回 Unit 10 Sections C, D & E
- 10回 Writing Activity
- 11回 Unit 11 Sections A & B
- 12回 Unit 11 Sections C, D & E
- 13回 Unit 12 Sections A & B
- 14回 Unit 12 Sections C, D & E
- 15回 Review Test Units 10, 11 & 12

成績評価の方法 /Assessment Method

Writing assignments and tests will be averaged to make the final mark. Main Dialog review tests and writing assignments will count as 50% of the mark. The other 50% will come from a weekly quiz. Unexcused absence will affect the students final mark.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Students should prepare for each class by reading section A of each unit and checking words they do not understand in the dictionary.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名
/Instructor

ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次
/Year

単位
/Credits

1単位

学期
/Semester

2学期

授業形態
/Class Format

講義

クラス 比2 - B
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This class will generally build on skills obtained in the previous class (英語VII). Students who did not take that class should confer with the instructor as to how to compensate.

The goal of this course is to improve students' English communication abilities. The focus will be on increasing reading and speaking speed to help with overall English comprehension as well as improve communication skills. Students are encouraged to focus less on grammar and syntactical precision, and more on conversation skills. While the practices can be quite a lot of work themselves they should generally be enjoyable. Class attendance is of great importance, please see below for details. Students are expected to conduct themselves in an enthusiastic but studious manner.

教科書 /Textbooks

NO text will be issued. Any printed material to be used in class will be handed out.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

No references

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1	Orientation
Week 2	Shadow Talking
Week 3	Speed
Week 4	Repeat
Week 5	Conversation Style
Week 6	Speaking on Topics
Week 7	Control Techniques
Week 8	Control Techniques
Week 9	Workarounds
Week 10	Charting
Week 11	Charting
Week 12	Group Conversation
Week 13	Group Conversation
Week 14	Test Practice
Week 15	Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Assignments=30%, Class Participation=20%, Final Test=50%.

Students will be expected to come to class regularly and on time and to keep track of their own attendance records. Excessive lateness can lead to penalties. If a student is absent THREE times or more this will lead to automatic failure of this course. There is no mid-term exam. Absences will be excused only by presentation of an official absence report (kouketsu) or a doctor's letter.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Not applicable

履修上の注意 /Remarks

Late arrivals to class or problems such as inappropriate use of phones or sleeping will be dealt with penalties at the instructor's discretion.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor ポール・ ガラフ・ スティール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 比2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to look at modern topics and how affect us in everyday situations. For example fashion, tourism and movies. The students will be expected to express their opinions through discussion and written journals.

教科書 /Textbooks

Interchange 3rd Edition by J.C Richards Cambrdge Univesity Press

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

An English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回the world we live in
- 2回writing a letter to the editor
- 3回lifelong learning 'would rather and would prefer'
- 4回writing a short speech
- 5回talking about things that you need to have done
- 6回sentence stress and a writing a letter of advise
- 7回Talking about the future and with references to time in the past
- 8回 writing a biography
- 9回time clauses before, after, once and writing a letter of apology
- 10回describing qualities of success describing purpose with since, and for
- 11回writng about a predicament
- 12回describing how something is done and past modals of certainty
- 13回stress in compound nouns and writing about a process
- 14回review
- 15回Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 80% peer journal 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Good dictionaries: both bi-lingual and mono-lingual are preferable. Extra materials, which have been written by the instructor, will also be provided.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 口バート・マーフィ / Robert S. Murphy / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比2 - D /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

課題に沿って、英語を用いて思考を深め、相手の英語を聞き指摘する力また表現したい事柄を英語で流暢に表現できるようになることをねらいとする。

教科書 /Textbooks

Optimal Levels! Fun Flavor Book 1
Optimal Levels! Project Book

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Introduction / Writing
- 第2回 Cooking -Introductions
- 第3回 Cooking-Building Skills
- 第4回 Cooking-Essay composition
- 第5回 Presentation
- 第6回 Games-Introduction
- 第7回 Games-Building Skills
- 第8回 Games-Essay composition
- 第9回 Presentation
- 第10回 Driving Around-Introduction
- 第11回 Driving Around-Building Skills
- 第12回 Driving Around-Essay Composition
- 第13回 Presentation
- 第14回 Test Practice / Composition
- 第15回 Synthesis

成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼンテーション 各20% (計3回) 試験(essay) 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

プレゼンテーションを準備することが宿題になることがあります。工夫を凝らして、楽しんで制作してください。
テキストブックはModule 4～6まで使用します。
Module 1～3は休講期間等を利用して各自完成させておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

課題に沿って自分の語りたいことを英語で語れるようになる、楽しいクラスです。アイデアをたくさん出して、自由に表現できるようになりましょう。文法の用法や単語、表現の方法など講義中の質問は大歓迎です。

キーワード /Keywords

英語Ⅸ【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor 渡邊 嘉則 / WATANABE YOSHINORI / 基盤教育センター

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 比人3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

時事英語を題材にし、英語リスニングとリーディングの能力を伸ばすことをテーマとする。

教科書 /Textbooks

毎回、プリント配布予定。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

EDIC2 (英和・ 和英PC辞書)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 政治
- 3回 ビジネス
- 4回 外交
- 5回 司法
- 6回 災害
- 7回 スポーツ
- 8回 まとめ(1)
- 9回 海外事情
- 10回 科学
- 11回 文化(1)
- 12回 文化(2)
- 13回 環境(1)
- 14回 環境(2)
- 15回 まとめ(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ... 25% 課題・小テスト ... 25% 期末試験 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎週、指示する予習・復習をして、授業に出席してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅹ【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor 渡邊 嘉則 / WATANABE YOSHINORI / 基盤教育センター

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 比人3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

時事英語を題材にし、英語リスニングとリーディングの能力を伸ばすことをテーマとする。

教科書 /Textbooks

毎回、プリント配布予定。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

EDIC2 (英和・和英PC辞書)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 Unit 1
- 3回 Unit 2
- 4回 Unit 3
- 5回 Unit 4
- 6回 Unit 5
- 7回 Unit 6
- 8回 まとめ (1)
- 9回 Unit 7
- 10回 Unit 8
- 11回 Unit 9
- 12回 Unit 10
- 13回 Unit 11
- 14回 Unit 12
- 15回 まとめ (2)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ... 25% 課題・小テスト ... 25% 期末試験 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎週、指示する予習・復習をして、授業に出席してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語XI【昼】

担当者名
/Instructor

ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次
/Year

単位
/Credits

1単位

学期
/Semester

1学期

授業形態
/Class Format

講義

クラス 比人3年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to improve students' overall English abilities. The focus will be on creating a class that is as similar as possible to a true 3d year university English class in the West. The class will cover all aspects of English skills and will try to be of relevance to anyone seeking TOEFL qualification. While the practices can be quite a lot of work themselves they should generally be enjoyable.

Class attendance is of great importance, please see below for details. Students are expected to conduct themselves in an enthusiastic but studious manner.

教科書 /Textbooks

NO text will be issued. Any printed material to be used in class will be handed out.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

No references

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Orientation
- Week 2 Shadow Talking
- Week 3 Speaking for Speed
- Week 4 TOEFL Listening
- Week 5 Conversation Style
- Week 6 TOEFL Writing
- Week 7 TOEFL Speaking
- Week 8 TOEFL Listening
- Week 9 TOEFL Writing
- Week 10 TOEFL Speaking
- Week 11 TOEFL Listening
- Week 12 TOEFL Writing
- Week 13 TOEFL Speaking
- Week 14 Test Practice
- Week 15 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Assignments=40%, Class Participation=20%, Final Test=40%.

Students will be expected to come to class regularly and on time and to keep track of their own attendance records. Excessive lateness can lead to penalties. If a student is absent THREE times or more this will lead to automatic failure of this course. There is no mid-term exam. Absences will be excused only by presentation of an official absence report (kouketsu) or a doctor's letter.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Not applicable

履修上の注意 /Remarks

Late arrivals to class or problems such as inappropriate use of phones or sleeping will be dealt with penalties at the instructor's discretion.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語XII 【昼】

担当者名 /Instructor: ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 /Year: 単位 /Credits: 1単位 学期 /Semester: 2学期 授業形態 /Class Format: 講義 クラス 比人3年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to improve students' overall English abilities. The focus will be on creating a class that is as similar as possible to a true 3d year university English class in the West. The class will cover all aspects of English skills and will try to be of relevance to anyone seeking TOEFL qualification. While the practices can be quite a lot of work themselves they should generally be enjoyable.

English XII continues in content and style from English XI

Class attendance is of great importance, please see below for details. Students are expected to conduct themselves in an enthusiastic but studious manner.

教科書 /Textbooks

NO text will be issued. Any printed material to be used in class will be handed out.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

No references

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Orientation
- Week 2 Shadow Talking
- Week 3 Speaking for Speed
- Week 4 TOEFL Listening
- Week 5 Conversation Style
- Week 6 TOEFL Writing
- Week 7 TOEFL Speaking
- Week 8 TOEFL Listening
- Week 9 TOEFL Writing
- Week 10 TOEFL Speaking
- Week 11 TOEFL Listening
- Week 12 TOEFL Writing
- Week 13 TOEFL Speaking
- Week 14 Test Practice
- Week 15 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Assignments=40%, Class Participation=20%, Final Test=40%.
 Students will be expected to come to class regularly and on time and to keep track of their own attendance records. Excessive lateness can lead to penalties. If a student is absent THREE times or more this will lead to automatic failure of this course. There is no mid-term exam. Absences will be excused only by presentation of an official absence report (kouketsu) or a doctor's letter.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Not applicable

履修上の注意 /Remarks

Late arrivals to class or problems such as inappropriate use of phones or sleeping will be dealt with penalties at the instructor's discretion.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 板谷 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
 (1)発音から学び始め、語彙力を増やしなが、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
 (2)課文の講読を通して中国の各都市の状況について理解します。

教科書 /Textbooks

『中国秀』 < 試用本 > (『中国秀』 編集委員会)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【軽声】
- 2回 第二課 発音【子音】
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】
- 4回 第四課 自己紹介【人称代名詞】【指示代名詞】【動詞の文】【是の文】
- 5回 第四課 自己紹介
- 6回 第五課 北京【形容詞の文】【名詞の修飾】【数字】
- 7回 第五課 北京
- 8回 第六課 天津【動詞が複数ある文】【時間詞】【量詞】
- 9回 第六課 天津
- 10回 第七課 上海【指示代名詞】【方位詞】【存在の在】【存在の有】【複文】
- 11回 第七課 上海
- 12回 第八課 蘇州と杭州【前置詞の在】【所有の有】【是～的】
- 13回 第八課 蘇州と杭州
- 14回 前期のまとめ
- 15回 前期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・60% 小テスト・・・20% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 正野 留加 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
 (1)発音から学び始め、語彙力を増やしなが、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
 (2)課文の講読を通して中国の各都市の状況について理解します。

教科書 /Textbooks

『中国秀』 < 試用本 > (『中国秀』 編集委員会)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】
- 2回 第二課 発音【子音】
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】
- 4回 第四課 自己紹介【人称代名詞】【指示代名詞】【動詞の文】【是の文】
- 5回 第四課 自己紹介
- 6回 第五課 北京【形容詞の文】【名詞の修飾】【数字】
- 7回 第五課 北京
- 8回 第六課 天津【動詞が複数ある文】【時間詞】【量詞】
- 9回 第六課 天津
- 10回 第七課 上海【指示代名詞】【方位詞】【存在の在】【存在の有】【複文】
- 11回 第七課 上海
- 12回 第八課 蘇州と杭州【前置詞の在】【所有の有】【是～的】
- 13回 第八課 蘇州と杭州
- 14回 前期のまとめ
- 15回 前期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・60% 小テスト・・・20% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語II 【昼】

担当者名 /Instructor 板谷 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
 (1)発音から学び始め、語彙力を増やしなが、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
 (2)課文の講読を通して中国の各都市の状況について理解します。

教科書 /Textbooks

『中国秀』 < 試用本 > (『中国秀』 編集委員会)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 第九課 義烏【了】【動作の現在進行形】【助動詞】【前置詞】
- 2 回 第九課 義烏
- 3 回 第十課 西安と洛陽【動詞+過】【動作の回数】【結果補語】【状態補語】【助動詞】
- 4 回 第十課 西安と洛陽
- 5 回 第十一課 成都【前置詞】【複文】【結果補語】【動作の時間を表す単位】【動作の時間】
- 6 回 第十一課 成都
- 7 回 第十二課 昆明【複文】【結果補語】【前置詞】
- 8 回 第十二課 昆明
- 9 回 第十三課 広州【結果補語】【前置詞】【ちょっと、少しの表現】【複文】【方向補語】【把の構文】
- 10 回 第十三課 広州
- 11 回 第十四課 大連【比較表現】【比喻表現】【使役表現】【受身表現】
- 12 回 第十四課 大連
- 13 回 第十五課 日本の紹介【複文】【了】【助動詞】
- 14 回 第十五課 日本の紹介
- 15 回 後期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ ・ 60% 小テスト・ ・ 20% 日常の授業への取り組み・ ・ 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語II 【昼】

担当者名 /Instructor 正野 留加 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
 (1)発音から学び始め、語彙力を増やしなが、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
 (2)課文の講読を通して中国の各都市の状況について理解します。

教科書 /Textbooks

『中国秀』 < 試用本 > (『中国秀』 編集委員会)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 第九課 義烏【了】【動作の現在進行形】【助動詞】【前置詞】
- 2 回 第九課 義烏
- 3 回 第十課 西安と洛陽【動詞+過】【動作の回数】【結果補語】【状態補語】【助動詞】
- 4 回 第十課 西安と洛陽
- 5 回 第十一課 成都【前置詞】【複文】【結果補語】【動作の時間を表す単位】【動作の時間】
- 6 回 第十一課 成都
- 7 回 第十二課 昆明【複文】【結果補語】【前置詞】
- 8 回 第十二課 昆明
- 9 回 第十三課 広州【結果補語】【前置詞】【ちょっと、少しの表現】【複文】【方向補語】【把の構文】
- 10 回 第十三課 広州
- 11 回 第十四課 大連【比較表現】【比喻表現】【使役表現】【受身表現】
- 12 回 第十四課 大連
- 13 回 第十五課 日本の紹介【複文】【了】【助動詞】
- 14 回 第十五課 日本の紹介
- 15 回 後期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ ・ 60% 小テスト・ ・ 20% 日常の授業への取り組み・ ・ 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
(1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
(2)日常会話に必要な語彙力を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。

教科書 /Textbooks

『中国秀』 <試用本> (『中国秀』編集委員会)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】、練習問題
- 2回 第二課 発音【子音】、練習問題
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】、練習問題
- 4回 発音の総合練習
- 5回 第四課 初めまして
- 6回 第四課 初めまして、練習問題
- 7回 第五課 搭乗・入国
- 8回 第五課 搭乗・入国、練習問題
- 9回 第六課 レストランにて
- 10回 第六課 レストランにて、練習問題
- 11回 第七課 交通
- 12回 第七課 交通、練習問題
- 13回 第八課 観光
- 14回 第八課 観光、練習問題
- 15回 前期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 50% 日常の授業への取り組み・小テスト50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 王 曉芳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
(1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
(2)日常会話に必要な語彙力を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。

教科書 /Textbooks

『中国秀』 <試用本> (『中国秀』編集委員会)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】、練習問題
- 2回 第二課 発音【子音】、練習問題
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】、練習問題
- 4回 発音の総合練習
- 5回 第四課 初めまして
- 6回 第四課 初めまして、練習問題
- 7回 第五課 搭乗・入国
- 8回 第五課 搭乗・入国、練習問題
- 9回 第六課 レストランにて
- 10回 第六課 レストランにて、練習問題
- 11回 第七課 交通
- 12回 第七課 交通、練習問題
- 13回 第八課 観光
- 14回 第八課 観光、練習問題
- 15回 前期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 50% 日常の授業への取り組み・小テスト50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
(1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
(2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。

教科書 /Textbooks

『中国秀』 <試用本> (『中国秀』編集委員会)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 買い物
- 2回 第九課 買い物、練習問題
- 3回 第十課 銀行にて
- 4回 第十課 銀行にて、練習問題
- 5回 第十一課 ホテルにて
- 6回 第十一課 ホテルにて、練習問題
- 7回 第十二課 電話
- 8回 第十二課 電話、練習問題
- 9回 第十三課 趣味
- 10回 第十三課 趣味、練習問題
- 11回 第十四課 語り合い
- 12回 第十四課 語り合い、練習問題
- 13回 第十五課 搭乗手続き・免税店にて
- 14回 第十五課 搭乗手続き・免税店にて、練習問題
- 15回 後期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 50% 日常の授業への取り組み・小テスト50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 王 曉芳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
(1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
(2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。

教科書 /Textbooks

『中国秀』 <試用本> (『中国秀』編集委員会)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 買い物
- 2回 第九課 買い物、練習問題
- 3回 第十課 銀行にて
- 4回 第十課 銀行にて、練習問題
- 5回 第十一課 ホテルにて
- 6回 第十一課 ホテルにて、練習問題
- 7回 第十二課 電話
- 8回 第十二課 電話、練習問題
- 9回 第十三課 趣味
- 10回 第十三課 趣味、練習問題
- 11回 第十四課 語り合い
- 12回 第十四課 語り合い、練習問題
- 13回 第十五課 搭乗手続き・免税店にて
- 14回 第十五課 搭乗手続き・免税店にて、練習問題
- 15回 後期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 50% 日常の授業への取り組み・小テスト50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- (1)一年次に学びましたが、日本人にとって比較的把握が困難な文法事項を再確認し、定着させます。
 (2)長文読解や練習問題を通して、語彙力を増やし、中級レベルの文法と自然な言い回しを習得できます。(「読む・書く」面の強化)また中国の様々な現代事情について理解を深めます。
 (3)本文や会話のCDを聞く、練習することにより、「聞く・話す・読解」面の強化もはかります。

教科書 /Textbooks

『ときめき中国-ぼくらの新‘漢流’生活-』(張国璐・池上貞子著)朝日出版社 2000円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書(CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 文法確認【結果補語】【方向補語】
- 2回 文法確認【様態補語】【可能補語】
- 3回 文法確認【把構文】【被構文】
- 4回 文法確認【比較表現】【複文】
- 5回 小テスト
- 6回 第一課 80後と90後 本文【複文】【副詞】【可能補語】
- 7回 第一課 80後と90後 会話
- 8回 第一課 80後と90後 練習問題 小テスト
- 9回 第二課 いまどきの大学生 本文【助動詞】【複文】【動作の回数】
- 10回 第二課 いまどきの大学生 会話
- 11回 第二課 いまどきの大学生 練習問題 小テスト
- 12回 第三課 若者と住宅問題 本文【語気助詞】【助動詞】【結果補語】
- 13回 第三課 若者と住宅問題 会話
- 14回 第三課 若者と住宅問題 練習問題 小テスト
- 15回 前期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・60% 小テスト・・・20% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- (1)長文読解や練習問題を通して、語彙力を増やし、中級レベルの文法と自然な言い回しを習得できます。(「読む・書く」面の強化)
- (2)中国の様々な現代事情について理解を深めます。
- (3)本文や会話のCDを聞く、練習することにより、「聞く・話す・読解」面の強化もはかります。

教科書 /Textbooks

『ときめき中国-ぼくらの新'漢流'生活-』(張国璠・池上貞子著)朝日出版社 2000円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書(CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第四課 中国人とお金 本文【副詞】【部分否定】【状態の持続】【助動詞】【結果補語】
- 2回 第四課 中国人とお金 会話
- 3回 第四課 中国人とお金 練習問題 小テスト
- 4回 第五課 金持ちだから 本文【副詞】【助動詞】【存在・所有】【複文】
- 5回 第五課 金持ちだから 会話
- 6回 第五課 金持ちだから 練習問題 小テスト
- 7回 第六課 中国人の面子 本文【助動詞】【強調】【二重目的語】
- 8回 第六課 中国人の面子 会話
- 9回 第六課 中国人の面子 練習問題 小テスト
- 10回 第七課 あるハリー族 本文【過去の経験】【様態補語】【前置詞の在】
- 11回 第七課 あるハリー族 会話
- 12回 第七課 あるハリー族 練習問題 小テスト
- 13回 第八課 ジェネレーション・ギャップ 本文【助動詞】【複文】
- 14回 第八課 ジェネレーション・ギャップ 会話
- 15回 第八課 ジェネレーション・ギャップ 練習問題 小テスト

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・60% 小テスト・・・20% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

担当者名 /Instructor 馮 雅蓮 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。
(1)会話文の練習などを通して、正しい発音をしっかり定着させます。
(2)ビジネスに必要な語彙を増やし、業務の様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。

教科書 /Textbooks

『体験汉语100句・公務类』中国・高等教育出版社(褚佩如 等)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO 等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 挨拶・紹介 フレーズ1～3
- 2回 挨拶・紹介 フレーズ4～6
- 3回 挨拶・紹介 フレーズ7～9
- 4回 挨拶・紹介 フレーズ10～12
- 5回 事務用品の使用 フレーズ13～15
- 6回 事務用品の使用 フレーズ16～18
- 7回 スケジュールの手配 フレーズ19～21
- 8回 スケジュールの手配 フレーズ22～24
- 9回 スケジュールの手配 フレーズ25～28
- 10回 場所の確認 フレーズ29～31
- 11回 場所の確認 フレーズ32～34
- 12回 称賛・褒め称える フレーズ35～39
- 13回 連絡 フレーズ40～42
- 14回 連絡 フレーズ43～45
- 15回 招請・宴席への招待 フレーズ46～48

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・50% 暗誦テスト・・・30% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 王 晨 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。
(1)会話文の練習などを通して、正しい発音をしっかり定着させます。
(2)ビジネスに必要な語彙を増やし、業務の様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。

教科書 /Textbooks

『体験汉语100句・公務类』中国・高等教育出版社(褚佩如 等)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO 等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 招請・宴席への招待 フレーズ49～52
- 2回 招請・宴席への招待 フレーズ53～56
- 3回 感謝 フレーズ57～59
- 4回 クレーム・催促 フレーズ60～63
- 5回 クレーム・催促 フレーズ64～67
- 6回 要求・務め フレーズ68～70
- 7回 要求・務め フレーズ71～73
- 8回 要求・務め フレーズ74～77
- 9回 アポイント・変更 フレーズ78～80
- 10回 アポイント・変更 フレーズ81～83
- 11回 アポイント・変更 フレーズ84～87
- 12回 問い合わせ フレーズ88～90
- 13回 問い合わせ フレーズ91～94
- 14回 お別れ・見送り フレーズ95～97
- 15回 お別れ・見送り フレーズ98～100

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・50% 暗誦テスト・・・30% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

上級中国語I 【昼】

担当者名 /Instructor 唐 雋 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英国済営比人3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

上級中国語I・IIは、中国語初・中級をひとつおわり終えた学習者のために、さらに一歩上の段階で学ぶ講義である。
本講義は初・中級に続き、文章の購読、理解、作文練習などの技能を修得することを重点に置き、読むおよび書くことの能力の養成に配慮し、中国語の文章の読解能力、作文力を身につけることを目標とする。
テキストを中心に朗読、翻訳、作文練習を重ねて行う。テキスト以外にビデオ、参考資料などを通して中国の文化や風習などを紹介する。

教科書 /Textbooks

名和又介『ビデオで学ぶ中国文化』金星堂

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

名和又介『ビデオで学ぶ中国文化』金星堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1学期
- 第1回 吉祥紅I
- 第2回 吉祥紅II
- 第3回 吉祥紅III
- 第4回 作文練習
- 第5回 淮揚菜I
- 第6回 淮揚菜II
- 第7回 淮揚菜III
- 第8回 紹興与酒I
- 第9回 紹興与酒II
- 第10回 紹興与酒III
- 第11回 作文練習
- 第12回 第一家電視台I
- 第13回 第一家電視台II
- 第14回 朗読練習
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席状況30% 作文、朗読などの練習40% 定期試験30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習および復習する必要がある。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

上級中国語II 【昼】

担当者名 /Instructor 唐 雋 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英国済営比人3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

上級中国語I・IIは、中国語初・中級をひととおり終えた学習者のために、さらに一歩上の段階で学ぶ講義である。
本講義は初・中級に続き、文章の購読、理解、作文練習などの技能を修得することを重点に置き、読むおよび書くことの能力の養成に配慮し、中国語の文章の読解能力、作文力を身につけることを目標とする。
テキストを中心に朗読、翻訳、作文練習を重ねて行う。テキスト以外にビデオ、参考資料などを通して中国の文化や風習などを紹介する。

教科書 /Textbooks

名和又介『ビデオで学ぶ中国文化』金星堂

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

名和又介『ビデオで学ぶ中国文化』金星堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第2学期
- 第1回 八達嶺I
 - 第2回 八達嶺II
 - 第3回 八達嶺III
 - 第4回 作文練習
 - 第5回 潮州功夫茶I
 - 第6回 潮州功夫茶II
 - 第7回 潮州功夫茶III
 - 第8回 作文練習
 - 第9回 漢字簡化方案I
 - 第10回 漢字簡化方案II
 - 第11回 朗読練習
 - 第12回 天壇説九I
 - 第13回 天壇説九II
 - 第14回 天壇説九III
 - 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席状況30% 作文、朗読などの練習40% 定期試験30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習および復習する必要がある。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

上級中国語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 英国済営比人3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎を習得した学生を対象に、やや複雑な文章や長文の読解、作文を教授学習する。なお、「聴く」、「話す」、「読む」、「書く」四つの能力を総合的にバランスよく基本的な表現方式を実習し、一場面ずつ簡単なビジネス中国語を身に付け、将来の就職に役に立つように気を配る。

教科書 /Textbooks

『就職に役立つ中国語』 [改訂版] 王占華・劉慶 駿河台出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『中国語学概論』(改訂版) 王占華 他 駿河台出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義の目標と進め方について これまで習った内容の復習
- 2回 面接、【動詞と時量】
- 3回 電話を掛ける【呼び方】
- 4回 復習、中間小テスト
- 5回 ホームページのアドレスと電子メール【開始+動詞】
- 6回 約束【全面否定・肯定】
- 7回 復習、中間小テスト
- 8回 空港への出迎え【願望】
- 9回 食事に招待する【比況表現】
- 10回 復習、中間小テスト
- 11回 町を見物する【軽量表現】
- 12回 空港見送り【仮定表現】
- 13回 ホテルの予約【起点、終点】
- 14回 総合復習
- 15回 試験

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...20% 中間小テスト...30% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講生の耳と口と手を使った積極的な予習と反復練習を望む。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

上級中国語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 英国済営比人3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎を習得した学生を対象に、やや複雑な文章や長文の読解、作文を教授学習する。なお、「聴く」、「話す」、「読む」、「書く」四つの能力を総合的にバランスよく基本的な表現方式を実習し、一場面ずつ簡単なビジネス中国語を身に付け、将来の就職に役に立つように気を配る。

教科書 /Textbooks

『就職に役立つ中国語』 [改訂版] 王占華・劉慶 駿河台出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『中国語学概論』(改訂版) 王占華 他 駿河台出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義の目標と進め方について、1学期習った内容の復習
- 2回 税関で【結果補語1】
- 3回 タクシーに乗る【距離表現】
- 4回 復習、中間小テスト
- 5回 チェックイン【受身主語文】
- 6回 道をたずねる【連鎖表現】
- 7回 復習、中間小テスト
- 8回 両替【等分表現】
- 9回 レストランで食事する【結果補語2】
- 10回 復習、中間小テスト
- 11回 サンプルを送る【比較表現】
- 12回 列車の乗車券を買う【強調表現】
- 13回 おみやげを買う【疑問詞の非疑問用法】
- 14回 総合復習
- 15回 試験

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...20% 中間小テスト...30% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講生の耳と口と手を使った積極的な予習と反復練習を望む。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅰ【昼】

担当者名
/Instructor

チャン ユンヒャン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 比1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本語が母語である学習者にとって、他言語より習得しやすい言語であるといわれているのが韓国語である。ゆえに日本語と韓国語の対照言語的なアプローチから両言語の文法において、類似点と相違点を指導することで個々の学習能力を高めていくことを教育方針とする。もっとも重要なことは文字と発音を正確に習得することである。

この講義では韓国語を正確に読み書きできるようにすること、また自己紹介、初歩的な挨拶表現や簡単な文章を読み、理解できることを目標とする。

教科書 /Textbooks

金貞愛他『しっかり初級韓国語』（白水社）、担当者が作ったプリントとメディア資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

油谷幸利他『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』（小学館）

李昌圭『韓国語を学ぼう』別冊練習長（朝日出版社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語及び授業の概要、文字の構成【ハングル】【基本挨拶】【母音発音及び書き順】 2回 文字の発音及び書き順 1【基本母音のドリル】【基本子音の発音】【音節と単語読み】 3回 文字の発音及び書き順2【激音・濃音】【半母音と二重母音】【半切表】 4回 文字の発音及び書き順3【バッチム】【二重バッチム】【名札作り】
- 5回 単語読みと書き取りのドリル【平音、激音、濃音の読みと聞き分け】【バッチムの発音】 6回 発音の法則【連音化】【激音化】
- 7回 発音の法則【鼻音化】【濃音化】
- 8回 発音の法則【流音化】【その他の発音法則】
- 9回 自然な発音で単語を読むドリル【国名と地名】【あいさつ文章】【漢字合成語】
- 10回 簡単な文章読み書き【自己紹介】【～です】【～は】【職業】
- 11回 疑問文と応答文【～ですか】【はい、いいえ】【～ではありません】【辞書調べ方】
- 12回 存在詞、場所名、位置名詞【ある・無い】【～に】
- 13回 指示代名詞、疑問詞【こ・そ・あ・ど表】【何、なぜ、誰 等】【パソコンの入力方法】
- 14回 人称代名詞【私が男の場合】【私が女の場合】【韓国社会における人の呼び方】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...25% 課題...25% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講生はこの講義と朝鮮語Ⅲの授業を並行して受講すればしっかり復習及び会話のコミュニケーションまで並行して勉強できる。理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定であるので、前回の授業の内容を復習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

わかりやすい韓国語授業にしたいと思います。そうするためには皆様の力も必要ですので、一緒に頑張りましょう。

キーワード /Keywords

担当者名
/Instructor

チャン ユンヒャン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 比 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本語と韓国語の対照言語的なアプローチから両言語の文法において、類似点と相違点を指導することで学習能力を高めていくことを教育方針とする。前学期に続いて、相手、時制、自己表現によって異なる言葉遣いにおける学習、短文の読解ができるための基礎文法を学習することを目標とする。

教科書 /Textbooks

金貞愛他『しっかり初級韓国語』（白水社）、担当者が作ったプリントとメディア資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

油谷幸利他『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』（小学館）

李昌圭『韓国語を学ぼう』別冊練習長（朝日出版社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語Iの学習内容確認、丁寧形1【합니다体】
- 2回 助詞1、漢数字1【1～、分数・小数】
- 3回 助詞2、漢数字2【電話番号】【年月日】【誕生日】
- 4回 時制表現【昨日・今日・明日】【四季】【毎週・毎月・毎年】
- 5回 丁寧形2【해요体】文法説明
- 6回 丁寧形2【해요体】ドリル
- 7回 「해요体」の不規則、固有数字1【一つ、二つ...】
- 8回 「해요体」のドリル、固有数字2【年齢】
- 9回 時刻【(固有数字)時(漢数字)分】及びドリル
- 10回 数量単位名詞【漢数字の場合】【固有数字の場合】
- 11回 希望及び願望【～たい】【～たがる】
- 12回 否定形、不可能形【안～,～지 않습니다】【못～,～지 못합니다】
- 13回 過去形【합니다体の過去】【해요体の過去】【日記】
- 14回 過去形の否定及び不可能【～지 않았습니다.】【～지 못했습니다.】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...25% 課題...25% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講生はこの講義と朝鮮語Ⅳの授業を並行して受講すればしっかり復習及び会話のコミュニケーションまで並行して勉強できる。理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定であるので、前回の授業の内容を復習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

文法をしっかり勉強すると会話が楽しくなりますので、一緒に頑張りましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor チャン ユンヒャン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比 /Class 比1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

まず、基本の文字習得や発音の法則は文法の授業と重なる部分があるが、聞き取りや学習者一人一人の発音の指導及び学んだ言葉を話す練習を主にしてコミュニケーション能力を高めていくのを教育方針とする。もっとも重要なことはハングル(文字)と発音を正確に習得することである。この講義では韓国語を正確に聴いて書くことができるようにすること、また自己紹介、初歩的な挨拶表現や簡単な質問に返事できることを目標とする。

教科書 /Textbooks

金順玉他『新チャレンジ！韓国語』(白水社)、担当者が作ったプリントとメディア資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

李昌圭『韓国語を学ぼう』別冊練習長(朝日出版社)
油谷幸利他『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』(小学館)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語及び授業の概要、文字の構成【ハングル】【基本挨拶】【母音発音及び書き順】 2回 文字の発音及び書き順1【基本母音のドリル】【基本子音の発音】【音節と単語読み】 3回 文字の発音及び書き順2【激音・濃音】【半母音と二重母音】【半切表】
- 4回 文字の発音及び書き順3【バッチム】【二重バッチム】【名札作り】
- 5回 単語読みと書き取りのドリル【平音、激音、濃音の読みと聞き分け】【バッチムの発音】 6回 発音の法則【連音化】【激音化】ドリル
- 7回 発音の法則【鼻音化】【濃音化】ドリル
- 8回 発音の法則【流音化】【その他の発音法則】ドリル
- 9回 自然な発音で単語を読むドリル【体の部分名称】【単語カード】
- 10回 簡単な文章読み書き【自己紹介】【職業】
- 11回 疑問文と応答文【～ですか】【はい、いいえ】【～ではありません】
- 12回 韓国文化紹介【民族衣装】【民族遊び体験】【日韓交流のサブカルチャ紹介】
- 13回 存在詞、場所名、セスチュア一位置名詞暗記【教室にある物と無いもの】【～に】
- 14回 指示代名詞、人称代名詞、疑問詞【ヘアで指示代名詞の質問と応答】【皆に家族紹介】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...25% 課題...25% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この講義と朝鮮語Iの授業を並行して受講すればしっかり復習及び会話のコミュニケーションまで並行して勉強できる。理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定であるので、前回の授業の内容を復習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

多くのアクティビティを含んだ授業を目指してやっていますので、楽しい韓国語を学びましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅴ【昼】

担当者名 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 済営比人律政群
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級レベルでは学習しなかった、より高度な会話や文章の読解を目指す。主として表現・文法の学習を中心とし、その学習を効果的に行うため、会話や読解、作文練習などに力を入れる。

教科書 /Textbooks

『韓国語を学ぶ 中級』（李昌圭、朝日出版社、2,300円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)

『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 何を食べましょうか【注文に関する表現】【提案と勧誘の表現】(1)
- 3回 何を食べましょうか【注文に関する表現】【提案と勧誘の表現】(2)
- 4回 電話番号を教えてください【理由の表現】【否定文】(1)
- 5回 電話番号を教えてください【理由の表現】【否定文】(2)
- 6回 趣味は何ですか【仮定・連体形】(1)
- 7回 趣味は何ですか【仮定・連体形】(2)
- 8回 ビデオ上映
- 9回 仁寺洞にはどのように行きますか【道を尋ねる表現】【地下鉄の路線図を読む】(1)
- 10回 仁寺洞にはどのように行きますか【道を尋ねる表現】【地下鉄の路線図を読む】(2)
- 11回 風邪はすっかり治ったんですか【前置き・禁止・可能の表現】【病気に関する表現】(1)
- 12回 風邪はすっかり治ったんですか【前置き・禁止・可能の表現】【病気に関する表現】(2)
- 13回 連休に何をするつもりですか【予定の表現】【譲歩・同時進行の表現】(1)
- 14回 連休に何をするつもりですか【予定の表現】【譲歩・同時進行の表現】(2)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席および授業態度... 20% 小テストおよび宿題... 30% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級レベルでは学習しなかった、より高度な会話や文章の読解を目指す。1学期に引き続き、主として表現・文法の学習を中心とし、その学習を効果的に行うため、会話や読解、作文練習などに力を入れる。

教科書 /Textbooks

『韓国語を学ぶ 中級』（李昌圭、朝日出版社、2,300円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)

『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 雨が結構降っているみたいですね【推測の表現】【引用・伝聞の表現】(1)
- 3回 雨が結構降っているみたいですね【推測の表現】【引用・伝聞の表現】(2)
- 4回 プルゴギを作ることができますか【注文に関する表現】【提案と勧誘の表現】(1)
- 5回 プルゴギを作ることができますか【注文に関する表現】【提案と勧誘の表現】(2)
- 6回 このズボン、履いてみてもいいですか【理由の表現】【否定文】(1)
- 7回 このズボン、履いてみてもいいですか【理由の表現】【否定文】(2)
- 8回 韓国文化とのふれあい
- 9回 テーマに沿って自由会話(1)
- 10回 テーマに沿って自由会話(2)
- 11回 発表(1)
- 12回 発表(2)
- 13回 発表(3)
- 14回 発表(4)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席および授業態度... 20% 小テストおよび宿題... 30% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、会話練習を中心に行い、朝鮮語による表現力と基礎的な日常会話の運用能力を高めることを目標とする。

教科書 /Textbooks

金順玉他『ちょこっとチャレンジ!』白水社(2011年3月)、2,400円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 お名前なんとおっしゃいますか?【インタビューする】
- 3回 お名前なんとおっしゃいますか?【インタビューする】
- 4回 朝子といいますが、日本から来ました。【自己紹介をする】
- 5回 朝子といいますが、日本から来ました。【自己紹介をする】
- 6回 魚は焼かないでください。【きまりを言う】
- 7回 魚は焼かないでください。【きまりを言う】
- 8回 花火を見にいこうと思います。【チャレンジ】
- 9回 ファンの集いに行くことにしました。【約束をする】
- 10回 ファンの集いに行くことにしました。【約束をする】
- 11回 道を渡って左にずっと言ってください。【道案内をする】
- 12回 道を渡って左にずっと言ってください。【道案内をする】
- 13回 ファンの集いへ行ってみたんですけど...【感想を言う】
- 14回 ファンの集いへ行ってみたんですけど...【感想を言う】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表・課題・小テスト...40% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、先週のできことを発表してもらう。
予習が必須なので必ず予習をすること。

履修上の注意 /Remarks

授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく話しましょう!

キーワード /Keywords

朝鮮語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、会話練習を中心に行い、朝鮮語による表現力と基礎的な日常会話の運用能力を高めることを目標とする。

教科書 /Textbooks

金順玉他 『ちょこっとチャレンジ!』 白水社 (2011年3月)、2,400円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自由会話【夏休みの出来事】
- 2回 少し安くしてください。【買い物をする】
- 3回 少し安くしてください。【買い物をする】
- 4回 私の気持ちですから受け取ってください。【プレゼントをする】
- 5回 私の気持ちですから受け取ってください。【プレゼントをする】
- 6回 咳がひどくて眠れませんでした。【体の具合を言う】
- 7回 咳がひどくて眠れませんでした。【体の具合を言う】
- 8回 いちど行ってみてください。【チャレンジ】
- 9回 字幕を見ながら勉強します。【勉強の仕方を話す】
- 10回 字幕を見ながら勉強します。【勉強の仕方を話す】
- 11回 今日は来られないそうです。【話を伝える<間接話法>】
- 12回 今日は来られないそうです。【話を伝える<間接話法>】
- 13回 久しぶりに来てみて、どうですか？【思い出を話す】
- 14回 久しぶりに来てみて、どうですか？【思い出を話す】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表・課題・小テスト...40% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、先週のできことを発表してもらう。
予習が必須なので必ず予習をすること。

履修上の注意 /Remarks

授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく話しましょう！

キーワード /Keywords

上級朝鮮語I【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日常の身近なできごとをテーマにした様々な文章を読むことを通して、読解力を身につけることを目標とする。同時に応用作文の練習も行い、文章力の養成を目指す。

教科書 /Textbooks

曹喜澈 『ウリマル』 白帝社 (2006年2月)、2,600円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典 『朝鮮語辞典』 (小学館) (毎回持参)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自己紹介【講読】
- 3回 自己紹介【作文】
- 4回 私の家【講読】
- 6回 私の家【作文】
- 7回 私の学校【講読】
- 8回 私の学校【作文】
- 9回 病院と薬局【講読】
- 10回 病院と薬局【作文】
- 11回 手紙【講読】
- 12回 手紙【作文】
- 13回 趣味【講読】
- 14回 趣味【作文】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表・課題・小テスト...40% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、訳を作成してもらうので、予習が必須となる。

履修上の注意 /Remarks

テキストに出る文型や語句を覚えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく文章を作りましょう！

キーワード /Keywords

上級朝鮮語II 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第二外国語

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日常の身近なできごとをテーマにした様々な文章を読むことを通して、読解力を身につけることを目標とする。同時に応用作文の練習も行い、文章力の養成を目指す。

教科書 /Textbooks

曹喜澈 『ウリマル』 白帝社 (2006年2月)、2,600円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典 『朝鮮語辞典』 小学館 (毎回持参)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 映画【講読】
- 3回 映画【作文】
- 4回 地下鉄【講読】
- 5回 地下鉄【作文】
- 6回 感想文【講読】
- 8回 感想文【作文】
- 9回 日記【講読】
- 10回 日記【作文】
- 11回 試験【講読】
- 12回 試験【作文】
- 13回 韓国と日本【講読】
- 14回 韓国と日本【作文】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表・課題・小テスト...40% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、訳を作成してもらうので、予習が必須となる。

履修上の注意 /Remarks

テキストに出る文型や語句を覚えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく文章を作りましょう！

キーワード /Keywords

上級朝鮮語Ⅲ 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第二外国語

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級・中級まで学習してきたことを定着、さらに発展させて自信と実践力をつける。また、韓国の社会や文化など、韓国事情に触れることで異文化理解も深めたい。

教科書 /Textbooks

『韓国語 上級』（李昌圭、白帝社、2,800円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)

『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）、『韓国語上級表現ノート』（前田、明石書店、1890円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 1課 病院で(1)
- 3回 1課 病院で(2)
- 4回 2課 バス停で(1)
- 5回 2課 バス停で(2)
- 6回 3課 銀行で(1)
- 7回 3課 銀行で(2)
- 8回 4課 本を読む(1)
- 9回 4課 本を読む(2)
- 10回 5課 韓国料理(1)
- 11回 5課 韓国料理(1)
- 12回 6課 天気(1)
- 13回 6課 天気(1)
- 14回 まとめ(1)
- 15回 まとめ(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

出席および授業態度... 20% 小テストおよび宿題... 30% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

上級朝鮮語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級・中級まで学習してきたことを定着、さらに発展させて自信と実践力をつける。また、韓国の社会や文化など、韓国事情に触れることで異文化理解も深めたい。

教科書 /Textbooks

『韓国語 上級』（李昌圭、白帝社、2,800円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)

『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）、『韓国語上級表現ノート』（前田、明石書店、1890円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 7課 趣味は何ですか(1)
- 3回 7課 趣味は何ですか(2)
- 4回 8課 約束(1)
- 5回 8課 約束(2)
- 6回 9課 道を歩く(1)
- 7回 9課 道を歩く(2)
- 8回 10課 引っ越し(1)
- 9回 10課 引っ越し(2)
- 10回 11課 明けましておめでとうございます(1)
- 11回 11課 明けましておめでとうございます(2)
- 12回 12課 中秋節(1)
- 13回 12課 中秋節(2)
- 14回 まとめ(1)
- 15回 まとめ(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

出席および授業態度... 20% 小テストおよび宿題... 30% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシア語概論、アルファベット
- 2回 文字と発音：母音、子音(1)、アクセント、疑問詞のある疑問文と答え方(1)
- 3回 子音(2)、疑問詞のある疑問文と答え方(2)、硬子音と軟子音、名詞の性
- 4回 所有代名詞、疑問詞のある疑問文と答え方(3)、有声子音と無声子音、子音の発音規則
- 5回 硬音記号と軟音記号、疑問詞のない疑問文と答え方、イントネーション
- 6回 50音のロシア文字表記法
- 7回 一課前半 テキストの読み、内容解説、挨拶表現、ロシア人の名、自己紹介の練習
- 8回 一課後半 テキストの読み、内容解説、人称代名詞、国名・国民名、名詞複数形
- 9回 二課前半 テキストの読み、内容解説、動詞の現在変化、接続詞、副詞、練習問題
- 10回 二課後半 テキストの読み、内容解説、名詞格変化(対格)、和文露訳
- 11回 三課前半 テキストの読み、内容解説、所有表現、名詞格変化(前置格)、練習問題
- 12回 三課後半 テキストの読み、内容解説、形容詞、複数専用名詞、前置詞用法、和文露訳
- 13回 四課前半 テキストの読み、内容解説、動詞過去、個数詞、時間表現、練習
- 14回 四課後半 テキストの読み、内容解説、動詞の体、名詞格変化(生格)、和文露訳
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(出席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

2 - 3回毎に1回の割合で単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。習ったことの復習に時間をかけて授業準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 一学期に習ったことの復習(1)
- 2回 一学期に習ったことの復習(2)
- 3回 五課前半 テキストの読み、内容解説、動詞未来、前置詞句(1)、曜日
- 4回 五課後半 テキストの読み、内容解説、完了動詞未来、不定人称文、命令形、和文露訳
- 5回 六課前半 テキストの読み、内容解説、運動の動詞、行先表現、交通手段表現
- 6回 六課後半 テキストの読み、内容解説、出発と到着表現、場所に関する疑問詞、和文露訳
- 7回 七課前半 テキストの読み、内容解説、形容詞と副詞について、数量表現
- 8回 七課後半 テキストの読み、内容解説、述語副詞、四季、方位、月、和文露訳
- 9回 八課前半 テキストの読み、内容解説、無人称述語、動詞の格支配(1)(2)
- 10回 八課後半 テキストの読み、内容解説、義務・可能性表現、動詞の格支配(3)、和文露訳
- 11回 九課前半 テキストの読み、内容解説、年齢表現、年月日表現、比較級
- 12回 九課後半 テキストの読み、内容解説、値段表現、授与動詞、仮定法、和文露訳
- 13回 十課前半 テキストの読み、内容解説、関係代名詞、形容詞最上級、形容詞格変化
- 14回 十課後半 テキストの読み、内容解説、単文と複文、直接話法と間接話法、ことわざ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(出席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。復習に力を入れて授業準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「聞き取り・発音」、「会話」に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行う。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行い、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社
ビデオ教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤 厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシア語とはどんな言葉か？【母音と母音文字】、【こんにちは】
- 2回 ロシア語のアルファベット【交際】
- 3回 短文のイントネーション【これは誰ですか】、【これは何ですか】
- 4回 簡単な問いと答え【あなたは学生ですか】、【お元気ですか】
- 5回 第1課①【挨拶】、【紹介】
- 6回 第1課②【ロシア人の名前】、【これは誰のものですか】
- 7回 第1課③ 会話
- 8回 第2課①【教室でロシア語】
- 9回 第2課②【動詞現在変化】、【私は本を読んでいます】
- 10回 第2課③【趣味】、【私はロシア語を話します】
- 11回 第3課①【家族の紹介】
- 12回 第3課②【名詞の前置格】、【あなたの家族はどこにお住まいですか】
- 13回 第3課③【形容詞】、【これは新しい車です】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅳ【昼】

担当者名
/Instructor

ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次
/Year

単位 1単位
/Credits

学期 2学期
/Semester

授業形態 講義
/Class Format

クラス 済営比人 1年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「聞き取り・発音」、「会話」に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行う。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行い、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社
ビデオ教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤 厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第4課① 【一日の生活】、【過去の表現】
- 2回 第4課② 【時間表現】
- 3回 第4課③ 【動詞の体】、【昨日あなたは何をしましたか】
- 4回 第4課④ 【不完了体と完了体】、【あなたは宿題をしまいましたか】
- 5回 第5課① 【休日】、【動詞の未来】
- 6回 第5課② 【曜日名】、【明日あなたは何をしますか】
- 7回 第5課③ 【名詞の造格】、【命令形】
- 8回 第5課④ 【どうぞ、午後に私に電話してください】
- 9回 第6課① 【交通】、【運動の動詞】
- 10回 第6課② 【交通手段と行先】、【あなたはどこへ行くのですか】
- 11回 第6課③ 【電話】、【出発と到着の表現】 「
- 12回 第6課④ 【あなたはどこから来ましたか】
- 13回 会話 【どこへ】、【どこに】、【どこから】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済誉比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

一年次に習ったロシア語の語彙、基礎文法、読み書き、聞き取り・発音を練磨しつつ、応用力の向上を目指す。「読解・解釈」と「文法・語法」に重点を置く。

教科書 /Textbooks

プリント配布（「百万人のロシア語」）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

博友社「ロシア語辞典」、研究社「露和辞典」、岩波書店「ロシア語辞典」のいずれかが必要

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 <СКОРО ПЕРВОЕ СЕНТЯБРЯ> 名詞の性、不規則変化動詞、形容詞前置格
- 2 回 <МАМА И ФУТБОЛ> 多義動詞の用法、関係副詞構文、形容詞短語尾、全否定構文
- 3 回 <МАТЬ> 関係副詞構文、関係代名詞構文、不規則変化動詞、名詞単数・複数の使分け
- 4 回 <САЛЮТ> 複文の種類と構造、不規則変化動詞、第二生格
- 5 回 <ГИПНО'З> 不定人称文、「・・する」の後結合、完了動詞・不完了動詞
- 6 回 <ВАЖНЫЙ РАЗГОВОР> 願望を意味する動詞と複文、運動の動詞の派生語
- 7 回 <ТРУДНЫЙ ЭКЗАМЕН> 動詞の格支配、複文、否定生格
- 8 回 <ДОМ ОТДЫХА> 時の表現、動詞の体
- 9 回 <БАБУШКА И ВОВКА> 動詞の格支配、不規則変化動詞
- 10 回 <ВТОРАЯ МОЛОДОСТЬ> 複文、動詞の体
- 11 回 <О ЧЁМ ДУМАЕТ МАРАБУ> 年月日表現、年齢表現、形容詞格変化復習
- 12 回 <КАК Я ВСТРЕЧАЛ НОВЫЙ ГОД> 不定法構文、無人称文
- 13 回 <ЛЮБИМЫЙ ПРАЗДНИК> 個数詞+形容詞+名詞の語結合、所有形容詞
- 14 回 <ЭТО СЛУЧИЛОСЬ В ВОЗДУХЕ> 「互いに」の表現、運動の動詞、不定代名詞
- 15 回 まとめと復習：構文

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での発表 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

出席者には毎回、テキストの読み・和訳の発表を課するので、予習が必要。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 済営比人律政2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

会話テキスト「ロシアでの一ヶ月」の読み、訳、練習問題をこなすことで、ロシア語運用力の向上を目指す。

教科書 /Textbooks

プリント配布（「ロシアでの一ヶ月」）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

博友社「ロシア語辞典」、研究社「露和辞典」、岩波書店「ロシア語辞典」のいずれかが必要

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	ГОСТИНИЦА	その1	読み、訳、練習問題
2回	ГОСТИНИЦА	その2	読み、訳、練習問題
3回	СТОЛОВАЯ	その1	読み、訳、練習問題
4回	СТОЛОВАЯ	その2	読み、訳、練習問題
5回	ГАСТРОНОМ		読み、訳、練習問題
6回	УНИВЕРМАГ		読み、訳、練習問題
7回	ТРАНСПОРТ		読み、訳、練習問題
8回	ПОЧТА		読み、訳、練習問題
9回	ТЕЛЕФОН		読み、訳、練習問題
10回	ВОКЗАЛ		読み、訳、練習問題
11回	ПОЛИКЛИНИКА		読み、訳、練習問題
12回	ПАРИКМАХЕРСКАЯ		読み、訳、練習問題
13回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ	その1	読み、訳、練習問題
14回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ	その2	読み、訳、練習問題
15回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ	その3	読み、訳、練習問題

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での発表 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

出席者には毎回、テキストの読み・和訳の発表を課するので、予習が必要。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅶ【昼】

担当者名
/Instructor

ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次
/Year

単位
/Credits

1単位

学期
/Semester

1学期

授業形態
/Class Format

講義

クラス
/Class

済営比人律政2年

対象入学年度
/Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

これまでに習ったロシア語の語彙、読み書き、聞き取り・発音を練磨しつつ、応用力の向上をめざす。「聞き取り・会話」と「作文」に重点を置く。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社
ビデオ教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第7課① 【天候】、【КАКАЯ СЕГОДНЯ ПОГОДА?】
- 2回 第7課② 【気温】、【雨が降る】
- 3回 第7課③ 【四季】、【КАКОЕ ВРЕМЯ ГОДА ВЫ ЛЮБИТЕ?】
- 4回 ビデオ学習① 【В ГОСТИНИЦЕ】
- 5回 ビデオ学習② 会話練習
- 6回 第8課① 【病気と健康】、【ЧТО У ВАС БОЛИТ?】
- 7回 第8課② 【必要性】、【可能】、【不可能】、【許可】、【禁止】
- 8回 第8課③ 【ЧТО ВЫ ДОЛЖНЫ СДЕЛАТЬ ЧЕРЕЗ НЕДЕЛЮ?】
- 9回 ビデオ学習③ 【ЗИМНЯЯ СЮИТА】
- 10回 ビデオ学習④ 会話練習【У ВРАЧА】
- 11回 ビデオ学習⑤ 作文【Я И СПОРТ】
- 12回 第9課① 【年齢】、【年月日の表現】、【КОГДА ВЫ РОДИЛИСЬ?】
- 13回 第9課② 【買い物】、【値段】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 30% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅷ 【昼】

担当者名 /Instructor: ナタリア・シェスタコーワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 2年次 単位 /Credits: 1単位 学期 /Semester: 2学期 授業形態 /Class Format: 講義 クラス /Class: 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

一年次に習ったロシア語の語彙、基礎文法、読み書き、聞き取り・発音を練磨しつつ、応用力の向上を目指す。「読解・解釈」と「文法・語法」に重点を置く。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社
ビデオ教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ビデオ学習① 【В ГОСТЯХ】
- 2回 ビデオ学習② 会話練習【В ГОСТЯХ】
- 3回 ビデオ学習③ 作文【КАК ПРИГЛАШАЮТ В ГОСТИ В ЯПОНИИ】
- 4回 第10課①【モスクワの町】
- 5回 第10課②【関係代名詞 КОТОРЫЙ】、
【КАКАЯ ГОРА САМАЯ ВЫСОКАЯ?】
- 6回 第10課③【モスクワの町】、【単文と複文】
- 7回 第10課④【ことわざ】、【МОЙ РОДНОЙ ГОРОД】
- 8回 ビデオ学習④【ИСТОРИЯ С УЧЕБНИКОМ ИСТОРИИ】
- 9回 ビデオ学習⑤ 会話【В МАГАЗИНЕ】、【ПОКУПКА КНИГИ】
- 10回 ビデオ学習⑥ 作文
- 11回 読み物【СОВЕТ ВРАЧА】
- 12回 読み物【ДВА ТОВАРИЩА】
- 13回 読み物【ЛЕГЕНДА ОБ АНГАРЕ】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題 ... 30% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語I【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じることに。

教科書 /Textbooks

『気分はドイツ』三修社、本郷建治 他
(Deutsch macht Spaß!)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ドイツの若者をビデオで見る【アルファベット・発音】
- 2回 自己紹介【動詞の現在人称変化(1)、名詞】
- 3回 英語の君は話すの?【動詞の現在人称変化(2)、数詞】
- 4回 あなたの名前は何か?【動詞の現在人称変化(2)、時刻】
- 5回 私は父にこの本を贈ります。【人称代名詞、家族】
- 6回 私の夫はオーストリア人です。【冠詞類、月・季節】
- 7回 君は今日、暇ですか?【定形の位置(1)、曜日】
- 8回 もし私に暇があれば、小倉へ行きます。【定形の位置(2)】
- 9回 母の代わりに父が料理をします。【前置詞(1)】
- 10回 私は明日、街へ行きます。【前置詞(2)】
- 11回 ここに車を停めることができますか?【話法の助動詞(1)】
- 12回 私はこの手紙を日本へ送りたいのですが。【話法の助動詞(2)】
- 13回 なぜ君はパーティーにいかなかったの?【動詞の3基本形(1)】
- 14回 私には熱がありました。【動詞の3基本形(2)】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語II【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じること。

教科書 /Textbooks

『気分はドイツ』三修社、本郷建治 他
(Deutsch macht Spaß!)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ビデオで「グリム兄弟の生涯」を見る。【(現在)完了形(1)】
- 2回 君は昨日何をしましたか？【(現在)完了形(2)】
- 3回 フランクフルト行きの列車はいつ発車するのですか？【分離動詞(1)】
- 4回 私はどこで下車しますか？【分離動詞(2)】
- 5回 私達はドイツのレストランへ行きます。【形容詞】
- 6回 私はベンチの上に座ります。【再帰動詞】
- 7回 雨が降っています。【esの用法】
- 8回 あなたが訪ねるその男性は私の友人です。【関係代名詞(1)】
- 9回 私が昨日見た映画は面白かった。【関係代名詞(2)】
- 10回 オーストリアではドイツ語が話されます。【受動(1)】
- 11回 山々は雪で覆われています。【受動(2)】
- 12回 夏にヨーロツパへ行く、と山下さんは言っています【接続法(1)】
- 13回 暇があれば、私もヨーロツパへ行くのになあ。【接続法(2)】
- 14回 ドイツ語を学ぶことは難しくありません。【分詞・zu不定詞】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 岩本 真理子 / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、ドイツ語表現の基礎を習得する。休暇中にミュンヘンを訪問したベルリンの大学生クラウディアの体験を通して、ドイツ語での日常表現や文法規則などを学ぼう。

教科書 /Textbooks

「ハロー・ミュンヘン・ノイ」 (関口 一郎、白水社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ドイツ語の綴りと発音
- 2回 コミュニケーションの第一歩
- 3回 ドイツ語での自己紹介
- 4回 ホテルに泊まる
- 5回 名詞の「性」と冠詞
- 6回 ミュンヘンの名所へ行く
- 7回 知人を訪ねる
- 8回 友達同士の話し方
- 9回 買い物をする
- 10回 分離動詞の使い方
- 11回 列車に乗る
- 12回 前置詞の使い方
- 13回 大学での1日
- 14回 助動詞の使い方1
- 15回 助動詞の使い方2

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 ... 20% 期末試験 ... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

独和辞書(出版社は問わない)を準備しておくこと。電子辞書でも可。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 岩本 真理子 / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ドイツ語Ⅲの続き。やや高度な文法規則を用いたドイツ語表現を習得しよう。

教科書 /Textbooks

「ハロー・ミュンヘン・ノイ」 (関口 一郎、白水社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 形容詞の使い方
- 2回 色の表現
- 3回 過去表現は現在完了形で
- 4回 昨日何をしましたか?
- 5回 過去形
- 6回 ドイツの歴史を過去形で説明
- 7回 再帰動詞と再帰代名詞
- 8回 1日の行動を再帰動詞で表現
- 9回 副文と接続詞
- 10回 関係代名詞
- 11回 関係代名詞を使った表現
- 12回 接続法の種類
- 13回 接続法第二式
- 14回 非現実話法の練習
- 15回 全体の復習

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 ... 20% 期末試験 ... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

独和辞書(出版社は問わない)を準備しておくこと。電子辞書でも可。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン2 場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他
(Szenen 2)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ザビーネとパウルはハンブルクへ行きます。【時刻表】
- 2回 駅の券売窓口で。【列車の乗り換え】
- 3回 私達は注文したいのですが。【レストランで】
- 4回 部屋は空いていますか？【ホテルで】
- 5回 郵便局へはどう行けばいいですか？【道を教える】
- 6回 円をユーロに両替したいのですが。【銀行で】
- 7回 フライブルクはミュンヘンより暖かいです。【天気】
- 8回 ドイツの休暇の過ごし方。【長期休暇】
- 9回 どこが悪いのですか？【病気】
- 10回 頭痛に効く薬が欲しいのですが。【薬局で】
- 11回 君は彼女に何をプレゼントしますか？【贈り物】
- 12回 ドイツ人はお祝いをするのがとても好きです。【誕生祝い】
- 13回 ドイツ語でクロスワード遊び。
- 14回 一日の活動を日記に書く。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト (50%) 学期末試験 (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン2 場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他
(Szenen 2)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 パーティーに何を着ますか？【服装】
- 2回 このグレーのスラックスはいいかがですか？【お店で】
- 3回 家庭のゴミはどのように分類しますか？【環境問題】
- 4回 ドイツの学校の環境プロジェクト。【無駄を省く】
- 5回 ここで犬を放してはいけません。【禁止】
- 6回 何歳になったら何ができますか？【選挙権】
- 7回 ドイツの学校制度。【教育】
- 8回 パン屋になるためには大学へ行く必要はありません。【資格】
- 9回 あなたは何に興味がありますか？【職業】
- 10回 イースターはなぜ特別なお祭りなのですか？【祝日】
- 11回 イースターのウサギが語ります【祭り】
- 12回 君はクリスマスを楽しみにしていますか？【年末】
- 13回 君達はクリスマスには何をしますか。【年末】
- 14回 クリスマスクッキーの作り方。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト (50%) 学期末試験 (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

プリントおよび資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自己紹介、人の紹介、お礼をいうとき、お礼をいわれたとき
- 2回 人に会ったとき、人と別れるとき、知人に会ったとき、人と別れるとき
- 3回 軽く詫げて話しかけるとき、謝るとき、ちょっと席をはずすとき
- 4回 ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
- 5回 人と別れるとき、相手の成功を祈るとき、お礼を言うとき
- 6回 相手の言うことが聞き取れないとき
- 7回 理解できないとき、単語が分からないとき、ドイツ語で何と言うか聞くととき
- 8回 綴りを聞くととき、英語の分る人を探すとき、いい直しをするとき
- 9回 ドイツのビデオ、5回から8回までの復習
- 10回 場所を聞くととき、道順・方向を聞くととき、距離を聞くととき
- 11回 時刻を聞くととき、時間を聞くととき、曜日を聞くととき、日付を聞くととき
- 12回 値段を聞くととき、数量を聞くととき、方法を聞くととき、理由を聞くととき
- 13回 目的を聞くととき、住所を聞くととき、出身地を聞くととき、生年月日を聞くととき
- 14回 ドイツのビデオ、10回から13回までの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましよう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

プリントおよび資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 事情を聞くとき、あることを頼むとき、人に何かを頼むとき
- 2回 両替を頼むとき、助力を求めるとき、助言を求めるとき
- 3回 服を買うとき、席・切符の予約をするとき、人に助言をするとき
- 4回 ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
- 5回 相手の助言に応じるとき、相手の助言に応じられないとき、人を誘うとき
- 6回 自分の考え・意見を言うとき、相手の意見を聞くとき、相手の感想を聞くとき
- 7回 相手の発言・意見に同意するとき、関心事について言うとき、希望を言うとき
- 8回 予定・計画を言うとき、相手の都合が合わないとき、相手が気の毒な状態のとき
- 9回 ドイツのビデオ、5回から8回までの復習
- 10回 病状を言うとき、身体の具合を聞くとき、体調を言うとき
- 11回 会う日を相談するとき、会う場所を相談するとき、相手の都合を聞くとき
- 12回 自分の都合を説明するとき、場所と時間を確認するとき、招待に感謝するとき
- 13回 贈り物・お土産を渡すとき、飲み物を聞くとき、料理を勧めるとき
- 14回 ドイツビデオ、10回から13回までの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましよう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語I【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

基礎文法の習得を目標とします。具体的には、簡単な文章を作るために必要な要素である名詞・代名詞・動詞・形容詞・冠詞・前置詞や、文の種類（肯定文、否定文、疑問文）を学びます。音声化を重視するのでつづり字の読み方を早く覚え、積極的に発音し、文を音で覚えるようにします。6月に実施される実用フランス語技能検定試験（仏検）5級を合格すれば成績Cを保証されます。その場合でも定期試験は必ず受けること。

教科書 /Textbooks

太田浩一他著 『フランス語文法の基礎』（白水社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 発音の方法とつづり字の読み方
- 2回 名詞・冠詞、エリズイオン
- 3回 人称代名詞1（主語） 動詞 <etre> と形容詞
- 4回 動詞 <avoir>、il y a 構文、否定文の作り方
- 5回 1群動詞 <-er> の活用
- 6回 疑問文1 疑問詞のない疑問文の作り方
- 7回 指示形容詞、所有形容詞
- 8回 中間まとめ
- 9回 動詞 <aller> 活用、前置詞の縮約形、近接未来形について
- 10回 動詞 <venir> 活用、前置詞の縮約形、近接過去について
- 11回 疑問文2 疑問代名詞・疑問形容詞・疑問副詞を用いる疑問文の作り方
- 12回 2群動詞 <-ir> の活用
- 13回 比較級・最上級
- 14回 命令文、非人称構文
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験70%、平常の授業への取り組み30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語II 【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

一学期に引き続き文法の基礎知識を広げて表現力の充実を目標とします。具体的には、過去時制・複文・法（モード）について学びます。11月の仏検4級を合格すると、成績Cが保証されます。その場合でも、定期試験は必ず受験すること。

教科書 /Textbooks

太田浩一 他著 『フランス語文法の基礎』（白水社）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 一学期の復習
- 2回 人称代名詞(2) 直接目的語、その語順
- 3回 人称代名詞(2) 間接目的語、その語順
- 4回 直説法複合過去
- 5回 代名動詞
- 6回 直説法単純未来
- 7回 特殊な代名詞
- 8回 直説法半過去
- 9回 時制のまとめと復習
- 10回 受動態
- 11回 法(1) 条件法
- 12回 法(2) 接続法
- 13回 関係代名詞
- 14回 現在分詞とジェロンディフ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験70%、平常の授業への取り組み30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 福島 勲 / FUKUSHIMA ISAO / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

DVD付きの教科書を使って、目と耳と口からフランス語の初歩的な会話表現を学びます。

教科書 /Textbooks

小笠原洋子『ピエールとユゴー [DVD付]』（白水社、2500円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

開講時に指示

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 あいさつ(1)：自己紹介
- 3回 持ちものをたずねる
- 4回 趣味をたずねる
- 5回 onを使った表現
- 6回 あいさつ(2)：お元気ですか？
- 7回 年齢の言い方
- 8回 名前を聞く
- 9回 好きな色を聞く
- 10回 飲み物を頼む
- 11回 時刻の表現
- 12回 あいさつ(3)：人を紹介する
- 13回 デザートを頼む
- 14回 代名動詞を使った表現
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点...30% 小テスト...20% 学期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

仏和辞書(電子でも紙でもよい)必携のこと。

履修上の注意 /Remarks

自宅で教材のDVDを再生できる環境を用意すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

仏検5級に合格できる程度の力をつけることを目指します。

キーワード /Keywords

フランス語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 福島 勲 / FUKUSHIMA ISAO / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

DVD付きの教科書を使って、目と耳と口からフランス語の初歩的な会話表現をさらに学んでいきます。

教科書 /Textbooks

小笠原洋子『ピエールとユゴー [DVD付]』（白水社、2500円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

開講時に指示

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 カフェで注文する
- 2回 曜日
- 3回 C'est + 形容詞の表現
- 4回 疑問代名詞のまとめ
- 5回 値段を聞く
- 6回 12ヶ月
- 7回 mondeを使った表現
- 8回 「〜できる」という表現
- 9回 季節
- 10回 感嘆文
- 11回 依頼・願望の表現
- 12回 感情の表現
- 13回 義務の表現
- 14回 お礼のメールを出す
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点...30% 小テスト...20% 学期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

仏和辞書（電子でも紙でもよい）必携のこと。

履修上の注意 /Remarks

自宅で教材のDVDを再生できる環境を用意すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

仏検4級に合格できる程度の力をつけることを目指します。

キーワード /Keywords

フランス語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 中川 裕二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1年次に学んだ初級文法の復習にくわえ、さらに上の段階の文法を習得することで、中級レベルのフランス語の運用能力を身につけてもらうことを目標にしています。また教科書とは別に、フランス映画『アメリ』を鑑賞したいと考えています。そのさいフランスのユーモアを知り、フランス語らしい表現を学んでもらえればと思います。

教科書 /Textbooks

『新・エスカルゴ 2』（藤田裕二、朝日出版社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

仏和辞典

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	フランス語の「音」についての復習、	『アメリ』より	L'enfance d'Aémié
2回	再帰代名詞、	『アメリ』より	Monmartre(1)
3回	再帰代名詞の複合過去、	『アメリ』より	Monmartre(2)
4回	過去分詞の一致のまとめ、	『アメリ』より	La boîte aux souvenirs(1)
5回	半過去と大過去、	『アメリ』より	La boîte aux souvenirs(2)
6回	半過去と複合過去、	『アメリ』より	A la recherche de Bretodeau(1)
7回	関係代名詞、	『アメリ』より	A la recherche de Bretodeau(2)
8回	補語人称代名詞、	『アメリ』より	Amélie, ange gardien(1)
9回	命令法と補語人称代名詞、	『アメリ』より	Amélie, ange gardien(2)
10回	現在分詞とジェロンデフ(1)、	『アメリ』より	L'âme soeur(1)
11回	現在分詞とジェロンデフ(2)、	『アメリ』より	L'âme soeur(2)
12回	疑問代名詞 lequel、	『アメリ』より	Amélie a encore frappé(1)
13回	受動態、	『アメリ』より	Amélie a encore frappé(2)
14回	最上級と副詞、	『アメリ』より	Colignon crêpe chignon
15回	まとめ		

成績評価の方法 /Assessment Method

基本的に出席を絶対条件とします。その上で、宿題として課される練習問題の評点を50%、期末試験の結果を50%とします(ただし練習問題の評点、もしくは期末試験の結果で著しい成果を上げた場合には、別途考慮します)。また6月の仏験3級以上の合格者には最低合格点Cを保証します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

1年次に学んだ初級文法を確認しておいてください。この講義は復習を前提としています。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 中川 裕二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

前期と同様に、1年次に学んだ初級文法の復習にくわえ、さらに上の段階の文法を習得することで、中級レベルのフランス語を完全に身につけてもらうことを目標としています。またひき続きフランス映画『アメリ』を鑑賞しながら、フランス語らしい表現を学んでいきます。

教科書 /Textbooks

『彼女は食いしん坊2』（藤田裕二、朝日出版社）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

仏和辞典

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	強調構文、	『アメリ』より	Amélie cherche Nino(1)
2回	中性代名詞(1)、	『アメリ』より	Amélie cherche Nino(2)
3回	中性代名詞(2)、	『アメリ』より	Jeux de piste
4回	条件法現在、	『アメリ』より	Nouveaux stratagèmes
5回	条件法過去、	『アメリ』より	L'inconnu démasqué(1)
6回	接続法現在、	『アメリ』より	L'inconnu démasqué(2)
7回	接続法過去、	『アメリ』より	Où est quand(1)
8回	直接話法と間接話法、	『アメリ』より	Où est quand(2)
9回	時制の一致(1)、	『アメリ』より	RDV au photomaton(1)
10回	時制の一致(2)、	『アメリ』より	RDV au photomaton(2)
11回	前置詞と接続詞(時の表現)、	『アメリ』より	Le kouing amann(1)
12回	前置詞と接続詞(場所の表現)、	『アメリ』より	Le kouing amann(2)
13回	前置詞と接続詞(論理の表現)、	『アメリ』より	Saisir sa chance(1)
14回	単純過去、	『アメリ』より	Saisir sa chance(2)
15回	まとめ		

成績評価の方法 /Assessment Method

基本的に出席を絶対条件とします。その上で、宿題として課される練習問題の評点を50%、期末試験の結果を50%とします(ただし練習問題の評点もしくは期末試験の結果で著しい成果を上げた場合には、別途考慮します)。また11月の仏検準2級以上の合格者には最低合格点Cを保証します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

一年次に学んだ初級文法を確認しておいてください。講義は復習を前提としています。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅶ 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 高之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1年次に習得したフランス語能力を再確認し、さらに応用力を身につけることを目指す。

テキストは入門者用のものを使用するが、内容は長文や練習問題が充実しているので、上記の目標を達成するのに適切であると思われる。

特に基礎文法事項を徹底的に復習する。

短文や長文を読解するだけでなく、正確に発音できるよう指導し、適宜、暗記することを課す。

時間の許す限り、フランス文化についての知識も教授する。

フランス語検定試験3級程度の実力を旨す。6月に行われる検定試験3級に合格した受講生には単位取得を保障する。

教科書 /Textbooks

澤田直之他2名『アミカルマン』（駿河台出版社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Bonjour Madame
- 2回 Dans le Quartier Latin
- 3回 長文読解 (フランス)
- 4回 Les deux amis au téléphone
- 5回 Un Anglais à Paris
- 6回 長文読解 (パリ)
- 7回 Philippe à la poste
- 8回 La jolie robe
- 9回 長文読解 (カフェ)
- 10回 Nathalie appelle un taxi
- 11回 Dans le taxi
- 12回 長文読解 (学生生活)
- 13回 Bon anniversaire!
- 14回 L'addition, s'il vous plaît!
- 15回 長文読解 (パン、ワイン、チーズ)

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、 日常の授業への取り組み 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

1年次のフランス語を受講していること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 高之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

前期のフランス語VIIに引き続き、1年次に習得したフランス語能力を再確認し、さらに応用力を身につけることを目指す。

テキストは入門者用のものを使用するが、内容は長文や練習問題が充実しているので、上記の目標を達成するのに適切であると思われる。

特に基礎文法事項を徹底的に復習する。

短文や長文を読解するだけでなく、正確に発音できるよう指導し、適宜、暗記することを課す。

時間の許す限り、フランス文化についての知識も教授する。

フランス語検定試験準2級程度の実力を旨す。11月に行われる検定試験準2級に合格した受講生には単位取得を保障する。

教科書 /Textbooks

澤田直之他2名『アミカルマン』（駿河台出版社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 L'interview d'un champion
- 2回 Le cours de tennis
- 3回 長文読解 (ブルターニュ)
- 4回 A la cinémathèque
- 5回 Après le film
- 6回 長文読解 (プロヴァンス)
- 7回 Philippe à Nancy
- 8回 Cher Philoppe
- 9回 長文読解 (アルザス)
- 10回 Le programme des visites
- 11回 Le dîner en famille
- 12回 長文読解 (政治)
- 13回 Une invitation
- 14回 La fin des vacances
- 15回 長文読解 (フランス病)

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、 日常の授業への取り組み 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

1年次のフランス語および前期のフランス語VIIを受講していること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語I【昼】

担当者名 /Instructor 辻 光博 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比人 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

第一言語・母語として、中国語に次ぎ世界第2の話者人口を持つスペイン語を初歩から学習します。と同時に、その文化(圏)を少しなりとも理解し身に付けます。*我が国ではスペイン語は普通、西語、と表記されます。

教科書 /Textbooks

青木・辻・マリア J. H. 共著『スペイン語で表現しよう』、弘学社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし。西和辞典又は電子辞書必携

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語のアルファベット・発音
- 2回 発音・アクセント
- 3回 名詞の性と数・冠詞
- 4回 主格人称代名詞・動詞について
- 5回 直説法現在規則活用
- 6回 基本的な文章(肯定文・否定文・疑問文)
- 7回 疑問詞(QUE・QUIEN・DONDE)
- 8回 国名とその言語
- 9回 不規則活用(主要三動詞、SER・ESTAR・HABER)
- 10回 形容詞の性・数
- 11回 主要三動詞例文
- 12回 疑問詞(COMO)・指示詞・所有形容詞
- 13回 他の不規則動詞
- 14回 不規則動詞例文
- 15回 不定詞の用法

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

初めての外国語を学ぶには、興味を持つことが第一条件です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

西語の発音は、日本語を母語とする者にとっては、非常に容易です。逆に、文法や動詞の活用は、難解で複雑です。特に、初歩段階が肝腎です。欠席は好ましくありません。

キーワード /Keywords

スペイン語の世界的位置 スペイン語圏

スペイン語II 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 光博 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比人1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

西語 I を継続し、ほぼ初級の文法を終えます。

教科書 /Textbooks

西語 I と同じ。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。西和辞典又は電子辞書必携。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 代名詞(与格・対格)
- 2回 G U S T A R 類の動詞
- 3回 代名詞(前置詞格)
- 4回 日付・曜日・時刻
- 5回 数詞(序数の使用)
- 6回 不定過去・不完了過去・現在完了(規則活用)
- 7回 動詞の種類
- 8回 不定語と例文
- 9回 天候・季節の表現と例文
- 10回 不定過去・不完了過去(不規則活用)
- 11回 現在分詞とその用法・例文
- 12回 名詞節・副詞節・形容詞節と例文
- 13回 未来・条件未来・過去完了の活用と用法
- 14回 直接話法・間接話法(時制の一致)
- 15回 再帰動詞と用法

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

スペイン語Iをよく理解・学習しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

欠席は好ましくありません。

キーワード /Keywords

スペイン語の世界的位置 スペイン語圏

スペイン語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語は「エスパニョール」といいます。授業では、アルファベットから発音練習に慣れ親しみながら、日常の生きた初歩的な会話表現を重点的に学び、スペイン語の入門の基礎力を習得します。授業は教員からの一方的な講義ではなく、「聴く・話す(発音)」方式を採用いたします。また、ときどき、映像などを利用して、スペインの歴史・文化・社会の諸相を学びたいと思います。

教科書 /Textbooks

『オラ!』第三書房、2010年

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○岡田たつお『現代スペイン語講座』芸林書房、その他、図書館にあります。
辞典は必須です。『現代スペイン語辞典』白水社、『西和中辞典』小学館、『クラウン西和辞典』三省堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入的なお話、スペイン語とスペイン語圏について
- 2回 アルファベット、単語の読み方
- 3回 名詞の性と数、冠詞、挨拶表現
- 4回 動詞serを用いた表現
- 5回 形容詞・指示形容詞(動詞serを用いて)
- 6回 規則動詞(1)、基本的表現
- 7回 規則動詞(2) 基本的表現
- 8回 規則動詞(3) 基本的表現
- 9回 動詞(tener), 所有形容詞
- 10回 3つの規則動詞活用の復習
- 11回 動詞(estar,hay..)の基本用例
- 12回 動詞活用と基本表現のブラクティス
- 13回 重要な不規則動詞の基本表現
- 14回 便利な日常会話表現
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

外国語を学ぶには辞書は不可欠です。聴いて話す(発声)ことを反復すること。動詞の活用が難解です。この入門編でスペイン語の基礎を学部こととなりますが、出だしが肝心です。意欲的に取り組んでください

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅳ 【昼】

担当者名 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 比人1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業は1学期開講のスペイン語Ⅲの続編です。初歩的な会話表現に重点を置き、入門的基礎力を習得します。授業は教員からの一方的な講義ではなく、「聴く・話す(発音)」方式で行われます。また映像などを利用して、スペインの歴史・文化・社会の諸相を学びたいと思います。

教科書 /Textbooks

『オラ!』第三書房、2010年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○岡田たつお『現代スペイン語講座』芸林書房、その他、図書館にあります。
辞典は必須です。『現代スペイン語辞典』白水社、『西和中辞典』小学館、『クラウ西和辞典』三省堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語Ⅲの復習-動詞の活用と基本表現
- 2回 直説法現在：不規則動詞、人称代名詞(目的格)
- 3回 人称代名詞を用いた表現
- 4回 近接未来表現など天候表現、時刻表現
- 5回 不規則動詞、不定詞表現、所有形容詞(その2)
- 6回 gustar(~が好きです)系の表現、間接目的格
- 7回 前置詞に導かれる人称代名詞
- 8回 復習：日常的表現
- 9回 再帰動詞(1)
- 10回 再帰動詞(2)
- 11回 ビデオでイスパニア圏を旅する
- 12回 比較級と最上級
- 13回 現在完了形
- 14回 現在進行形
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 70% 小テスト... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日ごろから動詞の活用を繰り返し練習。辞書はいつでも携帯する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 光博 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語Ⅰ・Ⅱを復習・継続し、初級の文法を完了します。

教科書 /Textbooks

スペイン語Ⅰ・Ⅱと同じ(青木・辻・マリア J. 共著『スペイン語で表現しよう』、弘学社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし。西和辞典又は電子辞書必携。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 接続法とは何か
- 2回 接続法現在・規則活用
- 3回 接続法現在・不規則活用
- 4回 接続法現在の用法
- 5回 命令法・命令形
- 6回 感嘆文
- 7回 比較級
- 8回 相対・絶対最上級
- 9回 不定詞を用いた放任・使役の動詞
- 10回 不定詞を用いた忠告・命令・許可・禁止の動詞
- 11回 SEの受身文
- 12回 SEの無人称文
- 13回 接続法の過去・現在完了・過去完了
- 14回 接続法の用法(独立文)
- 15回 接続法の例文

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

スペイン語Ⅰ・Ⅱを良く理解・学習しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

欠席は好ましくありません。

キーワード /Keywords

スペイン語圏

スペイン語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 光博 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペインの文化・風土・歴史などを織り込んだ中級程度のスペイン語の文章を読みます。スペイン語及びスペインに関する幅広い知識を身に付けます。

教科書 /Textbooks

青木文夫・辻光博共著『現代スペイン語：文法と表現』（弘学社）の、講読部分（別冊。500円）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。西和辞典又は電子辞書必携。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

* スペイン語講読・説明・解説

- 1回 第一課 【位置】
- 2回 第二課 【風土】
- 3回 第三課 【行政】
- 4回 第四課 【生活】
- 5回 第五課 【バルセローナ】
- 6回 第六課 【マドリード】
- 7回 第七課 【中世文学】
- 8回 第八課 【レコンキスタ】
- 9回 第九課前半 【古代ローマ治下】
- 10回 第九課後半 【イスラーム治下】
- 11回 第十課 【セビージャ】
- 12回 第十一課前半 【レコンキスタの完了】
- 13回 第十一課後半 【スペイン帝国】
- 14回 第十二課 【ドン・キホーテ】
- 15回 第十三課 【バスク自治州】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

スペイン語Ⅱ・Ⅴを良く理解・学習しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

欠席は好ましくありません。

キーワード /Keywords

古代ローマ帝国 イスラーム レコンキスタ

スペイン語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

前年度のスペイン語Ⅲ・Ⅳ(会話表現)を更に発展させていきます。テキストの文法事項を押さえ、それぞれの文法テーマに沿った会話表現を学び、応用できるようにしましょう。また、適宜音声教材やDVD教材などを使用し、ネイティブの話すスペイン語理解(聞き取り)も行います。

教科書 /Textbooks

前年度のスペイン語Ⅲ・Ⅳのテキストの続きから使用します。(前年度テキスト:エウヘニオ・デル・ブラド他『スペイン語でスケッチ』第三書房、2008)
また、ビデオ・DVD・音声教材なども利用し、その際にはプリントを配ります。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前年度スペイン語Ⅲ・Ⅳの復習(会話表現、聞き取り)
- 2回 前年度スペイン語Ⅲ・Ⅳの復習(目的格人称代名詞、再帰動詞などを中心に)
- 3回 過去分詞、現在完了、「ミゲルはもう到着したの?」
- 4回 不定語・否定語、「何か言った?」
- 5回 直説法点過去(1)、「いつスペイン語の勉強を始めましたか」
- 6回 直説法点過去(2)、「夏休みはどこに行きましたか」
- 7回 直説法線過去、「若いころあのレストランへよく行っていた」
- 8回 点過去と線過去、「電話がなったとき、本を読んでいた」
- 9回 スペイン語圏についてのDVD教材
- 10回 現在分詞、「私は音楽を聴きながら通学する」
- 11回 直説法未来、直説法過去未来「明日はハイメとテニスをするだろう」
- 12回 直説法過去完了、「私が到着したとき、もうパーティは始まっていました」
- 13回 DVD教材(スペイン語で見る・1)
- 14回 DVD教材(スペイン語で見る・2)
- 15回 直説法の動詞のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 60%、日常の授業への取り組み 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

スペイン語初級(Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ)の単位をとっていることは必須ではありませんが、よく理解している必要があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語 スペイン語圏 中南米 ラテンアメリカ

スペイン語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor トマス・マリン・アルビ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語VIIを更に発展させていきます。テキストの文法事項を繰り返し押さえ、それぞれの文法テーマに沿った会話表現を学び、応用できるようにしましょう。また、簡単な表現を使い、スペイン語での発表も行います。

教科書 /Textbooks

スペイン語VIIのテキストを引き続き参照します。
(スペイン語VII: エウヘニオ・デル・プラド他『スペイン語でスケッチ』第三書房、2008)
また、読み物、ビデオ・DVD・音声教材などを利用し、その際にはプリントを配ります。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語VIIの復習 (DVD教材)
- 2回 スペイン語VIIの復習 (直説法のまとめ)
- 3回 接続法現在、(1)、独立文、「いい天気になればいいなあ」
- 4回 命令形、「どうぞこちらへ来てください」
- 5回 接続法現在(2)、名詞節、「ホセに本当のことを言ってもらいたい」
- 6回 接続法現在(3)、形容詞節・副詞節、「ペットが飼える家を探しています」
- 7回 接続法過去、「こんなに人気があったとは、知らなかった」
- 8回 接続法過去完了、「あの時すでにメキシコに住んでいたなんて、知らなかった」
- 9回 接続法、条件文、「あの時返事をしていれば、今頃はペルーにいるはずだったのに」
- 10回 DVD教材など、会話練習
- 11回 スペイン語で発表(1)
- 12回 スペイン語で発表(2)
- 13回 スペイン語で映画などを見る 前半
- 14回 スペイン語で映画などを見る 後半
- 15回 接続法のまとめと会話について

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、授業内のスペイン語での発表 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

スペイン語初級(I・II・III・IV)の単位をとっていることは必須ではありませんが、よく理解している必要があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語 スペイン語圏 中南米 ラテンアメリカ

日本語 A 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター, 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期(ペア) 授業形態 講義 クラス 留学生1年 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Aでは、特に「大学生生活へのオリエンテーション」と「日本語表現力」に焦点を当てる。「大学生生活へのオリエンテーション」では、日本の大学教育の特徴を理解しながら、大学生として必要な「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」を実際に体験しながら学ぶ。「日本語表現力」では、タスクを用いた自己発信型トレーニングにより、論理的思考力を伸ばす。

教科書 /Textbooks

『大学・大学院留学生のためのやさしい論理的思考トレーニング』(西隈俊哉、アルク)
『大学生の日本語トレーニング』(世界思想社編集部、世界思想社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○佐々木瑞枝他『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』The Japan Times

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

<小林担当分>	<清水担当分>
1回 オリエンテーション	1回 オリエンテーション
2回 高校・日本語学校と大学の違い	2回 大学生と論理的思考力
3回 履修登録とシラバス	3回 リストアップする
4回 キャンパスツアー	4回 マッピングする
5回 大学教員・職員との付き合い方	5回 キーワードを繋げる
6回 図書館ツアー	6回 イラストから読み取ったことを表現する
7回 情報の探し方	7回 定義をする
8回 勉強以外の大学生生活	8回 日本語の語順に沿って考える
9回 留学生の進路	9回 時間軸に沿って考える
10回 留学生と日本人学生	10回 主張に理由を加えて表現する
11回 試験に備える：試験勉強	11回 主張に理由や具体例を加えて表現する
12回 試験に備える：レポート	12回 総合的に表現する
13回 試験に備える：期末試験	13回 論理的に考えて表現する
14回 大学生としての自分	14回 日本語で表現することと自分
15回 総括	15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 30 %
ポートフォリオ評価 ... 70%(学習者評価 30% ピア評価 20% 実習生評価 20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。

履修上の注意 /Remarks

日本語Aと日本語Bは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活日本語 大学生生活日本語 大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) 日本語表現力

日本語 B 【昼】

担当者名 /Instructor 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語 (ライフ・ジャパニーズ)」「大学生活日本語 (キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語 (アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。

日本語Bでは、特に「聞く・話すこと」に焦点を当てる。講義を聞き取る聴解スキルや、発表に必要な語彙・表現を身に付け、実際に課題テーマのプレゼンテーションをおこなうことで、「発表」の方法を学ぶ。さらに、「質疑応答」「評価 (自己評価)」では建設的な意見交換やコメントができることを目標とする。

教科書 /Textbooks

犬飼康弘『聴解・発表ワークブック』スリーエーネットワーク
上村和美・内田充美『プラクティカル・プレゼンテーション』くろしお出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

三浦香苗他『アカデミックプレゼンテーション入門』ひつじ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】 内はキーワード)
- 1回 オリエンテーション
 - 2回 ノートテイキング【メモ】【構成】
 - 3回 基本練習テーマ「食中毒」【全体の流れ】【基本的表現】
 - 4回 「言葉と文化」【背景説明】【方向付け】
 - 5回 「不登校」【予告】【データの提示】
 - 6回 「高校生とバイク」【データの説明・解釈】
 - 7回 「食料自給率」【データ比較】
 - 8回 応用練習テーマ「少子化」(1) 【序論構成】
 - 9回 「少子化」(2) 【本論構成①】
 - 10回 「少子化」(3) 【本論構成②】
 - 11回 「少子化」(4) 【結論の提示】
 - 12回 プレゼンテーションの基礎【プレゼンテーションとは】
 - 13回 クラスメイト紹介 (1) 【他者紹介】
 - 14回 クラスメイト紹介 (2) 【インタビュー】
 - 15回 セルフチェック (1) 【姿勢・表情・視線】【身振り・手振り】【声】
 - 16回 セルフチェック (2) 【チェックシート・評価シート】
 - 17回 施設紹介 (1) 【相手の視点に立った情報整理】
 - 18回 施設紹介 (2) 【サンドイッチ構成】
 - 19回 日常生活で目にするものを説明する (1) 【比較】
 - 20回 日常生活で目にするものを説明する (2) 【マトリックス】
 - 21回 アンケート (1) 【調査項目】
 - 22回 アンケート (2) 【アンケート用紙】
 - 23回 ポスター発表 (1) 【ポスターの構成】
 - 24回 ポスター発表 (2) 【ポスター作成】
 - 25回 ポスター発表 (3) 【ポスター発表】
 - 26回 案内状を作る (1) 【5W1H】
 - 27回 案内状を作る (2) 【案内状】
 - 28回 案内状を作る (3) 【当日の進行】
 - 29回 1年間を振り返る【時系列】【トピック】
 - 30回 まとめ【評価】【自己評価】

成績評価の方法 /Assessment Method

発表・課題・・・40% 授業への取り組み・・・40% 自己評価・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日本語 B 【昼】

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日本語教育実習生 (文学部比較文化学科日本語教師養成課程) が授業の一部を担当する予定である。

履修上の注意 /Remarks

日本語Aと日本語Bは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語C 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター, 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Cでは、特に「読むこと」に焦点を当てる。タスクを用いた読解トレーニングにより、論理的思考力を伸ばすことと、ピア・リーディングによる読み方の変化と読みにおける他者の存在の有用性に気付くことで、留学生一人一人に「日本語で読むこととは何か」を問いかける。

教科書 /Textbooks

『大学・ 大学・ 大学院留学生のためのやさしい論理的思考トレーニング』(西隈俊哉、アルク)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○一橋大学留学生センター『留学生のためのストラテジーを使って学ぶ文章の読み方』スリーエーネットワーク

授業計画・ 内容 /Class schedules and Contents

< 小林担当分 >	< 則松担当分 >
1回 オリエンテーション	1回 オリエンテーション
2回 大学生に求められる読む力	2回 学術的文章の特徴
3回 自己評価	3回 テーマに合う文献を探す
4回 絵やイラストを読む	4回 文献を読んで研究テーマを
5回 文章を読んで図や表にする	5回 ピア・リーディングとは何か
6回 表やグラフを読み取る	6回 ピア・リーディング：読みの個人差に着目する
7回 表やグラフ以外のものを読み取る	7回 ピア・リーディング：読む過程を重視する
8回 マッピングしながら読む	8回 ピア・リーディング：協同的に読む
9回 登場人物になったつもりで読む	9回 ピア・リーディング：読み方を変える
10回 どちらがいかを考えながら読む	10回 ピア・リーディング：他者の視点で読む
11回 理由を考えながら読む	11回 主体的・ 能動的な読み
12回 前後の文脈から推論しながら読む	12回 読みにおける他者の存在
13回 総合的に読む	13回 自分で書いた文章のピア・リーディング：初回
14回 日本語で読むことと自分について考える	14回 自分で書いた文章のピア・リーディング：修正
15回 総括	15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ...30%
ポートフォリオ評価 ...70%(自己評価 30% ピア評価 20% 実習生評価 20%)

事前・ 事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が授業の一部を担当する予定である。

履修上の注意 /Remarks

日本語Cと日本語Dは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

論理的思考 大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) ピア・リーディング ストラテジー

日本語D 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を滋養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Dでは、日本語で書くことを中心とする。特に、情報を基に意見を述べる「論証型レポート」を作成することを目標とする。レポートを作成しながら課題に取り組むことで、日本語表現の学習だけではなく、構想からレポートの完成に至る一連の過程を学ぶ。授業ではピア(仲間)活動を多く取り入れ、自分の考えを論理的に伝え、相手の意見を聴くことで、協働的に学習することの有効性を感じてもらう。

教科書 /Textbooks

『ピアで学ぶ大学生の日本語表現』(大島弥生他、ひつじ書房)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『レポートの組み立て方』(木下是雄、筑摩書房)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の目的及び必要性を知る【知る】
- 2回 授業の目的及び必要性を知る【課題の条件を確認する】
- 3回 レポートとは何かを考える【論証型レポート】
- 4回 レポートとは何かを考える【根拠の大切さを知る】
- 5回 レポートのテーマを考える【構想マップ】
- 6回 レポートのテーマを考える【練る】
- 7回 情報をカード化する【情報の信頼性】
- 8回 情報をカード化する【調べる】
- 9回 目標を仮に規定する【情報の整理】
- 10回 目標を仮に規定する【絞る】
- 11回 アウトラインを作る【序論・本論・結論】
- 12回 アウトラインを作る【組み立てる】
- 13回 パラグラフライティング【中心文】
- 14回 パラグラフライティング【説明文・指示文】
- 15回 パラグラフライティング【引用】
- 16回 パラグラフライティング【引用文献リスト】
- 17回 文章を点検する【校正】
- 18回 文章を点検する【表現の点検】
- 19回 文章を点検する【形式の点検】
- 20回 文章を点検する【ピア・レスポンス】
- 21回 レポートの完成【体裁】
- 22回 レポートの完成【最終稿】
- 23回 発表を準備する【発表の意義・レジユメの作成】
- 24回 発表を準備する【発表の練習】
- 25回 発表する【話し手】
- 26回 発表する【聴き手】
- 27回 発表する【司会】
- 28回 発表する【相互評価】
- 29回 学習プロセスを振り返る
- 30回 まとめ【自己評価・ピア評価】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み...40%
レポート・発表...40%
ピア評価...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日頃から時事問題に関心を持ち、それに対して自分の意見を考えていてください。

日本語D 【昼】

履修上の注意 /Remarks

日本語C及びDは、授業内容の関連性が深いので同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

論証型レポート ピア・ラーニング 論理的思考

日本事情 (人文) A 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

言語の学習と密接な関係にある文化について考える。文化とは何か、文化を学ぶとはいったいどのようなものであるのかを考えるにあたって、3つの論文を題材とする。これらの題材をクラス内で議論しながら、最終的には一人ひとりが自分にとっての文化をレポートとしてまとめていく。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

川上弘美 『あるようなないような』 中公文庫
河合隼雄 「『母性』と『父性』の間をゆれる」 『国語総合』 大修館書店
細川英雄 『日本語教育と日本事情 - 異文化を超える - 』 明石書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 「境目」を読む
- 3回 「境目」について話し合う
- 4回 「『母性』と『父性』の間をゆれる」を読む
- 5回 「『母性』と『父性』の間をゆれる」について話し合う
- 6回 「ことばと文化を結ぶために」を読む
- 7回 「ことばと文化を結ぶために」について話し合う
- 8回 文化観を比較する
- 9回 レポートの作成(1)私にとって文化とは何か
- 10回 ピア・リーディング(1)クラスメートのレポートを読んでコメントする
- 11回 他大学学生とのレポート交換活動
- 12回 ピア・リーディング(2)他大学学生からのコメントを読む
- 13回 レポートの作成(2)修正する
- 14回 完成したレポートをクラス内でピア・リーディングする
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 50% 自己評価 ... 30% ピア評価 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

他大学の留学生とレポート交換活動をする予定である。

履修上の注意 /Remarks

昨年度開講されなかったため、2年次以上の学生を優先します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本事情 (人文) B 【昼】

担当者名 /Instructor ジェームズ・バスキンド / James Baskind / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Zen Culture and Japan

With D.T. Suzuki's publication of Zen and Japanese Culture, Zen came to be heralded as the quintessence of Japanese culture. However, the question remains: how much of Zen doctrine and history support this view? As the title of this course indicates, we will be turning Suzuki's contention on its head, as we examine the creation of a culture of Zen itself or a "Zen culture" that subsumes and informs much of what is considered "Japanese" both in Japan and the West. We will also consider Zen's history in India, China, and Japan, as well as "Zen" aspects of painting and poetry, martial arts, tea ceremony, literature, and its role in pop/modern culture in Japan and abroad. In addition to presenting the history and practice of Zen, this course aims to also provide a modern and international perspective on Zen.

教科書 /Textbooks

Textbook: Zen and Japanese Culture Daisetz T. Suzuki (Author) Richard Jaffe (Introduction). Princeton University Press, reprint edition. ¥ 1,900. Other materials will be distributed as needed.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

日本事情 (人文) B 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Schedule

Week 1

WHAT IS ZEN?

EARLY BUDDHISM: DOCTRINE AND PRACTICE

Week 2

ZEN PRACTICE

ZEN ANTECEDENTS: DAOISM AND THE VIMALAKIRTI SUTRA

Week 3

THE TRANSMISSION OF BUDDHISM TO CHINA

LEGENDARY BEGINNINGS OF ZEN: BODHIDHARMA

Week 4

INTRODUCTION OF ZEN TO JAPAN: THE RINZAI, SOTO, AND OBAKU SCHOOLS

Week 5

FORMS OF ZEN PRACTICE

Week 6

ZEN IN THE MODERN ERA: D.T. SUZUKI

Week 7

ZEN AESTHETICS AND THE TEA CEREMONY

Week 8

ZEN AND MARTIAL ARTS: FACT, FICTION, AND FANTASY

Week 9

ZEN ARTS: PAINTING, GARDEN DESIGN AND POETRY

Week 10

MIDTERM EXAM

Week 11

ZEN IN THE WEST: THE BEGINNINGS

Week 12

BEAT ZEN SQUARE ZEN: THE BEATNIKS, ZEN AND AMERICAN SUBCULTURE

Week 13

ZEN IN MEDIA AND POP CULTURE

Week 14

IMAGE AND IDEAL: ZEN PRACTICE CENTERS ABROAD

Week 15

ZEN IN THE WEST: TENSIONS AND CONFLICTS, CONCLUSIONS (FINAL PAPER DUE)

成績評価の方法 /Assessment Method

Assessment

Participation/daily effort 30%

Midterm exam 30%

Paper 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日本事情 (人文) B 【昼】

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

No familiarity with Japanese religions is required.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Zen, Japanese culture, Buddhism, arts, D.T. Suzuki

日本事情 (社会) A 【昼】

担当者名 国際教育交流センター 山崎 勇治
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 留学生 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

留学生のための講座である。1年生と短期交換留学生の混合授業である。また中国、韓国、アメリカ、オーストラリア、イギリスからの留学生と、国際的な講義である。
そこで、日本を知る上で必要な観点から、外部講師を招聘して講義をしていただく場合もある。例えば、大学生協の店長が寿司文化を語り、留学生にその作り方を実地で教え、試食させてくれるとかといった具合である。
日本社会を、社会科学分野から追求することを旨としているが、日本の伝統文化を知らないと日本の政治経済の理解が深まらない。それゆえ、多士済々の講師が登場するゆえである。
これらの講義を通じて日本社会に興味をもち、積極的に参加してくれることを目的としている。

教科書 /Textbooks

口述講義により、教科書は使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その都度指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 .私のデートコース案内-イギリスと北九州-
- 第3回 お伊勢参りから宇宙旅行までの日本人の旅行ブーム
- 第4回 TOTOのウォッシュレット開発
- 第5回 北九州空港と韓国仁川国際空港の役割
- 第6回 新幹線を作った男たち
- 第7回 トロンの世界
- 第8回 秀吉の朝鮮出兵と九州の窯元
- 第9回 安川電機とロボット産業軍事とアジアを読み解く
- 第10回 日本の経営の特徴とその変化
- 第11回 戦後日本経済(1)
- 第12回 戦後日本経済(2)
- 第13回 戦後日本経済(3)
- 第14回 軍事とアジアを読み解く
- 第15回 総まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 50%

授業への取り組み 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日本語で講義をするので、日本語を上達させておくこと。

日本の政治経済の動きを理解するために、新聞を毎日読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日本滞在を有効にするために、この講義に参加している日本人学生との交流を積極的に行ってもらいたい。

キーワード /Keywords

日本事情 (社会) B 【昼】

担当者名 国際教育交流センター 山崎 勇治
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 留学生 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

講義の目的・韓国、中国、オーストラリア、イギリス、日本の学生と一緒に集まって、さまざまなテーマについて日本と自国との比較検討をする。
使用言語は主として日本語である。ただし英語も一部使用する。理由は、イギリスやオーストラリアからの留学生にとって複雑な内容を日本語で説明するには無理があるときがあるからである。

教科書 /Textbooks

口頭講義である。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 自己紹介 オリエンテーション 山崎勇治
- 第2回 関門地域をめぐる日本の近代化一、中国、韓国、アメリカ、イギリス
- 第3回 雇われ外国人たちと日本の近代化ートーマス・グラバー
- 第4回 官営八幡製鉄所の北九州に果たした役割
- 第5回 新幹線を開発した男たち
- 第6回 TOTOと日本のトイレ革命
- 第7回 公害問題の発生と母親たちの反対運動
- 第8回 安川電機と産業用ロボット(宗像志功、孫文)
- 第9回 松本清張と朝鮮戦争
- 第10回 森川知治 生協食堂店長:「オーストラリアに定着させた寿司文化」
- 第11回 北九州市役所 西之原局長 「北九州市と国際化」
- 第12回 出光興産と美術館
- 第13回 カーディフ炭と日本海海戦
- 第14回 バーナード・リーチと小鹿田焼き
- 第15回 総まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%

授業への取り組み 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日本についての関心事を絶えずもち続けること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較宗教・思想【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（領域系）科目

担当者名 新村 昭雄 / Shinmura Akio / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

アイヌなどの縄文信仰と【神道】、インド・中国・朝鮮半島を経て我が国に渡来した【仏教】、神道と融合した神仏習合、中国の【儒教】と【道教】、西洋に目を向ければ、前2000年頃からのギリシャとローマでのアポロ神など神々への信仰がある一方、中東ではペルシャやユダヤの宗教であるゾロアスター教や【ユダヤ教】の一神教があった。ユダヤ教はイエスによって【キリスト教】へと発展して、紀元4世紀にローマ帝国が国教として以降、西洋で勢力をもった。さらに、紀元6世紀にムハンマドが誕生し、【イスラム教】を布教するようになると、イスラム教は中東のみならず世界的な宗教へと発展した。

教科書 /Textbooks

テキスト 『資料』は作成した「プリント教材」を毎回配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

(参考書) ウィリアム・M・ギャロット : 『新約聖書』 (角川文庫)
加地伸行 : 『儒教とは何か』 (中公新書)
小杉 泰 : 『イスラームとは何か』 (講談社現代新書)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 日米宗教比較--「日本人は無宗教か？信仰心が篤いのか！」
- 第2回 中東の宗教思想--ユダヤ教とキリスト教【一神教】
- 第3回 ユダヤ・キリスト教と西洋民主主義思想【民主主義と人権思想】
- 第4回 仏教誕生前後【キリスト教と古代インド宗教哲学(ウパニシャッド)】
- 第5回 仏教伝来【インドの仏教⇒中国の仏教⇒日本への仏教伝来】
- 第6回 仏教【日本における展開(神道との衝突・習合)】
- 第7回 縄文人の古代信仰【アニミズムとシャーマニズム】
- 第8回 神道の形成【禊ぎと祓え】
- 第9回 アイヌや沖縄などの縄文信仰+弥生信仰⇒神道成立⇒明治期の復古神道
- 第10回 イスラム教【ムハンマド誕生】
- 第11回 イスラム教【ユダヤ教とキリスト教】
- 第12回 儒教【孔子誕生】
- 第13回 儒教【古い価値感からの脱皮】
- 第14回 儒教【現代的意味】
- 第15回 比較宗教・思想 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の小レポート(70%)と期末試験(全体のレポート、30%)によって評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

図書館等で、各回の講義のテーマに関する参考書等を読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

【アイヌ・奄美沖縄の縄文信仰】【神道】、インド・中国・朝鮮半島を経て渡来した【仏教】神道と融合した【神仏習合】、【儒教】と【道教】、【ギリシャの神々】と【ローマの神々】、中東ペルシャやユダヤの宗教である【ゾロアスター教】や【ユダヤ教】の一神教、イエスによる【キリスト教】とムハンマドの【イスラム教】。

担当者名 /Instructor 寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

近藤和彦の言葉を借りると、歴史学とは、「過去という異文化を考察し、甦らせる営み」である。あるいはE・H・カーに言わせれば、歴史とは、「現在と過去の間の尽きることをしらぬ対話」である。本講義では、主として18世紀以降の大西洋を挟んだふたつの国、イギリスとアメリカ合衆国における民衆の抗議行動をとりあげ、何が人びとに抗議という行動を選択させたのか、またその行動は彼らが生きた社会の中でどのような意味をもっていたのかを考える。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。資料等は授業中に配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【】内はキーワード)

- 1回 ガイダンス：【比較の手法】【歴史とは何か】
- 2回 【制裁の儀礼】とコミュニティ①：近代イギリスにおける女房売りの事例。
- 3回 【制裁の儀礼】とコミュニティ②：近代イギリスにおけるスキントンの事例。
- 4回 【制裁の儀礼】とコミュニティ③：近代ヨーロッパにおける魔女狩りの事例。
- 5回 【制裁の儀礼】とコミュニティ④：近代アメリカ合衆国における魔女狩りの事例(1)。
- 6回 【制裁の儀礼】とコミュニティ⑤：近代アメリカ合衆国における魔女狩りの事例(2)。
- 7回 【制裁の儀礼】とコミュニティ⑥：【モラル・エコノミー】とは何か。
- 8回 【制裁の儀礼】とコミュニティ⑦：近代イギリスにおける【食糧一揆】の事例(1)。
- 9回 【制裁の儀礼】とコミュニティ⑧：近代イギリスにおける【食糧一揆】の事例(2)。
- 10回 【制裁の儀礼】とコミュニティ⑨：アメリカ合衆国における【食糧暴動】の事例(1)。
- 11回 【制裁の儀礼】とコミュニティ⑩：アメリカ合衆国における【食糧暴動】の事例(2)。
- 12回 【労働争議】とコミュニティ⑪：アメリカ合衆国における【労働運動】の事例(1)。
- 13回 【労働争議】とコミュニティ⑫：アメリカ合衆国における【労働運動】の事例(2)。
- 14回 【労働争議】とコミュニティ⑬：アメリカ合衆国における【反貧困】の取り組み。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として学期末試験(100%)で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業中に紹介する参考文献等を積極的に読むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較日本文学 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（領域系）科目

担当者名 赤塚 正幸 / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本の近代文学を、時代小説という観点から理解を深める。時代小説というものを、現代の作家たちが取り上げることを意味を、テーマ、時代設定、題材などの関連から考察する。従来の純文学への接し方とは違う方法を提示し、時代小説の様々なアプローチ、楽しみ方のあることを伝えていく。

教科書 /Textbooks

使用しない。毎回プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

毎回配布するプリントにおいて、必要なものは指示し、必要な部分をコピーしてプリントを作成、配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 近代日本文学に描かれた時代小説について、その概観を述べる
- 2回 岡本綺堂の世界
- 3回 藤沢周平の世界①
- 4回 藤沢周平の世界②
- 5回 池波正太郎について①
- 6回 池波正太郎について②
- 7回 池波正太郎について③
- 8回 佐伯泰英について①
- 9回 佐伯泰英について②
- 10回 宮部みゆきの世界①
- 11回 宮部みゆきの世界②
- 12回 宮部みゆきの世界③
- 13回 宇江佐真理の描く江戸①
- 14回 宇江佐真理の描く江戸②
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

テスト・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義で取り上げる作品をできるだけ事前に読んでおくように。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較ドイツ文学【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(領域系)科目

担当者名 岩本 真理子 / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「詩」という文学形式のひとつである叙事詩は、物語性の強さが魅力であるが、その長さゆえに通読されることが少ない。この授業では中世ドイツの英雄叙事詩『ニーベルングンの歌』を中心に据え、叙事詩の面白さを味わいながら、ドイツ文化におけるこの作品の重要性を考える。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 相良守峯訳『ニーベルングンの歌』前編・後編 岩波文庫
- 谷口幸男訳『アイスランドサガ』新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 叙事詩とは何か
- 2回 各国の叙事詩
- 3回 『ニーベルングンの歌』発見と受容の歴史
- 4回 『ニーベルングンの歌』の素材
- 5回 『ヴォルスンガサガ』とは何か
- 6回 『ニーベルングンの歌』前編①-騎士と宮廷
- 7回 『ニーベルングンの歌』前編②-ジーフリトの死
- 8回 『ヴォルスンガサガ』との比較①
- 9回 『ニーベルングンの歌』後編①-クリエムヒルトの再婚
- 10回 『ニーベルングンの歌』後編②-クリエムヒルトの復讐
- 11回 『ヴォルスンガサガ』との比較②
- 12回 『ニーベルングンの歌』後編③-ゲルマン的英雄ハゲネ
- 13回 『ニーベルングンの歌』後編④-騎士と名誉
- 14回 ワーグナーの『指輪』と『ニーベルングンの歌』
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験の成績により評価する。ただし、出席状況が悪い場合は最高10%の減点とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 成末 繁郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

民族学や文化人類学がこれまで開発してきた「異文化理解」の戦略を、相対主義的な(対象地域の人々に寄り添った)解釈と普遍主義的な(近代合理主義的)解釈との対立を軸に、基本的に定評ある民族誌に依拠しながら解説していく。講師は文化相対主義かつ象徴人類学の立場に立つが、普遍主義的な解釈を完全に否定することはしない。時には相対主義的解釈よりもはるかに説得力を持つ場合もあることも認識しており、その点もあわせて解説するつもりである。また、理論的且つある意味で古典的な文化人類学の学説をトピックごとに解説する方式をとるので(往々にして、「今でもそのようなことが行なわれているのですか」という質問をうけてしまうことが多い)、「グローバル化」とか「ポスト・コロニアル」等の用語で言及されている状況(まさに現在の世界の実情)が手薄になるが、この点については議論のあるところなので、現物を直に見てもらって学生諸君に判断を委ねたい。ここで言う「現物」とは現在もなお伝統に生きる人々に関するビデオ及び世界各地の音楽PVである。これらを「伝統に生きる」・「Hip-hopの感染力」・「アイドルの普遍性」のコンセプトのもとに特集して鑑賞するが、その目的は「グローバル化」の実態への理解を深めることである。このPVの上映会をトピックの区切りごとに3回ほど予定している。

今このときの世界に対する理解も含めて、出来るだけ相対主義的に考えていくdispositionを身につけることがこの講義の狙いである。尚、今回は宗教・呪術に関するトピックを中心に進める。

教科書 /Textbooks

テキストは特になし。適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Roy Wagner 1978 Lethal Speech. Cornell University Press.
 Roy Wagner 1986 Symbols That Stand for Themselves. Chicago: University of Chicago Press.
 Roy Wagner 2001 An Anthropology of the Subject. University of California Press
 Tambiah, S. J. 1985 Culture, Thought, and Social Action An Anthropological Perspective, Harvard University Press.
 E.E. プリチャード2001 / 1937 アザンデ人の世界-妖術・託宣・呪術 (向井元子訳) みすず書房。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回～3回 象徴論からみた文化の概念の解説とシンボルの概念の解説【シンボル】【象徴界】
 - 4回 南米アマゾンの「ヤノマミ族」に関するビデオ【呪術的治療】【伝統】
 - 5回～7回 西洋近代科学の枠組みと宗教研究の相関関係
【モダン図式】【進化論】
 - 8回 グローバル化を考える1: ヒップホップの感染力 【ローカル化】
 - 9回～11回 西洋近代科学の枠組みと呪術研究の相関関係【合理主義的思考】【身体】【呪術の効果】
 - 12回 グローバル化を考える2: 世界のアイドル 【美の多様性】
 - 13回～14回 理解可能性を拡張する呪術解釈の試み
【パフォーマンス的な効果】【夢見る力】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

筆記試験の点数(95%)。出席(5%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

社会学または文化人類学または心理学を受講していれば理解が容易になります。

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義に対する要望や質問を歓迎します。

キーワード /Keywords

呪術の効果、オカルト、シンボル

比較表象文化 【昼】

担当者名 /Instructor 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では声・身体を人間の最も身近なメディアとして位置づけプロフェッショナルな表現行為の分析を講義する。表象を比較するうえでの方法にも随時注意しながら、人間の感動、喜怒哀楽といった感情を引き起こすさまざまな技術、及びその技術を可能にしている条件について考えてみたい。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】 はキーワード)
- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 発話の重層性① 落語(1)【ひとり語り】
 - 第3回 発話の重層性② 落語(2)【言葉と身体】
 - 第4回 発話の重層性③ 文楽【語り物】
 - 第5回 発話の重層性④ 文楽【多声性】
 - 第6回 ジャンルの連鎖① 浪花節(1)【物語の構造】
 - 第7回 ジャンルの連鎖② 浪花節(2)【盛衰】【メディア】
 - 第8回 発話の時空① 紙芝居【大道】
 - 第9回 発話の時空② 紙芝居【教育】
 - 第10回 発話の重層性⑤ 語りの人格【声優】【語り物】【JPOP】
 - 第11回 発話の重層性⑥ 漫才【ダイアローグ】【宗教性】
 - 第12回 発話の重層性⑦ 漫才【変貌と消費】
 - 第13回 声のメディア性① ニュースとは何か【日常会話化】【アナウンス】
 - 第14回 声のメディア性② 深夜放送【若者文化】【高齢者文化】
 - 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(コメントカード、小テスト、課題、授業態度など)…約20% 学期末レポート約80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

題材たる映像として、本講義では、誰もがなじみの深いハリウッド映画を用いる。比較は、映画と映画、また、映画と小説の組み合わせで、編集した映画の一場面を鑑賞しつつ行いたい。このような形で比較作業を行なうことによって、今まで見えていなかった、どのような、文化の一面が明らかになるのかを確かめたい。同時に、比較という作業が、文化を研究するにあたって、有効な研究手段であることを実感してもらいたい。アメリカと日本、アメリカとイギリスの文化の違いに関する理解も深めたい。

教科書 /Textbooks

テキストは用いない。必要に応じて、レジュメ等の資料を配布する。参考図書も、適宜紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

入門・現代ハリウッド映画講義	藤井仁子	人文書院
時計じかけのハリウッド映画	芦刈いずみ	角川SCC新書
大人のための『ローマの休日』講義	北野圭介	平凡社新書
カーチェイス映画の文化論	長谷川功一	リム出版新社
映画の構造分析	内田樹	晶文社
「戦争映画」が教えてくれる現代史の読み方	福井次郎	彩流社
シネマの宗教美学		フィルムアート社
家族の幻影	伊藤淑子	大正大学出版会
ハリウッド100年のアラブ	村上由見子	朝日選書
映画で読む21世紀	長坂寿久	明石書店
イエローフェイス	村上由見子	朝日選書
映画の中のアメリカ	藤原帰一	朝日選書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方の説明、参考図書の紹介
- 2回 アメリカ版ゴジラ(1988年)と、日本版ゴジラ(1954年)を比較1
- 3回 アメリカ版ゴジラ(1988年)と、日本版ゴジラ(1954年)を比較2
- 4回 ゴジラの違いが日米の文化の差とどのように連なっているか1
- 5回 ゴジラの違いが日米の文化の差とどのように連なっているか2
- 6回 『宇宙戦争』と『インデペンデンス・デイ』を比較1
- 7回 『宇宙戦争』と『インデペンデンス・デイ』を比較2
- 8回 上記二作品の映画製作者の意図を分析1
- 9回 上記二作品の映画製作者の意図を分析2
- 10回 『ロード・オブ・ザ・リング』の映画版と原作との比較
- 11回 上記によって明らかになる、映画製作者の意図について
- 12回 映画『ハリー・ポッター賢者』と原作とを比較：ハリーの活躍の度合いの違い
- 13回 映画『ハリー・ポッター賢者』と原作とを比較：ハリーのキャラクターの違い
- 14回 以上によって明らかになる、英米の文化の違い
- 15回 まとめ(絶対に欠席しないこと)

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%
配布プリント、自筆ノート持込可(ただし、コピーノートは不可)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義の前に指定した映画を可能な限り見ておくようにしてください。
講義中には、重要な場面を断片的にのみ見ることになります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較社会意識 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（領域系）科目

担当者名
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

我々の日常の生活のなかでは、人間の意識のほとんどは、個人的なもののように見える。しかし、我々の道徳意識や美意識等が、主に家族を通して内面化されているものであることから、意識（無意識も含めて）とは極めて集合的なものであり、歴史的なものであることが分かる。また、人間の思考の多くの部分は、社会的なものである言語によって支配されている。本講義においては、社会的なものとしての意識（無意識）が現代社会のなかで、内なる自然としての身体を持つ「個人」とおとして、どのように社会化され、さらに変容してゆくのかを考える。

教科書 /Textbooks

特になし（レジュメ資料を配付）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

須藤廣『観光化する社会』ナカニシヤ出版（2008年5月）2500円
J・リッツァ『マクドナルド化する社会』早稲田大学出版会（1999年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 【意識】とは何か
 - 2回 言語と意識との関係について
 - 3回 現象学は意識をどう捉えてきたか
 - 4回 構成主義、【構築主義】の社会学は意識をどう捉えてきたのか
 - 5回 【近代化】と意識1 (E・デュルケムにとっての「意識」)
 - 6回 近代化と意識2 (M・ウェーバーにとっての「意識」)
 - 7回 M・ウェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』解説
 - 8回 【個人主義化】と意識1 (フロム、リースマン、ペラー論)
 - 9回 【ポストモダン】化と意識 (ポストモダニズム論、ギデンズ論)
 - 10回 【消費社会化】と意識1 (リッツァーの【マクドナルド化】論)
 - 11回 消費社会化と意識2 (「デイズニー化」と意識)
 - 12回 日本人と意識の歴史1 (戦後～70年代)
 - 13回 日本人と意識の歴史2 (70年代以降)
 - 14回 メディアの変容と意識
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題30% 試験70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

1学期に文化社会学の授業を受けていると理解がより深まる。

履修上の注意 /Remarks

理論的な解説が主になるので、背景の社会学的知識が必要である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較社会文化 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化 (領域系) 科目

担当者名
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義の前半においては現代文化の特徴についての諸理論を解説し、後半はその応用領域として観光文化について、主に理論的に講義をする。
本講義では文化を、「真/偽」「美/醜」「善/悪」等の基準はカッコに入れ、それらの基準を成り立たせているメカニズムとして分析的に考える。

教科書 /Textbooks

特になし (レジユメ資料を配付)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

須藤廣『観光化する社会』ナカニシヤ出版 (2008年5月) 2500円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】 はキーワード)

- 1回 【文化】とは何か (【イメージ】の生産とイメージの解釈・消費のしくみについて)
- 2回 【近代化】と文化1 (M・ウェーバーの近代化論を中心に)
- 3回 儀礼と世俗化 (V・ターナーの通過儀礼論、PLバーガーの世俗化論を中心に)
- 4回 【マクドナルド化】と消費社会化 (イメージの生産とイメージの消費についての近代システム)
- 5回 【ポスト・モダニズム】と【消費文化】消費文化1 建築・絵画
- 6回 【ポスト・モダニズム】と【消費文化】消費文化2 絵画・写真
- 7回 【ポスト・モダニズム】と【消費文化】消費文化3 映画・音楽
- 8回 現代社会と表象システム
- 9回 【観光】文化とは何か (近・現代社会と場所の消費としての観光について)
- 10回 日常世界の観光化と観光の日常化 (テーマパークとモールについて)
- 11回 観光とメディア (ハワイの観光化過程を中心に)
- 12回 観光とアイデンティティの政治学
- 13回 グローバリゼーションと文化
- 14回 【ディズニー化】と観光文化
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 30% 試験 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

9回以降では、指定された参考書に従って授業を進める。

履修上の注意 /Remarks

理論的な解説が主になるので、背景の社会学的知識が必要になる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較中国思想 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（領域系）科目

担当者名 /Instructor 連 清吉 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国思想の特徴を、西洋や東アジアとの比較を試みながら、特に近現代の変容から抽出しつつ考える。それによって、受講者が中国思想について、自分なりの関心に即して理解する契機を獲得することをめざす。

教科書 /Textbooks

溝口雄三『<中国思想>再発見』左右社、2010年、1619円（税別）
また、適宜レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

野村浩一ほか編『新版 原典中国近代思想史』全7巻、岩波書店、2010-11年
溝口雄三・池田知久・小島毅『中国思想史』東京大学出版会、2007年
佐藤慎一編『近代中国の思索者たち』大修館書店、1998年
茂木敏夫『変容する近代東アジアの国際秩序』（世界史リブレット41）山川出版社、1997年
『理想』第682号、理想社、2009年所収の論文、茂木敏夫「中国王朝国家の秩序とその近代」など。開講時に、もう少し詳細な参考文献リストを配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下のような3部から中国思想の特徴を解説する。
はじめに—講義の意図（第1回）
第1部 中国思想の諸相—溝口『<中国思想>再発見』を読む
(1) 『<中国思想>再発見』の解説と質疑応答（その1）（第2回）
(2) 『<中国思想>再発見』の解説と質疑応答（その2）（第3回）
(3) 徳治による秩序（第4回）
(4) 均質な社会（第5回）
第2部 伝統中国は近代をどうとらえたか—19世紀～20世紀初
(1) 伝統思想の評価した西洋近代（第6回）
(2) 「万国公法」の受容（その1）—中国（第7回）
(3) 「万国公法」の受容（その2）—東アジア（第8回）
(4) 「伝統」の再造（その1）—西洋と日本（第9回）
(5) 「伝統」の再造（その2）—中国と朝鮮（第10回）
第3部 東アジア世界の構造変動の諸側面—20世紀～現在
(1) 東アジア世界の中心 - 周縁構造とナショナリズム（第11回）
(2) 近代国家建設の思想（第12回）
(3) 戦後・脱植民地と冷戦（第13回）
(4) グローバリゼーション（第14回）
まとめ（第15回）

成績評価の方法 /Assessment Method

講義のなかで書いてもらうペーパー数回と最後の試験、ペーパー50%、試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

開講時には教科書（溝口『<中国思想>再発見』）を読んでおくこと。教科書を読んだ感想や質疑応答から講義を始めます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日英文化比較【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(領域系)科目

担当者名 /Instructor
ダニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The goals of this class are threefold: first, to gain a deeper understanding of the United Kingdom and other English-speaking countries; second, to compare and contrast the cultures of Anglosphere countries with Japan and thereby come to an understanding of how the world is interconnected; and third, to recognize the dynamic nature of culture and consider how complex cultural trends continue to influence 21st century life.

教科書 /Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Course Introduction
- 第2回 What is the Anglosphere?
- 第3回 Legends and Lore
- 第4回 Continental Connections
- 第5回 A Tale of Two Bridges
- 第6回 Ladies and Gentlemen
- 第7回 Oxford and the Sumida
- 第8回 How to Make a Worldwide Empire
- 第9回 Enclosures
- 第10回 Self-determination
- 第11回 Border Stories
- 第12回 Imperial Entanglements
- 第13回 I Hear America Singing
- 第14回 So Many Englishes
- 第15回 Course Review

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加 : 30% 小テスト : 0% 期末試験 : 60% 課題 : 0% 態度 : 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

This course will be taught using a combination of English and Japanese. Lecture notes will be provided to help students review content and vocabulary outside of class time.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

The examination will be in Japanese but will include some English vocabulary.

キーワード /Keywords

日仏文化比較 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化 (領域系) 科目

担当者名 /Instructor 福島 勲 / FUKUSHIMA ISAO / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本の風景、人々、街、文化はフランス語圏の作品の中でどのように表象されているだろうか。この講義では、フランス語圏で作られた日本を主題にするテキストや映像作品を手がかりとして、〈他者〉のまなざしに映った日本文化について考えてみたいと思う。それは鏡によって自分を眺める試みであるとともに、鏡の歪みについて考えることでもある。今年度は、第二次世界大戦以降に作られたテキストと映像作品を扱うことにする。

教科書 /Textbooks

テキストはとくになし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

開講時に指示

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回：イントロダクション
- 2回：日仏文化交流史 (口舌、アンペール等)
- 3回：アラン・レネ『24時間の情事』
- 4回：エマニュエル・リヴァ『Hiroshima 1958』
- 5回：ロラン・バルト『表徴の帝国』
- 6回：モーリス・パンゲ『自死の日本史』
- 7回：ニコラ・ブーヴィエ『日本の原像を求めて』(1)
- 8回：ニコラ・ブーヴィエ『日本の原像を求めて』(2)
- 9回：クリス・マルケル(1)『クミコ』
- 10回：クリス・マルケル(2)『サン・ソレイユ』
- 11回：アメリカー・ノートン『恐れ慄いて』
- 12回：ジャン=フィリップ・トゥーサン『愛しあう』
- 13回：ジャン=ピエール・リモザン『Tokyo Eyes』『Young Yakuza』
- 14回：レオス・カラックス『メルド』
- 15回：まとめ

各回の授業スケジュールはあくまで目安である。

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回のレポート...80% 平常点...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、簡単なレポートを提出する。テーマは取り扱った作品から見つけ、考察したことを書く。

履修上の注意 /Remarks

授業のスケジュールはあくまで目安であり、学生の理解と興味を見ながら進む。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

他者のまなざしを分析することは、自分のまなざしについて問うことでもあります。作品を楽しみながら、交差する視線の迷宮の中に入り込んで見ましょう。

キーワード /Keywords

他者 まなざし 日本 ステレオタイプ(クリシェ) エキゾチスム クールジャパン

日中文化比較【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(領域系)科目

担当者名 /Instructor 馬 叢慧 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本と中国は一衣帯水の関係にあり、文化の面で密接な関係を持つが、一方では相違点も多く見られる。本講義は、特に生活の基本となる飲食文化について、日中間の比較を行う。

教科書 /Textbooks

『東方栄養新書』(梁 晨千鶴著 メディカル・ユーコン社 ¥2,100)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

プリント配布

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 東洋医学の考え方(1)
- 3回 東洋医学の考え方(2)
- 4回 医食同源
- 5回 主食の比較(日本)
- 6回 主食の比較(中国)
- 7回 副食の比較(日本)
- 8回 副食の比較(中国)
- 9回 日中調理法の比較
- 10回 薬膳
- 11回 日本茶
- 12回 中国茶
- 13回 茶法・茶菓子
- 14回 健康茶・薬酒
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況・・・50% レポート・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東洋医学、医食同源、薬膳、主食、副食、中国茶、日本茶

近現代美術【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(領域系)科目

担当者名 /Instructor 花田 伸一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

美術を、思考ツール・実践ツールとして読みこなし使いこなす能力を身に付けます。国内外の近現代美術の事例をスライドやビデオ等で紹介しながら、「美術」に関する既存概念に縛られずに、思考の柔軟性を養います。また必要に応じて「美術」に限らず他分野の事象も取り上げます。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

暮沢剛巳編『現代美術を知るクリティカル・ワーズ』(フィルムアート社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 美×美術×美術館×美術史×美学：「美」をめぐる言葉の整理
- 2回 展覧会の舞台裏：展覧会作りのプロセス
- 3回 メディア×アート：資料としての浮世絵、作品としての浮世絵
- 4回 鑑賞の図式1：「正しい」鑑賞 / 解釈とは？
- 5回 鑑賞の図式2：身近な作品を鑑賞する
- 6回 広がるアートの舞台：都市規模・地球規模のアート
- 7回 アート・宗教は社会を救う・掬う
- 8回 アートのカ×権力×暴力
- 9回 リアルとフィクション：想像のジャンプカ
- 10回 アジアのアート1：制度としてのアート
- 11回 アジアのアート2：生活の中のアート
- 12回 地方の風土とアート：どこまでが「日本」？
- 13回 福岡・北九州のアートシーン
- 14回 プロ×アマの境界
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

上記の講義内容は予告なしに変更する場合があります。
また講義室内での受講にとどまらず、できる限り近隣の美術館・ギャラリー等で行われる展覧会・レクチャー・トーク・ワークショップ等に足を運び、「現場」での体験と省察とを心がけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文化人類学【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(領域系)科目

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

いきなりだけど、今までに「自己」と「他者」の謎について考えてみたことはあるだろうか。自分と他人は、異なる身体を持ち、異なる価値観を持ち、異なる時間を生きているにもかかわらず、共感することができたり、相手のいうことが理解できたりするのはなぜだろう。「他人のことなんてわかるはずはない」といいながら、そんな他人を信じて毎日を生かされるのは、とても不思議だ。人類学では、理解できるはずのない他人に果敢にもフィールドワークという手法をつかって近づいていく。ちょっと難しいかもしれないけど、講義の中で人間の文化の多様性と他者認知や自己認知の普遍性について考えを巡らしながら、恋だの政治だの常識だの、みんなが大好きな人間関係のパワーゲームについて分析し、いろいろと回り道をしようと思う。そうすれば他人を知ることは自分を知ることであるという異文化理解のもっとも基本的な道筋が見えてくるはずだ。
ビデオ・スライドをみながら異文化をイメージする

教科書 /Textbooks

講義中に紹介する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『フィールドワークへの挑戦-“実践”人類学入門』菅原 和孝(編集)
『うめぼれる脳-「鏡のなかの顔」と自己意識』ジュリアン・ポール キーナン(著)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1講 文化とはなにか
- 第2講 近代とはなにか
- 第3講 共感とはなにか
- 第4講 他者とはなにか
- 第5-6講 交換とはなにか
- 第7講 社会とはなにか
- 第8講 政治とはなにか
- 第9-10講 信じるとはなにか
- 第11-12講 自然とはなにか
- 第13-15講 わかるとはなにか

成績評価の方法 /Assessment Method

自己と他者について考察する準備が整うこと	...	30%
異文化を相対的に考えられること	...	30%
人類学的な実践に興味を持ちながらをはじめること	...	40%
試験は講義のどこかで日おこなう		

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

勉強したい人だけ受講すること。
自分で考えるために、本を読んで欲しい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

情報社会論 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（領域系）科目

担当者名 /Instructor 明間 肇 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 集中 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ポスト近代（情報社会・高度消費社会）が大きな近代化の流れの中でいかに成立してきたのか、また、社会意識がいかに変容してきたのかを考えていきます。現在の状況がいかに大きな転換点か、また、それがもつ意味について考えたいと思います。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

須藤廣『観光化する社会』ナカニシヤ出版（2008年5月）、田中義久編『関係の社会学』弘文堂（1996年2月）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要の説明：問題提起および問題意識の所在
- 2回 【市民社会】における【情報社会】の位置づけ：市民社会の歴史的な規定性の貫徹
- 3回 【脱魔術化】の過程としての【近代化】：【近代市民社会】の意識のあり方および【高度消費社会・情報社会】の位置づけ
- 4回 社会学の成立と近代の関係および補足：【資本制社会】の成立過程における個人と社会のあり方の変容
- 5回 補足・討論
- 6回 【ポスト近代】における【生産】と【消費】の関係の変容：情報の【商品化】。【アウラ】なき時代における【再魔術化】と【ブラックボックス化】
- 7回 【メディア】について 【記号性】の終焉とリアル：リアルという新たな【アイコン】の出現
- 8回 【メディア】について 【記号性】の終焉とリアル：リアルという新たな【アイコン】の出現（続き）
- 9回 【メディア】について 【身体性】とどう関係するのか
- 10回 補足・討論
- 11回 近代権力とは何か：近代化と【生-権力】の成立の関係
- 12回 主体の成立：【言語】と【主体】
- 13回 ポストモダニズムについて
- 14回 補足・討論
- 15回 試験

成績評価の方法 /Assessment Method

学習状況...40% レポート...30% 試験...30%
出席は毎回とりますので、出席状況も評価の対象となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

とくにありません。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的に質問していただくと、理解が深まるでしょう。

キーワード /Keywords

脱魔術化 アウラ 記号 シニフィアン シニフィエ 高度消費社会 ポストモダン

日本文学概論 (近現代) 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化 (地域系) 科目

担当者名 /Instructor 馬場 美佳 / MIKA BABA / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本近現代文学の散文・韻文の特徴について、表現・形式・内容およびメディアとの関係を中心に概説する。作品を自身で読解し、その解釈を他者へ伝えるための、基本的な研究の態度を身につける。具体的な作品にふれつつ、日本近現代文学を学ぶための入門となることを目指す。

教科書 /Textbooks

各回でレジュメ、資料等を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○各種日本文学史。他は授業担当者が必要に応じ紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 近代 / 現代の文学
- 第2回 文学という芸術：『小説神髓』から考える
- 第3回 表現論① 文学の文体
- 第4回 表現論② 文学のメディア
- 第5回 小説論① 主人公と語り手I：三人称小説
- 第6回 小説論② 主人公と語り手II：一人称小説
- 第7回 小説論③ 主人公と語り手II：横光利一「蠅」を例に
- 第8回 小説論④ 構成とは何かI：ストーリーとプロット
- 第9回 小説論⑤ 構成とは何かII：芥川龍之介「藪の中」を例に
- 第10回 小説論⑥ 描写とは何かI：観察と換喩
- 第11回 小説論⑦ 描写とは何かII：女主人公たちの描かれ方を例に
- 第12回 韻文論① 詩のかたち
- 第13回 韻文論② 詩のこぼれI：明治の詩
- 第14回 韻文論③ 詩のこぼれII：大正以降の詩
- 第15回 まとめにかえて：読者論と読書論

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点…20% 期末試験…80%
ただし、欠席が全体の三分の一を超えた場合は「不可」とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

近代文学史上の主たる作品を読むことをこころがけること(とくに国語科教員を目指す者)。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本の宗教文化【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「神道と仏教の交渉」

民族宗教とされる神道と外来宗教である仏教は、本来異質な宗教である。しかしながら、日本において二つの宗教は融和し共存することにより独特の宗教風土を育んできたとされる。しかしながら一方において神道と仏教の関係は「神仏習合」と称されるような融合の側面ばかりではなく、反発し忌避する意識も働いていたのである。それゆえにこそ両者は混然一体となることなく、宗教としての自立性を保ち得たと考えられる。この二つの宗教の微妙な関係について、説き明かしていきたい。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 高取正男『神道の成立』(平凡社)
- 村山修一『神仏習合思潮』(平楽寺書店)
- 村山修一『本地垂迹』(吉川弘文館)
- 岡田荘司『日本神道史』(吉川弘文館)
- 速水侑『日本仏教史 古代』(吉川弘文館)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の概要
- 2回 仏教と東アジア
- 3回 仏教公伝
- 4回 伝来初期の仏教
- 5回 仏教伝来以前の神道
- 6回 律令国家と神道
- 7回 道教の伝来をめぐって
- 8回 神仏習合思想の発生
- 9回 神仏習合と東アジア宗教
- 10回 奈良時代の神仏隔離
- 11回 平安時代の神仏隔離
- 12回 本地垂迹説の形成
- 13回 本地垂迹説の展開
- 14回 神仏習合と神仏分離
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 50% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布された資料や紹介した参考図書はよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

神道、仏教、律令制、神仏習合、本地垂迹説、神仏隔離

日本の歴史と社会【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「江戸時代」は我々にとって最も「日常的な歴史」になっていますが、それゆえにそこには多くの誤解や先入観がまかり通っています。そこでこの授業では、「江戸時代」という時代を検証してみたいと思います。

教科書 /Textbooks

レジュメ・プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○高木侃『三下り半と縁切寺』(講談社現代新書) 山本英二『慶安の触書は出されたか』(山川出版社日本史リブレット) 他

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】内はキーワード)

- 1回 ガイダンス
- 2回 【近世】という時代
- 3回 【三行半】を読み直す①江戸時代の女性の地位
- 4回 【三行半】を読み直す②江戸時代の離婚
- 5回 【三行半】を読み直す③離婚理由と再婚許可文言
- 6回 『【女大学】』と『和俗童子君』①
- 7回 『【女大学】』と『和俗童子君』②
- 8回 【好色物】と女性の社会進出
- 9回 【縁切寺】の歴史
- 10回 【慶安御触書】を読み直す①榎本宗次説
- 11回 【慶安御触書】を読み直す②丸山雍成説
- 12回 【慶安御触書】を読み直す③木崎良美説
- 13回 【慶安御触書】を読み直す④神崎直美説
- 14回 【慶安御触書】を読み直す⑤山本英二説
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業レポート...50% 筆記試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

シラバス・レジュメ・参考文献をよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本の芸能文化【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

テーマ：日本古代の芸能-在来芸能と渡来芸能
日常あまり接する機会のない伝統芸能をテーマとして取り上げるため、ビデオを上映して芸能に対する視聴覚面からの理解を深めることに努めるが、古典芸能や民間芸能にじかに触れる機会を持ってもらいたい。そのため伝統芸能の鑑賞・見学レポートを提出してもらう。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

能史研究会編『日本芸能史1』法政大学出版○
『日本の古典芸能2 雅楽』平凡社○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の概要とレポートについて
- 2回 「芸能」とはなにか
- 3回 先史時代の芸能-琴・笛・土面・銅鐸
- 4回 靈魂と芸能-神楽・鎮魂・巫女
- 5回 靈魂と芸能-歌垣・田植踊り
- 6回 神祭りとはなにか-記紀・風土記などを例に
- 7回 喪葬と芸能-殯の儀礼。死と靈魂観
- 8回 政治と芸能-記紀神話にみる芸能。国魂と服属儀礼
- 9回 大陸芸能の伝来-伎楽と雅楽
- 10回 雅楽-雅楽とは何か
- 11回 中国の楽と雅楽
- 12回 雅楽の受容と展開
- 13回 雅楽と仏教-中世の展開
- 14回 散楽と猿楽-【能】【狂言】の源流
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布するプリントを読んでおいてください。
レポートに関する諸注意をよく聞いておいてください。

履修上の注意 /Remarks

旧カリ科目「日本古代の演劇・芸能」との合併授業になりますので、テーマは古代に限ります。
能・歌舞伎など中世以降の芸能は扱いませんので、事前に承知のうえ受講して下さい。
レポートを提出しない場合は、単位を認めません。レポートの提出期限は厳守すること。遅延は認めません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

生の芸能に触れる機会をつくって下さい。レポートも

キーワード /Keywords

芸能、神楽、靈魂、雅楽、散楽、申楽

日本の生活文化【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本人の生活の中心である衣食住の歴史を衣と食を中心に先史時代にさかのぼるとともに、日本文化の確立期である江戸時代を中心にみていきます。また地域の食や暮らしの文化を研究している第一人者を外部講師としてお招きし、貴重なお話をお伺いします。

教科書 /Textbooks

レジュメ・プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 永原慶二『苧麻・絹・木綿の歴史』(吉川弘文館)
- 柳田國男『木綿以前の事』(岩波文庫)
- 芳賀登編『全集日本の食文化』(雄山閣)
- 石毛直道監修『講座食の文化2 日本の食事文化』(味の素食の文化センター)
- 堀切辰一『布の記憶』(新科学出版社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】内はキーワード)
- 1回 ガイダンス
 - 2回 江戸時代における衣食住の成立
 - 3回 縄文時代と照葉樹林文化の食文化
 - 4回 室町時代～江戸時代の食文化
 - 5回 外部講師①布の歴史と【小倉織】(予定)
 - 6回 史料に見る【小倉織】
 - 7回 戦国時代の輸入【木綿】
 - 8回 江戸時代の輸入【木綿】
 - 9回 江戸時代のファッション 小袖と化粧
 - 10回 外部講師②【襦袢】が語る庶民の暮らし(予定)
 - 11回 【シュガーロード】の菓子文化①
 - 12回 【シュガーロード】の菓子文化②
 - 13回 【シュガーロード】の菓子文化③
 - 14回 【シュガーロード】の菓子文化④
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業レポート...50% 筆記試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

シラバス・レジュメ・参考文献をよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本文学史 (近現代) 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化 (地域系) 科目

担当者名 赤塚 正幸 / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本の明治以降の日本近代文学について、従来の近代文学史を基礎としながらもその上に立って、「私」「われわれ」「風俗」の観点から新たな文学史の可能性を探る。

教科書 /Textbooks

使用しない。毎回プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

毎回配布するプリントにおいて、必要なものは指示し、必要な部分をコピーしてプリントを作成、配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 従来の近代文学史の概観
- 2回 日本の近代文学の出発 近代文学の理論 坪内逍遙 二葉亭四迷
- 3回 「私」を巡る問題① 森鷗外 樋口一葉
- 4回 「私」を巡る問題② 夏目漱石 志賀直哉 芥川龍之介
- 5回 「私」を巡る問題③ 堀辰雄 中島敦
- 6回 「私」を巡る問題④ 宮本輝 村上春樹
- 7回 「私」を巡る問題⑤ 鷺沢萌
- 8回 「われわれ」という発想① 小林多喜二「蟹工船」
- 9回 「われわれ」という発想② 葉山嘉樹「セメント樽の中の手紙」「淫売婦」
- 10回 「われわれ」という発想③ 中野重治「鉄の話」
- 11回 風俗を描く① 古き良き東京を舞台として 永井荷風 谷崎潤一郎
- 12回 風俗を描く② 川端康成「浅草紅団」 梶井基次郎「檸檬」
浅草、京都といった都市を描くことの意味
- 13回 風俗を描く③ 松本清張「点と線」「時間の習俗」 戦後という時代風景
- 14回 風俗を描く④ 池袋という「都市」を描く 石田衣良
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

テスト・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に、講義で言及する作家の作品を読んでおいて貰いたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本の大衆文化【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義で扱う「大衆文化」とは、メディア史・都市史を補助線としつつ形成されて流通してきた文化を指している。本講義では大衆文化史を、大衆芸能のジャンル生成を焦点としながら他分野にも目配せをして概観していく。なお授業では、メディア環境の転換点を見極めつつ、日常生活の変容、思想の変容を関係させながら、大衆文化を概観をする。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	ガイダンス	講義のデザイン
第2回	●近世●	近世都市の大衆①【印刷文化】
第3回		近世都市の大衆②【劇場】【寄席】
第4回	●近代●	幕末・文明開化【芸能統制】【改良言説】【新聞錦絵】
第5回		世紀転換期①【言文一致】【活動写真】
第6回		世紀転換期②【国家戦争】【レコード】
第7回		両大戦間期【民衆娯楽】【モダニズム】【労働問題】【大衆文学】
第8回	●近代～現代●	メディアの浸透①【電気吹き込み】【トーキー】
第9回		メディアの浸透②【ラジオ】
第10回		総力戦・戦後占領【国家総動員】【GHQ】【軍国主義から民主主義へ】
第11回	●現代●	民主主義の胎動 民間放送【グラビア雑誌】【視聴者参加】
第12回		高度経済成長①【ナショナルメディアとしてのテレビ】【映画における英雄像】
第13回		高度経済成長②【大衆文化論の系譜】
第14回		大衆文化の現在【サブカルチャー】【グローバリズム】
第15回	まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(コメントカード、課題など)...約15%
学期末レポート...約85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備は特に必要ないが、各回の講義の内容は、以降の講義につねに関連していくことになる。したがって、講義内容を各自自主的に見直していく必要がある。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本の古典文学I【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 藤崎 祐二 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

鎌倉時代末期に書かれた『徒然草』を読み、乱世を生きた兼好法師のものの考え方、表現のあり方などを学びながら、古典の世界に親しみ、その素晴らしさを味わう。

教科書 /Textbooks

適宜、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『新編日本古典文学全集』(小学館)
- 『徒然草』(三木紀人、講談社学術文庫)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 兼好が生まれた時代
- 3回 兼好と宮廷社会(1)【宮中】
- 4回 兼好と宮廷社会(2)【堀河家】
- 5回 いにしえへの思い
- 6回 後鳥羽院の時代
- 7回 後嵯峨院の時代
- 8回 古典の受容(1)【漢籍】
- 9回 古典の受容(2)【物語】
- 10回 東国との関係
- 11回 異郷への関心
- 12回 遁世の事情
- 13回 歌人としての兼好
- 14回 自撰家集
- 15回 後世への影響

成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 80%、授業に臨む態度... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参考文献に挙げた書籍等を読んで、内容をある程度把握しておくといでしょう。また、『徒然草』の研究書は数多く出版されていますので、図書館で手にとってみましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本の古典文学II 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 河北 靖 / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本の古典文学の基本となる和歌文学について、その特質を考える。
和歌というと、「萬葉集」や、「古今集」を嚆矢とする勅撰集に注目しがちであるが、それらを支えたのは無数の私家集である。それぞれが特徴的で、伊勢は古今集最多の女流歌人、檜垣媼は全勅撰集中「後撰集」に1首のみ入集、和泉式部は複数の私家集が伝存する、といった具合でありまさに多岐に亘る。こうした多様な私家集群から、和歌文学の豊穡の海に遊んでみよう。

教科書 /Textbooks

『新編国歌大観』本のプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

上記「ねらい」を、勅撰三代集から各一名の女流歌人を選び、それぞれの私家集の読解を進めることによって明らかにする。その歌人たちとは、伊勢(古今集時代)・檜垣媼(後撰集時代)・和泉式部(拾遺集時代)である。

- 1回 オリエンテーション~三代集とは【勅撰和歌集】
- 2回 私家集とは【いへのしゅう】【撰集】
- 3回 伊勢の生涯【宮仕え】【宮廷文化圏】
- 4回 冒頭歌群の特異性【物語的】
- 5回 仲平・時平との交渉【召し人】
- 6回 名も無き男たちとの贈答【日常詠】
- 7回 帝寵と皇子の生と死【栄光と挫折】
- 8回 温子中宮との交流【主従関係】
- 9回 檜垣媼とは【伝説的歌人】
- 10回 史実と虚構(1)【清原元輔】
- 11回 史実と虚構(2)【落魄説話】
- 12回 和泉式部の世間的評価【浮かれ女】
- 13回 日記と家集【和歌の力】
- 14回 敦道親王の死【挽歌】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点... 30% 試験... 70%
出席が3分の2に満たない者は、試験を受けられない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

国歌大観本は、ほとんどがかな表記のため、次回予定部分を漢字かな交じりで書き改めておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本の近代文学【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 馬場 美佳 / MIKA BABA / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本近代の文学について、明治から大正にかけての代表的作家・作品とりあげて講義する。近代国家成立と政治・経済・社会・文化等の諸制度との関係のなかで小説表現がどのように模索されたのか、その軌跡を考察していく。文学的文章の高度な読解力・分析力を身につけることをめざす。

教科書 /Textbooks

随時、複写して配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 各種、日本文学史
- 各種、比較文学研究書
- 「欧米作家と日本近代文学」1巻・英米編I & 5巻・英米編II

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

■作家という個性が日本の近代文学の諸特徴をどのように作り上げているか。今年度は、イギリス文学を共通項として設定し、毎回一作家一作品をとりあげて、内容・形式等、日本の近代文学を成立させてきたものを検証していく。

- 第1回 日本近代文学導入およびガイダンス
- 第2回 西洋の翻案：坪内逍遙『自由太刀余波鋭峰』とW・シェイクスピア
- 第3回 青年の思想：北村透谷『楚囚の詩』とG・バイロン
- 第4回 新聞メディア：尾崎紅葉『金色夜叉』とバーサ・M・クレイ
- 第5回 自然観の融合：国木田独步『武蔵野』とW・ワーズワース
- 第6回 ロマン主義と詩の表現：『明星』とJ・キーツ
- 第7回 求道精神：薄田泣菫『暮笛集』とJ・バニヤン
- 第8回 低徊趣味：夏目漱石『夢十夜』とL・スターン
- 第9回 耽美趣味：谷崎潤一郎『饒太郎』とO・ワイルド
- 第10回 理知派の発想：芥川龍之介『藪の中』とバーナード・ショー
- 第11回 意識という手法：川端康成『水晶幻想』とJ・ジョイス
- 第12回 戦時下の自己像：中島敦『光と風と夢』とR・ステイーブンソン
- 第13回 戦後の思想：堀田善衛『歯車』とGレアム・グリーン
- 第14回 美学と文化：三島由紀夫『禁色』とW・ペイター
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小レポート...50% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストを事前に予習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本の現代文学【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 赤塚 正幸 / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代という時代において、現代が抱え持つさまざまな問題を、現代の作家たちはどのように作品として表現しているか。現代文学が現代に対して提起している問題について考察する。基本は、湯本香樹実について、考察する。

教科書 /Textbooks

「夏の庭」(新潮文庫)
「ポプラの秋」(新潮文庫)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は配布したプリントで指示する。書名等だけでなく、各文献の必要部分はコピーしてプリントを作成し、配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 湯本香樹実とは？
- 2回 『夏の庭』① 心に残る子供の世界
- 3回 『夏の庭』② 「死ぬ」ということ
- 4回 『夏の庭』③ 「生きている」ということ
- 5回 『夏の庭』④ 残された者
- 6回 『春のオルガン』① 何かに夢中になる、ということ
- 7回 『春のオルガン』② 生活すること
- 8回 『ポプラの秋』① 「生きる」ということについて
- 9回 『ポプラの秋』② 「死ぬ」ことに関して
- 10回 『ポプラの秋』③ 「生活する」ことの意味
- 11回 『ポプラの秋』④ 生き残った者のこと
- 12回 『西日の町』① 父と子
- 13回 『西日の町』② 生きている「世界」のこと
- 14回 その他の作品について『わたしのおじさん』『岸辺の旅』など
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

テスト・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

作品を読んでおくように。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本の美術【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 五月女 晴恵 / 比較文化学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

12世紀(院政時代)に制作された四つの国宝絵巻-「源氏物語絵巻」「信貴山縁起絵巻」「伴大納言絵巻」「鳥獣人物戯画」甲・乙巻-は、数ある日本の絵巻の中でも優品として知られ、これらを輩出した12世紀は絵巻の黄金時代とも言われる。本講義では、これらの絵巻を概観することを通して、絵巻の基本を確認する。異時同図法や時間逆行の手法などといった特徴的な表現や段落式絵巻と連続式絵巻との違いなどを確認する。

昨年度は、「源氏物語絵巻」と「信貴山縁起絵巻」について講義したので、本年度は、「伴大納言絵巻」と「鳥獣人物戯画」甲・乙巻を取り上げる。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 院政期絵巻入門
- 2回 「伴大納言絵巻」上巻の内容と画面構成①
- 3回 「伴大納言絵巻」中巻の内容と画面構成②
- 4回 「伴大納言絵巻」下巻の内容と画面構成③
- 5回 所謂「謎の人物」の問題①
- 6回 所謂「謎の人物」の問題②
- 7回 「伴大納言絵巻」と御霊信仰との関係①
- 8回 「伴大納言絵巻」と御霊信仰との関係②
- 9回 「鳥獣人物戯画」甲巻の内容
- 10回 「鳥獣人物戯画」甲巻の復元と画面構成
- 11回 「鳥獣人物戯画」乙巻の内容-正倉院宝物霊獣図との比較
- 12回 「鳥獣人物戯画」甲・乙巻の筆者問題について①
- 13回 「鳥獣人物戯画」甲・乙巻の筆者問題について②
- 14回 「鳥獣人物戯画」甲・乙巻と法華経信仰との関係①
- 15回 「鳥獣人物戯画」甲・乙巻と法華経信仰との関係②

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(場合によっては学期末試験)...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本の宗教と美術【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名
/Instructor 五月女 晴恵 / 比較文化学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

平安時代は美術品制作に関して技術・美意識ともに一つの頂点を迎えた時期とも言われ、数多の仏画の名品が生み出された時代としても知られる。本講義では、平安時代～鎌倉時代前半までの仏画の名品を取り上げながら、仏画の基本(尊像名・描法・修法など)を概観したいと思う。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 仏画概説(如来・菩薩)
- 2回 仏画概説(明王・天部)
- 3回 青蓮院所蔵「不動明王二童子像(青不動)」をめぐって①
- 4回 青蓮院所蔵「不動明王二童子像(青不動)」をめぐって②
- 5回 青蓮院所蔵「不動明王二童子像(青不動)」をめぐって③
- 6回 金剛峯寺所蔵「仏涅槃図(応徳涅槃)」をめぐって①
- 7回 金剛峯寺所蔵「仏涅槃図(応徳涅槃)」をめぐって②
- 8回 京都国立博物館所蔵「十二天像」をめぐって①
- 9回 京都国立博物館所蔵「十二天像」をめぐって②
- 10回 東京国立博物館所蔵「普賢菩薩像」をめぐって
- 11回 平安時代から鎌倉時代の「阿弥陀来迎図」をめぐって①
- 12回 平安時代から鎌倉時代の「阿弥陀来迎図」をめぐって②
- 13回 平安時代から鎌倉時代の「阿弥陀来迎図」をめぐって③
- 14回 「僻邪絵」「地獄草紙」「餓鬼草紙」をめぐって①
- 15回 「僻邪絵」「地獄草紙」「餓鬼草紙」をめぐって②

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(場合によっては学期末試験) ...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本の都市文化【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 内山 一幸 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

明治維新後、日本の大衆文化は西洋文化の影響を受けながらも、基本的には伝統の色を強く残していた。しかし、大正期になると都市化の進行によって大衆文化は大きく変貌した。さらに関東大震災後には都市化・大衆社会化・アメリカニズムなどを背景に現代社会に通ずる「モダニズム」と呼ばれる現象が起こり、日本人の生活様式も大きく変化した。この講義ではその具体的な実相について考えてみたい。

教科書 /Textbooks

使用しない。毎回資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初田亨『モダン都市の空間博物館学』(彰国社、1995年)
『「あら、尖端的ね。」-大正末・昭和初期の都市文化と商業美術-』(岡崎市美術博物館、2009年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「日本の都市文化」について
- 第2回 関東大震災と復興
- 第3回 今和次郎と考現学
- 第4回 百貨店-消費社会の舞台装置-
- 第5回 商業美術と都市
- 第6回 子ども用品の誕生
- 第7回 新しい着物図案と洋装デザイン
- 第8回 カフェーと喫茶店-都市のたまり場-
- 第9回 新しい住空間と生活様式の模索-室内と家具の変容-
- 第10回 郊外住宅と集合住宅
- 第11回 建築様式をめぐる争い
- 第12回 築地小劇場
- 第13回 視覚の革命
- 第14回 伝統と近代の融合
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

モダニズム、大衆社会、表現主義、アール・デコ

日本語の文法【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 堀尾 香代子 / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

平安時代に成立した『源氏物語』を言語資料とし、ことばと文化の関わりを理解することを目的とします。毎回、具体的な〈一つのことば〉〈一つの文法現象〉を取り上げ、ことばや言語現象とそれを支える古代人の思考の論理(物の捉え方や認識方法など)との関わり、それを育んだ文化的背景や時代的背景との関わりについて考えます。また、史的観点を取り入れつつ、現代語との差異や共通性についても学びます。

* * * 文法規則の暗記や現代語訳を行う講義ではありません。ことばの背後にある文化を考えるよう努めてください。* * *

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

小学館『源氏物語』日本古典文学全集○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【導入】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 『源氏物語』概説 ことばと文化の関わり
- 第3回 日本語史上における中古 通時論と共時論

【藤壺物語を読む】

- 第4回 「あさまし」という認識 形容詞の種々相
- 第5回 古代日本語の文の構造と古代人の思考方法
- 第6回 「宿世」という思想 格をめぐって
- 第7回 「あはれ」という認知 助詞ゼロについて

【明石物語を読む】

- 第8回 「身の程」という意識 ヴイオス
- 第9回 「今めく」と「唐めく」をめぐって テンス
- 第10回 「めざまし」とう概念 アスペクト

【紫の上を読む】

- 第11回 幼さの諸相 係り結びという文法現象
- 第12回 絵と雛の背景 「とりたて」という文法概念
- 第13回 「人笑へ」への畏怖
- 第14回 条件表現の変遷
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...70% 日常の授業への取り組み...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

文法規則の暗記や現代語訳を行うのではなく、ことばの背後にある文化を考えるよう努めてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語音声学I【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 矢野 準 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- ① 学習の理解を助けるために、適宜、音声教材も取り入れながら、日本語教育にも役立つような形で日本語の音声学や音韻論の基本を講ずる。
- ② 共時的観点から、日本語の音(共通語の音)について、母音及び子音の発声に関する分析確認を中心に、学習してもらう。
- ③ 日本語教育能力検定試験に合格するための基礎となる知識の一部を身につけることができる。

教科書 /Textbooks

『日本語能力検定試験に合格するための音声23』(松崎寛・河野俊之著)アルク、ISBN978-4-7574-1832-5 ¥2,200を使用し、適宜、プリントを配付する。なお、該書は用語解説書としても使用。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 『音声学』(服部四郎著)岩波書店1984刊。
- その他は、講義時間中に、配付プリントなどで、必要に応じて提示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 あらまし
- 2回 音韻と音声1【ラング】【パロール】【音素】【単音】
- 3回 音韻と音声2【特殊拍】【最小対】【異音】
- 4回 調音音声学的分析1【母音】
- 5回 調音音声学的分析2【子音】
- 6回 調音音声学的分析3【調音点】
- 7回 調音音声学的分析4【調音法】【音声字母表】
- 8回 日本語の音1【破裂音】
- 9回 日本語の音2【摩擦音】
- 10回 日本語の音3【破擦音】
- 11回 日本語の音4【鼻音】【鼻濁音】
- 12回 日本語の音5【口蓋化】【無声化】
- 13回 日本語の音6【同化】【異化】
- 14回 日本語の音7【五十音図と音】
- 15回 まとめ

(【 】はキーワード)

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...75% 日常の授業への取り組み...25%
(5回以上欠席した者は、学期末試験を受けることができない。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

科目の性格上、声を出して確認してもらいたい場合もあるので、積極的な参加を期待します。

キーワード /Keywords

日本語の音 母音 子音 五十音図

日本語音声学Ⅱ【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 矢野 準 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- ① 学習の理解を助けるために、適宜、音声教材も取り入れながら、日本語教育にも役立つような形で日本語の音声学や音韻論の基本を講ずる。
- ② 共時的観点から、日本語のアクセント(共通語のアクセント)について、聴き取りを含め、その有り様を学習してもらう。また、通時的観点から音韻やアクセントの歴史についても、学習してもらう。
- ③ 日本語教育能力検定試験に合格するための基礎となる知識の一部を身につけることができる。

教科書 /Textbooks

主たるテキストではないが『日本語能力検定試験に合格するための音声23』(松崎寛・河野俊之著)アルク、ISBN978-4-7574-1832-5 ¥2,200を使用し、適宜、プリントを配付する。歴史的な事項については、配付プリントを主として講ずる。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

講義時間中に、配付プリントなどで、必要に応じて提示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 あらまし
- 2回 アクセント1【ストレスアクセント】【ピッチアクセント】
- 3回 アクセント2【共通語のアクセント体系】
- 4回 アクセント3【方言のアクセント】
- 5回 アクセント4【複合語のアクセント】
- 6回 アクセント5【アクセントの機能】
- 7回 イントネーション
- 8回 音韻史1【上代特殊仮名遣い】
- 9回 音韻史2【音価】
- 10回 音韻史3【八行転呼現象】
- 11回 音韻史4【才段長音の開合】
- 12回 音韻史5【四つ仮名】
- 13回 アクセント史1【中世】
- 14回 アクセント史2【近世語】
- 15回 まとめ

(【 】はキーワード)

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験... 75% 日常の授業への取り組み... 25%
(5回以上欠席した者は、学期末試験を受けることができない。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「日本語音声学Ⅱ」を受講しておくこと、「本講義のねらい」の達成度がより高くなる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

アクセントの聴き取りには、人により得手不得手があるので、不得手な人はテキストに添付されている音声CDを利用して聴き取り練習をねばり強く行って欲しい。

キーワード /Keywords

共通語のアクセント体系 方言のアクセント アクセントの機能

漢文学 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 榎崎 洋一郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /2nd Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1st Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2nd Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

『論語』という、東アジア共通の古典を読み解くことによって、古代中国の文化や思想に対する理解を深める。さらには日本におけるその受容や解釈を辿ることで、自国の文化・思想の発展や、それに対する「外来文化」の影響に関しても、知見をもつようにする。また、漢文訓読の基本や、特に難解な句法などについて、よく理解できるように説明していく。

教科書 /Textbooks

金谷治『論語』（岩波文庫、岩波書店、1999年11月）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

金谷治『孔子』（講談社、講談社学術文庫、1999年8月）○
金谷治『論語の世界』（日本放送出版協会、NHKブックス、1994年2月）○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに【孔子】【論語】
- 2回 孔子とその時代【孔子】【春秋戦国時代】【史記・孔子世家】
- 3回 『論語』を読む①【孝】【仁】【忠信】
- 4回 『論語』を読む②【礼】【六芸】
- 5回 『論語』を読む③【孔子の活動】
- 6回 孔子の後継者たち【孟子】【荀子】
- 7回 孔子の批判者たち【墨子】【老子】【莊子】【韓非】
- 8回 『論語』というテキスト【論語集解】【論語注疏】【朱子】【四書】
- 9回 孔子思想の展開と変容【注疏の学】【朱子学】【陽明学】
- 10回 日本人と『論語』①【王仁】【博士家の学】【朱子学】
- 11回 日本人と『論語』②【陽明学】【伊藤仁斎】【荻生徂徠】
- 12回 日本人と『論語』③【明治～平成】
- 13回 『論語』への批判【反封建主義】【近代主義】【社会主義】
- 14回 現代と『論語』
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(授業中のレポートなど) ... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストや参考図書、授業で配布するレジユメなどに、よく目を通しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

論語 孔子 儒教 四書五経

日本の近代思想【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 内山 一幸 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、近代国家形成期における日本の政治家や知識人の立憲政治理解のあり方を、現実の明治立憲制の構築とそれをめぐる政治的対立の中から探る。さらにその立憲政治の理解のあり方が、明治立憲制の実際の構造・運用・機能などにどのような影響を与えたかを考えていく。そのような作業を通じて思想史的方法や日本の近代化の意味について学ぶこととする。

教科書 /Textbooks

使用しない。毎回資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

鳥海靖『日本近代史講義』(東京大学出版会、1988年)
○江村栄一校注『憲法構想』(岩波書店、1989年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「日本の近代思想」について
- 第2回 明治立憲制の理解と評価
- 第3回 幕末における立憲政治論
- 第4回 明治初年の立憲政治の理念と構想
- 第5回 民撰議院設立の建白と民撰議院論争
- 第6回 国会開設運動
- 第7回 藩閥政府内の憲法意見
- 第8回 明治十四年の政変
- 第9回 自由党と立憲改進黨
- 第10回 私擬憲法における立憲政体構想
- 第11回 伊藤博文の憲法調査
- 第12回 宮中改革と華族制度・内閣制度の確立
- 第13回 明治憲法における君権主義と立憲主義
- 第14回 明治立憲制の運用をめぐって
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

立憲制、大日本帝国憲法

イギリス文学概論【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

今日、文学というどうしてもかたいイメージを持ってしまふ人が多いかもしれませんが、「おもしろくなければ文学じゃない」というイギリスの作家W.S.モームの言葉にもあるように、本来、人間の様々な生き様を描いた小説や詩がおもしろくないはずはないのです。敬遠されるようになったのは、ひとつには、読書感想文を書くための読書であったり、画一的な解釈を強要される読書であったり、昨今の「読書」を取り巻く環境が変化してきたためであり、それが私たちから読書の本来の楽しさを奪ってしまっているのです。人間同士のかかわり、絆が希薄になりつつあるといわれる今、多くのすぐれた文学作品に触れることは、今一度、人間に対する、他者に対する関心を呼び起こしてくれることでしょう。

イギリス文学の歴史はそれなりに長く、詩から劇、そして小説へと発展してきたわけですが、本講義では、その始まりから説き起こし、今日に至るまでの流れを追いつつ、さらに具体的に作品の抜粋を読みつつ、それらを生み出した時代背景、文化背景との関わりを探っていきます。

伝統あるイギリス文学の作品を様々な文化事項と絡めながら見ていき、そのおもしろさを共に味わえればと思います。また同時に、作品との関連で、人間に関する様々なテーマ(生、死、愛、宗教、想像力・・・)についても問題提起をします。一緒に考えていきましょう!!

教科書 /Textbooks

An Outline of English Literature by G.C.Thornley and Gwyneth Roberts (Longman)
(テキストは、速読ができるほどの、非常に易しい英語で書かれています。)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入(文学の勤め、文学のおもしろさ、イギリスについて、評価方法などの説明)
- 2回 『ベオウルフ』(古英語) 想像力と文学、頭韻など
- 3回 『キャンタベリー物語』by チョーサー (中英語) 脚韻など
- 4回 『エヴリマン』(中英語) 死と人間
- 5回 『失楽園』by ミルトン 宗教の影響
- 6回 シェイクスピアの4大悲劇(『ハムレット』、『リア王』)
- 7回 シェイクスピアの4大悲劇(『マクベス』、『オセロ』)
- 8回 散文、日記文学(自意識の芽生え)
- 9回 『ロビンソン・クルーソー』(デフォー、勃興期の小説)
- 10回 『ガリヴァー旅行記』by スウィフト (風刺文学)
- 11回 『パメラ』by リチャードソン、『シャメラ』by フィールディング(パロディ)
- 12回 『高慢と偏見』by オースティン、『テス』by ハーディ
- 13回 ロレンス、オプライエン(問題小説)、ドラブル、イシグロ(伝統回帰)
- 14回 『不思議の国のアリス』by キャロル(児童文学、ファンタジー)
- 15回 まとめ(イギリス文学の流れ: 「詩」→「劇」→「小説」、宗教との関連)

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 or レポート(受講者数により決定します)・・・90%
平常点(課題、授業への参加度など)・・・10% (出席重視)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で配布する資料は、よく目を通してください。また、本講義で扱う作品に限らず、様々な文学作品をたくさん読んでください。

イギリス文学概論【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

イギリス文学の中でも現代に近い作品に関心を持っている人は「イギリスの現代文学」の受講をおすすめします。

キーワード /Keywords

「詩」「劇」「小説」「伝統」「文学のおもしろさ」「想像力」「風刺」「パロディ」「児童文学」「ファンタジー」

アメリカの大衆文化【昼】

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

誰しもがなじみの深いハリウッド映画を題材として取りあげ、映画にアメリカ人の精神性や、美意識、価値観がいかなる形で投映されているかを考察する。その過程を通して、映画とアメリカ文化との関連性に対する理解を深める。アメリカ文化の特性を、映画を通して可能な限り具体的に把握できるよう工夫したい。この作業を通してアメリカ人の価値観や美意識の特殊性への理解を深めたい。また、ハリウッド映画を文化的な文脈の中で分析的に鑑賞する視点を、授業を通して体得してもらうことができたら幸いである。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない。必要に応じて資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『映画で学ぶアメリカ文化』、スクリーンプレイ出版 (映画とアメリカ文化の関連性を様々な視点から)
- 『映画で楽しむアメリカ文学』、金星堂、(アメリカ文学と映画の比較の視点から)
- 『映画で楽しむアメリカの歴史』、金星堂 (映画とアメリカ史の関連性を様々な視点から)
- 『サーカスが来た!』、亀井俊介先生、岩波書店、(指定図書コーナー)(サーカス、オペラハウス、ターザン、ハリウッド)
- 『アメリカンヒーローの系譜』、亀井俊介先生、研究社、クリーム色、(ランボー、ロッキー)
- 『アメリカの大衆文化』、明石書店、清水知久 (映画、音楽、スポーツ、広告)
- 『アメリカの大衆文化』、研究社、亀井俊介、(テレビ、漫画、音楽、映画など)
- 『アメリカが見えてくる』、サイマル出版会、越智道雄 (アメリカ社会の諸現象と映画の関連性)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方、参考文献の説明
- 2回 『ビッグ』をビデオで鑑賞
- 3回 『ビッグ』の子供描写の特徴
- 4回 アメリカ映画の子供の描き方の概観
- 5回 アメリカ映画の子供の描き方の特徴と、アメリカ史の関係
- 6回 『フェイス/オフ』、『ターミネーター2、3』、『マスク』の中の変身描写の特徴
- 7回 アメリカ映画に登場する変装描写の特徴
- 8回 アメリカ映画の変身・変装へのこだわりと、アメリカ文化との関係
- 9回 『ブラダを着た悪魔』に読み取れる金銭感覚の特徴
- 10回 『フォレスト・ガンブ』、『バック・トゥ・ザ・フューチャー』に読み取れる金銭感覚
- 11回 映画に読み取れる金銭感覚と、アメリカ文化との関係
- 12回 『スタンド・バイ・ミー』、『SW:シスの復讐』の銃の描写の特徴
- 13回 映画の銃の描き方と、アメリカ史との関係
- 14回 補足説明
- 15回 まとめ(絶対に欠席しないこと)

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%
試験は、配布プリント、自筆ノート持ち込み可(コピーは不可)で行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義で取り上げる映画は前もって伝えますので、出来るだけ見ておいてください。
講義時には、編集された断片のみを見ることになります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカの歴史と文化【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

私達、誰しもがなじみの深いハリウッド映画を題材として取りあげ、アメリカの史実や文化が、いかなる形で映画に投映されているかを考察する。その過程を通して、映画とアメリカの歴史、文化との相互関連性に対する理解を深める。アメリカの歴史と文化のイメージを、映画を通して可能な限り具体的に把握できるよう工夫したい。アメリカの歴史・文化の特殊性、独自性への理解も深めることができればと思っている。具体的には、編集したハリウッド映画の断片をビデオで見ながら、映画の全体的構造を背後で支配しているアメリカ的価値観、美意識を考察する。さらに、それらの美意識と過去のアメリカの歴史との関係について考察していきたい。

教科書 /Textbooks

テキストは用いない。必要に応じて、レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講座・アメリカの文化(全6巻、別巻2) 南雲堂
総合研究アメリカ(全7巻) 研究社
文明としてのアメリカ(全5巻) 日本経済新聞社
アメリカ古典文庫(全23巻) 研究社
アメリカンヒーローの系譜 亀井俊介 研究社
荒野のアメリカ 亀井俊介 南雲堂
サーカスが来た 亀井俊介 東京大学出版会
読んで旅する世界の歴史と文化 アメリカ 新潮社
物語 アメリカの歴史 猿谷要 中公新書
資料が語るアメリカ 木下尚一 有斐閣
アメリカとは何か 斎藤真 平凡社
エスニックアメリカ 明石紀雄 有斐閣選書
新書アメリカ合衆国史 大陸国家の夢 講談社現代新書
アメリカの20世(上・下) 有賀夏紀 中公新書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方、参考文献の説明
- 2回 Forrest Gump、Daylightとアメリカ人にとってのキリスト教
- 3回 Titanicとアメリカ人にとってのキリスト教
- 4回 Green Mileとキリスト教の関係の分析
- 5回 Monster's Incとアメリカの多様性の関係
- 6回 Star Warsとアメリカの多様性の関係
- 7回 The Lord of the Ringsとアメリカの多様性の関係
- 8回 Independence Dayとアメリカのほら話
- 9回 Star Wars EpIIIとアメリカのほら話
- 10回 Devil Wears Pradaとアメリカ人の個人観
- 11回 Titanicとアメリカ人の個人観
- 12回 A.Iとアメリカ人の機械観
- 13回 Terminator IIとアメリカ人の機械観
- 14回 Terminator IIIとアメリカ人の機械観
- 15回 まとめ(絶対に欠席しないこと。)

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%
試験は、配布プリント、自筆ノート(コピーノートは不可)持ち込み可で行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義で取り上げる映画は前もって伝えますので、出来るだけ見ておいてください。
講義時には、編集された映画の断片のみを見ることになります。

アメリカの歴史と文化【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカの生活文化 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、20世紀前半を中心としたアメリカの近代建築と、それらが建ち並ぶ都市の歴史を学び、現代合衆国都市の文化や人びとのくらしの源流を探ることにある。本講義では、福田は、合衆国の1900年以降に建設されたモダニズム建築を取り上げ、映像や写真を中心に、デザインの裏側にあるアメリカの文化、建築家の思考、建築デザインが生み出される社会的な背景などを解説する。寺田は、19世紀末から20世紀前半の合衆国社会の変容と都市における居住空間の形成、およびそれに伴い発生する問題について解説する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Twentieth-Century American Architecture: The Buildings and Their Makers (W. W. Norton & Company, 2000) ; 竹田有『アメリカ労働民衆の世界』(ミネルヴァ書房、2010年) ; リチャード・プランツ『ニューヨーク 都市居住の社会史』(鹿島出版会、2005年)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 . はじめに(福田 / 寺田)
- 2 . アメリカ近代建築の潮流(福田)
- 3 . シカゴ超高層建築(福田)
- 4 . ニューヨークの近代建築(福田)
- 5 . カリフォルニアの建築(福田)
- 6 . アメリカの巨匠建築家1(福田)
- 7 . アメリカの巨匠建築家2(福田)
- 8 . 大都市の誕生(寺田)
- 9 . エスニック・コミュニティの形成(寺田)
- 10 . エスニック・コミュニティにおける人びとのくらし(寺田)
- 11 . 移民と黒人のコミュニティ形成(寺田)
- 12 . 都市における対立と隔離の発生(寺田)
- 13 . 都市郊外の人びとのくらし(寺田)
- 14 . 学生レポート講評(福田)
- 15 . おわりに(寺田)

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、レポート(福田)50%、試験(寺田)50%で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業中に紹介する参考文献等を積極的に読むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

イギリスの18-19世紀文学【昼】

担当者名 /Instructor 杉本 美穂 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

古典といわれる作品が、現在もお読み継がれ、映画化されて脚光を浴びている。それらの作品には、時代を超えて高く評価される価値があるのみならず、今を生きる私たちだからこそできる「新しい読み」が開かれているからである。
 本講義では、イギリスの18-19世紀文学のなかから、受講生にも比較的になじみのある作家の作品を毎回1冊とりあげて解説する。作品への理解を深めるために、作家の人となり、作品成立時の時代背景や文化的背景、主題の分析、文学理論を応用する可能性など、多角的な視点を提供したい。

教科書 /Textbooks

『イギリス文学概観』 相島倫嘉 編著 (南雲堂、¥1200)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○『イギリス文学ガイド』日本イギリス文学・文化研究所編 (荒地出版、¥2800)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	イントロダクション・イギリスという国	1章
第2回	ダニエル・デフォー 『ロビンソン・クルーソー』	
第3回	サムユエル・リチャードソン 『パメラ』	15章
第4回	ジェイン・オースティン 『高慢と偏見』	16章
第5回	ウィリアム・ワーズワス 『叙情歌謡集』	18章
第6回	G・G・ロード・バイロン 『ドン・ジュアン』	20章
第7回	ロバート・ブラウニング 『ピッパが通る』	25章
第8回	チャールズ・ディケンズ 『オリヴァー・トゥイスト』	26章
第9回	シャーロット・ブロンテ 『ジェイン・エア』	
第10回	エミリー・ブロンテ 『嵐が丘』	27章
第11回	トマス・ハーディ 『ダーバーヴィル家のテス』	28章
第12回	ルイス・キャロル 『不思議の国のアリス』	
第13回	オスカー・ワイルド 『サロメ』	29章
第14回	ジェイムズ・ジョイス 『ユリシーズ』	34章
第15回	まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度...20% 小テストと提出物...20% 定期試験の成績...60%、で総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

* 毎回、配布する資料とテキストを読んでくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

イギリスの18-19世紀文学では、小説の勃興期とその形式・内容が成熟する過程を中心にすえて授業を進める。同時に、ロマン派とその後のイギリス文学との関わりを考察し、入門者にも分かりやすくイギリス文学史を概説したい。英国の小説と詩を味わいながら、お気に入りの一冊を見つけてもらいたい。

キーワード /Keywords

近代小説、ロマン派、ポスト・コロニアリズム、ブルームズベリ・グループ、意識の流れ

イギリスの大衆文化 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 石井有希子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、サッチャー政権以降のイギリスを、映画を中心に読み解きます。映像の細かい分析に止まらず、そこに何が映っていないのか - 不在から何を読み取れるのか - も問題とします。不在を読み抜くためには、過去のイギリス、すなわち、イギリスの「歴史」をたどる必要もあります。現代のイギリスを映し出す映像分析を通して、イギリスを重層的に見る目を養うことを目指します。

具体的には、映画(『ベッカムに恋して』『The Queen』『This is England』)を題材とし、【階級、ジェンダー、セクシュアリティ、エスニシティ、グローバリズム、帝国主義、宗教、王室、サッチャリズム、ブレア政権、ナショナルフロント、バンク、レゲエ】等、様々なキーワードを切り口に、「イギリス」を歴史的、多面的、重層的に分析します。新聞、雑誌、ネット記事、図書、論文等の資料も補助的に参照します。

教科書 /Textbooks

プリント資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜指示します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 映画『ベッカムに恋して』(その1)
- 3回 映画『ベッカムに恋して』(その2)
- 4回 映画『ベッカムに恋して』(その3)
- 5回 映画『ベッカムに恋して』(その4)
【ジェンダー、セクシュアリティ、ホモソーシャルボンド、エスニシティ、サッカー&クリケット、階級、シク教徒、パキスタン、大英帝国、帝国主義、グローバリズム】
- 6回 映画『The Queen』(その1)
- 7回 映画『The Queen』(その2)
- 8回 映画『The Queen』(その3)
- 9回 映画『The Queen』(その4)
【ブレア政権、ホモセクシュアル関連の政治、国旗、王室、マスメディア、ダイアナ妃、映画、帝国主義、ヴィクトリア朝】
- 10回 映画『This is England』
- 11回 映画『This is England』
- 12回 映画『This is England』
- 13回 映画『This is England』
- 14回 映画『This is England』
【サッチャリズム、フォークランド紛争、イングランド、スキンヘッズ、バンク、ジャマイカ、レゲエ、ナショナルフロント、移民政策、歴史教科書、住宅政策、労働者】
- 15回 まとめ
(尚、取り扱う映画作品や順番については変更の可能性あり)

成績評価の方法 /Assessment Method

小レポート及び授業参加度30%、定期試験70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

イギリスの大衆文化 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

授業内に映画を見るので、遅刻厳禁です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

参加者の積極的な発言を期待します。

キーワード /Keywords

大英帝国、帝国主義、グローバリズム、エスニシティ、サッチャリズム、フォークランド紛争、イングランド、スキンヘッド、パンク、ジャマイカ、レゲエ、ナショナルフロント、移民政策、歴史教科書、住宅政策、労働者、ベッカム、サッカー&クリケット、シク教徒、パキスタン、ジェンダー、セクシュアリティ、ブレア政権、ホモセクシュアル関連の政治、国旗、王室、ヴィクトリア朝、マスメディア、ダイアナ妃、映画

イギリスの歴史と文化【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 高本 孝子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

イギリスの歴史を通時的にたどりながら、各々の時代に深い関連のある文化事象をそのつど取り上げ、解説する。DVDなども教材として用い、興味を持てる授業になるよう心がける。

教科書 /Textbooks

『図説 イギリスの歴史』指昭博著(河出書房新社)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第1章 「諸民族の興亡」
- 2回 英語の成立
- 3回 第2章 「大陸国家から島国へ」
- 4回 第3章 「王朝の対立」
- 5回 第4章 「テューダー朝の時代」
- 6回 キリスト教とイギリス国教会
- 7回 エリザベス女王とルネサンス
- 8回 第5章 「ステュアート朝の時代」
- 9回 第6章 「ハノーヴァ朝の時代」
- 10回 紅茶の歴史
- 11回 産業革命
- 12回 第7章 「改革の時代」
- 13回 第8章 「大英帝国の繁栄と衰退」
- 14回 第9章 「20世紀のイギリス」
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験(持ち込み不可。主として記号選択問題)100%。平素の授業態度により多少の増減あり。
期末試験の成績が60,70,80,90に不足している場合、その幅が5点以内であれば、レポート(課題は自由)を提出した者に限り、60,70,80,90点に引き上げる。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回の授業の前にテキストの該当箇所を通読しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

イギリスの歴史と社会【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 久木 尚志 / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

イギリスを中心に、アメリカ等も含む英語圏の文化を幅広く検討する。

教科書 /Textbooks

各回でレジュメ等を配布し、スライド・映像を適宜用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 英米文化への接近方法【英米文化】【コミュニケーション】
- 第3回 イギリスには建国記念日がない【アングロ・サクソン】【ノルマン征服】
- 第4回 イギリスの国王は(意外と)権力が強い【立憲君主政】【マグナ・カルタ】
- 第5回 20世紀まで英語は国際言語ではなかった【英語】【百年戦争】
- 第6回 イギリス国旗には緑がない【国旗】【ウェールズ】
- 第7回 スコットランド人は「秘密の多い世界」を好むといわれる【伝統の創造】【帝国】
- 第8回 イギリス国歌には歌われない歌詞がある【国歌】【名誉革命体制】
- 第9回 イギリスでは厳格な政教分離がなされていない【政教分離】【国教会】
- 第10回 アイルランドは「ケルト」ではない(1)【アイルランド】【カソリック】
- 第11回 アイルランドは「ケルト」ではない(2)【アイルランド】【北アイルランド問題】
- 第12回 ホワイトハウスが白いのはイギリスのせいでもある【アメリカ独立】【自由】
- 第13回 イギリスの覇権は奴隷貿易がもたらした【奴隷貿易】【産業革命】
- 第14回 イギリスの家族関係は危機にある【王室】【フーリガン】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験(小テスト含む)...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを、授業の事前事後に学習し、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

イギリス文化論【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

映画や文学、新聞を中心にイギリスの文化を読み解く。階級、ジェンダー、セクシュアリティ、エスニシティ、宗教、王室等をキーワードとして、歴史的な視点、現代的な視点の両方から考えてみたい。

This course will assess and analyse British Culture through a focus on film, literature and journalistic text. Both historical and modern perspectives will be maintained and embraced throughout this investigation into the key themes of class, gender, sexuality, ethnicity, religion and sovereignty.

教科書 /Textbooks

Handouts will be provided at the beginning of each class.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Relevant material for further study will be introduced during each class.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Class 1: Gender and Sexuality on the Shakespearean Stage
- Class 2: Gender and Sexuality in Modern Britain: Self and Society in Billy Eliot
- Class 3: Gender, Sexuality and Identity throughout British History
- Class 4: Religion in Tudor England: The Legacy of Henry VIII
- Class 5: Religion in Tudor England: The Philosophy of Elizabeth I
- Class 6: Religion and Identity throughout British History
- Class 7: Social Class in Shakespearean London
- Class 8: Social Class in Victorian London
- Class 9: Social Class in Film and Rock in Modern Britain: Billy's Ballet and Pulp's Plea
- Class 10: Ethnicity and Shakespeare
- Class 11: Ethnicity and War
- Class 12: Ethnicity in Modern Britain: Bend It Like Beckham
- Class 13: The Royal Family and the British Press
- Class 14: Sovereigns On Stage and Film: Presenting the Royals
- Class 15: Review and Discussion

成績評価の方法 /Assessment Method

- Homework assignment 1 - 50% (Short Essay)
- Homework assignment 2 - 50% (Short Essay)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

None specified

履修上の注意 /Remarks

Please note that this course will be conducted in English.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

西洋美術史【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 貞包 博幸 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

19～20世紀初頭の西洋美術に焦点をあてる。とりわけ産業革命後の近代市民社会の形成や機械文明の発達が生じた芸術活動にどう影響したか、近代美術とはそもそもどのようなものであり、どのようにして形成されたかを見る。そのために絵画・彫刻に留まらず、建築・工芸・産業製品についても映像を多用し、理論的かつ視覚的な理解に努める。目標とするところは造形表現が時代の変化といかに密接に関わり、社会の状況を反映したものであるかを知ることにある。

教科書 /Textbooks

安部公正他著『世界デザイン史』美術出版社、2600円。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

千足伸行他『新西洋美術史』西村書店 ニコラス・ペブスナー『モダンデザインの展開』みすず書房
貞包博幸訳『キュービズム』および『バウハウスの実験住宅』中央公論美術出版 他。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

1回	近代市民社会の発展と美術	産業革命、フランス革命、【大衆社会】
2回	美術における二つの価値体系	理想主義的価値観、実利的価値観
3回	19世紀の美学思想	「用」なるもの、「美」なるもの
4回	アカデミズムの芸術思潮	アカデミー、【歴史主義】、芸術至上主義
5～6回	機械文明と新しい造形	万国博覧会、鉄道の発達、【機械化】
7回	印象主義の誕生	マネの絵画、モネの絵画
8回	アーツ・アンド・クラフト運動	ウィリアム・モリス、手工芸、【芸術の大衆化】
9～10回	アール・ヌーボーの芸術運動	【曲線様式】、鉄の愛用
11回	キュービズムの絵画とその意味	ピカソ、【視点の移動】、時間の導入
12～13回	ドイツ工作連盟の活動	ドレスデン手工芸工房、【規格化】、【品質】
14回	バウハウスとモダニズム	【芸術と技術の統一】
15回	まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ...10 % 課題(レポート提出) ...20 % 期末テスト ...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業では、各回資料を配付するので十分に読み理解に努めること。

履修上の注意 /Remarks

美術展を多く観賞し、美術に親しむこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義開始時間を守ること。

キーワード /Keywords

アカデミズム 近代芸術 用と美 規格化 モダニズム

西洋美術史【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 貞包 博幸 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

19～20世紀初頭の西洋美術に焦点をあてる。とりわけ産業革命後の近代市民社会の形成や機械文明の発達が発達が芸術活動にどう影響したか、近代美術とはそもそもどのようなものであり、どのようにして形成されたかを見る。そのために絵画・彫刻に留まらず、建築・工芸・産業製品についても映像を多用し、理論的かつ視覚的な理解に努める。目標とするところは造形表現が時代の変化といかに密接に関わり、社会の状況を反映したものであるかを知ることにある。

教科書 /Textbooks

安部公正他著『世界デザイン史』美術出版社、2600円。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

千足伸行他『新西洋美術史』西村書店 ニコラス・ペブスナー『モダンデザインの展開』みすず書房
貞包博幸訳『キュービズム』および『バウハウスの実験住宅』中央公論美術出版 他。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

1回	近代市民社会の発展と美術	産業革命、フランス革命、【大衆社会】
2回	美術における二つの価値体系	理想主義的価値観、実利的価値観
3回	19世紀の美学思想	「用」なるもの、「美」なるもの
4回	アカデミズムの芸術思潮	アカデミー、【歴史主義】、芸術至上主義
5～6回	機械文明と新しい造形	万国博覧会、鉄道の発達、【機械化】
7回	印象主義の誕生	マネの絵画、モネの絵画
8回	アーツ・アンド・クラフト運動	ウィリアム・モリス、手工芸、【芸術の大衆化】
9～10回	アール・ヌーボーの芸術運動	【曲線様式】、鉄の愛用
11回	キュービズムの絵画とその意味	ピカソ、【視点の移動】、時間の導入
12～13回	ドイツ工作連盟の活動	ドレスデン手工芸工房、【規格化】、【品質】
14回	バウハウスとモダニズム	【芸術と技術の統一】
15回	まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ...10 % 課題(レポート提出) ...20 % 期末テスト ...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業では、各回資料を配付するので十分に読み理解に努めること。

履修上の注意 /Remarks

美術展を多く観賞し、美術に親しむこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義開始時間を守ること。

キーワード /Keywords

アカデミズム 近代芸術 用と美 規格化 モダニズム

フランス文学 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 福島 勲 / FUKUSHIMA ISAO / 比較文化学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代フランス文学を代表する作家マルグリット・デュラス(1914~1996)は、自分の少女時代をあくことなく、何度も語り直す。この講義では、語り直された三つの自伝的物語、『太平洋の防波堤』(1950年、36歳)、『愛人(ラマン)』(1984年、70歳)、『北の愛人』(1991年、77歳)の読解と比較を通して、語り直しによって何が変わったのか、もしくは、何が変わっていないのか、について考えてみたい。

教科書 /Textbooks

マルグリット・デュラス『太平洋の防波堤』田中倫郎訳、河出書房新社、2008年。
マルグリット・デュラス『愛人(ラマン)』清水徹訳、河出書房新社、2008年(河出文庫、1992年)。
マルグリット・デュラス『北の愛人』清水徹訳、河出文庫、1996年。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

Laure Adler, MarguriteDuras, Gallimard, 1998.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回: イントロダクション
- 2回: 人と作品
- 3回: 『太平洋の防波堤』(1950)
- 4回: 『太平洋の防波堤』(1950)
- 5回: 『太平洋の防波堤』(1950)
- 6回: 『愛人(ラマン)』(1984)
- 7回: 『愛人(ラマン)』(1984)
- 8回: 『愛人(ラマン)』(1984)
- 9回: 『愛人(ラマン)』(1984)
- 10回: 『北の愛人』(1991)
- 11回: 『北の愛人』(1991)
- 12回: 『北の愛人』(1991)
- 13回: 『北の愛人』(1991)
- 14回: ジャン=ジャック・アノー『愛人-ラマン-』(1992年)
- 15回: まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点50%期末レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業は邦訳を用いる。三つの作品を一通り読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

性愛などのきわどい表現も出てくるので、受講者はそのつもりでいるように。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

現代フランス文学が残したエクリチュールの謎に迫ってみましょう。

キーワード /Keywords

自伝 記憶 ポストコロニアリズム 思春期 エクリチュール

ドイツ文化論 【昼】

担当者名 岩本 真理子 / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ドイツという国は、およそ200年前までは300以上の小邦の集合体だった。そのことが現在のドイツの政治・社会のあり方にも、文化の特性にも、多大な影響を及ぼしている。この講義では、歴史の途中でドイツから分離していったオーストリアも含め、ドイツ語圏の四つの都市をテーマとして選び、その地域の歴史とそこに花開いた文化の関係をしながら、ドイツ語圏文化の多様性を考える。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○坂井榮八郎『ヒストリカル・ガイド ドイツ・オーストリア』山川出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ドイツ語圏の国々と統一・分裂の歴史
- 2回 アーヘン①昔はヨーロッパの中心?
- 3回 アーヘン②大聖堂に見るアーヘンの歴史
- 4回 アーヘン③現在のアーヘン
- 5回 ベルリン①辺境の町から首都へ
- 6回 ベルリン②最盛期のベルリン
- 7回 ベルリン③激動の時代・「世界首都ゲルマニア」
- 8回 ベルリン④「ベルリンの壁」と現在のベルリン
- 9回 ボン①選帝侯の町
- 10回 ボン②首村と呼ばれた暫定首都
- 11回 ボン③「連邦都市」ボン
- 12回 ウィーン①東の辺境から帝国の首都へ
- 13回 ウィーン②ハプスブルク家の栄光
- 14回 ウィーン③併合・敗戦・現在へ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験の成績により評価する。ただし、出席状況が悪い場合は最高10%の減点とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペインの歴史と文化【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

イベリア半島のスペインは、地域的に多様性に富んだ国です。講義では中世イベリア半島におけるイスラーム勢力との遭遇、レコンキスタと諸地域の形成からスペイン王国確立にいたる歴史を概観したうえで、おもに近世・近代スペイン社会史の視点から人々の心性やソシアビリテ(人と人の結びつき)に焦点を絞って、スペインの社会と文化を扱います。今日の多言語・多文化スペインの理解につなげたいと思います。

教科書 /Textbooks

テキストは指定しません。プリントを配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ペナサール『スペイン人-16世紀~19世紀の行動と心性』(彩流社)
- 立石博高ほか編『スペインの歴史』(昭和堂)
- 立石博高『スペイン歴史散策』(行路社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入的な内容:ヨーロッパのなかのスペイン
- 2回 中世のイベリア半島-イスラーム優位の時代【アル・アンダルス】
- 3回 キリスト教諸王国の形成から半島の統一【レコンキスタ】
- 4回 スペイン王国成立:国家と社会【複合王政】【異端審問所】
- 5回 大航海時代のセビーリャ
- 6回 カトリック信仰の黄金時代【マンタリテ】
- 7回 祝祭と娯楽
- 8回 時間の持続性:カレンダーに見る人々の営為
- 9回 ブルボン朝スペインの国家と地域
- 10回 セビーリャの啓蒙のテルトゥリア【ソシアビリテ】
- 11回 近代はカディスから、カフェ文化の誕生
- 13回 カディス国民議会と独立戦争【1812年憲法】【自由主義革命】
- 14回 19世紀、近代スペイン
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...80% 小テスト...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

上にあげた参考文献のほか、授業で紹介する文献を読む。とくにどの学問もそうであるが、特殊な用語(キー・ワード)については、歴史学辞典、『スペイン・ポルトガルを知る事典』(平凡社)などで確認する。

履修上の注意 /Remarks

岡住ゼミを3年次に選択する学生は、必ず2年次あるいは3年次に受講しましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

近現代の南欧世界【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

南欧の国、地域的に多様なスペイン近現代の流れを押さえた上で、19世紀の自由主義革命の時代の国民化やスペイン・イメージの形成、次に、南スペインを代表するアンダルシアの社会論(人々が生きた社会空間と思考)、そして地域と国家の問題(地域ナショナリズム)を多角的に学び、最後に、現在の自治州国家体制の理解につなげたいと思います。歴史学は比較史ですから、スペインと同じラテン系のイタリアやフランスにも目配りしてスペイン史の理解を目指します。

教科書 /Textbooks

プリントを毎回配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 立石博高『スペイン歴史散策』行路社、2002年
- 立石博高ほか編『スペインの国家と地域』国際書院、2003年
- 関哲行ほか編『スペイン史2 近現代・地域からの視座』山川出版、2008年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 出来事-独立戦争からスペイン内戦までの歴史
- 2回 スペインの自由主義革命について【自由主義】
- 3回 マリアナ・ピネーダ「自由の殉教者」について
- 4回 旅行者たちが見た「スペイン」【ロマン主義】
- 5回 19世紀の国民形成について【国民化】
- 6回 「地域」の発見あるいは「ナショナルなもの」創造
- 7回 人々が生きた社会空間:アグロタウン論(その1)【共同体】
- 8回 アグロタウン論(その2)【都市的秩序】
- 9回 スペイン経済の不均衡発展:アンダルシアとカタルーニャ
- 10回 国家と地域のせめぎあい(カタルーニャ・バスク問題)【地域ナショナリズム】
- 11回 カタルーニャ・ナショナリズム
- 12回 アンダルシア地域主義
- 13回 20世紀70年代の民主化と地域ナショナリズム
- 14回 多言語・多文化の国、スペイン【自治州国家体制】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で紹介する参考文献を読むと理解が早いでしょう。授業で配布するレジユメを読み直し、学んだことを確認すること。

履修上の注意 /Remarks

3年次で岡住ゼミを希望する学生は、この授業を選択することが望ましいです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシアの歴史と社会【昼】

担当者名 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ソ連崩壊以降の国内社会問題、内政、近隣諸国との関係など現代ロシアも含めて、ロシアの歴史・社会・文化・生活習慣などについて理解を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

レジュメ配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

和田春樹編『ロシア史』山川出版社
藤沼貴著『ロシア その歴史と心』
以上のほか、授業で紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシアの自然・風土：ロシア基本データ、ロシアの領域特徴・自然特徴
- 2回 ロシアの歴史1：【キエフ・ルーシ】、【モンゴルの支配】、【モスクワ公国の発展】
- 3回 ロシアの歴史2：【動乱の時代】、【西欧化の波】、【ピョートル時代の近代化】
- 4回 ロシアの歴史3：【帝政ロシアの異民族支配体制】、【19世紀の改革と反動】、【ロシア革命】
- 5回 ロシアの歴史4：【ソ連国家建設から1970年代末までのソ連社会概観】
- 6回 ビデオ鑑賞：ソ連時代の人々の行動と価値観
- 7回 ロシア文化論①ロシア文化と地政学的条件、自然観と宗教
- 8回 ロシア文化論②生活文化、社会文化
- 9回 ゴルバチョフ登場からソ連崩壊まで①【ベレストロイカ】、【グラスノスチ】
- 10回 ゴルバチョフ登場からソ連崩壊まで②【ベレストロイカの行詰まり】、【ソ連崩壊】
- 11回 エリツイン時代のロシア：企業民営化、議会と大統領の対立、チェチェン侵攻
- 12回 プーチン時代のロシア：7連邦管区制度導入、言論統制、民営化企業見直し
- 13回 中央政府と民族共和国の関係：タタルスタン、ダゲスタンを例に
- 14回 ロシアの外交：【近い外国】、【遠い外国】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート ... 70 % 平常の学習状況 ... 30 %
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は単位取得資格を失います)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ロシア、ソ連の歴史は複雑です。授業で参考文献や資料を紹介しますので、しっかり授業準備をしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

北ユーラシアの民族と社会 【昼】

担当者名 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科
 /Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

民族を結び付けている言語・文化・宗教、アイデンティティなどについて考察する。
 事例研究では、ロシア・旧ソ連を重点的に扱い、多民族国家・社会における言語問題、民族対立、文化統合・国民統合などの問題について考察し、グローバル化社会における個人と帰属社会の関係について理解を深めることを狙いとする。

教科書 /Textbooks

レジュメ配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

蓮実重彦、山内昌之『いま、なぜ民族か』 東京大学出版会 1994年
 『スラブの民族』(講座スラブの世界 2) 山川出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 民族とは何か：【民族籍と国籍】、【民族アイデンティティ】
- 2回 民族社会と文化①文化の定義、人と文化、文化政策
- 3回 民族社会と文化②【クレオール】
- 4回 社会と宗教：世界の宗教意識調査、宗教の役割とは何か、宗教政策
- 5回 言語と社会①【母語とは】、人と言語、民族言語
- 6回 言語と社会② 近代化と言語政策・言語問題
- 7回 ボルガ・ウラル地域の民族社会①タタール人
- 8回 ボルガ・ウラル地域の民族社会②ウドムルト人
- 9回 北カフカスの諸民族、【ダゲスタンの諸民族】
- 10回 南カフカスの諸民族、アルメニア人、グルジア人、アゼリ人
- 11回 中央アジアの民族と社会：草原の民とオアシスの民、信仰と宗教、新たな国造り
- 13回 ウクライナの民族・地域問題：各地域が抱える問題、言語事情
- 14回 シベリア・極北の民族社会：自然と産業、開発の歴史、少数民族社会の消長
- 15回 旧ソ連の離散民：ロシアの朝鮮人、離散の歴史

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート70%、授業への取り組み状況30%
 (欠席・遅刻が三分の一以上の者は単位取得資格を失います)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で参考文献や資料を紹介しますので、授業準備をしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語学概論 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 北峯 裕士 / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語学に関する基礎知識の習得。

教科書 /Textbooks

『英語学概論 - 三大文法の流れと特徴 - 』朝日出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- K. Takami(1992)
- 『英語学へのファーストステップ』有村(他)英宝社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

文は単語の配列で構成されているが、単語と単語の関係は線の順序だけではなく、階層的關係が存在することを理解してもらう。

- 1回 ガイダンス
- 2回 言語学の諸分野
- 3回 歴史比較言語学によるインド=ヨーロッパ祖語の再構築及び英語史の概略説明
- 4回 英文法の歴史の概略説明(規範文法から記述文法への流れ)
- 5回 音声と音素
- 6回 語と形態素
- 7回 アメリカ構造主義による複数個の形態素から成り立つ語のIC分析
- 8回 伝統文法、アメリカ構造主義、生成文法における、それぞれの語の分類方法
- 9回 統語論その1(品詞の分類に基づいた伝統文法における統語構造の分析方法とアメリカ構造主義における統語構造のIC分析の欠点、利点)
- 10回 統語論その2(生成文法における統語構造の分析方法)
- 11回 意味論(オグデン、リチャーズの意味の三角形の概略説明等)
- 12回 認知言語学の概略説明
- 13回 S. Kuno等が提案している機能文法の概略説明(前置詞残留現象を例に取り)
- 14回 述語が持つ項構造(不定詞等に見られる発音されない意味上の主語を仮定する根拠の概略説明)
- 15回 まとめ

10回程度、講義の終わりに小テストを行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

試験40% 小テスト20% レポート40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

前もって、テキストを読んでくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語音声学【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 山内 ひさ子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年(英米優先)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

音声学・音韻論の基礎知識を学ぶとともに、実践的な訓練により、英語の正しい発音を習得する。英語の強勢、リズム、イントネーションについても学び、英語らしい音声について明らかにする。音声分析ソフトを用い、spectrographによる分析も試みる。

教科書 /Textbooks

佐藤 寧、佐藤 努 著『現代の英語音声学』金星堂、2400円(税別)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ、プリントを配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction 音声学・音韻論の定義、IPA (テキスト:第1章、第3章)
- 2回 発生のメカニズム、母音の種類(1) (テキスト:第2章、第4章)
- 3回 母音の種類(2)、二重母音 (テキスト:第4章)
- 4回 子音の種類(1)鼻音、閉鎖音 (テキスト:第5章)
- 5回 子音の種類(2)摩擦音 (テキスト:第5章)
- 6回 子音の種類(3)破擦音、側音、半母音(第5章)
- 7回 紛らわしい子音、紛らわしい母音
- 8回 音の強勢(テキスト:第7章)
- 9回 音の縮小、同時長音(テキスト:第8章、第9章)
- 10回 英語のリズム(テキスト:第6章)
- 11回 イントネーション(1)(テキスト:第10章)
- 12回 イントネーション(2)(テキスト:第10章)
- 13回 音響音声学(テキスト:第11章)
- 14回 音変化と規則性(テキスト:第13章、第15章)
- 15回 授業のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加、提出課題 40%
期末試験 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

カセットテープとUSBメモリを準備すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

IPA, articulation, vowel, consonant, stress, intonation, acoustic phonetics

英語音声学【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 山内 ひさ子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年(国・比優先)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

音声学・音韻論の基礎知識を学ぶとともに、実践的な訓練により、英語の正しい発音を習得する。英語の強勢、リズム、イントネーションについても学び、英語らしい音声について明らかにする。音声分析ソフトを用い、spectrographによる分析も試みる。

教科書 /Textbooks

佐藤 寧、佐藤 努 著『現代の英語音声学』金星堂、2400円(税別)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ、プリントを配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction 音声学・音韻論の定義、IPA (テキスト:第1章、第3章)
- 2回 発生のメカニズム、母音の種類(1) (テキスト:第2章、第4章)
- 3回 母音の種類(2)、二重母音 (テキスト:第4章)
- 4回 子音の種類(1)鼻音、閉鎖音 (テキスト:第5章)
- 5回 子音の種類(2)摩擦音 (テキスト:第5章)
- 6回 子音の種類(3)破擦音、側音、半母音(第5章)
- 7回 紛らわしい子音、紛らわしい母音
- 8回 音の強勢(テキスト:第7章)
- 9回 音の縮小、同時長音(テキスト:第8章、第9章)
- 10回 英語のリズム(テキスト:第6章)
- 11回 イントネーション(1)(テキスト:第10章)
- 12回 イントネーション(2)(テキスト:第10章)
- 13回 音響音声学(テキスト:第11章)
- 14回 音変化と規則性(テキスト:第13章、第15章)
- 15回 授業のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加、提出課題 40%
期末試験 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

カセットテープとUSBメモリを準備すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

IPA, articulation, vowel, consonant, stress, intonation, acoustic phonetics

英語史【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 松崎 徹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講座では、国際語としての地位を確立したといえる英語の、その誕生(5世紀)から近世(16世紀)に至るまでの歴史を概観する。特に、他のヨーロッパ諸言語と比べて現代英語の際立った特徴とされる(1)語彙の豊富さ(2)語尾変化の少なさ、の2点に焦点を当て、こうした特徴がフランス語を中心とした諸外国語の影響によるものが大きいことを、具体例を通して概観し、英語の発達史の歴史はいわば異質の言語・文化との交流の歴史であることを学んでいく。

教科書 /Textbooks

『ファンダメンタル英語史』(児馬修著) ひつじ書房 1500円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

「なし」

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 シラバス配布 & 英語史導入問題の解答と解説
- 2回 はしがき & はじめに【外面史】、【内面史】
- 3回 英語史の概観(1)【アングロサクソン人】
- 4回 英語史の概観(2)【ケルト人】
- 5回 印欧祖語(1)【ウイリアム・ジョーンズ】
- 6回 印欧祖語(2)【印欧語族】
- 7回 古英語の文献・特殊文字(1)【ルーン文字】、【ローマンアルファベット】
- 8回 古英語の文献・特殊文字(2)【古英語】
- 9回 海賊と英語(1)【ヴァイキング】
- 10回 海賊と英語(2)【借用語】
- 11回 海賊と英語(3)【地名】
- 12回 ノルマン人の征服と英語(1)【ノルマン人の征服】
- 13回 ノルマン人の征服と英語(2)【英語の危機】
- 14回 ノルマン人の征服と英語(3)【フランス語借用語】
- 15回 まとめ～英語史を学んで～

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況・・・20% 定期試験・・・80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎講義の冒頭に前回の講義内容に関する質問を受講生に口頭でおこなうので、講義開始時までに前回の講義内容を復習しておくこと。この口頭質問は重要なクラス活動と位置づけるので、平常点として成績評価の対象とする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アングロサクソン 古英語 借用語 フランス語

英文法I【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 廣田 恵美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

主に英語教育を目指す人を対象に、英語の仕組みそのものを平易な切り口で理解してもらうことを目的とする。

教科書 /Textbooks

『Rediscover Grammar』(David Crystal著 Longman)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『英文法ビフォー&アフター』(豊永 彰著 南雲堂 1,400円)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Types of sentences
- 3回 Clause types
- 4回 The verb element, The subject element
- 5回 The object element, The complement element
- 6回 The adverbial element
- 7回 Verb phrase structure
- 8回 Finite and nonfinite
- 9回 Auxilliary verbs
- 10回 The moods of the verb phrase
- 11回 Active and passive
- 12回 Verb tenses
- 13回 Verb aspects
- 14回 Modal meanings
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...80% 授業への取り組み(小テスト含む)...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

無届けの遅刻や欠席に対しては、厳しい態度で臨む所存です。

キーワード /Keywords

「使える英文法」文の仕組み 動詞 名詞

英文法II 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 廣田 恵美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「英文法の体系を習得することを目的に、文法的事象の分析や整理の仕方を具体的に学習する。英文法の習得には日本語文法との比較対象が有効であるとの前提に立ち、学習の一助とする。」

教科書 /Textbooks

『Rediscover Grammar』 David Crystal著 Longman
教材プリント

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『英文法ビフォー&アフター』(豊永 彰著)南雲堂 ¥1,400

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業方針と成績評価の仕方に関する説明。
- 2回 The Noun Phrase : Noun Phrase Structure: Nouns: Common and proper nouns
- 3回 The Noun Phrase : Count and noncount nouns: Variable vs invariable nouns
- 4回 The Noun Phrase : Gender: Case: Determiners: Modifications: Relative clauses
- 5回 Pronouns : Types of pronouns: Personal pronouns: Pronoun case: Pronoun gender
- 6回 Adjectives : The functions of the adjectives: Adjective comparisons
- 7回 Adverbs and adverbials : Adverbial positions: Adjuncts: Subjuncts: Disjuncts
- 8回 Prepositions : Simple and complex prepositions: Prepositional meanings
- 9回 Reducing and expanding sentences : Multiple sentences: Coordination: Subordination
- 10回 Reducing and expanding sentences : Comment clauses: Reporting speech
- 11回 The information structure of the sentence : Sentence information: Existential sentence
- 12回 Above the sentence : Sentence connections: Grammar in texts
- 13回 Related issues : Word formation
- 14回 Related issues: : Prosody: Punctuations
- 15回 要約とまとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

プロジェクト...30% + 試験...70%で総合評価をする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

専門基礎教育科目の「英文法I」や「英語学概論」とあわせて受講すればわかりやすい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

異文化間コミュニケーション概論【昼】

担当者名 山崎 和夫 / KAZUO YAMASAKI / 英米学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本と主にアメリカを例に取り、異文化接触に伴うコミュニケーション(非言語も含む)の衝突、摩擦の事例を考察して、そのメカニズムを言語的、社会的、文化的要因に分解しながら説明していく。その中で異文化コミュニケーションに関する実践的方法論などにも触れる。

教科書 /Textbooks

授業最初のコースワークの説明の時に、知らせる。また必要な資料は授業において適宜配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『科学としての異文化コミュニケーション』チャールズ・プリブル ナカニシア出版
鈴木孝夫『ことばと文化』岩波新書
古田暁(監修)『異文化コミュニケーション』有斐閣選書
その他の文献に関しては適宜知らせる。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コースワークの説明
- 2回 文化とは何か、コミュニケーションとは何か
- 3回 異文化間コミュニケーションの諸相
- 4回 言語相対性論とコミュニケーション
- 5回 ことばと文化とコミュニケーション
- 6回 日本語と英語の構造に起因するコミュニケーション・ギャップ
- 7回 事例観察 各事例とその基になる日米文化の差異(留学などによる直感的な観察)
- 8回 事例観察 理論(ハイコンテキスト、ローコンテキスト)に基づく分析
- 9回 事例研究 日本語話者が多弁なとき。それに対する在日外国人からの反応
- 10回 事例研究 統計的処理の実例(非)ステレオタイプ反応
- 11回 事例研究 実践方法(バーンランド)の手順「私的自己 vs 公的自己」「防御の方策」
- 12回 非言語行動 研究領域、日韓行動の差異
- 13回 広告・翻訳に見る異文化コミュニケーション
- 14回 異文化適応 カルチュラル・アシミレ-タ-
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加 30% 期末試験 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

コミュニケーション論であり、スキルの問題を取り扱う訳ではない。幅広い領域であるがことばと文化が深く関わっていること、文化がコミュニケーションにどのように関わっているかを観察することに興味を持っていることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文化、コミュニケーションとは コミュニケーション・ギャップ 事例観察 ハイ、ロー・コンテキスト

社会言語学【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

言語は様々な要因によって影響を受けます。どのような要因がどのような影響を与えるのか、また私たちは言語をどのように駆使しているのかを、社会言語学の視点から考えます。言語と社会との関係、そこに生じる諸問題を理解することがこの授業の狙いです。今年度は「ことばのバリエーション」、「言語と性」に焦点を当てます。

教科書 /Textbooks

ハンドアウトを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 東 照二.(1997).『社会言語学入門-生きた言葉のおもしろさに迫る』. 研究社.
- Jennifer Coates (2004). Women, Men and Language, 3rd ed. Pearson.
- 田中春美・田中幸子.(1996).『社会言語学への招待-社会・文化・コミュニケーション』ミネルヴァ書房.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会言語学とは
- 2回 地域方言
- 3回 言語と階級
- 4回 言語と民族・年齢
- 5回 言語と性
- 6回 コミュニケーションとジェンダー：会話における性差
- 7回 異性間の会話における支配
- 8回 同性間の会話
- 9回 異文化コミュニケーション
- 10回 バリエーションとジェンダー
- 11回 音韻的・文法的性差
- 12回 なぜ性差は生じるのか
- 13回 ソーシャルネットワークにおける性差
- 14回 言語変化における性差の役割
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%。出席・授業への参加状況も考慮します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

欠席が3分の1を越える場合は、学期末試験を受けられません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor ダンカン・ウォトリイ / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1 - b
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
The main purpose of this class is to build upon and activate the learners' existing knowledge of English so that they have sufficient trust and confidence to intuitively apply this knowledge in real-life scenarios. The method is based on creating opportunities for learners to communicate spontaneously as well as reflectively through a variety of tasks and activities in class. These include listening and discussion activities derived from the core text as well as informal and guided discussions based on other topics. Learners will also complete several short writing tasks in the form of opinion reports and these will be peer-reviewed. All students will be expected to keep an English diary throughout the course.

教科書 /Textbooks
Let's Talk 2 Second Edition by Leo Jones, Cambridge, ISBN 978-0-521-69284-7

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 - Introduction and Starter Unit
- Week 2 - Unit 1 Getting to know you 1
- Week 3 - Unit 1 Getting to know you 2
- Week 4 - Unit 2 Making a good impression 1
- Week 5 - Unit 2 Making a good impression 2
- Week 6 - Unit 3 Food and cooking 1
- Week 7 - Unit 3 Food and cooking 2
- Week 8 - Unit 4 Weather 1
- Week 9 - Unit 4 Weather 2
- Week 10 - Unit 5 Working for a living 1
- Week 11 - Unit 5 Working for a living 2
- Week 12 - Unit 6 Leisure time 1
- Week 13 - Unit 6 Leisure time 2
- Week 14 - Unit 7 Sports and games 1
- Week 15 - Review

成績評価の方法 /Assessment Method

- Diary - 20%
- Written Reports - 20%
- Discussion - 20%
- Supplementary Activities - 10%
- Homework - 10%
- Final Test - 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

Let's enjoy our learning experience together

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

英会話・英作文 1 【昼】

キーワード /Keywords

なし

担当者名 /Instructor デビッド・アンソニー・コフリン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1 - c

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Students will study the four basic language skills of reading, listening, writing, and speaking, with a main focus on speaking & writing. The reading materials included will give the students something to speak and write about.

教科書 /Textbooks

Check it out! Book 2 by Milada Broukal Heinle Centage Learning

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students should prepare for each class by reading the first page of each unit and the story on the following page and checking words they do not understand in the dictionary.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Greetings - World Greetings, Adverbs of Frequency
2. Explorers - Geography & Occupations, Past Tense, Past Activities
3. Continue chapter-Discussion – Composition Results
4. Inventions - Machines etc., Past Continuous Tense, Discussion – Last Weekend
5. Continue Chapter – Instant Speeches
6. Review Grammar Test & Cumulative Dialog Test
7. Weather - Lightening, Will & Going to, Composition- Weekend Plans
8. Continue Chapter – Composition Results
9. Transportation - Can & Could
10. Continue Chapter – Tell Us about Yourself
11. Describing places – Superlatives
12. Continue Chapter –Discussion about Final Exam.
13. Review Grammar Test & Cumulative Dialog Test
14. Major Speeches
15. Summary or Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Writing assignments and tests will be averaged to make 50% of the final mark. The other 50% will be from a major speech each student makes and following an outline during that speech.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

The same text actually is used for two semesters, because each chapter takes more than one class period, and the speech and questions often take longer than one or two periods.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor ポール・ ガラフ・ スティール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1 - d

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to improve students' English opinion forming abilities. Students will in the first semester look at the skills and techniques needed for debate. The second semester will look at a number of topics and issues which can be used in a mini debate format. The students will also have the opportunity to express their opinions and feelings through a weekly peer journal

教科書 /Textbooks

Discover Debate by Lubetsky, Le beau and Harrington (Language solutions) (semester 1)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students must have an English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation
- 2 回 Unit 1 Have an opinion
- 3 回 Unit 1 Have an opinion- agree or disagree
- 4 回 Unit 2 Explaining your opinion
- 5 回 Unit 2 Compare and contrast- giving reasons
- 6 回 Unit 3 Supporting your opinion
- 7 回 Unit 3 Giving supports
- 8 回 Unit 4 Organizing your opinion
- 9 回 Unit 4 Debate introductions and conclusions
- 1 0 回 Unit 5 Refuting explanations
- 1 1 回 Unit 5 Tennis debate
- 1 2 回 Tennis debate preparation
- 1 3 回 Tennis debate
- 1 4 回 Exam review
- 1 5 回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 40% Tennis debate 40% Peer journal 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Students will have to write every week a peer journal with a fellow student and exchange and reply to it the next week. Students will also receive and have to check a vocabulary list with the words they will have in the textbook's unit

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor ポール・ ガラフ・ スティール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1 - e

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to improve students' English opinion forming abilities. Students will in the first semester look at the skills and techniques needed for debate. The second semester will look at a number of topics and issues which can be used in a mini debate format. The students will also have the opportunity to express their opinions and feelings through a weekly peer journal

教科書 /Textbooks

Discover Debate by Lubetsky, Le beau and Harrington (Language solutions) (semester 1)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

An English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation
- 2 回 Unit 1 Have an opinion
- 3 回 Unit 1 Have an opinion- agree or disagree
- 4 回 Unit 2 Explaining your opinion
- 5 回 Unit 2 Compare and contrast- giving reasons
- 6 回 Unit 3 Supporting your opinion
- 7 回 Unit 3 Giving supports
- 8 回 Unit 4 Organizing your opinion
- 9 回 Unit 4 Debate introductions and conclusions
- 1 0 回 Unit 5 Refuting explanations
- 1 1 回 Unit 5 Tennis debate
- 1 2 回 Tennis debate preparation
- 1 3 回 Tennis debate
- 1 4 回 Exam review
- 1 5 回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 40% Tennis debate 40% Peer journal 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Students will have to write every week a peer journal with a fellow student and exchange and reply to it the next week. Students will also receive and have to check a vocabulary list with the words they will have in the textbook's unit

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英会話・英作文 1 【昼】

担当者名 /Instructor アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1 - f

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are English speaking, listening, reading and writing skills. The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English.

教科書 /Textbooks

World English 1: Heinle Cengage Learning. 2010

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Course Introduction: Meeting People.
- 2 回 Ask for and give personal information. Describe different occupations.
- 3 回 Talk about people and occupations. Video Journal: Last of the Woman Divers
- 4 回 Talk about work and free time activities.
- 5 回 Describe a festival or a celebration. Compare different festivals.
- 6 回 Video Journal: Hula. Identify Possessions.
- 7 回 Ask for and give personal travel information. Give travel advice.
- 8 回 Share special travel tips. Video Journal: Beagle Patrol.
- 9 回 Talk about food. Order a meal.
- 10 回 Talk about diets. Discuss unusual and favorite foods.
- 1 1 回 Video Journal: Dangerous Dinner. Talk about activities happening now.
- 1 2 回 Compare everyday and present-time activities. Talk about favorite sports.
- 1 3 回 Discuss adventure holidays. Video Journal: Cheese-Rolling Races.
- 1 4 回 Talk about personal communication. Give and write down contact details.
- 1 5 回 Describe characteristics and qualities. Compare different types of communication.

成績評価の方法 /Assessment Method

Class work and Assignments 70% Final Examination 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Review materials from the previous week for use in class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス 1 - g /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are English speaking, listening, reading and writing skills. The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English.

教科書 /Textbooks

World English 1: Heinle Cengage Learning. 2010

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Course Introduction: Meeting People.
- 2 回 Ask for and give personal information. Describe different occupations.
- 3 回 Talk about people and occupations. Video Journal: Last of the Woman Divers
- 4 回 Talk about work and free time activities.
- 5 回 Describe a festival or a celebration. Compare different festivals.
- 6 回 Video Journal: Hula. Identify Possessions.
- 7 回 Ask for and give personal travel information. Give travel advice.
- 8 回 Share special travel tips. Video Journal: Beagle Patrol.
- 9 回 Talk about food. Order a meal.
- 10 回 Talk about diets. Discuss unusual and favorite foods.
- 1 1 回 Video Journal: Dangerous Dinner. Talk about activities happening now.
- 1 2 回 Compare everyday and present-time activities. Talk about favorite sports.
- 1 3 回 Discuss adventure holidays. Video Journal: Cheese-Rolling Races.
- 1 4 回 Talk about personal communication. Give and write down contact details.
- 1 5 回 Describe characteristics and qualities. Compare different types of communication.

成績評価の方法 /Assessment Method

Class work and Assignments 70% Final Examination 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Review materials from the previous week for use in class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英会話・英作文 1 【昼】

担当者名 /Instructor アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1 - h

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are English speaking, listening, reading and writing skills. The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English.

教科書 /Textbooks

World English 1: Heinle Cengage Learning. 2010

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Course Introduction: Meeting People.
- 2 回 Ask for and give personal information. Describe different occupations.
- 3 回 Talk about people and occupations. Video Journal: Last of the Woman Divers
- 4 回 Talk about work and free time activities.
- 5 回 Describe a festival or a celebration. Compare different festivals.
- 6 回 Video Journal: Hula. Identify Possessions.
- 7 回 Ask for and give personal travel information. Give travel advice.
- 8 回 Share special travel tips. Video Journal: Beagle Patrol.
- 9 回 Talk about food. Order a meal.
- 10 回 Talk about diets. Discuss unusual and favorite foods.
- 11 回 Video Journal: Dangerous Dinner. Talk about activities happening now.
- 12 回 Compare everyday and present-time activities. Talk about favorite sports.
- 13 回 Discuss adventure holidays. Video Journal: Cheese-Rolling Races.
- 14 回 Talk about personal communication. Give and write down contact details.
- 15 回 Describe characteristics and qualities. Compare different types of communication.

成績評価の方法 /Assessment Method

Class work and Assignments 70% Final Examination 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Review materials from the previous week for use in class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor
ダンカン・ウォトリイ / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1 - a

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The main purpose of this class is to build upon and activate the learners' existing knowledge of English so that they have sufficient trust and confidence to intuitively apply this knowledge in real-life scenarios. The method is based on creating opportunities for learners to communicate spontaneously as well as reflectively through a variety of tasks and activities in class. These include listening and discussion activities derived from the core text as well as informal and guided discussions based on other topics. Learners will also complete several short writing tasks in the form of opinion reports and these will be peer-reviewed. All students will be expected to keep an English diary throughout the course.

教科書 /Textbooks

Let's Talk 2 Second Edition by Leo Jones, Cambridge, ISBN 978-0-521-69284-7

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 - Introduction and Starter Activity
 Week 2 - Unit 7 Sports and games 2
 Week 3 - Unit 8 Transportation and travel 1
 Week 4 - Unit 8 Transportation and travel 2
 Week 5 - Unit 9 Vacation time 1
 Week 6 - Unit 9 Vacation time 2
 Week 7 - Unit 10 Inventions and gadgets 1
 Week 8 - Unit 10 Inventions and gadgets 2
 Week 9 - Unit 11 The environment 1
 Week 10 - Unit 11 The environment 2
 Week 11 - Unit 12 News and current events 1
 Week 12 - Unit 12 News and current events 2
 Week 14 - Unit 13 City life
 Week 15 - Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Diary - 20%
 Written Reports - 20%
 Discussion - 20%
 Supplementary Activities - 10%
 Homework - 10%
 Final Test - 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Let's enjoy our learning experience together

キーワード /Keywords

なし

担当者名 /Instructor ダンカン・ウォトリイ / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1 - b

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The main purpose of this class is to build upon and activate the learners' existing knowledge of English so that they have sufficient trust and confidence to intuitively apply this knowledge in real-life scenarios. The method is based on creating opportunities for learners to communicate spontaneously as well as reflectively through a variety of tasks and activities in class. These include listening and discussion activities derived from the core text as well as informal and guided discussions based on other topics. Learners will also complete several short writing tasks in the form of opinion reports and these will be peer-reviewed. All students will be expected to keep an English diary throughout the course.

教科書 /Textbooks

Let's Talk 2 Second Edition by Leo Jones, Cambridge, ISBN 978-0-521-69284-7

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 -	Introduction and Starter Activity
Week 2 - Unit 7	Sports and games 2
Week 3 - Unit 8	Transportation and travel 1
Week 4 - Unit 8	Transportation and travel 2
Week 5 - Unit 9	Vacation time 1
Week 6 - Unit 9	Vacation time 2
Week 7 - Unit 10	Inventions and gadgets 1
Week 8 - Unit 10	Inventions and gadgets 2
Week 9 - Unit 11	The environment 1
Week 10 - Unit 11	The environment 2
Week 11 - Unit 12	News and current events 1
Week 12 - Unit 12	News and current events 2
Week 14 - Unit 13	City life
Week 15 -	Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Diary - 20%
Written Reports - 20%
Discussion - 20%
Supplementary Activities - 10%
Homework - 10%
Final Test - 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Let's enjoy our learning experience together

英会話・英作文 2 【昼】

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor デビッド・アンソニー・コフリン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1 - c

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Students will study the four basic language skills of reading, listening, writing, and speaking, with a main focus on speaking & writing. The reading materials included will give the students something to speak and write about.

教科書 /Textbooks

Check it out! Book 2 by Milada Broukal Heinle Centage Learning

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students should prepare for each class by reading the first page of each unit and the story on the following page and checking words they do not understand in the dictionary.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Discussion & Composition about Vacation Activities
2. Sports-Must, Must not, Have to ,etc
3. Continue Chapter/Discussion about Writing from First Class.
4. Health – Food & Drink , Should & Shouldn't
5. Continue Chapter/Instant Speech Assignment
6. Entertainment-Oscars, present perfect tense
7. Continue Chapter/Grammar Review Quiz
8. Desire for chocolate, food, verb + gerund or infinitive
9. Continue Chapter/Write about Food likes and Dislikes
10. Animal communication – conditional if. Final Speech Project Plan
11. Fashion(Passive Voice)
12. Final speech Project
13. Final speech Project
14. Continue Chapter
15. Final Speech Project

成績評価の方法 /Assessment Method

Writing assignments and tests will be averaged to make 50% of the final mark. The other 50% will be from a major speech each student makes and following an outline during that speech.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

none

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor ポール・ガルフ・ステイール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1 - d

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to improve students' English opinion forming abilities. Students will in the first semester look at the skills and techniques needed for debate. The second semester will look at a number of topics and issues which can be used in a mini debate format. The students will also have the opportunity to express their opinions and feelings through a weekly peer journal

教科書 /Textbooks

Impact topics by Day and Yamanaka (Pearson & Longman) (semester 2)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

-

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation
- 2 回 Unit 1 The guy with green hair & tennis debate preparation
- 3 回 Tennis debate & Earning money
- 4 回 Tennis debate & Please let me smoke
- 5 回 Tennis debate & I can't stop
- 6 回 Tennis debate & The shoplifter
- 7 回 Tennis debate & Miss Flower blossom beauty contest
- 8 回 Tennis debate & Who pays
- 9 回 Tennis debate & Cyber love
- 1 0 回 Tennis debate & The boyfriend
- 1 1 回 Tennis debate & Living together before marriage
- 1 2 回 Tennis debate & Housework
- 1 3 回 Tennis debate & Confused
- 1 4 回 Review
- 1 5 回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 40% Tennis debate 40% Peer journal 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Students will have to write every week a peer journal with a fellow student and exchange and reply to it the next week. Students will also receive and have to check a vocabulary list with the words they will have in the textbook's unit

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor ポール・ ガラフ・ スティール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1 - e

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to improve students' English opinion forming abilities. Students will in the first semester look at the skills and techniques needed for debate. The second semester will look at a number of topics and issues which can be used in a mini debate format. The students will also have the opportunity to express their opinions and feelings through a weekly peer journal

教科書 /Textbooks

Impact topics by Day and Yamanaka (Pearson & Longman) (semester 2)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

An English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation
- 2 回 Unit 1 The guy with green hair & tennis debate preparation
- 3 回 Tennis debate & Earning money
- 4 回 Tennis debate & Please let me smoke
- 5 回 Tennis debate & I can't stop
- 6 回 Tennis debate & The shoplifter
- 7 回 Tennis debate & Miss Flower blossom beauty contest
- 8 回 Tennis debate & Who pays
- 9 回 Tennis debate & Cyber love
- 1 0 回 Tennis debate & The boyfriend
- 1 1 回 Tennis debate & Living together before marriage
- 1 2 回 Tennis debate & Housework
- 1 3 回 Tennis debate & Confused
- 1 4 回 Review
- 1 5 回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 40% Tennis debate 40% Peer journal 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Students will have to write every week a peer journal with a fellow student and exchange and reply to it the next week. Students will also receive and have to check a vocabulary list with the words they will have in the textbook's unit

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1 - f

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are English speaking, listening, reading and writing skills. The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English.

教科書 /Textbooks

World English 1: Heinle Cengage Learning. 2010

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回Talk about past vacation trips. Exchange information about vacations.
- 2 回Describe a personal experience. Talk about a discovery from the past.
- 3 回Video Journal: Machu Picchu. Talk about plans.
- 4 回Discuss long- and short-term plans. Make weather predictions.
- 5 回Discuss the future. Video Journal: Solar Cooking
- 6 回Make comparisons. Explain preferences.
- 7 回Talk about clothing materials. Understand and describe a process.
- 8 回Video Journal: Traditional Silk Making. Give advice on healthy habits.
- 9 回Suggest ways to improve bad habits. Ask about lifestyles.
- 10 回Evaluate your lifestyle. Video Journal: The Science of Stress.
- 11 回Talk about today's chores. Interview for a job.
- 12 回Talk about lifetime achievements. Discuss scientific achievements.
- 13 回Video Journal: Spacewalk. Talk about managing your money.
- 14 回Choosing how to spend your money. Our actions can have positive consequences.
- 15 回Preventing habitat destruction. Video Journal: Missing Snows of Kilimanjaro.

成績評価の方法 /Assessment Method

Class work and Assignments 70% Final Examination 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Review materials from the previous week for use in class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1 - g

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are English speaking, listening, reading and writing skills. The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English.

教科書 /Textbooks

World English 1: Heinle Cengage Learning. 2010

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回Talk about past vacation trips. Exchange information about vacations.
- 2 回Describe a personal experience. Talk about a discovery from the past.
- 3 回Video Journal: Machu Picchu. Talk about plans.
- 4 回Discuss long- and short-term plans. Make weather predictions.
- 5 回Discuss the future. Video Journal: Solar Cooking
- 6 回Make comparisons. Explain preferences.
- 7 回Talk about clothing materials. Understand and describe a process.
- 8 回Video Journal: Traditional Silk Making. Give advice on healthy habits.
- 9 回Suggest ways to improve bad habits. Ask about lifestyles.
- 1 0 回Evaluate your lifestyle. Video Journal: The Science of Stress.
- 1 1 回Talk about today's chores. Interview for a job.
- 1 2 回Talk about lifetime achievements. Discuss scientific achievements.
- 1 3 回Video Journal: Spacewalk. Talk about managing your money.
- 1 4 回Choosing how to spend your money. Our actions can have positive consequences.
- 1 5 回Preventing habitat destruction. Video Journal: Missing Snows of Kilimanjaro.

成績評価の方法 /Assessment Method

Class work and Assignments 70% Final Examination 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Review materials from the previous week for use in class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス 1 - h /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are English speaking, listening, reading and writing skills. The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English.

教科書 /Textbooks

World English 1: Heinle Cengage Learning. 2010

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回Talk about past vacation trips. Exchange information about vacations.
- 2 回Describe a personal experience. Talk about a discovery from the past.
- 3 回Video Journal: Machu Picchu. Talk about plans.
- 4 回Discuss long- and short-term plans. Make weather predictions.
- 5 回Discuss the future. Video Journal: Solar Cooking
- 6 回Make comparisons. Explain preferences.
- 7 回Talk about clothing materials. Understand and describe a process.
- 8 回Video Journal: Traditional Silk Making. Give advice on healthy habits.
- 9 回Suggest ways to improve bad habits. Ask about lifestyles.
- 10 回Evaluate your lifestyle. Video Journal: The Science of Stress.
- 11 回Talk about today's chores. Interview for a job.
- 12 回Talk about lifetime achievements. Discuss scientific achievements.
- 13 回Video Journal: Spacewalk. Talk about managing your money.
- 14 回Choosing how to spend your money. Our actions can have positive consequences.
- 15 回Preventing habitat destruction. Video Journal: Missing Snows of Kilimanjaro.

成績評価の方法 /Assessment Method

Class work and Assignments 70% Final Examination 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Review materials from the previous week for use in class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名
/Instructor

ジョセフ・ディレンシュナイダー / Joseph Dilenschneider / 基盤教育センター

履修年次 2年次
/Year

単位
/Credits

1単位

学期
/Semester

1学期

授業形態
/Class Format

演習

クラス AES 1
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The objectives of this course are to develop students' skills and strategies for public speaking and to help students organize, support and present their opinions.

教科書 /Textbooks

Dynamic Presentations Michael Hood (Longman Kirihara) ¥ 1995 (税込み)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students are encouraged to have both a English-to-Japanese and Japanese-to-English dictionary.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Unit 1: "Good Speeches, Good Speakers"; introduction to speech-presentation format
- 2 回 Outlining/using a dictionary/identifying purposes/ why stress and intonation matter
- 3 回 Unit 2 "Introduce Yourself!"; elements of the introduction; making eye contact
- 4 回 Present progressive verb forms; describing; First speech presentation
- 5 回 Unit 3: "Someone you should know"; maintaining posture; descriptive details; modals for advice and ability;
- 6 回 Second speech presentation/ student evaluation and questions
- 7 回 Unit 4: "Have you ever been there?"; using gestures, brainstorming and clustering; listening for stress; present perfect verb form;
- 8 回 Third speech presentation/ student evaluation and questions
- 9 回 Unit 5: "How to make a spectacular dish!"; enunciating, transitions & connectors; talking about process; strong adjectives
- 1 0 回 Fourth speech presentation/ student evaluation and questions
- 1 1 回 Unit 6: "Let me tell you what happened..."; projecting; audience analysis; informing; intonation for listing; past progressive verb form; Fifth speech presentation
- 1 2 回 Unit 7: "In the world today..."; pacing; selecting details: facts & opinions; talking about current events; simple connectors
- 1 3 回 Sixth speech presentation/ student evaluation and questions
- 1 4 回 Unit 8: "Cause & Consequence"; explaining causes; stress for emphasis; structures for cause and effect
- 1 5 回 Seventh speech presentation/ student evaluation and questions/Video feedback; まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Speech Presentations and attendance: 100%
Continual assessment through homework completion, participation, and speech presentations. There is a strict attendance policy for this class: more than one absence during a semester may result in the student failing the course.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

READ English books to increase your English vocabulary, write down vocabulary and phrases you don't know and then try to use those words and phrases in English conversation wherever you can. Watch English movies, listen to English music and create your own English listening environment. Be ready to ask questions in English, speak English, write English and listen to English. Stop being over-dependent on your electronic dictionary to learn English.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバ / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class AES 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The main focus of this course is speaking and listening. Students will have the freedom to express themselves about a variety of topics. Each lesson will have a different topic. As well as reviewing previously learnt material, students will be able to challenge themselves in this dynamic lesson.

教科書 /Textbooks

Clockwise (Pre-Intermediate) by B. Macgown and V. Richardson
(Oxford University Press)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

English - Japanese dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

week 1: course introduction
week 2: unit 1
week 3: unit 2
week 4: unit 3
week 5: unit 4
week 6: unit 5
week 7: unit 6
week 8: unit 7
week 9: unit 8
week 10: unit 9
week 11: unit 10
week 12: unit 11
week 13: unit 12
week 14: unit 13
Week 15: まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam, class participation and positive attitude.
More information concerning assessment will be given in the first lesson.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Read the textbook ahead of the lesson.

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor ポール・ ガラフ・ スティール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2 - a

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to improve students' English opinion forming abilities. Students will be encouraged to critically examine a variety of cultural issues. Students will present their opinions on these issues through written assignments and class discussion. The students will also have the opportunity to express their opinions and feelings through a weekly peer journal

教科書 /Textbooks

For and against Expressing opinions and exchanging ideas Flaherty (1stsemester)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation
- 2 回 The internet, reading, listening, building a paragraph & statistics
- 3 回 NEETs reading, listening, building a paragraph & statistics
- 4 回 Fashion reading, listening, building a paragraph & statistics
- 5 回 Environment reading, listening, building a paragraph & statistics
- 6 回 international marriage reading, listening, building a paragraph & statistics
- 8 回 junk food reading, listening, building a paragraph & statistics
- 9 回 paternity leave reading, listening, building a paragraph & statistics
- 1 0 回 depopulation reading, listening, building a paragraph & statistics
- 1 1 回 examinations reading, listening, building a paragraph & statistics
- 1 2 回 animal testing reading, listening, building a paragraph & statistics
- 1 3 回 temporary workers reading, listening, building a paragraph & statistics
- 1 4 回 Review
- 1 5 回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 40% Tennis debate 40% Peer journal 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Students will have to write every week a peer journal with a fellow student and exchange and reply to it the next week. Students will also receive and have to check a vocabulary list with the words they will have in the textbook's unit

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバ / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2 - b

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The main focus of this course is speaking and listening. Students will have the freedom to express themselves about a variety of topics. Each lesson will have a different topic. As well as reviewing previously learnt material, students will be able to challenge themselves in this dynamic lesson.

教科書 /Textbooks

Clockwise (Pre-Intermediate) by B. Macgown and V. Richardson
(Oxford University Press)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

English - Japanese dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

week 1: course introduction
week 2: unit 1
week 3: unit 2
week 4: unit 3
week 5: unit 4
week 6: unit 5
week 7: unit 6
week 8: unit 7
week 9: unit 8
week 10: unit 9
week 11: unit 10
week 12: unit 11
week 13: unit 12
week 14: unit 13
Week 15: まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam, class participation and positive attitude.
More information concerning assessment will be given in the first lesson.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Read the textbook ahead of the lesson.

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor ドロークス ダニエル / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2 - c

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course is designed to give the students experiences in using the English language to communicate ideas on a variety of topics. Through activities found in the materials the students will gain skill and confidence in the ability to communicate in English.

教科書 /Textbooks

New Crossroads (MacMillan Publishing)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students must have an English/Japanese dictionary,...

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introductions
- 2 回 Life likes
- 3 回 Vocabulary development for likes
- 4 回 Friends and relationships
- 5 回 Vocabulary development for relationships
- 6 回 Entertainment
- 7 回 Vocabulary development for entertainment
- 8 回 Review
- 9 回 Socialization
- 1 0 回 Vocabulary development for Socialization
- 1 1 回 Activities
- 1 2 回 Vocabulary development for activities
- 1 3 回 Money and communicating
- 1 4 回 Vocabulary development for communicating
- 1 5 回 Test preparation and review

成績評価の方法 /Assessment Method

The students will be evaluated on:

1. Class participation and positive attitude 40%
2. In-class assignments 30%
3. Final test results 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Prior to each class the students are expected to have used the dictionary to define any words they could not understand in the previous lesson. Also the students will be expected to do the reading for the unit prior to the class lesson.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor ドロークス ダニエル / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2 - d

対象入学年度 /Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course is designed to give the students experiences in using the English language to communicate ideas on a variety of topics. Through activities found in the materials the students will gain skill and confidence in the ability to communicate in English.

教科書 /Textbooks

New Crossroads (MacMillan Publishing)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students must have an English/Japanese dictionary,...

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introductions
- 2回 Life likes
- 3回 Vocabulary development for likes
- 4回 Friends and relationships
- 5回 Vocabulary development for relationships
- 6回 Entertainment
- 7回 Vocabulary development for entertainment
- 8回 Review
- 9回 Socialization
- 10回 Vocabulary development for Socialization
- 11回 Activities
- 12回 Vocabulary development for activities
- 13回 Money and communicating
- 14回 Vocabulary development for communicating
- 15回 Test preparation and review

成績評価の方法 /Assessment Method

The students will be evaluated on:

1. Class participation and positive attitude 40%
2. In-class assignments 30%
3. Final test results 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Prior to each class the students are expected to have used the dictionary to define any words they could not understand in the previous lesson. Also the students will be expected to do the reading for the unit prior to the class lesson.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英会話・英作文 4 【昼】

担当者名 /Instructor 口バート・マーフィ / Robert S. Murphy / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス AES 1 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The objectives of this course are to develop students' skills and strategies for public speaking and to help students organize, support and present their opinions.

教科書 /Textbooks

Dynamic Presentations Michael Hood (Longman Kirihara) ¥1995 (税込み)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students are encouraged to have both a English-to-Japanese and Japanese-to-English dictionary.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Comparative culture speech presentations (from summer homework)/Video feedback
- 2 回 Unit 9: "What dreams may come..."; repetition; explaining reasons; future plans; expressing future time
- 3 回 Eighth speech presentation/ student questions and evaluations
- 4 回 Unit 10: "For example..."; using examples; patterns of organization; comparison & contrast; emphasis on content words
- 5 回 Ninth speech presentation/ student questions and evaluations
- 6 回 Unit 11: "Make a stand, Hold your ground!"; active voice; patterns of organization; speech rules for stress; persuading; active and passive verbs
- 7 回 Tenth speech presentation/ student questions and evaluations
- 8 回 Unit 12: "Measuring solutions, Solving problems"; the 'rule of three'; evaluating evidence; persuading; conditionals;
- 9 回 Eleventh speech presentation/ student questions and evaluations
- 10 回 Unit 13: "Lies and Statistics..."; appealing to character; creating visual aids; predicting stress; modals for logical conclusions
- 11 回 Twelfth speech presentation/ student questions and evaluations
- 12 回 Unit 14: "Picture this!"; appealing to emotion; using quotations; presenting a position; reported speech
- 13 回 Thirteenth speech presentation/ student questions and evaluations
- 14 回 Unit 16: "In conclusion..."; elements of the conclusion; persuading; policy presentation; rhetorical questions; expressing necessity;
- 15 回 Fourteenth speech presentation/ student questions and evaluations/Video feedback: まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Speech Presentations and attendance: 100%

Continual assessment through homework completion, participation, and speech presentations. There is a strict attendance policy for this class: more than one absence during a semester may result in the student failing the course.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

READ English books to increase your English vocabulary, write down vocabulary and phrases you don't know and then try to use those words and phrases in English conversation wherever you can. Watch English movies, listen to English music and create your own English listening environment. Be ready to ask questions in English, speak English, write English and listen to English. Stop being over-dependent on your electronic dictionary to learn English.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名
/Instructor

クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次
/Year

単位
/Credits

1単位

学期
/Semester

2学期

授業形態
/Class Format

演習

クラス AES 2
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The main focus of this course is speaking and listening. Students will have the freedom to express themselves about a variety of topics. Each lesson will have a different topic. As well as reviewing previously learnt material, students will be able to challenge themselves in this dynamic lesson.

教科書 /Textbooks

Clockwise (Pre-Intermediate), by B. Macgowen and V. Richardson

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese - English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: How was your summer holiday?
Week 2: Unit 14
Week 3: Unit 15
Week 4: Unit 16
Week 5: Unit 17
Week 6: Unit 18
Week 7: Unit 19
Week 8: Unit 20
Week 9: Unit 21
Week 10: Unit 22
Week 11: Unit 23
Week 12: Unit 24
Week 13: Unit 25
Week 14: Unit 26
Week 15: まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam, class participation and positive attitude.
More information concerning assessment will be given in the first lesson.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Read the textbook ahead of the lesson.

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor ポール・ ガラフ・ スティール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2 - a

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to improve students' English opinion forming abilities. Students will be encouraged to critically examine a variety of cultural issues. Students will present their opinions on these issues through written assignments and class discussion. The students will also have the opportunity to express their opinions and feelings through a weekly peer journal

教科書 /Textbooks

For and against Expressing opinions and exchanging ideas Flaherty (1st term)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation
- 2 回 What does culture mean
- 3 回 Cultural rules for acceptable behavior
- 4 回 Stereotyping
- 5 回 Media and culture
- 6 回 Nonverbal communication
- 7 回 Cultural perspectives of time
- 8 回 Touch and space
- 9 回 Verbal communication norms
- 1 0 回 subcultures
- 1 1 回 status
- 1 2 回 What is the family
- 1 3 回 gender is culture
- 1 4 回 review
- 1 5 回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 40% Tennis debate 40% Peer journal 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Students will have to write every week a peer journal with a fellow student and exchange and reply to it the next week. Students will also receive and have to check a vocabulary list with the words they will have in the textbook's unit

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2 - b

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The main focus of this course is speaking and listening. Students will have the freedom to express themselves about a variety of topics. Each lesson will have a different topic. As well as reviewing previously learnt material, students will be able to challenge themselves in this dynamic lesson.

教科書 /Textbooks

Clockwise (Pre-Intermediate), by B. Macgowen and V. Richardson

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese - English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: How was your summer holiday?
 Week 2: Unit 14
 Week 3: Unit 15
 Week 4: Unit 16
 Week 5: Unit 17
 Week 6: Unit 18
 Week 7: Unit 19
 Week 8: Unit 20
 Week 9: Unit 21
 Week 10: Unit 22
 Week 11: Unit 23
 Week 12: Unit 24
 Week 13: Unit 25
 Week 14: Unit 26
 Week 15: まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam, class participation and positive attitude.
 More information concerning assessment will be given in the first lesson.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Read the textbook ahead of the lesson.

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor ドロークス ダニエル / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2 - c

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course is designed to give the students experiences in using the English language to communicate ideas on a variety of topics. Through activities found in the materials the students will gain skill and confidence in the ability to communicate in English.

教科書 /Textbooks

New Crossroads (Macmillan Publishing)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students must have an English/Japanese dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Re-introduction
- 2回 What's on the menu?
- 3回 Vocabulary development for food
- 4回 Sports life
- 5回 Vocabulary development for sports
- 6回 Employment issues
- 7回 Vocabulary development for work
- 8回 Review
- 9回 Personalities
- 10回 Vocabulary development for character
- 11回 Exotic lands
- 12回 Vocabulary development for travel
- 13回 Special days
- 14回 Vocabulary development for holidays
- 15回 Test preparation and review

成績評価の方法 /Assessment Method

The students will be evaluated on:

1. Class participation and positive attitude 40%
2. In-class assignments 30%
3. Final test results 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Prior to each class the students are expected to have used the dictionary to define any words they could not understand in the previous lesson. Also the students are expected to have done the reading for the unit prior to each class lesson.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor ドロークス ダニエル / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2 - d

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course is designed to give the students experiences in using the English language to communicate ideas on a variety of topics. Through activities found in the materials the students will gain skill and confidence in the ability to communicate in English.

教科書 /Textbooks

New Crossroads (Macmillan Publishing)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students must have an English/Japanese dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Re-introduction
- 2回 What's on the menu?
- 3回 Vocabulary development for food
- 4回 Sports life
- 5回 Vocabulary development for sports
- 6回 Employment issues
- 7回 Vocabulary development for work
- 8回 Review
- 9回 Personalities
- 10回 Vocabulary development for character
- 11回 Exotic lands
- 12回 Vocabulary development for travel
- 13回 Special days
- 14回 Vocabulary development for holidays
- 15回 Test preparation and review

成績評価の方法 /Assessment Method

The students will be evaluated on:

1. Class participation and positive attitude 40%
2. In-class assignments 30%
3. Final test results 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Prior to each class the students are expected to have used the dictionary to define any words they could not understand in the previous lesson. Also the students are expected to have done the reading for the unit prior to each class lesson.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名
/Instructor

ジョセフ・ディレンシュナイダー / Joseph Dilenschneider / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス AES 1
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The objectives of this course are to develop students' skills and strategies for public speaking and to help students organize, support and present their opinions.

教科書 /Textbooks

Dynamic Presentations Michael Hood (Longman Kirihara) ¥ 1995 (税込み)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students are encouraged to have both a English-to-Japanese and Japanese-to-English dictionary.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Unit 1: "Good Speeches, Good Speakers"; introduction to speech-presentation format
- 2 回 Outlining/using a dictionary/identifying purposes/ why stress and intonation matter
- 3 回 Unit 2 "Introduce Yourself!"; elements of the introduction; making eye contact
- 4 回 Present progressive verb forms; describing; First speech presentation
- 5 回 Unit 3: "Someone you should know"; maintaining posture; descriptive details; modals for advice and ability;
- 6 回 Second speech presentation/ student evaluation and questions
- 7 回 Unit 4: "Have you ever been there?"; using gestures, brainstorming and clustering; listening for stress; present perfect verb form;
- 8 回 Third speech presentation/ student evaluation and questions
- 9 回 Unit 5: "How to make a spectacular dish!"; enunciating, transitions & connectors; talking about process; strong adjectives
- 1 0 回 Fourth speech presentation/ student evaluation and questions
- 1 1 回 Unit 6: "Let me tell you what happened..."; projecting; audience analysis; informing; intonation for listing; past progressive verb form; Fifth speech presentation
- 1 2 回 Unit 7: "In the world today..."; pacing; selecting details: facts & opinions; talking about current events; simple connectors
- 1 3 回 Sixth speech presentation/ student evaluation and questions
- 1 4 回 Unit 8: "Cause & Consequence"; explaining causes; stress for emphasis; structures for cause and effect
- 1 5 回 Seventh speech presentation/ student evaluation and questions/Video feedback; まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Speech Presentations and attendance: 100%
Continual assessment through homework completion, participation, and speech presentations.. There is a strict attendance policy for this class: more than one absence during a semester may result in the student failing the course.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

READ English books to increase your English vocabulary, write down vocabulary and phrases you don't know and then try to use those words and phrases in English conversation wherever you can. Watch English movies, listen to English music and create your own English listening environment. Be ready to ask questions in English, speak English, write English and listen to English. Stop being over-dependent on your electronic dictionary to learn English.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class AES 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

In this course, students can learn about English idioms. For students to speak more naturally, idioms can be very helpful. Students will be taught what idioms mean, and given exercises in how to apply them (controlled practice). Then students will be asked to use idioms in their everyday lives and in what situations (free practice). Students will gain a lot of confidence from this course and develop a strong understanding of idiomatic English.

教科書 /Textbooks

Idioms from Square One, by Barry Ward

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese - English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

week 1: Introduction
week 2 and 3: unit 1
week 4 and 5: unit 2
week 6 and 7: unit 3
week 8 and 9: unit 4
week 10 and 11: unit 5
week 12 and 13: unit 6
week 14: review
week 15: まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam, class participation and positive attitude.
More information concerning assessment will be given in the first lesson.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Read the textbook ahead of the lesson.

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

担当者名
/Instructor

ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次
/Year

単位
/Credits

1単位

学期
/Semester

2学期

授業形態
/Class Format

演習

クラス AES 1
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The objectives of this course are to develop students' skills and strategies for public speaking and to help students organize, support and present their opinions.

教科書 /Textbooks

Dynamic Presentations Michael Hood (Longman Kirihara) ¥ 1995 (税込み)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students are encouraged to have both a English-to-Japanese and Japanese-to-English dictionary.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Comparative culture speech presentations (from summer homework)/Video feedback
- 2 回 Unit 9: "What dreams may come..."; repetition; explaining reasons; future plans; expressing future time
- 3 回 Eighth speech presentation/ student questions and evaluations
- 4 回 Unit 10: "For example..."; using examples; patterns of organization; comparison & contrast; emphasis on content words
- 5 回 Ninth speech presentation/ student questions and evaluations
- 6 回 Unit 11: "Make a stand, Hold your ground!"; active voice; patterns of organization; speech rules for stress; persuading; active and passive verbs
- 7 回 Tenth speech presentation/ student questions and evaluations
- 8 回 Unit 12: "Measuring solutions, Solving problems"; the 'rule of three'; evaluating evidence; persuading; conditionals;
- 9 回 Eleventh speech presentation/ student questions and evaluations
- 1 0 回 Unit 13: "Lies and Statistics..."; appealing to character; creating visual aids; predicting stress; modals for logical conclusions
- 1 1 回 Twelfth speech presentation/ student questions and evaluations
- 1 2 回 Unit 14: "Picture this!"; appealing to emotion; using quotations; presenting a position; reported speech
- 1 3 回 Thirteenth speech presentation/ student questions and evaluations
- 1 4 回 Unit 16: "In conclusion..."; elements of the conclusion; persuading; policy presentation; rhetorical questions; expressing necessity;
- 1 5 回 Fourteenth speech presentation/ student questions and evaluations/Video feedback; まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Speech Presentations and attendance: 100%

Continual assessment through homework completion, participation, and speech presentations.. There is a strict attendance policy for this class: more than one absence during a semester may result in the student failing the course.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

READ English books to increase your English vocabulary, write down vocabulary and phrases you don't know and then try to use those words and phrases in English conversation wherever you can. Watch English movies, listen to English music and create your own English listening environment. Be ready to ask questions in English, speak English, write English and listen to English. Stop being over-dependent on your electronic dictionary to learn English.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class AES 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

In this course, students can learn about English idioms. For students to speak more naturally, idioms can be very helpful. Students will be taught what idioms mean, and given exercises in how to apply them (controlled practice). Then students will be asked to use idioms in their everyday lives and in what situations (free practice). Students will gain a lot of confidence from this course and develop a strong understanding of idiomatic English.

教科書 /Textbooks

Idioms from Square One, by Barry Ward

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese - English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

week 1: Introduction
week 2 and 3: unit 1
week 4 and 5: unit 2
week 6 and 7: unit 3
week 8 and 9: unit 4
week 10 and 11: unit 5
week 12 and 13: unit 6
week 14: review
week 15: まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam, class participation and positive attitude.
More information concerning assessment will be given in the first lesson.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Read the textbook ahead of the lesson.

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class AES

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

In this course, students can learn about presentation skills. The course is divided into

1. the physical message (gestures/voice inflexion/ posture)
2. the story message (introduction/ body/ conclusion)
3. the visual message (charts/ graphs/ photos).

Students will be asked to practice 1 to 1, 1 to 3, and finally 1 to all presentations about topics that they want to talk about. Students will also be asked to evaluate their peers' performance as a way to receiving feedback.

教科書 /Textbooks

Speaking of Speech, by David Harrington and Charles LeBeau. (Macmillan Language House)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回(Week 1) Introduction
- 第 2回 Introduction to visual message and story message.
- 第 3回 Posture, eye contact, and voice inflexion.
- 第 4回 Pairwork activity. Gestures.
- 第 5回 The introduction, what, why, and overview.
- 第 6回 Story message, the lay-out and listening activity.
- 第 7回 Finish the visual message. Explain the need of graphs, charts and directions.
- 第 8回 Do an introduction, one-on-one speech.
- 第 9回 Look at transitions, and sequence makers.
- 第10回 How to make a conclusion.
- 第11回 Brainstorming and prioritizing your ideas.
- 第12回 The story message, the body. Making your speech smooth.
- 第13回 Do a one-to-three speech.
- 第14回 A look at possible speech topics, Powerpoint presentation, and contents.
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 40%, class participation and positive attitude 60%.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Good attendance is a prerequisite for getting a credit.
Students are expected to use Microsoft Powerpoint in this course.

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor デビッド・アンソニー・コフリン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 3年
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course will teach all four language skills as well as vocabulary. The main focus will be on speaking and writing.

教科書 /Textbooks

Situational English By NichibeinANAN' UN-DO ¥2,500

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students should prepare for each class by reading the first page of each unit and the story on the following page and checking words they do not understand in the dictionary.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Getting Acquainted/Student Information Cards
2. Causative Verbs-
3. Imperatives
4. Reported Speech
5. Present Perfect Tense
6. Writing Assignment
7. Present Perfect Tense(for/since)
8. Past Perfect Tense
9. Passive Voice
10. Writing Assignment
11. Subordinate Clauses of Result
12. Relative Clauses
13. Adj. Clauses(why,when)
14. Writing Assignment
15. Speeches

成績評価の方法 /Assessment Method

Students will be required to make one major speech, which other students will ask questions about. The final mark will be made by averaging all of the periodic writing assignments as 50% and the speech & questions as the other 50%. Unexcused absence will affect the final mark.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

N/A

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor ポール・ ガラフ・ スティール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to get a greater understanding of British culture and history. Each week a different aspect of British life will be examined for example education, shopping and different events of the year. The students will also have the opportunity to express their opinions and feelings through a weekly peer journal

教科書 /Textbooks

In Britain. Macmillan

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students must have an English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation
- 2 回 The British Isles
- 3 回 Very British
- 4 回 Empire
- 5 回 A world role
- 6 回 Being British
- 7 回 The British year Jan, Feb, March, April
- 8 回 The British year May, June, July, August
- 9 回 The British year Sep, Oct, Nov, Dec
- 1 0 回 Many faiths
- 1 1 回 Coming to Britain
- 1 2 回 At home
- 1 3 回 In the family
- 1 4 回 Review
- 1 5 回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 80 % Peer journal 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Students will have to write every week a peer journal with a fellow student and exchange and reply to it the next week. Students will also receive and have to check a vocabulary list with the words they will have in the textbook's unit

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英会話・英作文 7 【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 啓子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

以下の5項目に目標を設定してTOEICのスコアアップを目指す。より実践的な方法で学習する。
 1. 語彙を増やす 2. リスニング力を強化する 3. 文法、語法の知識を身につける
 4. 速読の能力を高める 5. 出題傾向を把握し、解答のコツを身につける

教科書 /Textbooks

“THE TOEIC TEST TRAINER Target 780” by B. A. Smith. (センテージ ラーニング、2,000円)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Pre-test
- 2回 Unit 1 申し出 (名詞・代名詞・冠詞)
- 3回 Unit 2 意見 (スキャニング)
- 4回 Unit 3 可能性 (比較)
- 5回 Unit 4 お知らせ・通知・注意 (主語と動詞の一致)
- 6回 Unit 5 理由 (フレーズリーディング)
- 7回 Unit 6 提案 (分詞構文)
- 8回 Unit 7 口論 (仮定法)
- 9回 Unit 8 天気予報 (視野を広げる)
- 10回 Unit 9 依頼 (動詞)
- 11回 Unit 10 雑談 (並列法・倒置法)
- 12回 Unit 11 Wh疑問文 (スキミング)
- 13回 Unit 12 発表・話 (速読練習 総合)
- 14回 Practice Test
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) ...40%、 期末試験 ...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業中に小テストや予習範囲等について説明する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class AES

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Students will continue improving their research and presentation skills learnt in the first semester. In principle, students will be given 2 weeks preparation time to make their presentations, and one lesson to actually present their work to the class. Consequently, students can expect to make three presentations in the second semester.

教科書 /Textbooks

Speaking of Speech, by David Harrington and Charles LeBeau. (Macmillan Language House)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1) Introduction and course objectives
- 第2回 Form a group of 3: Looking at social issues in the world
- 第3回 Start to research social issues
- 第4回 Expansion and consolidation of social issues
- 第5回 Presentation and Discussion: of social issues
- 第6回 Form a group of 3: Looking at environmental issues in the world
- 第7回 Start to research environmental issues
- 第8回 Expansion and consolidation of environmental issues
- 第9回 Presentation and Discussion: of environmental issues
- 第10回 Form a group of 3: Looking at political issues in the world
- 第11回 Start to research political issues
- 第12回 Expansion and consolidation of political issues
- 第13回 Presentation and Discussion: of political issues
- 第14回 Peer review and teacher feedback.
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 40%, class participation and positive attitude 60%.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Good attendance is a prerequisite for getting a credit.
Students are expected to use Microsoft Powerpoint in this course.

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor デビッド・アンソニー・コフリン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course will teach all four language skills as well as vocabulary. The main focus will be on speaking and writing.

教科書 /Textbooks

Situational English By NichibeinAN' UN-DO ¥2,500

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students should prepare for each class by reading the first page of each unit and the story on the following page and checking words they do not understand in the dictionary.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. May & Might
2. Should, Ought to & Had better
3. Would(for past repeated actions)
4. Research Project Introduction
5. The First Conditional
6. The Second Conditional
7. Wish
8. Writing Assignment
9. Verbs followed by Subjunctive Noun Clauses
10. Verbs followed by Gerunds
11. Phrasal Verbs
12. Completion Help for Research Project & Write-up of Project
13. Presentation of Research Project
14. Critique of Research Projects
15. Final Speeches

成績評価の方法 /Assessment Method

Students will be required to complete a research project and share it with the class. Other students will be appointed to ask questions about the research project being presented. The final mark will be made by averaging all of the writing assignments as 50% and the speech & Research Project as the other 50%.Unexcused absence will affect the final mark.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

N/A

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor ポール・ ガラフ・ スティール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to get a greater understanding of British culture and history. Each week a different aspect of British life will be examined for example education, shopping and different events of the year. The students will also have the opportunity to express their opinions and feelings through a weekly peer journal

教科書 /Textbooks

In Britain. Macmillan

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students must have an English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 At school
- 2 回 At college
- 3 回 Finding a job
- 4 回 The economy
- 5 回 Food
- 6 回 Film and theatre
- 7 回 Music
- 8 回 The classics
- 9 回 Modern life
- 10 回 In the news
- 11 回 On TV and radio
- 12 回 At the shops
- 13 回 Sport
- 14 回 Review
- 15 回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 40% Tennis debate 40% Peer journal 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Students will have to write every week a peer journal with a fellow student and exchange and reply to it the next week. Students will also receive and have to check a vocabulary list with the words they will have in the textbook's unit

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 三宅 啓子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

以下の5項目に目標を設定してTOEICのスコアアップを目指す。より実践的な方法で学習する。

1. 語彙を増やす
2. リスニング力を強化する
3. 文法、語法の知識を身につける
4. 速読の能力を高める
5. 出題傾向を把握し、解答のコツを身につける

教科書 /Textbooks

SUCCESSFUL KEYS TO THE TOEIC TEST 3. by A. Mizumoto et al. (桐原書店、1,800円)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Daily Life
- 第2回 Places
- 第3回 People
- 第4回 Travel
- 第5回 Business
- 第6回 Office
- 第7回 Technology
- 第8回 Personnel
- 第9回 Management
- 第10回 Purchasing
- 第11回 Finances
- 第12回 Media
- 第13回 Entertainment
- 第14回 Health
- 第15回 Reservation

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) ... 40%、 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業中に小テストや予習範囲等について説明する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

上級英語I【昼】

担当者名 アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・他 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course is for English majors who already have a sound foundation in English skills and who wish to push their language ability to a higher level. The topics and new language input for the course will come from reading and discussing British novelist George Orwell's contemporary masterpiece "1984". Learners will practice reading more quickly and focusing on specific points. The course will be supplemented by a viewing of the film starring John Hurt and Richard Burton. The in-class discussions will address issues of individualism and culture relevant to anyone concerned with life in a progressively more globalized world. The focus throughout the course will be on learning new vocabulary and expressions to enable more efficient and effective communication on topics of international interest.

教科書 /Textbooks

George Orwell. 1984. Everyman's Library Edition. ISBN: 978-0-679-41739-2 (US) or 978-1-85715-134-3 (UK). This book can be ordered online from booksellers such as amazon.co.jp, amazon.com or amazon.co.uk

Hugh Graham-Marr. ABAX Workbook for New Words and Expressions (Japan Version). ISBN: 4-900-81900-X.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Merriam-Webster's Collegiate Dictionary with CD-ROM (11th Edition)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Orientation
- Part 1
- 2回 Presentation and discussion of ideas (pp. 3-21: 19 pages)
- 3回 Presentation and discussion of ideas (22-39: 17)
- 4回 Presentation and discussion of ideas (40-66: 26)
- 5回 Presentation and discussion of ideas (66-84: 18)
- 6回 Presentation and discussion of ideas (85-107: 22)
- Part 2
- 7回 Presentation and discussion of ideas (111-143: 31)
- 8回 Presentation and discussion of ideas (143-167: 34)
- 9回 Presentation and discussion of ideas (167-200: 33)
- 10回 Presentation and discussion of ideas (200-234: 34)
- 11回 Watch film for Parts 1 and 2 of the book (Initial draft of essay due)
- Part 3
- 12回 Presentation and discussion of ideas (pp. 237-272: 35)
- 13回 Presentation and discussion of ideas (pp. 273-295: 22)
- 14回 Presentation and discussion of ideas (pp. 295-310: 15)
- 15回 Watch film for Part 3 of the book (Final draft of essay due)

成績評価の方法 /Assessment Method

Completion of weekly written assignments	50%
Term paper on topic to be agreed on with the instructor	50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- Reading: 15-35 pages of English per week
- Writing: Summary and opinion of reading to be presented in class each week
- Discussion: Express/share opinions on reading with classmates and instructor each week

履修上の注意 /Remarks

All reading, writing, discussion, instruction and video will be in English only.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

You should take this course if you are genuinely interested in contemporary culture and want to improve your ability to discuss more advanced issues of international interest in English.

上級英語I 【昼】

キーワード /Keywords

Contemporary culture, literature, discussion, vocabulary building

上級英語II 【昼】

担当者名 アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・他 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course will develop critical thinking skills through the reading, analysis and discussion of topical materials. Essays, magazine articles, and timely materials will be provided by the instructor as reading assignments that will lead to the analysis and discussion of the given topic.

教科書 /Textbooks

Material will be provided by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction to the course
- 2回 Justifying decisions: rational
- 3回 Justifying decisions: emotional
- 4回 Justifying decisions: review
- 5回 Recognizing bias 1
- 6回 Recognizing bias 2
- 7回 Recognizing bias 3
- 8回 Assignment 1
- 9回 Recognizing logical fallacies 1
- 10回 Recognizing logical fallacies 2
- 11回 Assignment 2
- 12回 Evaluating evidence 1
- 13回 Evaluating evidence 2
- 14回 Evaluating evidence 3
- 15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation 40%
Assignments 40%
Final Exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Complete the assignments in a timely manner.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ文化講読【昼】

担当者名 /Instructor 江頭 理江 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義・他
クラス /Class 1年(1-2、1-3)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業の目標は、大学で学んだ英語の語彙や文法をもとに、アメリカ文学の主要な作品の表現内容を読み取る能力を育成することである。文学作品の英語を丹念に読んでいくことで、英語の読解力の向上に努めるとともに、アメリカ文学の主要な作品の概要をたどりながら読むことで、アメリカ社会、アメリカ文化の特徴について考えていく。

教科書 /Textbooks

Let's Learn English from American Literature (英宝社 早瀬博範、江頭理江著)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

英和辞典

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. アメリカ文学の特徴
2. 一章
3. 二章
4. 三章
5. 四章
6. 五章
7. 六章
8. 七章
9. 八章
10. 九章
11. 十章
12. 十一章
13. 十二章
14. 十三章
15. 十四章

成績評価の方法 /Assessment Method

出席点 20パーセント 平常点 20パーセント 小レポート 20パーセント 最終レポート 40パーセント

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この授業科目の単位を取得するため、授業とは別に毎週90分程度の自習を行うこと。自習内容については毎回授業中に指示するので、指示に従って授業の予習・復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ文化講読【昼】

担当者名 江頭 理江 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・他 クラス 1年(1-1)
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

アメリカの文学作品を用いて、その文化的特徴を丹念に読み解いていくことを授業の目標とする。
具体的にはまず、アメリカの歴史や社会的背景について学び、その後アメリカ文学についてテキストを読む読という方法を採用。

教科書 /Textbooks

Let's Learn English from American Literature (英宝社 早瀬博範、江頭理江 著)
自作プリント

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

英和辞典

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 インTRODクシヨン
- 2回目 アメリカの歴史
- 3回目 アメリカの歴史
- 4回目 アメリカの社会的背景
- 5回目 アメリカの社会的背景
- 6回目 アメリカの抱える問題点
- 7回目 アメリカの抱える問題点
- 8回目 プレゼンテーション
- 9回目 アメリカ文学の特徴
- 10回目 アメリカ文学の特徴
- 11回目 作品を読んでみよう
- 12回目 作品を読んでみよう
- 13回目 作品を読んでみよう
- 14回目 作品を読んでみよう
- 15回目 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席点20パーセント レポート20パーセント 最終試験60パーセントで総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この授業科目の単位を取得するため、授業とは別に毎週90分程度の自習を行うこと。自習内容については毎回授業中に指示するので、指示に従って授業の予習・復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

イギリス文化講読【昼】

担当者名 石井有希子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・他 クラス 1年(1-1、
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class 1-3)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、英字新聞・雑誌・ネット記事を通して、イギリス文化を読み解きます。
現代の<イギリス>を分析することで、「現在」を構成している「過去」のイギリスの理解も目指します。
英語読解力を鍛えると同時に、英文の背景を読み取る力を訓練し、理解を深めます。
映像資料も補助的に用います。

教科書 /Textbooks

プリント資料配布(テキストに変更する可能性あり)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜指示します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第一回 オリエンテーション

第二回
| 英文記事購読
第十四回

第十五回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み20~30% 定期試験80~70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

前もって準備する範囲を指定しますので、必ず予習をしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

辞書必携。遅刻厳禁。予習必須。

キーワード /Keywords

【移民政策、同性愛政策、王室、ナショナルトラスト、マスメディア、パンク等】

イギリス文化講読【昼】

担当者名 /Instructor 杉本 美穂 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・他 クラス /Class 1年(1-2)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

授業では、美しい英文で書かれた英国紀行を味読する。英文学を歴史的にも概観できるように、chronological order で、有名な英国詩人と代表作、詩作の背景や作品の土壌について多角的に読み進める。英国社会や文化、社会、宗教観など、作品鑑賞の基礎となる知識を身につけると同時に、言語の活用能力を伸ばすことにも繋がるはずである。

教科書 /Textbooks

English Poets and Places Peter Milward 著 (金星堂、¥1300)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『イギリス文学史序説』 斎藤美洲 編著 (中京出版、¥2575)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 文学史跡を巡礼する p 1
- 第2回 カンタベリーへの巡礼 p 8
- 第3回 チョーサーの足跡 p 11
- 第4回 ストラトフォードの劇場 p 18
- 第5回 シェイクスピアの喜劇 p 21
- 第6回 シェイクスピアの悲劇 p 24
- 第7回 学問の楽園ーケンブリッジ p 28
- 第8回 ミルトンと『失楽園』 p 32
- 第9回 湖水地方の序曲 p 37
- 第10回 ワーズワースと水仙 p 41
- 第11回 ウェールズの心象風景 p 46
- 第12回 ホプキンスの描写 p 48
- 第13回 イーストコッカーでの瞑想 p 55
- 第14回 エリオットとの対話 p 59
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度等..30%、提出物・小テスト..20%、学期末試験..50%、で総合的に判断する。
* 毎回の授業での訳出や発表を出席点とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回指定された英文テキスト、及び、配布資料を授業前に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英文学に関する基本的な知識を身につけたいひと、英文読解力を伸ばしたいひとのための授業である。その目的のためにも、予習・復習は必要である。

キーワード /Keywords

日本文化英文講読【昼】

担当者名 /Instructor 江頭 理江 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・他 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本の小説で英語に翻訳されているものをテキストとして用い、まずは英語を読むことから始めて、最終的には英語と日本語との比較を試みながら、それぞれの文学の特徴を探ることを目的とする。講読型の授業を行うため、丹念に読むことが主要な目的であるものの、周辺世界も含めて広い視点から分析することも試みる予定である。

教科書 /Textbooks

KOKORO (Penguin Books Souseki Natsume)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

英和辞典

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクション
2. テキストを読む
3. "
4. "
5. "
6. "
7. 中間まとめ
8. テキストを読む
9. "
10. "
11. "
12. 最終まとめ
13. 最終まとめ
14. 日本文学と英米文学との比較
15. 授業全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

出席点 20パーセント レポート 20パーセント 最終試験 60パーセントで総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この授業科目の単位を取得するため、授業とは別に毎週90分程度の自習を行うこと。自習内容については毎回授業中に指示するので、指示に従って授業の予習・復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本文化英文講読【昼】

担当者名 /Instructor 江頭 理江 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・他 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本文化を英語で読むことによって、他国との比較を試みながら、自国文化のありかたについて考察することを授業の目的とする。具体的には英語に翻訳された日本の文学作品を用い、作品のテーマや特徴を考察しながら、英語で読み解く。この際日本語で読んだ場合には気付かないポイントに特に目を向けながら、1冊のテキストを読みとおす。最終的にはアメリカの文学作品などとの比較も試みる予定である。

教科書 /Textbooks

いくつかの作品の抜粋をテキストとして用いる予定であるが、さらに必要なものについては第1回目の授業時に具体的に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中、適宜指示をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回目 授業と使用テキストの概要説明
- 第2回目 テキストを読む
- 第3回目 テキストを読む
- 第4回目 テキストを読む
- 第5回目 テキストを読む。さらにここまでのまとめを行う。
- 第6回目 テキストを読む。
- 第7回目 テキストを読む。テーマと特徴の考察。
- 第8回目 テキストを読む。テーマと特徴の考察。
- 第9回目 テキストを読む。比較を試みる。
- 第10回目 テキストを読む。比較を試みる。
- 第11回目 ディスカッション。
- 第12回目 テキストのまとめ。
- 第13回目 テキストのまとめ。
- 第14回目 テーマ、特徴、比較についてのまとめ。
- 第15回目 授業全体のまとめと考察。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(授業に対する姿勢)20パーセント、小レポート30パーセント、最終テスト50パーセントで評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この授業に出席するためには、授業とは別に通常週当たり180分程度の予習、復習が必要である。予習、復習内容については授業中に指示する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日本文学を英語で読むことは、皆さんにとって新しい体験だと思います。是非楽しんでください!

キーワード /Keywords

日本の古典文学講読【昼】

担当者名 /Instructor 河北 靖 / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・他 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本の古典文学の二大ジャンルである、和歌と物語の関係を「伊勢物語」を通じて考える。現行の「伊勢物語」は全編で計125の短小な章段からなる物語であるが、どの章段にも必ず1首以上の和歌が配されている。歌物語と呼ばれる所以であり、和歌を基にして作られたものである。また、主要な章段群は「古今集」との関連が深い。これらのことをどう考えればよいのか、追究していく。

教科書 /Textbooks

石田穰二訳注『新版 伊勢物語』（角川ソフィア文庫）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

「伊勢物語」の主人公像を探る。
在原業平をモデルとするとされる本物語の主人公は、本当に実在人物業平なのか？そこには史実と虚構の交雑はないのか？どこまでが事実でどこからが創作なのか？主人公は一貫して「みやび」な人物か？変化はないか？あるとすればそれはなぜか？

- 1回 「伊勢物語」について【段階的成立論】
- 2回 在原業平について【三代実録】
- 3回 初冠から辞世まで【一代記的構成】
- 4回 二条后章段における主人公像(1) - 第4段【禁忌】
- 5回 二条后章段における主人公像(2) - 第5段【禁忌】
- 6回 二条后章段における主人公像(3) - 第6段【禁忌】
- 7回 付随章段群における主人公像【色好み】
- 8回 伊勢斎宮章段における主人公像(1) - 第69段その1【王権侵犯】
- 9回 伊勢斎宮章段における主人公像(2) - 第69段その2【王権侵犯】
- 10回 付随章段群における主人公像【色好み】
- 11回 東下り章段の構造 - 第9段その1【挫折と決意】
- 12回 4つの場面における主人公像 - 第9段その2【望郷】
- 13回 付随章段群における主人公像【流浪と放逸】
- 14回 古今和歌集との関係【史実と虚構】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み... 30% 試験... 60% レポート... 10%
出席が3分の2に満たない者は、試験を受けられない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

取り上げる章段について、本文を熟読して問題点の所在を確認しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス文化講読【昼】

担当者名 /Instructor 福島 勲 / FUKUSHIMA ISAO / 比較文化学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・他 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

フランスを語るうえで、移民の存在を欠かすことはできない。実際、十九世紀に始まる移民政策が生みだした多民族社会こそが、現在のフランス文化のしなやかで豊かな多様性の基礎をなしている。ただし、その裏面で、人種に対する根強い偏見も存在する。この授業では、モロッコ出身でパリに住む作家と10歳の娘の対話を読みながら、人種差別や植民地主義等について、平明だが的確な子供の目線から考え直してみたい。

教科書 /Textbooks

タハール・ベンジェルー『娘に語るラシズム』三浦信孝編注 (Le racisme expliqué à ma fille)、白水社、1990年、1680円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

開講時に指示

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 人種主義、差異 (pp. 5-7)
- 3回 外国人 (pp. 8-10)
- 4回 偏見 (pp. 11-13)
- 5回 欲動、差別、ゲッター (pp. 14-16)
- 6回 白人、黒人、メラニン (pp. 17-19)
- 7回 遺伝、クローン (pp. 20-22)
- 8回 聖書、コーラン、ユダヤ人 (pp. 23-25)
- 9回 拒絶 (pp. 26-28)
- 10回 スケープゴート (pp. 29-31)
- 11回 反ユダヤ主義 (pp. 32-34)
- 12回 ジェノサイド (pp. 35-37)
- 13回 奴隷制、アパルトヘイト (pp. 38-40)
- 14回 植民地主義 (pp. 41-43)
- 15回 移民 (pp. 44-47)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 50% 期末試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

フランス語文法の基礎を復習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

フランス語を1年以上学んでいる学生向けである。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

現代のフランス文化を知る上で必須のトピックです。

キーワード /Keywords

移民 人種差別 ポストコロナリズム

ドイツ文化講読【昼】

担当者名 岩本 真理子 / Instructor
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・他 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本とドイツの文化比較をテーマとするドイツ語テキストを読み、練習問題を解くことで、ドイツ文化理解を深めると同時に、ドイツ語の読解力や作文能力の訓練を行う。

教科書 /Textbooks

大谷弘道『ドイツ人に答えてみよう！(改訂版)』 三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 「住環境」テキスト読解
- 2回 「住環境」練習問題
- 3回 「入浴習慣」テキスト読解
- 4回 「入浴習慣」練習問題
- 5回 「食事とテレビ」テキスト読解
- 6回 「食事とテレビ」練習問題
- 7回 「病院で」テキスト読解
- 8回 「病院で」練習問題
- 9回 「弔辞の相手は？」テキスト読解
- 10回 「弔辞の相手は？」練習問題
- 11回 「労働契約」テキスト読解
- 12回 「労働契約」練習問題
- 13回 「印鑑とサイン」テキスト読解
- 14回 「印鑑とサイン」練習問題
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度40%、期末試験の成績60%で評価。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず独和辞書を持参すること。

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語読解能力がなければ履修は不可能。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン文化講読【昼】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・他 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業は、スペイン歴史・文化に関するテキストを読んで、おもに近代スペインの社会のありようや文化について学びます。具体的には、人々の娯楽と集いの場としてのテルトゥリア、カフェ、居酒屋から、劇場、レストランやホテル、フラメンコ・カフェなどの誕生とその後の変容を、社会・政治の変化と絡めて理解したいと思います。3年次のゼミと補完的な意味合いもあります。

教科書 /Textbooks

ゴンサレス・トゥトヤーノほか『集いと娯楽の近代スペイン-セビーリャのソシアビリテ空間へ』（彩流社、2011年夏出版）を予定。セビーリャの歴史地図やプリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 立石博高『スペイン歴史散策』行路社
- 同『スペインの食文化』農文協

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ソシアビリテとソシアビリテ空間について：導入的講義
- 2回 「啓蒙のテルトゥリアからロマン主義的居酒屋へ」
- 3回 テルトゥリアから叢生するさまざまなソシアビリテについて
- 4回 「家の外で飲む・食べる」(1) (旅館・飲食業に関連するソシアビリテ空間)
- 5回 セビーリャの近代都市生活
- 6回 「家の外で飲む・食べる」(2)
- 7回 集いと娯楽の場としての劇場について
- 8回 「劇場と社会」(1) 近代のオペラ劇場の誕生
- 9回 「劇場と社会」(2) 庶民の演劇熱と劇場の多様化
- 10回 オペラ『カルメン』(ビゼー作)を鑑賞
- 11回 オペラ『ノルマ』(ベッリーニ作)を鑑賞
- 12回 「カフェ・カンタンテ」：ブルジョワ的カフェから民衆的フラメンコ・カフェの誕生
- 13回 フラメンコ：フォルクローアから芸術へ
- 14回 ソシアビリテ空間は歴史のリズムに合わせて、どのように変化・発展してきたか？
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート... 70% 発表... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で使うテキストは、日本語で書かれています。けして難解な本ではありませんが、それぞれのテーマに関する用語の意味は事前に調べることを。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア文化講読【昼】

担当者名 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・他 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ロシア近現代の歴史書の講読により、近くて遠いロシアの政治社会、文化、ロシア人のメンタリティ、対外関係についての理解を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

高田和夫『近代ロシア社会史研究』、山川出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

田中・倉持・和田編『ロシア史』I、II、III、山川出版社
和田春樹『ロシア史』、山川出版社
クリュチェフスキー著 八重樫喬任訳『ロシア史講話』第4、5巻、恒文社
小塩節『ドイツの都市と生活文化』、講談社学術文庫

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 近代ロシアの都市と農村
- 2回 近代ロシアにおける「科学と文化」の時代性①
- 3回 近代ロシアにおける「科学と文化」の時代性②
- 4回 「科学と文化」の時代における知の普及活動①
- 5回 「科学と文化」の時代における知の普及活動②
- 6回 1 - 5回のまとめ
- 7回 近代ロシアにおける都市の風景①
- 8回 近代ロシアにおける都市の風景②
- 9回 工場地区と工場労働者①
- 10回 工場地区と工場労働者②
- 11回 1870年代ペテルブルグ労働運動
- 12回 工場地区と工場労働者
- 13回 近代ロシアにおける労働者の社会的地位
- 14回 7 - 14回のまとめ
- 15回 全体のまとめと考察

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み60%、質疑応答40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

出席者には毎回、テキストの内容要約の発表を課するので、時間をかけた予習が必要。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 1 (比較ドイツ文化) 【昼】

担当者名 /Instructor 岩本 真理子 / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ドイツ文化研究に必要な総合的能力を習得する事を目標とし、ドイツ文化に関する情報収集などの訓練を行う。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ドイツ文化の基礎知識①
- 2回 ドイツ文化の基礎知識②
- 3回 映像で見るドイツ文化①
- 4回 情報収集法①
- 5回 情報収集法②
- 6回 課題研究発表①
- 7回 課題研究発表②
- 8回 課題研究発表③
- 9回 資料の読み方①
- 10回 資料の読み方②
- 11回 映像で見るドイツ文化②
- 12回 自由研究発表①
- 13回 自由研究発表②
- 14回 自由研究発表③
- 15回 まとめとレポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

研究発表と授業への参加度...80% レポート ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず独和辞書を持参すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 1 (日本文化) 【昼】

担当者名 五月女 晴恵 / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本美術史入門書の講読・要約・学習を行うことによって、日本美術の多様性を確認する。具体的には、各特質ごと(章ごと)に担当者を決めて、具体例として挙げられている作品の概要や、テキストに出てくる専門用語等を調べ、各章(担当箇所)で論じられている内容をわかりやすくまとめて発表する。
尚、博物館・美術館への見学も盛り込む予定である。

教科書 /Textbooks

辻惟雄『岩波 日本美術の流れ7 日本美術の見方』岩波書店

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 演習の手順の確認、各自の担当箇所の決定
- 2回 日本絵画の見方入門
- 3回 博物館あるいは美術館見学
- 4回 四年生の卒論構想発表会への参加
- 5回 四年生の卒論構想発表会への参加
- 6回 四年生の卒論構想発表会への参加
- 7回 四年生の卒論構想発表会への参加
- 8回 第二章「美しい自然」の担当者の発表
- 9回 第三章「飾る喜び」(前半)の担当者の発表
- 10回 第三章「飾る喜び」(後半)の担当者の発表
- 11回 第四章「飾らない美意識」の担当者の発表
- 12回 第五章「遊戯する心」(前半)の担当者の発表
- 13回 第五章「遊戯する心」(後半)の担当者の発表
- 14回 第六章「聖なるもの、縄文的なるもの」の担当者の発表
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表内容...70% レポート...10% 授業への参加態度...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

発表者は、必ず事前にレジユメのチェックを受けること。
発表者以外の者も、必ずテキストを読んで授業に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 1 (日本文化) 【昼】

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

平成23年度秋の北九州市立自然史・歴史博物館における展示の準備作業を行うとともに、平成24年度の北九州市立自然史・歴史博物館における展示の企画のための調査・報告を行う。
また4年生による論文紹介・卒論構想発表への質疑を行う。

教科書 /Textbooks

ありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

報告テーマに関する文献リストを配布します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 大学でのガイダンス
- 2回 4年生の報告への質疑①
- 3回 4年生の報告への質疑②
- 4回 博物館での展示準備①
- 5回 4年生の報告への質疑③
- 6回 4年生の報告への質疑④
- 7回 博物館での展示準備②
- 8回 4年生の卒論構想発表①
- 9回 4年生の卒論構想発表②
- 10回 4年生の卒論構想発表③
- 11回 博物館での展示準備③
- 12回 展示のための調査報告①
- 13回 展示のための調査報告②
- 14回 博物館での展示準備④
- 15回 学内でのまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表内容と出席状況による。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業時間における博物館での作業(4回予定)に関しては火曜午前10時に博物館に集合すること。
授業時間内での博物館での作業と市内調査の交通費は原則として自己負担とします。
博物館で展示準備とワークショップには必ず参加して下さい。
9月に学外授業として1~2泊で展示のミニ研修と調査を行うので必ず参加して下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 1 (日本文化) 【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

年中行事をテーマとする。正月、雛祭り、七夕、お盆、様々な祭りなど、年中行事は今日の我々の生活にとっても親しみ深い習俗である。平安時代の年中行事を中心に、今日に至るまでの各時代の変遷を押さえながら、それぞれの年中行事の意義について考えていきたい。各自、個別の年中行事を担当してもらい、年中行事書・儀式書や民俗学の研究成果などを材料に報告してもらう。

教科書 /Textbooks

授業の場で適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山中裕『平安朝の年中行事』(塙書房・塙選書)
柳田國男『年中行事覚書』(講談社学術文庫)
『平安時代儀式年中行事事典』(東京堂出版)
『全国年中行事事典』(東京堂出版)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 平安時代の年中行事の概要【年中行事】【祭】【仏事】
- 3回 年中行事の研究(1)
- 4回 年中行事の研究(2)
- 5回 受講生による研究発表
- 6回 同上
- 7回 同上
- 8回 同上
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 同上
- 14回 同上
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

研究発表にあたっては、事前に発表内容について報告し相談をうけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

演習は学生が主役です。意欲的に発表に望み、積極的に発言して下さい。

キーワード /Keywords

年中行事

演習 A - 1 (メディア文化) 【昼】

担当者名 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

近現代日本のメディア文化・表象文化を研究するための基礎をかためることが目標となる。
前期は、文献購読を通して、読む・レジュメをつくる・プレゼンテーションする・コメントする・議論するという一連の過程に自覚的に取り組み、人文学的な知的探求に取り組むための基礎の錬成を目指す。「論文」という文章形式についての理解を深める。

教科書 /Textbooks

授業中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 リサーチ入門
- 3回 文献購読1
- 4回 文献購読2
- 5回 文献購読3
- 6回 文献購読4
- 7回 文献購読5
- 8回 文献購読6
- 9回 文献購読7
- 10回 グループ研究1
- 11回 グループ研究2
- 12回 グループ研究3
- 13回 グループ研究4
- 14回 グループ研究5
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点... 50% 発表... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本演習では、チーム作業・全体討議を重視します。演習に積極的に参加してくれる受講生を歓迎します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 1 (日本古典文学) 【昼】

担当者名 河北 靖 / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「大式三位集」を読む。大式三位とは、かの紫式部の娘で、平安中期の歌人としても名高い。その家集が「大式三位集」あるいは「藤三位集」である。自筆本は現存しないが、近年冷泉家の時雨亭文庫から発見された写本の影印本により、全63首を丁寧に読む。それによって、歌風・表現や人的交流の実態を探る。

教科書 /Textbooks

上記影印本の複写プリント

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

上記影印本の複写プリント

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 教員による模範授業(1・2番歌)
- 3回 担当者による発表と質疑(3・4番)
- 4回 同上(5・6番)
- 5回 同上(7・8番)
- 6回 同上(9・10番)
- 7回 同上(11・12番)
- 8回 同上(13・14番)
- 9回 同上(15・16番)
- 10回 同上(17・18番)
- 11回 同上(19・20番)
- 12回 同上(21・22番)
- 13回 同上(23・24番)
- 14回 同上(25・26番)
- 15回 前半のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表 50% レポート 50%
無断欠席は不可

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

次回の予定部分について予め翻字(第1回に説明)しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 1 (日本近代文学) 【昼】

担当者名 /Instructor 赤塚 正幸 / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
日本近代文学の研究方法の習得

教科書 /Textbooks
ゼミで作成したものを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
1回 ガイダンス
2回～15回 4年生の発表を聞き、内容に関して質疑応答をしつつ、研究方法や発表の仕方、発表のポイントなどについて身につけていく

成績評価の方法 /Assessment Method
平常点 (演習時での質疑応答等の参加の状況)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
作品をきちんと読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 1 (日本近代文学) 【昼】

担当者名 /Instructor 馬場 美佳 / MIKA BABA / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

明治・大正期の小説を読んでいく。一作ずつ丁寧に読み進めながら、「読解」から「解釈」することにむけてのレベルアップをはかる。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 各種、日本文学史に関する本。
- 「明治文学全集」
- 「新日本古典文学大系 明治編」
- 「編年体大正文学全集」
- 「昭和文学全集」

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 演習の目的、手順等について概説。
- 第2回～15回 とりあげた作品についてのコメントを全員述べ、議論していく。

成績評価の方法 /Assessment Method

演習内容... 50% 授業への意欲的な参加... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

作品をきちんと読み、意見を述べるための事前準備。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 1 (日本語学) 【昼】

担当者名 /Instructor 堀尾 香代子 / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス 3年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、卒業論文で国語学ならびに日本語学上の問題を取り上げようとする人が、論文執筆に向けて必要な準備を行なうことを目的とします。国語学・日本語学についての基礎的な知識や実証的論証方法を習得することを目指すとともに、それぞれのことばや言語現象と日本人の思考方法との関わりについても考察します。扱う言語資料は、受講者の興味や関心を考慮に入れつつ決定する予定です。授業は、ゼミ生自らが国語学・日本語学上の問題点を見出し、調査・検討した結果を発表するという形態をとります。発表に際して必要となる文献収集の方法や研究方法についての助言・指導はその都度具体的に行なってゆきます。また、発表内容についてゼミ生全員が意見を出し合い、討議を重ねてゆくことを通して、論理的に思考する力・考察する力・表現する力を養っていきます。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。授業中に適宜プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 演習の運営方針 卒業論文執筆までのスケジュール
- 第2回 国語学・日本語学研究の諸分野
- 第3回 先行研究の収集方法 文献資料の種類と扱い方
- 第4回 レジユメの作成要領 模擬発表
- 第5回 各人の発表(1)
- 第6回 各人の発表(2)
- 第7回 各人の発表(3)
- 第8回 各人の発表(4)
- 第9回 各人の発表(5)
- 第10回 各人の発表(6)
- 第11回 各人の発表(7)
- 第12回 各人の発表(8)
- 第13回 各人の発表(9)
- 第14回 各人の発表(10)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表...50% 討議...20% レポート...30%
その他、出席を重視します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

十分な発表準備を行うとともに、休み期間中の課題にしっかり取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 1 (日本語教育学) 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、演習を学習共同体としてとらえ、共同体という集団の中での個々人の人間的成長を目指します。なぜなら日本語教育は、教師が単に知識を与え、学習者が言語技能の習得を目指すのではなく、人と人との触れ合いを通して、そこに関わる全ての人が新たな「自己」を構築していくものだからです。

演習A-1では、日本語教育という枠から離れて広く教育の研究にはどのようなものがあるのか、どんな方法で行われているのかを幅広く知ってもらいたいと思います。

教科書 /Textbooks

『教育研究のメソドロジー』(秋田喜代美他、東京大学出版会)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 秋田喜代美他『事例から学ぶはじめての質的研究法：教育・学習編』東京図書
- 好井裕明『「あたりまえ」を疑う社会学 - 質的調査のセンス』光文社新書
- 谷岡一郎『「社会調査」のウソ・リサーチ・リテラシーのすすめ』文春新書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 教育フィールドへのいざない
- 3回 学校・教室研究 / 発達研究
- 4回 学習過程の研究 / 学校文化の研究
- 5回 異文化の研究 / 研究者
- 6回 復習及び、発表担当決め
- 7回 質的調査と学校参加型マインド
- 8回 数量的方法
- 9回 授業のディスコース分析
- 10回 エスノグラフィー
- 11回 アクション・リサーチ
- 12回 ライフストーリー研究
- 13回 国際比較研究
- 14回 教育実践の歴史的研究
- 15回 総括及び、夏休みの学習計画

成績評価の方法 /Assessment Method

発表(レジュメを含む)... 50% 参加者としての貢献度... 30% レポート... 20%
(主に発表を聞く時)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 1 (アメリカ文学) 【昼】

担当者名 /Instructor 新村 昭雄 / Shinmura Akio / 比較文化学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

20世紀前半迄、米国では豚肉の方が牛肉より好まれていた。中華料理の主役は豚だ。豚は人気ものだったのだ！人間もそうだった。太った娘でなければもてなかつた。男も腹が出て恰幅がよくなければ尊敬されなかつた。女もそうだった。ルノアールが描いた美女をみるがいい。昔は娘を家に閉じ込め、よく太らせて嫁にやった。“ヤセ”が流行したのはつい最近のことだ。ツイギーが“小枝のような”(Twiggy) 細い手足と口リータ系の魅力で60年代の文化を象徴するトップ・モデルとなり、人類史上初めて“ヤセ”が大人気となった。それは極めて異常な出来事だった。流行に敏感な当ゼミでは豚をテーマとする。「プタ！」とはっきり言われると、もうそれ以下がないような気がして潔い！「イヌ！」「ネズミ！」「サル！」と罵られるよりは余程いい。豚と言えば、映画「ベイブ」と侮る勿れ！アホな英国コメディじゃない！昔見た映画に「チコと鯨」というのがあった。鯨を助けたミクロネシアの少年と小さな鯨との“心の温まる”交流を描いたものだ。「ジョーズJAWS」とは大違い！そう、本作品は、豚と少年との心の交流を描いたものだ。だがしかし...ソウ現実には悲しいものだ...

『豚の死なない日』(A Day No Pigs Would Die) はヴァーモント州の【シエーカー教徒】の貧農に生まれた少年の視点を通して描かれる。人間が【生きるということ】と家族の絆の大切さを切なく温かく描いた作品である。少年の父は仕事で毎日豚を殺さねばならない。職業に貴賤はないというが、それでも進んでやる仕事とそうでない仕事はある。その仕事をやらなければ生きていけないという状況は辛い！だが人は、毎日平気で食べている豚や牛が、屠殺する人がいて口に入るのであるということをおぼえている。やがて結核で死を覚った父は、少年を独り立ちさせるべく、【厳しく教育】する。父の教えは、現在は衰退したが19世紀の米国で隆盛を極めた、質素と儉約と合理精神を旨とし、労働で神に仕えることを最高の喜びとした、キリスト教の一派【シエーカー教】の教えだ。この作品を読むとき、人が【働く】ということとは何か？そして、【良い仕事】とは何か？を改めて考えずにはおかない。人はなぜ【働く】のか？現代では、【労働】は、金を稼ぐためだけの労苦となった。特に資本主義の下では働くことの意味は危機に瀕している。本来生きるための労苦だけではなかつたはずだ。【良い仕事】をしたいと人は願う。だが良い仕事とは何か？当時の状況や倫理観と現在とは、歴史的・社会的環境が異なる。今、勤勉であることが良い仕事を決定づけるのでもなければ、働くことを意味するのでもない。しかし今、人は自らが働くことの真の意味について無頓着ではなからうか。『豚の死なない日』で読み解くべき今日的テーマはそこにある。金原氏の翻訳は、原著で醸しだされる雰囲気やリズムをかなりの精度で捉え、素晴らしい日本語として結実させている(金原氏は、数年前史上最年少の芥川賞作家金原ひとみさんの父だが、『蛇とピアス(イタリアで大ヒット中！)』の正反対に位置する作品だ)。その意味で、特に【翻訳】や通訳の仕事をめざそうと考えている人たちに読んでいただきたい作品である。

1学期に『豚の死なない日』を読んだのち、【働く】とはどういう意味を持つのかを議論し、やっつと2学期に【労働】の対価である食にありつける(それまでは【断食】)。『豚の死なない日』で、人間の肉食への異常な欲求と、その反対に屠殺への嫌悪を学ぶと、【肉食】とは何か？その反対の、【菜食】主義とは何か？を知りたくなろう。世紀のヒロイン・ダイアナ妃も菜食主義者だった。彼女は、無差別に人を殺害する非人間的な兵器である地雷の撤去運動に熱心な心優しい人だったが、その一方で、世紀の人殺し、ホロコーストの無情なファシスト・ヒットラーも菜食主義者だった。肉食が人間の闘争心を掻き立てるのも事実だが、菜食がいいというわけでもない。但し、西武ライオンズの広岡監督は玄米食主義者で、選手にも強要して常勝球団を作った。一方、日本ハム(肉食)球団は、一発の長打力はあったが負けた。菜食主義は、ギリシャの哲学者ピタゴラスに始まり、インドの仏教において重要な規律となり、やがてヒンズー教徒は「牛を殺すこと」を【タブー】とした。ユダヤ教徒もやがて、「血抜きしていない肉」をタブーとしただけでなく、その他多くの鳥類・魚類・動物を食べることを禁じた。キリストは、それらのタブーを積極的には保守せず、心の問題としてそれぞれの判断に任せた。イスラームは、ユダヤ教の食物規定の多くを破り、「血抜きしていない肉」と「豚肉」のみをタブーとし、ついに親鸞は、すべての戒を破り、完全に肉食を自由化した。そして、

20世紀初頭、フォードはベルトコンベア式大量生産方式を編み出し、【大量消費】時代の幕開けとなった。やがて、それはそれまで不可能とされていた農業や【食文化】へと広がった。機械が導入され、冷凍食品が生まれ、【価格破壊】が起き、安い肉(粗悪な肉)、【安い労働力】(パートタイマー)が求められた。中小の農場は破産し、熟練を要する料理人が解雇され、大量生産する大農場と安い高校生のパートや外国人労働者がそれに取って代わった。しかし、イタリアの小さな町で、アメリカの【ファースト・フード】文化に対抗して、【スロー・フード】運動が起き、それは予想に反して一気に世界に広がった。スロー・フード運動は、単に田舎の【手作り】の食べ物を保守しようという運動のみならず、【ファースト・フード】のアメリカ機械文明が生み出した社会や文化に対する一大反対運動であった。やがてそれは大きなうねりとなって世界中に広がっていった。

教科書 /Textbooks

Robert Newton Peck : A Day No Pigs Would Die 『豚の死なない日』(白水社Uブックス)
マーヴィン・ハリス著『食と文化の謎』岩波現代文庫。
清水正徳著『働くことの意味』(岩波新書)
中島義道『働くことがイヤの人のための本—仕事とは何だろうか』日本経済新聞社
その他の資料は配付します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

アメリカ関係の参考書
食文化に関する参考書
働くことに関する参考書

演習 A - 1 (アメリカ文学) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめ—ゼミの発表とレポートの書き方、提出方法など
- 2回 Robert Newton Peck : A Day No Pigs Would Die第1～5章
- 3回 Robert Newton Peck : A Day No Pigs Would Die第5～10章
- 4回 Robert Newton Peck : A Day No Pigs Would Die第11～15章
- 5回 Robert Newton Peck : A Day No Pigs Would Die第16～最終章
- 6回 清水正徳著『働くことの意味』(岩波新書)序【人間にとって労働とは】
- 7回 清水正徳著『働くことの意味』(岩波新書)I～II章【労働観の系譜】
- 8回 清水正徳著『働くことの意味』(岩波新書)III～結び【現代社会と働くことの意味】
- 9回 杉村芳美著『「良い仕事」の思想：新しい仕事倫理のために』I～II章【労働倫理】
- 10回 杉村芳美著『「良い仕事」の思想：新しい仕事倫理のために』III～IV章【良い仕事】
- 11回 杉村芳美著『「良い仕事」の思想：新しい仕事倫理のために』V～VI【善い行い】
- 12回 マーヴィン・ハリス：『食と文化の謎』岩波現代文庫1～3章【肉、牛、豚】
- 13回 マーヴィン・ハリス：『食と文化の謎』岩波現代文庫4～6章【馬、牛肉、牛乳】
- 14回 マーヴィン・ハリス：『食と文化の謎』岩波現代文庫7～9章【昆虫、ペット、人肉】
- 15回 まとめ—最終レポート(小論文)の書き方、提出方法など

成績評価の方法 /Assessment Method

発表(50%)とレポート(50%)により評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

課題レポートは、前日までに添付ファイルで送信すること。

司会者は、話が脱線し、とんでもない方向に行かないように議事進行に努める。

質問者は、「○○についてお尋ねします」「○○のところが分からないのですが教えて下さい」ではなく、「私は△△について、××と考えますが、あなたはどのように思いますか」と質問するように努める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

【A Day No Pigs Would Die】【シエーカー教】【生きる】【厳しい教育】【働く】【良い仕事とは】【働く Vs. 労働】【翻訳】【断食】【肉食】【菜食】【哲学者ピタゴラス】【仏教】「牛を殺すな」【タブー】【ユダヤ教】【タブーを破ったキリスト教】【大量消費】時代【食文化】【価格破壊】【安い労働力】(パートタイマー)アメリカの【ファースト・フード】文化に対抗して、【スロー・フード】運動【手作り】

演習 A - 1 (英米文学) 【昼】

担当者名 /Instructor 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、人間に関する様々な問題について考え、皆さんと一っしょに語り合いたいと思います。前期は主に英米文学の中の短編（児童文学を含む）を数多く読み、それぞれの作品における様々な問題点やテーマ（生と死、愛、心の内奥の暗黒、人間の心理の不可思議さ、差別、女性の自由・自立、ピューリタニズム、自然と人間、人間の卑小性、グロテスクさ、機械と人間など）に関する討論を通じて、それぞれの作家の特徴や傾向をつかむと同時に、文学作品の鑑賞と討論の面白さをみんなと共有します。比較の視点も導入します。作品は主に翻訳を利用しようと考えています。

- * ゼミの目的： 1. 自己発見 2. 議論のコツのマスター 3. 仲間作り
- * ゼミ通信や4年生の卒論（中間）発表会、ゼミ合宿、その他を通して3、4年生の交流を図ります。
- * ゼミ通信や卒業論文集などを作成する予定。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自己紹介、今後の流れの説明、その他いろいろ
- 2回 「蠅」 by K. Mansfield ("The Fly") (内容確認など、問題提起)
- 3回 「蠅」(議論)
- 4回 「わがままな巨人」 by O. Wilde ("Selfish Giant")
- 5回 「善良な田舎者」 by F. O'Connor ("Good Country People")
- 6回 「1時間の物語」 by K. Chopin ("The Story of an Hour")
- 7回 「牧師の黒ヴェール」 by N. Hawthorne ("Minister's Black Veil")
- 8回 「アウルクreek橋の出来事」 by A. Bierce ("An Occurrence at Owl Creek Bridge")
- 9回 「家族の絆」 by 渡邊浩式
- 10回 「黒猫」 by E. A. Poe ("The Black Cat") (内容確認、問題提起)
- 11回 「黒猫」(議論)
- 12回 「いなくなったフィービー」 by T. Dreiser ("The Lost Phoebe")
- 13回 「書記バートルビー」 by H. Melville ("Bartleby")
- 14回 デイベートの説明と実施
- 15回 まとめ(合宿に備えて)

成績評価の方法 /Assessment Method

担当時の準備... 30% レポート... 50% 平常点(発表、討論の参加など)... 20% (出席重視)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当者になった場合は、授業前に議論のための資料や参考文献などを読むなど、下準備をしっかりとした上で担当当日に臨んでください。配布資料の準備も必要です。担当者でない場合も、自分の意見が述べられるように問題意識を持って臨んでください。

履修上の注意 /Remarks

演習 A - 1 (英米文学) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

「切磋琢磨」「議論」「グループ活動」「仲間づくり」「自己発見」

演習 A - 1 (アメリカ文学) 【昼】

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

アメリカ文学、アメリカ映画を題材として用いる、アメリカ研究のゼミです。アメリカ文学・映画の中に登場する会話、情景描写、ストーリー展開、登場人物の描かれ方などを分析することにより、作品を背後で支配しているアメリカ人の美意識や、価値観がいかなるものであるかを考えていきます。アメリカ文学・映画とアメリカの現実との関係がいかなるものであるかを探求します。その作業を通して、アメリカ(人、文化、社会、歴史)の特質に対する理解を深めていくことを主な目的とします。

ゼミのやり方としては、毎回、担当者を3名決め、B4のレジュメを作成してもらった上で、レジュメの解説を行なってもらい、その発表内容をゼミ生全員で検討する形で進めていきます。発表する際の視点、レジュメ作成の要領、作品分析の方法については、最初の時間に詳しく説明します。発表に必要な資料の配置場所を知ってもらうため、図書館巡りも最初に行ないます。

教科書 /Textbooks

取り上げる題材はゼミ生と相談し、できるだけゼミ生の意向が反映されるようにします。昨年は、小説『ハックルベリー・フィンの冒険』を翻訳で読み、アメリカの人種問題に関する理解を深めました。映画は、『ブラダを着た悪魔』、『モンスターズ・インク』、『アイ・アム・サム』、『チャーリーとチョコレート工場』などの内容を様々な視点から議論しました。映画は全てがゼミでの議論に耐えられるわけではないため、ゼミの題材となると、選ぶのが意外と難しいものです。そのため、例年、題材としてアメリカ小説も用いています。ゼミ生が卒論で取り上げることが決定した作品は、最優先で題材として取り上げます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『早わかりアメリカ』 302.53 I32
- 『そうだったのかアメリカ』 302.53 I33
- 『読んで旅する世界の歴史と文化』 亀井俊介 290.8 Y82
- 『異文化社会アメリカ』 示村陽一 302.53
- 『アメリカ合衆国とは何か』 253. Ta45
- 『アメリカ人の性格』 ゴーラー 書庫にしかない 361.6 G67
- 『この一冊でアメリカの歴史がわかる』 253.01 Sa69
- 『アメリカの大衆文化』 亀井俊介 253.07 H85
- 『アメリカン・ウェイ・オブ・ライフ』 302.53 B89
- 『ヨーロッパ人のアメリカ論』(アメリカ古典文庫21) 253 A44 1-21
- 『アメリカの歴史 テーマで読む多文化社会の夢と現実』(有賀夏紀) 253 A79
- 『アメリカ人の思考法』 エドワード・スチュワート 361.42 St5
- 『文明としてのアメリカ』(全5巻) 日本経済新聞社 302.53
- 『アメリカの歴史を知るための60章』 富田虎男 253 To58
- 『アメリカの文化』 現代文明を作った人たち 亀井俊介
- 『アメリカの社会』 変貌する巨人 猿谷要
- 『アメリカ文化事典』 亀井俊介 研究社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 作品分析の方法やレジュメの作成要領の説明、参考文献などの紹介
- 2回 図書館めぐり、文献の検索方法の再確認
- 3回 『ハックルベリー・フィンの冒険』に関する発表と議論
- 4回 『ハックルベリー・フィンの冒険』に関する発表と議論
- 5回 『ハックルベリー・フィンの冒険』に関する発表と議論
- 6回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論
- 7回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論
- 8回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論
- 9回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論
- 10回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論
- 11回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論
- 12回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論
- 13回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論
- 14回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論
- 15回 まとめ、夏休みの課題レポートに関する説明

成績評価の方法 /Assessment Method

出席、ゼミの参加への積極性...50% 発表内容...50%

演習 A - 1 (アメリカ文学) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、担当者を3名割り振り、B4のレジユメを作成してもらった上で、レジユメの解説をゼミの時間をお願いします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 1 (フランス文化) 【昼】

担当者名 福島 勲 / FUKUSHIMA ISAO / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

このゼミでは文学、映画、美術作品からフランス文化に迫ります。今年度のテーマは「記憶」「戦争」「表象」ですが、何よりも大事にしたのは、各学生が、フランス文化について知識、理解を深めながら、自分の興味を発見し、それを言葉で他人に伝える力を養うことです。まずは、提示された作品について、みんなで意見や分析を述べることから始め、後半では自分でテーマや作品を選び、それについて発表してもらいます。いろいろな作品を読むこと、観ることが絶対の条件となります。

教科書 /Textbooks

テキストはなし。必要な場合はプリント配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

開講時に指示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回～4回 作品についての討論
- 5回～14回 個人発表
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表・・・40% レポート・・・40% 平常点・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各発表の後、そのテーマ・作品についてのレポートを全員が翌週までに提出。

履修上の注意 /Remarks

学生の発表主体の授業です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

作品と各個人が向かい合うことの面白さ、また、その面白さを他人に伝えることの難しさと楽しさを学んでもらえたらと思います。

キーワード /Keywords

記憶 戦争 表象 映像 テキスト オブジェ

演習 A - 1 (アメリカ文化) 【昼】

担当者名 /Instructor 寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

アメリカ合衆国の歴史(政治・社会・文化)を中心としたアメリカ地域研究を行い、学問の方法に触れる。

教科書 /Textbooks

必要な文献を授業の最初に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

開講時および授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 演習の進め方、テキスト選定などについての話し合い。
- 2回 レジユメの作り方、発表の仕方についての説明。
- 3回 受講者による発表・討議。
- 4回 受講者による発表・討議。
- 5回 受講者による発表・討議。
- 6回 受講者による発表・討議。
- 7回 受講者による発表・討議。
- 8回 受講者による発表・討議。
- 9回 受講者による発表・討議。
- 10回 受講者による発表・討議。
- 11回 受講者による発表・討議。
- 12回 受講者による発表・討議。
- 13回 受講者による発表・討議。
- 14回 受講者による発表・討議。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、授業への貢献度、発表内容で総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講生は全員、毎回テキストを読み込んで授業に出席すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 1 (スペイン史) 【昼】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

このゼミは歴史学からのスペイン研究です。わが国でこれまで蓄積された参考文献案内をはじめ、テキストにそって、多様な地域からなるスペインの歴史や文化に接近し、スペインの理解を深めます。ゼミ参加者の関心あるテーマに関する報告もしていただきます。

教科書 /Textbooks

- 立石博高ほか編『スペインの歴史』昭和堂、1998年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に必要に応じて文献を紹介します。以下は、授業と関連する有用な本。
○福井憲彦『ヨーロッパの社会史』岩波書店、2003年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入的な講義とゼミの進め方
- 2回 スペイン中世における諸地域の形成
- 3回 西欧のなかの中世イベリア世界
- 4回 中世スペイン：テキストの輪読(1)
- 5回 中世スペイン：テキストの輪読(2)
- 6回 近世スペインの国家と地域
- 7回 大航海時代のスペイン
- 8回 近世スペイン：テキストの輪読(1)
- 9回 近世スペイン：テキストの輪読(2)
- 10回 スペイン王国の構造
- 11回 啓蒙の時代
- 12回 近代スペイン：テキストの輪読(1)
- 13回 近代スペイン：テキストの輪読(2)
- 14回 近代の幕開け
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...50% 報告...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストは事前に読むこと。授業中は質疑応答などを通して積極的に参加する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 1 (ロシア文化) 【昼】

担当者名 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

多民族社会における多言語・多文化の社会現象、対立や共生について理解を深めること、
研究発表・論文作成のための基本的ルール・技能の習得、を目的とする。

教科書 /Textbooks

プリント配布予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

原尻英樹編著『世界の民族 = 民族形成と近代』放送大学教育振興会、1998年
石井米雄・山内昌之編『日本人と多文化主義』山川出版社、2000年
三浦信孝編『多言語主義とは何か』藤原書店、1997年
江原武一編著『多文化教育の国際比較』玉川大学出版部、2002年
馬淵仁著『「異文化理解」のディスコース』京都大学学術出版会、2005年
東照二『バイリンガリズム』講談社、2000

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講読テキストの選択
- 2回 講読テキストの選択、レジюме作成・要約方法について指導
- 3回 講読テキストの要約発表、議論、レジюме作成・要約方法について指導
- 4回 講読テキストの要約発表、議論、レジюме作成・要約方法について指導
- 5回 講読テキストの要約発表、議論、レジюме作成・要約方法について指導
- 6回 クレオール・多言語主義に関するビデオ鑑賞：内容について議論
- 7回 講読テキストの要約発表、議論、レジюме作成・要約方法について指導
- 8回 講読テキストの要約発表、議論、レジюме作成・要約方法について指導
- 9回 講読テキストの要約発表、議論、レジюме作成・要約方法について指導
- 10回 アジアの国語教育関係のビデオ鑑賞：内容についての議論
- 11回 アジアの国語教育関係のビデオ鑑賞：内容についての議論
- 12回 アジアの国語教育関係のビデオ鑑賞：内容についての議論
- 13回 要約発表における重要事項・重要用語のまとめ
- 14回 文献・資料検索方法、研究テーマ選択などの指導
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 60%、質疑応答 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

社会言語学、民族文化関係の書を複数冊読んで、専門用語や内容を理解し、授業準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 2 (比較ドイツ文化) 【昼】

担当者名 岩本 真理子 / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

演習 A - 1 の続き。1学期に習得した知識や研究方法を応用して、課題研究発表と自由研究発表を行い、ドイツ文化に関する理解を深める。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ドイツ文化の知識・応用編①
- 2回 ドイツ文化の知識・応用編②
- 3回 映像で見るドイツ文化①
- 4回 課題研究発表①
- 5回 課題研究発表②
- 6回 課題研究発表③
- 7回 資料の利用法研究①
- 8回 資料の利用法研究②
- 9回 インターネットの利用法①
- 10回 インターネットの利用法②
- 11回 自由研究発表①
- 12回 自由研究発表②
- 13回 自由研究発表③
- 14回 研究発表に関する質疑応答
- 15回 まとめとレポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

研究発表と授業への参加度 ... 80% レポート ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず独和辞書を持参すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 2 (日本文化) 【昼】

担当者名 /Instructor 五月女 晴恵 / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1学期の入門書学習や、日本美術史の授業、さらには、これまでの美術館・博物館・寺院等への見学などにおいて興味を持った作品あるいは画家を各自一つづつ選び、その作品の概要(図像・材質・技術など)・研究史・残された問題点をまとめて発表する。それによって、文献の集め方、先行研究のまとめ方、美術史的な研究方法の習得を目指す。
尚、博物館・美術館への見学も盛り込む予定である。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 演習の手順の説明、発表する作品あるいは画家の決定
- 2回 博物館あるいは美術館見学
- 3回 博物館あるいは美術館見学
- 4回 発表準備の進展について確認
- 5回 発表準備の進展について確認
- 6回 発表とディスカッション
- 7回 発表とディスカッション
- 8回 発表とディスカッション
- 9回 発表とディスカッション
- 10回 発表とディスカッション
- 11回 発表とディスカッション
- 12回 発表とディスカッション
- 13回 博物館あるいは美術館見学
- 14回 卒論構想発表に向けての準備
- 15回 卒論構想発表に向けての準備

成績評価の方法 /Assessment Method

発表内容...70% レポート...10% 授業への参加態度...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

発表者は、必ず事前にレジユメのチェックを受けること。
また、各自が何について発表するかは周知するので、発表者以外の者も、どのような作品あるいは画家であるか事前に確認して授業に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 2 (日本文化) 【昼】

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

平成24年度の北九州市立自然史・歴史博物館における展示の企画のための分担を決めて調査・報告を行う。また関心のあるテーマについての報告を行う。
また4年生による卒論中間報告への質疑を行う。

教科書 /Textbooks

ありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

展示企画に関する文献目録を配布する。
関心のあるテーマについては○『日本の近世』全18巻(中央公論社)または卒業論文集『青雲史学』第1～8号を参考にすること。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 第1次テーマ報告①
- 3回 第1次テーマ報告②
- 4回 博物館展示企画①
- 5回 第1次テーマ報告③
- 6回 4年生卒論中間報告①
- 7回 4年生卒論中間報告②
- 8回 博物館展示企画②
- 9回 4年生卒論経過報告③
- 10回 第2次テーマ報告①
- 11回 第2次テーマ報告②
- 12回 博物館展示企画③
- 13回 第2次テーマ報告③
- 14回 博物館最終プレゼン
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席状況と発表内容による。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業時間における博物館での作業(4回予定)に関しては火曜午前10時に博物館に集合すること。
授業時間内での博物館での作業と市内調査の交通費は原則として自己負担とします。
博物館で展示準備とワークショップには必ず参加して下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 2 (日本文化) 【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

テーマは「古記録を読む」。日本宗教史の研究のためには、日本漢文を読解する能力をある程度身につけなければならない。平安時代に成立した『扶桑略記』を取り上げ、輪読していく。

『扶桑略記』は編年体歴史書であり、神代から平安末期までの歴史が叙述されている。僧侶が編纂に深く関与したと考えられており、とりわけ仏教史・宗教史に関する記述が豊富である。演習では平安時代の記事を読みながら、読解だけでなく当時の宗教のあり方についても学んでいきたい。

教科書 /Textbooks

授業の場で適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『新編国史大系 扶桑略記』 (吉川弘文館)
- 『平安時代史事典』 (角川書店)
- 『国史大辞典』 (吉川弘文館)
- 阿部猛編『古文書古記録語辞典』 (東京堂書店)
- 築島裕編『訓読語彙集成』 (汲古書院)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 『扶桑略記』について
- 3回 受講生による研究発表
- 4回 同上
- 5回 同上
- 6回 同上
- 7回 同上
- 8回 同上
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 同上
- 14回 同上
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

研究発表にあたっては、事前に発表内容について報告し相談をうけること。

履修上の注意 /Remarks

全員参加のゼミ合宿の実施を予定している。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

演習は学生が主役です。意欲的に発表に望み、積極的に発言して下さい。

キーワード /Keywords

『扶桑略記』

演習 A - 2 (メディア文化) 【昼】

担当者名 /Instructor 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

近現代日本のメディア文化・表象文化・大衆文化をテーマとした演習をおこなう。後期は、前期演習をふまえて、独自の研究対象を決めて、発表・コメント・討議に引き続き取り組む。特に資料調査の技術、プレゼンテーションの技術向上を目指す。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 文献購読1
- 3回 文献購読2
- 4回 文献購読3
- 5回 文献購読4
- 6回 文献購読5
- 7回 文献購読6
- 8回 個人発表1
- 9回 個人発表2
- 10回 個人発表3
- 11回 個人発表4
- 12回 個人発表5
- 13回 個人発表6
- 14回 個人発表7
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点...20% 発表...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本演習は個人発表が中心となるが、小グループのなかでの相談や意見交換も重要な要素として取り込みます。演習に積極的に参加してくれる受講生を歓迎します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 2 (日本古典文学) 【昼】

担当者名 河北 靖 / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1学期の「演習A-1」に引き続き、「大式三位集」を読む。科目名はA-1・A-2と異なるかに見えるが、実際は一連のものであるので注意すること。

教科書 /Textbooks

同じく影印本の複写を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

1学期に同じ。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 担当者による発表と質疑 (27・28・29番歌)
- 2回 同上 (30・31・32番)
- 3回 同上 (33・34・35番)
- 4回 同上 (36・37・38番)
- 5回 同上 (39・40・41番)
- 6回 同上 (42・43・44番)
- 7回 同上 (45・46・47番)
- 8回 同上 (48・49・50番)
- 9回 同上 (51・52・53番)
- 10回 同上 (54・55・56番)
- 11回 同上 (57・58・59番)
- 12回 同上 (60・61番)
- 13回 同上 (62・63番)
- 14回 後半のまとめ
- 15回 全体の総まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

1学期に同じ

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

これも同様。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 2 (日本近代文学) 【昼】

担当者名 /Instructor 赤塚 正幸 / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本近代文学の研究方法の習得

教科書 /Textbooks

鷺沢萌『海の鳥・空の魚』（角川文庫）
宮部みゆき『幻色江戸ごよみ』（新潮文庫）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～15回 上記2冊の短篇集から、作品を1編選び選んだ作品に関して発表する。
文学作品を「読む」「発表する」ということを身につけていく

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点（発表の内容、聴取者の質疑に対する応答、発表者に対する質疑など参加の状況）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

作品をよく読んでおくこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 2 (日本近代文学) 【昼】

担当者名 馬場 美佳 / MIKA BABA / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

明治・大正期の文学を主に扱う。一作ずつ丁寧に読み進めながら、研究の基本的な手続きを学ぶことを目的とする。とくに卒論テーマの決定を視野に入れての授業となる。

今年度は、教員が2学期に海外研修のため、1学期に行う。

詳細については、受講者と打ち合わせの上、決めていく。

教科書 /Textbooks

適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 各種、日本文学史に関する本。
- 「明治文学全集」
- 「新日本古典文学大系 明治編」
- 「編年体大正文学全集」
- 「昭和文学全集」

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回～ 第1回めに指示する。

成績評価の方法 /Assessment Method

演習内容... 50% 授業への意欲的な参加... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

作品をきちんと読み、意見を述べるための事前準備。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 2 (日本語学) 【昼】

担当者名 /Instructor 堀尾 香代子 / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、卒業論文で国語学ならびに日本語学上の問題を取り上げようとする人が、論文執筆に向けて必要な準備を行なうことを目的とします。国語学・日本語学についての基礎的な知識や実証的論証方法を習得することを目指すとともに、それぞれのことばや言語現象と日本人の思考方法との関わりについても考察します。扱う言語資料については、受講者の興味や関心を考慮に入れつつ決定する予定です。授業は、ゼミ生自らが国語学・日本語学上の問題点を見出し、調査・検討した結果を発表するという形態をとります。発表に際して必要となる文献収集の方法や研究方法についての助言・指導はその都度具体的に行なってゆきます。また、発表内容についてゼミ生全員が意見を出し合い、討議を重ねてゆくことを通して、論理的に思考する力・考察する力・表現する力を養っていきます。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。授業中に適宜プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 演習の運営方針
- 第2回 卒業論文執筆方法
- 第3回 先行研究の検証
- 第4回 用例収集の方法
- 第5回 各人の発表(1)
- 第6回 各人の発表(2)
- 第7回 各人の発表(3)
- 第8回 各人の発表(4)
- 第9回 各人の発表(5)
- 第10回 各人の発表(6)
- 第11回 各人の発表(7)
- 第12回 各人の発表(8)
- 第13回 各人の発表(9)
- 第14回 各人の発表(10)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表...50% 討議...20% 課題...30%
その他、出席を重視します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

十分な発表準備を行うとともに、休み期間中の課題にしっかり取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 2 (日本語教育学) 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、演習を学習共同体としてとらえ、共同体という集団の中での個々人の人間的成長を目指します。なぜなら日本語教育は、教師が単に知識を与え、学習者が言語技能の習得を目指すものではなく、人と人との触れ合いを通して、そこに関わる全ての人が新たな「自己」を構築していくものだからです。

演習 A - 2 では、4年次に入って直ぐに卒業論文を作成する、つまりそのための研究に取り掛かることができるように準備をします。具体的には、卒業論文レベルの研究をイメージできるようになる、論文の書き方の凡そを知る、仮テーマを選定する、までを目標とします。

教科書 /Textbooks

『ライブ講義質的研究とは何か SCQR ベーシック編』(西條剛央、新曜社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 伊藤哲司『みる きく しらべる かく かんがえる - 対話としての質的研究』北樹出版
- 田垣正晋『これからはじめる医療・福祉の質的研究入門』中央法規

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 研究とは何か、卒業論文とは何か
- 3回 仮説と理論
- 4回 研究テーマと研究課題
- 5回 インタビュー調査(1)インタビューを知る
- 6回 インタビュー調査(2)練習
- 7回 インタビュー調査(3)文字化と分析
- 8回 インタビュー調査(4)理論作り
- 9回 観察調査(1)観察を知る
- 10回 観察調査(2)練習
- 11回 観察調査(3)データの作成と分析
- 12回 観察調査(4)理論作り
- 13回 仮テーマの選定
- 14回 仮テーマの発表
- 15回 総括及び、春休みの学習計画

成績評価の方法 /Assessment Method

発表(レジュメを含む)... 50% 参加者としての貢献度... 30% レポート... 20%
(主に発表を聞く時)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 2 (アメリカ文学) 【昼】

担当者名 /Instructor 新村 昭雄 / Shinmura Akio / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1学期に『豚の死なない日』を読んだのち、【働く】とはどういう意味を持つのか、を議論し、やっと「労働」の対価である食にありつける。『豚の死なない日』で、人間の肉食への異常な欲求と、その反対に屠殺への嫌悪を学ぶと、【肉食】とは何か、その反対の、【菜食】主義とは何かを知りたくなろう。

世紀のヒロイン「ダイアナ妃」も菜食主義者であった。彼女は、無差別に人を殺害する非人間的な兵器である地雷の撤去運動に熱心な心優しい人であったが、その一方では、世紀の人殺し、ホロコーストの無情なファシスト、ヒトラーも菜食主義者であった。肉食が人間の闘争心を掻き立てるのも事実だが、菜食がいいというわけではない。

教科書 /Textbooks

Chaima Potok (ハイム・ポトク) : Zebra and Other Stories 『ゼブラ』他。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献等は図書館の指定図書コーナー(新村)に開架し、さらに必要なものは授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに—論文の書き方
- 2回 Chaima Potok (ハイム・ポトク) : Zebra and Other Stories 『ゼブラ』
- 3回 Chaima Potok (ハイム・ポトク) : Zebra and Other Stories 『ゼブラ』
- 4回 Chaima Potok (ハイム・ポトク) : Zebra and Other Stories 『ゼブラ』
- 5回 20世紀アメリカ社会と【ファーストフード】と【ディズニーランド】と【アメリカ文化】
- 6回 【ファーストフード】と【マクドナルド】
- 7回 ヨーロッパと【スローフード】運動とカリフォルニアの【有機野菜】と【地産地消】運動
- 8回 イタリアの小さな町のアメリカの【ファーストフード】に対抗した【スローフード】運動
- 9回 【スローフード】運動は単に田舎の【手作り】の食べ物を保守する運動ではなかった。
- 10回 【ファーストフード】のアメリカ機械文明が生み出した社会や文化に対する反対運動の基軸
- 11回 日本の【スローフード】運動と【菜食主義】
- 12回 アメリカの【ベルトコンベア式】大量生産方式と【大量消費】時代の幕開け
- 13回 【冷凍食品】と【価格革命】、【安い肉】(粗悪な肉)、【安い労働力】(パートタイマー)
- 14回 【大量生産】と大農場と安い【パート】や【外国人労働者】 15回 まとめ—レポートの書き方から卒論の書き方へ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表(50%)とレポート(50%)で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参考文献は、図書館の指定図書コーナー(新村)にある。さらに必要な参考書はその都度指示する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

【Chaima Potok (ハイム・ポトク)】 【Zebra and Other Stories 『ゼブラ』】 【ファーストフード】と【ディズニーランド】と【アメリカ文化】 【マクドナルド】 ヨーロッパ【スローフード】運動とカリフォルニアの【有機野菜】と【地産地消】運動とイタリアの小さな町の【ファーストフード】に対抗した【スローフード】運動【手作り】 【菜食主義】 アメリカの【ベルトコンベア式】大量生産方式と【大量消費】時代【冷凍食品】と【価格革命】と【安い肉】(粗悪な肉)、【安い労働力】(パートタイマー)と【大量生産】と安い【パートタイム労働】と【外国人労働者】

演習 A - 2 (英米文学) 【昼】

担当者名 /Instructor 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、人間に関する様々な問題について考え、皆さんとじっくり語り合いたいと思います。後期は、ゼミ生主体で一冊の長編作品を選んでもらい、その作品を、あるときは速読、またあるときは精読することで、十分に満喫します。問題点について討論をすると同時に、文学批評についても様々なアプローチ方法を取り入れることにより、各自、自分にあった方法を早く見出してもらいたいと思っています。最後に卒論についての説明をし、卒論を書くにあたって方向性をつかんでもらう予定です。作品は主に翻訳を利用しようと考えています。

- * ゼミの目的： 1. 自己発見 2. 議論のコツのマスター 3. 仲間作り
- * ゼミ通信や卒業論文集などを作成する予定。
- * ゼミ通信や4年生の卒論(中間)発表会、ゼミ合宿、その他を通して3、4年生の交流を図ります。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 扱う長編作品の決定、担当者決め、その他、今後の流れの説明
- 2回 作品の第1パートの内容確認と議論
- 3回 作品の第2パートの内容確認と議論
- 4回 作品の第3パートの内容確認と議論
- 5回 作品の第4パートの内容確認と議論
- 6回 作品の第5パートの内容確認と議論
- 7回 作品の第6パートの内容確認と議論
- 8回 作品の第7パートの内容確認と議論
- 9回 作品の第8パートの内容確認と議論
- 10回 作品の第9パートの内容確認と議論
- 11回 作品の第10パートの内容確認と議論
- 12回 作品の第11パートの内容確認と議論
- 13回 作品の第12パートの内容確認と議論
- 14回 論文の書き方、ノート作りについて
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

担当時の準備・・・30% レポート・・・50% 平常点(発表、討論の参加など)・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当者になった場合は、授業前に議論のための資料や参考文献などを読み、下準備をしっかりとした上で担当当日に臨んでください。配布資料の準備も必要です。担当者でない場合も、自分の意見が述べられるように問題意識を持って臨んでください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

演習 A - 2 (英米文学) 【昼】

キーワード /Keywords

「切磋琢磨」「議論」「グループ活動」「仲間づくり」「自己発見」

演習 A - 2 (アメリカ文学) 【昼】

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

アメリカ文学、アメリカ映画を題材として用いる、アメリカ研究のゼミです。アメリカ文学・映画の中に登場する会話、情景描写、ストーリー展開、登場人物の描かれ方などを分析することにより、作品を背後で支配しているアメリカ人の美意識や、価値観がいかなるものであるかを考えていきます。アメリカ文学・映画とアメリカの現実との関係がいかなるものであるかを探求します。その作業を通して、アメリカ(人、文化、社会、歴史)の特質に対する理解を深めていくことを主な目的とします。最後の時間を利用して、卒論執筆に関する詳細な指導を行います。

教科書 /Textbooks

ゼミで取り上げる教材は、ゼミ生と相談し、できるだけ、ゼミ生の意向が反映されるようにします。ちなみに、昨年は、映画は、『チャーリーとチョコレート工場』、『モンスターズ・インク』、『アイ・アム・サム』、『プラダを着た悪魔』、『アイ、ロボット』、『エリン・ブロコビッチ』などの内容を議論しました。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『早わかりアメリカ』 302.53 I32
- 『そうだったのかアメリカ』 302.53 I33
- 『読んで旅する世界の歴史と文化』 亀井俊介 290.8 Y82
- 『異文化社会アメリカ』 示村陽一 302.53
- 『アメリカ合衆国とは何か』 253. Ta45
- 『アメリカ人の性格』 ゴーラー 書庫にしかない 361.6 G67
- 『この一冊でアメリカの歴史がわかる』 253.01 Sa69
- 『アメリカの大衆文化』 亀井俊介 253.07 H85
- 『アメリカン・ウェイ・オブ・ライフ』 302.53 B89
- 『ヨーロッパ人のアメリカ論』(アメリカ古典文庫21) 253 A44 1-21
- 『アメリカの歴史 テーマで読む多文化社会の夢と現実』(有賀夏紀) 253 A79
- 『アメリカ人の思考法』 エドワード・スチュワート 361.42 St5
- 『文明としてのアメリカ』(全5巻) 日本経済新聞社 302.53
- 『アメリカの歴史を知るための60章』 富田虎男 253 To58
- 『アメリカの文化』 現代文明を作った人たち 亀井俊介
- 『アメリカの社会』 変貌する巨人 猿谷要
- 『アメリカ文化事典』 亀井俊介 研究社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 夏休みレポートの内容を各自が発表
- 2回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論
- 3回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論
- 4回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論
- 5回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論
- 6回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論
- 7回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論
- 8回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論
- 9回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論
- 10回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論
- 11回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論
- 12回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論
- 13回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論
- 14回 まとめ、春休みの課題レポートに関する指導
- 15回 卒論執筆に関する指導。

成績評価の方法 /Assessment Method

出席、ゼミ参加への積極性...50% 発表...20% 夏休み明け提出のレポート...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

演習 A - 2 (アメリカ文学) 【昼】

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、担当者を数名割り振り、B 4 のレジユメを作成してもらった上で、レジユメの解説をゼミの時間をお願いします。発表担当者以外のゼミ生も、題材となる小説、映画を鑑賞しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 2 (フランス文化) 【昼】

担当者名 /Instructor 福島 勲 / FUKUSHIMA ISAO / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き、文学、映画、美術作品からフランス文化に迫ります。2学期にも重視するのは、各学生が、フランス文化について知識、理解を深めながら、自分の興味を発見し、それを言葉で他人に伝える力を養うことです。まずは、休暇中の自由研究レポートについて全員に発表してもらい、それについてみんなで意見や分析を述べることから始めます。いろいろな作品を読むこと、観ることが絶対の条件となります。

教科書 /Textbooks

テキストはなし。必要な場合はプリント配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

開講時に指示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN
- 2回～14回 個人発表とディスカシヨN
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート・・・40% 発表・・・20% 休暇中の課題・・・20% 平常点・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各発表の後、そのテーマ・作品についてのレポートを全員が翌週までに提出。

履修上の注意 /Remarks

学生の発表主体の授業です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

作品と各個人が向かい合うことの面白さ、また、その面白さを他人に伝えることの難しさと楽しさを学んでもらえたらと思います。

キーワード /Keywords

記憶 戦争 表象 映像 テキスト オブジェ

演習 A - 2 (アメリカ文化) 【昼】

担当者名 /Instructor 寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

近現代アメリカ合衆国の諸問題などについて各自が報告を行い、それを通して論文の書き方を学ぶ。

教科書 /Textbooks

原則として、各自で用意する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて各自で調査する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 演習の進め方などについての話し合い。
- 2回 卒論の書き方などについての説明。
- 3回 受講者による発表・討議。
- 4回 受講者による発表・討議。
- 5回 受講者による発表・討議。
- 6回 受講者による発表・討議。
- 7回 受講者による発表・討議。
- 8回 受講者による発表・討議。
- 9回 受講者による発表・討議。
- 10回 受講者による発表・討議。
- 11回 受講者による発表・討議。
- 12回 受講者による発表・討議。
- 13回 受講者による発表・討議。
- 14回 受講者による発表・討議。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、授業への貢献度、発表内容で総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

発表者は必ず、レジユメを作って発表にのぞむこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 2 (スペイン史) 【昼】

担当者名 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

演習 A - 1 では、主に近世のスペインを扱いましたが、このゼミでは、近現代のスペインにかかわるテーマに焦点を絞りこみます。テキストに
そってスペインの社会、地域や国家の問題を学びますが、ゼミ参加者の関心にそったテーマについて報告していただきます。

教科書 /Textbooks

- 立石博高ほか編『スペインの歴史』昭和堂、1998年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に必要に応じて文献を紹介します。以下は、授業と関連する有用な本。
○福井憲彦『ヨーロッパの社会史』岩波書店、2003年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入的な講義とゼミの進め方
- 2回 19世紀前半のスペイン：自由主義とロマン主義
- 3回 19世紀のスペインの社会・経済
- 4回 テキストの輪読(19世紀)
- 5回 テキストの輪読・コラム欄
- 6回 文献案内
- 7回 スペインの「近代」について
- 8回 ゼミ生の報告会(1)
- 9回 ゼミ生の報告会(2)
- 10回 19世紀末のスペイン
- 11回 地域問題：アンダルシアとカタルーニャ
- 12回 地域問題：バスク(ビデオ)
- 13回 テキストの輪読(20世紀)
- 14回 現代スペイン社会
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート... 50 % 発表... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストは事前に通読する。特殊な歴史学用語は、たとえば、『世界史辞典』(角川)やその他の辞典類で調べること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 2 (ロシア文化) 【昼】

担当者名 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

多言語・多文化の社会現象、比較文化に関する研究テーマ選択の指導を行い、論文作成のための基本的ルール・技能の習得を目的とする。

教科書 /Textbooks

プリント配布予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『世界民族問題事典』、平凡社
原尻英樹編著『世界の民族=民族形成と近代』放送大学教育振興会、1998年
石井米雄・山内昌之編『日本人と多文化主義』山川出版社、2000年
三浦信孝編『多言語主義とは何か』藤原書店、1997年
江原武一編著『多文化教育の国際比較』玉川大学出版部、2002年
馬淵仁著『「異文化理解」のデイスコース』京都大学学術出版会、2005年
東照二『バイリンガリズム』講談社、2000

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 夏休み課題レポートの発表、議論
- 2回 夏休み課題レポートの発表、議論
- 3回 夏休み課題レポートの発表、議論
- 4回 課題レポートにおける重要概念について議論
- 5回 講読テキストの要約発表、議論
- 6回 講読テキストの要約発表、議論
- 7回 講読テキストの要約発表、議論
- 8回 カフカス地域の民族文化関連ビデオ鑑賞：内容について議論
- 9回 カフカス地域の民族対立関連ビデオ鑑賞：内容について議論
- 10回 カフカス地域の宗教関連ビデオ鑑賞：内容について議論
- 11回 1回-10回までの重要概念のまとめと整理
- 12回 卒論テーマの選択と文献資料、資料収集について指導
- 13回 卒論テーマの選択と文献資料、資料収集について指導
- 14回 言語対立関連のビデオ鑑賞：内容について議論
- 15回 卒論関連の資料収集発表、卒論執筆の点検

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み60%、質疑応答 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

レポート・論文作成法に関する書をよく読んで、レジュメ作成や発表準備をしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 岩本 真理子 / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

各人がテーマを設定してドイツ文化研究を進め、その成果を論文にまとめる準備をする。

教科書 /Textbooks

授業中に随時プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 論文のテーマ設定方法
- 2回 論文の書き方とルール①
- 3回 論文の書き方とルール②
- 4回 論文テーマ発表と討論①
- 5回 論文テーマ発表と討論②
- 6回 資料の収集法と利用法①
- 7回 中間報告会①
- 8回 中間報告会②
- 9回 資料の収集法と利用法②
- 10回 中間報告会③
- 11回 中間報告会④
- 12回 序論の書き方
- 13回 序論提出
- 14回 序論添削と討論
- 15回 1学期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表、報告、序論提出により総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 B - 1 【昼】

担当者名 五月女 晴恵 / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

卒業論文の構想発表を行ってもらい、先行研究にきちんと目を通しているか、研究史を踏まえた上で明らかにすべき問題を設定しているか等を確認する。
尚、「演習 A - 1」と合同で行うので、卒論構想発表を終えた後は、テキストに基づく発表のディスカッションに参加すること。

教科書 /Textbooks

辻惟雄『岩波日本美術の流れ 7 日本美術の見方』岩波書店

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 卒論構想発表の手順の確認
- 2回 卒論構想発表の準備
- 3回 博物館あるいは美術館見学
- 4回 卒論構想発表
- 5回 卒論構想発表
- 6回 卒論構想発表
- 7回 卒論構想発表
- 8回 三年生の第二章「美しい自然」担当者の発表
- 9回 三年生の第三章「飾る喜び」(前半)担当者の発表
- 10回 三年生の第三章「飾る喜び」(後半)担当者の発表
- 11回 三年生の第四章「飾らない美意識」担当者の発表
- 12回 三年生の第五章「遊戯する心」(前半)担当者の発表
- 13回 三年生の第五章「遊戯する心」(後半)担当者の発表
- 14回 三年生の第六章「聖なるもの、縄文的なるもの」担当者の発表
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表内容...70% レポート...10% 授業への参加態度...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

発表者は、必ず事前にレジユメのチェックを受けること。
発表者以外の者も、どのような作品あるいは画家であるか事前に確認して授業に臨むこと。
三年生の発表に参加する際には、必ず事前にテキストを読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 B - 1 【昼】

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

3年生と合同で演習を行います。3年次に行った北九州市立自然史・歴史博物館での展示準備を完成させるとともに、卒業論文の準備として論文紹介を行い、卒論テーマと題目を決定します。また卒論の構想発表を行います。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

卒論のテーマを決めるのには以下の論文を参考にしてください

○『岩波講座日本歴史』(新旧2種類)(岩波書店)

○『岩波講座日本通史』(岩波書店)

○『日本の近世』全18巻(中央公論社)

また各自で卒論に必要な文献目録を作り提出してください

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 大学でのガイダンス
- 2回 論文紹介①
- 3回 論文紹介②
- 4回 博物館での展示準備①
- 5回 論文紹介③
- 6回 論文紹介④
- 7回 博物館での展示準備②
- 8回 卒論構想発表①
- 9回 卒論構想発表②
- 10回 卒論構想発表③
- 11回 博物館での展示準備③
- 12回 3年生の調査報告の指導①
- 13回 3年生の調査報告の指導②
- 14回 博物館での展示準備④
- 15回 まとめ プレ卒論(原稿用紙10枚分提出)

成績評価の方法 /Assessment Method

発表内容と出席状況による。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業時間における博物館での作業(4回予定)に関しては火曜午前10時に博物館に集合すること。

授業時間内での博物館での作業と市内調査の交通費は原則として自己負担とします。

博物館で展示準備には必ず参加して下さい。

9月に学外授業として1~2泊で展示のミニ研修と調査を行うので必ず参加して下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 1 【昼】

担当者名 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本の古代・中世の宗教文化に関するテーマを受講生各自が自由に選択し、研究に取り組んでもらい、その成果を発表してもらう。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しない

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 日本の古代・中世文化を学び研究するにあたって
- 3回 研究発表に関する説明
- 4回 研究発表と討議
- 5回 同上
- 6回 同上
- 7回 同上
- 8回 同上
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 同上
- 14回 同上
- 15回 同上

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

研究発表にあたって、事前に発表内容に関する相談を受けること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

神道、仏教、日本文化

演習B - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

卒業論文作成のための発表をおこなう。
また前期の終了時点で卒業論文の構想・進捗状況についてのレポートを提出してもらう。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 卒業論文作成にむけての発表①
- 3回 卒業論文作成にむけての発表②
- 4回 卒業論文作成にむけての発表③
- 5回 卒業論文作成にむけての発表④
- 6回 卒業論文作成にむけての発表⑤
- 7回 卒業論文作成にむけての発表⑥
- 8回 卒業論文作成にむけての発表⑦
- 9回 卒業論文作成にむけての発表⑧
- 10回 卒業論文前期中間発表①
- 11回 卒業論文前期中間発表②
- 12回 卒業論文前期中間発表③
- 13回 卒業論文前期中間発表④
- 14回 卒業論文前期中間発表⑤
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点... 10% 発表...50% レポート...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 1 【昼】

担当者名 河北 靖 / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「道信集」を読む。
藤原道信は平安中期に生きた典型的な王朝歌人の一人で、しかも夭折したため、その歌才を惜しまれた。詠作期間は数年にも関わらず、勅撰集に多く入集しているのも頷ける。ではその和歌はどのようなものであり、そこから伺える道信の半生はいかなるものであったかを追究する。

教科書 /Textbooks

榊原家本の影印本のプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

開講時に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 教員による模範授業 (1・ 2・ 3 番歌)
- 3回 受講生による発表と質疑 (4・ 5・ 6 番) 以下同じ。
- 4回 (7・ 8・ 9 番)
- 5回 (10・ 11・ 12 番)
- 6回 (13・ 14・ 15 番)
- 7回 (16・ 17・ 18 番)
- 8回 (19・ 20・ 21 番)
- 9回 (22・ 23・ 24 番)
- 10回 (25・ 26・ 27 番)
- 11回 (28・ 29・ 30 番)
- 12回 (31・ 32・ 33 番)
- 13回 (34・ 35・ 36 番)
- 14回 (37・ 38・ 39 番)
- 15回 前半のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

無断欠席は不許可。発表 = 50% レポート = 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

次回分の翻字をしておくこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 B - 1 【昼】

担当者名 赤塚 正幸 / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本近代文学の研究手法の習得と卒業論文への応用

教科書 /Textbooks

各自が卒業論文で論ずる作家の短編を1篇提出し、提出された作品を印刷してテキストとして作成しゼミ生全員に配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

3年生、4年生合同で実施する

- 1回 ガイダンス
- 2回～15回 卒業論文を見据えつつ、自分が論ずる作家の作品を資料として、作家研究、作品研究などについて発表する

成績評価の方法 /Assessment Method

発表の内容

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

作品をよく読んでおく

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 1 【昼】

担当者名 馬場 美佳 / MIKA BABA / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

受講者各自の卒業論文のテーマにあわせて演習発表をする。
作品を解釈し、かつ評価する行為を通じて、思考することの大切さを学ぶ。

教科書 /Textbooks

各自が担当する作品本文および発表用資料を用意して配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 演習担当スケジュールの作成
第2回～15回 受講者による演習

成績評価の方法 /Assessment Method

演習内容... 50% 授業への意欲的な参加... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

作品をきちんと読み、意見を述べるための事前準備。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 B - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 堀尾 香代子 / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、卒業論文で国語学ならびに日本語学上の問題を取り上げようとする人が、論文執筆に向けて必要な準備を行なうことを目的とします。国語学・日本語学についての基礎的な知識や実証的論証方法を習得することを目指すとともに、それぞれのことばや言語現象と日本人の思考方法との関わりについても考察します。扱う言語資料については、受講者の興味や関心を考慮に入れつつ決定する予定です。授業は、ゼミ生自らが国語学・日本語学上の問題点を見出し、調査・検討した結果を発表するという形態をとります。発表に際して必要となる文献収集の方法や研究方法についての助言・指導はその都度具体的に行なってゆきます。また、発表内容についてゼミ生全員が意見を出し合い、討議を重ねてゆくことを通して、論理的に思考する力・考察する力・表現する力を養っていきます。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。授業中に適宜プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 演習の運営方針と発表予定について
- 第2回 研究論文の書き方
- 第3回 資料編の作成方法
- 第4回 模擬発表
- 第5回 各人の発表(1)
- 第6回 各人の発表(2)
- 第7回 各人の発表(3)
- 第8回 各人の発表(4)
- 第9回 各人の発表(5)
- 第10回 各人の発表(6)
- 第11回 各人の発表(7)
- 第12回 各人の発表(8)
- 第13回 各人の発表(9)
- 第14回 各人の発表(10)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表...50% 討議...20% 課題...30%
その他、出席を重視します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

十分な発表準備を行うとともに、休み期間中の課題にしっかり取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、演習を学習共同体としてとらえ、共同体という集団の中での個々人の人間的成長を目指します。なぜなら日本語教育は、教師が単に知識を与え、学習者が言語技能の習得を目指すものではなく、人と人との触れ合いを通して、そこに関わる全ての人が新たな「自己」を構築していくものだからです。

演習B - 1では、前半に各自の卒業論文のテーマに沿った発表を行います。そして、後半に卒業論文の構想発表会を行います。

教科書 /Textbooks

『ライブ講義質的研究とは何か：SCQRMアドバンス編』（西條剛央、新曜社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 北原保雄『実践研究計画作成法 - 情報収集からプレゼンテーションまで』凡人社
- 西條剛央『ライブ講義質的研究とは何か：SCQRMベーシック編』新曜社
- 榎本博明『<ほんとうの自分>のつくり方 - 自己物語の心理学』講談社現代新書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション及び、春休みの課題報告
- 2回 卒論テーマ：発表者(1)
- 3回 卒論テーマ：発表者(2)
- 4回 卒論テーマ：発表者(3)
- 5回 卒論テーマ：発表者(4)
- 6回 研究デザインとは何か
- 7回 研究目的の明確化
- 8回 概念枠組み
- 9回 研究課題の決定
- 10回 研究方法
- 11回 研究の評価
- 12回 卒論構想発表：発表者(1)
- 13回 卒論構想発表：発表者(2)
- 14回 今後の研究計画
- 15回 総括及び

成績評価の方法 /Assessment Method

発表(レジュメ及び、質疑応答も含む) ... 70 % 出席 ... 30 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参考文献は、適宜紹介します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 B - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 新村 昭雄 / Shinmura Akio / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次 /4th Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1st Semester 授業形態 /Class Format 演習 /Seminar クラス /Class 4年 /4th Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

3年演習で、『No Pigs Would Die豚の死なない日』を読み、豚学について学んだ。豚（イノシシ）は本来森にすみ（今でも、最高級の豚は森（林）で飼われている。豚は、人類が最もよく食べ、愛した肉であった。欧米人はハムとソーセージを愛し、アメリカでは20世紀初頭までは、豚肉が牛肉よりも好まれて食べられていた。豚肉の生産量の方が牛肉の生産量より多かった。それを変えたのは、ハーバークなどファーストフードである。

教科書 /Textbooks

必要な「資料」は毎回配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

図書館の指定図書コーナー（新村）にあり、さらに必要な参考文献はその都度指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 1学期は3年ゼミの「食」の延長で、食文化等を学ぶ。
- 第2回 中国（中華料理）やアジア料理は【豚肉】によって発達したと言っても過言ではない。
- 第3回 一方、【聖書】が豚を忌まわしいものとし、ユダヤ教徒やイスラム教徒では豚は嫌われた。
- 第4回 人類は【Hunting（殺戮）】なしには古代では生きられなかった。
- 第5回 現代でも人は狩猟と【農作】なしには生きられない。多数の人はサラリーを貰って生きているが、実は、代わりに農業と水産と牧畜業をしてくれているのである。
- 第6回 生きていくための最低限のラインがそこにある。【食文化】こそが生命である。
- 第7回 【食文化】において、今最も重要な運動が【スローフード】運動である。
- 第8回 『食と文化の謎』を通して、世界の食と文化のタブー（最大のタブーであるカーニバルを含む）について学ぶ。
- 第9回 それはイタリアの小さな町から世界に向かって発信された食文化運動であると言うだけでなく、反米・反【ファーストフード】運動でもあった。
- 第10回 必然的に【スローフード】運動は、反【大量生産】・反【大量消費】運動である。
- 第11回 また、反【機械文明】運動であり、【伝統的な食】の保守、【小さな生産農家】の保護、【小さな消費】を目指す運動であった。
- 第12回 【巨大な企業】より、【小さな生産】を大事にするのがその基本姿勢である。
- 第13回 各自が自分の町の【食文化】について調査、発表する。
- 第14回 そして、徐々に「卒論」指導へと移行していきたい。
- 第15回 まとめ「卒論の書き方」

成績評価の方法 /Assessment Method

発表（40%）とレポート（60%）により評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

発表者は、課題レポートを書き、前日までに添付ファイルを送信すること。
司会者は、議論が広がらないように、整理整頓すること。
質問者は、まず自分の考えを述べて、発表者に質問すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

【豚肉】 Vs. 【牛肉】 【聖書】の【豚嫌い】 【Hunting（殺戮）】 【農作】 【食文化】 【スローフード】運動 『食と文化の謎』 【カーニバルの謎】 【ペットの謎】 反米・反【ファーストフード】運動 【スローフード】運動は反【大量生産】・反【大量消費】運動、反【機械文明】運動 【伝統的な食】 【小さな生産農家】 【小さな消費】 【巨大な企業】 【小さな生産】 「卒論への取り組み方」

演習B - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、人間に関する様々な問題について考え、皆さんと一っしょに語り合います。4年次では、大学4年間の総決算ともいべき卒論の指導をします。1学期には、9月に行う中間発表を目指して、原則として個別（あるいはグループ）指導で、毎回、各自が発表をすることで、最終的に扱いたいテーマ、作品を決定し、おおまかなレポートを提出してもらいます。この学期は、9月の中間発表に備えて議論を煮詰める、卒論作成の予備段階です。

- *ゼミ通信や4年生の卒論（中間）発表会、ゼミ合宿、その他を通して3、4年生の交流を図ります。
- *ゼミ通信や卒業論文集などを作成する予定です。

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 テーマや作家に応じて3～4名程度のグループ分けをし、前期の方針を確認。（グループ毎に日程を調整して、毎週集合。）
- 2回 それぞれのグループのメンバー各自がテーマに沿って課題の成果を発表。
- 3回 前回の議論を通じて出てきた新たな課題について報告。
- 4回 前回の議論を通じて出てきた新たな課題について報告。
- 5回 前回の議論を通じて出てきた新たな課題について報告。
- 6回 前回の議論を通じて出てきた新たな課題について報告。
- 7回 グループ毎の活動を通して卒論題目を決定。
- 8回 各自、400字程度で論じたい内容をまとめる。
- 9回 各自コンテンションを考え、お互いに議論をしつつ決定。
- 10回 論を膨らますために必要な内容の議論。
- 11回 前回の議論を通じて出てきた新たな課題について報告。
- 12回 前回の議論を通じて出てきた新たな課題について報告。
- 13回 前回の議論を通じて出てきた新たな課題について報告。
- 14回 夏休み期間の過ごし方について、また中間発表の準備。
- 15回 6000字の中間発表用原稿を仕上げる。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点（発表、討論の参加など）...50% 卒論の予備レポート...40% 活動への参加度...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

演習A-1、A-2を通して指示した必要文献、資料を読んでおいてください。

履修上の注意 /Remarks

演習B - 1 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

「切磋琢磨」「議論」「グループ活動」「仲間づくり」「自己発見」

演習 B - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

春休み明けに提出してもらった卒論の構想に対する個別指導を十分な時間をかけて行ないます。構想を十分に練った後に卒論の執筆を開始することが、能率的な卒論作成につながります。また、卒論の大まかな下書きを、早い時期から書き始めることにより、無理のない形で余裕をもって卒論を完成させます。4年次は、就職活動で多忙になるので、ゼミ生の都合に合わせて、個別指導を行ないます。日時等は、メールをやり取りすることにより決定します。卒論執筆に関して疑問が生じた際には、いつでも指導を行います。就職活動に関する相談にも、知識のおよび限り応じます。

教科書 /Textbooks

テキストは用いません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

図書館2階、階段を上がってすぐのところにある、指定図書コーナー(前田譲治のところ)に多数の卒論執筆に関するマニュアルがあるので、各自、参照してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 卒論のテーマの決定に関する個別指導
- 2回 卒論のテーマの決定に関する個別指導
- 3回 卒論のテーマの決定に関する個別指導
- 4回 卒論のテーマの決定に関する個別指導
- 5回 卒論のテーマの決定に関する個別指導
- 6回 卒論のテーマの決定に関する個別指導
- 7回 卒論のテーマの決定に関する個別指導
- 8回 卒論の全体的構成に関する個別指導
- 9回 卒論の全体的構成に関する個別指導
- 10回 卒論の全体的構成に関する個別指導
- 11回 卒論の全体的構成に関する個別指導
- 12回 卒論の全体的構成に関する個別指導
- 13回 卒論の全体的構成に関する個別指導
- 14回 卒論の全体的構成に関する個別指導
- 15回 夏休み中の課題に関する説明

成績評価の方法 /Assessment Method

春休み明けレポート...50% 卒論指導の受講状況...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

卒論指導を受ける前に、メールでアポを取ってください。卒論の構想や下書き等の指導対象は、指定された時間までに、事前にファイルをメールで送付して下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 1 【昼】

担当者名 福島 勲 / FUKUSHIMA ISAO / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

3年次のゼミでの成果を活かして、フランス文化に関連した卒業論文作成のための発表と準備を行う。

教科書 /Textbooks

テキストはなし。必要な場合はプリント配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～14回 卒論テーマ案についての発表
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表・・50% 平常点・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

卒論のテーマ案としていくつかのプランを考えておくこと。

履修上の注意 /Remarks

4年生以上を対象とする授業である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分の興味を発見し、それを論文によって他人に伝える練習をします。作文とは違う、論文の書き方についても学んでもらいます。

キーワード /Keywords

フランス 比較 文化 分析

演習B - 1 【昼】

担当者名 寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

卒業論文作成に向けて、各自が卒論のテーマに沿った報告を行う。

教科書 /Textbooks

各自で用意する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、各自で調査・収集する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 演習の進め方についての話し合い。卒論の書き方などについての確認。
- 2回 受講者による発表・質疑応答。
- 3回 受講者による発表・質疑応答。
- 4回 受講者による発表・質疑応答。
- 5回 受講者による発表・質疑応答。
- 6回 受講者による発表・質疑応答。
- 7回 受講者による発表・質疑応答。
- 8回 受講者による発表・質疑応答。
- 9回 受講者による発表・質疑応答。
- 10回 受講者による発表・質疑応答。
- 11回 受講者による発表・質疑応答。
- 12回 受講者による発表・質疑応答。
- 13回 受講者による発表・質疑応答。
- 14回 受講者による発表・質疑応答。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、出席、授業への貢献度、発表内容で総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

発表者は、必ずレジュメを作成して発表にのぞむこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 B - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

このゼミは、歴史学からの「スペイン研究」です。比較史の視点からスペインの社会・文化を中心に、できるだけゼミ学生の共通のテーマに関する論文を読み、論文作成の作法を習得します。同時に、卒業論文作成に向け、個別発表を中心とする授業になります。

教科書 /Textbooks

最初の授業でプリントおよび「論文の書き方マニュアル」を配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○関哲行ほか編『スペイン史 2 近現代・地域からの視座』山川出版社、2008年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入的講義：プリント配布と文献案内・ゼミの進め方
- 2回 論文の書き方について（形式論）
- 3回 論文を読みながら註のつけ方を学ぶ
- 4回 日本語で書かれたスペイン研究文献について
- 5回 ゼミ生の個別報告（1）
- 6回 ゼミ生の個別報告（2）
- 7回 ゼミ生の個別報告（3）
- 8回 ゼミ生の個別報告（2）
- 9回 ゼミ生の個別報告（3）
- 10回 報告の検証（反省会）
- 11回 卒業論文作成に向けての文献収集について
- 12回 卒業論文の序論を書いてみる
- 13回 論文の骨子（目次）を書いてみる
- 14回 ゼミ生のテーマを相互に語る
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

個別報告 70% レポート 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業中の質疑応答には積極的に発言する。資料収集を夏休み前までに済ませる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 1 【昼】

担当者名 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ゼミ生が自らの関心により研究課題を見出すこと、そして自ら自身で考え分析し調べる方法を編み出すことが授業のねらいです。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に、紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 卒論テーマ関連の春休み課題発表、議論
- 2回 卒論テーマ関連の春休み課題発表、議論
- 3回 卒論テーマ関連の春休み課題発表、議論
- 4回 過去の芳之内ゼミ生の論文を読む
- 5回 過去の芳之内ゼミ生の論文を読む
- 6回 卒論テーマ関連の資料収集状況の発表、資料分析、資料批判
- 7回 卒論テーマ関連の資料収集状況の発表、資料分析、資料批判
- 8回 卒論テーマ関連の資料収集状況の発表、資料分析、資料批判
- 9回 卒論の構成・見出し語の立て方；論文作成法、調査研究方法指導
- 10回 卒論の構成・見出し語の立て方；論文作成法、調査研究方法指導
- 11回 卒論の部分発表
- 12回 卒論の部分発表
- 13回 卒論の部分発表
- 14回 卒論の部分発表
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み60%、質疑応答40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

発表担当者は、前日までに発表内容、レジユメをメールで知らせてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 2 【昼】

担当者名 /Instructor 岩本 真理子 / 比較文化学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

各人のドイツ文化研究を、論文としてまとめる。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 執筆状況報告第一期①
- 2回 執筆状況報告第一期②
- 3回 論の構成について①
- 4回 資料の用い方について
- 5回 執筆状況報告第二期①
- 6回 執筆状況報告第二期②
- 7回 文体修正について
- 8回 論の構成について②
- 9回 執筆状況報告第三期①
- 10回 執筆状況報告第三期②
- 11回 註のチェックについて
- 12回 最終校報告①
- 13回 最終校報告②
- 14回 最終校チェック
- 15回 論文提出

成績評価の方法 /Assessment Method

報告の内容と提出論文により総合的に評価。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 B - 2 【昼】

担当者名 /Instructor 五月女 晴恵 / 比較文化学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「演習 A - 2」と合同で行うので、三年生の発表に対するディスカッションに参加すること。
但し、四年生は、それとは別に卒業論文を書き始め、少なくとも10月中頃・11月中頃・12月中頃の三回は下書きを提出し、添削・コメントを受けながら卒業論文の完成を目指してもらう。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 卒業論文の進展状況の確認
- 2回 博物館あるいは美術館見学
- 3回 博物館あるいは美術館見学
- 4回 卒業論文の進展状況の確認
- 5回 卒業論文の進展状況の確認
- 6回 発表とディスカッション
- 7回 発表とディスカッション
- 8回 発表とディスカッション
- 9回 発表とディスカッション
- 10回 発表とディスカッション
- 11回 発表とディスカッション
- 12回 発表とディスカッション
- 13回 博物館あるいは美術館見学
- 14回 卒業論文執筆報告会
- 15回 卒業論文執筆報告会

成績評価の方法 /Assessment Method

添削・コメントを踏まえて改善されているかどうか...70% レポート...10% 授業への参加態度...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

三年生の発表に参加する際には、どのような作品あるいは画家であるか事前に確認しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 B - 2 【昼】

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1学期に演習 B - 1 で卒論の題目を決定した人が、卒論執筆の経過報告を行い、指導を受ける時間です。
3年生と合同で質疑を行うとともに、2週間に1度、卒論の個別指導を行います。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

研究史と史料を各自で探して文献目録を作成、提出してもらいます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 以後、授業と並行して2週間に1度のペースで卒論の指導を行う
- 2回 3年生第1次テーマ報告への質疑①
- 3回 3年生第1次テーマ報告への質疑②
- 4回 博物館展示企画① 4年生 卒論章立て
- 5回 3年生第1次テーマ報告への質疑③
- 6回 卒論中間報告①
- 7回 卒論中間報告②
- 8回 博物館展示企画②
- 9回 卒論経過報告③
- 10回 3年生第2次テーマ報告への質疑①
- 11回 3年生第2次テーマ報告への質疑②
- 12回 博物館展示企画③
- 13回 卒論最終チェック
- 14回 卒論修正、卒論文集作成
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表内容と出席状況による。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

卒論指導には必ず参加して下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 2 【昼】

担当者名 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本の古代・中世の宗教文化に関するテーマを受講生各自が自由に選択し、研究に取り組んでもらい、その成果を発表してもらう。
【日本文化】 【宗教文化】

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しない

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 研究発表と討議
- 3回 同上
- 4回 同上
- 5回 同上
- 6回 同上
- 7回 同上
- 8回 同上
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 同上
- 14回 同上
- 15回 同上

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

研究発表にあたって、事前に発表内容に関する相談を受けること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 2 【昼】

担当者名 /Instructor 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

卒業論文作成のための発表をおこなう。
各自のテーマを引き続き深めて卒業論文の作成のための準備をする。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 卒業論文作成にむけての発表①
- 3回 卒業論文作成にむけての発表②
- 4回 卒業論文作成にむけての発表③
- 5回 卒業論文作成にむけての発表④
- 6回 卒業論文作成にむけての発表⑤
- 7回 卒業論文作成にむけての発表⑥
- 8回 卒業論文作成にむけての発表⑦
- 9回 卒業論文作成にむけての発表⑧
- 10回 卒業論文後期中間発表①
- 11回 卒業論文後期中間発表②
- 12回 卒業論文後期中間発表③
- 13回 卒業論文後期中間発表④
- 14回 卒業論文後期中間発表⑤
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点...30% 発表...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 2 【昼】

担当者名 河北 靖 / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「道信集」を読む。
1学期に引き続き道信の和歌、それを通じて伺える道信の半生を追究する。

教科書 /Textbooks

B - 1を参照

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

同前

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 担当者の発表と質疑(40・41・42番歌)以降同様。
- 2回 同上(43・44・45番)
- 3回 同上(46・47・48番)
- 4回 同上(49・50・51番)
- 5回 同上(52・53・54番)
- 6回 同上(55・56・57番)
- 7回 同上(58・59・60番)
- 8回 同上(61・62・63番)
- 9回 同上(64・65・66番)
- 10回 同上(67・68・69番)
- 11回 同上(70・71・72番)
- 12回 同上(73・74・75番)
- 13回 同上(76・77・78番)
- 14回 同上(79・80・81番)
- 15回 後半部のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表 ... 50% レポート... 50%
無断欠席は不許可

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

次回分の翻字を用意しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 2 【昼】

担当者名 /Instructor 園田 豊 / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
後日揭示

教科書 /Textbooks
後日揭示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
後日揭示

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
後日揭示

成績評価の方法 /Assessment Method
後日揭示

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
後日揭示

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 2 【昼】

担当者名 赤塚 正幸 / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

習得した日本近代文学の研究手法の卒業論文への応用

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実質は、4年生のみの卒論指導

- 1回 ガイダンス
- 2回～15回 卒業論文で自分が論ずる作家やその作品をもとに、どのように卒業論文を書こうとしているか発表する

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートの提出状況による

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

作品をよく読む

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 2 【昼】

担当者名 馬場 美佳 / MIKA BABA / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

受講者各自の卒業論文のテーマにあわせて演習発表をする。
作品を解釈し、かつ評価する行為を通じて、思考することの大切さを学ぶ。
今年度は、教員が2学期より海外研修のため、1学期に行う。

教科書 /Textbooks

各自が担当する作品本文および発表用資料を用意して配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 演習担当予定表の作成
第2回～15回 受講者による演習

成績評価の方法 /Assessment Method

演習内容...50% 授業への意欲的な参加...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

作品をきちんと読み、意見を述べるための事前準備。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 2 【昼】

担当者名 /Instructor 堀尾 香代子 / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、卒業論文で国語学ならびに日本語学上の問題を取り上げようとする人が、論文執筆に向けて必要な準備を行なうことを目的とします。国語学・日本語学についての基礎的な知識や実証的論証方法を習得することを目指すとともに、それぞれのことばや言語現象と日本人の思考方法との関わりについても考察します。扱う言語資料については、受講者の興味や関心を考慮に入れつつ決定する予定です。授業は、ゼミ生自らが国語学・日本語学上の問題点を見出し、調査・検討した結果を発表するという形態をとります。発表に際して必要となる文献収集の方法や研究方法についての助言・指導はその都度具体的に行なってゆきます。また、発表内容についてゼミ生全員が意見を出し合い、討議を重ねてゆくことを通して、論理的に思考する力・考察する力・表現する力を養っていきます。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。授業中に適宜プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 演習の運営方針と発表予定について
- 第2回 研究論文の書き方
- 第3回 資料編の作成方法
- 第4回 模擬発表
- 第5回 各人の発表(1)
- 第6回 各人の発表(2)
- 第7回 各人の発表(3)
- 第8回 各人の発表(4)
- 第9回 各人の発表(5)
- 第10回 各人の発表(6)
- 第11回 各人の発表(7)
- 第12回 各人の発表(8)
- 第13回 各人の発表(9)
- 第14回 各人の発表(10)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表...50% 討議...20% 課題...30%
その他、出席を重視します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

十分な発表準備を行うとともに、休み期間中の課題にしっかり取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 2 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、演習を学習共同体としてとらえ、共同体という集団の中での個々人の人間的成長を目指します。なぜなら日本語教育は、教師が単に知識を与え、学習者が言語技能の習得を目指すものではなく、人と人の触れ合いを通して、そこに関わる全ての人が新たな「自己」を構築していくものだからです。

演習B - 1では、前半に卒業論文の中間報告を行います。そして、後半に卒業論文の研究成果発表会を行います。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 西條剛央『ライブ講義質的研究とは何か：SCQRMベーシック編』新曜社
- 西條剛央『ライブ講義質的研究とは何か：SCQRMアドバンス編』新曜社
- 二通信子他『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』東京大学出版会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション及び、夏休みの経過報告
- 2回 中間発表：発表者(1)
- 3回 中間発表：発表者(2)
- 4回 論文の書き方(1)：全体
- 5回 論文の書き方(2)：序論と結論
- 6回 論文の書き方(3)：本論
- 7回 個別研究指導(1)
- 8回 個別研究指導(2)
- 9回 個別研究指導(3)
- 10回 個別研究指導(4)
- 11回 論文完成前の点検(1)論の展開、構成
- 12回 論文完成前の点検(2)校正
- 13回 卒論発表の準備
- 14回 卒論発表会
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

発表(レジュメ及び、質疑応答も含む) ... 70 % 出席 ... 30 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参考文献は、適宜紹介します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 2 【昼】

担当者名 新村 昭雄 / Shinmura Akio / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

2学期の4年演習は、實際上、卒論指導が主となる。卒論の準備に追われる。
卒論は、まず6月に「卒論題目届け」を提出しなければならない。
卒論の題目は、基本的には3年の終わり頃までにはほぼ決めておいた方がよい。
当ゼミは、基本的にアメリカの文化・文学を主として、日米の文学比較、日米の文化比較をテーマに卒論を書くものが多い。これらの大枠の中で、中枠を決め、そして最終的な「卒論テーマ」を絞り込まねばならない。
一見簡単そうだが、比較文化はそもそもの大枠が広いので、結構難しい作業である。

教科書 /Textbooks

「卒業論文の書き方」に関する参考文献は配付する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

渡部昇一・安西徹雄・舟川一彦『スタンダード英語講座[8]論文・レポートの書き方』東京、大修館書店、1984年。
日本語による論文の体裁については、上記『スタンダード英語講座[8]論文・レポートの書き方』の第5章も参照のこと。
英語による卒業論文の体裁についての詳細は下記を参照すること。
Gibaldi, Joseph. MLA Handbook for Writers of Research Papers. 6th ed. New York: Modern Language Association of America, 2003/05.
○ジバルディ、ジョセフ『MLA英語論文の手引き(第6版)』原田敬一訳編 東京、北星堂書店、2005年。(上記の訳書。大学図書館の指定図書コーナー「新村」に開架されている)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 卒論を書くに当たって—【資料を集める】のが難儀だが、そのコツは。
- 第2回 図書館等(大学、他大学、県立・市立図書館)で【第一次資料】を探す。
- 第3回 自分が決めた【テーマ】に関係する【直接の生の資料】を探す。コピーでも可。
- 第4回 ナマ資料が英語文献であれば、英語の【原書】を収集する。翻訳はできる限り避ける。
- 第5回 他人が本で引いた【引用】の中から、それをまた「引用」するのはできるだけ避ける。
- 第6回 卒論の資料がそろい、いざ書き始めるが、これがなかなか【テーマ】に届かない。
- 第7回 【卒論テーマ】はいわば「城」の天守閣である。そう簡単に攻め落とせるものではない。
- 第8回 まず、お堀を埋めて、そして城壁の石垣を登り、ときに落下し、また、登り...
- 第9回 やっと、【城=卒論テーマ】に入れる。しかし、目指す本丸はまだまだである。
- 第10回 本丸に入るには、まずルールがある。一つ、「服装=【論文の形式】」を整える。
- 第11回 自分のナマの言葉(内容)をそのまま書き殴っても【論文】にはならない。それは感想文かせいぜい普段のリポートに過ぎない。
- 第12回 「内容=中味(心・精神)」のない論文は、【形式】が整っていても読めない。しかし、一朝一夕に中味(心・精神)はできない。
- 第13回 そういふときの便法は、①基本的な型を覚える。卒論の関する他の研究者の論文を沢山学び、模倣(盗作ではない)すること
- 第14回 ②その際、最低限それらの【論文】に対する賛否をはっきり書き、できれば数行のメモ・コメントを書き残しておく。あとで【卒論】を纏めるとき、コメントが大変役に立つ
- 第15回 ③まず、序論と結論を先に書く。それから本論へと進む。

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミにおける発表(50%)とレポート(50%)で判定する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

図書館等の指定図書コーナー(新村)に開架されている参考書等を読んで準備しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

演習B - 2 【昼】

キーワード /Keywords

【資料を集める】【第一次資料】【テーマ】【直接の生の資料】【原書】【引用】【卒論のテーマ】は「城の天守閣」【天守閣 = 卒論テーマ】
まず目指すは本丸⇒ルールがある。一つ、「服装 = 【論文の形式】」を整える⇒自分のナマの言葉（内容）をそのまま書き殴っても【論文】には
ならない⇒「内容 = 中味（心・精神）」のない論文は【形式】が整っていても読めない⇒一朝一夕に中味（心・精神）はできない⇒便法は①基本
的な型を覚える⇒他の研究者の論文を学び、模倣（盗作ではない）する⇒【先行研究】に対する賛否をはっきりし、【卒論】を纏めるとき、コメ
ントが大変役に立つ⇒序論と結論を先に書き、それから本論へ

演習B - 2 【昼】

担当者名 /Instructor 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、人間に関する様々な問題について考え、皆さんと一っしょに語り合います。4年次では、大学4年間の総決算ともいうべき卒論の指導をします。9月の中間発表以降も、原則としてグループ活動になります。お互いに切磋琢磨しつつ、各自の論文をより良いものに仕上げていきます。2学期も、原則1学期に分けた各グループ毎に日程を調整して毎週集まり、中間発表の原稿をお互いに読み合い、コメントを出し合うことで、より客観的で論理的な文章、あるいは説得力のある表現方法を習得し、最終的には自分自身の中間発表原稿を、より完成度の高い卒論に仕上げていきます。

*ゼミ通信や4年生の卒論(中間)発表会、ゼミ合宿、その他を通して3、4年生の交流を図ります。

*ゼミ通信や卒業論文集などを作成する予定です。

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 後期の方針の確認。
- 2回 各グループの第1発表者のプレゼンと議論。
- 3回 各グループの第2発表者のプレゼンと議論。
- 4回 各グループの第3発表者のプレゼンと議論。
- 5回 各グループの第4発表者のプレゼンと議論。
- 6回 各グループの第5発表者のプレゼンと議論。
- 7回 各グループの第1発表者の修正原稿の読み合い、チェックと議論。
- 8回 各グループの第2発表者の修正原稿の読み合い、チェックと議論。
- 9回 各グループの第3発表者の修正原稿の読み合い、チェックと議論。
- 10回 各グループの第4発表者の修正原稿の読み合い、チェックと議論。
- 11回 各グループの第5発表者の修正原稿の読み合い、チェックと議論。
- 12回 卒論の内容要約の作成。
- 13回 論集作りについての議論。
- 14回 論集作りについての議論。
- 15回 最終発表会の準備。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(発表、討論の参加など)...50% 卒論の予備レポート...40% 活動への参加度...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業中に提示する様々な文献、あるいは各自で調べた資料、文献など、どんどん読み進めて下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

演習B - 2 【昼】

キーワード /Keywords

「切磋琢磨」「議論」「グループ活動」「仲間づくり」「自己発見」

演習B - 2 【昼】

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

4年前期に確定した研究テーマを、卒論の形に結実させるべく、卒論に関する個別指導を、時間をかけて繰り返し行います。具体的には、夏休み明けに提出した卒論の下書きに対して、どこをどのように改訂すべきなのか、どのような加筆をさらに行わなければならないのかといった、詳細な指導を行います。個別指導の日時は、ゼミ生の都合に合わせて。日時等は、メールをやり取りすることにより決定します。指導に沿って卒論の下書きを改訂することにより、自然に無理なく卒論が完成するよう工夫したいと思います。併せて、就職活動に関する相談にも知識の及ぶ限り応じます。

教科書 /Textbooks

テキストは用いません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

図書館2階、階段を上がってすぐのところにある、指定図書コーナー(前田譲治のところ)に多数の卒論執筆に関するマニュアルがあるので、各自、参照してください。卒論執筆の際に有益と思われる書物に関しては、個別指導の中で各人に教示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 章レベルでの個別指導
- 2回 章レベルでの個別指導
- 3回 章レベルでの個別指導
- 4回 章レベルでの個別指導
- 5回 章レベルでの個別指導
- 6回 段落レベルでの個別指導
- 7回 段落レベルでの個別指導
- 8回 段落レベルでの個別指導
- 9回 センテンスレベルでの個別指導
- 10回 センテンスレベルでの個別指導
- 11回 センテンスレベルでの個別指導
- 12回 単語レベルでの個別指導
- 13回 単語レベルでの個別指導
- 14回 単語レベルでの個別指導
- 15回 提出前の最終チェック

成績評価の方法 /Assessment Method

夏休み明けレポート...50% 卒論指導の受講状況...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

卒論指導を受ける前に、メールでアポを取ってください。また、卒論指導に沿って、卒論原稿に加筆修正を加えておいてください。卒論の下書きは、指定された時間までに、事前にファイルをメールで送付して下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 2 【昼】

担当者名 福島 勲 / FUKUSHIMA ISAO / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

フランス文化に関連した卒業論文作成のための中間発表と最終点検を行う。

教科書 /Textbooks

テキストはなし。必要な場合はプリント配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 ガイダンス
2回～7回 卒論中間発表
8回～15回 卒論執筆の点検

成績評価の方法 /Assessment Method

発表・・・50% 平常点・・・40% 休暇中課題・・・10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

中間発表ができるところまで、卒論の準備をしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

4年生以上を対象とする授業である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分の興味を発見し、それを論文によって他人に伝える練習をします。作文とは違う、論文の書き方についても学んでもらいます。

キーワード /Keywords

フランス 比較 文化 分析

演習B - 2 【昼】

担当者名 寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

卒業論文作成に向けて、各自が卒論のテーマに沿った発表を行う。

教科書 /Textbooks

各自で用意する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、各自で調査・収集する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 卒論の進捗状況についての確認。
- 2回 受講者による発表・質疑応答。
- 3回 受講者による発表・質疑応答。
- 4回 受講者による発表・質疑応答。
- 5回 受講者による発表・質疑応答。
- 6回 受講者による発表・質疑応答。
- 7回 受講者による発表・質疑応答。
- 8回 受講者による発表・質疑応答。
- 9回 受講者による発表・質疑応答。
- 10回 受講者による発表・質疑応答。
- 11回 受講者による発表・質疑応答。
- 12回 受講者による発表・質疑応答。
- 13回 受講者による発表・質疑応答。
- 14回 受講者による発表・質疑応答。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、出席、授業への貢献度、発表内容で総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

発表者は、必ずレジュメを作成して発表にのぞむこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 2 【昼】

担当者名 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この2学期のゼミは、基本的には卒業論文の経過報告（発表会）です。ゼミ生には3回ほど報告してもらいます。それぞれ異なるテーマの寄せ集めになりますが、このゼミの共同財産という自覚を持ちましょう。

教科書 /Textbooks

B - 1の演習で配布した「論文の書き方」、モデル論文など

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○スペイン関係文献目録(坂東省次編)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ゼミ生による卒業論文の進捗状況報告
- 2回 ゼミ生による各自の「序論」の相互発表
- 3回 モデル論文を読む(1)
- 4回 モデル論文を読む(2)
- 5回 個別発表(1)
- 6回 個別発表(2)
- 7回 個別発表(3)
- 8回 論文作成指導(1)
- 9回 論文作成指導(2)
- 10回 個別発表(4)
- 11回 個別発表(5)
- 12回 個別発表(6)
- 13回 教員による個別支援
- 14回 教員による個別支援
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

個別発表の内容 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ゼミ生の間で相互に刺激しあって、強い意志で卒業論文完成にまい進する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 2 【昼】

担当者名 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ゼミ生が自らの関心により研究課題を見出すこと、そして自ら自身で考え分析し調べる方法を編み出すことが授業のねらいです。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に、紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 卒論関連の夏休み課題レポートの発表、議論
- 2回 卒論関連の夏休み課題レポートの発表、議論
- 3回 卒論関連の夏休み課題レポートの発表、議論
- 4回 課題レポートにおける重要概念について議論
- 5回 卒論発表、議論
- 6回 卒論発表、議論
- 7回 卒論発表、議論
- 8回 卒論発表、議論
- 9回 卒論発表、議論
- 10回 卒論発表、議論
- 11回 卒論発表、議論
- 12回 卒論発表、議論
- 13回 卒論発表、議論
- 14回 卒論発表、議論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み60%、質疑応答40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

発表担当者は、前日までに発表内容、レジユメをメールで知らせてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較文化入門 1 (日本) 【昼】

担当者名 /Instructor 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

講義形式の回と 1 クラス 10 名前後のクラスに分かれたクラスセミナーの回とを組み合わせ進めます。
 講義形式の回では、日本文化系の全教員の専門分野 (文学、芸術、宗教、歴史等) に関する講義に触れてもらうことにより、日本文化系の専門教育への導入を図ります。クラスセミナーでは、少人数の演習形式の授業への導入を図ります。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各教員による講義の際、担当教員の専門分野に関連した書物を 3 冊程度紹介します。紹介された書物は、図書館の指定図書のコナーに置かれる予定です。また、各教員によるそれらの書物の紹介文をまとめた「比較文化入門ブックガイド」を配布する予定です。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 比較文化学科への招待
- 2 回 クラスセミナー各クラス担当教員
- 3 回 講義 1
- 4 回 講義 2
- 5 回 クラスセミナー各クラス担当教員
- 6 回 講義 3
- 7 回 講義 4
- 8 回 講義 5
- 9 回 クラスセミナー各クラス担当教員
- 10 回 講義 6
- 11 回 講義 7
- 12 回 講義 8
- 13 回 講義 9
- 14 回 クラスセミナー各クラス担当教員
- 15 回 まとめ 各クラス担当教員

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 ...50% レポート ...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予定は若干変更される可能性があります。最初のクラスセミナーの際に詳細なスケジュールをお知らせしますので、それを参照してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較文化入門 2 (欧米) 【昼】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

比較文化学科の欧米文化関係の教員が、それぞれの研究分野や関心のある領域について、基本的な知識や研究方法などをオムニバス方式で講義します。またそれ以外の時間には、クラス担任制を活用し、皆さんの関心領域を明確化するために各自発表してもらい、関心をより深いものにするために、意見交換などを行います。将来のゼミ選択や卒業論文作成の基盤となる授業です。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

使用しない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 クラスセミナー各クラス担当教員
- 2回 講義 1
- 3回 講義 2
- 4回 講義 3
- 5回 クラスセミナー各クラス担当教員
- 6回 講義 4
- 7回 講義 5
- 8回 クラスセミナー各クラス担当教員
- 9回 講義 6
- 10回 講義 7
- 11回 クラスセミナー各クラス担当教員
- 12回 講義 8
- 13回 講義 9
- 14回 クラスセミナー各クラス担当教員
- 15回 まとめ各クラス担当教員

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 ...50% レポート ...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予定は若干変更される可能性があります。最初のクラスセミナーの際に詳細なスケジュールをお知らせしますので、それを参照してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本文化概論 【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

稲作農耕、米と魚主体の食生活、神祭りなどを古代に形成された文化はその後の日本文化の基盤をなしている。そもそも文化の特色・独自性というものは、決して本来的に固有なものではなく、外来文化の選択・受容・消化・変容によって形作られてきたものである。しかも外来文化といっても決して「大陸文化」とひとくくりに語れるような一様なものではない。時代としては古代に焦点を当てて講義を進めていくが、日本文化を考えていく上での基本的な観点を身につけてもらうことがねらいである。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 佐原真『魏志倭人伝の考古学』（岩波現代文庫）
- 鯖田豊之『肉食の思想』（中公文庫）
- 嶋田義仁『稲作文化の世界観』（平凡社）
- 吉田孝『日本の誕生』（岩波新書）
- 東野治之『遣唐使船』（朝日選書）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 文化と文明 【文化】【文明】
- 3回 文化の受容と変容 【クリスマス】【復活祭】【来訪神】
- 4回 大陸文化の諸系統と日本文化の重層構造
- 5回 縄文時代 狩猟採集の文化 【狩猟採集文化】
- 6回 弥生時代 稲作文化の普及 【稲作漁撈文化】
- 7回 卑弥呼の時代の文化(1) 【卑弥呼】【邪馬台国】
- 8回 卑弥呼の時代の文化(2)
- 9回 稲作文化の源流と日本(1) 【長江文明】
- 10回 稲作文化の源流と日本(2)
- 11回 11回 牧畜文化と日本 【牧畜文化】
- 12回 12回 渡来人と日本文化 【渡来人】【秦氏】
- 13回 13回 隋唐文化の受容(1) 【遣唐使】【律令】【仏教】
- 14回 14回 隋唐文化の受容(2) 【儒教】【道教】【神道】
- 15回 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ... 60% レポート ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

シラバスや授業で示した参考図書を、出来る限り自分で読み進めてもらいたい。

履修上の注意 /Remarks

レポートは必ず提出すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

時代としては古代を扱うが、現代日本の生活文化に通じる内容の授業を行うつもりである。常に問題関心をもって授業に臨んでもらいたい。

キーワード /Keywords

稲作漁撈文化、魏志倭人伝、長江文明、遣唐使

欧米文化概論 【昼】

担当者名 /Instructor 新村 昭雄 / Shinmura Akio / 比較文化学科, 岩本 真理子 / 比較文化学科
田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英米文化（欧米文化）を理解するのに、避けては通れない「三種の神器」があります。Christianity（キリスト教）、Greek Mythology（ギリシア神話）、そしてMother Goose（or Nursery Rhymes：マザーグースあるいは伝承童謡、わらべ唄）の3つです。これらは英米（欧米）の様々な文化現象（新聞、雑誌、映画、文学、歌などなど）の中に、誰もが知っていて当然のこととして内在していることがよくあります。

例えば、キリスト教については、J. バニヤンの『天路歷程』やJ. ミルトンの『失楽園』といった文学作品の理解に必要な不可欠であるだけではありません。ラファエロなどの美術、建築は言うに及ばず、文化全般に影響を及ぼしているばかりでなく、「政治」、「経済」や人々の「生き方」にまで影響を及ぼしているのです。

また、シェークスピアの『ハムレット』には、ギリシア神話でお馴染みの神々や人物の名、あるいは地名が数多く用いられていますが、ギリシア神話の基礎知識なしでは、作者が何を意図してそのような表現を用いたのか理解できません。

さらには伝承童謡についても、例えば『鏡の国のアリス』にハンプティ・ダンプティが登場していますが、伝承童謡でおなじみの卵としてのハンプティ・ダンプティを知らなくては『アリス』の物語の面白さは半減してしまいます。

幼い頃から日々の生活の中にこういった「三種の神器」が込み込んでいる英（欧）米の文化を本当の意味で理解するのは、これらになじみのない我々日本人にとっては甚だ厄介なことです。そこで、本講義ではこれら3つに焦点を当て、その間隙を少しでも埋めることで、異文化理解の礎を築きます。

教科書 /Textbooks

プリントを適宜配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ウィリアム・M・ギャロット（西南学院理事長）監修『新約聖書』（角川文庫）

トマス・ブルフィンチ『「完訳 ギリシア・ローマ神話(上・下)」』（角川文庫）

○オウイディウス『変身物語』（岩波文庫）

○The Oxford Dictionary of Nursery Rhymes（Oxford）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ユダヤ・キリスト教（旧約聖書の世界）と欧米文化序論（ユダヤ教、一神教）
- 2回 ユダヤ・キリスト教（イエス・キリスト誕生）と欧米文化（神人・イエス・キリスト）
- 3回 キリスト教（宗教改革と大航海時代）のグローバル化（キリスト教の世界化、植民地化）
- 4回 キリスト教（民主主義と人権思想）（ローマ法王・一極支配⇒王権支配・多極化）
- 5回 キリスト教と欧米文化の諸問題（グローバル化と文化的諸問題）
- 6回 ギリシアの神々の系譜
- 7回 文学、芸術の中のギリシア神話(1)
- 8回 文学、芸術の中のギリシア神話(2)
- 9回 トロイ戦争と「イーリアス」
- 10回 トロイ戦争と「オデュッセイア」
- 11回 Mother Goose の成り立ちと概略
- 12回 Let's play with Mother Goose (1) Humpty Dumpty 他
- 13回 Let's play with Mother Goose (2) Mary Had a Little Lamb 他
- 14回 Mother Goose の影響（『不思議の国のアリス』や萩尾望都などへの影響）
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート・・・35%

試験・・・65%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で配布される資料には、よく目を通しておいください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

「三種の神器」「キリスト教」「ユダヤ教」「一神教」「神人・イエス・キリスト」「キリスト教の世界化」「植民地化」「ローマ法王・一極支配」「王権支配・多極化」「グローバル化」「文化的諸問題」「ギリシア神話」「マザーグース」「伝承童謡」

文化交流史【昼】

専門教育科目
専門基礎教育科目
概論科目

担当者名 /Instructor 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1. 「文化」と「交流」の意味を考える
2. 「日本史」「世界史」の枠を越えて歴史の知識がどのように結びつくのかを見る
3. 歴史を時間ではなく空間における変化として捉える
4. 「もの」が人間の歴史に果たした役割を理解する
5. 味覚・視覚・嗅覚などの感覚から歴史を見る

教科書 /Textbooks

レジュメ・プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○山田憲太郎『香料の歴史』(紀伊国屋新書) ○白井隆一郎『コーヒーが廻り世界史が廻る』(中公新書) ○W・シヴェルプシュ『楽園・味覚・理性』(法政大学出版局) 他

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 ガイダンス 【社会革命】とは
 - 2回 事例としての「ルネサンスの三大発明」
 - 3回 【香料革命】①香料とは
 - 4回 【香料革命】②中国の【香料革命】
 - 5回 【香料革命】③ヨーロッパの【香料革命】
 - 6回 17世紀オランダ絵画に見る食文化
 - 7回 大航海時代
 - 8回 【香料革命】と【銀革命】
 - 9回 大航海時代と【鉄砲革命】①南蛮貿易
 - 10回 大航海時代と【鉄砲革命】②鉄砲伝来
 - 11回 大航海時代と【鉄砲革命】③火薬の製法
 - 12回 ヨーロッパの【嗜好品革命】①コーヒーとチョコレート
 - 13回 ヨーロッパの【嗜好品革命】②チョコレートとキリスト教
 - 14回 ヨーロッパの【嗜好品革命】③チョコレートの大衆化
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業レポート...50% 筆記試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

シラバス・レジュメ・参考文献をよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

世界の文化遺産【昼】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

人類の誕生以来、この地球上の各地で、人間集団がそれぞれ独自の文明や文化の多様な形態を創造してきました。この授業では、おもに専任の教員がそれぞれの専門領域の視点から、日本および世界各地の文化遺産を取りあげます。教室にいながらの「旅」です。旅は「人を考える人間にする」といいますが、文化遺産を歴史のなかに位置づけ、その意義や、それが今日の私たちに伝えるメッセージを読み解きたいものです。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。それぞれの担当者が資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

図書館のAVルームに世界遺産などのDVがありますので、テーマによっては、事前に、あるいは事後に、活用することもできます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 文化遺産に関する序論的な講義
中世イベリア半島の交際交流都市：トレード
- 2回 移民の街ニューヨーク：自由の女神にみるアメリカの大義（1）
- 3回 移民の街ニューヨーク：自由の女神にみるアメリカの大義（2）
- 4回 謎を秘めたストーンヘンジ
- 5回 謎を秘めたストーンヘンジと『ダーバヴィル家のテス』
- 6回 ライン渓谷の城とドイツの歴史
- 7回 ライン・ロマンチズム-古城再建ブームと廃墟の美
- 8回 セルギエフ・ポサード大修道院
- 9回 サンクトペテルスブルグとエルミタージュ美術館
- 10回 宗像沖ノ島：海の正倉院（1）沖ノ島遺跡について
- 11回 宗像沖ノ島：海の正倉院（2）沖ノ島と神道の形成
- 12回 オランダの文化遺産：風車とオランダ東インド会社
- 13回 ポルトガルの文化遺産：リスボンと天正遣欧使節
- 14回 ゲスト講師予定
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート2本の内容。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

それぞれのテーマに関する基本的知識は、辞典の類やインターネットで事前に調べておくとう理解が深まります。とくにレポートと関連して、2名の担当教員が個別テーマに関するものについては、そうしてください。

履修上の注意 /Remarks

比較文化入門と同じく、5回以上欠席すると評価対象になりません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

書道【昼】

担当者名 /Instructor 大森 アユミ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

授業のねらい：中学校の書写指導に携る国語教師として必要な理論・実技と実践的指導法を中心に学習する。具体的には、書写の教育目標・指導内容を理解し、基本的な見識と実践力を養うことともに、書写指導者としての実技力を高めることを目指す。実技での漢字は、楷書体・行書体を中心とする。

授業方法：理論は、プリントに記入しながら理解を深めていく。実技は、ポイントを確認しながら練習し、技能を高めていく。教科指導法は、授業VTRの視聴を通して授業のあり方を考える。

到達目標：学習指導要領に示された中学校国語科書写の指導内容及び望まれる授業のあり方を正しく理解でき、講義を通して学んだことを踏まえて、授業を構想することができる。

教科書 /Textbooks

「明解 書写教育」萱原書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中学校国語科学習指導要領

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①第 1・ 2回 受講基礎調査、筆順の原則とその指導の考え方
- ②第 3・ 4回 書写書道教育史と学習指導要領の変遷と内容、記念作品を書く
- ③第 5・ 6回 基本点画のその技法I・ II (片仮名)
- ④第 7・ 8回 基本点画のその技法III・ IV (片仮名)
- ⑤第 9・ 10回 楷書の学習、漢字の字体と書写の楷書(許容体)
- ⑥第 11・ 12回 行書の学習I【大気】、授業研究I【「秋風」】
- ⑦第 13・ 14回 行書の学習II【栄光】、授業研究II【「秋風」解説】
- ⑧第 15・ 16回 行書の学習III【中秋】、授業研究III【「牧歌」】
- ⑨第 17・ 18回 行書の学習IV【自己実現】、授業研究IV【指導案の作成ー1時間目分ー】
- ⑩第 19・ 20回 行書の学習V【開花】、授業研究V【指導案の作成ー2時間目分ー】
- ⑪第 21・ 22回 行書の学習VI【硬筆】、授業研究VI【指導案の作成・学習プリント】
- ⑫第 23・ 24回 仮名の学習、授業研究VII【評価の考え方とその実際】
- ⑬第 25・ 26回 生活の中の書I【細字】、教材開発I【「自分の花」草稿】
- ⑭第 27・ 28回 生活の中の書II【細字】、教材開発II【「自分の花」仕上げ】
- ⑮第 29・ 30回 書体の変遷、授業全般の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート：50%
課題I：20% (ポートフォリオ)
課題II：20% (指導案・学習プリント)
日常の授業への取り組み：10% (欠席をマイナス)

課題I・IIが未提出または不備の場合は「失格」とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毛筆の実技能力に関しては、経験の無い者・苦手意識の強い者は、授業後に各自で復習すること。

書道【昼】

履修上の注意 /Remarks

書道用具一式は各自で持参【共有は不可】（筆4号サイズ,小筆,硯,文鎮,下敷,半紙,墨液）

授業開始20分以内に入室した場合を「遅刻」とし、遅刻回数3回を欠席回数1回とみなす。

評価を得るには、実施授業時数の「4/5以上」出席のこと。

「公欠」は考慮はするが、「出席」扱いとはしない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

③~⑥に内容は、課題I・IIに関するものであるため、この間に欠席すると課題作成に支障がでます。

指定された履修学年時に履修のこと。4年は再履修者のみとする。（上記「履修上の注意」参照）

キーワード /Keywords

日本語教育学I【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター, 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位 1学期
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度

/Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本語教育に限らず、広く第2言語(外国語)教育における複雑で多様な要素に気づくことを第一のねらいとします。教師、学習者、授業、教えること、学ぶこと等を通して、日本語教育の現状を知り、それに自分自身がどのように関わるかを考え、行動できるようになることを期待します。
そのため、授業では、クラス内の人間関係作り(構成的グループエンカウンター)や他者との互恵的な学習方法(協同学習)について、体験学習を行います。

教科書 /Textbooks

『日本語教育の新たな文脈 - 学習環境、接触場面、コミュニケーションの多様性 - 』(国立国語研究所編、アルク)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 青木直子他編『日本語教育学を学ぶ人のために』世界思想社
- 國分康孝他編『構成的ブルーぷエンカウンター事典』図書文化
- ジョージ・ジェイコブズ他『先生のためのアイデアブック - 協同学習の基本原則とテクニク - 』日本協同教育学会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション【日本語教育】【日本語教育学】
- 2回 日本語教育の広がり【国内】
- 3回 日本語教育の広がり【海外】
- 4回 学習環境【相互作用】
- 5回 学習環境【多文化共生社会】
- 6回 接触場面【タイポロジー】
- 7回 接触場面【実態】
- 8回 接触場面【社会文化管理プロセス】
- 9回 コミュニケーション能力【コミュニケーション能力の育成】
- 10回 コミュニケーション能力【大学生】
- 11回 パラダイムシフト【教育観】
- 12回 パラダイムシフト【近代パラダイムの解体】
- 13回 教師の役割【教育の目的】【学習者オートノミー】
- 14回 教師の役割【教師オートノミー】
- 15回 総括【リフレクション】【自己評価】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度 ... 50 % 試験 ... 30 % 自己評価 ... 20 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日本語教育に関する予備知識は必要ありませんが、世の中の動きを知る努力をしましょう。

履修上の注意 /Remarks

日本語教師養成課程の履修希望者は、必ず履修してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語教育学II 【昼】

担当者名 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国語 / 第二言語の習得に関しては、とかく俗説や思い込みが多い。日本語教師（日本語学習支援者）を目指す者がまず知らなければならないのが、どのように言葉が学習されるのかであり、どのように言語学習を支援できるのかである。そこで、自らの外国語学習経験を通して、第二言語習得研究から俗説や思い込みを検証する。

教科書 /Textbooks

『自律を目指すことばの学習』（桜美林大学日本語プログラム「グループさくら」、凡人社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 田中望他『日本語教育の理論と実際：学習支援システムの開発』大修館書店
- 大津由紀雄著『英語学習7つの誤解』生活人新書(NHK)
- 西村淳子『多言語多文化学習のすすめ』朝日出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回授業オリエンテーション
- 2 回複言語のすすめ【複言語】
- 3 回一斉授業の問題点【学習者オートノミー】【自律学習】【ポートフォリオ】
- 4 回チュートリアルとは何か【学習目標】【学習方法】【評価方法】【リソース】【ポートフォリオ】
- 5 回学習計画を立てる【学習目標】【学習方法】【評価方法】【リソース】【ポートフォリオ】
- 6 回チュートリアル体験言語学習(1)【協同学習】
- 7 回チュートリアル体験言語学習(2)【リフレクション】
- 8 回チュートリアル体験言語学習(3)【学習計画の修正】
- 9 回チュートリアル体験言語学習(4)【評価】
- 10 回全体リフレクション【学習の変化】【学習観】【ビリーフス】
- 11 回自律学習の問題点【カウンセリング】【アドバイジング】【ピア・ラーニング】
- 12 回自律学習の応用【チュートリアルの応用】
- 13 回日本社会と日本語教育と学習者オートノミー【多文化共生】【地域日本語学習】
- 14 回学習者オートノミーについてさらに考える【教師オートノミー】【自己主導型学習】
- 15 回まとめ：日本語教師になること・私たちにできること

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ...80 % レポート ...20 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

チュートリアル体験言語学習では、「未習の外国語を学ぶ」または「既習の外国語を初めての学習方法で学ぶ」ことをするので、そのための教材を用意すること

履修上の注意 /Remarks

日本語教師養成課程の「日本語教育学I」を履修しておくこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

学習者主体 学習者オートノミー チュートリアル 協同学習 自己評価能力 第二言語習得研究

生涯学習学【昼】

担当者名 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

生涯学習社会への移行が叫ばれる現代、生涯にわたって私たちが主体的に学んでいくことの重要性が認識され、そうした学びをサポートする職員・指導者・リーダー・機関・施設・制度など条件整備が問われています。

本講義では、社会教育の法制度、国際的な生涯教育論の展開なども視野に入れつつ、生涯学習を支援・推進する制度・システムについて考えていきます。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 社会教育推進全国協議会『社会教育・生涯学習ハンドブック』エイデル研究所
- 『講座 主体形成の社会教育学』1～4巻、山田定市監修、北樹出版
- 『新社会教育講義』小川利夫編、大空社
- 雑誌『月刊 社会教育』国土社
- 雑誌『社会教育』全日本社会教育連合会
- 雑誌『月刊 公民館』全国公民館連合会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 生涯学習・社会教育の意義
- 2回 生涯学習ボランティア -学ぶことと成果の還元
- 3回 社会教育と生涯学習関連の法制度
- 4回 社会教育施設と生涯学習施設
- 5回 生涯学習関連施策の動向
- 6回 学習者の特性と学習の継続発展-学習相談、サービス、学習情報
- 7回 社会教育の内容・方法・形態-学級・講座の企画
- 8回 社会教育及び生涯学習関連の指導者とボランティア
- 9回 社会教育施設-公民館
- 10回 社会教育施設-博物館
- 11回 社会教育施設-図書館
- 12回 大都市における公民館-北九州市
- 13回 図書館、博物館における学習・グループ活動
- 14回 成人教育の国際的動向
- 15回 住民の力量形成と地域づくり

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度(授業中の小レポートを含みます。)…80% レポート…20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

学芸員資格や社会教育主事の必修科目の基本科目として、この授業を先に受講するか、あわせて受講すると、資格科目の理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

博物館概論 【昼】

担当者名 永尾 正剛 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

これまでの日本の博物館の建設事情と経緯・変遷とともに、「博物館法」に定義された公立博物館を取巻く諸環境を検証しながら、博物館の事業の有り方と課題を考える。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを用意し、配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 『博物館関係法令集』 (日本博物館協会)
- ・ 網干善教編『博物館学概説』 (関西大学出版)
- ・ 『博物館学講座』全10巻 (雄山閣)
- ・ 『月刊 博物館学研究』 (日本博物館協会)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 「博物館法」の理念を理解する
- 2回 日本の博物館の種別と建設事情
- 3回 博物館と学芸員資格
- 4回 公立博物館の運営基準
- 5回 博物館が抱える諸問題、特に経費と利用者
- 6回 博物館を取巻く自然環境と地域性
- 7回 博物館内部の環境と施設の配置
- 8回 博物館の事業①〈普及活動〉
- 9回 博物館の事業②〈資料の保存と活用〉
- 10回 市民との連携、特にボランティア・友の会活動
- 11回 学校教育の支援
- 12回 博物館と関連の法律①〈文化財保護法〉
- 13回 博物館と関連の法律②〈図書館法〉
- 14回 博物館の将来を考える
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

筆記試験(一部レポートの場合もある)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

新聞などに取り上げられる博物館の情報に気を配るとともに、1～2の博物館を観覧しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

学芸員資格を取得するという強い意志を持つこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

博物館経営論・博物館情報論【昼】

担当者名 太田 正道 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

博物館経営論・博物館情報論においては現代博物館の社会的機能を達成するための理論を講義する。博物館の構成、事業、必要な施設等、博物館経営・情報に必要な内容を講義する。専門職として学芸員に求められる資料の登録事業、展示活動、ミュージアム・マネージメント、ミュージアム・マーケティング、マルチメディア、インターネットなどの情報論の基礎を講義する。

教科書 /Textbooks

博物館関係法令集 (日本博物館協会編)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

博物館学教程 (大堀 哲 編著、東京堂出版)、博物館学経営論 (諸岡 博 著、信山社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1、博物館とその機能
- 2、博物館資料と博物館の種類
- 3、博物館の構成要素、博物館位置論
- 4、博物館の業務と組織
- 5、博物館資料の収集から登録、保管まで
- 6、博物館の施設
- 7、ミュージアム・マネージメント I
- 8、ミュージアム・マネージメント II
- 9、ミュージアム・マーケティング I
- 10、ミュージアム・マーケティング II
- 11、マルチメディア
- 12、博物館インターネット
- 13、アウトリーチ
- 14、ボランティアと博物館
- 15、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

筆記試験

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

初回の授業で説明します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

博物館資料論 【昼】

担当者名 永尾 正剛 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「博物館法」が理想とする博物館の運営に不可欠の「博物館資料」について、調査・収集・整理・保管・活用という一連の作業を理解する。博物館資料の取り扱いに関連の深い「文化財保護法」などの諸法令についても、その要点を学習する。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを用意、配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 『博物館関係法令集』 (日本博物館協会)
- ・ 網干善教編『博物館学概説』 (関西大学出版)
- ・ 『文化財保護行政ハンドブッケー美術工芸品編一』 (ぎょうせい)
- ・ 『博物館学講座』 全10巻 (雄山閣)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 「博物館法」と博物館資料について
- 2回 文化財保護法の理解①<文化財の種別>
- 3回 文化財保護法の理解②<文化財の活用>
- 4回 地方公共団体の文化財行政について
- 5回 博物館資料と文化財
- 6回 資料の調査方法と心構え
- 7回 資料の収集と目的
- 8回 資料の整理方法
- 9回 資料の保存と管理について
- 10回 資料の研究①<古文書の様式>
- 11回 資料の研究②<古文書の解読・理解>
- 12回 資料の取り扱い方①<梱包方法>
- 13回 資料の取り扱い方②<展示方法>
- 14回 博物館資料の評価方法
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

筆記試験 (一部レポートの場合もある)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

新聞など文化財や博物館に関するニュース・情報に気配りしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語教授法I【昼】

担当者名 横林 宙世 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

授業の概要(ねらい・テーマなど)

日本語教育は学校教育に組み込まれた英語教育とは異なり、多様な背景、学習動機、目的を持つ学習者を対象に行われている。授業ではコースデザイン、シラバス、言語教育の基礎理論、代表的な教授法など、基本的な事項をまず学ぶ。また母語として無意識に習得した日本語を客観的に見る視点を身につけ、学習者の疑問に答えられるように力をつけていく。

教科書 /Textbooks

名柄迪監修・中西家栄子・茅野直子『実践日本語教授法』バベル・プレス

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

田中望『日本語教育の方法—コースデザインの実際—』大修館
石田敏子『改定新版 日本語教授法』大修館
遠藤織枝編『外接日本gの教育【改訂版】』遠藤織枝編(三修社)
高見澤猛『新・初めての日本語養育2 日本語教授法入門』(ASK)
『日本語教育入門用語集』(アルク)
『月刊 日本語』(アルク)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 序論
- 2回 基本事項の確認
- 3回 コースデザインの概要1
- 4回 コースデザインの概要2
- 5回 シラバス
- 6回 言語教育の基礎理論
- 7回 言語習得
- 8回 外国語教授法の変遷と各論1
- 9回 外国語教授法の変遷と各論2
- 10回 外国語教授法の変遷と各論3
- 11回 初級の教え方1 発音・会話
- 12回 初級の教え方2 練習法
- 13回 初級の教え方3 文字・読解
- 14回 初級の教え方4 文字・読解
- 15回 まとめ または試験

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度 20%
課題提出 15%
小テスト(3回予定) 15%
試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習をして授業に臨むこと、授業中に疑問点を解決するつもりで教室外での意識的な学習を心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

遅刻しないこと、授業回数の3分の1以上の欠席者には単位を出せません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教室内外で積極的に知識を身につけてください。

日本語教授法I【昼】

キーワード /Keywords

日本語教育の中心はコミュニケーション

日本語教授法II 【昼】

担当者名 横林 宙世 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・実習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

前期に引き続き、日本語教授法の基本的な理論知識を学び、身につけていき、次年度の教育実習に備える。
後期には簡単な教案の書き方を学び、主に中上級レベル学習者を想定し特定項目のマイクロティーチングを経験してみる。
また練習問題や試験問題作成についても学び、次年度の教育実習に備える。

教科書 /Textbooks

名柄迪監修『実践日本語教授法』(ハベル・プレス)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初級・中級・上級各種教科書
石田敏子『改定新版 日本語教授法』(大修館書店)
遠藤織枝編『概説 日本語教育【改訂版】』(三修社)
高見澤猛『新・はじめての日本語教育2 日本語教授法入門』(ASK)
『日本語教育入門用語集』(アルク)
『月刊 日本語』(アルク)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前期の復習
- 2回 初級教材と中・上級教材の比較
- 3回 中・上級の教え方1 会話・聴解
- 4回 中・上級の教え方2 読解・情報収集
- 5回 中・上級の教え方3 その他
- 6回 評価・練習問題作成法1
- 7回 評価・練習問題作成法2
- 8回 教案作成1
- 9回 教案作成2
- 10回 教案作成3
- 11回 マイクロティーチング1
- 12回 マイクロティーチング2
- 13回 マイクロティーチング3
- 14回 マイクロティーチング4
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度	30
課題提出	20
マイクロティーチング	15
最終レポート	35

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

自主的に教室外でも学んでください。
予習をして教室に来てください。
授業に積極的に参加し疑問点を解決してください。

履修上の注意 /Remarks

授業回数の3分の1以上の欠席者には単位を出せません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教室外でも留学生等と積極的に関わり、彼らのニーズを把握してください。

キーワード /Keywords

日本語教育者は教え込む人ではなく、学習者とのコミュニケーションを大切にし、彼らの自主的、能動的学習をサポートする人。

日本語教育学演習I【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師, 矢野 花織 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本語教育学演習Iでは、日本国内における日本語教育（学習支援）の方法について、前半と後半に分け、2名の教員が担当する。前半は、「留学生・就学生」への日本語教育をピア・ラーニング（仲間との相互作用による学び）を実際に体験しながら学ぶ。教室という社会的な空間で協働学習を行うことにより、仲間との社会的な関係を構築し、自分自身に気づき、新たな自己の獲得を目指す。後半は、「生活者としての外国人」や「多文化の子ども」における背景や現状について概観した上で、学習動機や学習環境に応じたコースデザインを学ぶ。

教科書 /Textbooks

『ピア・ラーニング入門』（池田玲子他、ひつじ書房）
『先生のためのアイデアブック』（ジョージ・ジェイコブス他、日本協同教育学会編）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『学生参加型の大学授業—協同学習への実践ガイド』（ジョンソン,D.W他、玉川大学出版部）
『ひとりで読むことからピア・リーディングへ』（館岡洋子、東海大学出版会）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (前半) 1回 オリエンテーション
2回 協働学習とは何か
3回 協同学習の技法を知る
4回 ピア・リーディング：ジグソー・リーディング
5回 ピア・リーディング：プロセス・リーディング【読みの結果を伝え合う】
6回 ピア・リーディング：プロセス・リーディング【読みの過程を共有する】
7回 ピア・リーディング：プロセス・リーディング【新たな読みを創造する】
8回 総括
- (後半) 9回 「生活者としての外国人」に対する学習支援【ファシリテーター・多文化共生】
10回 「生活者としての外国人」に対する学習支援【地域日本語教育・社会的ニーズ】
11回 「生活者としての外国人」に対する学習支援【コーディネーター・システム構築】
12回 「多文化の子ども」に対する学習支援【生活・学習言語環境・発達段階・言語習得】
13回 「多文化の子ども」に対する学習支援【JSLカリキュラム・進路】
14回 言語生活支援としての教室活動【言語保障・エンパワーメント】
15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

(前半)	(後半)
授業への取り組み...10%	授業への取り組み...10%
課題...20%	課題...40%
ピア評価...20%	

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業では、少人数のグループ形態を多くとります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

協働学習 ピア・リーディング ファシリテーター 多文化共生 エンパワーメント

日本語教育学演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

特定の教授法に依拠して教えることはなくても、各教授法によって推奨される学習活動を応用することは多い。しかし、そのためには、基盤となる言語理論や学習理論を理解する必要がある。その上で、学習者に対して適切な選択肢を提示することができるようになることを目指す。

教科書 /Textbooks

『アプローチ&メソッド世界の言語教授・指導法』(リチャーズ&ロジャーズ、東京書籍)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『日本語教授法ワークショップ(増補版)』(鎌田修他、凡人社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション【アプローチ】【メソッド】
- 2回 言語教育の歴史【言語教育改革】【メソッド時代】
- 3回 オーラル・アプローチ【場面教授法】
- 4回 オーディオリンガル・メソッド
- 5回 全身反応法
- 6回 サイレント・ウェイ
- 7回 コミュニティ・ランゲージ・ラーニング
- 8回 サジェストベディア
- 9回 コミュニカティブ言語教授法
- 10回 OPI
- 11回 SAPL
- 12回 VT法
- 13回 コンピテンシー重視の言語教授法、協同言語学習法
- 14回 内容重視の指導法、タスク重視の言語教授法
- 15回 まとめと自己評価

成績評価の方法 /Assessment Method

発表(授業形式)50%
授業への取り組み40%
期末レポート10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各教授法については学生による授業(発表を含む)の形式をとる。教育実習へ向けての準備としたい。

履修上の注意 /Remarks

日本語教師養成課程における「日本語教育学I」「日本語教育学II」「日本語教育学演習I」「日本語教授法I」を履修しておくこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アプローチ メソッド 言語理論 学習理論 オルタナティブ 教師オートノミー

日本語教育実習【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

最も身近な学部留学生を対象とした正規の日本語科目に参加し、実習授業を行う。授業の成否に一喜一憂することなく、実習から何を学びえたのかを丁寧に詳細に振り返ることで、教師に不可欠な内省力の育成を目指す。同時に、日本語教師としての自分自身をイメージできるようになることを期待したい。
また、実習成果の一つとして簡易な報告書の作成を行う。

教科書 /Textbooks

桜美林大学日本語プログラム「グループさくら」『自律を目指すことばの学習：さくら先生のチュートリアル』凡人社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ジョージ・ジェイコブズ他『先生のためのアイデアブック - 協同学習の原則とテクニック -』日本協同教育学会
- 大島弥生他『日本語表現能力を育む授業のアイデア』ひつじ書房
- 池田玲子他『ピア・ラーニング入門 - 創造的な学びのデザインのために』ひつじ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション及び実習計画【コースデザイン】
- 2回 学習者について知る【学部留学生】【アカデミックジャパニーズ】
- 3回 チュートリアルとは何か【個別対応】【学習者オートノミー】
- 4回 授業準備【教案】【リハーサル】
- 5回 実習(1)【授業準備】【実施】【リフレクション】【気づき】
- 6回 実習(2)
- 7回 実習(3)
- 8回 実習(4)
- 9回 実習(5)
- 10回 実習(6)
- 11回 実習(7)
- 12回 実習から学んだことをどう生かすか
- 13回 総括【教師の成長】【社会の変化】
- 14回 報告書の作成(1)役割分担の確認
- 15回 報告書の作成(2)原稿の完成

成績評価の方法 /Assessment Method

自己評価レポート ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「日本語教育学I」「日本語教育学II」「日本語教育学演習I」「日本語教育学演習II」「日本語教授法I」「日本語教授法II」を履修しておくこと。その他の日本語教師養成課程科目についても、3年次までに履修可能な科目は、できるだけ多く履修しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

実習は、外国人留学生特別科目「日本語」で行う予定である。
人数や適正を判断して、「日本語A」「日本語B」に振り分ける。
実習期間は、実習日に加えて準備のために大学に来ることができるようスケジュールを空けておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

学習者主体 学習者オートノミー 体験学習 リフレクション(内省) 教師オートノミー

日本語教育実習【昼】

担当者名 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター
/Instructor

履修年次 4年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 実習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本語学習者(留学生)のための短期集中コースをデザインし、それを実行する。コースを設計し、その運営を行うことは決して易しいことではないが、日本語教師の専門性には欠かすことのできない能力である。
平成21年度と平成22年度は、「留学生のための就職活動準備講座」を行った。これは、「内容と言語を統合した学習(CLIL)」に基づくコースである。

教科書 /Textbooks

『日本語教育の理論と実践：学習支援システムの開発』(田中望他、大修館書店)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 野澤和世他『これで安心！外国人留学生のための日本就職オールガイド』凡人社
- ジャック・C・リチャーズ他『アプローチ&メソッド世界の言語教授・指導法』東京書籍

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション及び教育実習計画について【コースデザイン】
- 2回 ニーズ分析：留学生を取り巻く就職活動状況
- 3回 ピア・サポート
- 4回 内容と言語を統合した学習CLIL
- 5回 シラバスデザイン及びカリキュラムデザイン
- 6回 授業の準備【教案】【リハーサル】【ティーチャー・トーク】
- 7回 実習(1)【授業準備】【実施】【リフレクション】【気づき】
- 8回 実習(2)
- 9回 実習(3)
- 10回 実習(4)
- 11回 実習(5)
- 12回 実習の経験をどのように生かすのか
- 13回 総括
- 14回 報告書の作成(1)役割分担
- 15回 報告書の作成(2)原稿の完成

成績評価の方法 /Assessment Method

自己評価レポート ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「日本語教育学I」「日本語教育学II」「日本語教育学演習I」「日本語教育学演習II」「日本語教授法I」「日本語教授法II」を履修しておくこと。その他の日本語教師養成課程科目についても、3年次までに履修可能な科目は、できるだけ多く履修しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

CLIL 留学生 就職活動支援 ピア・サポート

博物館実習I【昼】

担当者名 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 2学期(ペア) 授業形態 実習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

3年

授業の概要 /Course Description

「博物館実習I」は「博物館実習II」の事前教育である。
実際の館務実習である「博物館実習II」の教育効果を高めるために文学部の担当教員のほか、各種の博物館・美術館で実際に勤務している学芸員の方々をも講師に招き、学内における講義・実習と学外の諸施設および展示の見学とを組合わせて行う。

教科書 /Textbooks

「博物館実習日誌」(生協にて販売)
「博物館学芸員資格取得についての手引き」(配付プリント)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

講義で紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業は原則として隔週ごとの土曜日3, 4限に行う予定であるが、博物館・美術館の展示スケジュールや学芸員の勤務予定との関係で、学外見学を日曜や休日、休暇期間中に変更することもある。
歴史・民族・考古・美術・自然史・文学等の博物館を訪れる予定。
最初の授業の折にそのおよその授業の計画を説明するので、必ず出席のこと。
学外の諸施設や展示品の見学に際しては、学芸員の直接の指導を依頼することもあり、遅刻・欠席は許されないので要注意。
また見学に際しての交通費・入館費は各自の負担である。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度及び日誌、レポートの結果を総合的に判断して評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

実習科目なので欠席は原則として認めない

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

博物館実習II 【昼】

担当者名 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期(ペア) 授業形態 実習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

4年

授業の概要 /Course Description

博物館学芸員資格履修の仕上げの意味を持った館務実習です。実習は本学が委託した博物館・美術館で実施されますが、指導学芸員はじめ館員の方すべてが、激務のなかで時間を割いて機会を作ってください初めて実現しており、決して迷惑を掛けるようなことがあってはなりません。ことに取り扱うものは、金銭に換えがたい貴重な資料や作品です。当然慎重な取り扱いや真摯な研究態度が望まれます。

教科書 /Textbooks

「博物館実習日誌」(生協にて販売)
「博物館学芸員資格取得についての手引き」(配付プリント)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義で紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

「博物館実習II」は4年次履修で、期間は2単位分2週間を、原則として大学が指定した博物館・美術館で夏休み期間中に行います。「博物館実習II」を履修するためには、その前年度に「博物館実習I」を履修合格しておくとともに、次の諸学科の単位を修得していなければなりません。

イ、博物館概論・博物館経営論・博物館情報論・博物館資料論
ロ、教育原理(比較文化学科の学生)・教育学概論(人間関係学科の学生)
ハ、選択科目2科目以上(2系列以上からそれぞれ1科目以上)

「博物館実習II」の受講申告者には5月頃に直前説明会を行います。説明会に欠席した場合は履修できません。また申込者であっても、実習生としてふさわしくないと判断した時は、履修を中止させる事があります。館務実習費・交通費などの諸費用は履修生が負担するものとします。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度及び日誌、レポートの結果を総合的に判断して評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

真摯な姿勢をもって実習を行うこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教師論 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教職の意義、教師の役割、教師の職務内容等に関する知識の修得と、教職についての理解と考察の過程を支援することによって、教育と教職に対する実践意欲を喚起し、同時に教育と指導のあり方について助言する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】 内はキーワード)

1回 教育とは何かI	【学校教育】 【学習と生活】
2回 教育とは何かII	【教育】 【学校】 【生活と文化】 【教育の二つの思潮】
3回 教育の目的	【教育目的論】 【学校と学習】
4回 教育の内容	【教育課程】 【教育課程の編成原理】 【教育課程の歴史】
5回 教育の方法	【指導の本質】 【指導の方法】
6回 生徒指導のあり方	【生徒指導の前提】 【生徒指導の伝統】
7回 職業指導・進路指導	【キャリア教育】 【職業選択の基礎理論】
8回 教師本来のあり方	【教師の仕事】 【子どもの見方】
9回 生徒の生きる力を育てる教育	【生きる力】 【青少年の意識】
10回 性の教育	【思春期の発達】 【カリキュラム】
11回 教育評価	【評価の種類】 【体罰と懲戒】
12回 いのちの教育	【生と死の教育課程】 【いのちの教育の方法】
13回 身体教育	【食教育】 【排便教育】
14回 これからの教育	【学校の役割】 【中等教育】
15回 教師の「資質」とは何か / まとめ	【教師の禁句】 【指導】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育原理 【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育における問題について、実践事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 発達と教育
- 2回 教育の方法
- 3回 教育の関係
- 4回 諸外国の教育思想
- 5回 日本の教育思想
- 6回 諸外国の教育史
- 7回 日本の教育史
- 8回 学校とは何か
- 9回 現代の学校が抱える課題
- 10回 家庭教育の基礎と現代的課題
- 11回 メディアと教育
- 12回 職業と教育
- 13回 国際化と教育
- 14回 生涯学習社会における教育
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 20% 課題 20% 最終課題(試験) 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発達心理学 【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ひとの誕生から乳児期、幼児期、児童期、青年期までの人間の発達を概観し、各発達段階における特徴的なテーマを通して人間の発達に関する心理学的理解を深める。
それと同時に、その発達の過程で生じてくる障害の発生機序について、発達障害、知的障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解を築いていく。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とは何か
- 第2回 胎児期【生まれるまでの子どもの発達過程】
- 第3回 誕生と新生児期
- 第4回 赤ちゃんの知覚能力
- 第5回 学習能力と行動習慣の獲得
- 第6回 運動発達と相互的やり取りの基盤
- 第7回 愛着の機能と発達
- 第8回 愛着の個人差と世代間伝達
- 第9回 共同注意と言語発達
- 第10回 他者の心を理解する【心の理論】
- 第11回 児童期における社会性の発達
- 第12回 思春期・青年期の発達【自我同一性、モラトリアム】
- 第13回 成人期から老年期の発達【家族形成、人生の終焉】
- 第14回 発達障害の発生機序について【発達障害、知的障害を中心に】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育制度【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育制度に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育制度における問題について、諸外国の事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育制度の基本原則(1) 教育制度とは
- 2回 教育制度の基本原則(2) 日本の教育法制
- 3回 学校制度の基本的事項(1) 機会均等、学校教育における中立性等
- 4回 学校制度の基本的事項(2) 義務教育
- 5回 学校制度の基本的事項(3) 学校体系
- 6回 教育課程の意義と編成(1) 教科書・教材、学習指導要領
- 7回 教育課程の意義と編成(2) 学校の教育課程編成
- 8回 教員制度の基本的事項(1) 教員免許法制、公務員としての教師
- 9回 教員制度の基本的事項(2) 教員の指導力、研修
- 10回 生涯学習制度 成人教育、学校教育と社会教育の連携
- 11回 子育てをめぐる諸問題 子育て不安、教育と福祉
- 12回 教育行財政の仕組み(1) 中央教育行政、地方教育行政
- 13回 教育行財政の仕組み(2) 教育委員会と学校
- 14回 教育制度改革の動向 学校選択制、学校評価
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

道徳教育の研究【昼】

担当者名 田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業は、「学校教育」（中学校・高等学校における教育；参考のために小学校における教育も含む）における「道徳教育」について学修するためのものである。この「学校教育」における「道徳教育」については、「学習指導要領」に規定されているので、それを基礎にして、具体的な道徳教育のあり方と指導方法について学修する。

教科書 /Textbooks

『中学校学習指導要領』及び『高等学校学習指導要領』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【 】内はキーワード
- 1回 「道徳教育」とは何か 【徳】 【教育】
 - 2回 「学校教育における道徳教育」の構造 【学習指導要領】 【学校教育の全領域】
 - 3回 「各教科」と道徳教育 【陶冶】 【訓育】
 - 4回 「特別活動」と道徳教育 【学級活動】 【生徒会活動】 【学校行事】
 - 5回 「総合的な学習の時間」と道徳教育 【横断的・総合的な学習】 【活動】
 - 6回 「道徳の時間」と道徳教育 【道徳の時間の指導内容】 【全体計画】
 - 7回 「道徳の時間」の指導過程 【学習指導案】 【指導方法】
 - 8回 「道徳の時間」の指導技術 【指導技術】 【指導事例】
 - 9回 「モラルジレンマの授業」と道徳教育 【ジレンマ教材】 【対立・葛藤】
 - 10回 「役割演技」と道徳教育 【動作化】 【ロール・プレイ】
 - 11回 「教師のモラル」と道徳教育 【人間性】 【社会のモラル】
 - 12回 「体験・ボランティア活動」と道徳教育 【自然体験】 【社会体験】
 - 13回 「綴方」と道徳教育 【教育的リアリズム】 【教育的ヒューマニズム】
 - 14回 「エンカウンター」と道徳教育 【出会い】 【構成的グループエンカウンター】
 - 15回 道徳教育の課題と未来 / まとめ 【道徳性の評価】 【地域社会の連携】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

なし

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

なし

特別活動の研究【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、以下の課題を柱として取り組んでいきたい。

- ① 「中学校学習指導要領」及び「高等学校学習指導要領」の「特別活動」の目的、領域(学級活動、生徒会活動、学校行事)の理解を理論的、実践的に深めること。
- ② 市民社会の担い手に求められる市民的スキルを学級活動などを通じて獲得させていく方法を実践的に学習すること。
- ③ 子どもたちの自治の力を育む生徒会活動、学校行事の在り方について、具体的な実践報告を踏まえつつ検討していくこと。

教科書 /Textbooks

楠 凡之著「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)、主要には第7章を使用する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体オリエンテーション - 「特別活動」の意義
- 2回 「中学校学習指導要領」及び「高等学校学習指導要領」の「特別活動」の目的・領域について
- 3回 現実の学校体験から、学級づくり、学校づくりの課題を考える。
- 4回 子ども達の対人関係スキルを育てるHR活動 その1
- 対立解決 (conflict resolution) の多様なパターン
- 5回 子どもたちの対人関係スキルを育てるHR活動 その2 - WinWin型で解決するために
- 6回 子どもたちの対人関係スキルを育てるHR活動 その3 - ロールプレイの取り組み
- 7回 すべての子どもの居場所となる学級づくりの課題 - 班ノート、班活動などに視点をあてて
- 8回 すべての子どもの居場所となる学級づくりの課題 - 班長・リーダー指導に視点をあてて
- 9回 子どもたちの自治の力を育てる生徒会活動の課題
- 10回 子ども達の自治の力を育てる学校行事の課題 - 体育祭の取り組み
- 11回 子ども達の自治の力を育てる学校行事の課題 - 文化祭・合唱コンクールの取り組み
- 12回 子どもたちの自治の力を育てる学校行事の課題 - 修学旅行の取り組み
- 13回 荒れている学級をどう立て直すか? - 中学校の実践
- 14回 荒れている学級をどう立て直すか? - 高等学校の実践
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点40%、期末試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受け身的な参加では実践的指導力は身に付かない。積極的な態度での参加を心がけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は人間関係学科の専門科目にもなっていますが、基本は教職課程の科目です。教師をめざす学生に求められる真摯な授業態度や積極的な活動への参加を期待します。

キーワード /Keywords

学級集団づくり、対立解決のスキル、自治能力の育成

教育方法学 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、「学校教育」（中学校・高等学校における教育；参考のために小学校の教育も含む）における教育方法についての理論と具体的な方法・技術を学修する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山下政俊・湯浅恭編著『教育の方法』ミネルヴァ書房、他

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【 】内はキーワード
- 1回 「教育方法」とは何か 【教育方法の形態】【比喻・モデル】
 - 2回 21世紀の教育方法 【指導】【管理】【生活と文化】【対話】
 - 3回 「授業（学び）」の構想 【授業の三角形モデル】【事前の教材解釈】
 - 4回 授業における展開と「タクト」 【競争原理】【教授学的タクト】
 - 5回 学びを反省・評価する 【評価の方法】【自己評価能力】
 - 6回 学びのシステムのこれまでとこれから 【出席と参加】【学習規律】
 - 7回 「学び」の具体的システムづくり 【相互主体論】【受容】
 - 8回 これからの学びを支える新しいネットワーク 【メディアリテラシー】【情報活用能力】
 - 9回 情報機器と教材の活用 【マルチメディア】【授業形態】
 - 10回 新しい教師への道を拓く 【教師の資質能力】【ファシリテーター】
 - 11回 性教育の指導の視点 【ジェンダー】【性】
 - 12回 学習遅滞の指導 【学習遅滞】【学習障害】
 - 13回 デイスコミュニケーションとコミュニケーション 【発話】【聴取】
 - 14回 教育方法における「近代」と「現代」 【連続と非連続】【現代化】
 - 15回 「教える」ことの技術と思想 / まとめ 【指導】【自己活動】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育学 【昼】

担当者名 /Instructor 大塚 一徳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、教育学の研究範囲に含まれる中でも、近年特に重要であり注目されている下記に示す事項に関して講義を行う。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

教育学への招待, 赤堀侃司著, 2002, ジャストシステム

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 本授業の内容・進行・評価方法に関する説明, 【教育学の定義】 【研究分野の概観】
2. 教授 - 学習に関する基礎理論その1 【行動主義】
3. 教授 - 学習に関する基礎理論その2 【認知主義】
4. 教授 - 学習に関する基礎理論その3 【社会的構成主義】
5. 教授 - 学習に関する基礎理論その4 【状況論的学習】
6. 授業のシステム化の方法と授業設計の手順 【授業設計】
7. 授業過程の分析と改善 【授業過程】
8. 授業実施の技術 【授業技術】
9. 授業の評価 【授業評価】
10. 教育メディアとその活用1 【コンピュータ】 【マルチメディア】
11. 教育メディアとその活用2 【インターネット】 【Web】
12. 学習データのとらえ方とその処理 【学習データ】
13. 授業実践能力の改善と向上 【実践能力】
14. 現代の教育課題
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出 (20%), レポート (30%), 試験 (50%) により総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを授業の事前事後に自己学習するなど、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 1 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 兎玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

4年次の「教育実習」（実習校実習）に向けて、実習生として必要な心構えや学習指導及び生徒指導等の理論や知識・技術を修得する。

教科書 /Textbooks

北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
1回 「教育実習1」オリエンテーション	【教育実習】 【実習校】
2回 教育実習の1日	【教育実習の実態】 【教師の勤務】
3回 教育実習生の体験から学ぶ(中学校)	【教科指導】 【学級経営】
4回 教育実習生の体験から学ぶ(高等学校)	【教科指導】 【学級経営】
5回 子どもの問題状況と生徒指導	【生徒指導】 【子どもの理解】
6回 学級経営について	【学級集団づくり】 【学級通信】
7回 生徒指導と教育相談	【生徒理解】 【生徒指導体制】
8回 授業観察の方法	【授業観察の視点】 【授業記録シート】
9回 子どもの人権と教育	【人権】 【自尊感情】
10回 教材研究と授業構想	【刻々の教材研究】 【学習指導案】
11回 教師の資質とは何か	【教師の資質】 【事前の準備】
12回 模擬授業①(中学・高校別)	【授業構成】 【導入】
13回 模擬授業②(中学・高校別)	【指導技術】 【発問】
14回 模擬授業③(中学・高校別)	【指導技術】 【説明】
15回 模擬授業④(中学・高校別)	【指導技術】 【指示・助言】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(25%) 学期末の提出物の評価(75%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の事前に指示されたことを準備すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 2 【昼】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 兎玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- ①教育実習生として必要な心構えや、指導方法等について学習する(事前指導)
- ②教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める(実習校実習)
- ③実習校実習で得た成果や反省すべき事項等を整理し、今後の課題を考察する(事後指導)

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

- | | |
|----------------------|-------------------|
| 第 1 回 ; オリエンテーション | 【勤務】【連絡】 |
| 第 2 回 ; 中学校における教育実習 | 【中学生の特質】【中学生への支援】 |
| 第 3 回 ; 高等学校における教育実習 | 【高校生の特質】【高校生への支援】 |
| 第 4 回 ; 実習校実習① | 【教育実習指導】 |
| 第 5 回 ; 実習校実習② | 【教育実習指導】 |
| 第 6 回 ; 実習校実習③ | 【教育実習指導】 |
| 第 7 回 ; 実習校実習④ | 【教育実習指導】 |
| 第 8 回 ; 実習校実習⑤ | 【教育実習指導】 |
| 第 9 回 ; 実習校実習⑥ | 【教育実習指導】 |
| 第 10 回 ; 実習校実習⑦ | 【教育実習指導】 |
| 第 11 回 ; 実習校実習⑧ | 【教育実習指導】 |
| 第 12 回 ; 実習校実習⑨ | 【教育実習指導】 |
| 第 13 回 ; 実習校実習⑩ | 【教育実習指導】 |
| 第 14 回 ; 実習校実習⑪ | 【教育実習指導】 |
| 第 15 回 ; 教育実習反省会 | 【教師の資質】 |

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 3 【昼】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 兎玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 実習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育実習校において教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

第 1 回 ; 実習校実習①	【教育実習指導】
第 2 回 ; 実習校実習②	【教育実習指導】
第 3 回 ; 実習校実習③	【教育実習指導】
第 4 回 ; 実習校実習④	【教育実習指導】
第 5 回 ; 実習校実習⑤	【教育実習指導】
第 6 回 ; 実習校実習⑥	【教育実習指導】
第 7 回 ; 実習校実習⑦	【教育実習指導】
第 8 回 ; 実習校実習⑧	【教育実習指導】
第 9 回 ; 実習校実習⑨	【教育実習指導】
第 10 回 ; 実習校実習⑩	【教育実習指導】
第 11 回 ; 実習校実習⑪	【教育実習指導】
第 12 回 ; 実習校実習⑫	【教育実習指導】
第 13 回 ; 実習校実習⑬	【教育実習指導】
第 14 回 ; 実習校実習⑭	【教育実習指導】
第 15 回 ; 実習校実習⑮	【教育実習指導】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育相談【昼】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
						○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

学校教育相談の領域は、1.「学業的発達」、2.「キャリア的発達」、3.「個人・社会的発達」の三つに区分され、また、学校教育相談の機能は、①一次的支援(開発的教育相談)、②二次的支援(予防的教育相談)、③「三次的支援」(問題解決的教育相談)から構成される。本授業では、学校教育相談の領域や機能について、教育相談の基本的な理論と技法の学習もふまえて提起していきたい。

さらに、不登校やいじめなど、様々な問題を出している児童、生徒に対する理解を深めていくと同時に、児童・生徒に対する指導、援助、また、課題を抱える保護者への理解と援助を進めていく際の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を紹介しつつ、検討していきたい。

教科書 /Textbooks

「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)をテキストとして使用する。本授業では主に第一部(1～4章)を使用する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 教育相談の領域
- 3回 教育相談の機能 その1 - 一次的支援
- 4回 教育相談の機能 その2 - 二次的支援、三次的三次的支援
- 5回 教育相談の基本的な理念について
- 6回 教育相談の基本的なスキルについて - 共感的応答
- 7回 教育相談の基本的なスキルについて - 開かれ質問
- 8回 教育相談の基本的なスキルについて - ロールプレイ実習
- 9回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談① - 前思春期
- 10回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談② - 思春期
- 11回 不登校の子どもに対する教育相談
- 12回 保護者に対する教育相談
- 13回 教育相談活動における連携について - スクールカウンセラーとの連携に視点をあてて
- 14回 薬物問題に対する理解と援助(北九州ダルクの講演)
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(感想レポート等)30%、レポート15%、期末試験55%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストは早めに読み、基本的な知見をもった上で授業に望むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育相談、いじめ問題

生徒・進路指導論【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は以下のとおりである。

- ① 生徒指導の意義と課題について、積極的生徒指導(子どもの発達支援としての生徒指導)に視点をあてて検討していくこと。
 - ② 養育環境や発達上の困難な課題を抱える子どもの内面に寄り添う生徒指導の課題について検討していくこと。
 - ③ 思春期の人格発達(「価値的自立」)の過程を支える進路学習、進路指導の意義と課題について、今日の社会情勢も含めつつ検討していくこと。
- 本授業のキーワードは、積極的生徒指導、児童虐待、進路指導である。

教科書 /Textbooks

テキストとして、「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)の第II部と第III部8章を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション 生徒・進路指導論の意義と課題
- 2回 学校現場での生徒指導の実際 その1
- 3回 学校現場での生徒指導の実際 その2
- 4回 子どもの発達支援としての生徒指導の課題と方法 ー 文科省編「生徒指導提要」を手がかりに その1
- 5回 子どもの発達支援としての生徒指導の課題と方法 - 文科省編「生徒指導提要」を手がかりに その2
- 6回 生徒指導における関係諸機関との連携について - スクールソーシャルワークに視点をあてて
- 7回 暴力的な傾向を持つ男子生徒に対する理解と指導その1
- 8回 暴力的な傾向を持つ男子生徒に対する理解と指導 その2
- 9回 思春期の「自己形成モデル」の意義と進路学習
- 10回 中学校の進路指導実践 - 「ようこそ先輩」の取組み
- 11回 中学校における職場体験学習と進路指導
- 12回 今日の高等学校の問題状況と進路指導の課題
- 13回 被虐待児に対する理解と援助 - 感想レポートの紹介とコメント
- 14回 虐待サバイバーに対する理解と援助 - 感想レポートの紹介とコメント
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(感想レポートなど)30%、レポート15%、期末試験55%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの第II部(5, 6章)をしっかりと読み込んで授業に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発達支援としての生徒指導、児童虐待、進路指導

英語科教育法C 【昼】

担当者名 山崎 和夫 / KAZUO YAMASAKI / 英米学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語教育における主要な理論、方法論（第二言語習得理論、外国語教育の方法論など）を概観し、具体的に現場の授業に応用することを念頭に置き、検討する。

教科書 /Textbooks

下記の文献から抜粋したプリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高橋正夫 『英語教育学概論』（金星堂）
高梨庸雄・高橋正夫 『新・英語教育学概論』金星堂
D.Larsen-Freeman, Techniques and Principles in Language Teaching Oxford
『新学習指導要領にもとづく英語科教育法』（大修館書店）田崎（編集）
『現代英語教授法総覧』（大修館書店）片山、末畑、他（編注）
中学校学習指導要領 第9節 外国語（文部科学省）
http://www.mext.go.jp/b_menu/shuppan/sonota/990301/03122602/010.htm
高等学校学習指導要領 第8節 外国語（文部科学省）
http://www.mext.go.jp/b_menu/shuppan/sonota/990301d/990301i.htm

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 TESLとTEFLの概念
- 第2回 中学校学習指導要領の解説と解説
- 第3回 高等学校学習指導要領の解説と解説
- 第4回 The Grammar-Translation Method、
- 第5回 Cognitive Code Learning
- 第6回 The Direct Method、
- 第7回 The Oral Method
- 第8回 The Audio-Lingual Methodの理論的側面
- 第9回 The Audio-Lingual Methodのこれまでの方法論との差異
- 第10回 CCL, CA,(Communicative Language Teaching)のA-LMとの差異
- 第11回 The Audio-Lingual Methodの訓練法の実践的側面
- 第12回 CLL, の訓練法の実践的側面
- 第13回 CLTの訓練法の実践的側面
- 第14回 方法論の変遷のまとめ
- 第15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の参加度30%、期末試験70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業にあたって、事前（当該授業の1～2回前）に配布する英文の資料をよく読み込んでおくことが必要です。

履修上の注意 /Remarks

授業ではpair work、および授業の疑似体験など身体を動かし参加することが要求されます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講者は教職に就くことを強く意識しているはずである。各自の授業態度を見て、相応しいかどうか判断したい。

キーワード /Keywords

指導要領 主要な教授法 教育現場での応用 言語活動

英語科教育法D 【昼】

担当者名 山崎 和夫 / KAZUO YAMASAKI / 英米学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育現場で多用されているAudio-Lingual Method、CAの諸手法を中心に、授業展開のあり方を学び、その手法を取得する。

教科書 /Textbooks

下記の文献からの抜粋プリント配付

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高橋正夫 『英語教育学概論』 (金星堂)
望月編著 『新学習指導要領にもとづく英語科教育法』 (大修館書店)
望月・山田 編著 『私の英語授業』 (大修館書店)
E.W.Stevick "Teaching Languages A Way and Ways" (Newbury House)
『英語教育学概論』 付属ビデオ (金星堂) 『授業の構成と進め方 中学校の部』 -授業編、解説編 (JAPAN LAIM)
中学校学習指導要領 第9節 外国語 (文部科学省)
http://www.mext.go.jp/b_menu/shuppan/sonota/990301/03122602/010.htm
高等学校学習指導要領 第8節 外国語 (文部科学省)
http://www.mext.go.jp/b_menu/shuppan/sonota/990301d/990301i.htm

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースワークの説明
- 第2回 テキスト教材配列について
- 第3回 教材研究 (副教材の作成など)
- 第4回 インプット重視の指導、アウトプット重視の指導
- 第5回 タスク活動と文法指導
- 第6回 教案の作成と授業の展開の把握
- 第7回 評価 (テスト、絶対評価)
- 第8回 ALTとの活動、および国際理解教育
- 第9回 中学校教育指導作成の指導
- 第10回 提出用の教育指導作成の指導
- 第11回 模擬授業 (中学 : 1、2年)
- 第12回 模擬授業 (中学 : 2年、3年)
- 第13回 模擬授業 (高校 : 1年、2年)
- 第14回 模擬授業 (高校 : 2年、3年)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での活動 (模擬授業を含む) 40%、 課題 (教案を含む) 10%、 期末テスト 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業ではpair work、および授業の疑似体験など身体を動かし参加することが要求されます。

履修上の注意 /Remarks

教壇に立つ立場を意識して授業に参加のこと。授業で実践活動を行うことが特に重要であるため、出席不足の受講者に対しては、厳密に対応します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講者は教職に就くことを強く意識しているはずである。各自の授業態度を見て、相応しいかどうか判断したい。

キーワード /Keywords

授業の展開の実践 教案作成 模擬授業

国語科教育法C 【昼】

担当者名 加藤 宏文 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「国語」として、「学力」とは、「ことばを通して生きぬく力」である。Cでは、自己に「きき」、他者に「きき」、児童・生徒に「問う」ことを通し、自己変革を保障する教育力を、獲得する。

教科書 /Textbooks

プリント等、担当者が準備する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中学校学習指導要領 第1節 国語(文部科学省)
http://www.mext.go.jp/b_menu/shuppan/sonota/990301/03122602/002.htm
 高等学校学習指導要領 第1節 国語(文部科学省)
http://www.mext.go.jp/b_menu/shuppan/sonota/990301d/990301b.htm

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

■おもに高等学校国語科教員をめざすために■

- 第1回 なぜ【「きく」】なのか。
- 第2回 「きく」は、何を創造するのか。
- 第3回 ことばにとり、「沈黙」とは何か。
- 第4回 「表現」と「理解」は、通底する。
- 第5回 一語の価値を「きき」分ける。
- 第6回 「きい」たものを、つなぐ。
- 第7回 「国語」にとり「学力」とは何か。
- 第8回 【「主題意識」】を確認し合う。
- 第9回 「教材」を、透視し開発する。
- 第10回 分からないからこそ、「問う」。
- 第11回 「問い」に体系をつける。
- 第12回 【「評価」】は、「評定」とは違う。
- 第13回 学習者に「きく」。
- 第14回 「生活語」の沃野に「ききひたる」
- 第15回 まとめ こんな指導者になりたい。

成績評価の方法 /Assessment Method

毎時具体的な表現活動を求め、「評価」しつづき、総合「評価」をする。
 演習内容…80% 平常点…20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修後は「国語科教育法D」を受講することがのぞましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国語科教育法D 【昼】

担当者名 加藤 宏文 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「国語」として、「学力」とは、「ことばを通して生きぬく力」である。Dでは、「教材」を自在に開発し、学習指導目標を明確にした上、授業構想を確立する力を、模擬授業により錬磨する。

教科書 /Textbooks

プリント等、担当者が準備する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中学校学習指導要領 第1節 国語(文部科学省)
http://www.mext.go.jp/b_menu/shuppan/sonota/990301/03122602/002.htm
高等学校学習指導要領 第1節 国語(文部科学省)
http://www.mext.go.jp/b_menu/shuppan/sonota/990301d/990301b.htm

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

■おもに高等学校国語科教員をめざすために■

- 第1回 【「学習指導要領」とは、何か。
- 第2回 「教科書」「で」指導する。
- 第3回 教材透視・教材開発・授業構想。
- 第4回 模擬授業(1) 【学習指導目標】
- 第5回 模擬授業(2) 焦点化
- 第6回 模擬授業(3) 独自の価値
- 第7回 模擬授業(4) 「問う」
- 第8回 模擬授業(5) 一歩先へ
- 第9回 模擬授業(6) 【集団思考】
- 第10回 模擬授業(7) 評言
- 第11回 模擬授業(8) 【単元学習】
- 第12回 模擬授業(9) 評価のことば
- 第13回 模擬授業(10) 学習指導目標改革
- 第14回 【授業計画】の再構築
- 第15回 まとめ 指導者への決意

成績評価の方法 /Assessment Method

毎時具体的な表現活動を求め、「評価」しつついき、総合「評価」をする。
演習内容…80% 平常点…20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「国語科教育法C」履修後に受講することがのぞましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育心理学【昼】

担当者名 /Instructor 村上 太郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育心理学では、教育の場における子どもの姿や教師の姿を心理学的側面からみていきます。子どもの学習過程について理解し、教師としての関わりについて学び、教師と子どもの人間関係についての考え方を身につけることを目標とします。講義を中心として、様々な例を通して具体的な関わりを考えることのできる機会を多く設ける予定です。質問や意見は、1回目の授業時に配布するフォローアップ・シートにて随時受け付けます。ぜひ活用してください。

教科書 /Textbooks

鎌原雅彦・竹綱誠一郎著「やさしい教育心理学」有斐閣アルマ
毎回配布するプリントも併用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育心理学とは(ガイダンス)【心理学】【自己紹介】
- 2回 子供の発達【発達】【成熟】【学習】
- 3回 発達段階【発達課題】
- 4回 自己認識の発達【自己と他者】
- 5回 頭がいい、とは【知能】
- 6回 学習の仕組み(1)【記憶】【忘却】
- 7回 学習の仕組み(2)【学習】
- 8回 やる気【強化】【自己評価】
- 9回 教え方によって【教授方法】【効果】
- 10回 評価する【テスト】【絶対評価】【相対評価】
- 11回 学級という集団【同調行動】
- 12回 学級の中の人間関係【いじめ】【調査方法】
- 13回 個性とは【性格】
- 14回 カウンセリング・マインド【傾聴】【共感】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(ミニレポート含む)...30% 期末試験...70%

注:ミニレポートは毎回、講義中に記述してもらいます。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの該当する部分を事前に読んでくると、本講義の理解がより容易になります。また、自分の小中学校時代の経験と結びつけながら講義を聴くことで、理解が深まります。質問や疑問は、フォローアップ・シートを活用して積極的に解消してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

障害児の心理と指導【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「障害」とは何か。その社会的定義、障害者観を踏まえ、障害を有する人々が示す特徴について理解を深める。また、障害児・者の抱える発達課題、支援のあり方について具体的なアセスメント・臨床技法を交えながら考える。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：障害児・者心理学について
- 第2回 障害の概念とノーマライゼーション
- 第3回 人々の障害者観：障害をどう捉えるか
- 第4回 障害の重積・深化の過程と発達援助
- 第5回 障害のアセスメント【発達評価・心理検査】
- 第6回 視覚障害について
- 第7回 聴覚障害について
- 第8回 姿勢・運動の障害について
- 第9回 知的障害について
- 第10回 自閉性障害について
- 第11回 注意欠陥多動性障害について
- 第12回 学習障害について
- 第13回 青年期以降に診断される障害について
- 第14回 障害児・者への地域支援の在り方
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育社会学【昼】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、家族、学校、地域社会等で観察される諸事象をとりあげて社会的な視点から分析をし、教育社会学の基礎的な概念を提示していきながら、教育に関する事象について、社会的な見方、考え方ができるようになることをめざす。

教科書 /Textbooks

プリント（講義レジュメ・資料）を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

配布プリントに提示する他、授業中、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育社会学の対象と方法
- 2回 家族の諸形態と教育の機能
- 3回 子どもの社会化の課題
- 4回 学校・教室空間と教育過程
- 5回 教師文化と生徒文化の生成・葛藤
- 6回 若者と職業をめぐる課題
- 7回 学校と地域の歴史
- 8回 「地域の教育力」をめぐる課題
- 9回 生涯学習社会における学び
- 10回 友人関係における葛藤
- 11回 高度消費社会に生きる若者
- 12回 新たなメディアのなかの関係
- 13回 少年非行と教育・社会の課題】
- 14回 教育における格差
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 20% 課題 20% 最終課題（試験） 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業にあたり、配布したレジュメ・資料をよく読むこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人権教育論 【昼】

担当者名 /Instructor 弓野 勝族 / YUMINO MASATSUGU / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育現場及び日常生活での人権問題の具体的な事象に学びながら、人権教育の知識を豊かにするとともに、人権感覚を研ぎ、人権問題解決への技能・スキル・態度を培う。

教科書 /Textbooks

「手作り資料」を活用します

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

人権の絵本(大月書房)、みんなの人権(明石書店)、世界が100人の村だったら(マガジンハウス)、人権・同和問題一問一答(解放出版社)、差別と日本人(角川書店)、もののけ姫(徳間書店)、他。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「世界が100人の村だったら」【世界共通の偏見や差別の根っ子と差別のしくみ】【非識字者・同性愛者の人権】【人権教育のスキル・技能】
- 第2回 いじめ差別①(現状認識)【いじめ差別の事例(新聞記事・中高生・大学生の体験)】【各種調査(教育白書・国際調査等)】
- 第3回 いじめ差別②(構図と課題、解決への基礎基本の知識)【いじめ差別の構図(しくみ)と加害者・傍観者の心理】【文部科学省のいじめ定義】【道徳教育と人権教育の相違点】
- 第4回 いじめ差別③(解決への教育創造)【文部科学省の「人権教育の指導方法の在り方」】【金子みすず「教科書の詩」「東大入試問題」】【自尊感情と学力形成の相関関係】【学校文化と子どもの居場所づくり】
- 第5回 子どもの人権と児童虐待防止法【児童虐待の現状認識(新聞記事・教育白書等)】【教師の責務と教育・啓発の教育創造】
- 第6回 ものけ姫①(メッセージからの課題)【物語の時代背景と登場人物から課題の整理】【ハンセン病問題と国の隔離政策】【国家賠償と社会復帰】
- 第7回 ものけ姫②(メッセージからの課題)【女性差別の歴史】【学校現場における「改正男女雇用機会均等法」「男女共同参画社会基本法」を考える】
- 第8回 同和問題との出会い直し①(身分制度の歴史・中世)【身分差別をつくったのは、誰?】【中世の社会や文化のしくみと、国民的課題の意義】
- 第9回 同和問題との出会い直し②(身分制度の歴史・近世)【身分制度(身分統制令)をつくったのは、誰?】【「賤民」身分にされたのは、どんな人々?】【一向一揆、鉄砲・キリスト教の伝来、島原の乱と身分制度の確立の歴史と国の責務の意義】
- 第10回 同和問題との出会い直し③(解体新書、俳人と身分制度)【解体新書の腑分けをしたのは、どんな人?】【一茶・蕪村・芭蕉の人権感覚】
- 第11回 同和問題との出会い直し④(文学者と部落差別)【小説「破戒」(島崎藤村)と「橋のない川」(住井すゑ)】
- 第12回 同和問題との出会い直し⑤(結婚差別)【結婚差別の事例からの課題と解決への展望】【しきたり・ならわし・慣習との出会い直し】
- 第13回 同和問題との出会い直し⑥(人権文化の創造)【教科書無償・全国統一応募用紙・奨学金制度】
- 第14回 同和問題との出会い直し⑦(国の施策)【1965年の同和対策審議会・答申の意義】【1996年の地域改善対策協議会・意見具申の意義】
- 第15回 同和問題との出会い直し⑧(人権文化のまちづくり)【各地の人権文化のまちづくりの現状】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(30%)及び学期末のレポートによる評価(70%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の中で課題を出します

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

歴史と政治【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ペリー来航 (1853) から55年体制の成立 (1955) までの日本政治の歩みを外交政策の展開と関連させて概説する。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○伊藤之雄『明治天皇』(ミネルヴァ書房)、○小林道彦『桂太郎』(ミネルヴァ書房)、○岡義武『山県有朋』(岩波新書)、○岡義武『近衛文麿』(岩波新書)、○高坂正堯『宰相吉田茂』など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インタロダクション
- 第2回 不平等条約と条約改正【維新の三傑】
- 第3回 自由民権運動と朝鮮問題【伊藤博文】
- 第4回 日清戦争【陸奥宗光】
- 第5回 日露戦争【山県有朋】
- 第6回 大正政変 - 国家経営構想の分裂 - 【桂太郎】
- 第7回 21カ条要求【大隈重信】【孫文】
- 第8回 原敬と協調外交【原敬】
- 第9回 二大政党制と外交政策【加藤高明】
- 第10回 政党政治と満州事変【浜口雄幸】
- 第11回 2・26事件と日中戦争【近衛文麿】
- 第12回 破滅への道 - 太平洋戦争 - 【東条英機】【吉田茂】
- 第13回 戦後改革【マッカーサー】
- 第14回 55年体制の成立【自民党】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 10% 課題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「ただ聴くだけ」という受講態度は許されない。講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

家族を問う【夜】

担当者名 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

私たちが共同生活を営んでいる社会の最小単位である家族、信頼のおけるかけがえのない存在であるこの家族に今何が起きているのか。迷走し、混迷する家族の実像から、現代の家族が抱える問題点を明らかにしてみようと思っています。

教科書 /Textbooks

レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 開講にあたって-問題の出発点-家族とは？
- 2回 家族の機能
- 3回 ハードウェアとしての家族
- 4回 システムとしての家族①
- 5回 システムとしての家族②
- 6回 システムとしての家族③
- 7回 システムとしての家族④
- 8回 現代家族の課題-夫婦①
- 9回 現代家族の課題-夫婦②
- 10回 現代家族の課題-親子①
- 11回 現代家族の課題-親子②
- 12回 現代家族の課題-親子③
- 13回 現代家族の課題-家族の危機
- 14回 現代家族の課題-家族モデル
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み... 10% 期末試験... 90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布するレジュメに紹介した参考文献、図書館所蔵の関連図書を読み込むと理解を深めることができます。講義ノートを作成するよう心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義の内容や教科書、参考書を参照しながら、論点ごとに講義ノートを作成して理解を深めてください。

キーワード /Keywords

人間と文化【夜】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「文化」という言葉から伝統芸能や芸術活動を連想する受講者も多いだろう。本講義では文化を「人間の生活様式を規定してきたもの」としてより幅広く考え、現代社会における多様な文化のありかたを基礎から考えることを目指す。

グローバル化が進んだ現在でも、地域によって家族・親族関係のありかた、信仰のありかた、経済活動に関する考え方は大きく異なる。本講義では、(おそらく大部分が)北九州周辺に在住の大学一年生という受講者が現在考えている「文化」を、世界各地の文化のありかたを参照することで相対化し、身の回りの現代社会について考察するひとつの手段を学ぶ。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。授業ではPower Pointを使用するが、それだけに頼らず、各自ノートをしっかり取ること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○奥野克己(編)2005『文化人類学のレッスン』学陽書房
春日直樹(編)2008『人類学で世界をみる』ミネルヴァ書房
作道伸介(編)2008『近代化のフィールドワーク』東信堂
宮島喬(編)2000『講座社会学7 文化』東京大学出版会
※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：グローバルでローカルな世界を想像するために
- 第2回 異文化の「発見」：文化を考察する視点について
- 第3回 文化の基礎としての環境との<共生>
- 第4・5回 経済活動にみる文化：贈与と交換から地域通貨まで
- 第6回 資本主義の受容と貧困
- 第7回 開発の現場における「文化の差異」
- 第8・9回 個人と集団：生殖医療の時代に家族・親族関係を考える
- 第10回 親族・家族関係から社会関係への拡張
- 第11回 ジェンダー
- 第12・13回 日常生活の中の儀礼からみえる世界観
- 第14回 宗教・呪術・占いの機能
- 第15回 まとめ：グローバル化のなかのローカルな文化と普遍的価値観

成績評価の方法 /Assessment Method

エッセイによる授業貢献20%、期末試験80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回最後の10-15分は授業の感想と、指定するトピック(次回のテーマに関するもの)についてのエッセイを記述し、提出してもらいます。次回の講義の冒頭で、提出されたエッセイの中から読み取れる「現在、受講者が持っている文化に関する常識」を導入に講義を進めます。専門分野に関わらず、日常的に新聞、雑誌、書籍などを読む習慣をつけ、自分の考えをまとめる訓練を心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義「人間と文化」では、文化について生活に密着した側面に注目しています。来年度に2年次対象の「文化と政治」を受講すると、文化についてより包括的な理解が深まります。

キーワード /Keywords

文化、個人と集団、環境、共同体、社会関係

ことばの科学【夜】

担当者名 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語をはじめその他の言語のデータや最新の脳科学での発見を交え、「ことば」について考えていきます。

教科書 /Textbooks

配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』大津由紀雄編著、ミネルヴァ書房、2009年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 序(1)：ことばの不思議
- 第2回 序(2)：ことばの習得
- 第3回 ことばの単位(1)：音声と音韻
- 第4回 連濁・鼻濁音
- 第5回 ことばの単位(2)：語
- 第6回 語の基本：成り立ち・構造・意味
- 第7回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第8回 言葉の単位(3)：文
- 第9回 動詞の自他
- 第10回 日本語と英語の受動態
- 第11回 数量詞
- 第12回 代名詞：「彼」「彼女」「自分」「自分自身」
- 第13回 時制と相：方言比較
- 第14回 ことばと脳：言語野と他の領域
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度...10% 課題...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際学入門【夜】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究(国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など)と②世界の多様化に対応するための研究(地域研究、比較文化論、比較政治論など)である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、「地域研究のルーツ」
- 第4回～6回：「地域研究」における総合的認識。【総合化】【全体像の把握】
- 第7回～9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ。【文化主義】【オリエンタリズム】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題。
- 第13回～14回：地域研究の視点、ミャンマー研究を事例として。
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

可能であるならば、本講義と共に、国際関係論、国際機構論、比較文化論などを履修することを勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養としての平和学 【夜】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

皆さんがこれまで漠然と認識してきた「戦争」や「平和」という既成概念を改めて真剣に問い返して、戦争アレルギーに基づく思考停止的反戦主義や現実性に乏しい理想主義的平和主義を廃し、現実的な平和思考を養うことを目的とします。一言で言えば「平和とは何か」がテーマです。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～5回 問題提起、戦争の定義
- 6回～8回 平和の定義、積極平和論
- 9回～11回 日本の平和主義
- 12回～13回 正戦論(正義の戦争はあるか)
- 14回 二重結果の原則
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活世界の哲学【夜】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

「生活世界」を講義全体のキーワードとして、初学者向けに社会哲学への手引きを行なう。この科目を真摯に受講すれば、20世紀のヨーロッパで展開された社会思想に関する基本的な知識が得られるだろう。具体的には、マックス・ヴェーバーからフランクフルト学派、ハンナ・アーレントにまで至る思想家たちの「近代」に対する基本的なスタンスを説明したあと、近年盛んに論じられている公共性と親密圏の交錯という問題に取り組む。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 姜尚中『マックス・ヴェーバーと近代—合理化論のプロブレマティーク』御茶ノ水書房
- ハンナ・アーレント『人間の条件』(志水速雄訳)ちくま学芸文庫
- 斎藤純一『公共性(思考のフロンティア)』岩波書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (1) 【官僚制】
- 3回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (2) 【物象化】
- 4回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (3) 【工場労働】
- 5回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (4) 【分業体制】
- 6回 生活世界論のはじまり(1) 【近代科学と現象学】
- 7回 生活世界論のはじまり(2) 【フッサールの近代批判】
- 8回 確認テストとその解説
- 9回 生活世界論のひろがり(1) 【アーレント、人と思想】
- 10回 生活世界論のひろがり(2) 【アーレントの近代批判】
- 11回 公私の区別とその起源(1) 【古代ギリシャ概説】
- 12回 公私の区別とその起源(2) 【古代ギリシャにおける政治】
- 13回 宗教の私事性と公的領域(1) 【迫害と弾圧】
- 14回 宗教の私事性と公的領域(2) 【社会との確執】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト...50% 学期末試験...50%
(第8回に予定している内容確認テストを受験していない者は、自動的に期末試験の受験資格を失う。この場合、成績評価はE判定となる。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校世界史の教科書を一通り読み直しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

1年生向け科目であることを考慮に入れ、分かりやすい講義となるよう心がけたい。しかし、単位取得のためには相当な努力と学習意欲が求められる。

キーワード /Keywords

生活世界 形式合理性 活動 ポリス

メンタル・ヘルスI【夜】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス（心の健康）の学習とは、病気や不適応事例の発生予防だけでなく、もっと幅広く、多くの「健康な生活人」の健康増進にも役立つような要件を学ぶことである。ストレス社会と言われる現代にあつては、メンタルのタフさがなければ生活人としての活動は難しい。身近なことでは学生生活そのものがさまざまなストレス源への対処を余儀なくされる。過剰なストレスは友人間や家族内の人間関係の悪化や学習意欲の低下、生活上の事故やミス、無気力や抑うつ症状などを生じさせる。本講義では一般的な心理学を基盤に「メンタルヘルス（心の健康）」を生涯発達（エリクソン理論）の視点からとらえながら、日々の生活を充実させるための人生のその時期、その時期での適切なストレスマネジメントの力を身につけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

テキスト 「こころと人間」中島俊介著,ナカニシヤ出版

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

「こころの旅」神谷美恵子著 みすず書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 以下のスケジュールで行う（【 】はキーワード）
- 1回 オリエンテーション，受講上の注意，講師自己紹介など。
 - 2回 心の健康を学ぶ目的。「心」とは「健康」とは。【心の健康】【生涯発達心理学】
 - 3回 乳幼児の心の健康を知る。【エリクソンの自我発達理論】
 - 4回 児童期の心の健康を知る 【勤勉性と劣等感】
 - 5回 思春期の心のありよう【第二反抗期】
 - 6回から11回 青年期から壮年期までの人生と心の健康 【豊かな心とは】
 同一性の視点から ・遊びと人生
 配偶者の選択 ・病いと人生
 - 12回から13回 発達の障がいについての理解 【自閉症】【アスペルガー - 】
 - 14回 健康な心と身体の行く末について。【老いと死の受容】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 受講態度と勉学への熱意...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

自分なりの心の健康法について、自覚して取り組んでいる実践や考え方を自分なりに整理して授業に取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスII【夜】

担当者名 /Instructor 内田 若希 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の身体とのつきあい方を身につけ、心身ともに健康なライフスタイルの維持・獲得に向けて、理論の学習と実習を行う。なお、実習では、既存のルールにとらわれない誰でも楽しむことのできる運動を取り入れ、生涯にわたる健康の自己管理能力を養うことを目指す。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 ガイダンス
- 2回 (講義) 運動と身体の健康【生活習慣病】【運動基準・指針】
- 3回 (実習) ウォーキングと至適運動強度
- 4回 (講義) 運動と心の健康【ストレス社会】【コーピング】
- 5回 (実習) コミュニケーションを楽しむ①(ふうせんバレー)
- 6回 (実習) コミュニケーションを楽しむ②(ソフトバレー)
- 7回 (講義) 運動の継続化を目指して【行動変容】
- 8回～9回 (実習) 生活に役立つテーピング・キネシオテープ実習
- 10回 (実習) 子どもが楽しめる運動(レクリエーション)
- 11回 (実習) 中高年が楽しめる運動(バドミントン)
- 12回 (実習) 高齢者が楽しめる運動(軽スポーツ)
- 13回～14回 (講義) 健康でステキな人生を送るために
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会調査【夜】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会調査（主に量的調査）の基本的な考え方と技法を習得する。調査法を学ぶ場合、統計ソフトが使えるようになることよりも、基本的な「考え方」の方が重要である。たとえば、「あることを主張するためにはどのようなデータを用い、どのような事実が観察される必要があるか」を考えることである。その上で、質問文の作り方、調査票の構成、サンプリング、データファイル作成、単純集計、記述統計量の計算、検定、クロス表の作成など、基本的な分析技法について学ぶ。なお、パソコン教室を使う関係上、教室定員に応じて受講者数調整を行う可能性がある。

教科書 /Textbooks

『社会調査法入門』、盛山和夫著、有斐閣、2004

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『ガイドブック社会調査（第2版）』、森岡清志編著、日本評論社、2007
 - 『新版 ライフヒストリーを学ぶ人のために』、谷富夫編著、世界思想社、2008
- その他、授業の中で紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 何のための社会調査か
- 第2回 量的調査と質的調査
- 第3回 調査と研究の進め方
- 第4回 社会調査を企画する
- 第5回 ワーディングと調査票の作成（1）
- 第6回 ワーディングと調査票の作成（2）
- 第7回 ワーディングと調査票の作成（3）
- 第8回 サンプリング
- 第9回 調査の実施とデータファイルの作成（1）
- 第10回 調査の実施とデータファイルの作成（2）
- 第11回 分布と統計量
- 第12回 検定の考え方
- 第13回 クロス集計
- 第14回 相関係数
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 40% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストをよく読んでくること。
 「統計を読む・統計をつくる」（1学期）と合わせて受講することが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【夜】

担当者名 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実技 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
 この授業では、バドミントンの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 バドミントンの基礎(1) フライト(ハイクリアー・ドロップ・ヘアピンなど)
- 3回 バドミントンの基礎(2) フライト(ハイクリアー・ドロップ・ヘアピンなど)
- 4回 バドミントンの基礎(3) フライト(ハイクリアー・ドロップ・ヘアピンなど)
- 5回 バドミントンの基礎(4) サーブ(ロング・ショート)
- 6回 バドミントンの基礎(5) スマッシュ
- 7回 バドミントンの基礎(6) ルールの習得(シングルス)
- 8回 バドミントンの応用(7) ルールの習得(ダブルス)
- 9回 バドミントンの応用(1) フォーメーション
- 10回 バドミントンの応用(2) ゲーム展開
- 11回 シングルスゲーム(1)
- 12回 シングルスゲーム(2)
- 13回 ダブルスゲーム(1)
- 14回 ダブルスゲーム(2)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% スキル獲得テスト ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装と体育館シューズを準備すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【夜】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業は、中学校教諭一種免許状（社会）や高等学校教諭一種免許状（公民）の取得を目指し、4年次に教育実習に行きたいと考えている学生のために、開講します。
 教育実習において、実習生は、実習先の学校で少なくとも数度の授業を担当することになります。塾などで実践経験を積み、自信满满で教育実習に臨む実習生もいるでしょうが、おそらく実習生の多くは、模擬授業を経験する十分な機会にも恵まれないまま、不安な気持ちを抱えながら、教育実習に臨むことになっているのではないのでしょうか。このクラスは、そのような不安を少しでも軽減するために、学習指導要領に対する理解を深めるとともに、模擬授業の実践と相互観察を通じ、受講生のティーチングスキルの向上を図ることを目的としています。
 なおこのクラスでは、高等学校における「現代社会」の授業を題材にして、授業を展開していくこととします。

教科書 /Textbooks

高等学校学習指導要領 解説（公民編）
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afiedfile/2010/09/07/1282000_4_1.pdf

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書は、初回の授業時に、紹介します。
 また授業の理解に必要な資料等は、適宜、配布します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス
- 第2回 高等学校学習指導要領 解説（公民編：現代社会）を読み解く
- 第3回 学習指導案の作成①【単元】【目標】【指導計画】【指導上の立場】
- 第4回 学習指導案の発表①
- 第5回 学習指導案の作成②【本時案の位置づけ・目標】【導入・展開・まとめ】【学習内容・学習活動】
- 第6回 学習指導案の発表②
- 第7回 模擬授業における相互観察のポイント【授業構成】【説明】【発問・指示】【板書】【レジユメ】
- 第8回 模擬授業と相互観察①
- 第9回 模擬授業と相互観察②
- 第10回 模擬授業と相互観察③
- 第11回 模擬授業と相互観察④
- 第12回 模擬授業と相互観察⑤
- 第13回 模擬授業と相互観察⑥
- 第14回 模擬授業と相互観察⑦
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加の程度をもとに総合的に評価します。具体的には、出席状況、課題・模擬授業などへの取り組み状況、授業態度、貢献度（積極的な発言など）によって総合的に評価することになります。
 ゼミへの参加...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

学習指導案の作成や模擬授業の準備等、正規の授業時間外にも時間を取ってもらうことになります。
 受講申請にあたってはこの点に注意してください。

履修上の注意 /Remarks

①教育実習1を受講していること、②社会科教育法ないしは公民科教育法を受講していること、を受講の条件とします。
 なお最大でも10人程度を予定しています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教員を目指す人、自分の夢に向かって、自分の力を磨いてください。

キーワード /Keywords

【公民】【現代社会】【学習指導要領】【教材研究】【学習指導案】【模擬授業】【相互観察】

地球の生いたち【夜】

担当者名 /Instructor 長井 孝一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

我々の住む地球は太陽系の第3惑星として、今から約46億年前に誕生した。その46億年の地球史の中で、大地や海、大気が形成され、地球生命が誕生し、さらに、そのそれぞれが進化あるいは変遷を繰り返してきた。地球生命は約38億年前に誕生し、長大な時間をかけて進化を繰り返してきた。我々人類は今、地球の生物史上初めて地球に能動的にかかわる生物として、その長大な時間の延長線上にいる。高度文明社会が人類や地球の未来を危うくしかねない問題を次々と引き起こしている現在、我々はこれまでも増して地球のしくみや成り立ちを正しく理解し、地球規模でのバランス感覚を養っていく必要がある。

この授業の目標は、現在の地球のしくみと地球史を正しく理解することを通して、地球と人間との関係はどうあるべきかについて、自ら判断し考えることができるようになることである。

教科書 /Textbooks

教科書は使用せず、プリントを適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

川上伸一『生命と地球の共進化』(NHKブックス, 日本放送協会), 1071頁
丸山茂徳・磯崎行雄著『生命と地球の歴史』(岩波書店), 861頁
その他の参考書については授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目: 地球の歴史の表し方【地質時代と絶対年代】
- 2回目: 生きている地球1【プレートテクトニクス】
- 3回目: 生きている地球2【ウエゲナーと大陸移動説】
- 4回目: 地球惑星の起源と進化【水の惑星の誕生】
- 5回目: 地球生命の起源と目に見えない生物の長い長い時代【先カンブリア時代】
- 6回目: 凍りついた地球【全球凍結】
- 7回目: 生物進化史上最大の事変1【カンブリア爆発】
- 8回目: 生物進化史上最大の事変2【カンブリア爆発の意義】
- 9回目: 顕生累代の生物の変遷史1【古生代】
- 10回目: 繰り返す大量絶滅1【ペルム紀末の大量絶滅】
- 11回目: 顕生累代の生物の変遷史2【中生代】
- 12回目: 繰り返す大量絶滅2【白亜紀末の大量絶滅】
- 13回目: 顕生累代の生物の変遷史3【新生代】
- 14回目: 人間圏の成立と環境問題【人類と環境】
- 15回目: まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験: 80%, 日常の授業への取り組み: 10%, 小テスト・ミニレポート: 10%
欠席の多い学生は減点する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地球史を学ぶ事を通して、地球と人間との関係について考えましょう。

キーワード /Keywords

地球史, 生命と地球, 共進化

思想と現代【夜】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

19世紀末から20世紀にかけて発展してきた重要な思想の流れを解説する。この時代がいわゆる「哲学の終焉」以降の時代であることを意識しつつ、その中から生まれてきた新たな哲学的発想（実存思想・精神分析・フェミニズム）に着目してゆく。これらの発想をヒントにすることで、自我の成立、および他者との関係性について複眼的な思索ができるようになることを本授業の目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『哲学の歴史 第9巻—反哲学と世紀末』中央公論新社、2007年。
- 『哲学の歴史 第12巻—実存・構造・他者』中央公論新社、2008年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 実存の思想(1)【概説】
- 3回 実存の思想(2)【キルケゴール】
- 4回 実存の思想(3)【ハイデガー】
- 5回 実存の思想(4)【サルトル】
- 6回 実存の思想(5)【メルロ=ポンティ】
- 7回 中間総括(確認テスト)
- 8回 精神分析の思想(1)【フロイト1】
- 9回 精神分析の思想(2)【フロイト2】
- 10回 精神分析の思想(3)【メラニー・クライン1】
- 11回 精神分析の思想(4)【メラニー・クライン2】
- 12回 フェミニズムの思想(1)【第一波】
- 13回 フェミニズムの思想(2)【第二波】
- 14回 フェミニズムの思想(3)【現代】
- 15回 総括と補足

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト... 50% 期末レポート... 50%
(※確認テストを受験していない者は、期末レポート提出の権利を失う)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

第7回にテスト(第3回~第6回の内容確認)を実施するので、受講希望者は遅くとも第3週目から出席しておく必要がある。なお、このテストを受験していない者には単位を認めないので、あらかじめ注意しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業に対しては、一切の甘えを捨てた上で取り組んでほしい。
授業内で指示する課題内容から外れたレポート、無断引用(コピペ等)が発覚したレポートは即座に0点となる。

キーワード /Keywords

民主主義とは何か【夜】

担当者名 中道 壽一 / Hisakazu Nakamichi / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

かつて「危険な思想」であった民主主義は、今やすべてのものを正当化するレトリックとなり、きわめて形式的なものとなっている。そこで、本講義では、民主主義に関する議論を活性化するためのいくつかの素材、論点、概念などを提示し、「民主主義とは何か」を問い直してみたい。

教科書 /Textbooks

レジュメの配布を基本とするが、S・シャピロ『民主主義論の現状』（慶応義塾大学出版会、2010年）（○）も多く用いる。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

中道編『現代デモクラシー論のトポグラフィ』(日本経済評論社、2003年)(○)
J・リンズほか『大統領制民主主義の失敗』(南窓社、2003年)(○)
L・ダイヤモンドほか『シベリアン・コントロールとデモクラシー』(刃水書房、2006年)(○)
中道『政治思想のデッサン』(ミネルヴァ書房、2006年)(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 開講の辞・グローバル化とデモクラシー【第三の波】【市民社会】
第2-3回 「デモス」と「クラティア」について【イソノミア】【イセゴリア】【イソモイリア】
第4-5回 二つの民主主義伝統について【G・セイバイン】【自由】【平等】
第6-7回 近代市民革命と自由民主主義について【C・シュミット】【自由主義】【民主主義】
第8-9回 現代民主主義の諸類型【エリート主義】【参加民主主義】【共生の民主主義論】
第10-11回 議院内閣制民主主義と大統領制民主主義について【政治的安定性】【首相公選制】
第12-13回 民主主義批判の思想について【全体主義】【ポスト・デモクラシー】
第14回 デモクラシーの徹底化について【C・ムフ】【多様性】【複数性】
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義への積極的取組考慮、小テストによる問題の解説と添削、レポート任意提出可、定期試験と講義への積極的取組などで総合評価
講義への積極的取組・・・10%、小テスト...10% レポート(任意) 20% 試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布したレジュメに目を通しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人権論 【夜】

担当者名 /Instructor 柳井 美枝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「人権」といえば「特別なこと」というイメージを持つかもしれないが、実際には「気づかない」「知らない」ことにより、自分自身の「人権」が侵害されていたり、無意識に他者の「人権」を侵害しているということがある。本講義では、「人権とは何か」という基本的な概念をふまえて、現存する「人権課題」の実情や社会的背景を考察していく。その上で、自分自身がどのように「人権」と向き合っていくのかを問い直す機会としたい。

目標

1. 人権とは何かについての理論的概念が理解できる。
2. 人権獲得の歴史を体系的に理解できる。
3. 現代社会における様々な人権課題について、その事例を説明できる。
4. 自分自身と人権との関わりが理解できる。

教科書 /Textbooks

『人権とは何か』（横田耕一著 / 福岡県人権研究所発行 ¥1000）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『不思議な力 夜間中学』（宇多出版企画発行）
『部落問題資料と解説』（解放出版社発行）
必要な参考書は授業時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 自分にとっての人権課題
- 2 「人権とは何か」
- 3 「人権獲得の歴史」
- 4 「世界人権宣言採択の歴史的経緯と意義」
- 5 「部落問題について」
- 6 「部落差別の事例と当事者の声」
- 7 「在日外国人と人権課題」
- 8 「在日コリアンについて」
- 9 「ハンセン病とは、元患者の事例」
- 10 「識字問題～読み書きができないことがもたらす人権侵害」
- 11 「教育と人権～教育を受ける権利が保障されていない人たちの状況」
- 12 「障害者の立場からみる人権課題」
- 13 「戦争と人権 / 女性と戦争」
- 14 「アジアの人権状況」
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 50% 期末テスト 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日常生活の中にあるさまざまな人権課題に関心を持ち、授業のミニレポートまたは感想用紙に反映させることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

授業中の私語は厳禁

人権論【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生自身がもつ「学ぶ権利」を十分認識して取り組んでほしい。

キーワード /Keywords

「すべての人」「人間らしく生きる」

ジェンダー論 【夜】

担当者名 /Instructor 力武 由美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

なぜ男言葉と女言葉があるのか、なぜ女性の大芸術家は現れないのか、なぜ「男は仕事、女は家事・育児・介護」は自然な役割だと思われているのか、なぜ男女の賃金格差があるのか、なぜ政治学や法学・科学の分野に女性教員や女子学生が少ないのか、なぜ戦時・平時にかかわらず女性に対して暴力が振るわれるのか-そのような日常的な「当たり前」をジェンダーの視点で問い直すことで、社会や文化に潜むジェンダー・ポリティクスを読み解く視点と理論を学ぶ。

教科書 /Textbooks

『ジェンダー・スタディーズ-女性学・男性学を学ぶ』（牟田和恵編）大阪大学出版会 2,520円
適宜、補足資料を配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『岩波女性学事典』（井上輝子・上野千鶴子・江原由美子・大沢真理・加納実紀代編）岩波書店 4,830円
『フェミニズム理論辞典』（マギー・ハム著）明石書店 7,140円
R.W. Connell, Gender: Short Introduction, Polity, 2003 .

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

- 1回 日本語とジェンダー-日本の戦後から現代までの歌謡曲【女言葉・男言葉】
- 2回 ジェンダー・リテラシーで読み解く文学-村上春樹作・小説『ノルウェイの森』【眼差し】
- 3回 現代アートとジェンダー-映画『ロダンが愛したカミーユ・クローデル』【制度】
- 4回 男もつらいよ-アーサー・ミラー作・戯曲『セールスマンの死』【男らしさ】【性別役割分業】
- 5回 ジェンダー家族を超えて-週刊誌『女性自身』にみる皇室家族【近代家族】
- 6回 セクシュアリティを考える-あだち充作・マンガアニメ『タッチ』【ホモソーシャルな関係】【性のダブル・スタンダード】
- 7回 学校教育の今昔-学園ものTVドラマの系譜【ジェンダー・トラッキング】【隠れたカリキュラム】
- 8回 社会保障とジェンダー-米映画『フローズン・リバー』【シングル・マザー】【貧困の女性化】
- 9回 ジェンダーの視点からみる農業-エレン・グラスゴー作・小説『不毛の大地』【家族経営協定】
- 10回 アジア現代女性史の試み-ミュージカル『ミス・サイゴン』【女性に対する暴力】
- 11回 女性差別撤廃条約と人権-絵本『世界中のひまわり姫へ』【民法】【均等法】【DV防止法】
- 12回 ジェンダーと平和学-女性戦士の系譜『リボンの騎士』『風の谷のナウシカ』【平和構築】
- 13回 グローバリゼーションと労働市場-比映画『ケア・ギバー』【移住労働】【性別分業の再配置】
- 14回 テートDV-TVドラマ「ラスト・フレンズ」【ドメスティック・バイオレンス(DV)】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼン...30%、レポート...30%、期末試験...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書と資料を事前に読んでおくこと。
ワークショップのプレゼンでは、パワーポイントを使用するので、プレゼンおよびPPT作成スキルを身につけておくこと。PPTは8枚にまとめること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

メディア表現、ジェンダー不平等な法制度の改正、日常的な会話・風景をジェンダーの視点で問い直す作業を日頃から行い、授業中の発言、プレゼン、レポート、期末試験に反映させること。

キーワード /Keywords

「ジェンダー」「セクシュアリティ」「ポリティクス」「グローバル化」

北九州学【夜】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この科目は、地域社会の発見学です。私たちの大学のある北九州、この地域の歴史や伝統文化を知り、人々の暮らしや風土に根ざした心を理解し、ものづくりやまちづくりへの取り組みを確認してみようと思います。北九州の発見を通じて、生活するためのヒント、他の文化とつながる知恵や未来への発展可能性を開く手がかりを得ようというものです。本年度は、「北九州の政治行政」を講義の主なテーマとします。講義全体のキーワードは『知っとーと！？北九州？？？』です。

教科書 /Textbooks

使用しません。毎回レジュメと資料を配布する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要があれば、その都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 北九州の歴史-小倉藩の治世
- 3回 北九州の歴史-小倉の五街道
- 4回 北九州の歴史-軍都小倉
- 5回 北九州市誕生
- 6回 北九州の政治
- 7回 北九州の住民自治
- 8回 北九州の教育行政
- 9回 北九州の交通行政
- 10回 北九州の環境行政
- 11回 北九州の安全対策
- 12回 北九州の福祉行政
- 13回 北九州のスポーツ行政
- 14回 北九州の観光行政
- 15回 まとめ

* 毎回ゲストをお招きして、各テーマについてお話を伺います。上記の内容は一応の予定です。現在検討中です。講義内容の詳細は開講時に配布します。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の講義への取り組み... 10% 課題... 10% 期末のレポート... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特にありません。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義中にノートをしっかりつけてください。

キーワード /Keywords

市民活動論【夜】

担当者名 西田 心平 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものか、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。
主要な事例をとりあげ、それを柱にしながら授業を進めて行く予定である。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
 - 2回 枠組みの設定
 - 3回 民衆行動の分析①
 - 4回 民衆行動の分析②
 - 5回 市民運動の分析
 - 6回 市民の活動の展開 / 戦前 (上)
 - 7回 市民の活動の展開 / 戦前 (下)
 - 8回 市民の活動の展開 / 戦後 (上)
 - 9回 市民の活動の展開 / 戦後 (下)
 - 10回 市民の活動の展開 / 高度成長期 (上)
 - 11回 市民の活動の展開 / 高度成長期 (下)
 - 12回 市民の活動の展開 / ポスト高度成長期 (上)
 - 13回 市民の活動の展開 / ポスト高度成長期 (下)
 - 14回 市民活動の現在
 - 15回 全体まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極参加... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合がある。その際の積極的な参加が求められる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業と社会【夜】

担当者名 /Instructor 山岡 敏秀 / toshihide yamaoka / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本は、かのアジア太平洋戦争に敗北した。その後の日本は、奇跡的とも言うべき復活・再生（高度成長から安定成長）を果たした。その後、欧米から日本の経営とも賞賛された日本の企業社会であるが、そのピーク＝破壊たる1990年代前半のバブル崩壊を契機として、一転して失われた10年さらには15年とも評価されるにいたっている。

終身雇用（＝ライフタイム・コミットメント、広義には職場共同体感）・年功制や労使協調型経営のシステムは、今や、液状化して剥き出しの資本制経済の荒波にさらされている。日く、ワーキングプア・ネットカフェ難民・格差から貧困。

にもかかわらず、経済政策をリードしている新自由主義（マーケット型資本主義）路線。すなわち市場＝マーケット万能路線である。そこでは、市場から脱落・排除（彼女／彼らはこれを退出という）された者は、もはや回帰不可能な存在として処理されているかのようである。

これまでの日本経済においては、ケインズ型経済政策を基底にして、社会そのものが、こうした人々を支えるセーフティネットをもっていたと判断される。しかし、赤字財政と経済危機という観点から、いよいよ新自由主義なる路線が浸透しているかのようである。

そうすると行き着くところ、社会というものは、必ずしも人々の生命の再生産を所与としないものだろうか？

こうした問題を、日本の企業社会という文脈にひきつけて展開してみようというのが講義のねらいである。

教科書 /Textbooks

テキストは、竹内章郎『新自由主義の嘘』岩波書店、2007年。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

ことに格差と貧困に関わるテーマを扱った雑誌『世界』・岩波新書等の最新の文献。國島・重本・山崎編『「社会と企業」の経営学～新自由主義的経営から社会共生的経営へ～』ミネルヴァ書房（2009年）・見田宗介（真木悠介）の社会学入門に関する文献は一冊、用意したい。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会とは(社会認識の諸類型)。資本制経済(資本家的生産様式)。【社会認識】
- 2回 同上
- 3回 【商品流通】【資本家】【労働者】【市民社会】【資本制経済】【市民法】
現代社会の物質代謝＝商品による商品の生産。現代社会の物質代謝と再生産＝商品流通(C-M-C)による社会の再生産→この商品流通から、ふたつのタイプが見いだされる。→C-M-C(私たち)とM-C-M(資本家)。私たちと資本家は、商品流通のレベルでは仲良く相対しているかのようだ。この市民社会＝市民法レベルでの社会の再生産とその実態(秘密)。
- 4、5回 同上
- 6回 【本源的蓄積過程】【剰余価値】【賃労働関係】 市民社会の歴史的創出＝本源的蓄積過程。商品流通(C-M-C)の内実たるM-C-Mでの剰余価値の生産。資本家と労働者。
- 7、8、9回 同上
- 10回【現代社会における二者闘争性(白と黒)】【労働組合】【福祉国家】【ケインズ政策】
市民社会と階級関係の二者闘争性。セーフティネット装置＝福祉国家。戦後のケインズ政策。
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 福祉国家の行き詰まりから、資本主義の原点回帰へ。新自由主義の台頭。【新自由主義】
- 14回 システム統合と社会統合。マーケットとその外側(生活世界)。【システム統合】【社会統合】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%、およびボーナスとして、レポート...10%と小テスト...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ①、テキストを用意すること。②、レジュメだけにしがみつかない。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

【商品流通】【資本家】【労働者】【市民社会】【資本制経済】【市民法】【本源的蓄積過程】【剰余価値】【賃労働関係】【現代社会における二者闘争性（白と黒）】【労働組合】【福祉国家】【ケインズ政策】【新自由主義】【システム統合】【社会統合】

現代社会と倫理【夜】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代社会の中で生じている倫理的問題のいくつかを考察しながら、実践倫理学の基礎を学ぶ。「われわれ現代人は生と死の問題、差別と平等の問題にどう立ち向かうべきなのか」という問いかけを中心に、個々の社会問題に対する批判的思考の育成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ピーター・シンガー『実践の倫理 新版』(山内友三郎・塚崎智監訳)昭和堂、1999年。
- 加藤尚武・飯田亘之編『バイオエシックスの基礎』東海大学出版会、1988年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 現代における人命の価値(1)【生命の神聖説】
- 3回 現代における人命の価値(2)【積極的行為と消極的行為】
- 4回 現代における人命の価値(3)【最大幸福原理】
- 5回 現代における人命の価値(4)【完全義務と不完全義務】
- 6回 現代における人命の価値(5)【自己意識】、【FLO】
- 7回 小テスト+解説
- 8回 現代における差別の問題(1)【人種差別】
- 9回 現代における差別の問題(2)【種差別】
- 10回 現代における差別の問題(3)【間接的功利主義】
- 11回 現代における公平性の意義(1)【共有地の悲劇】、【救命ボート倫理】
- 12回 現代における公平性の意義(2)【公平主義】
- 13回 現代における公平性の意義(3)【援助義務論】
- 14回 現代における公平性の意義(4)【ケイバビリテイ】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト...30% 学期末試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の概要、より詳しい参考文献の紹介は初回に行なう。
参考文献に挙げた『バイオエシックスの基礎』に収められた論文を一部授業の素材にするので、簡単にでも目を通しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業の期末試験は、今年度より持ち込みが一切不可(プリント・ノート類も禁止)となる。
また、それに応じて成績評価のハードルもかなり高くなる。このため、受講者には継続的な学習意欲とそれ相応の記憶力が要求される。この方式変更に伴うリスクと負担をよく理解した上で講義に臨むこと。

キーワード /Keywords

生命 功利主義 義務論 公平性

現代の国際情勢【夜】

担当者名 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

東アジア現代の国際情勢を、ポストコロナリズムという現代思想の問題提起に沿って考察する。

教科書 /Textbooks

姜尚中編『ポストコロナリズム』知の攻略、思想読本4 (作品社、2003) 2000円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の概要
- 2～3回 なぜ今、ポストコロナリズム七日(1)(2)
- 4回 第IV部の総論 姜尚中論文
- 5回 第II部の総論 本橋哲也論文
- 6回 第II部の「近代」 松葉祥一論文
- 7回 第II部の「性・文化」 竹村・毛利論文
- 8回 第II部の「日本」 小森陽一論文
- 9回 第II部の「第三世界」 小倉英敬論文
- 10回 第II部の「国家」 榎田竜蔵論文
- 11回 第III部の1、 朴一・村井寛志論文
- 12回 第III部の2、 趙慶喜論文
- 13回 第III部の3、 高橋哲也論文
- 14回 第III部の4、 野村・鄭論文
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告レジュメ1回(10%)とレポート3回(90%、1回10%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書に登場する概念、理論について自主的に勉強すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際紛争と国連【夜】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際社会の性質を簡単に紹介した上で、国連を中心として、国際機構が世界の安全保障において、どんな役割を有しているのかを考えることが目的です。現代社会の理解には、それまでの歴史的展開の理解が不可欠であると考えますので、時系列的に古い話から、徐々に現代にテーマを移してゆくようにします。

教科書 /Textbooks

テキストは指定しません。各テーマごとにレジュメ(説明プリント)を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回～第3回 国際機構の定義～「国際」とは何か？ 国際機構とは何か？ 主権国家とは何か
- 第4回～第5回 国際機構の歴史～国際機構の誕生、国際連盟の画期性、国際連盟の欠陥
- 第6回～第8回 国際連合の成立～国際連合の創設過程、国際連合の成立
- 第9回～第10回 国際連合の展開I～国連軍、安保理の機能不全
- 第11回～第12回 国際連合の展開II～日本の国連加盟、途上国の台頭、中国の代表権問題
- 第13回 冷戦終結と国連～冷戦終結による変化、変化への対応、成功と失敗
- 第14回 国際安全保障の展開～国際社会が協力して安全保障をし始めたのはいつ？なぜ？国連の安全保障の特徴
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

開発と統治【夜】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科, 伊野 憲治 / 基盤教育センター
申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

グローバル化が刻々と進行している中、現在、持続可能な社会の構築が求められています。なかにはその目標に向かって進んでいる国や地域がある一方で、紛争や対立を繰り返している国や地域もあります。本講義では各国や地域を熟知・精通した教員が、各自が考える「ガバナンス(統治)」の意味を世界各地の国や地域社会の具体的な実例を用いて説明します。そして、最後に受講生にとって「ガバナンス」とは何なのかについてグループ・ワークを通じて回答を出してもらいます。

教科書 /Textbooks

その都度配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『○○を知るための○章』シリーズ(明石書店)、特にミャンマー、バングラデシュ、韓国を参照のこと。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 「開発と統治」をはじめるにあたって		担当: 三宅
2回 民主化問題を考える視座(1)	【民主化問題】	担当: 伊野
3回 民主化問題を考える視座(2)		担当: 伊野
4回 理論と現実-ミャンマーの民主化をめぐる	【ミャンマー】	担当: 伊野
5回 援助と民主主義: バングラデシュの事例	【援助】	担当: チョウドリ・三宅
6回 選挙を通して見たバングラデシュの政治活動	【バングラデシュ】	担当: チョウドリ・三宅
7回 途上国と一村一品運動	【一村一品運動】	担当: チョウドリ・三宅
8回 グラミン銀行と地域社会のガバナンスの変化	【グラミン銀行】	担当: チョウドリ・三宅
9回 1970年代の韓国の開発と民主化運動	【韓国】	担当: 申
10回 韓国: 1990年代以降の民主化と環境政策	【環境政策】	担当: 申
11回 滞在経験を通して感じた米国のガバナンス	【米国】	担当: 申
12回 地域社会から見たガバナンス	【地域社会】	担当: 三宅
13回 日本の子ども会を取り巻く環境	【子ども会】	担当: 三宅
14回 ガバナンスに関するグループ・ワーク		担当: 指名教員
15回 まとめ		担当: 三宅

成績評価の方法 /Assessment Method

小課題の提出 ... 30 % 試験 ... 70 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日ごろから世界の動きに注目し、新聞やインターネットなどで情報をキャッチしておくこと。また、時々、小課題を出すので、提出すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

世界と私たちが住む地域は恒常的に結びついています。その結びつきを最終的には理解できるようにします。

キーワード /Keywords

ガバナンス ミャンマー 韓国 バングラデシュ 子供会 グループ・ワーク

歴史の読み方I【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ここでは明治時代をはじめとする、歴史上の人物や実際の史料を取り上げながら、今日の世界の中で日本の歴史がどう捉えられているのか、また、私たち自身が歴史をどう見ているのかを考えることを目的とした歴史の見方を学びます。

教科書 /Textbooks

なし。活字史料や、パワーポイントで投影した映像史料を適宜コピーして配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『日本評伝選・桂太郎』、○『日本外交年表並主要文書』上・下

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インタロダクション
- 第2回 西南戦争
- 第3回 日清戦争
- 第4回 日露戦争
- 第5回 第一次世界大戦とシベリア出兵
- 第6回 山東出兵(1)
- 第7回 山東出兵(2)
- 第8回 満州事変(1)
- 第9回 満州事変(2)
- 第10回 日中戦争(1)
- 第12回 日中戦争(2)
- 第13回 太平洋戦争(1)
- 第14回 太平洋戦争(2)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の講義への取り組み...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「ただ聴くだけ」という受講態度は許されない。講義前に最低限高校教科書レベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

都市と農村の生活文化史【夜】

担当者名
/Instructor

福岡 裕爾 / Yuji FUKUMA / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次
/Year

単位 2単位
/Credits

学期 1学期
/Semester

授業形態 講義
/Class Format

クラス 1年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

自由で豊かな暮らしを求めて、人々が都市への集住を強めた20世紀。各地で都市化が進み、農村も相応の変化を強いられてきた。これを「向都離村」という言葉で説明することがあり、都市集住がすべてバラ色ではなかったことを示してきた。にもかかわらず、この傾向は現代においても未だに続いている。果たして、人々を幻惑する都市の魅力とは何か、また農村から都市へと移動する人々が直面した困惑と持ち帰った文化的価値とは何か。

この講義では、都市から農村を見ていくことで、両者のダイナミズムやそのなかに秘められた人々を相対化する技法を考える。また、文献等に残ることが少ない生活の営みをどのように整理し、現場のなかでいかに問題を発見し理論化するか、というフィールドワークの基本にも触れることができる内容としたい。何気ない日常に焦点をあて、そのなかから理論を析出するおもしろさを伝えたい。

教科書 /Textbooks

特定の教科書は用いない。必要な資料はプリントで適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに 「都市の誘惑」 ガイダンス
- 第2回 「都市と農村 / 都会と田舎」 都市と農村のイメージ
- 第3回 「都市の言葉と話芸の誕生」 言葉から都市と農村を見る
- 第4回 「都会という感覚」 都会の指標としての祭礼
- 第5回 「都会のハビトゥス1」 出会いと社交の技法
- 第6回 「都会のハビトゥス2」 結集の理法
- 第7回 「都会のハビトゥス3」 不文律の妙
- 第8回 「都会人の気質」
- 第9回 「三つ子の魂、百まで」 ある日本画家の原風景
- 第10回 「都市の人生と漁村」 人と物の交流と人生儀礼
- 第11回 「都鄙連続論」 都市と農村の繋がりを考える方法
- 第12回 「都鄙連続論の検証」 山笠に見る文化伝播
- 第13回 「都市の再生産」
- 第14回 「都市と農村の身体性」
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートまたは試験 80% 授業中の小レポート等20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「話を聞く」ことを重視する。しっかり授業を聞き、十分にノートをとること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人物と時代の歴史【夜】

担当者名 /Instructor 新村昭雄(文)、三宅博之(法)、乗口眞一郎、山崎勇治

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

歴史の面白さを、特定の人物を中心として講義することによって学生に知ってもらうことを目的とする。なぜならば、歴史の背後にある人物や文化などを理解することが複雑な今日政治、経済、文化、外交、戦争などの諸現象を理解できるからである。

4人の教員が、日本・アメリカ・インド・英国の代表的な人物について、その人物が生きた歴史と時代について語る。はじめに、「剣と禅」に生きた山岡鉄舟と幕末・明治維新について語る。今、武士道(Bushido)が見直されている。核兵器と原子力を抑止するのは結局のところ人間の心しかない。禅と武道を極めた鉄舟もその心を無刀流においた。

江戸時代、上杉鷹山はその儒教的経営で壊滅的な上杉家の財政を見事に立て直した。その技を見てみよう。次に、徳川幕府が始まってまだその礎が固まっていないとき、3代将軍家光の弟・保科正之は江戸幕府の礎を築いた。長い平安の時代が終わり、貴族に代わって武士が台頭したとき、貴族のための仏教に代わって、庶民のために仏教が生まれた。それを代表するのが浄土真宗の親鸞であった。日本古来の縄文信仰(アイヌや南方諸島に残る)や弥生信仰に代わって、聖徳太子(厩戸皇子)は仏教を大和(やまと)の国の根本におかれた。飛鳥・奈良時代、なぜ、インド・中国から渡来した仏教が繁栄したのか。

次にアメリカを代表する人物の話に移る。果たして、オバマ大統領のノーベル平和賞授与は正しかったのか。オバマ大統領の経歴と奴隷解放運動の歴史について語る。そして、歴代大統領とその素顔(リンカーン、ケネディー、クリントン大統領)について。次に今や中国とともに、次世代を握るインドの話である。まず、マハトマ・ガンディの生きた時代背景の考察=イギリス植民地史について語る。「ガンディ」の映画を鑑賞したのち、マハトマ・ガンディのこだわり=なぜインド人は手紡ぎ車を自身で回すのか?について考える。

最後は、世界大学ランキング1位を維持し続けているケンブリッジ大学を擁する英国について、「湯布院のモデルとなった湖水地方のベアトリクス・ポター」「世界恐慌を救ったケンブリッジ大学のM・ケインズ」「『イギリス病』を救った鉄の女、M.サッチャー」について語る。

教科書 /Textbooks

各回講義の資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

講義で取り上げるテーマや人物に関して、自伝や歴史書を図書館等で読んでおくこと。
山崎勇治『石炭で栄え滅んだ大英帝国—産業革命からサッチャー改革まで>—(ミネルヴァ書房、2008年6月)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

日本、アジア、アメリカ、ヨーロッパの歴史の中からテーマを厳選し、講義をする

- 第1回 はじめに。「ラスト・サムライ」山岡鉄舟と幕末・明治維新
- 第2回 上杉鷹山と儒教的経営
- 第3回 保科正之と江戸幕府
- 第4回 親鸞と平安・鎌倉時代
- 第5回 聖徳太子と飛鳥・奈良時代
- 第6回 オバマ大統領のノーベル平和賞授与は正しかったのか
- 第7回 オバマ大統領の経歴と奴隷解放運動の歴史
- 第8回 歴代大統領とその素顔(リンカーン、ケネディー、クリントン大統領)
- 第9回 マハトマ・ガンディの生きた時代背景の考察=イギリス植民地史
- 第10回 「ガンディ」の映画鑑賞
- 第11回 マハトマ・ガンディのこだわり=なぜインド人は手紡ぎ車を自身で回すのか?
- 第12回 明治維新を側面から支援したスコットランド人、トーマス・グラバー
- 第13回 湯布院のモデルとなった湖水地方のベアトリクス・ポター
- 第14回 世界恐慌を救ったケンブリッジ大学のM・ケインズ
- 第15回 「イギリス病」を救った鉄の女、M.サッチャー—総まとめ—

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(30%)とレポート(70%)により評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義で取り上げるテーマや人物に関して、自伝や歴史書を図書館等で読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

人物と時代の歴史【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

【ラスト・サムライ】【武士道】【幕末・明治維新】【壊滅的な藩の財政を立て直した】【儒教的経営とは】【江戸幕府の礎を築いた】家光の弟・保科正之【民衆に根ざした仏教】【平安・鎌倉時代】【一七条の憲法】【聖徳太子(厩戸皇子)】【飛鳥時代】【オバマ大統領】【ノーベル平和賞】【奴隷解放運動の歴史】【アメリカ歴代大統領】【マハトマ・ガンディ】【イギリス植民地史】【なぜインド人は手紡ぎ車を自身で回すのか】【ベアトリクス・ポター】【湖水地方】【湯布院】【ケインズと世界恐慌】【サッチャー】【英国病】

西洋史【夜】

担当者名 /Instructor 疇谷 憲洋 / Norihiro Kurotani / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地球規模で進行する「世界の一体化」。ヨーロッパとアフリカ・「新世界」・アジアの出遭いの諸相と諸文明の交流・衝突、ヨーロッパ諸国の動向と植民地帝国の編成・変化を見ることによって、「西洋史」を立体的に把握することを目指します。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】内はキーワード)
- 1回 「13世紀世界システム」とヨーロッパ【ボックス・モンゴリカ】
 - 2回 中世ヨーロッパの世界観【プレスター・ジョン】
 - 3回 イベリア諸国の形成【レコンキスタ】
 - 4回 「中世の危機」とポルトガル【アヴィス朝革命】
 - 5回 大航海時代と「世界分割」【トルデシリャス条約】
 - 6回 ポルトガルのアジア進出【アルブケルケ】
 - 7回 ポルトガルによる植民地帝国の形成①【点と線の支配】
 - 8回 ポルトガルによる植民地帝国の形成②【南蛮貿易】
 - 9回 スペインによる植民地帝国の形成①【エンコミエンダ制】
 - 10回 スペインによる植民地帝国の形成②【ポトシ】
 - 11回 オランダ、イギリスの台頭【東インド会社】
 - 12回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編【三角貿易】
 - 13回 環大西洋世界の展開①【環大西洋革命】
 - 14回 環大西洋世界の展開②【産業革命】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内に課す小レポート(5回)・・・25%、期末試験・・・75%
(小レポートの提出が一度もない場合、期末試験を受けることが出来ません)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

既習の歴史に関する知識を再確認しておいてください(とくに世界史)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東洋史【夜】

担当者名 /Instructor 藤野 月子 / FUJINO TSUKIKO / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国の統一というと、単に国内のみの問題という向きがあるかもしれない。しかし、古来から中国は近隣の様々な民族を吸収しつつ変容を繰り返している。また、近隣諸地域もその影響を受けつつ独自の国家形成を行ってきており、こうした関わりは密接なものである。本講義では、東アジアを中心にその歴史の変遷を考察することにより、①中国・朝鮮・日本を始めとする東アジア諸地域の特性について明らかにし、②さらにそれを通じて東アジア諸地域の今後のあり方を自ら模索出来る力を養いたい。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに - 講義のガイダンス -
- 第2回 秦の始皇帝による統一 - 中華思想・漢民族の形成 -
- 第3回 漢と匈奴 - 中国と北方騎馬民族との関係 -
- 第4回 中国の外交政策 - 冊封体制を中心に -
- 第5回 前漢の政治と思想 - 儒教との関わり -
- 第6回 後漢の政治と思想 - 外戚と宦官 -
- 第7回 三国志の時代 - 三国の領土拡大と親魏倭王 -
- 第8回 西晋による三国統一 - 西晋の内乱と諸民族の動向 -
- 第9回 東晋南朝の社会 - 貴族の変遷 -
- 第10回 五胡十六国北朝の時代 - 北中国における民族融合 -
- 第11回 南北朝と朝鮮・日本 - 朝鮮・日本の中国外交 -
- 第12回 隋唐による統一 - 世界帝国の成立と政治制度 -
- 第13回 唐と朝鮮・日本 - 唐の朝鮮政策と白村江の戦い -
- 第14回 唐と北方騎馬民族国家 - 唐の近隣支配体制の変遷 -
- 第15回 安史の乱後における唐の滅亡 - 世界帝国の衰退と東アジアへの影響 -

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 20%・定期試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地誌学 【夜】

担当者名 /Instructor 吉津 直樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

テーマは「日本地誌」。特定の地域は様々なレベルの空間スケールから考察し説明することができる。地誌学は特定地域の諸側面を多面的に分析し、総合して地域の性格を明らかにするものである。本講義では主として日本全体の地域構造を明らかにした後、特定地域を事例として取り上げ、その説明を通して地域の姿を解明する方法を教授する。

教科書 /Textbooks

テキストは用いない。
講義中に資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

矢ヶ崎典隆、加賀美雅弘、古田悦造編著『地誌学概論』(地理学基礎シリーズ3)朝倉書店、2007年。
平岡昭利編『九州 地図で読む百年』古今書院、1997年。
平岡昭利編『中国・四国 地図で読む百年』古今書院、1999年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに～地誌とは【多面性】【分析】【総合】
- 2回 日本の地誌①～古代における地域構造の形成【律令体制】
- 3回 日本の地誌②～中世から近代における地域構造の形成【朝廷と幕府】
- 4回 日本の地誌③～現代日本の地域構造①【欧化主義】【近代工業の導入】
- 5回 日本の地誌④～現代日本の地域構造②【経済の高度成長】【過疎・過密】
- 6回 九州地方の地誌①～九州の地域構造：地域の多様性と変容【北部と南部】【東部と西部】
- 7回 九州地方の地誌②～九州における拠点の移動を中心に【長崎・熊本・福岡】
- 8回 九州地方の地誌③～北部九州：福岡県、佐賀県、長崎県の地誌
- 9回 九州地方の地誌④～中部九州：熊本県、大分県の地誌
- 10回 九州地方の地誌⑤～南部九州：宮崎県、鹿児島県、沖縄県の地誌
- 11回 福岡地域の地誌①【大宰府】【九州探題】
- 12回 福岡地域の地誌②【アジア】【玄関口】
- 13回 関門地域の地誌①～門司・下関地区の歴史【西廻航路】【五市合併】
- 14回 関門地域の地誌②【炭鉱地帯】【八幡製鉄所】【リサイクル】
- 15回 おわりに～すべての地域が生き生きと【多様性】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験70% 日常の授業への取組み20% レポート 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

地図帳を持参することが望ましい

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域構造 過疎過密 産業再編成 九州 関門地域

日本国憲法【夜】

担当者名 /Instructor 徳永 達哉 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国家の基本法である日本国憲法と国民生活との関わりを理解することをねらいとする。そのために、まず、日本国憲法の全般的な仕組みを簡単に学び、その後に基本的人権と統治機構の中心部分を学ぶこととする。具体的には現在とくに盛んな論議をよんでいる外国人の人権、プライバシー権、自己決定権、平等権、信教の自由、表現の自由等の人権問題、および天皇の地位と役割、第9条を巡る現在の諸問題、国会の仕組みと役割、内閣の誕生、裁判制度等の統治機構に関する問題を主たるテーマとする。

教科書 /Textbooks

安藤高行編著 『憲法新教科書』（法律文化社刊・2007年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 浦部法穂 『憲法学教室（全訂第2版）』（日本評論社・2006年）
- 芦部信喜著、高橋和之補訂 『憲法（第4版）』（岩波書店・2007年）
- 長谷部恭男 『憲法（第4版）』（新世社・2008年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 日本国憲法の成立とその基本的な原理（テキスト3頁および153頁）
- 2 外国人の人権（18頁）
- 3 プライバシーをめぐる諸問題（34頁）
- 4 新しい権利としての自己決定権（38頁）
- 5 平等権をめぐる諸問題 - 親子や夫婦と平等原則（47頁）
- 6 思想・良心の自由の保障の意義（58頁）
- 7 信教の自由の意義と個人の信教の自由巡る具体的な問題（64頁および68頁）
- 8 政教分離原則が日本で問題になる理由と具体的問題（64頁および72頁）
- 9 表現の自由の現代における重要性和具体的な問題（83頁および87頁）
- 10 日本国憲法における天皇の地位と役割（159頁）
 - 1 1 憲法9条をめぐる現在の問題（168頁）
 - 1 2 国会の地位と権能（183頁）
 - 1 3 内閣の誕生と役割（204頁）
 - 1 4 司法権の独立と違憲立法審査権（222頁および229頁）
 - 1 5 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

受講態度(20%) + 知識の確認課題(40%) + レポート課題(40%)を総合的に評価します。
※受講態度は減点方式で評価します。私語・途中入退室・携帯電話など講義妨害行為を広く減点対象としております。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義は教科書に則して進めますが、情報量が非常に多いです。耳慣れない用語は予め辞書などで調べておいてください。
受講後に気になる用語があれば必ず辞書などで再確認してください。

履修上の注意 /Remarks

範囲が広いため講義の速度が速いです。一瞬でも聞き逃しますと講義について来られなくなりますので、集中力を切らないようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

倫理学【夜】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

哲学や宗教との関わりを通して「倫理」という言葉の基本的な意味を概観したあと、古代から現代にいたる主要な倫理学説を紹介してゆく。西洋の歴史において倫理思想がどのように発展してきたのかを学びつつ、倫理学についての基本的知識を身につけることが本授業の目的である。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 岩田靖夫ほか『西洋思想のあゆみ--ロゴスの諸相』有斐閣、1993年。
- 熊野純彦『西洋哲学史 古代から中世へ』岩波新書、2006年。
- 熊野純彦『西洋哲学史 近代から現代へ』岩波新書、2006年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 倫理学の考え方
- 2回 哲学と倫理(1) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【ソクラテス】
- 3回 哲学と倫理(2) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【プラトン】
- 4回 哲学と倫理(3) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【アリストテレス】
- 5回 宗教と倫理(1) ユダヤ-キリスト教の倫理【ユダヤ教】
- 6回 宗教と倫理(2) ユダヤ-キリスト教の倫理【原始キリスト教】
- 7回 宗教と倫理(3) ユダヤ-キリスト教の倫理【教父哲学】
- 8回 小テスト+解説
- 9回 近代倫理学の誕生(1)【イギリス経験論】
- 10回 近代倫理学の誕生(2)【契約説】
- 11回 近代倫理学の発展(1)【功利主義】
- 12回 近代倫理学の発展(2)【カント】
- 13回 近代倫理学への批判(1)【ニーチェ】
- 14回 近代倫理学への批判(2)【徳倫理】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト... 30% 学期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教養教育科目の「現代社会と倫理」・「思想と現代」とあわせて受講すれば、この分野に関する理解がいつそう深まるはずである。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教職科目という性質上、当然ながら一般的な授業よりも採点基準は厳しくなる。テストは持ち込み一切不可。最終的な成績は、日頃の学習態度と記憶力の程度によって大きく異なってくるだろう。初回の授業では「小テスト」の日程・方法について詳しい説明するので、必ず出席すること。

キーワード /Keywords

エンドユーザコンピューティング 【夜】

担当者名 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、エンドユーザの立場から、職場や家庭、大学等の様々な環境において必要不可欠な情報に関する技術や知識を習得し、コンピュータを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目を身につけることができます：

- 情報社会におけるエンドユーザの役割を説明できるようになります。
- Webページを閲覧する際に、そのページの作成元や信頼度を判断する基準を理解できるようになります。
- データベースとはどのようなものか具体的な例に基づいて説明することができるようになります。

教科書 /Textbooks

なし。特に指定はしません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『エンドユーザのための情報基礎』(浅羽 修丈他著) FOM出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 エンドユーザコンピューティングを学ぶために【エンドユーザ】
- 2回 コンピュータ内部のデータ表現【2進数】【ビット・バイト】【文字コード】
- 3回 ハードウェア【CPU】【メモリ】【ハードディスク】【フラグメンテーション】
- 4回 ソフトウェア【OS】【拡張子】
- 5回 ネットワークの仕組み【サーバ】【LAN】【IPアドレス】【ドメイン名】
- 6回 情報システムの利用者としての心得(1)【PDCA】【パスワード】
- 7回 情報システムの利用者としての心得(2)【リスク分析】
- 8回 情報システムの利用者としての心得・まとめ
- 9回 情報セキュリティ対策(1)【コンピュータウイルス】【Windows Update】【スパイウェア】【ファイアウォール】
- 10回 情報セキュリティ対策(2)【SSL】【クッキー】
- 11回 情報セキュリティ対策・まとめ
- 12回 データベースの基礎(1)【正規化】【主キー】
- 13回 データベースの基礎(2)【SQL】
- 14回 データベースの基礎・まとめ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 75%
日常の授業への取り組み ... 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画が変更になる可能性があります。変更がある場合は、授業中にお伝えします。ただし、授業内容を大幅に変更することはありません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

情報分野の専門用語を数多く学習していきます。あまり興味のない人にとっては、慣れない専門用語がたくさんあるかもしれません。授業中の説明を1度聞いただけで理解できると考えずに、毎回、しっかりと復習をしてください。そして、わからない事があれば、授業中に質問してください。

キーワード /Keywords

エンドユーザ、情報セキュリティ、データベース

データ処理【夜】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要です。この授業では、みなさんがコンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習します。具体的には以下のような項目を身につけることができます：

- タッチタイピングや見やすい表の作成ができるようになります。
- 本学が提供しているグループウェア、Webメールなどのネットワーク環境を使いこなし、ルールを守ったメールの送受信ができるようになります。
- ネットワークを正しく安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基本的な知識を習得することができます。
- 表計算ソフトを使ったデータ処理、グラフ作成ができるようになります。

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境を知る【ID】【パスワード】【グループウェア】
- 2回 文字入力を正確に行う【タッチタイピング】
- 3回 ネットワークコミュニケーションの技法を知る【電子メール】【SSL通信】
- 4回 ネットワークの光と影を知る【情報倫理】【著作権】【個人情報保護】
- 5回 きれいな表を作る【セル】【シート】【書式】【ページ設定】【印刷プレビュー】
- 6回 計算式を作る【セルの参照】【コピー】【ペースト】
- 7回 いろいろなグラフを作る【グラフ】
- 8回 グラフをカスタマイズする【グラフ編集】
- 9回 基本的な関数を利用する【関数】【引数】
- 10回 さまざまな関数を利用する【関数の挿入】
- 11回 表計算演習1【表・グラフ作成】
- 12回 表計算演習2【条件分岐】【ソート】
- 13回 表計算演習3【表の参照】
- 14回 総合課題に取り組む
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50%，積極的な授業参加（タイピング，電子メール送受信，情報倫理の理解等を含む）... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

コンピュータの基本的な操作（キーボードで文字を入力する，マウス操作など）ができるようになっておくことと受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

授業の進度，情報システムの状況によっては，「授業計画・内容」に記入した内容の順番が入れ替わることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

コンピュータの操作が基本になるので，タイピングやマウス操作が苦手な人は自ら練習する姿勢が大切です。

キーワード /Keywords

表計算ソフト タイピング 電子メール 情報倫理

英語I【夜】

担当者名 /Instructor 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練し、またエッセイや英字新聞の記事を読み解きながら文法能力と英語読解力の伸長を目指すことを目的とする。

教科書 /Textbooks

リスニング教材：生協の教科書リストに指定するので確認されたい。
リーディング教材：生協の教科書リストに指定するので確認されたい。
その他、適宜プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 リスニング プレテスト、リーディング ユニット1
- 3回 リスニング ユニット1、リーディング ユニット2
- 4回 リスニング ユニット2、リーディング ユニット3
- 5回 リスニング ユニット3、リーディング ユニット4
- 6回 リスニング ユニット4、リーディング ユニット5
- 7回 リスニング ユニット5、リーディング ユニット6
- 8回 リスニング ユニット6、リーディング ユニット7
- 9回 リスニング ユニット7、リーディング ユニット8
- 10回 リスニング ユニット8、リーディング ユニット9
- 11回 リスニング ユニット9、リーディング ユニット10
- 12回 リスニング ユニット10、リーディング ユニット11
- 13回 リスニング ユニット11、リーディング ユニット12
- 14回 リスニング ユニット12、リーディング まとめ
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・小テスト 80% 授業への貢献 20%
欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合、不合格になることがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎授業、指定された作業とリーディング教材の予習を必ず行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II【夜】

担当者名 /Instructor 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比人夜 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
 TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練する。また口語英語を中心に、文法能力と英文の内容を読み取る力の伸長を目指すことを目的とする。

教科書 /Textbooks
 リスニング教材：生協の教科書リストに指定するので確認されたい。
 リーディング教材：生協の教科書リストに指定するので確認されたい。
 その他、適宜プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 リスニング プレテスト、リーディング インタロダクション
- 3回 リスニング ユニット1、リーディング ユニット1
- 4回 リスニング ユニット2、リーディング ユニット2
- 5回 リスニング ユニット3、リーディング ユニット3
- 6回 リスニング ユニット4、リーディング ユニット4
- 7回 リスニング ユニット5、リーディング ユニット5
- 8回 リスニング ユニット6、リーディング ユニット6
- 9回 リスニング ユニット7、リーディング ユニット7
- 10回 リスニング ユニット8、リーディング ユニット8
- 11回 リスニング ユニット9、リーディング ユニット9
- 12回 リスニング ユニット10、リーディング ユニット10
- 13回 リスニング ユニット11、リーディング ユニット11
- 14回 リスニング ユニット12、リーディング ユニット12
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 学期末試験・小テスト 80% 授業への貢献 20%
 欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合、不合格になることがあります。
 最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 毎授業、指定された作業とリーディング教材の予習を必ず行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course will focus on writing. The topic will change weekly and students will be asked to write their creative compositions in class for marking and evaluating.

教科書 /Textbooks

No textbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1)Introduction to the course: Self introduction
- 第2回My favourite place in Japan
- 第3回My important friends
- 第4回The sports I enjoy to watch and play
- 第5回The places I want to visit
- 第6回The food I like and what I can make
- 第7回My favourite movies and actors/actresses
- 第8回Countries of the world
- 第9回What I would buy with 10 million yen
- 第10回My family
- 第11回The music I like
- 第12回What I want to have for my dinner
- 第13回What I do in the morning (routine)
- 第14回The season I like
- 第15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam, class participation and positive attitude.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Good attendance is a prerequisite for getting a credit.

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

担当者名
/Instructor

クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次
/Year

単位
/Credits

1単位

学期
/Semester

2学期

授業形態
/Class Format

講義

クラス 比人夜1年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course will focus on writing. The topic will change weekly and students will be asked to write their creative compositions in class for marking and evaluating.

教科書 /Textbooks

No textbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1)My summer holiday
- 第2回The pets I like / the animals I hate
- 第3回Health and fitness
- 第4回The crossword puzzle
- 第5回The person I want to meet
- 第6回What I want to do over New Year
- 第7回My stress in my life and how I relieve stress
- 第8回Sporting heroes
- 第9回The TV programmes I like to watch
- 第10回My skills
- 第11回My future dream
- 第12回How I get the news in my life
- 第13回My three most important possessions
- 第14回My biggest worry at the moment
- 第15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam, class participation and positive attitude.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Good attendance is a prerequisite for getting a credit.

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

英語V【夜】

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人夜2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの英語の4つのスキルのうち、リーディングとリスニングのスキルを高める。TOEICの問題演習を通じて英語力を高める。

教科書 /Textbooks

Successful Keys to the TOEIC Test 1 (Second Edition) 桐原書店

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Daily Life
- 2 回 Places
- 3 回 People
- 4 回 Travel
- 5 回 Business
- 6 回 Office
- 7 回 Technology
- 8 回 Personnel
- 9 回 Management
- 10 回 Purchasing
- 11 回 Finances
- 12 回 Media
- 13 回 Entertainment
- 14 回 Health
- 15 回 Restaurants

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 ... 90% 日常の授業への取り組み ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の前半は、テキストを使ってTOEICの問題演習を行い、授業の後半は、プリントを使ってリーディングを行う。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI【夜】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年次
単位 /Credits 1単位 1単位
学期 /Semester 2学期 2学期
授業形態 /Class Format 講義 講義
クラス /Class 比人夜2年 比人夜2年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの英語の4つのスキルのうち、リーディングとリスニングのスキルを高める。TOEICの問題演習を通じて英語力を高める。

教科書 /Textbooks

Successful Keys to the TOEIC Test 2 (Second Edition) 桐原書店

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Daily Life
- 2 回 Places
- 3 回 People
- 4 回 Travel
- 5 回 Business
- 6 回 Office
- 7 回 Technology
- 8 回 Personnel
- 9 回 Management
- 10 回 Purchasing
- 11 回 Finances
- 12 回 Media
- 13 回 Entertainment
- 14 回 Health
- 15 回 Restaurants

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 ... 90% 日常の授業への取り組み ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の前半は、テキストを使ってTOEICの問題演習を行い、授業の後半は、プリントを使ってリーディングを行う。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VIII 【夜】

担当者名 /Instructor ダニー・ミン / Danny MINN / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 比人夜2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to help students activate the English that they have learned in secondary school for oral communication as well as further develop their skills in line with the demands of purposeful communication tasks. Class time is thus spent with students: (1) using their English actively with their classmates in pairs and small groups to complete communication tasks, and (2) listening and watching samples of proficient speakers performing the same tasks while completing activities which focus their attention on relevant aspects of the meaning and the language forms used.

教科書 /Textbooks

『Longman English Interactive Online, Level 2/American English Student Access』 (2008) Rost, M., Pearson Education, ¥ 3500

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction to the course and online resources
- 2回 Registering in the online course
- 3回 Greetings, occupations
- 4回 Introducing other people
- 5回 Food and restaurants
- 6回 Talking about one's weekend
- 7回 Talking about technology
- 8回 Talking about illness and health
- 9回 Giving directions
- 10回 Making plans
- 11回 Talking about shopping
- 12回 Talking about household chores
- 13回 Giving advice
- 14回 Talking about apartments and houses
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Grades will be based on homework (33%), quizzes and tests (33%), and effort speaking English in class (33%).

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語I【夜】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
 (1)発音から学び始め、語彙力を増やしなが、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
 (2)課文の講読を通して中国の各都市の状況について理解します。

教科書 /Textbooks

『中国秀』 < 試用本 > (『中国秀』 編集委員会)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【軽声】
- 2回 第二課 発音【子音】
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】
- 4回 第四課 自己紹介【人称代名詞】【指示代名詞】【動詞の文】【是の文】
- 5回 第四課 自己紹介
- 6回 第五課 北京【形容詞の文】【名詞の修飾】【数字】
- 7回 第五課 北京
- 8回 第六課 天津【動詞が複数ある文】【時間詞】【量詞】
- 9回 第六課 天津
- 10回 第七課 上海【指示代名詞】【方位詞】【存在の在】【存在の有】【複文】
- 11回 第七課 上海
- 12回 第八課 蘇州と杭州【前置詞の在】【所有の有】【是～的】
- 13回 第八課 蘇州と杭州
- 14回 前期のまとめ
- 15回 前期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・60% 小テスト・・・20% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語II【夜】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
 (1)発音から学び始め、語彙力を増やしなが、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
 (2)課文の講読を通して中国の各都市の状況について理解します。

教科書 /Textbooks

『中国秀』 < 試用本 > (『中国秀』編集委員会)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 義烏【了】【動作の現在進行形】【助動詞】【前置詞】
- 2回 第九課 義烏
- 3回 第十課 西安と洛陽【動詞+過】【動作の回数】【結果補語】【状態補語】【助動詞】
- 4回 第十課 西安と洛陽
- 5回 第十一課 成都【前置詞】【複文】【結果補語】【動作の時間を表す単位】【動作の時間】
- 6回 第十一課 成都
- 7回 第十二課 昆明【複文】【結果補語】【前置詞】
- 8回 第十二課 昆明
- 9回 第十三課 広州【結果補語】【前置詞】【ちょっと、少しの表現】【複文】【方向補語】【把の構文】
- 10回 第十三課 広州
- 11回 第十四課 大連【比較表現】【比喻表現】【使役表現】【受身表現】
- 12回 第十四課 大連
- 13回 第十五課 日本の紹介【複文】【了】【助動詞】
- 14回 第十五課 日本の紹介
- 15回 後期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・60% 小テスト・・・20% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
(1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
(2)日常会話に必要な語彙力を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。

教科書 /Textbooks

『中国秀』 <試用本> (『中国秀』編集委員会)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】、練習問題
- 2回 第二課 発音【子音】、練習問題
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】、練習問題
- 4回 発音の総合練習
- 5回 第四課 初めまして
- 6回 第四課 初めまして、練習問題
- 7回 第五課 搭乗・入国
- 8回 第五課 搭乗・入国、練習問題
- 9回 第六課 レストランにて
- 10回 第六課 レストランにて、練習問題
- 11回 第七課 交通
- 12回 第七課 交通、練習問題
- 13回 第八課 観光
- 14回 第八課 観光、練習問題
- 15回 前期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 50% 日常の授業への取り組み・小テスト50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
(1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
(2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。

教科書 /Textbooks

『中国秀』 <試用本> (『中国秀』編集委員会)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 買い物
- 2回 第九課 買い物、練習問題
- 3回 第十課 銀行にて
- 4回 第十課 銀行にて、練習問題
- 5回 第十一課 ホテルにて
- 6回 第十一課 ホテルにて、練習問題
- 7回 第十二課 電話
- 8回 第十二課 電話、練習問題
- 9回 第十三課 趣味
- 10回 第十三課 趣味、練習問題
- 11回 第十四課 語り合い
- 12回 第十四課 語り合い、練習問題
- 13回 第十五課 搭乗手続き・免税店にて
- 14回 第十五課 搭乗手続き・免税店にて、練習問題
- 15回 後期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 50% 日常の授業への取り組み・小テスト50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

朝鮮語Ⅰ【夜】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

朝鮮語（韓国語）を基礎から学ぶ。入門段階である1学期はハングル文字と発音を正確に習得することが重要である。したがって、この講義では一言会話とともに正確に読み書きができることを目指す。

教科書 /Textbooks

『しっかり初級韓国語』（金 貞愛他、白水社、2,200円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典（必携）

『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 文字と発音【単母音】【鼻音】
- 3回 文字と発音【単母音その2】【流音】
- 4回 文字と発音【平音】【半母音】
- 5回 文字と発音【激音】【濃音】
- 6回 文字と発音【合成母音】まとめと復習
- 7回 文字と発音【パッチム】
- 8回 発音の規則【有声音化】【連音化】
- 9回 発音の規則【濃音化】【激音化】
- 10回 発音の規則【流音化】【口蓋音化】【その他】
- 11回 まとめと復習
- 12回 第1課 自己紹介
- 13回 第2課 周りにあるものについて尋ねてみよう（1）
- 13回 第2課 周りにあるものについて尋ねてみよう（2）
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席および授業態度... 20% 小テストおよび宿題... 30% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語II 【夜】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級段階に必要な文法や基本句型、語彙を学習し、同等レベルの作文と読解ができることを目指す。

教科書 /Textbooks

『しっかり初級韓国語』（金 貞愛他、白水社、2,200円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)

『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 前期の復習
- 3回 指で指しながらいろいろ尋ねてみよう【人称・所有代名詞】
- 4回 場所や位置を尋ねてみよう【存在の有無】【助詞】
- 5回 今日のスケジュールを話してみよう【丁寧な表現】【助詞】(1)
- 6回 今日のスケジュールを話してみよう【丁寧な表現】【助詞】(2)
- 7回 1週間のスケジュールを話してみよう【動詞・形容詞の否定形】
- 8回 夏休みのスケジュールを話してみよう【願望形】
- 9回 ホテルの予約をしてみよう【漢数詞】【年月日の言い方】(1)
- 10回 ホテルの予約をしてみよう【漢数詞】【年月日の言い方】(2)
- 11回 連絡先を聞いてみよう【電話番号の言い方】【補助語幹-ㄹ-】
- 12回 時間や年齢を尋ねてみよう【時間・年齢の言い方】(1)
- 13回 時間や年齢を尋ねてみよう【時間・年齢の言い方】(2)
- 14回 近況を親しみをこめて話してみよう【打ち解けた丁寧形】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席および授業態度... 20% 小テストおよび宿題... 30% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

朝鮮語（韓国語）を基礎から学ぶ。入門段階ではハングル文字と発音を正確に習得することを目指す。ハングル文字はまるで記号のようにみえるが、実はとても科学的かつ合理的に作られている文字であり、パズルのように子音と母音を組み合わせれば容易に覚えらる。この講義では一言会話とともに、ハングルを見て正確に声に出して読めることを目標とする。

教科書 /Textbooks

『新チャレンジ！韓国語』（金順玉・阪堂千津子、白水社）定価2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』（小学館）定価8,000円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 基本文字について【基本母音と基本子音①】
- 2回 書き方と発音【基本子音と基本子音②】
- 3回 書き方と発音【激音と濃音】【合成母音字】
- 4回 バッチム【終声①】
- 5回 バッチム【終声②】
- 6回 発音のルール【連音化】【濃音化】
- 7回 発音のルール【激音化】【鼻音化】
- 8回 単語と音の変化【その他の発音法則】
- 9回 尋ねる時の表現（～ですか？）【指定詞の丁寧形①】
- 10回 自己・物を紹介する時の表現①（～です、～ではありません）【指定詞の丁寧形②】
- 11回 自己・物を紹介する時の表現②（～といいます）
- 12回 存在の有無を尋ねる時の表現（～がありますか？～いますか？）
【存在詞のうちとけた丁寧形①】【場所をあらわす助詞】
- 13回 存在の有無を尋ねる時の表現（～に～があります。います）
【存在詞のうちとけた丁寧形②】【時を表す単語および助詞】
- 14回 物・場所を尋ねる時の表現（～は何ですか？～はどこですか？）
【指示代名詞】【疑問代名詞】【指定詞の打ち解けた丁寧形】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・30% 授業中の参加意欲及び発言状況・・・20% 定期試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

課題への取り組み、小テストに向けた復習を十分に行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日常会話程度の短いダイアログを覚えて、対話形式で話すことができる。初級テキストにあげる朝鮮語の基本文型と同等レベルの作文ができ、正確に読めるようにする。また、日本語に訳すことができるようにする。

教科書 /Textbooks

『新チャレンジ!韓国語』(金順玉・阪堂千津子、白水社) 定価2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』(小学館) 定価8,000円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回前期のまとめ
- 2 回「これは何ですか?」①【指示代名詞】【疑問代名詞】【指定詞の打ち解けた丁寧形】
- 3 回「これは何ですか?」②【指示代名詞】【疑問代名詞】【指定詞の打ち解けた丁寧形】
- 4 回「日曜日に何をしますか?」①【曜日】【助数詞】【動詞・形容詞のうちけた丁寧形】
- 5 回「日曜日に何をしますか?」②【漢数詞】【時間】【月日】【電話番号】
- 6 回「何が好きですか?」①【動詞・形容詞の否定形①】
- 7 回「何が好きですか?」②【動詞・形容詞の変則】
- 8 回「週末に何をしましたか?」①【動詞の過去形】【時を表す単語】
- 9 回「週末に何をしましたか?」②【願望表現】【形容詞の過去形】
- 10 回「一週間の予定」【接続詞①】【確認表現】
- 11 回「明日は何をするつもりですか?」①【意思表現】【推測表現】
- 12 回「明日は何をするつもりですか?」②【進行や状態の継続表現】【接続詞②】
- 13 回「スープが冷たくておいしいです」①【動詞・形容詞の否定形②】【逆説表現】
- 14 回「スープが冷たくておいしいです」②【並列表現】【比較表現】
- 15 回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・30% 授業中の参加意欲及び発言状況・・・20% 定期試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

課題への取り組み、小テストに向けた復習を十分に行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅰ【夜】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシア語概論、アルファベット
- 2回 文字と発音：母音、子音（1）、アクセント、疑問詞のある疑問文と答え方（1）
- 3回 子音（2）、疑問詞のある疑問文と答え方（2）、硬子音と軟子音、名詞の性
- 4回 所有代名詞、疑問詞のある疑問文と答え方（3）、有声子音と無声子音、子音の発音規則
- 5回 硬音記号と軟音記号、疑問詞のない疑問文と答え方、イントネーション
- 6回 50音のロシア文字表記法
- 7回 一課前半 テキストの読み、内容解説、挨拶表現、ロシア人の名、自己紹介の練習
- 8回 一課後半 テキストの読み、内容解説、人称代名詞、国名・国民名、名詞複数形
- 9回 二課前半 テキストの読み、内容解説、動詞の現在変化、接続詞、副詞、練習問題
- 10回 二課後半 テキストの読み、内容解説、名詞格変化（対格）、和文露訳
- 11回 三課前半 テキストの読み、内容解説、所有表現、名詞格変化（前置格）、練習問題
- 12回 三課後半 テキストの読み、内容解説、形容詞、複数専用名詞、前置詞用法、和文露訳
- 13回 四課前半 テキストの読み、内容解説、動詞過去、個数詞、時間表現、練習
- 14回 四課後半 テキストの読み、内容解説、動詞の体、名詞格変化（生格）、和文露訳
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(出席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

2-3回毎に1回の割合で単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。習ったことの復習に時間をかけて授業準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅱ【夜】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 一学期に習ったことの復習(1)
- 2回 一学期に習ったことの復習(2)
- 3回 五課前半 テキストの読み、内容解説、動詞未来、前置詞句(1)、曜日
- 4回 五課後半 テキストの読み、内容解説、完了動詞未来、不定人称文、命令形、和文露訳
- 5回 六課前半 テキストの読み、内容解説、運動の動詞、行先表現、交通手段表現
- 6回 六課後半 テキストの読み、内容解説、出発と到着表現、場所に関する疑問詞、和文露訳
- 7回 七課前半 テキストの読み、内容解説、形容詞と副詞について、数量表現
- 8回 七課後半 テキストの読み、内容解説、述語副詞、四季、方位、月、和文露訳
- 9回 八課前半 テキストの読み、内容解説、無人称述語、動詞の格支配(1)(2)
- 10回 八課後半 テキストの読み、内容解説、義務・可能性表現、動詞の格支配(3)、和文露訳
- 11回 九課前半 テキストの読み、内容解説、年齢表現、年月日表現、比較級
- 12回 九課後半 テキストの読み、内容解説、値段表現、授与動詞、仮定法、和文露訳
- 13回 十課前半 テキストの読み、内容解説、関係代名詞、形容詞最上級、形容詞格変化
- 14回 十課後半 テキストの読み、内容解説、単文と複文、直接話法と間接話法、ことわざ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(出席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。復習に力を入れて授業準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

聞き取り・発音、会話に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 アルファベットの読み
- 2回 文字と発音：母音と母音文字、アクセント、母音の発音規則
- 3回 発音しにくい子音、硬子音と軟子音、名詞の性の判別
- 4回 所有代名詞表現、有声子音と無声子音、子音の発音規則
- 5回 硬音記号と軟音記号、文の種類とイントネーション型
- 6回 50音のロシア文字表記法、文字の書き方練習
- 7回 一課前半 テキストの繰り返し読み、挨拶表現、自己紹介の練習
- 8回 一課後半 テキストの繰り返し読み、人称代名詞、名詞複数形、所有表現の練習
- 9回 二課前半 テキストの繰り返し読み、動詞の現在変化練習
- 10回 二課後半 テキストの繰り返し読み、動詞を使った和文露訳
- 11回 三課前半 テキストの繰り返し読み、所有表現練習、場所表現問題
- 12回 三課後半 テキストの繰り返し読み、形容詞変化の練習、和文露訳
- 13回 四課前半 テキストの繰り返し読み、1-10までの個数詞と時間表現の練習
- 14回 四課後半 テキストの繰り返し読み、生格用法の練習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(出席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

2 - 3回に1回の割合で単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。習ったことの復習に時間をかけて授業準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

聞き取り・発音、会話に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 一学期に習ったことの復習(1)
- 2回 一学期に習ったことの復習(2)
- 3回 五課前半 テキストの繰り返し読み、動詞未来表現、「・・・と一緒に」の表現練習
- 4回 五課後半 テキストの繰り返し読み、与格表現の練習、命令形の作り方練習
- 5回 六課前半 テキストの繰り返し読み、行先表現の練習、不規則動詞の発音練習
- 6回 六課後半 テキストの繰り返し読み、「どこへ」「どこで」「どこから」の表現練習
- 7回 七課前半 テキストの繰り返し読み、数量表現の練習、「雨・雪が降る」の表現
- 8回 七課後半 テキストの繰り返し読み、述語副詞、四季、方位、月、和文露訳
- 9回 八課前半 テキストの繰り返し読み、無人称文における述語表現の練習、月名の発音
- 10回 八課後半 テキストの繰り返し読み、義務・可能性表現の練習、「・・・は・・・が痛い」表現
- 11回 九課前半 テキストの繰り返し読み、年齢表現・年月日表現の練習
- 12回 九課後半 テキストの繰り返し読み、値段表現・仮定法表現の練習
- 13回 十課前半 テキストの繰り返し読み、関係代名詞構文の練習、形容詞格変化練習
- 14回 十課後半 テキストの繰り返し読み、単文と複文の練習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(出席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。復習に力を入れて授業準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語I【夜】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じることに。

教科書 /Textbooks

『気分はドイツ』三修社、本郷建治 他
(Deutsch macht Spaß!)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ドイツの若者をビデオで見る【アルファベット・発音】
- 2回 自己紹介【動詞の現在人称変化(1)、名詞】
- 3回 英語の君は話すの?【動詞の現在人称変化(2)、数詞】
- 4回 あなたの名前は何か?【動詞の現在人称変化(2)、時刻】
- 5回 私は父にこの本を贈ります。【人称代名詞、家族】
- 6回 私の夫はオーストリア人です。【冠詞類、月・季節】
- 7回 君は今日、暇ですか?【定形の位置(1)、曜日】
- 8回 もし私に暇があれば、小倉へ行きます。【定形の位置(2)】
- 9回 母の代わりに父が料理をします。【前置詞(1)】
- 10回 私は明日、街へ行きます。【前置詞(2)】
- 11回 ここに車を停めることができますか?【話法の助動詞(1)】
- 12回 私はこの手紙を日本へ送りたいのですが。【話法の助動詞(2)】
- 13回 なぜ君はパーティーにいかなかったの?【動詞の3基本形(1)】
- 14回 私には熱がありました。【動詞の3基本形(2)】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語II【夜】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比人夜 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じることに。

教科書 /Textbooks

『気分はドイツ』三修社、本郷建治 他
(Deutsch macht Spaß!)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ビデオで「グリム兄弟の生涯」を見る。【(現在)完了形(1)】
- 2回 君は昨日何をしましたか？【(現在)完了形(2)】
- 3回 フランクフルト行きの列車はいつ発車するのですか？【分離動詞(1)】
- 4回 私はどこで下車しますか？【分離動詞(2)】
- 5回 私達はドイツのレストランへ行きます。【形容詞】
- 6回 私はベンチの上に座ります。【再帰動詞】
- 7回 雨が降っています。【esの用法】
- 8回 あなたが訪ねるその男性は私の友人です。【関係代名詞(1)】
- 9回 私が昨日見た映画は面白かった。【関係代名詞(2)】
- 10回 オーストリアではドイツ語が話されます。【受動(1)】
- 11回 山々は雪で覆われています。【受動(2)】
- 12回 夏にヨーロツパへ行く、と山下さんは言っています【接続法(1)】
- 13回 暇があれば、私もヨーロツパへ行くのになあ。【接続法(2)】
- 14回 ドイツ語を学ぶことは難しくありません。【分詞・zu不定詞】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じること。

教科書 /Textbooks

『スツエーネン1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 名前、出身、住所、挨拶。【規則動詞の現在人称変化、1・2人称、】
- 2回 名前、出身、住所を尋ねる【前置詞、副詞、疑問文、疑問詞】
- 3回 紹介、数字、電話番号【3人称、数詞】
- 4回 各国の国名、車のナンバープレート【名詞の性、定冠詞、所有冠詞】
- 5回 履修科目、言語、曜日【動詞の位置と語順】
- 6回 ドイツと日本の外国人数【冠詞の使い方】
- 7回 趣味、好きなこと、嫌いなこと【否定文の作り方】
- 8回 ドイツ人と日本人の余暇活動【不規則動詞の現在人称変化】
- 9回 好物、外国料理【接続詞】
- 10回 ドイツの食事【頻度を表す副詞】
- 11回 家族、職業、年齢、性格【不定冠詞、否定冠詞、人称代名詞、1(主)格】
- 12回 ドイツと日本の子供の数【名詞の複数形、形容詞、否定文の作り方】
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比人夜1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じる事。

教科書 /Textbooks

『スツエーネン1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 持ち物、持ち物を尋ねる【指示代名詞】
- 2回 傘はドイツ語でなんと言うか【4(直接目的)格】
- 3回 住居、場所の表現【前置詞、人称代名詞の3格、】
- 4回 家賃はいくらですか、部屋の広さは
- 5回 時刻の表現、テレビを何時間みるか【非人称動詞の主語es】
- 6回 日付、曜日、誕生日、今週の予定
- 7回 大学の建物、道案内、【副詞】
- 8回 交通手段、ドイツの大学【Sieに対する命令形、疑問詞womit】
- 9回 休暇の計画、手紙の書き方【話法の助動詞】
- 10回 ドイツで人気のある休暇先【疑問詞】
- 11回 過去の表現、天気、日記【完了形、過去人称変化】
- 12回 クイズ：ドイツの首都は。再統一はいつ。
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音：ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語I【夜】

担当者名 福島 勲 / FUKUSHIMA ISAO / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 比人夜1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

最初の一步として、フランス語の基本文法を習得してもらいます。この授業の内容を理解すれば、辞書の引きかたはもちろん、簡単なフランス語の文章を読み解けるようになります。

教科書 /Textbooks

太田浩一・前田保他『[新装版]フランス語文法の〈基礎〉』（駿河台出版社、2500円）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

開講時に指示

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 名詞の性と数
- 2回 冠詞
- 3回 人称代名詞(1) : 主語
- 4回 動詞êtreとavoirの活用
- 5回 否定形
- 6回 形容詞
- 7回 第1群規則動詞
- 8回 疑問形
- 9回 指示形容詞
- 10回 所有形容詞
- 11回 動詞allerとvenirの活用
- 12回 近接未来と近接過去
- 13回 前置詞à、deと定冠詞の縮約
- 14回 疑問形容詞・疑問副詞
- 15回 疑問代名詞

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点...30% 小テスト...20% 学期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

仏和辞書(電子でも紙でもよい)必携のこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

仏検5級に合格できる程度の文法力をつけることを目指します。

キーワード /Keywords

フランス語II 【夜】

担当者名 福島 勲 / FUKUSHIMA ISAO / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 比人夜1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

次の一歩として、フランス語の初級文法のほぼ全体を習得してもらいます。この授業の内容を理解すれば、辞書さえあれば、基本的なフランス語の文章を読み解けるようになります。

教科書 /Textbooks

太田浩一・前田保他『[新装版] フランス語文法の〈基礎〉』（駿河台出版社、2500円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

開講時に指示

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第2群規則動詞
- 2回 比較級と最上級
- 3回 命令法
- 4回 非人称表現
- 5回 人称代名詞(2) : 目的語、強勢形
- 6回 複合過去
- 7回 関係代名詞
- 8回 指示代名詞
- 9回 代名動詞
- 10回 単純未来
- 11回 特殊な代名詞
- 12回 半過去
- 13回 受動態
- 14回 現在分詞とジェロンディフ
- 15回 条件法・接続法

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点...30% 小テスト...20% 学期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

仏和辞書(電子でも紙でもよい)必携のこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

仏検4級に合格できる程度の文法力をつけることを目指します。

キーワード /Keywords

フランス語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 山下 高之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 比人夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

フランス語を初めて学ぶ学生向けに初歩のコミュニケーション能力を養う。

簡単なあいさつから始めて、自己紹介や家族のこと、好き嫌い、架空の自分等々について口頭・筆記での表現・理解ができるようになることを目指す。

他の目標は以下のとおり。

基本的な数字、月名、曜日、天気の違い等を覚える。

基本単語を覚え、自分で使えるようになる。

簡単な文章を多数暗記し、応用できるようになる。

適宜、必要な文法事項を習得する。

フランス語検定試験5級程度の実力を旨とする。6月に行われる検定試験5級に合格した受講生には単位取得を保障する。

教科書 /Textbooks

M.-E. Muramatsu 『ピコティ・ピコタ』（駿河台出版社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 あいさつ、自分の名前
- 3回 自己紹介
- 4回 アルファベット。「誰か」を聞く
- 5回 いろいろな国籍を覚える。3人称単数
- 6回 架空の名前を選び、自己紹介をする
- 7回 架空の国籍を選び、自己紹介をする
- 8回 今日の天気を言う
- 9回 架空の職業を選ぶ
- 10回 日づけを言う
- 11回 誕生日を言う
- 12回 曜日を言う
- 13回 年齢を言う
- 14回 持ち物について話す
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、 日常の授業への取り組み 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

フランス語Ⅲ【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅳ 【夜】

担当者名 /Instructor 山下 高之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比人夜 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

前期フランス語Ⅲを受講した学生向けに、引き続き初歩のコミュニケーション能力を養う。

フランス語Ⅲで身についた内容をさらに発展させ、口頭・筆記での表現・理解ができるようになることを目指す。

他の目標は以下のとおり。

基本単語をさらに増やし、自分で使えるようになる。

簡単な文章を多数暗記し、応用できるようになる。

適宜、必要な文法事項を習得する。

フランス語検定試験 4 級程度の実力を目指す。1 1 月に行われる検定試験 4 級に合格した受講生には単位取得を保障する。

教科書 /Textbooks

M.-E. Muramatsu 『ピコティ・ピコタ』（駿河台出版社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション。前期の復習
- 2回 自分の特徴を言う
- 3回 持ち物について話す
- 4回 両親について話す
- 5回 有名人について話す
- 6回 料理の値段を言う
- 7回 パリで住みたい地区について話す
- 8回 架空のパリの住所を決め、それについて話す
- 9回 架空のパリの住居について話す
- 10回 パリの地下鉄について知る。切符を買う
- 11回 好きな有名人について話す
- 12回 好きな物事について話す
- 13回 デパートで買い物をする
- 14回 レストランへ行く
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、 日常の授業への取り組み 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

フランス語Ⅲ(前期)を受講していること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語I【夜】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語は「エスパニョール」といいます。この授業では、アルファベットから発音練習に慣れ親しみながら、文法・講読に重点的に学び、スペイン語の入門的基礎力を習得します。授業はテキストの練習のほか、動詞を中心にスペイン語文の構造を理解したいと思います。また映像などを利用して、スペインの歴史・文化・社会の諸相を学びます。

教科書 /Textbooks

『スペイン語で表現しよう』（青木・辻・マリアJ、弘学社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○岡田たつお『現代スペイン語講座』芸林書房、その他、図書館にあります。
辞典は必須です。『現代スペイン語辞典』白水社、『西和中辞典』小学館、『クラウ西和辞典』三省堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語とは? その歴史
- 2回 アルファベット・発音・アクセント
- 3回 名詞の性・数・冠詞
- 4回 人称代名詞・基本動詞の変化
- 5回 直説法現在形の規則活用
- 6回 文の種類、肯定文、否定文、特殊疑問文
- 7回 基本的文章表現
- 8回 不規則動詞の活用と基本表現
- 9回 形容詞の性・数変化
- 10回 指示詞、所有形容詞
- 11回 代名詞目的格と基本表現
- 12回 不規則動詞と慣用的表現
- 13回 不定詞の用例
- 14回 重要表現の反復練習(プリント)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

スペイン語の動詞活用はやや難解です。連続して欠席するとついて行けません。分からない語彙は事前に辞書で調べることを。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語II【夜】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語Iの続編です。この授業で、スペイン語の初級文法を習得します。映像などを利用してスペインの歴史・文化・社会の諸相を学びたいと思います。

教科書 /Textbooks

『スペイン語で表現しよう』（青木・辻・マリアJ, 弘学社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○岡田たつお『現代スペイン語講座』芸林書房、その他、図書館にあります。
辞典は必須です。『現代スペイン語辞典』白水社、『西和中辞典』小学館、『クラウ西和辞典』三省堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 現在完了形
- 2回 過去形(完了過去・不完了過去)
- 3回 不定語とその例文
- 4回 天候表現
- 5回 不規則動詞の過去形
- 6回 現在分詞、進行形と例文
- 7回 名詞節・副詞節・形容詞節
- 8回 未来形・条件未来・過去完了
- 9回 同上
- 10回 直接話法・間接話法(時制の一致)
- 11回 再帰動詞(1)
- 12回 再帰動詞(2)その用例
- 13回 接続法現在形と命令文
- 14回 接続法とその用例
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

辞書は必要です。授業にも辞書を持参すること。予習・復習を行い、スペイン語検定4級くらいは合格しよう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語は「エスパニョール」といいます。授業では、アルファベットから発音練習に慣れ親しみながら、日常の生きた初歩的な会話表現を重点的に学び、スペイン語の入門的基礎力を習得します。授業は教員からの一方的な講義ではなく、「聴く・話す(発音)」方式を取り入れます。また映像などを利用して、スペインの歴史・文化・社会のさまざまな面も学びたいと思います。

教科書 /Textbooks

『オラ!』第三書房、2008年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○岡田たつお『現代スペイン語講座』芸林書房、その他、図書館にあります。
辞典は必須です。『現代スペイン語辞典』白水社、『西和中辞典』小学館、『クラウン西和辞典』三省堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入的なお話、スペイン語とスペイン語圏について
- 2回 アルファベット、単語の読み方
- 3回 名詞の性と数、冠詞、挨拶表現
- 4回 動詞serを用いた表現
- 5回 動詞serを用いた特殊表現
- 6回 動詞estar, hay を用いた表現
- 7回 動詞estar, hay...を用いた疑問文・応答文
- 8回 時刻表現、形容詞など
- 9回 規則動詞(1)、所有形容詞
- 10回 規則動詞(2)、指示形容詞
- 11回 規則動詞(3)、指示代名詞
- 12回 動詞活用と基本表現のプラクティス
- 13回 重要な不規則動詞の基本表現
- 14回 便利な日常会話表現
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

外国語を学ぶには辞書は不可欠。聴いて話す(発音)ことを反復すること。発音はいたって簡単ですが、動詞の活用だけがやや難しいので、練習を繰り返しましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅳ【夜】

担当者名 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 英比人夜 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業は1学期開講のスペイン語Ⅲの続編です。初歩的な会話表現に重点を置き、入門的基礎力を習得します。授業は教員からの一方的な講義ではなく、「聴く・話す(発音)」方式で行われます。また映像などを利用して、スペインの歴史・文化・社会の諸相を学びたいと思います。

教科書 /Textbooks

『スペイン語でスケッチ』第三書房、2008年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○岡田たつお『現代スペイン語講座』芸林書房、その他、図書館にあります。
辞典は必須です。『現代スペイン語辞典』白水社、『西和中辞典』小学館、『クラウ西和辞典』三省堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語Ⅲの復習-動詞の活用と基本表現
- 2回 直説法現在：不規則動詞、天候表現
- 3回 天候表現、時刻表現
- 4回 不規則動詞、不定詞表現、所有形容詞
- 5回 反復練習-日常会話表現
- 6回 間接目的格と動詞gustar
- 7回 直接目的格・間接目的格を使う文章
- 8回 再帰動詞(1)
- 9回 再帰動詞(2)
- 10回 ビデオでイスパニア圏を旅する
- 11回 比較級と最上級
- 12回 直説法現在完了
- 13回 命令形(1)
- 14回 日常会話表現
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 70% 小テスト... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日ごろから動詞の活用を繰り返し練習。辞書はいつでも携帯する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較日本古典文学【夜】

専門教育科目
選択科目
比較文化(領域系)科目

担当者名 /Instructor 園田 豊 / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
後日揭示

教科書 /Textbooks
後日揭示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
後日揭示

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
後日揭示

成績評価の方法 /Assessment Method
後日揭示

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
後日揭示

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較美術【夜】

専門教育科目
選択科目
比較文化(領域系)科目

担当者名 /Instructor
五月女 晴恵 / 比較文化学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

2008年、美術雑誌『国華』創刊120周年を記念して、東京国立博物館で「対決 巨匠たちの日本美術」という展覧会が開催された。本講義では、同展覧会において対決という名目で比較展示された巨匠たちの作品を改めて比較することを通して、日本近世絵画史の名品を概観し、それによって、日本の近世という時代に、いかに多様な表現が開花していたかを確認したいと思う。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 「対決 巨匠たちの日本美術」展について
- 2回 狩野永徳と長谷川等伯①
- 3回 狩野永徳と長谷川等伯②
- 4回 狩野永徳と長谷川等伯③
- 5回 俵屋宗達と尾形光琳①
- 6回 俵屋宗達と尾形光琳②
- 7回 俵屋宗達と尾形光琳③
- 8回 尾形光琳と酒井抱一
- 9回 円山応挙と長澤蘆雪①
- 10回 円山応挙と長澤蘆雪②
- 11回 円山応挙と長澤蘆雪③
- 12回 伊藤若冲と曾我蕭白①
- 13回 伊藤若冲と曾我蕭白②
- 14回 伊藤若冲と曾我蕭白③
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(場合によっては学期末試験) ...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較民族学【夜】

専門教育科目
選択科目
比較文化(領域系)科目

担当者名 /Instructor 成末 繁郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

民族学や文化人類学がこれまで開発してきた「異文化理解」の戦略を、相対主義的な(対象地域の人々に寄り添った)解釈と普遍主義的な(近代合理主義的)解釈との対立を軸に、基本的に定評ある民族誌に依拠しながら解説していく。講師は文化相対主義かつ象徴人類学の立場に立つが、普遍主義的な解釈を完全に否定することはしない。時には相対主義的解釈よりもはるかに説得力を持つ場合もあることも認識しており、その点もあわせて解説するつもりである。また、理論的且つある意味で古典的な文化人類学の学説をトピックごとに解説する方式をとるので(往々にして、「今でもそのようなことが行なわれているのですか」という質問をうけてしまうことが多い)、「グローバル化」とか「ポスト・コロニアル」等の用語で言及されている状況(まさに現在の世界の実情)が手薄になるが、この点については議論のあるところなので、現物を直に見てもらって学生諸君に判断を委ねたい。ここで言う「現物」とは現在もなお伝統に生きる人々に関するビデオ及び世界各地の音楽PVである。これらを「伝統に生きる」・「Hip-hopの感染力」・「アイドルの普遍性」のコンセプトのもとに特集して鑑賞するが、その目的は「グローバル化」の実態への理解を深めることである。このPVの上映会をトピックの区切りごとに3回ほど予定している。

今このときの世界に対する理解も含めて、出来るだけ相対主義的に考えていくdispositionを身につけることがこの講義の狙いである。尚、今回は宗教・呪術に関するトピックを中心に進める。

教科書 /Textbooks

テキストは特になし。適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

Roy Wagner 1978 Lethal Speech. Cornell University Press.
Roy Wagner 1986 Symbols That Stand for Themselves. Chicago: University of Chicago Press.
Roy Wagner 2001 An Anthropology of the Subject. University of California Press
Tambiah, S. J. 1985 Culture, Thought, and Social Action An Anthropological Perspective, Harvard University Press.
E.E. プリチャード2001 / 1937 アザンデ人の世界-妖術・託宣・呪術 (向井元子訳) みすず書房。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回~3回 象徴論からみた文化の概念の解説とシンボルの概念の解説【シンボル】【象徴界】
 - 4回 南米アマゾンの「ヤノマミ族」に関するビデオ【呪術的治療】【伝統】
 - 5回~7回 西洋近代科学の枠組みと宗教研究の相関関係【モダン図式】【進化論】
 - 8回 グローバル化を考える1: ヒップホップの感染力【ローカル化】
 - 9回~11回 西洋近代科学の枠組みと呪術研究の相関関係【合理主義的思考】【身体】【呪術の効果】
 - 12回 グローバル化を考える2: 世界のアイドル【美の多様性】
 - 13回~14回 理解可能性を拡張する呪術解釈の試み【パフォーマンス的な効果】【夢見る力】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

筆記試験の点数(95%)。出席(5%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

社会学または文化人類学または心理学を受講していれば理解が容易になります。

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義に対する要望や質問を歓迎します。

キーワード /Keywords

呪術の効果、オカルト、シンボル

比較ジェンダー論【夜】

専門教育科目
選択科目
比較文化(領域系)科目

担当者名 /Instructor 力武 由美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

グローバリゼーションの下、ナショナルとグローバルのせめぎあいのなかで変容する表象文化に焦点を当て、そこに潜むジェンダー・ポリティクスを、国際比較というツールを用いて、歴史的 / 地域横断的に読み解く視点と理論を身につける。

教科書 /Textbooks

事前にレジュメと資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『グローバリゼーションとジェンダー表象』(ヴェラ・マッキー著) 御茶の水書房 1,500円
- 『象徴としての女性像-ジェンダー史から見た家父長制社会における女性表象』(若桑 みどり著) 筑摩書房 4,500円
- 『視線と差異-フェミニズムで読む美術史』(グリゼルダ・ポロック 著) 新水社 4,515円
- 『女性・ネイティブ・他者-ポストコロニアリズムとフェミニズム』(トリンティ・ミンハ著) 岩波書店 3,675円
- 『岩波女性学辞典』(井上輝子・上野千鶴子・江原由美子・大沢真理・加納実紀代編) 岩波書店 4,830円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 絵画のなかの家族・子ども
- 2回 絵画のなかの妻・娼婦
- 3回 絵画のなかのオリエンタリズム
- 4回 モダンガール・東アジア・植民地的近代
- 5回 対峙戦略韓国 - 沖縄 - 台湾 - フィリピン防衛ラインにおける米軍基地文化と暴力
- 6回 小説・戯曲・宝塚にみる異装性
- 7回 広告・映画のなかのジェンダー、人種 / エスニシティ、階級とポストコロニアリズム
- 8回 広告・映画のなかのマッチョ文化
- 9回 デイズニー映画と帝国主義
- 10回 映画のなかの「レイディーズ・ファースト」
- 11回 絵画・映画・小説のなかの美女と死
- 12回 ファッション雑誌がつくる「美」と美容整形
- 13回 越境する日本のマンガ・アニメ、コスプレ、ライトノベル
- 14回 アメリカ大統領家族と日本天皇家の肖像とナショナリズム
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼン...30%、レポート...30%、期末試験...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

レジュメと配布資料を授業前に読み込み、自分の見解・主張を持って授業に臨む。
プレゼンにはパワーポイントを使用するため、プレゼンおよびPPTスキルを身につけておく。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

グローバリゼーションの状況下でのメディア表象に日頃から関心に向け、ジェンダーの視点で問い直す作業を行い、授業中の発言、プレゼン、レポート、期末試験に反映させる。

キーワード /Keywords

オリエンタリズム、階級、グローバリゼーション、コロニアリズム、ジェンダー、人種 / 民族、セクシュアリティ、多文化主義、トランスナショナル、ナショナリズム、表象文化、ポストコロニアリズム、ポリティクス、眼差し

日米文化比較 【夜】

専門教育科目
選択科目
比較文化 (領域系) 科目

担当者名 /Instructor 十時 康 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本コースでは講義と受講生のグループ発表を中心に構成している。グループ発表を通して、受講生には日米の文化を実際に比較してもらう。そこで感じた、比較の面白さと難しさを大切にしてほしい。また、日米の文化的事象について分かりやすい形で伝えるスキルの習得も目指す。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨン (成績評価の説明、授業の進め方等)
- 2回 グループ発表の準備 : プレインストーミング
- 3回 比較文化に必要な視点 : 文化相対主義、多文化主義
- 4回 日米文化の基礎知識 (1) : 歴史、価値観
- 5回 日米文化の基礎知識 (2) : 歴史、価値観
- 6回 プレゼンテーション①
- 7回 プレゼンテーション②
- 8回 プレゼンテーション③
- 9回 プレゼンテーション④
- 10回 プレゼンテーション⑤
- 11回 プレゼンテーション⑥
- 12回 プレゼンテーション⑦
- 13回 プレゼンテーション⑧
- 14回 プレゼンテーション⑨
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

グループ発表を含めた平常の学習状況 ... 60%、 学期末試験 ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

前半の講義ではミニレポートも課すので、論理的に説明する方法も意識してほしい

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日中文化比較【夜】

専門教育科目
選択科目
比較文化(領域系)科目

担当者名 /Instructor 馬 叢慧 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本と中国は一衣帯水の関係にあり、文化の面で密接な関係を持つが、一方では相違点も多く見られる。本講義は、特に生活の基本となる飲食文化について、日中間の比較を行う。

教科書 /Textbooks

『東方栄養新書』(梁 晨千鶴著 メディカル・ユーコン社 ¥2,100)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

プリント配布

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 東洋医学の考え方(1)
- 3回 東洋医学の考え方(2)
- 4回 医食同源
- 5回 主食の比較(日本)
- 6回 主食の比較(中国)
- 7回 副食の比較(日本)
- 8回 副食の比較(中国)
- 9回 日中調理法の比較
- 10回 薬膳
- 11回 日本茶
- 12回 中国茶
- 13回 茶法・茶菓子
- 14回 健康茶・薬酒
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況…50% レポート…50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東洋医学、医食同源、薬膳、主食、副食、中国茶、日本茶

文化人類学【夜】

専門教育科目
選択科目
比較文化(領域系)科目

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

いきなりだけど、今までに「自己」と「他者」の謎について考えてみたことはあるだろうか。自分と他人は、異なる身体を持ち、異なる価値観を持ち、異なる時間を生きているにもかかわらず、共感することができたり、相手のいうことが理解できたりするのはなぜだろう。「他人のことなんてわかるはずはない」といいながら、そんな他人を信じて毎日を生かされるのは、とても不思議だ。人類学では、理解できるはずのない他人に果敢にもフィールドワークという手法をつかって近づいていく。ちょっと難しいかもしれないけど、講義の中で人間の文化の多様性と他者認知や自己認知の普遍性について考えを巡らしながら、恋だの政治だの常識だの、みんなが大好きな人間関係のパワーゲームについて分析し、いろいろと回り道をしようと思う。そうすれば他人を知ることは自分を知ることであるという異文化理解のもっとも基本的な道筋が見えてくるはずだ。
ビデオ・スライドをみながら異文化をイメージする

教科書 /Textbooks

講義中に紹介する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『フィールドワークへの挑戦-“実践”人類学入門』菅原 和孝(編集)
『うめぼれる脳-「鏡のなかの顔」と自己意識』ジュリアン・ポール キーナン(著)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1講 文化とはなにか
- 第2講 近代とはなにか
- 第3講 共感とはなにか
- 第4講 他者とはなにか
- 第5-6講 交換とはなにか
- 第7講 社会とはなにか
- 第8講 政治とはなにか
- 第9-10講 信じるとはなにか
- 第11-12講 自然とはなにか
- 第13-15講 わかるとはなにか

成績評価の方法 /Assessment Method

自己と他者について考察する準備が整うこと	...	30%
異文化を相対的に考えられること	...	30%
人類学的な実践に興味を持ちながらをはじめること	...	40%
試験は講義のどこかで日おこなう		

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

勉強したい人だけ受講すること。
自分で考えるために、本を読んで欲しい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

消費社会論【夜】

専門教育科目
選択科目
比較文化（領域系）科目

担当者名
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、「消費社会」のあり方とおして、現代の資本主義社会の特徴を分析することが目的である。「消費化」が進展した社会においては、モノよりもむしろ、文化や人間関係が消費の対象となる。人々の欲望が文化や人間関係の消費へと向かったときに、どのような事態がおこるのかについて主に議論する。

また、この講義では、主に現代人の消費のなかでも最も特徴的であると思われる観光消費について追いつながら、現代の資本主義社会がどこに向かっているのかを考える。したがって、観光化の意味について興味を持っている学生の参加を歓迎する。

教科書 /Textbooks

須藤廣『観光化する社会』ナカニシヤ出版、2008年、2500円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ジャン・ボードリヤール『消費社会の神話と構造』紀伊国屋書店
小川伸彦、山泰幸【『現代文化の社会学入門』ミネルヴァ書房
- G・リッツァー『マクドナルド化の世界』早稲田大学出版部
- J・アーリ『場所を消費する』法政大学出版局

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回【消費社会】とは何か(消費社会のなかの行為論)
 - 2回 ジャン・ボードリヤール『消費社会の神話と構造』紀伊国屋書店を読む
 - 3回【記号の消費】・【人間関係の消費】・心を消費する(心理主義化論)
 - 4回【お客様社会】と【感情労働の社会学】
 - 5回【観光文化】と消費社会(観光現象をどう捉えるか)
 - 6回 観光の歴史から見る現代観光の矛盾1
 - 7回 観光の歴史から見る現代観光の矛盾2
 - 8回 観光と「見せ物化」(視覚の優位)
 - 7回 「【見せ物化】」とその矛盾(少数民族の観光化)
 - 8回 「見せ物」を組織化する観光(観光の産業化)
 - 9回 テーマパーク論
 - 10回【地域の観光化】の諸矛盾(「観光と「場」について)
 - 11回「環境」を消費する・「環境保護」を消費する(エコ・ツーリズム論)
 - 12回【バックパッカー】論・観光移住論(消費社会のなかの行為論として)
 - 13回 文化(「聖なるもの」と人を消費することについて(観光)
 - 14回 文化(「聖なるもの」と人を消費することについて(現代消費文化一般)
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題40% 試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「文化社会学」「比較文化社会」の講義とセットで受講すると分かりやすいかも知れない。

履修上の注意 /Remarks

理論的な解説が主になるので、背景の社会学的知識が必要になる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本文学概論 (古典) 【夜】

専門教育科目
選択科目
比較文化 (地域系) 科目

担当者名 /Instructor 河北 靖 / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本文学とは？古典とは？
日本文学は現代まで千数百年の歴史を有するが、そのうち古典と称されるものがこの講義の対象である。その範囲は膨大で多岐にわたるが、系統的に講述する。

教科書 /Textbooks

特に用いない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 日本文学とは？古典とは？その定義について。
- 2回 日本古典文学の領域・範囲とは？
- 3回 古筆・絵詞ほか周辺領域について【古筆切れ】【絵巻】
- 4回 韻文学とは【音数律】
- 5回 和歌【歌語】【歌枕】
- 6回 連歌・俳諧【座の文学】【連衆】【宗匠】
- 7回 狂歌・川柳【俗文学】
- 8回 漢詩文【訓読】
- 9回 散文文学とは
- 10回 神話・伝承・祝詞・宣命【口承文学】
- 11回 物語文学【歌物語】【作り物語】【歴史物語】【軍記】
- 12回 説話文学【口承から書承へ】
- 13回 評論・随筆・日記・紀行【身の上】
- 14回 劇文学-能・狂言・歌舞伎【傾き者】【わざおぎ】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 ... 30% 試験 ... 70%
出席が3分の2未満の者は、試験を受けることができない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

随時指示する参考文献について入手し読破すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語学概論I【夜】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 堀尾 香代子 / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

我々が普段何気なく使用している日本語を、音声・音韻・文字などの観点より観察することを通して、日本語の特色について考える。その中で、日本語学の基礎理論を学ぶとともに、過去の日本語と現代日本語とのかかわりについても、個別の現象を抑えながら把握するよう努める。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。授業中に適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

佐伯哲夫・山内洋一郎編『国語概説』和泉書院

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 日本語学と国語学
- 第2回 音声学と音韻論
- 第3回 音韻論と文字・五十音図とのかかわり
- 第4回 音節と単音・音素表記
- 第5回 シラブルと撥音・促音・拗音・長音 特殊音の平仮名表記とカタカナ表記
- 第6回 音声器官の構造と役割
- 第7回 有声音と無声音
- 第8回 国際音声記号 母音の無声化
- 第9回 調音点と調音法
- 第10回 硬口蓋化現象と拗音との関連
- 第11回 ガ行鼻濁音にみる地域差と年齢差 連濁現象 四つ仮名の混同
- 第12回 八行子音の歴史的変遷と八行転呼音
- 第13回 五十音図と『醍醐寺蔵孔雀経音義』
- 第14回 撥音と促音にみる逆行同化現象と条件異音 ラ行音と自由異音
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...25% 期末試験...75%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この科目履修後に「日本語学概論II」を受講すれば、より多角的な観点から日本語の諸現象を理解することができます。授業で指示されたことを、授業の事後に必ず学習してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語学概論II 【夜】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 堀尾 香代子 / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

普段何気なく使用している日本語を語彙・敬語・文字・文法・方言などの観点から観察することを通して、日本語の特色について考える。そのなかで日本語学の各分野における基礎理論について、個別の現象を抑えながら把握するよう努める。とくに、知識の習得に終始するのではなく、各分野における様々な問題点について自ら考える力を養っていく。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。授業中に適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

佐伯哲夫・山内洋一郎編『国語概説』和泉書院

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 語と語彙 語彙の分類と体系 辞書・辞典にみる語彙
- 第2回 理解語彙と使用語彙 基本語と基礎語 単語の種々相
- 第3回 語彙の系統 語彙の量的考察 語彙量と使用率
- 第4回 日本語の語種 語構成 語の位相 意味の諸相
- 第5回 語種と品詞の関連 単語の文法的な性質 品詞論と文法化
- 第6回 漢語の伝来と受容 音声と文字とのかわり 文字の種類
- 第7回 漢字の成立と伝来と享受 万葉仮名と上代特殊仮名遣い
- 第8回 漢字の訓の定着 日本の漢字音 漢字の構成と形と音
- 第9回 ローマ字の伝来と変遷 文字の発達の一方向 現代日本語の表記の特徴
- 第10回 待遇表現と敬語 敬語の三種類 素材敬語と対者敬語
- 第11回 美化語と丁重語 絶対敬語と相対敬語 敬意と名詞
- 第12回 標準語と共通語と方言と俚言 方言を生む作用
- 第13回 方言圏論 方言区画論
- 第14回 アクセントの類型
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...25% 期末試験...75%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「日本語学概論I」を既に受講した場合は、より多角的な観点から日本語の諸現象を理解することができます。授業で指示されたことを、授業の事前事後に学習してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本文学史 (古典) 【夜】

専門教育科目
選択科目
比較文化 (地域系) 科目

担当者名 /Instructor 藤崎 祐二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

古典文学作品の中から、それぞれの時代を代表する作品を、時代を追って鑑賞し、適宜、解説を加えながら、古典文学史の流れを辿る。

教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『日本文学史入門』 (井本農一編、角川書店)
- 『日本文学史』 (久保田淳編、おうふう)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 上代の文学 『古事記』
- 3回 上代の文学 『万葉集』
- 4回 中古の文学 『古今和歌集』
- 5回 中古の文学 『伊勢物語』
- 6回 中古の文学 『源氏物語』
- 7回 中古の文学 『更級日記』
- 8回 中古の文学 『堤中納言物語』
- 9回 中世の文学 『無名草子』 『風葉和歌集』
- 10回 中世の文学 『宇治拾遺物語』
- 11回 中世の文学 『平家物語』
- 12回 中世の文学 『徒然草』
- 13回 中世の文学 『御伽草子』
- 14回 近世の文学 『奥の細道』
- 15回 近世の文学 『雨月物語』

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 80%、授業に臨む態度... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参考文献に挙げた書籍等を読んで、文学史の流れを一通り整理しておくといでしょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語表現法I【夜】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 加藤 宏文 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義・実習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

真の「情報化」「国際化」社会に相応しい日本語表現の創造・発信が、求められる。Iでは、生活語による表現の豊かで確かな力の涵養に努め、具体的な「手紙」文での考察・実践を、IIでは、各自の専攻をも考慮に入れ、独自の課題の設定・情報の収集・選択、課題解決への構想・論述法等を、相互批評の中で学ぶ。

教科書 /Textbooks

プリント等、担当者が準備する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義・演習中に、随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 【「手紙」】って何だろう。
- 第2回 文学の中の「手紙」に学ぶ。
- 第3回 「手紙」は、駆逐されるのか。
- 第4回 こんな「手紙」もある。
- 第5回 短さが、豊かさと呼ぶ。
- 第6回 【相手意識】を、確かめる。
- 第7回 「手紙」を読み分ける。
- 第8回 「返事」を、構想する。
- 第9回 「手紙」の形式を、確認する。
- 第10回 演習(1) 豊かな「手紙」に学ぶ。
- 第11回 演習(2) 相手を設定する。
- 第12回 演習(3) 語彙を豊かにする。
- 第13回 演習(4) 構想・形式を工夫する。
- 第14回 ~に宛てて、「手紙」を書く。
- 第15回 ~への「返事」を書く。

成績評価の方法 /Assessment Method

毎時具体的な表現活動を求め、「評価」しつゝいき、総合「評価」をする。
演習内容…80% 平常点…20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講後に「日本語表現法II」を履修することがのぞましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語表現法II【夜】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 加藤 宏文 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

真の「情報化」「国際化」社会に相応しい日本語表現の創造・発信が、求められる。Iでは、生活語による表現の豊かで確かな力の涵養に努め、具体的な「手紙」文での考察・実践を、IIでは、各自の専攻をも考慮に入れ、独自の課題の設定・情報の収集・選択、課題解決への構想・論述法等を、相互批評の中で学ぶ。

教科書 /Textbooks

プリント等、担当者が準備する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義・演習中に、随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 【「情報」】は、真実を伝えるか。
- 第2回 【課題】を、設定する。
- 第3回 情報・資料を【収集・選択】する。
- 第4回 分類し、見出しをつける。
- 第5回 順序を決める。
- 第6回 「起承転結」を再確認する。
- 第7回 【書き出し】をどうするか。
- 第8回 具体から一般へと、どう導くか。
- 第9回 「反極注意」ができるか。
- 第10回 総合の観点を、創造する。
- 第11回 演習(1)「起」を記述する。
- 第12回 演習(2)「承」を記述する。
- 第13回 演習(3)「転」を記述する。
- 第14回 演習(4)「結」を記述する。
- 第15回 まとめ 800字で論述する。

成績評価の方法 /Assessment Method

毎時具体的な表現活動を求め、「評価」しつゝいき、総合「評価」をする。
演習内容…80% 平常点…20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「日本語表現法I」履修後に受講することがのぞましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ文学概論【夜】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 新村 昭雄 / Shinmura Akio / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

まず、現代の世界大戦後の荒廃を【ロスト・ジェネレーション】の世代として虚無と戦ったHemingway、同様、20年代の【roaring 20s】の動乱を生きたFitzgerald、そしてJ. D. Salingerなど【ユダヤ系文学】、Harlem Renaissance後花開いた【黒人文学】、第2次大戦後の【ポストモダニズムの文学】を読んでアメリカ文学への理解を深めたい。

教科書 /Textbooks

Ernest Hemingway: The Sun Also Rises 『日はまた昇る』(岩波文庫)
F. S. Fitzgerald: The Great Gatsby 『グレート・ギャツビー』(新潮文庫)
J.D. Salinger: The Catcher in the Rye 『ライ麦畑でつかまえて』(白水Uブックス)
Richard Wright: Native Son、【ユダヤ系文学】、【黒人文学】【ポストモダニズム】の作品等

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

参考文献等は図書館の指定図書コーナー(新村)に開架し、さらにまた、その都度指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Ernest Hemingway: The Sun Also Rises 【国籍離脱者Exile】 【Hard-boiled】
- 2回 Ernest Hemingway: The Sun Also Rises 【ロスト・ジェネレーション】
- 3回 パリ、スペイン・パンプローナ「牛追い祭」と闘牛のシーン(映画・ビデオ)で鑑賞。
- 4回 F. S. Fitzgerald: The Great Gatsby 【The Jazz Age】
- 5回 F. S. Fitzgerald: The Great Gatsby 【Gatsby's Dream】
- 6回 F. S. Fitzgerald: The Great Gatsby 【American Dream】日本の【成金】との比較
- 7回 映画「華麗なるギャツビー」の鑑賞。
- 8回 J.D. Salinger: The Catcher in the Rye 【ユダヤ系作家】 【Soft-boiled】
- 9回 J.D. Salinger: The Catcher in the Rye 【禅仏教】 【Angry Young Men】
- 10回 Richard Wright: Native Son 【黒人作家】 【エリソン】 【ポールドウィンら黒人作家】
- 11回 Richard Wright: Native Son 【Black Power】 【旧約聖書・ヨブ記】
- 12回 Ken Kesey: One Flew Over the Cuckoo's Nest 【サイケデリック・カルチャー】
- 13回 Joseph Heller: Catch-22 【ギラン・バレー症候群】 【Catch-22的状况とは】
- 14回 ポストモダニズムの文学(1) 【シュールリアリズム】
- 15回 ポストモダニズムの文学(2) 【ブラックユーモア】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(20%)、レポート(50%)と学期末試験(30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で準備することは、テキストを読むこと、さらに、授業中指示した参考書等を読むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

【旧約聖書】 【国籍離脱者Exile】 【Hard-boiled】 【ロスト・ジェネレーション】 【Jazz Age】 【American Dream】 【ユダヤ系作家】 【Soft-boiled】 【禅仏教】 【Angry Young Men】 【黒人作家】 【Black Power】 【旧約聖書・ヨブ記】
【サイケデリック・カルチャー】 【ギラン・バレー症候群】 【Catch-22的状况とは】 【シュールリアリズム】 【ポストモダニズムの文学】 【ブラック・ユーモア】

アメリカの現代文学 【夜】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

アメリカ現代演劇を代表するアーサー・ミラーの戯曲のテキストを具体的に解釈・分析することにより、作者の人間観、世界観の特質、作品と社会背景との関連性などに対する理解を深めたい。既成の評価にとらわれずに、可能な限り、担当教員独自の作家像をうちたてるようにしたい。

ストーリーの展開に合わせて作品を読み進むのではなく、担当教員の視点から見て重要な箇所をピックアップしながら具体的に作品の分析・解析を行っていく。アメリカ社会の独自性、特殊性を作品がどのように映し出しているかという点にも注意を払っていきたい。また、アーサー・ミラーは、アメリカの少数民族である、ユダヤ系である。そのような事実が作品にどのような形で反映されているかを考えることにより、作品におけるユダヤ人的な視点、発想が、純アメリカ的な他の文学作品や映画の中の視点とどのような関係を形成しているかという話題も議論したい。

教科書 /Textbooks

Death of a Salesman アーサー・ミラー (南雲堂)
必要に応じて、レジュメと英語資料の抜粋を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

アーサー・ミラー全集I 『セールスマンの死』 倉橋健訳

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、参考文献の紹介
- 2回 作品の構成の特質についての説明
- 3回 作品のビデオ鑑賞 1
- 4回 作品のビデオ鑑賞 2
- 5回 家族描写の特徴と作者の民族性の関連性の分析 1
- 6回 家族描写の特徴と作者の民族性の関連性の分析 2
- 7回 人物描写の特徴と、作者の民族性との関連性の分析 1
- 8回 人物描写の特徴と、作者の民族性との関連性の分析 2
- 9回 スポーツ描写の特徴と、作者の民族性との関連性の分析
- 10回 アメリカの物質主義と、作者の民族性との関係の分析
- 11回 女性描写の特徴と、作者の民族性との関連性の分析 1
- 12回 女性描写の特徴と、作者の民族性との関連性の分析 2
- 13回 女性描写の特徴と、作者の民族性との関連性の分析 3
- 14回 全体のまとめ：作品とアメリカ社会の特徴
- 15回 全体のまとめ：作品と作者の民族性 (最終回は絶対に欠席しないこと)

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%
テキスト、配布プリント、自筆ノート持ち込み可で試験を行う。(コピーはすべて持ち込み不可)
なお、試験は英語力を問うものではありません。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

可能な限り、テキストを事前に読んでおいてください。翻訳は図書館にあります。

履修上の注意 /Remarks

英文のテキストや資料を使用しますが、教員が日本語に訳しますので、講義を理解する上で英語力は特に必要ありません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカの18-19世紀文学 【夜】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 新村 昭雄 / Shinmura Akio / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

アメリカ文学の古典である、アメリカ植民地時代の【ピューリタニズム】【アメリカの独立】を見事に描いたNathaniel Hawthorneの文学、【アメリカ民主主義】の讃歌と西洋文明の挽歌を歌ったHerman Melville、民主主義アメリカの新しい、【独立心】の強い女を描いたHenry JamesのDaisy MillerやThe Portraite of a Ladyを読んでアメリカ文学への理解を深めていきたい。

教科書 /Textbooks

Nathaniel Hawthorne: Short Stories 『ホーソン短編集』(岩波文庫)
The Scarlet Letter 『緋文字』(岩波文庫)
Herman Melville: Moby Dick or the white whale 『白鯨』(新潮文庫)
Henry James: Daisy Miller 『デイジー・ミラー』(新潮文庫)
The Portraite of a Lady 『ある婦人の肖像』(岩波文庫)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献等は図書館の指定図書コーナー(新村)に開架し、さらにまた、その都度指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Nathaniel Hawthorne: Short Stories 【大英帝国植民地】【マサチューセッツ・ボストン】
- 2回 Nathaniel Hawthorne: Short Stories 【ピューリタニズム】
- 3回 Nathaniel Hawthorne: Short Stories 【自由主義思想】【Salem魔女裁判】
- 4回 Nathaniel Hawthorne: The Scarlet Letter 【ピューリタニズム】【啓蒙主義思想】の文学
- 5回 Nathaniel Hawthorne: The Scarlet Letter 【超絶主義】の文学
- 6回 NHKグレートブックス・シリーズ「緋文字」のビデオを観て「緋文字」の現代的意味を探る。
- 7回 Herman Melville: Moby Dick or the white whale 【アメリカ民主主義】【バーバリズム】
- 8回 Herman Melville: Moby Dick or the white whale 【ゾロアスター教】【拝火教】
- 9回 Herman Melville: Moby Dick or the white whale 【白鯨とは何なのか】【ヨブ記】【異端】
- 10回 Henry James: Daisy Miller 【19世紀の女性】【Independent】【自由とは】
- 11回 Henry James: Daisy Miller 【慣習】【因習】【しきたり】【Freedom】【自由恋愛】
- 12回 Henry James: The Portraite of a Lady 【民主主義アメリカの新しい女性】【自立した女性】
- 13回 Henry James: The Portraite of a Lady 【旧世界の因習】【選択】【人生の苦しみ】
- 14回 Henry James: The Portraite of a Lady 【結婚・離婚と自己責任】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(30%)、レポート(40%)と学期末試験(30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備としてテキストを読むこと、授業次に指示した参考書等を読むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

【大英帝国植民地】【マサチューセッツ植民地・ボストン】【ピューリタニズム】【自由主義思想】【Salem魔女裁判】【超絶主義 Transcendentalism】【アメリカ民主主義】【バーバリズム】【ゾロアスター教】【拝火教】【白鯨とは】【ヨブ記】【異端】【19世紀の女性】【Independent】【自由とは】【慣習】【因習】【しきたり】【Freedom】【自由恋愛】【アメリカの新しい女性】【自立した女性】【旧世界の因習】【人生の選択】【人生の苦しみ】【結婚・離婚と自己責任】

アメリカの歴史と社会【夜】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

21世紀を迎えたアメリカ社会が相変わらず抱える課題のひとつが、人種の問題である。これは、アメリカ合衆国の原則ともいえる民主主義を揺るがしかねない深刻な問題をはらんでいる一方で、アメリカのダイナミズムの源にもなりうる。本講義では主に、アフリカ系アメリカ人、ヒスパニック、日系人を取り上げ、その歴史的背景を踏まえたうえで、今日のアメリカ社会における人種や民族をめぐる問題を考える。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

開講時及び授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 アフリカ系アメリカ人の歴史：南北戦争以前の状況
- 3回 アフリカ系アメリカ人の歴史：南北戦争後の南部社会における新しい労働体制と黒人投票権の剥奪
- 4回 アフリカ系アメリカ人の歴史：「分離すれども平等」の原則の確立とそれに対する黒人の抵抗運動
- 5回 アフリカ系アメリカ人の歴史：公民権運動①
- 6回 アフリカ系アメリカ人の歴史：公民権運動②
- 7回 アフリカ系アメリカ人の歴史：アフリカ系アメリカ人を取り巻く今日の状況
- 8回 ヒスパニック系アメリカ人の歴史：第二次世界大戦後の移民法改正①
- 9回 ヒスパニック系アメリカ人の歴史：第二次世界大戦後の移民法改正②
- 10回 日系アメリカ人の歴史：前世紀転換期における移住の開始
- 11回 日系アメリカ人の歴史：20世紀初頭の日本人移民制限の動き
- 12回 日系アメリカ人の歴史：太平洋戦争の勃発と強制立ち退き
- 13回 日系アメリカ人の歴史：第二次世界大戦における日系人部隊
- 14回 日系アメリカ人の歴史：戦後の補償問題
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、学期末試験(100%)で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業中に紹介する参考文献等を積極的に読むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ文化論【夜】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 江口 雅子 / EGUCHI MASAKO / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義はアメリカ文化を様々な視点から検討します。独立宣言、政治演説など、多数の歴史的資料を取り上げることを通して、アメリカが辿ってきた道、そして現代における意義を検証していきます。

教科書 /Textbooks

Events and Trends in American History, S. Kathleen Kitao et al., 三修社, 1,500円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『ヘンリー・ジェームズのアメリカ』、藤野早苗著、彩流社
- 『マイ・ドリーム-バラク・オバマ自伝』、Barack Obama著、白倉三紀子/木内裕也訳、ダイヤモンド社
- 『合衆国再生-大いなる希望』、Barack Obama著、棚橋志行訳、ダイヤモンド社 (三冊とも、図書館蔵書)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Course Introduction
- 2回 作家Henry Jamesの生い立ち、人生
- 3回 Henry Jamesが直面した19世紀後半から20世紀初頭のアメリカI【南北戦争、大恐慌】
- 4回 Henry Jamesが直面した19世紀後半から20世紀初頭のアメリカII【産業化、女性の権利】
- 5回 The Ambassadors (1903) : パリから見たアメリカ消費社会
- 6回 The Wings of the Dove (1902) : 生への希求と巨万の富
- 7回 The Golden Bowl (1904) : 人間関係の商品化
- 8回 The Golden Bowl (1904) : 人間関係の商品化【本作品のDVD鑑賞】
- 9回 The American Scene (1907) : 再訪者の目に映る不安な情景
- 10回 Barack Obama (1961-) が直面したアメリカ【公民権運動】
- 11回 Barack ObamaとアメリカI【人種間の壁】
- 12回 Barack ObamaとアメリカII【アメリカ再生】
- 13回 Barack Obamaの教育演説I、前半
- 14回 Barack Obamaの教育演説II、後半
- 15回 Course Review

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加 : 30% 学期末試験 : 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義内容の十分な理解を得るために、授業で配布した資料とテキストを事前事後に読むことを必須とする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中の私語は禁止します。理由なき遅刻・途中退席は禁止します。

キーワード /Keywords

the American Civil War, the Great Depression, Industrialization, Women's Rights, American Civil Rights Movement

イギリスの現代文学 【夜】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 杉本 美穂 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義 /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、イギリスの二十世紀文学から、受講生に比較的になじみのある作家の作品を毎回1冊とりあげて解説する。十九世紀、大英帝国として世界に君臨したこの国も、二十世紀の入ると、二度にわたる世界大戦で甚大な被害を被り、植民地の独立により経済的にも大撃を受ける。階級制度のしがらみと揺らぎ、アイルランド問題、伝統の変質など、「病める老大国」と呼ばれた時期もあった。こうした時代を背景に生まれた作品を読むことで、現代の英国社会や文化の特質、そして英国人の生き方への理解を深めてもらいたい。

本講義の主なテーマは、「モダニズム」と「ファンタジー」である。作品への理解を助けるために、作家の人となり、作品成立時の政治的、文化的な背景、主題の分析、文学理論を応用する可能性など、多角的な視点を提供したい。

教科書 /Textbooks

ピーター・ミルワード著、小泉博一訳、『童話の国イギリス』中公新書1610 840円 ISBN4-12-101610-6

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は適宜、指示する。(別途、参考資料は配布する)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 C.S.ルイス 『ナルニア国物語』 2 1章
- 2回 G.K.チェスタトン 『おとぎの国の倫理学』 1 9章
- 3回 J.R.R.トールキン 『ホビットの冒険』 2 0章
- 4回 V.ウルフ 『ダロウエイ夫人』と意識の流れ
- 5回 J.ジョイス 『ユリシーズ』 「ネストール」
- 6回 J.ジョイス 『ユリシーズ』 「セイレーン」
- 7回 J.ニューベリー編 『マザー・グースのメロディー』 1章
- 8回 B.ポッター 『ピーター・ラビットのおはなし』 3章
- 9回 G.オーウェル 『動物農場』 反ユートピア小説
- 10回 W.ゴールディング 『蠅の王』 反ユートピア小説
- 11回 G.B.ショウ 『ピグマリオン』と反英国思想
- 12回 カズオ・イシグロ 『日の名残り』と失われた過去
- 13回 K.グレアム 『ヒキガエル屋敷のヒキガエル』
- 14回 J.M.バリヤー 『大人になりたくなかった少年ピーター・パン』 1 8章
- 15回 まとめと復習%

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点・課題プリント20%、小テスト・20%、期末試験・60%、で総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、支持されたテキストをしっかりと読んで、講義に臨んでもらいたい。また、原文も一部配布するので、翻訳では味わえない、原文ならではの「読み」に触れる契機にしてほしい。

イギリスの現代文学 【夜】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

イギリスの歴史と社会【夜】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 久木 尚志 / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

イギリスを中心に、アメリカ等も含む英語圏の文化を幅広く検討する。

教科書 /Textbooks

各回でレジュメ等を配布し、スライドを適宜用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 英米文化への接近方法【英米文化】【コミュニケーション】
- 第3回 イギリスには建国記念日がない【アングロ・サクソン】【ノルマン征服】
- 第4回 イギリスの国王は(意外と)権力が強い【立憲君主政】【マグナ・カルタ】
- 第5回 20世紀まで英語は国際言語ではなかった【英語】【百年戦争】
- 第6回 イギリス国旗には緑がない【国旗】【ウェールズ】
- 第7回 スコットランド人は「秘密の多い世界」を好むといわれる【伝統の創造】【帝国】
- 第8回 イギリス国歌には歌われない歌詞がある【国歌】【名誉革命体制】
- 第9回 イギリスでは厳格な政教分離がなされていない【政教分離】【国教会】
- 第10回 アイルランドは「ケルト」ではない(1)【アイルランド】【カソリック】
- 第11回 アイルランドは「ケルト」ではない(2)【アイルランド】【北アイルランド問題】
- 第12回 ホワイトハウスが白なのはイギリスのせいでもある【アメリカ独立】【自由】
- 第13回 イギリスの覇権は奴隷貿易がもたらした【奴隷貿易】【産業革命】
- 第14回 イギリスの家族関係は危機にある【王室】【フーリガン】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験(小テスト含む)...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを、授業の事前事後に学習し、準備すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

環大西洋の社会史【夜】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、環大西洋世界で生じた歴史的な「革命」を取り上げ、近代の欧米を中心とした政治的な流れを、経済・社会・文化と絡めて考察する。

教科書 /Textbooks

特に指定なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに：授業の狙い・テーマについてのガイダンス。
- 2回 イギリス革命：政治とピューリタン革命。
- 3回 イギリス革命：宗教とピューリタン革命
- 4回 イギリス革命：自由と名誉革命。
- 5回 アメリカ革命：政治と反英抗争。
- 6回 アメリカ革命：経済と反英抗争。
- 7回 アメリカ革命：自由と独立革命。
- 8回 アメリカ革命：自由とアメリカ共和国の成立。
- 9回 フランス革命：自由と89年革命。
- 10回 フランス革命：政治と89年革命。
- 11回 フランス革命：政治とナポレオン時代。
- 12回 産業革命：イギリスの産業革命。
- 13回 産業革命：アメリカの産業革命①。
- 14回 産業革命：アメリカの産業革命②。
- 15回 総括。

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として学期末試験(100%)で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業中に紹介する参考文献等を積極的に読むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語史【夜】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 松崎 徹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講座では、国際語としての地位を確立したといえる英語の、その誕生(5世紀)から近世(16世紀)に至るまでの歴史を概観する。特に、他のヨーロッパ諸言語と比べて現代英語の際立った特徴とされる(1)語彙の豊富さ(2)語尾変化の少なさ、の2点に焦点を当て、こうした特徴がフランス語を中心とした諸外国語の影響によるものが大きいことを、具体例を通して概観し、英語の発達史の歴史はいわば異質の言語・文化との交流の歴史であることを学んでいく。

教科書 /Textbooks

『ファンダメンタル英語史』 (児馬修著) ひつじ書房 1500円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

「なし」

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 シラバス配布 & 英語史導入問題の解答と解説
- 2回 はしがき & はじめに【外面史】、【内面史】
- 3回 英語史の概観(1)【アングロサクソン人】
- 4回 英語史の概観(2)【ケルト人】
- 5回 印欧祖語(1)【ウイリアム・ジョーンズ】
- 6回 印欧祖語(2)【印欧語族】
- 7回 古英語の文献・特殊文字(1)【ルーン文字】、【ローマンアルファベット】
- 8回 古英語の文献・特殊文字(2)【古英語】
- 9回 海賊と英語(1)【ヴァイキング】
- 10回 海賊と英語(2)【借用語】
- 11回 海賊と英語(3)【地名】
- 12回 ノルマン人の征服と英語(1)【ノルマン人の征服】
- 13回 ノルマン人の征服と英語(2)【英語の危機】
- 14回 ノルマン人の征服と英語(3)【フランス語借用語】
- 15回 まとめ～英語史を学んで～

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況・・・20% 定期試験・・・80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎講義の冒頭に前回の講義内容に関する質問を受講生に口頭でおこなうので、講義開始時までに前回の講義内容を復習しておくこと。この口頭質問は重要なクラス活動と位置づけるので、平常点として成績評価の対象とする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アングロサクソン 古英語 借用語 フランス語

担当者名 /Instructor アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are English speaking, listening, reading and writing skills. The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English.

教科書 /Textbooks

World English 1: Heinle Cengage Learning. 2010

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Course Introduction: Meeting People.
- 2 回 Ask for and give personal information. Describe different occupations.
- 3 回 Talk about people and occupations. Video Journal: Last of the Woman Divers
- 4 回 Talk about work and free time activities.
- 5 回 Describe a festival or a celebration. Compare different festivals.
- 6 回 Video Journal: Hula. Identify Possessions.
- 7 回 Ask for and give personal travel information. Give travel advice.
- 8 回 Share special travel tips. Video Journal: Beagle Patrol.
- 9 回 Talk about food. Order a meal.
- 10 回 Talk about diets. Discuss unusual and favorite foods.
- 1 1 回 Video Journal: Dangerous Dinner. Talk about activities happening now.
- 1 2 回 Compare everyday and present-time activities. Talk about favorite sports.
- 1 3 回 Discuss adventure holidays. Video Journal: Cheese-Rolling Races.
- 1 4 回 Talk about personal communication. Give and write down contact details.
- 1 5 回 Describe characteristics and qualities. Compare different types of communication.

成績評価の方法 /Assessment Method

Class work and Assignments 70% Final Examination 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Review materials from the previous week for use in class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are English speaking, listening, reading and writing skills. The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English.

教科書 /Textbooks

World English 1: Heinle Cengage Learning. 2010

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回Talk about past vacation trips. Exchange information about vacations.
- 2 回Describe a personal experience. Talk about a discovery from the past.
- 3 回Video Journal: Machu Picchu. Talk about plans.
- 4 回Discuss long- and short-term plans. Make weather predictions.
- 5 回Discuss the future. Video Journal: Solar Cooking
- 6 回Make comparisons. Explain preferences.
- 7 回Talk about clothing materials. Understand and describe a process.
- 8 回Video Journal: Traditional Silk Making. Give advice on healthy habits.
- 9 回Suggest ways to improve bad habits. Ask about lifestyles.
- 10 回Evaluate your lifestyle. Video Journal: The Science of Stress.
- 11 回Talk about today's chores. Interview for a job.
- 12 回Talk about lifetime achievements. Discuss scientific achievements.
- 13 回Video Journal: Spacewalk. Talk about managing your money.
- 14 回Choosing how to spend your money. Our actions can have positive consequences.
- 15 回Preventing habitat destruction. Video Journal: Missing Snows of Kilimanjaro.

成績評価の方法 /Assessment Method

Class work and Assignments 70% Final Examination 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Review materials from the previous week for use in class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course will explore different corners of the world via readings and video excerpts. These explorations will lead into various writing and discussion exercises to improve general abilities in these skills.

教科書 /Textbooks

World Explorer. John S. Lander. Asahi Press. 2004

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction:
- 2 回 Canada
- 3 回 Cameroon
- 4 回 New Zealand
- 5 回 Nepal
- 6 回 England
- 7 回 France
- 8 回 Mid-term Test
- 9 回 U.S.A.
- 10 回 Brazil
- 11 回 Ireland
- 12 回 Switzerland
- 13 回 Australia
- 14 回 Scotland
- 15 回 Final Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation 40%
Assignments 20%
Mid-term Test 20%
Final Exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Have the homework assignments completed in time for class.
Review the vocabulary from the previous week.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course will explore different corners of Asia via readings and listening excerpts. These explorations will lead into various writing and discussion exercises to improve general abilities in these skills.

教科書 /Textbooks

Understanding Asia. Nobuyuki Honna and Yuko Takeshita. Cengage Learning. 2009

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction:
- 2 回 India
- 3 回 Thailand
- 4 回 Vietnam
- 5 回 Malaysia
- 6 回 Singapore
- 7 回 Indonesia
- 8 回 Mid-term Test
- 9 回 The Philippines
- 10 回 China
- 11 回 Hong Kong
- 12 回 Korea
- 13 回 Russia
- 14 回 Japan
- 15 回 Final Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation 40%
Assignments 20%
Mid-term Test 20%
Final Exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Have the homework assignments completed in time for class.
Review the vocabulary from the previous week.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are English speaking, listening, reading and writing skills. The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English.

教科書 /Textbooks

World English 2: Heinle Cengage Learning. 2010

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Course Introduction: Meeting People.
- 2 回 Comparing activities. Regional Foods. Traditional Dishes.
- 3 回 Food Through History. Video Journal: Forbidden Fruit.
- 4 回 Intercultural Communication. Making Small Talk.
- 5 回 Breaking the Ice. Video Journal: Orangutan Language
- 6 回 Describing Cities. Explaining a good neighborhood.
- 7 回 Action Plans. Megacities.
- 8 回 Video Journal: Fes. Health Issues.
- 9 回 Discussing Lifestyles. Natural Remedies.
- 10 回 Germs and the Human Body. Video Journal: The Human Body.
- 11 回 Facing Challenges. Past Accomplishments.
- 12 回 Talk about abilities. Describe a Personal Challenge.
- 13 回 Video Journal: The Megatransect Project. Milestones in Our Life.
- 14 回 Ideal Age. Getting more information.
- 15 回 Describing Important Transitions. Video Journal: Nubian Wedding.

成績評価の方法 /Assessment Method

Class work and Assignments 70% Final Examination 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Review materials from the previous week for use in class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This class focuses on the four skills of English speaking, listening, reading and writing. The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English.

教科書 /Textbooks

World English 2: Heinle Cengage Learning. 2010

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Source of Luxury Items. Discussing Needs and Wants.
- 2 回 Improving People's Lives. Creating Desire Through Advertising.
- 3 回 Video Journal: Coober Pedy Opals. Conditionals and Real Situations.
- 4 回 Discussing Possible Future Situations. Describing Animal Actions.
- 5 回 Giving an Opinion. Video Journal: Happy Elephants.
- 6 回 Discussing Life in the Past. Daily Lives of Grandparents.
- 7 回 Comparing Past and Present. Considering Impact of Past Events.
- 8 回 Video Journal: Columbus and the New World. Preparing for a Trip.
- 9 回 Variety of Vacations. English at the Airport
- 10 回 Pros and Cons of Tourism. Video Journal: Adventure Capital of the World.
- 11 回 Career Choices. Job-related Questions.
- 12 回 Career Planning. Identifying Career Qualifications.
- 13 回 Video Journal: Trinidad Bird Man. Describing a Festival.
- 14 回 Holidays in Different Countries. Personal Celebrations.
- 15 回 Sharing Holiday Traditions. Video Journal: Young Riders of Mongolia.

成績評価の方法 /Assessment Method

Class work and Assignments 70% Final Examination 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Review materials from the previous week for use in class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 B - 1 【夜】

担当者名 /Instructor 赤塚 正幸 / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
近代文学研究の方法を身につける。

教科書 /Textbooks
使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
1回 ガイダンス
2～15回 作品を手がかりに作家に関して発表する

成績評価の方法 /Assessment Method
発表の内容

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
作品をよく読む

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 B - 1 【夜】

担当者名 寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

卒業論文作成に向けて、各自が卒論のテーマに沿った発表を行う。

教科書 /Textbooks

各自で用意する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、各自で調査・収集する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 演習の進め方についての話し合い。
- 2回 レジユメの作成方法および卒業論文の書き方についての説明。
- 3回 受講者による発表・質疑応答。
- 4回 受講者による発表・質疑応答。
- 5回 受講者による発表・質疑応答。
- 6回 受講者による発表・質疑応答。
- 7回 受講者による発表・質疑応答。
- 8回 受講者による発表・質疑応答。
- 9回 受講者による発表・質疑応答。
- 10回 受講者による発表・質疑応答。
- 11回 受講者による発表・質疑応答。
- 12回 受講者による発表・質疑応答。
- 13回 受講者による発表・質疑応答。
- 14回 受講者による発表・質疑応答。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、出席、授業への貢献度、発表内容で総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

発表者は、必ずレジユメを作って発表にのぞむこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 2 【夜】

担当者名 赤塚 正幸 / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

卒業論文提出に向けて、作家・作品研究をきちんと身につける

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 演習の状況解説
- 2～15回 作家・作品の研究発表

成績評価の方法 /Assessment Method

発表の内容による

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

作品をよく読む

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 2 【夜】

担当者名 寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

卒業論文作成に向けて、各自が卒論のテーマに沿った発表を行う。

教科書 /Textbooks

各自で用意する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、各自で調査・収集する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 卒論の進捗状況についての確認。
- 2回 受講者による発表・質疑応答。
- 3回 受講者による発表・質疑応答。
- 4回 受講者による発表・質疑応答。
- 5回 受講者による発表・質疑応答。
- 6回 受講者による発表・質疑応答。
- 7回 受講者による発表・質疑応答。
- 8回 受講者による発表・質疑応答。
- 9回 受講者による発表・質疑応答。
- 10回 受講者による発表・質疑応答。
- 11回 受講者による発表・質疑応答。
- 12回 受講者による発表・質疑応答。
- 13回 受講者による発表・質疑応答。
- 14回 受講者による発表・質疑応答。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、出席、授業への貢献度、発表内容で総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

発表者は、必ずレジュメを用意して発表にのぞむこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較文学概論 【夜】

担当者名 /Instructor 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義ではまず「文学」という言葉を広義に解釈し、いわゆる詩や劇、小説、散文はもちろんのこと、様々な人間の生き方を包括的に描いているものであれば、漫画や映画をも含めて論じていき、「文学」の堅いイメージを覆し、文学のおもしろさを共有します。学際的な文学は、多くの読者（鑑賞者）に感動を与えつつ、人間に関する様々な問題について考えさせてくれる、いわば生きる糧なのです。因みに、人類の様々な学問を一輪の花に譬えるならば、そして、根を心理学、花の部分を美学であるとするならば、文学はその花全体を研究する、総合的、かつ学際的なものであると言えるでしょう。

研究姿勢の基盤ともいえるべき「疑うことの必要性」から説き起こし、研究に必要不可欠な2つの方法論—比較と分析—と、更にそれを総合へと展開させてゆくことの重要性についても説明します。

比較文学の実践については、まず、比較文学の歴史、「フランス派」（影響関係を調べる）と「アメリカ派」（対比する）の特徴を簡単に見、具体的に様々なテーマ毎（時代比較、国比較、ジャンル比較、その他いろいろ）に文学作品の比較をしていきます。

今、まさにポストモダンの時代。人間が断片的になり、人間同士もバラバラになり、様々な問題が生じています。このような時代にこそ、文学を通じて人間の在り方を問い、人間関係の問題を考え、また日本だけでなく外国の文学を通じて異文化をも理解することで、人間の在り方を問い直し、人間観を広げる一助になればと思います。

教科書 /Textbooks

コピーを利用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 研究の方法論について（「絶対」の否定、比較と分析）
- 2回 文学とは：文学のおもしろさ、文学は感動、文学は倫理・・・
- 3回 文学とは：文学は想像力（The Missing Piece）、文学は鏡（『緋文字』）・・・
- 4回 文学の必要性： 無用の用（『星の王子様』）
- 5回 文学は反体制： 物質主義批判（『アメリカの悲劇』）、科学文明批判（「あざ」）、ルール批判
- 6回 文学は反体制： メディア批判（『トゥルーマンショー』）、教育批判（『女王の教室』）・・・
- 7回 文学の読み方、読みの多様性
- 8回 比較文学とは、目的と意義
- 9回 比較文学の方法：（「フランス派」と「アメリカ派」）（『七人の侍』と『荒野の七人』等）
- 10回 比較文学の実践：時代比較、国（地域）比較
- 11回 比較文学の実践：ジャンル比較： 小説と映画
- 12回 比較文学の実践：翻訳の問題：俳句とその訳（松尾芭蕉とその翻訳）
- 13回 比較文学の実践：テーマ比較：日米の集団主義と個人主義（『わたしは貝になりたい』と『坩堝』）
- 14回 比較文学の実践：テーマ比較：母性比較（『ピラヴド』『マザー&ラヴァー』）
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験かレポート・・・90%
 出席点（課題など）・・・10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で提示する様々な作品に積極的に接して、文学のおもしろさを味わってください。その際、常に何か他の作品との比較を念頭に置いて読み進めるといいでしょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

「学際的」「比較文学」「フランス派」「アメリカ派」「ポストモダン」「比較」「分析」「総合」「無用の用」

メディア文化概論【夜】

担当者名 /Instructor 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

我々の生活は、様々なモノや表現によって媒介されて成り立っている。この授業では、「メディア」という概念が含み込んでいる視点を、講義するなかでメディア論的な思考を獲得することを目指す。個人の生活あるいは集団生活がどのようなメディアの仕掛けのもとに成立しているのかを批判的に見直すことが目標となる。以下の予定内容以外に、日常生活環境を見つめ直すためのトピックを随時挿入する。そのため、スケジュールは便宜的であり、順序の変更もありうる。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 第1回 ガイダンス メディアは「当たり前」をつくる
- 第2回 メディア論事始め①メディアは身体の拡張である【M.マクルーハン】
- 第3回 メディア論事始め②メディアはメッセージである【メディア論】
- 第4回 メディア論事始め③メディアには「カタチ」がある【物質性】【R.シャルチエ】
- 第5回 メディア史① メディアには「歴史」がある【文明史】【声】【文字】【印刷】
- 第6回 メディア史② メディアの誕生・社会化①【初期映画】
- 第7回 メディア史③ メディアの誕生・社会化②【活動写真】【トーキー】
- 第8回 メディア史④ メディアの誕生・社会化③【電話】【家庭】【個人】
- 第9回 メディア史⑤ メディアの誕生・社会化④【携帯電話】
- 第10回 メディア史⑥ メディアの誕生・社会化⑤【レコード】【ラジオ】
- 第11回 メディア史⑦ メディアの誕生・社会化⑥【ウォークマン】
- 第12回 研究の視点① メディアは「一体感」をつくる【メディアイベント】
- 第13回 研究の視点② メディアは理解 / 誤解を生む①【エンコーディング・デコーディング】【S.ホール】
- 第14回 研究の視点③ メディアは理解 / 誤解を生む②【オーディエンス】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(コメントカード、小テスト、課題など)...約20% 学期末試験約80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

前半は理論的な事項が多いので、必ず次回の授業準備として、それまでの講義のメモ・ノートを見直しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生涯学習学【夜】

担当者名 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

生涯学習社会への移行が叫ばれる現代、生涯にわたって私たちが主体的に学んでいくことの重要性が認識され、そうした学びをサポートする職員・指導者・リーダー・機関・施設・制度など条件整備が問われています。

本講義では、社会教育の法制度、国際的な生涯教育論の展開なども視野に入れつつ、生涯学習を支援・推進する制度・システムについて考えていきます。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 社会教育推進全国協議会『社会教育・生涯学習ハンドブック』エイデル研究所
- 『講座 主体形成の社会教育学』1～4巻、山田定市監修、北樹出版
- 『新社会教育講義』小川利夫編、大空社
- 雑誌『月刊 社会教育』国土社
- 雑誌『社会教育』全日本社会教育連合会
- 雑誌『月刊 公民館』全国公民館連合会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 生涯学習・社会教育の意義
- 2回 生涯学習ボランティア -学ぶことと成果の還元
- 3回 社会教育と生涯学習関連の法制度
- 4回 社会教育施設と生涯学習施設
- 5回 生涯学習関連施策の動向
- 6回 学習者の特性と学習の継続発展-学習相談、サービス、学習情報
- 7回 社会教育の内容・方法・形態-学級・講座の企画
- 8回 社会教育及び生涯学習関連の指導者とボランティア
- 9回 社会教育施設-公民館
- 10回 社会教育施設-博物館
- 11回 社会教育施設-図書館
- 12回 大都市における公民館-北九州市
- 13回 図書館、博物館における学習・グループ活動
- 14回 成人教育の国際的動向
- 15回 住民の力量形成と地域づくり

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度(授業中の小レポートを含みます。)…80% レポート…20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

学芸員資格や社会教育主事の必修科目の基本科目として、この授業を先に受講するか、あわせて受講すると、資格科目の理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教師論 【夜】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教職の意義、教師の役割、教師の職務内容等に関する知識の修得と、教職についての理解と考察の過程を支援することによって、教育と教職に対する実践意欲を喚起し、同時に教育と指導のあり方について助言する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】 内はキーワード)

1回 教育とは何かI	【学校教育】 【学習と生活】
2回 教育とは何かII	【教育】 【学校】 【生活と文化】 【教育の二つの思潮】
3回 教育の目的	【教育目的論】 【学校と学習】
4回 教育の内容	【教育課程】 【教育課程の編成原理】 【教育課程の歴史】
5回 教育の方法	【指導の本質】 【指導の方法】
6回 生徒指導のあり方	【生徒指導の前提】 【生徒指導の伝統】
7回 職業指導・進路指導	【キャリア教育】 【職業選択の基礎理論】
8回 教師本来のあり方	【教師の仕事】 【子どもの見方】
9回 生徒の生きる力を育てる教育	【生きる力】 【青少年の意識】
10回 性の教育	【思春期の発達】 【カリキュラム】
11回 教育評価	【評価の種類】 【体罰と懲戒】
12回 いのちの教育	【生と死の教育課程】 【いのちの教育の方法】
13回 身体教育	【食教育】 【排便教育】
14回 これからの教育	【学校の役割】 【中等教育】
15回 教師の「資質」とは何か / まとめ	【教師の禁句】 【指導】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育原理【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育における問題について、実践事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 発達と教育
- 2回 教育の方法
- 3回 教育の関係
- 4回 諸外国の教育思想
- 5回 日本の教育思想
- 6回 諸外国の教育史
- 7回 日本の教育史
- 8回 学校とは何か
- 9回 現代の学校が抱える課題
- 10回 家庭教育の基礎と現代的課題
- 11回 メディアと教育
- 12回 職業と教育
- 13回 国際化と教育
- 14回 生涯学習社会における教育
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 20% 課題 20% 最終課題(試験) 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発達心理学【夜】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ひとの誕生から乳児期、幼児期、児童期、青年期までの人間の発達を概観し、各発達段階における特徴的なテーマを通して人間の発達に関する心理学的理解を深める。
それと同時に、その発達の過程で生じてくる障害の発生機序について、発達障害、知的障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解を築いていく。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とは何か
- 第2回 胎児期【生まれるまでの子どもの発達過程】
- 第3回 誕生と新生児期
- 第4回 赤ちゃんの知覚能力
- 第5回 学習能力と行動習慣の獲得
- 第6回 運動発達と相互的やり取りの基盤
- 第7回 愛着の機能と発達
- 第8回 愛着の個人差と世代間伝達
- 第9回 共同注意と言語発達
- 第10回 他者の心を理解する【心の理論】
- 第11回 児童期における社会性の発達
- 第12回 思春期・青年期の発達【自我同一性、モラトリアム】
- 第13回 成人期から老年期の発達【家族形成、人生の終焉】
- 第14回 発達障害の発生機序について【発達障害、知的障害を中心に】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育制度【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育制度に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育制度における問題について、諸外国の事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育制度の基本原則(1) 教育制度とは
- 2回 教育制度の基本原則(2) 日本の教育法制
- 3回 学校制度の基本的事項(1) 機会均等、学校教育における中立性等
- 4回 学校制度の基本的事項(2) 義務教育
- 5回 学校制度の基本的事項(3) 学校体系
- 6回 教育課程の意義と編成(1) 教科書・教材、学習指導要領
- 7回 教育課程の意義と編成(2) 学校の教育課程編成
- 8回 教員制度の基本的事項(1) 教員免許法制、公務員としての教師
- 9回 教員制度の基本的事項(2) 教員の指導力、研修
- 10回 生涯学習制度 成人教育、学校教育と社会教育の連携
- 11回 子育てをめぐる諸問題 子育て不安、教育と福祉
- 12回 教育行財政の仕組み(1) 中央教育行政、地方教育行政
- 13回 教育行財政の仕組み(2) 教育委員会と学校
- 14回 教育制度改革の動向 学校選択制、学校評価
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語科教育法 A 【夜】

担当者名 山崎 和夫 / KAZUO YAMASAKI / 英米学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語教育の理論的側面（第二言語習得理論、外国語教育の方法論など）を授業での応用を重視しながら概括する。主要な方法論を具体的に教室のなかでの作業に置き換えることを念頭に置き、検討する。

教科書 /Textbooks

下記の文献から抜粋したプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高橋正夫 『英語教育学概論』（金星堂）
望月編著 『新学習指導要領にもとづく英語科教育法』（大修館書店）
田崎（編集）『現代英語教授法総覧』（大修館書店）
片山、末畑、他（編注）Readings on Teaching English as a Foreign Language（大修館書店）
中学校学習指導要領 第9節 外国語（文部科学省）
http://www.mext.go.jp/b_menu/shuppan/sonota/990301/03122602/010.htm
高等学校学習指導要領 第8節 外国語（文部科学省）
http://www.mext.go.jp/b_menu/shuppan/sonota/990301d/990301i.htm

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コースワークの説明
- 2回 外国語教育の目的論①Jespersen、「平泉-渡部論争」
- 3回 外国語教育の目的論②文科省の中学、高校の指導要領
- 4回 外国語教育の目的論③小学校からの早期教育における目的論を分析し、個人でしっかりした意識を持たせる。
- 5回 New Methods ①Old Methodと対比させてDirect Methodsを概括
- 6回 ②Direct Methodsの集大成であるOral Methodを概括。
- 7回 Oral Approach (Audio-Lingual Method) の特質を
①O.M. 目的、指導原理との相違の観点から概括する。
- 8回 ②Pattern Practice の実践的活用から概括する。
- 9回 Oral Approach (AL-M) への批判的立場から
①CCLを概括する。
- 10回 ②CLLを概括する。
- 11回 ③Input Hypothesisを概括する。
- 12回 コミュニカティブ・アプローチの諸相を次の観点から概括、把握する。
①Notional/Functional Syllabus
- 13回 ②Communicative Competenceの内容と習得の原理
- 14回 ③中学教科書のコミュニケーション重視への変遷
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の参加度 30% 期末試 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業にあたって、事前（当該授業の1～2回前）に配布する英文の資料をよく読み込んでおく必要があります。

履修上の注意 /Remarks

授業ではpair work、および授業の疑似体験など身体を動かし参加することが要求されます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講者は教職に就くことを強く意識しているはずである。各自の授業態度を見て、相応しいかどうか判断したい。

キーワード /Keywords

指導要領 主要な教授法 教育現場での応用 言語活動

英語科教育法B 【夜】

担当者名 /Instructor 山崎 和夫 / KAZUO YAMASAKI / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語教育の実践的側面（教科書、教材の分析、授業の展開、教案の作成）の指導をする。

教科書 /Textbooks

下記の文献からの抜粋プリント配付

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高橋正夫 『英語教育学概論』（金星堂）
望月編著 『新学習指導要領にもとづく英語科教育法』（大修館書店）
望月・山田 編著 『私の英語授業』（大修館書店）
E.W.Stevick "Teaching Languages A Way and Ways" (Newbury House)
中学校学習指導要領 第9節 外国語（文部科学省）
http://www.mext.go.jp/b_menu/shuppan/sonota/990301/03122602/010.htm
高等学校学習指導要領 第8節 外国語（文部科学省）
http://www.mext.go.jp/b_menu/shuppan/sonota/990301d/990301i.htm

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】 はキーワード)
- 1回 コースワークの説明
 - 2回 教科書及び教材の分析
 - 3回 英語教育教材論その変遷、問題点を明らかにする。【教師に求められる英語力】
 - 4回 授業の展開・運営について次の点を中心にして、実践的技術をビデオ教材などを利用して指導を行う。①授業の展開の全体像
 - 5回 ②「新出事項導入」
 - 6回 ③Practice【オーラル・インタラクション】
 - 7回 特に次の技術の授業での習得の具体的方策を学ぶ。①Listening、
 - 8回 ②Reading
 - 9回 ③Task【指導技術の習得】
 - 10回 「指導教案」の書き方指導。①教案の基本スタイル
 - 11回 ②教案の作成 【教案の形式と指導過程の記述】
 - 12回 各技能における評価の仕方、留意点。英語ALTとの授業の形態について観察する。
 - 13回 模擬授業（中学校）
 - 14回 模擬授業（高校）
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での活動... 40%、 課題... 10% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業ではpair work、および授業の疑似体験など身体を動かし参加することが要求されます。教壇に立つ立場を意識して授業に参加してください。

履修上の注意 /Remarks

授業で実践活動を行うことが特に重要であるため、出席不足の受講者に対しては、厳密に対応します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講者は教職に就くことを強く意識しているはずである。各自の授業態度を見て、相応しいかどうか判断したい。

キーワード /Keywords

授業の展開の実践 教案作成 模擬授業

道徳教育の研究【夜】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業は、「学校教育」（中学校・高等学校における教育；参考のために小学校における教育も含む）における道徳教育について学修するためのものである。この学校教育における道徳教育については、「学習指導要領」に規定されているので、それを基礎にして、具体的な道徳教育のあり方と指導方法について学修する。

教科書 /Textbooks

中学校学習指導要領』及び『高等学校学習指導要領』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【 】内はキーワード
- 1回 「道徳教育」とは何か 【徳】 【教育】
 - 2回 「学校教育における道徳教育」の構造 【学習指導要領】 【学校教育の全領域】
 - 3回 「各教科」と道徳教育 【陶冶】 【訓育】
 - 4回 「特別活動」と道徳教育 【学級活動】 【生徒会活動】 【学校行事】
 - 5回 「総合的な学習の時間」と道徳教育 【横断的・総合的な学習】 【活動】
 - 6回 「道徳の時間」と道徳教育 【道徳の時間の指導内容】 【全体計画】
 - 7回 「道徳の時間」の指導過程 【学習指導案】 【指導方法】
 - 8回 「道徳の時間」の指導技術 【指導技術】 【指導事例】
 - 9回 「モラルジレンマの授業」と道徳教育 【ジレンマ教材】 【対立・葛藤】
 - 10回 「役割演技」と道徳教育 【動作化】 【ロール・プレイ】
 - 11回 「教師のモラル」と道徳教育 【人間性】 【社会のモラル】
 - 12回 「体験・ボランティア活動」と道徳教育 【自然体験】 【社会体験】
 - 13回 「綴方」と道徳教育 【教育的リアリズム】 【教育的ヒューマニズム】
 - 14回 「エンカウンター」と道徳教育 【出会い】 【構成的グループエンカウンター】
 - 15回 道徳教育の課題と未来 / まとめ 【道徳性の評価】 【地域社会の連携】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別活動の研究【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、以下の課題を柱として取り組んでいきたい。

- ① 「中学校学習指導要領」及び「高等学校学習指導要領」の「特別活動」の目的、領域(学級活動、生徒会活動、学校行事)の理解を理論的、実践的に深めること。
- ② 市民社会の担い手に求められる市民的技能を学級活動などを通じて獲得させていく方法を実践的に学習すること。
- ③ 子どもたちの自治の力を育む生徒会活動、学校行事の在り方について、具体的な実践報告を踏まえつつ検討していくこと。

教科書 /Textbooks

楠 凡之著「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)、主要には第7章を使用する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体オリエンテーション - 「特別活動」の意義
- 2回 「中学校学習指導要領」及び「高等学校学習指導要領」の「特別活動」の目的・領域について
- 3回 現実の学校体験から、学級づくり、学校づくりの課題を考える。
- 4回 子ども達の対人関係スキルを育てるHR活動 その1
- 対立解決 (conflict resolution) の多様なパターン
- 5回 子どもたちの対人関係スキルを育てるHR活動 その2 - WinWin型で解決するために
- 6回 子どもたちの対人関係スキルを育てるHR活動 その3 - ロールプレイの取り組み
- 7回 すべての子どもの居場所となる学級づくりの課題 - 班ノート、班活動などに視点をあてて
- 8回 すべての子どもの居場所となる学級づくりの課題 - 班長・リーダー指導に視点をあてて
- 9回 子どもたちの自治の力を育てる生徒会活動の課題
- 10回 子ども達の自治の力を育てる学校行事の課題 - 体育祭の取り組み
- 11回 子ども達の自治の力を育てる学校行事の課題 - 文化祭・合掌コンクールの取り組み
- 12回 子どもたちの自治の力を育てる学校行事の課題 - 修学旅行の取り組み
- 13回 荒れている学級をどう立て直すか? - 中学校の実践
- 14回 荒れている学級をどう立て直すか? - 高等学校の実践
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点40%、期末試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受け身的な参加では実践的指導力は身に付かない。積極的な態度での参加を心がけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は人間関係学科の専門科目にもなっていますが、基本は教職の科目です。教員をめざす学生にふさわしい、真摯な授業態度と積極的な活動への参加を期待します。

キーワード /Keywords

学級集団づくり、市民的技能、自治の力

教育方法学【夜】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、「学校教育」（中学校・高等学校における教育；参考のために小学校の教育も含む）における教育方法についての理論と具体的な方法・技術を学修する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山下政俊・湯浅恭編著『教育の方法』ミネルヴァ書房、他

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【 】内はキーワード
- 1回 「教育方法」とは何か 【教育方法の形態】【比喻・モデル】
 - 2回 21世紀の教育方法 【指導】【管理】【生活と文化】【対話】
 - 3回 「授業（学び）」の構想 【授業の三角形モデル】【事前の教材解釈】
 - 4回 授業における展開と「タクト」 【競争原理】【教授学的タクト】
 - 5回 学びを反省・評価する 【評価の方法】【自己評価能力】
 - 6回 学びのシステムのこれまでとこれから 【出席と参加】【学習規律】
 - 7回 「学び」の具体的システムづくり 【相互主体論】【受容】
 - 8回 これからの学びを支える新しいネットワーク 【メディアリテラシー】【情報活用能力】
 - 9回 情報機器と教材の活用 【マルチメディア】【授業形態】
 - 10回 新しい教師への道を拓く 【教師の資質能力】【ファシリテーター】
 - 11回 性教育の指導の視点 【ジェンダー】【性】
 - 12回 学習遅滞の指導 【学習遅滞】【学習障害】
 - 13回 デイスコミュニケーションとコミュニケーション 【発話】【聴取】
 - 14回 教育方法における「近代」と「現代」 【連続と非連続】【現代化】
 - 15回 「教える」ことの技術と思想 /まとめ 【指導】【自己活動】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育工学【夜】

担当者名 /Instructor 大塚 一徳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、教育工学の研究範囲に含まれる中でも、近年特に重要であり注目されている下記に示す事項に関して講義を行う。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

教育工学への招待, 赤堀侃司著, 2002, ジャストシステム

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

1. 本授業の内容・進行・評価方法に関する説明, 【教育工学の定義】 【研究分野の概観】
2. 教授-学習に関する基礎理論その1 【行動主義】
3. 教授-学習に関する基礎理論その2 【認知主義】
4. 教授-学習に関する基礎理論その3 【社会的構成主義】
5. 教授-学習に関する基礎理論その4 【状況論的学習】
6. 授業のシステム化の方法と授業設計の手順 【授業設計】
7. 授業過程の分析と改善 【授業過程】
8. 授業実施の技術 【授業技術】
9. 授業の評価 【授業評価】
10. 教育メディアとその活用1 【コンピュータ】 【マルチメディア】
11. 教育メディアとその活用2 【インターネット】 【Web】
12. 学習データのとらえ方とその処理 【学習データ】
13. 授業実践能力の改善と向上 【実践能力】
14. 現代の教育課題
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出(20%), レポート(30%), 試験(50%)により総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを授業の事前事後に自己学習するなど、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 1 【夜】

担当者名 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

4年次の「教育実習」（実習校実習）に向けて、実習生として必要な心構えや学習指導及び生徒指導等の理論や知識・技術を修得する。

教科書 /Textbooks

北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
1回 「教育実習1」オリエンテーション	【教育実習】 【実習校】
2回 教育実習の1日	【教育実習の実態】 【教師の勤務】
3回 教育実習生の体験から学ぶ(中学校)	【教科指導】 【学級経営】
4回 教育実習生の体験から学ぶ(高等学校)	【教科指導】 【学級経営】
5回 子どもの問題状況と生徒指導	【生徒指導】 【子どもの理解】
6回 学級経営について	【学級集団づくり】 【学級通信】
7回 生徒指導と教育相談	【生徒理解】 【生徒指導体制】
8回 授業観察の方法	【授業観察の視点】 【授業記録シート】
9回 子どもの人権と教育	【人権】 【自尊感情】
10回 教材研究と授業構想	【刻々の教材研究】 【学習指導案】
11回 教師の資質とは何か	【教師の資質】 【事前の準備】
12回 模擬授業①(中学・高校別)	【授業構成】 【導入】
13回 模擬授業②(中学・高校別)	【指導技術】 【発問】
14回 模擬授業③(中学・高校別)	【指導技術】 【説明】
15回 模擬授業④(中学・高校別)	【指導技術】 【指示・助言】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(25%) 学期末の提出物の評価(75%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の事前に指示されたことを準備すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 2 【夜】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- ①教育実習生として必要な心構えや、指導方法等について学習する(事前指導)
- ②教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める(実習校実習)
- ③実習校実習で得た成果や反省すべき事項等を整理し、今後の課題を考察する(事後指導)

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

- | | |
|----------------------|-------------------|
| 第 1 回 ; オリエンテーション | 【勤務】【連絡】 |
| 第 2 回 ; 中学校における教育実習 | 【中学生の特質】【中学生への支援】 |
| 第 3 回 ; 高等学校における教育実習 | 【高校生の特質】【高校生への支援】 |
| 第 4 回 ; 実習校実習① | 【教育実習指導】 |
| 第 5 回 ; 実習校実習② | 【教育実習指導】 |
| 第 6 回 ; 実習校実習③ | 【教育実習指導】 |
| 第 7 回 ; 実習校実習④ | 【教育実習指導】 |
| 第 8 回 ; 実習校実習⑤ | 【教育実習指導】 |
| 第 9 回 ; 実習校実習⑥ | 【教育実習指導】 |
| 第 10 回 ; 実習校実習⑦ | 【教育実習指導】 |
| 第 11 回 ; 実習校実習⑧ | 【教育実習指導】 |
| 第 12 回 ; 実習校実習⑨ | 【教育実習指導】 |
| 第 13 回 ; 実習校実習⑩ | 【教育実習指導】 |
| 第 14 回 ; 実習校実習⑪ | 【教育実習指導】 |
| 第 15 回 ; 教育実習反省会 | 【教師の資質】 |

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習3【夜】

担当者名 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 実習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育実習校において教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

第 1 回 ; 実習校実習①	【教育実習指導】
第 2 回 ; 実習校実習②	【教育実習指導】
第 3 回 ; 実習校実習③	【教育実習指導】
第 4 回 ; 実習校実習④	【教育実習指導】
第 5 回 ; 実習校実習⑤	【教育実習指導】
第 6 回 ; 実習校実習⑥	【教育実習指導】
第 7 回 ; 実習校実習⑦	【教育実習指導】
第 8 回 ; 実習校実習⑧	【教育実習指導】
第 9 回 ; 実習校実習⑨	【教育実習指導】
第 10 回 ; 実習校実習⑩	【教育実習指導】
第 11 回 ; 実習校実習⑪	【教育実習指導】
第 12 回 ; 実習校実習⑫	【教育実習指導】
第 13 回 ; 実習校実習⑬	【教育実習指導】
第 14 回 ; 実習校実習⑭	【教育実習指導】
第 15 回 ; 実習校実習⑮	【教育実習指導】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育相談【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
						○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

学校教育相談の領域は、1.「学業的発達」、2.「キャリア的発達」、3.「個人・社会的発達」の三つに区分され、また、学校教育相談の機能は、①一次的支援(開発的教育相談)、②二次的支援(予防的教育相談)、③「三次的支援」(問題解決的教育相談)から構成される。本授業では、学校教育相談の領域や機能について、教育相談の基本的な理論と技法の学習もふまえて提起していきたい。

さらに、不登校やいじめなど、様々な問題を出している児童、生徒に対する理解を深めていくと同時に、児童・生徒に対する指導、援助、また、課題を抱える保護者への理解と援助を進めていく際の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を紹介しつつ、検討していきたい。

教科書 /Textbooks

楠 凡之 「いじめと児童虐待の臨床教育学」 ミネルヴァ書房 第1部

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 教育相談の領域
- 3回 教育相談の機能 その1 - 一次的支援
- 4回 教育相談の機能 その2 - 二次的支援、三次的三次的支援
- 5回 教育相談の基本的な理念について
- 6回 教育相談の基本的なスキルについて - 共感的応答
- 7回 教育相談の基本的なスキルについて - 開かれ質問
- 8回 教育相談の基本的なスキルについて - ロールプレイ実習
- 9回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談① - 前思春期
- 10回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談② - 思春期
- 11回 不登校の子どもに対する教育相談
- 12回 保護者に対する教育相談
- 13回 教育相談活動における連携について - スクールカウンセラーとの連携に視点をあてて
- 14回 薬物問題に対する理解と援助(北九州ダルクの講演)
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点30点、レポート15点、期末試験55点

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストをしっかりと読んで授業に参加してほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教員を希望する学生には、それにふさわしい真摯な授業態度と活動への意欲的な参加を期待したい。

キーワード /Keywords

教育相談、いじめ・不登校

生徒・進路指導論【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は以下のとおりである。

- ① 生徒指導の意義と課題について、積極的生徒指導(子どもの発達支援としての生徒指導)に視点をあてて検討していくこと。
 - ② 養育環境や発達上の困難な課題を抱える子どもの内面に寄り添う生徒指導の課題について検討していくこと。
 - ③ 思春期の人格発達(「価値的自立」)の過程を支える進路学習、進路指導の意義と課題について、今日の社会情勢も含めつつ検討していくこと。
- 本授業のキーワードは、積極的生徒指導、児童虐待、進路指導である。

教科書 /Textbooks

テキストとして、「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)の第II部と第III部8章を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション 生徒・進路指導論の意義と課題
- 2回 学校現場での生徒指導の実際 その1
- 3回 学校現場での生徒指導の実際 その2
- 4回 子どもの発達支援としての生徒指導の課題と方法 一文科省編「生徒指導提要」を手がかりに その1
- 5回 子どもの発達支援としての生徒指導の課題と方法 一 文科省編「生徒指導提要」を手がかりに その2
- 6回 生徒指導における関係諸機関との連携について - スクールソーシャルワークに視点をあてて
- 7回 暴力的な傾向を持つ男子生徒に対する理解と指導その1
- 8回 暴力的な傾向を持つ男子生徒に対する理解と指導 その2
- 9回 思春期の「自己形成モデル」の意義と進路学習
- 10回 中学校の進路指導実践 - 「ようこそ先輩」の取組み
- 11回 中学校における職場体験学習と進路指導
- 12回 今日の高등학교の問題状況と進路指導の課題
- 13回 被虐待児に対する理解と援助 - 感想レポートの紹介とコメント
- 14回 虐待サバイバーに対する理解と援助 - 感想レポートの紹介とコメント
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(感想レポートなど)30%、レポート15%、期末試験55%-

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの第II部(5, 6章)をしっかりと読み込んで授業に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発達支援としての生徒指導、児童虐待、進路指導

教育心理学【夜】

担当者名 /Instructor 田島 司 / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、学校や家庭での教育活動にかかわる様々な問題を心理学的側面に注目して取り上げる。学習過程や、教師の役割、教師と生徒との関係性などについての考え方を身につけることを目標とする。この講義を受けることによって教育の難しさについて考える機会になることを望むと同時に、解決の一助となつてほしい。講義が中心であるが、体験しながら具体的な関わりを考えることができるような授業となっている。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、学校の意義、教育の意義
- 2回 幼児、児童の心身の発達と教育(表象世界、しつけ、不適応)
- 3回 児童期の発達(学級崩壊等)
- 4回 発達の個人差と障害児【障害理解】
- 5回 発達の個人差と障害児【障害児の集団との関わり】
- 6回 学習過程(条件づけ、強化、般化、モデリング、洞察等)
- 7回 動機づけ(内発的動機づけ、帰属等)
- 8回 家庭における教育【育児】【しつけ】
- 9回 家庭における教育【教育への動機】
- 10回 学校組織と教師(組織としての学校の特殊性、職業としての教師の特殊性)
- 11回 教室内過程【教師生徒との関係】
- 12回 教室内過程【生徒間関係】
- 13回 教育評価(測定とその活用)
- 14回 現代の教育問題について
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小テスト ... 100%

※小テストは3~4回行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

図書館等で参考になる本を自主的に探しておくことが望ましい。他の心理学関連の授業を合わせて受講するとわかりやすい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育法規【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育法規に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育法規における問題について、実践事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 生徒指導と教育法規
- 2回 生徒の懲戒
- 3回 いじめ・不登校と指導
- 4回 組織としての学校
- 5回 組織としての学校における教員
- 6回 教員の懲戒
- 7回 教員の指導力をめぐって
- 8回 教育活動と著作権
- 9回 教育情報の取り扱い
- 10回 教育情報の発信
- 11回 学校の安全
- 12回 地方教育行政と学校
- 13回 保護者・地域と学校
- 14回 保護者・地域の教育参加・連携
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 40% 最終課題(試験) 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義だけでなく、グループ討論、模擬授業、実技等も含む参加型の授業を予定している。それぞれの回において積極的に臨めるよう、十分な準備を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人権教育論【夜】

担当者名 /Instructor 弓野 勝族 / YUMINO MASATSUGU / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育現場及び日常生活での人権問題の具体的な事象に学びながら、人権教育の知識を豊かにするとともに、人権感覚を研ぎ、人権問題解決への技能・スキル・態度を培う。

教科書 /Textbooks

「手作り資料」を活用します

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

人権の絵本(大月書房)、みんなの人権(明石書店)、世界が100人の村だったら(マガジンハウス)、人権・同和問題一問一答(解放出版社)、差別と日本人(角川書店)、もののけ姫(徳間書店)、他。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「世界が100人の村だったら」【世界共通の偏見や差別の根っ子と差別のしくみ】【非識字者・同性愛者の人権】【人権教育のスキル・技能】
- 第2回 いじめ差別①(現状認識)【いじめ差別の事例(新聞記事・中高生・大学生の体験)】【各種調査(教育白書・国際調査等)】
- 第3回 いじめ差別②(構図と課題、解決への基礎基本の知識)【いじめ差別の構図(しくみ)と加害者・傍観者の心理】【文部科学省のいじめ定義】【道徳教育と人権教育の相違点】
- 第4回 いじめ差別③(解決への教育創造)【文部科学省の「人権教育の指導方法の在り方」】【金子みすず「教科書の詩」「東大入試問題」】【自尊感情と学力形成の相関関係】【学校文化と子どもの居場所づくり】
- 第5回 子どもの人権と児童虐待防止法【児童虐待の現状認識(新聞記事・教育白書等)】【教師の責務と教育・啓発の教育創造】
- 第6回 ものけ姫①(メッセージからの課題)【物語の時代背景と登場人物から課題の整理】【ハンセン病問題と国の隔離政策】【国家賠償と社会復帰】
- 第7回 ものけ姫②(メッセージからの課題)【女性差別の歴史】【学校現場における「改正男女雇用機会均等法」「男女共同参画社会基本法」を考える】
- 第8回 同和問題との出会い直し①(身分制度の歴史・中世)【身分差別をつくったのは、誰?】【中世の社会や文化のしくみと、国民的課題の意義】
- 第9回 同和問題との出会い直し②(身分制度の歴史・近世)【身分制度(身分統制令)をつくったのは、誰?】【「賤民」身分にされたのは、どんな人々?】【一向一揆、鉄砲・キリスト教の伝来、島原の乱と身分制度の確立の歴史と国の責務の意義】
- 第10回 同和問題との出会い直し③(解体新書、俳人と身分制度)【解体新書の腑分けをしたのは、どんな人?】【一茶・蕪村・芭蕉の人権感覚】
- 第11回 同和問題との出会い直し④(文学者と部落差別)【小説「破戒」(島崎藤村)と「橋のない川」(住井すゑ)】
- 第12回 同和問題との出会い直し⑤(結婚差別)【結婚差別の事例からの課題と解決への展望】【しきたり・ならわし・慣習との出会い直し】
- 第13回 同和問題との出会い直し⑥(人権文化の創造)【教科書無償・全国統一応募用紙・奨学金制度】
- 第14回 同和問題との出会い直し⑦(国の施策)【1965年の同和対策審議会・答申の意義】【1996年の地域改善対策協議会・意見具申の意義】
- 第15回 同和問題との出会い直し⑧(人権文化のまちづくり)【各地の人権文化のまちづくりの現状】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(30%)及び学期末のレポートによる評価(70%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の中で課題を出します

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords